

開学20周年 記念誌

Niigata University of Health and Welfare 20th Anniversary

開学 20周年 記念誌

Niigata University of Health and Welfare 20th Anniversary



新潟医療福祉大学

2000-2011

2000年

学校法人新潟総合学園 設立認可

新潟医療福祉大学 設置認可

2001年

新潟医療福祉大学 開学（2学部5学科）



開発前（2000年）



開学当時（2001年）



図書館棟（2003年）



図書館棟（2003年）



図書館棟（2003年）

2000-2011

2005年

【医療技術学部】健康スポーツ学科 開設
大学院医療福祉学研究科設置
保健学専攻・社会福祉学専攻 修士課程 開設

2006年

【医療技術学部】看護学科 開設



第2期工事完了（2004年）



第3研究・実習棟
第2体育館竣工（2004年）



室内プール竣工（2004年）



第3厚生棟竣工（2004年）



第4研究・実習棟竣工（2005年）



第5研究・実習棟竣工（2006年）

2000-2011

2007年

2学部より3学部へ改組

【医療技術学部】【健康科学部】【社会福祉学部】

【医療技術学部】義肢装具自立支援学科 開設

【健康科学部】

健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科 開設

東京キャンパス開設

大学院健康科学専攻 修士課程 開設

大学院医療福祉学専攻 博士後期課程 開設

2010年

【医療経営管理学部】医療情報管理学科 開設

運動機能医科学研究所 開設

2011年

【医療技術学部】臨床技術学科 開設



第3体育館竣工（2007年）



管理棟 就職センター（2008年）



航空写真（2010年）



運動機能医科学研究所 開設（2010年）

2012-2022

2014年

【医療技術学部】視機能科学科 開設

大学院医療情報・経営管理学専攻 修士課程開設



大学校舎（2012年）



大学校舎（2012年）



冬の中庭（2014年）



第2厚生棟・体育館棟（2015年）

2012-2022

2017年

【医療技術学部】救急救命学科 開設



大学校舎（2016年）



航空写真（2018年）



第9研究・実習棟（2018年）



大学全景（2020年）

2012-2022

2018年

4学部より6学部へ改組

【リハビリテーション学部】【医療技術学部】

【健康科学部】【看護学部】【社会福祉学部】

【医療経営管理学部】

【医療技術学部】診療放射線学科 開設



大学全景（2020年）



大学と桜（2021年）



第10研究・実習棟（2021年）



MOMOcafé (2021年)



MOMOcafé (2021年)



学生寮「N-Village伍桃」(2021年)



第3トレーニングセンター (2021年)

刊行の辞



学校法人新潟総合学園 理事長・総長
池田 弘

新潟医療福祉大学は、おかげさまで開学20周年を迎えることができました。これもひとえに、本学の運営にご協力いただきました皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

2001年に2学部5学科で開学した本学は、20年が経過した現在は6学部13学科、大学院1研究科5専攻を設置し、約4,700名の学生が学ぶ保健・医療・福祉・スポーツ分野の総合大学に発展いたしました。これまでに約12,500名の卒業生を社会に送り出し、卒業生はそれぞれの職場や地域の中核的な人材に成長し、今ではなくてはならない存在として活躍されています。

本学では、各学科が国家資格や資格試験に対応するカリキュラムを用意していますが、全学を挙げた組織的な資格取得支援体制を構築し、開学以来全国トップクラスの合格率を実現しています。スポーツの分野においては、全12種目を強化クラブとして指定し、トップアスリートの育成にも取り組んでいます。オリンピック出場選手や野球、



サッカー、バスケットボールのプロ選手を多数輩出するなど各分野で目覚ましい活躍を遂げています。

また大学は、知の拠点として研究活動を推進し、社会を進歩させていく重要な役割を担っている機関です。本学は令和3年度（2021年度）科学研究費補助金の「スポーツ科学、体育、健康科学、およびその関連分野（リハビリテーション科学を含む）」において、採択件数（過去4年間の新規採択の累計数）が全国で4番目にランクインしています。科研費は文部科学省による競争的資金でありますので、社会的に高い価値のある研究が盛んに行われているということが客観的に示されているのではないかと思います。

着実に発展を遂げてくる事ができましたのは、歴代の学長、学部長、事務局長を始めとする大学教職員全ての方々の努力奮励と、実習施設等の皆様をはじめ大学の運営にご協力くださる全ての皆様のご指導、ご尽力の賜物でございます。改めて

深く感謝と御礼を申し上げます。

日本では、2025年までに団塊の世代が全て75歳以上となり、高齢化のピークに向かおうとしています。こうした中で、本学が担う社会的役割もますます大きくなってまいります。本学の基本理念である「優れたQOLサポーターを育成する大学」、「地域社会のニーズに応える大学」、「国際社会に貢献する大学」を常に大学運営の中心に置き、今後も更なる発展を目指し取り組んでまいります。今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

刊行の辞



学長
西澤 正豊

新潟医療福祉大学は2001年の開学以来、20周年を迎えました。5学科321名の入学者から始まり、わずか20年で13学科1,185名の新入生を迎えるまでに大きく発展したのは、ひとえに本学のために大変なご尽力をいただいていた皆様のお力によるものです。心から感謝と御礼を申し上げます。

大学はどのような人材を社会に送り出すか、どのような研究成果を挙げて社会に還元できるか、によって社会から評価されます。本学の建学の精神は、保健・医療・福祉・スポーツの分野に特化して、「優れたQOLサポーター」を育成することであり、「QOLを支える人材を育成する大学」・「地域社会のニーズに応える大学」・「国際社会に貢献する大学」たることを基本理念としています。「優れたQOLサポーター」を育成するために、本学は連携教育を重視したカリキュラムを通じて、関連する13学科がワンキャンパスでワンチームとして協力することにより、多職種の専門職と協働することの重要性をよく理解した人材の育成に取り組んできました。

これからの課題は、18歳人口が次第に減少する中で、次の10年を勝ち抜くことです。地域で生活



するクライアントのQOLをサポートすることは、地域づくりの活動に直結しています。これからの時代に求められる「優れたQOLサポーター」とは、多職種の専門職と協働して、地域づくりを実践することができる人材になります。本学は学部、および大学院教育を通じて、このような専門職人材を育成し、社会に送り出して参ります。

また、研究面では、本学は「スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野」における科学研究費の獲得数が、筑波大、順天堂大、東大に次いで早大と並び全国第4位となっています。新設の大学ではありますが、短期間で目覚ましい研究成果を挙げることにより、本学のブランド化に寄与しています。

スポーツや健康科学を研究することには、2つの意味があります。1つはさまざまな分野のプロ・アスリートを専門的、多面的にサポートすることで、リハビリテーション・栄養・心理などに関する多彩なリソースを蓄積し、新潟リハビリテーション病院等の専門医療機関との連携を深めてきた本学が最も得意とし、力を発揮できる分野です。今後はさらにプロのパラ・アスリートの専

門的なサポートにも貢献したいと考えています。もう1つの意味は、スポーツを通じて健康づくり、地域づくりに貢献できることです。少子高齢化が進む中で、地域で生活するさまざまな世代の人たちのニーズに応えながら、地域全体の健康増進を目指した活動に本学のリソースを役立てることができます。こうした取組みは本学の第2の基本理念「地域社会のニーズに応える」を実現することに繋がります。

本学が掲げる第3の基本理念である「国際社会への貢献」は、新型コロナウイルスのパンデミックのため、大きな制約を受けていますが、一方でオンラインでの交流は盛んになりました。これからも新型コロナウイルスとは共存していく「ウィズコロナ」が続くと考えられますので、今後もメディアをフルに活用することにより国際交流を推進して参ります。

開学20年を節目として、今後も地域社会からの信頼を得つつ、建学の精神と3つの基本理念の実現を目指して参りますので、皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。20周年記念誌刊行のご挨拶といたします。

刊行の辞



名誉学長
山本 正治

新潟医療福祉大学は2001年4月に開設されましたので、2011年4月に創立10周年を、そして2021年4月に20周年を迎えました。私は2010年4月から2020年3月まで学長の任にありましたので、この間の過ぎ去った日々を回想し、感慨無量です。

私の記憶に残るキーワードはグローバルパートナーシップとワンチームです。その理由は、現在の私どもの立ち位置が20周年に至る過去と、今後30周年に向けた未来を分ける節目の年にあるからです。

グローバルパートナーシップ(Global Partnership)はSDGs (Sustainable Development Goals) に出ています。国連は2016年から2030年までの世界戦略を2030 Agendaとしてまとめました。その手段がSDGsです。17目標ありますが、目標1～16は貧困、飢餓、健康・福祉、教育、環境、平和等々に関して地球上の誰一人取り残さないと誓っています。そして目標17がグローバルパートナーシップです。



私の個人的見解ですが、グローバルパートナーシップとは、16の個別目標を達成する過程で生じた相互矛盾を国連主導で調整すると言う筋書きです。前述16目標は何れも政治的公正（Political Correctness）なので誰一人として反論できませんが、地球上の誰一人も取り残さないことは永遠に不可能です。二つの現実から見てくることは、2030 Agenda実施に当たり、これから国連が主導するやり方に対して、今から慣れておいて欲しいとの思惑を感じます。目標よりもプロセスに真の狙いがあると妄想します。

大学としてSDGsに対処する為には、特にグローバルパートナーシップを実践する為には、ワンチームの精神が必要と考えます。ワンチームは2019年の新語・流行語大賞に選ばれたONE TEAMのカタカナ語ですが、学科間、専門職間、教職員間の垣根を超えて一丸となった連携が是非とも必要です。職種間連携（IPE）の応用編とも言えます。

以上述べたことは、実は“幻の最終講義”の内容でした。2020年3月末に開催予定であった退任教授の最終講義が、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため中止となりました。私も一教授として講義内容の配付資料を準備していました。それが今頃役立つとは思っていませんでした。私の主張に変わりなかったことを示す証でもあります。

追記：大学におけるグローバルパートナーシップの関わり方については、拙書①「荒波に挑むトップ 私の改革論」（Between.9-10:34-35,2019.）、②学長メルマガ「本音で語るメルマガ最終章」（2019年12月）、③「外圧としての2030 Agenda」（Niigata Journal of Health and Welfare.19(1):45-56,2019.）等を参照ください。

刊行の辞



初代学長
新潟リハビリテーション病院 顧問
高橋 榮明

2001年（平成13年）4月に開学した新潟医療福祉大学は、創立20周年を経過し、22年目に入ったことを、在学生、卒業生、教員、職員並びに関係者の皆様、そして本学の発展に興味と関心をお持ちの皆様に、心からのお祝いを申し上げ、同時に感謝の意を表します。

開学時に2学部5学科で321名の学生数が、2021年度には6学部13学科、2023年度にはさらに1学科増し、大学院も含めると約5,000名と増加してきたことは驚異であり、関係者の尽力に大きな敬意を表します。


最初に、開学当時の本学を取り巻いていた社会情勢、本学の発展の基礎となった開学に至った事情を振り返りたいと思います。1990年代には医療職の教育課程の4年制化がおり、1997年には新潟大学になかった理学療法士、作業療法士養成の4年制課程新設の要望が新潟県の専門職協会から新潟大学になされました。当時の医学部長から検



討を指示され、その4年制課程設置を計画し教員予定者を集めました。文部省に新設の意思なく、計画は立ち消えとなりました。新潟県に医療職育成の4年制大学が必要との、新潟医療福祉大学の現総長の強い意志に賛同、1998年に文部省から兼業許可を得て、新潟大学に在任中から、私立大学として医療系のみでなく、福祉系の専門職養成の4年制総合大学の設立を目指して計画に着手しました。1999年3月新潟大学を定年にて辞してから開学に至る2年間は教員の募集と大学としての理念の形成、すなわち多数学科の多方面から新設大学に赴任する多数の教員予定者の新しい大学の教育に関する合意形成、教職員間の合意形成は特に重要でした。開学前の2000年夏には第1回のファカルティ・デベロップメントを実施しました。

伝統ある大学には4文字漢字の理念を表す言葉を見ることがあります。新潟医療福祉大学の開学

時の理念として、「優れたQOLサポーターの育成」を取り上げました。それには次のような事情がありました。私は整形外科医として脊椎外科医であり、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患と骨腫瘍に興味と関心があり、1980年代、1990年代に多数の骨盤・仙骨腫瘍を治療する機会がありました。悪性腫瘍の再発を防ぐために可及的に腫瘍組織の摘出を図る場合、腫瘍中に正常神経組織が混在すると、術前にはない症状を顕在化し、患者の満足は得られない現実直面しました。手術を受けた本人の満足が得られない治療をしてはいけない、本人の「生活の質」を維持し、改善させるような治療法を選択する重要性に気付きました。新潟大学に在任中、1997年に私は医療と福祉との連携なくしては人の生命を救うことができないことがあることを経験しました。それは生後3か月男児の父親からの虐待による多発性骨折での死亡事例でした。



刊行の辞

1999年、2000年の2年間の準備期間中、上記の苦い経験からその概念は「優れたQOLサポーターの育成」と文字化されました。その「QOL、Quality of Life、クオリティ・オブ・ライフ、生活の質」とは患者、対象者、クライアント、利用者の考えに基づくアウトカムを意味します。最近、医療職、福祉職などの「働き方改革」から専門職の生活の質が議論されていますが、本学の教育理念とは別次元で検討しなければならない大切な課題です。その患者、対象者、クライアント、利用者の「生活の質QOL」とは何かを知るために私たちが育成する専門職に、コミュニケーション能力を必要とします。すなわち、「優れたQOLサポーター」は優れた感情知性を持つことを期待したい。その多数の因子のうち、特に患者、対象者の感情を理解できているか、その人の感情に共感できているかを表す他者理解と共感性、チーム協働をしながら、自分と相手の立場を尊重しつつ、適切に自分の考えを表明できるスキルが必要

です。

大学における教育は社会の要請に応えなければなりません。21世紀になり早くも20年余が経過し、私たちは超高齢社会の真ただ中にいます。その社会の医療福祉分野における多数の課題は単一職種よりも多数専門職で対応する方がより良い解決策が得られることが多くあります。すなわち大学教育において多職種連携教育は極めて重要で、1科目より上位の概念といえましょう。新潟医療福祉大学では、その必要性、重要性を開学以来認識し、2008年には日本保健医療福祉連携教育学会の設立を本学から提唱し、連携教育を学年別進行型として4年制教育課程に取り入れてきました。

少子高齢化して激変する日本の社会において必要とされる保健医療福祉そしてスポーツ分野の人材育成のために創られた新しい理念のもと、優れ



た教員と強い熱意の職員により本学は発展してきました。初代の、そして歴代の学部長、学科長、そして教員を、それぞれの前勤務先に本学の理念の説明と赴任勧誘のために訪れた日々、初年度から個別PC採用の可否を知るために初代事務局長を訪ねた日、ファカルティ・デベロプメント、教員予定者家族説明会実施の有様などが懐かしく思い出されます。新しい伝統は創られますが、それは計画、実践、評価、改善のサイクルで進まねばなりません。大学の理念といえども、将来、評価と確認の対象となるでしょう。そしてSDGsを考えながら、22世紀に向かって、新潟医療福祉大学は看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉・医療ITの総合大学として、一層発展すると同時に、その卒業生は「優れたQOLサポーター」として、より良い社会の実現を目指して職務を実践することが強く期待されます。

刊行に 寄せて



副理事長

池田 祥護

新潟医療福祉大学が開学20周年を迎えました。これまで大学の運営にご支援いただきました、多くの関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

私は学校法人新潟総合学園の理事に就任した2008年より経営的な側面から大学運営に携わらせていただいています。「優れたQOLサポーターの育成」を理念に掲げ開学した新潟医療福祉大学は20年間で大きな成長を遂げ、今では約4,700名の学生が学ぶ保健・医療・福祉・スポーツの総合大学に発展してきました。

その成長のロードマップになったのは、開学10年を契機に次の10年間でどのような方向に進むべきかについて、全教員・職員が参加して策定した新潟医療福祉大学将来計画でした。2020年までの長期目標として「地域社会のニーズに応えるため、質が保証されたQOLサポーターとなる学生5,000名の大学とする」ことを掲げ、それを達成するための10のドメインを設定し、中期目標、短

期のアクションプランが定められました。その長期目標はほぼ達成され、現在の新潟医療福祉大学の姿に至っておりますが、それはひとえに学長のリーダーシップの下で教員・職員の皆さんが力を合わせ努力を重ねてきた結果であると思います。そのご尽力に心より敬意を表したいと思います。

2020年には、2021年から2030年までの10年間で期間とする新たな将来計画が策定されました。日本では今後も更に少子高齢化が進み、2040年には高齢者人口が最多となると推計されています。そうした中で、新潟医療福祉大学が社会における役割を果たしていくためには、大学が持続的に今後ますます成長し、発展を続けていかなければいけないと思います。新潟医療福祉大学の将来計画の達成は、必ずや安心してすこやかに暮らせる地域社会の実現に貢献できるものと確信しています。私も教員・職員の皆さんと共にその達成に向けて微力を尽くしてまいりたいと思います。



副理事長・副学長
渡辺 敏彦

本学の開学20周年を迎えて、深く感慨深い思いにとらわれております。私は、本学の設立母体である学校法人新潟総合学院の創設から運営に関わり、従って20年前の学校法人新潟総合学園設立と、新潟医療福祉大学の開学に深く関わりました。その後の運営にも、理事・副理事長として理事会を構成し、本学を見守ってきました。

平成21年より、副学長を兼任することとなりました。その目的は、法人と教員とのコミュニケーションをより良くし、大学の基盤を盤石のものにしようというものであります。


平成22年には、国際交流担当、平成23年には、強化スポーツ担当と役割が追加されまして、現在に至っております。

準備室当時の松林と砂地の草原を思い出せば勿論のこと、開学初年度と現在の様子を比較すれば、隔世の感があります。

学生数でも、4学年が揃った時（約1,200人）と比較しても、現在は6学部13学科、約4倍の4,700人。校舎も、毎年のように建設、増設し、ドローンで航空写真を撮るとよくわかるのですが、まさに一大キャンパスに成長しております。また、北側の敷地には、600人収容のドミトリーの各棟群、野球場、クラブハウス、陸上競技場、室内走路棟が広がっております。

学生数や校舎、施設規模の面だけでなく、教育の質の面でも、保健・医療・福祉・健康の分野において、国家試験等の合格率、就職率、また、科研費等研究の分野にも、日本で有数レベルの実績を残しております。

副学長、国際交流担当としては、①海外提携校（10ヶ国18大学3機関）の推進、②大学院に6ヶ国20名の留学生、③学生の短期海外研修130名程度、「トビタテ！留学Japan」5名が合格、④JICA



刊行に 寄せて

と連携で南太平洋諸国の研修受入れを6年間行い、2020年からは、ハイズオン医療技術大学（ベトナム）と事業を展開しました。

強化スポーツ担当としては、陸上部は北信越を席捲。男女サッカー、男女バスケ、女子バレーは、全国ベスト16。特に水泳部は、全国ベスト10に入る選手が5、6名。最終的には、本学から初めて、水沼尚輝選手を東京オリンピックに輩出しました。硬式野球部もこれまでドラフト選手を4名輩出。男子サッカー部もプロを続々と輩出。アルビレックス新潟にも2名採用されています。

この20周年の記念誌に原稿を入稿して、副理事長と副学長の22年間の職務を全うさせていただきます。関係各位には、大変お世話になり、ありがとうございました。



副学長

丸田 秋男

多くの関係者の皆様方からご支援をいただき、20周年を迎えられたことに厚くお礼申し上げます。また、20年間にわたり本学を支えていただいた教職員、卒業生、保護者並びに関係者の方々に心より感謝申し上げます。

本学は、開学時から大学の基本理念の柱に「社会連携及び地域貢献」を掲げ、地域社会のニーズに応えるとともに、教育・研究の成果を地域社会に積極的に還元してきました。

2010年3月には、開学以来9年間にわたる新潟市北区（以下「北区」という。）との密接な連携による地域貢献の実績を踏まえ、北区との間で包括連携協定を締結しました。指定都市の行政区との包括連携協定は、全国的にも例の少ない取組であり、北区「特色ある区づくり予算事業」との連携は本学の大きな特徴です。その成果の一つとして、新潟市が毎年実施している「市政世論調査」（令和2年度）の結果が上げられ、大学に対して誇りや愛着を感じている市民の割合は、8区の中

で北区が最も高い割合を示しています。

本学の社会連携及び地域貢献活動は、北区だけでなく新潟県や新潟市、県内市町村及び関係団体等との間で広く持続・発展させてきており、今後も自治体や学校、産業界、関係団体等との連携協定締結を一層促進し、社会との双方向的な連携・協働による地域創生（地域づくり）を推進することとしています。

また、一期生から1万人を超える卒業生による同窓会は、卒業生（大学院生を含む）の教員の参加を得てネットワークづくり等に取り組むとともに、大学と同窓会が一体となって卒業後のキャリア形成や生涯学習等につながる魅力ある同窓会づくりを図っています。

20周年を機に、あらためて本学の社会連携及び地域貢献活動のオリジナリティと、同窓会活動の発展性をご理解いただき、倍旧のご指導とご支援をお願い申し上げます。

刊行に 寄せて



教育担当副学長
大 山 峰 生

2001年に開学した新潟医療福祉大学が創立20周年を迎えました。これまで本学の発展にご尽力いただきました法人ならびに教職員の皆様、卒業生、在学生、保護者の方々、関係者の方々に深く感謝致すとともに、心からお祝いを申し上げます。

現在、私は教育担当副学長を拝命しておりますが、これまで2回の外部認証評価の準備責任者として携わって参りました。外部認証評価とは、認証評価制度に基づき平成16年度（2004年度）から文部科学大臣が認証する評価機関によって実施されているものであり、全ての大学や短期大学および高等専門学校は7年以内ごとに研究・教育や管理運営業務が適切に行われているかを当該評価機関によって検証されなければならないというものです。本学では創立以来3回の検証を受けて参りましたが、いずれも適合という結果を得ておりま

す。この結果は、法人ならびに学長をはじめ、多くの教職員の皆様のお陰であることは言うまでもありませんが、外部認証評価の有無にかかわらず、いつの時代も学長の的確なリーダーシップによって、教職員や学生が本学の改革・改善に資する活動に日々取り組んできたことに尽きるかと思います。そして、本学の個性を重視した将来計画の策定やそれに対応した自己点検・評価システムがうまく稼働し、常に好回転している成果とも言えます。

しかし近年では新型コロナウイルス感染症の拡大により、私達の行動様式や生活様式が見直され、産業、医療、働き方等あらゆる分野で変革が生じ、本学での教育や活動においても、これまでと同様に進めることは一筋縄では行かなくなりました。この変革のなかで最たるものはICT化の急進であり、本学でも同期型・非同期型の遠隔授業



や対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド授業が実施されるようになりました。このように教育の現場は急速に多様化し、学生の学習スタイルも変容してきましたが、それと共に大学教育や活動そのものを見直す機会にもなりました。確かにICT化により多くの利点を得ることができましたが、遠隔授業では学生の知識レベルが二極化すること、大学に入構する機会が減少することにより勉学の意欲が低下すること、人間性や社会性が涵養されないこと、精神的抑うつになりやすいといった多くの弊害が伴ったのも事実です。そしてこれら長・短所を踏まえ、学生の満足度を上げつつ学習目標をどのように達成させるか、学生の成長度をSTEPSに基づいてどのように評価し、可視化するかが次なる課題として考えられました。

今後はウイズコロナかポストコロナか予測できませんが、本学がこの先さらなる発展を遂げるた

めには、ニューノーマル時代の突入に向けて、これまでに蓄積された情報や経験、ノウハウを活用し、多様化する学生に対し教育効果を高めるための創意工夫と大学生活を有意義に過ごすための大学環境や設備の充実が重要であり、これらの達成が本学の新たな価値の創出につながると確信しています。今後とも、皆様のご理解ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

刊行に 寄せて



研究・産官学連携担当副学長

大西 秀明

新潟医療福祉大学が創立20周年を迎えましたこと、慶賀に耐えません。法人ならびに教職員の皆様、卒業生・在校生と保護者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

私は本学の設立準備室から本学に携わらせて頂きました。1999年、初代学長になられる高橋榮明先生と当時の石田秀人準備室長とが、当時私が在籍しておりました東北大学までお越しになられ、お二人から新潟に医療福祉系の4年制大学を設置するとの熱い想いをお伺いし、大学設置準備に関与させて頂くことを決意しました。2000年、鳥屋野潟に隣接した大学設置準備室（現在の開志学園高校2号館の3階）において、開学時に設置予定であった他の4学科の準備委員の先生方（永井洋一先生、磯野信策先生、斎藤トシ子先生、塩見義彦先生）と一緒に、20㎡くらいの暗い一室で、与えられた小さな画面のノートパソコンを活用し

て、文部科学省への申請および開設に必要な備品の選定、カリキュラムやシラバス、臨床実習に関する書類の作成、入試にかかわる業務等々に取り組んだこと、楽しく充実した1年であり、懐かしく思い出されます。

2001年の開学時に、初代学長の高橋榮明先生は、優れたQOLサポーターを育成するため、本学は「教育」重視の大学であることと、「連携教育・チーム医療」を充実させることをビジョンに掲げられました。それから20年が経過した現在、連携教育は本学の大きな柱になっています。2011年からは、二代目学長の山本正治先生のリーダーシップの下、将来計画機構やブランディング検討委員会が設置され、全教職員を対象にしてアンケート調査を実施するとともに、本学のブランドになるシーズの発掘と将来ビジョンを審議し、「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合



による先端的研究拠点」を構築することが次の10年間のビジョンに掲げられました。その効果もあり、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業やスポーツ庁の女性アスリート支援事業の採択に加えて、科学研究費助成事業においても「スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野（リハビリテーション科学を含む）」領域で全国4位にランクインするまでになりました。この10年間で着実に研究力が強化されるとともに、「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点」の基盤が構築され、大学ブランドとして徐々に浸透してきたと感じます。開学から20年が経過したことに対する嬉しさや感謝の気持ちとともに、やっと高等教育機関としてスタートラインに立ったような清々しい気持ちでもあります。

本学が持続的に発展していくためには、これか

らの10年が肝要だと思います。大学ブランドを確立し、これまでの20年間と等しく、またはそれ以上に、これからの20年間も発展し続けられるよう、皆様からの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

刊行に 寄せて



大学院医療福祉学研究科長

佐藤 大輔

新潟医療福祉大学が2001年の開学以来、多事多難な時代を乗り越え、創立20周年を迎えられたことに対し、衷心よりお慶び申し上げます。私自身も2008年12月に着任以来、教員として本学の教育研究活動に参画させていただき、20年の歩みの一部に関われたことは、大きな喜びとするところです。また、2020年度より、大学院医療福祉学研究科長として本学の更なる発展のために活動させていただいていることは、この上ない名誉であると同時に本学関係者のご支援・ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

2001年の開学以来、新潟医療福祉大学は、「優れたQOLサポーターの育成」を基本理念に掲げ、対象者のQOL向上に向けた支援を考え、それを実践することのできる人材育成を実現し、優れたQOLサポーターを輩出し続けてこられた教職員の皆様のご功績に対し、深甚なる敬意を表します。現代の予測困難な社会では、危機に強い医療・福祉、デジタル技術の実装化、多様性を支えるセーフティネット、性差による偏りが生じない仕組み、繋がり・支え合うためのアプローチ等、

多様な課題に対応可能な人材の育成が急務となっています。これは、本学が20年に渡り継続してきた人材育成そのものであり、その重要性は今後益々高まり続けることが予測されます。

近年、本学では、文部科学省研究ブランディング事業やスポーツ庁委託事業の採択、科学研究費補助金（スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野）受入れ全国第4位など、研究力の向上が顕著であり、大学ブランディングの急速な進展を感じます。今後、更なる大学の研究力向上には、教職員の不断の努力はもちろんのこと、質の高い研究を進める大学院生の育成がカギを握ります。そのため、全学をあげた大学院機能の強化を進めるとともに、大学院生が安心して研究活動に取り組むことのできる環境構築を目指して、関係者と協働して参りたいと存じます。

20周年の節目にあたり、新潟医療福祉大学の益々の発展を心からお祈り申し上げますとともに、30周年に向けて持続的に成長できるよう、関係者の皆様にならぬご指導・ご鞭撻をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。



初代大学事務局長（2001年4月～2005年6月）

沼田 忠義

新潟医療福祉大学の開学20周年を迎え、「20周年記念誌」を刊行することは、大学設置時に関係した者として喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

縁あって、平成9年11月、学校法人新潟総合学院大学設置準備室東京事務所に採用され、定期的に新潟へ出向いて準備事務に参画しました。池田理事長の構想に基づき、学長予定者でありました高橋新潟大学医学部教授の意向等を踏まえて、大学用地の確保、校舎の建築、教員の確保、教育課程の作成等の準備事業が順調に進められました。石田大学設置準備室長のほか事務担当者により関係書類が作成され、学校法人新潟総合学園設立認可申請書及び新潟医療福祉大学設置認可申請書が整いました。文部省に対する申請を行った際は、その都度私も同行しました。

平成12年12月21日付で、学校法人新潟総合学園の設立及び新潟医療福祉大学の設置が認可されま

した。私は、法人及び大学の事務局長に就任し、平成17年5月まで務めさせていただき、その後は、事務局参与、評議員を務め、平成21年5月に大学から退きました。

平成13年4月の開学時は、2学部5学科で発足し、私が大学を退いた平成21年度には、3学部8学科に拡充され、その間の平成17年4月に大学院修士課程が設置され、更に平成19年4月には大学院博士後期課程が設置されていました。

創立20周年を迎えた現在では、6学部13学科に発展し、有能な保健、医療、福祉、スポーツの関係者を育成して全国へ送り出しており、大変喜ばしいことと思っております。

これまでの発展の道は素晴らしく、総長・理事長を始め、歴代学長、教職員の皆様の努力の結晶であり、敬意を表したいと思います。今後の一層の発展を期待しております。

刊行に 寄せて



大学事務局長（2005年7月～2016年3月）

青山 晃

新潟医療福祉大学が開学20周年を迎えられ、記念誌が刊行される運びとなりましたことに、心からお祝い申し上げます。

また、学生、教職員の皆様、大学を支えてくださった後援会、同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。

2000年12月に認可された新潟医療福祉大学は、2001年4月11日に最初の入学式を挙行し、翌週4月16日には当時の大講堂で最初の講義となった心理学を開講しました。事務室を抜け出し、様子を見に行きました。教室内の張り詰めた空気と一期生321名の緊張した面持ちを今でも鮮明に覚えております。私もまた開学当時一職員でありました。

この20年間を振り返りますと、初代学長高橋榮明先生は、建学の精神に基づいて「連携教育の充実」と「挨拶の励行」に取組み今日の校風の土台を築かれました。第二代学長山本正治先生は、2010年に「将来計画」を策定、建学の精神・基本理念を継承し、「在学生5,000名の大学」を目標に掲げ、また人材育成方針を5つのSTEPSにまとめ

られました。私は職員として、お二人の学長に仕えることができ、また微力ながらも大学の成長・発展にお手伝いできたことを誇りに思います。

時代が変わり、予測困難な社会の中で、私たちは、いま、歴史の転換点に立っているかもしれません。今求められているものは社会の新しい方向性と思われます。

2021年4月、学長西澤正豊先生の下で次の10年に向かっての「将来計画」が策定されました。将来計画からは建学の精神が貫かれた「成長・発展し続ける大学の未来像」と、10年後に思いを馳せた教職員の皆様のわくわくした高揚感を感じ取ることができます。

この度の20周年記念誌刊行にあたり、大学の足跡が歴史として刻まれることに大きな喜びとともに深い感慨を覚えます。

20周年記念誌が、大学発展の拠り所の役割を果たし、新潟医療福祉大学がより一層躍進されることを期待してやみません。



大学事務局長（2016年4月～現在）


小野 哲之

2021年4月、新潟医療福祉大学は開学20年を迎えました。開学から20年間、本学の礎を築き、発展へと導いていただいた歴代の学長とそれを支えてくださいました教職員、卒業生、学生、保護者、地域の皆様ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

私たちはこの節目となる記念すべき年を、新型コロナウイルス感染症という極めて大きな災禍の中で迎えることになりました。本学は2021年3月までに1万人を超える卒業生と修了生を送り出してきましたが、その多くは医療従事者ならびにエッセンシャルワーカーとして、現場の最前線で感染の拡大防止に尽力しながら人々のQOLを支える仕事に従事しています。私は、困難な状況下で社会に貢献する同窓生を誇りに感じながら、大学運営に関わる一人として、本学の建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」が将来を

見据えたものであったことに深い思いを感じています。本学では「優れたQOLサポーターの育成」において求められる能力を5つの「STEPS[®]」として定めていますが、2020年に受審した日本高等教育評価機構の機関別認証評価では、「STEPS」を中心概念においた教育内容が優れた点として高く評価されました。また、2018年から行っている卒業生の就職先へのアンケート調査においても、本学の卒業生は「STEPS」の能力を身につけている人材として多くの病院・施設・企業等から評価を受けています。これは、開学時から一貫した人材育成への取り組みが評価されたものであると思いますが、これから先、次の10年においてもこの成果を受け継ぎながら、更に深化させていかなければなりません。

これからも「優れたQOLサポーターの育成」に向けて一丸となって挑戦する新潟医療福祉大学



刊行に
寄せて

へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

※STEPSとは「科学的知識と技術を活用する力 (Science & Art)」、「チームワークとリーダーシップ (Teamwork & Leadership)」、「対象者を支援する力 (Empowerment)」、「問題を解決する力 (Problem-solving)」、「自己実現意欲 (Self-realization)」の5項目で示し、それぞれの頭文字をとって『STEPS』と定義しています。



法人事務局長（2005年7月～2018年3月）・参与
本望 悦雄

開学20周年、誠におめでとうございます。

開学からの展開と教育研究の充実は教職員の皆様を始めとして、これまで本学に関わって下さいました多くの方々のご理解とご努力の賜物と思います。

私は、開学前年にNSGグループから教学担当として開学準備室に異動し、設置認可申請や開学準備の業務に従事しました。


当時の時間感覚と業務の記憶が定かではありませんが、短期間、少人数での申請や開学準備は、開学1年前から着任して頂いた、現在の大西副学長を始めとした学科から選任された各1名の専門委員の方々との連携や共同、現在言われている所の教職協働があればこそ実現できたものと思います。

つまり、本学では開学時より教職協働による大学運営が特別なことではなく行われてきたという

ことです。平成18年に本学で初めて日本高等教育評価機構の機関別認証評価を受審した際にもそれが発揮されました。櫻井副学長をトップとしたプロジェクトチームにより全学的に取り組みましたが、設置申請書類に相当するような資料作成と自己評価、そして実地調査と面接審査への対応には、教学と事務局が連携し共同することが必要で、その成果として認証評価で高い評価を得ることが出来ました。

開学前後というのは18歳人口減少により、今後大学の経営が厳しくなることが取り上げられた時期でもありました。2学部5学科として開学した本学が、今後どのようにして発展し永続を図るかは大きな課題でありました。

そのような中で、本学が開学後、短期間で学部学科の新増設や定員増が実現できたのは、文科省による事前規制から事後チェックへという規制緩



刊行に 寄せて

和、つまり完成年度には届け出制度が導入されるという機会に恵まれ、早期から先んじてその制度を利用してきたことと、学内的には歴代の学長による教学のリーダーシップと教職協働があればこそであったと思います。

20年前、文科省から、設置認可書を受け取った際に、大学は100年永続するものであり、社会に対する責任を自覚し取り組むように、と激励されたとの報告がありました。認可された安堵と、改めてその責任や使命の重さを認識する瞬間でもありました。

開学から20年。それはようやく20年でもあります。

これまでの振り返り、今後の本学のあり方を改めて考える機会とし、ますます充実に発展されますよう期待してやみません。

最後に、これまで共に本学に関わって頂きました全ての方々に、この場をお借りして心から感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。



法人事務局長（2018年4月～2022年3月）

佐久間 俊也

新潟医療福祉大学が開学20周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。これもひとえに歴代の学長をはじめとした大学関係者のご尽力と、そして新潟医療福祉大学に寄せられた数多くのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

また私事ではございますが、この20周年にあたり法人事務局長の栄誉を授かりましたこと厚く御礼申し上げます。

さて私はここに至るまでの間、法人事務局の立場で新潟医療福祉大学の発展の一助となるべく、新たな学部・学科の企画推進や大学キャンパス周辺の土地の取得と施設の整備などに携わってまいりました。

開学以来、「優れたQOLサポーターを育成する大学」を基本理念とし、在籍学生5千名を目標としながら、看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉・医療ITの6学部13学科の総合大学として発展し、そして四季折々の風情溢れる広大なキャンパスには校舎や実験・実習施設、スポーツ

施設が点在し、そこには最新鋭の設備機器を備えるなど、新潟医療福祉大学の学びと研究と環境が新潟県内はもとより全国から世界からも注目される大学となりましたことは、私としましては誠に感慨深いものでございます。

新潟医療福祉大学はこれからも、長きに渡り拡大発展を続けて行くことでしょう。在籍学生8千名の新たな目標を掲げ、それに向けて既に鍼灸治療に携わる新たな人材育成の学科設置企画が進んでおりますし、その他の分野への企画も検討されております。向こう10年間の拡大発展構想を組み立て、一つひとつ堅実に夢をもって実現に向けて動いているのです。

次の30周年記念時には、どんな拡大発展を遂げていることでしょう。今からワクワクしています。皆様方にはこれからもどうか変わらぬご支援を賜り、一緒に新潟医療福祉大学の夢に向かってまいりましょう。宜しく願い申し上げます。

刊行に 寄せて



新潟医療福祉大学同窓会 会長
齊藤 公二

私は、本学の1期生として入学し、初代学友会会長を経て、卒業後同窓会会長を仰せつかりました。今日まで本学とともにあったと言っても過言ではありません。本学が開学20周年を迎え、深い感慨に思いを馳せております。

今や多くの桜の木々に囲まれた本学ですが、大学祭の名称は「伍桃祭」です。現在、この名称に違和感を抱かれている方もおられることでしょう。その名称に至る経緯とともに入学当時を少し振り返ります。

今から20年前、2学部5学科、約300名程度の仲間と学生生活が始まりました。入学して間もなく、学友会長選挙の公示があり、私は学友会長になりました。学友会の会則作成や部活・サークルの立ち上げなど、学生生活を機能させるための基礎作りの日々を過ごしていました。そんな矢先、秋に第1回目の大学祭を実施する旨を聞かされま

した。急遽学友会を中心に準備を始め、手伝ってくれる学生を募りました。1回目のテーマは「地域」としました。大学のことをまずは地域の方に認知してもらいたかったからです。数名で島見、太夫浜、名目所、松浜など地域の方々の家々やお店を回り、挨拶をしたり協賛を募ったりしました。ゲストも「地域」にこだわり、実際に雅楽を学んでいる子どもたちのもとへ行き、演奏を聞いて出演の依頼をしたりもしました。本来は先輩から学ぶであろう、学友会の運営や大学祭の準備について、先輩がおらず、何もわからない私たちへ優しくアドバイスをしてくださったのは、事務局の方々であり、大人の見本でした。大学祭実行委員会を立ち上げたのは2年目になってからでした。1年目になかった大学祭名を決めるため、全学生・職員へ複数の案を提示し、アンケート調査を行いました。その中で最も票の多かった「伍桃



祭」に決まりました。「伍」は仲間と連携、また開学当初の5つの学科を表します。「桃」は当時とても印象的だった本学校舎の色を連想させ、私たちが目指すQOLサポーターの根幹にある優しさ・温かさを表しています。

この大学祭名称のみならず、20年が経過すると色褪せて見えたり、意味を知り新たに価値を見出したりすることがあることと思います。世界へ誇る本学であり続けるため、学生によりアップデートされ続けることを願います。

同窓会においてもこの先の20年、さらに加速度を増して同窓会活動をすすめて参るつもりです。当に在學生を卒業生が上回る本学は、同窓生がひとつの「顔」です。多くの素晴らしいQOLサポーターを地域社会だけでなく、本学はもとより全国、世界へ発信していきます。そのため、私たち同窓生、同窓会は今後も本学とともに成長し、

アップデートし続ける所存です。

目 次

第1章 基本理念

- 1 建学の精神／学則で示された建学の精神 47
- 2 将来計画／2010年度から2020年度 将来計画長期目標 48

第2章 沿革

- 1 本学の沿革 55
- 2 開学までの準備 59

第3章 組織

- 1 教育研究組織 65
- 2 教員組織 66
- 3 2021年5月1日現在の事務局組織 68
- 4 2021年度 新潟医療福祉大学 各種委員会体制 69

第4章 学科・専攻分野

- 1 リハビリテーション学部 理学療法学科 73
- 2 リハビリテーション学部 作業療法学科 78
- 3 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 82
- 4 リハビリテーション学部 義肢装具自立支援学科 86
- 5 医療技術学部 臨床技術学科 92
- 6 医療技術学部 視機能科学科 96
- 7 医療技術学部 救急救命学科 101
- 8 医療技術学部 診療放射線学科 104
- 9 健康科学部 健康栄養学科 109
- 10 健康科学部 健康スポーツ学科 114
- 11 看護学部 看護学科 120
- 12 社会福祉学部 社会福祉学科 126
- 13 医療経営管理学部 医療情報管理学科 133
- 14 大学院医療福祉学研究科 138

第5章 教育・学生支援

- 1 本学の「教育」の特徴 151
- 2 教育活動の実績 156
- 3 委員会活動、附属機関 167

第6章 研究

1 本学の「研究」の特徴	187
2 研究活動実績	192
3 委員会活動、附属機関等	193

第7章 社会連携

1 本学の社会連携の特徴	209
2 社会連携の実績（学生のボランティア活動等を含む）	209
3 委員会活動等	214
4 同窓会	215

第8章 国際交流

1 本学の「国際交流」の特徴	221
2 国際交流の実績	222

第9章 強化スポーツ

1 20年間の歩み	229
2 プロ・社会人（実業団）選手の輩出	252

第10章 学生生活

1 学友会	257
2 クラブ・サークル活動	258
3 伍桃祭	261
4 学生寮「N-Village伍桃」	263

第11章 教育研究環境

1 校地、校舎等の面積	267
2 講義室、演習室、学生自習室等の概要	268
3 学部の学生用実験・実習室の面積・規模	269
4 附属施設の概要（図書館を除く）	272
5 図書館の概要・所蔵数など（2021年度）	272
6 新潟医療福祉大学 校舎等建物の各室の用途及び面積	273

第12章 今後の展望

1 新潟医療福祉大学の理念と将来計画全体像	291
-----------------------------	-----

資料	293
----------	-----



第 1 章

基本理念

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1

建学の精神 / 学則で示された建学の精神

新潟医療福祉大学は平成13年に創立された。開設時の学則で示された建学の精神は以下の通りである。「本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする。」

この学則に基づき、大学の基本理念を次の3項目とする。なお2005年に健康スポーツ学科が開設されたので、以下の文章では「保健医療福祉スポーツ」と表記する。

1) 優れたQOLサポーターを育成する大学

1. 保健医療福祉スポーツ分野の高度専門職者を育成する。
2. 保健医療福祉スポーツ分野の諸専門領域を横断的、融合的に理解する人材を育成する。
3. 対象者を全人的に理解し、支援する人材を育成する。

本学では全学科における人材育成の教育理念・目標の核心を、「対象者のQOL向上を考え、QOL向上のため支援を実践する人材育成」と設定し、上記1～3を実践する。教育課程の最初には専門分化でなく、保健医療福祉スポーツの分野を広く統合して考えられる人材育成を基本的目標とし、その上で高度に分化した専門職育成を行う。以上をまとめて、“優れたQOLサポーターの育成”としている。

2) 地域社会のニーズに応える大学

1. 大学の教育研究情報の積極的公開・提供
2. 地域の関連専門職団体や関係機関と連携して行う研究会の開催、研究会への協力
3. 情報通信ネットワークによる保健医療福祉スポーツ施設、在宅介護支援機関等への支援
4. 社会人等特別入学試験、科目等履修生制、聴講生制度
5. 公開講座（エクステンションプログラム）開講
 - ア. 保健医療福祉スポーツ専門職・小中高教員向けのセミナー・研究会の開催
 - イ. 高校生など対象の夏季特別プログラムの実施
 - ウ. 市民公開講座、市民参加交流講座の開催
6. 社会的貢献－教職員・学生のボランティア活動の積極的推進

保健医療福祉スポーツサービスは、行政機関や各種施設の職員、家族・親族、ボランティア団体、住民など多様な人々によって担われる。保健医療福祉スポーツ分野の大学である本学が、専門的学術情報を中心として地域の連携拠点として機能することにより、多様な活動を有機的に結び付け、より一層地域全体としてサービス水準の向上を図れるものと考ええる。

また、本学学生のみならず、広く社会人に対して門戸を開き、更に地域の保健医療福祉スポーツ水準

向上のため、関係機関や行政と密接に連携をとりつつ可能な限り地域住民の保健医療福祉スポーツ活動に寄与するよう努める。

3) 国際社会に貢献する大学

1. 人的交流－教員の交流・留学生の受け入れや学生の派遣
2. 日本周辺諸国との保健医療福祉スポーツ分野における交流のシンポジウム・ワークショップなどの開催

保健医療福祉スポーツ分野でも「発信」型の国際交流が望まれる。中国、韓国、台湾、東南アジア諸国では、程度の差はあれ、工業化、都市化、核家族化、長寿化、伝統的な家族意識の崩壊などの諸要因によって、一人暮らしや老夫婦だけの高齢者世帯が増え、健康問題、保健医療問題、介護問題などの生活問題を抱えはじめている。このような変化はまさしく我が国が辿った過程であり、その先には保健医療福祉制度の見直しや、高度専門職者育成など諸課題が生じることが予測される。

我が国が周辺諸国から期待されている役割を果たす意味からも、これらの課題に取り組み、我々の高齢社会に於ける経験に基づく有用な情報を積極的に発信し、国際的に貢献するよう努める。

2

将来計画 / 2010年度から2020年度 将来計画長期目標

●ドメインⅠ 大学拡充計画の推進

【基本目標】

保健・医療・福祉・スポーツ領域を核としながら、優れたQOLサポーターの育成を新たに計画するとともに、花と緑に溢れたゆとりのあるキャンパス整備を推進する。さらに地域と連携する教育研究エリアの拠点を目指す。

【目標項目】

1. 学部・学科の新設や既存学科の定員見直しを図る。また、大学院の新たな分野等も設置する。
2. グローバル化を見据えた施設設備とキャンパス全体の充実を図る。
3. 地域と連携して教育研究エリアを創造する。

●ドメインⅡ 入試情報の提供強化

【基本目標】

めんどろみん大学のよき大学としての認知度を向上するとともに、学生募集活動と入試制度の強化・改善を図り、将来優れたQOLサポーターとなるための学生を確保する。

【目標項目】

1. 広報活動を強化する。

2. 入試制度の改革・改善と情報提供を強化する。

●ドメインⅢ 教育内容の充実

【基本目標】

多様化する一人ひとりの健康寿命を支える優れた人材を育てるために教育内容を適正化し、めんどうみのよい大学をめざす。

【目標項目】

1. 学生（大学院生も含む）の向学心高揚を図り、問題解決力および自己の可能性を実現する力を高める。
2. チームワークとリーダーシップを培い、他学部とも連携しながら対象者を力づけるためのコミュニケーション力、専門知識と技術（論理的思考力）を高める。
3. 保健・医療・福祉・スポーツの支援が続けられるよう、地域一体となった卒前・卒後教育の充実を図る。

●ドメインⅣ 学生支援の強化

【基本目標】

学生の福利厚生を支援する体制を強化し、めんどうみのよい大学を目指すとともに、就職率を本学における教育の総合指標として位置づける。

【目標項目】

1. 学生が安心して学生生活を送れるよう支援する。
2. 高い就職率を継続するための学生支援を強化し、就職率日本一を目指す。
3. クラブ活動、ボランティア活動を支援し、チームワークとリーダーシップを涵養し自主性を育てる。

●ドメインⅤ 教員の人材確保

【基本目標】

魅力ある大学となることで優秀な人材を確保し、大学全体の教育・研究力を増強する。

【目標項目】

1. 学生の専門知識と技術（論理的思考力）を高め、問題解決力などを習得させるため優れた人材を確保するシステムを構築する。
2. 教育力（論理的思考力、チームワークとリーダーシップ、対象者を力づけるためのコミュニケーション力、問題解決力、自己の可能性を実現する力）を増強するシステムを構築する。
3. これまで以上に教員が生き生きと教育・研究できる環境を整備する。

●ドメインⅥ 研究機能の強化

【基本目標】

保健・医療・福祉・スポーツ領域を核としたアジアで秀でる研究拠点を目指し、学生および大学院生が先端の学問に触れることのできる研究環境の充実と強化を図る。

【目標項目】

1. すべての教員が意欲的に研究に取り組み、その成果を国際的な場で発信する。
 2. 外部資金申請、採択の向上を目指し、研究環境の見直しを図る。
 3. 若手研究者の育成とともに、学部学生および大学院生の論理的思考力および問題解決力を養う。
-

●ドメインⅦ 同窓会・生涯学習の支援

【基本目標】

大学卒業生を会員として、会員相互の交流・連携・生涯学習を推進することにより、めんどうみのよい大学としての発展、地域社会の保健・医療・福祉・スポーツの振興を目指す。

【目標項目】

1. 学内における同窓会支援体制の整備を図る。
 2. 同窓生相互の交流・連携の支援の強化を目指す。
 3. 同窓生の専門知識と技術（論理的思考力）、問題解決力の強化を図るため生涯学習の支援の強化を目指す。
 4. 同窓生のリーダーシップ力を活かした社会的貢献事業の支援の強化を目指す。
-

●ドメインⅧ 地域・産官学連携の推進

【基本目標】

優れたQOLサポーターを育成するため保健・医療・福祉・スポーツ領域における地域連携の推進体制の充実・強化を図り、魅力ある大学づくりを目指す。

【目標項目】

1. 地域・産官学連携の下、地域などをフィールドにして学生の専門知識と技術（論理的思考力）、チームワークとリーダーシップ、対象者を力づけるためのコミュニケーション力、問題解決力、自己の可能性を実現する力を育み、教育内容などの充実を図る。
 2. 産官学連携に関する協定などの拡充を図る。
 3. 県内外におけるサテライト拠点の整備・拡充を図る。
 4. 地域・産官学連携を目的とした研究体制の確立を図る。
 5. 学内における地域・産官学連携推進体制の確立を図る。
-

●ドメインⅨ 国際交流の推進

【基本目標】

保健・医療・福祉・スポーツ領域で国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、必要な制度や環境を整備・充実させ、これらの領域で、アジアでの国際交流拠点を目指す。

【目標項目】

1. 学生、教員がコミュニケーション力を高め、国際化に対応できる力をつけ、大学のグローバル化を図る。
 2. アジアにおける保健・医療・福祉・スポーツ領域の人材育成・学術交流を行うとともに、国際貢献・国際協力を行い、国際交流拠点となる。
-

●ドメインⅩ 組織マネジメント改革（SDを含む）

【基本目標】

大学の目標を達成するために、常に変化する環境のなかで組織体制や運営のしくみを点検・改善し、自ら組織改革ができ、透明性が確保された組織マネジメントを実現する。

【目標項目】

1. 教職員が目標を共有し協働で達成できる組織にする。
2. 社会的説明責任を果たし社会的信頼を維持できる大学組織にする。
3. 目標達成のため情報を共有し権限・責任の所在を明確化したハイブリッド型組織にする。
4. PDCAを組織的に展開し環境の変化に柔軟に対応できる戦略的機動力をもった組織とする。



第2章

沿革

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

平成13年（2001年）

- 4月 新潟医療福祉大学開学（2学部5学科設置）
医療技術学部 理学療法学科（入学定員40名）、作業療法学科（入学定員40名）、
言語聴覚学科（入学定員40名）、健康栄養学科（入学定員40名）
社会福祉学部 社会福祉学科（入学定員100名）

- 4月 新潟医療福祉大学 第1回入学式

平成14年（2002年）

- 4月 新潟医療福祉大学 第2回入学式
- 9月 第2厚生棟 竣工

平成15年（2003年）

- 4月 新潟医療福祉大学 第3回入学式

平成16年（2004年）

- 4月 新潟医療福祉大学 第4回入学式

平成17年（2005年）

- 1月 第3研究・体育館棟、第2実験実習棟 竣工
- 3月 新潟医療福祉大学 第1回卒業式
健康栄養学科（栄養教諭一種免許） 教員免許課程の認定
健康スポーツ学科（中・高教諭一種免許（保健体育））
教員免許課程の認定
- 4月 大学院医療福祉学研究科設置 保健学専攻、社会福祉学専攻開設
（入学定員40名）
- 4月 医療技術学部健康スポーツ学科開設（入学定員60名）
- 4月 医療技術学部理学療法学科入学定員増（入学定員80名）
- 4月 新潟医療福祉大学 第5回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第1回入学式
- 4月 ハルビン医科大学第一臨床医学院（中国）との学術交流協定の締結
- 9月 看護学科 保健師学校・助産師学校・看護師学校の指定

平成18年（2006年）

- 2月 サザンクイーンズランド大学（オーストラリア）との研究協力についての覚書の締結
- 3月 新潟医療福祉大学 第2回卒業式
- 3月 看護学科（養護教諭一種免許） 教員免許課程の認定
- 3月 第4研究棟 竣工
- 4月 新潟医療福祉大学 第6回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第2回入学式
- 9月 義肢装具自立支援学科 義肢装具士学校の指定

9月 ハバロフスク極東総合医科大学（ロシア）との学術交流協定の締結

平成19年（2007年）

3月 新潟医療福祉大学 第3回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第1回修了式

3月 第5研究棟 竣工

4月 第3厚生棟 竣工

4月 大学院医療福祉学専攻（博士後期課程）開設（入学定員3名）

4月 大学院健康科学専攻（修士課程）開設（入学定員10名）

※入学定員の変更 保健学専攻20名、社会福祉学専攻10名

4月 2学部より3学部（医療技術学部・健康科学部・社会福祉学部）へ改組

4月 健康科学部健康栄養学科（入学定員40名）、健康スポーツ学科（入学定員100名）、
看護学科（入学定員80名）開設

※医療技術学部健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科 募集停止

4月 医療技術学部義肢装具自立支援学科（入学定員40名）開設

4月 新潟医療福祉大学 第7回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第3回入学式

5月 カリフォルニア州立大学フレズノ校（アメリカ）との学術交流協定の締結

12月 大学院健康科学専攻健康スポーツ学分野（中・高教諭専修免許（保健体育））教員免許課程
の認定

平成20年（2008年）

3月 新潟医療福祉大学 第4回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第2回修了式

4月 新潟医療福祉大学 第8回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第4回入学式

平成21年（2009年）

3月 新潟医療福祉大学 第5回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第3回修了式

4月 新潟医療福祉大学 第9回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第5回入学式

5月 第3体育館棟 竣工

7月 本学を代表校とする連携5大学による「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール
中心型カリキュラムの共同開発の実践」が、文部科学省平成21年度戦略的大学連携支援事業
として採択

9月 キングストン大学（イギリス）及びロンドン大学セントジョージ校（イギリス）健康社会福
祉科学部との国際交流協定の締結

10月 JICA（独立行政法人国際協力機構）の要請による生活習慣病予防に関する研修の実施 フィ
ジー諸島共和国・バヌアツ共和国・ソロモン諸島・マーシャル諸島共和国の4カ国から8名
の参加

平成22年（2010年）

- 3月 新潟医療福祉大学 第6回卒業式
- 3月 新潟医療福祉大学大学院 第4回修了式
- 3月 第3厚生棟改修 竣工
- 4月 医療経営管理学部医療情報管理学科（入学定員80名）開設
- 4月 新潟医療福祉大学 第10回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第6回入学式
- 11月 運動機能医科学研究所 開設

平成23年（2011年）

- 3月 新潟医療福祉大学 第7回卒業式
- 3月 新潟医療福祉大学大学院 第5回修了式
- 3月 第6研究・実習棟 竣工
- 4月 医療技術学部臨床技術学科（入学定員80名）開設
- 4月 新潟医療福祉大学 第11回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第7回入学式
- 10月 サント・トマス大学（フィリピン共和国）と国際交流に関する覚書の締結
- 10月 新潟医療福祉大学開学10周年記念式典・講演会

平成24年（2012年）

- 3月 新潟医療福祉大学 第8回卒業式
- 3月 新潟医療福祉大学大学院 第6回修了式
- 4月 新潟医療福祉大学 第12回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第8回入学式

平成25年（2013年）

- 3月 新潟医療福祉大学 第9回卒業式
- 3月 新潟医療福祉大学大学院 第7回修了式
- 3月 第7研究・実習棟 竣工
- 3月 硬式野球グラウンド 完成
- 4月 健康科学部健康スポーツ学科入学定員増
- 4月 新潟医療福祉大学 第13回入学式
- 4月 新潟医療福祉大学大学院 第9回入学式

平成26年（2014年）

- 3月 新潟医療福祉大学 第10回卒業式
- 3月 新潟医療福祉大学大学院 第8回修了式
- 3月 第8研究・実習棟 竣工
- 3月 屋内走路、屋内野球場 竣工
- 3月 公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価において適合認定を受ける
- 4月 医療技術学部視機能科学科（入学定員50名）開設
- 4月 大学院医療情報・経営管理学専攻修士課程（入学定員4名）開設

※入学定員の変更 保健学専攻（入学定員18名）、社会福祉学専攻（入学定員8名）

4月 新潟医療福祉大学 第14回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第10回入学式

平成27年（2015年）

1月 クラブハウス 竣工

2月 マヒドン大学（タイ）との学術交流協定の締結

3月 新潟医療福祉大学 第11回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第9回修了式

4月 健康科学部健康スポーツ学科 入学定員増（入学定員200名）

4月 新潟医療福祉大学 第15回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第11回入学式

4月 クイーンズ大学（カナダ）との学術交流協定の締結（作業療法学科）

平成28年（2016年）

3月 新潟医療福祉大学 第12回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第10回修了式

3月 第2講義棟、第4体育館 竣工

4月 新潟医療福祉大学 第16回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第12回入学式

平成29年（2017年）

3月 新潟医療福祉大学 第13回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第11回修了式

4月 医療技術学部救急救命学科（入学定員55名）開設

4月 第9研究・実習棟 竣工

4月 新潟医療福祉大学 第17回入学式

4月 新潟医療福祉大学大学院 第13回入学式

11月 「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点－Sports & Health for All in Niigata－」が文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業として採択

平成30年（2018年）

3月 新潟医療福祉大学 第14回卒業式

3月 新潟医療福祉大学大学院 第12回修了式

3月 第4研究・実習棟 増築改修竣工

3月 第10研究・実習棟 竣工

3月 新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園 竣工

3月 学生寮「N-Village 伍桃」第1期工事竣工

4月 リハビリテーション学部理学療法学科（入学定員120名）開設

4月 リハビリテーション学部作業療法学科（入学定員50名）開設

4月 リハビリテーション学部言語聴覚学科（入学定員40名）開設

4月 リハビリテーション学部義肢装具自立支援学科（入学定員40名）開設

- 4月 医療技術学部臨床技術学科入学定員増（入学定員100名）
 - 4月 医療技術学部診療放射線学科（入学定員90名）開設
 - 4月 看護学部看護学科（入学定員107名）開設
 - 4月 大学院博士後期課程医療福祉学専攻入学定員増（10名）
 - 4月 新潟医療福祉大学 第18回入学式
 - 4月 新潟医療福祉大学大学院 第14回入学式
 - 6月 スポーツ庁「大学横断的かつ協議横断的統括組織創設事業」に採択
- 平成31年（令和元年 2019年）
- 3月 学生寮「N-Village 伍桃」 第2期工事竣工
 - 3月 新潟医療福祉大学 第15回卒業式
 - 3月 新潟医療福祉大学大学院 第13回修了式
 - 4月 新潟医療福祉大学 第19回入学式
 - 4月 新潟医療福祉大学大学院 第15回入学式
- 令和2年（2020年）
- 3月 新潟医療福祉大学 第16回卒業式（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
 - 3月 新潟医療福祉大学大学院 第14回修了式（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
 - 4月 新潟医療福祉大学 第20回入学式（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
 - 4月 新潟医療福祉大学大学院 第16回入学式（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- 令和3年（2021年）
- 3月 公益財団法人日本高等教育評価機構により大学機関別認証評価において適合認定を受ける
 - 3月 新潟医療福祉大学 第17回卒業式
 - 3月 新潟医療福祉大学大学院 第15回修了式
 - 4月 新潟医療福祉大学 第21回入学式
 - 4月 新潟医療福祉大学大学院 第17回入学式
 - 4月 健康科学部健康スポーツ学科定員増（入学定員250名）
 - 10月 屋内投てき練習場 竣工（北側）
 - 10月 第3トレーニングセンター 竣工（北側）
- 令和4年（2022年）
- 3月 新潟医療福祉大学 第18回卒業式
 - 3月 新潟医療福祉大学大学院 第16回修了式

2

開学までの準備

1) 準備財団

新潟医療福祉大学の開設に当たっては、医療福祉分野における有為な人材を育成するという目的に照

らし、できるだけ地域の総意を結集し、地域社会に根ざした大学作りを目指すべく、新潟県、新潟市をはじめ地域の企業・個人から物心両面に渡る支援をいただきつつ全く新しい学校法人を設立して運営する方式とした。そのため、設立の方法もいわゆる「準備財団方式」が選択された。

上記の通り、新潟医療福祉大学はゼロからの設立であったため、そもそもどこに作るかという用地の選定から大学の理念の練り上げ、カリキュラムの策定、教員募集、財源の確保（寄附金募集）、校舎の建築、機器備品の選定等々、何から何までが一斉同時進行であり、準備期間のほとんど最終盤までどこかに綻びが起きれば全ての範囲に影響が及ぶという、今から思えば綱渡りのような作業であった。関係者のご苦勞も改めて偲ばれるところである。

開学へ至る日程の概略は以下に示す通りである。準備財団の設立が許可された後に募金等の諸活動が認められるため申請書や認可書等の日付は平成11年5月から始まる。

平成11年5月18日付	財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立許可申請（文部省）
平成11年6月17日付	財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立許可（文部省）
平成11年7月	用地売買契約
平成11年9月30日付	新潟医療福祉大学設置認可申請（文部省）
同	学校法人新潟総合学園設立認可申請（文部省）
平成11年12月	開発行為許可（新潟市） 農地転用許可（新潟県）
平成12年2月4日	建築確認申請（新潟市）
平成12年3月	校舎建築開始
平成12年6月30日付	新潟医療福祉大学設置認可 二次申請（文部省）
同	学校法人新潟総合学園設立認可 二次申請（文部省）
平成12年12月21日付	新潟医療福祉大学設置認可（文部省）
同	学校法人新潟総合学園設立認可（文部省）
平成13年1月～	入学試験実施
平成13年4月5日	竣工・開学式典挙行
平成13年4月11日	新潟医療福祉大学 第1回入学式

しかし実態は、平成11年5月の準備財団設立申請時には①用地の確保 ②設立資金の確保（全額寄附等の自己資金であること） ③教員の確保 ④学生の確保 ⑤カリキュラム等教育内容 等々が、必要な書類と共に十分に説明されていなければならず、平成11年6月の財団設立許可＝大学の開学に概ね目途が立っている状態の確認・許可であった。

もちろん実際の開学まで、その後のジェットコースター並み紆余曲折は筆舌に尽くし難いが、一応の姿かたちは整えた、ということである。

2) 準備財団以前

実際の“準備”はというと平成5年頃に遡る。当法人理事長である池田弘が、高齢社会における医療福祉人材育成の重要性に比して新潟県・市での人材育成機能が未だ不足している状況を大きな課題と捉え、また当該人材育成機関としての大学設置の必要性を痛感し、諸種検討を開始している。

その後平成9年に至ってはいよいよ大学開設の決意を固め、人員を配置し具体的な活動を開始した。そ

の際には前述の通り地域に活躍する医療福祉人材の育成という目的に鑑み、地域の総意を結集した形で
の創設を目指したところである。準備財団の設立申請にいたる概略の経過は以下の通りである。

平成9年1月	学校法人新潟総合学院内に「大学設置準備室」設置
平成9年3月	新潟大学医学部整形外科学教室教授高橋榮明教授（当時）より開学後の学長 就任の快諾をいただく
平成9年7月	新潟県知事に大学設置構想を説明
平成9年8月	新潟市長に大学設置構想を説明
平成9年11月	大学設立準備室東京事務所設置。後に初代事務局長となる沼田忠義氏が東京 事務所長に就任
平成10年4月	地元医療福祉関係者（団体）への大学構想説明会開催。10団体22名参加のも と意見交換を行い協力方要請
平成10年8月	地元財界、学識経験者等により「新潟医療福祉大学（仮称）設立発起人会」 設立
平成10年10月～	就任予定教員による各学科教育課程等検討会議開催（平成11年2月までに各 学科2回、5学科連絡会議2回、をそれぞれ開催）
平成11年3月30日	「財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立発起人会」開催、準備財団設 立申請へ



第3章

組織

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1) 学部

開学当初は2学部5学科でスタートしたが、完成年度を迎えてから教育内容の充実がより一層図られるように学部や学科を増やし、2020年度は6学部13学科で構成されている。

(1) 構成 *人数は入学定員を表す

リハビリテーション学部

理学療法学科 (120名)

作業療法学科 (50名)

言語聴覚学科 (40名)

義肢装具自立支援学科 (40名)

医療技術学部

臨床技術学科 (100名)

視機能科学科 (50名)

救急救命学科 (55名)

診療放射線学科 (90名)

健康科学部

健康栄養学科 (40名)

健康スポーツ学科 (200名)

* 3年次編入募集人員 5名

看護学部

看護学科 (107名)

* 3年次編入募集人員10名

社会福祉学部

社会福祉学科 (120名)

* 介護福祉コース40名を含む

** 3年次編入募集人員 5名

医療経営管理学部

医療情報管理学科 (80名)

* 3年次編入募集人員 5名

2) 大学院

新しい時代に即した高度専門職業人と優れた教育者・研究者を育成し、保健・医療・福祉に対する社会的ニーズに応えていくことを目的として平成17年度に大学院研究科修士課程を設置した。研究科名は

医療福祉学研究科とし、保健学専攻、社会福祉学専攻の2専攻で構成した。平成19年度の学部再編に合わせて、大学院研究科も2専攻から3専攻（保健学専攻、社会福祉学専攻、健康科学専攻）に、同じ平成19年度に博士後期課程（医療福祉学専攻）を設置した。2013年度には修士課程に医療情報・経営管理学専攻を設置し、2020年度は修士課程4専攻、博士後期課程1課程の計5専攻12分野で構成されている。

（1）構成 *人数は入学定員を表す

医療福祉学研究科

保健学専攻（修士課程 21名）

理学療法学分野

作業療法学分野

言語聴覚学分野

義肢装具自立支援学分野

医療技術安全管理学分野

視覚科学分野

社会福祉学専攻（修士課程 5名）

保健医療福祉政策・計画・運営分野

保健医療福祉マネジメント学分野

健康科学専攻（修士課程 10名）

健康栄養学分野

健康スポーツ学分野

看護学分野

医療情報・経営管理学専攻（修士課程 4名）

医療福祉学専攻（博士後期課程 10名）

2

教員組織

1) 教員組織の構成

本学は2001年4月に2学部5学科で開学し、当時の専任教員数は57人（教授22人、助教授11人、講師11人、助手13人）であった。

その後、学部学科の増設や定員増により、2021年5月1日の専任教員数は279人（教授93人、准教授38人、講師66人、助教69人、助手13人）となった。

2021年5月1日現在の年齢構成は、36歳～40歳が最も高く13.6%、次いで31歳～35歳が13.3%、46歳～50歳が12.9%となっている。また、全体に占める若手（39歳未満）の割合は29.7%であり、女性の割合は30.1%である。

2) 教員の募集と昇任

教員の募集は、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するJREC-IN Portalや本学ホームページにより公募を行っている。

採用と昇任の審査は、「新潟医療福祉大学教員選考規程」や「新潟医療福祉大学における教員選考の基準に関する規程」などに則ってきた。

本学では大学教員等の任期に関する法律に則って任期制を導入しており、任期を定めて雇用された教員の再任審査手続きに関しては、「新潟医療福祉大学の再任審査手続きの取扱いについて」で定めている。

3) 現在の教員数

(1) 2021年度5月1日時点の学部・学科、職位別専任教員数

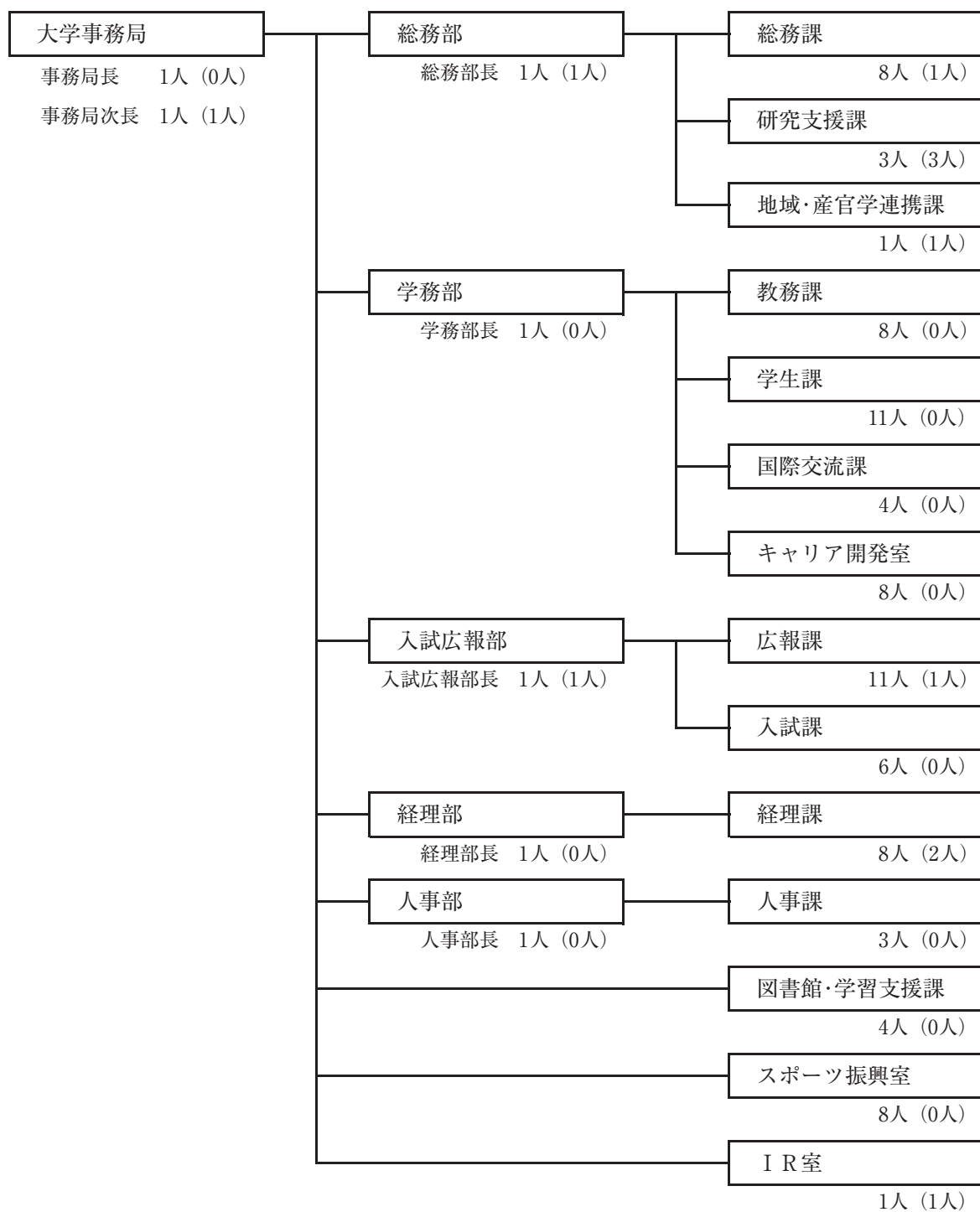
(単位：人)

学部	学科	教授		准教授		講師		助教		助手		計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
リハビリテーション学部	理学療法学科	11	0	2	0	10	0	10	3	0	0	36
	作業療法学科	3	2	0	0	2	0	4	0	0	0	11
	言語聴覚学科	4	0	1	1	2	1	1	1	0	0	11
	義肢装具自立支援学科	4	0	0	0	4	0	2	1	0	0	11
医療技術学部	臨床技術学科	8	0	3	0	5	0	1	1	1	2	21
	視機能科学科	5	1	0	0	2	0	1	2	1	0	12
	救急救命学科	4	0	1	0	4	0	3	1	0	0	13
	診療放射線学科	6	0	4	0	2	1	3	1	0	0	17
健康科学部	健康栄養学科	4	2	1	3	3	1	1	3	0	1	19
	健康スポーツ学科	11	1	7	1	12	4	5	5	0	0	46
看護学部	看護学科	2	7	1	4	1	6	1	9	0	5	36
社会福祉学部	社会福祉学科	8	2	4	2	1	3	2	2	1	2	27
医療経営管理学部	医療情報管理学科	8	0	3	0	1	1	4	2	0	0	19
計		78	15	27	11	49	17	38	31	3	10	279 (100%)
		93 (33.3%)		38 (13.6%)		66 (23.7%)		69 (24.7%)		13 (4.7%)		

(2) 2021年度5月1日時点の年齢別・職位別専任教員数

(単位：人)

	教授	准教授	講師	助教	助手	計
71歳以上	10	0	0	0	0	10 (3.6%)
66歳～70歳	23	0	0	0	0	23 (8.2%)
61歳～65歳	20	6	3	2	0	31 (11.1%)
56歳～60歳	16	8	3	2	1	30 (10.8%)
51歳～55歳	7	6	12	2	0	27 (9.7%)
46歳～50歳	8	12	8	6	2	36 (12.9%)
41歳～45歳	7	4	12	8	2	33 (11.8%)
36歳～40歳	2	2	17	14	3	38 (13.6%)
31歳～35歳	0	0	10	24	3	37 (13.3%)
21歳～30歳	0	0	1	11	2	14 (5.0%)
計	93	38	66	69	13	279 (100%)



・ 部署名の下は専任職員の人数。カッコ内は専任職員数に含まれる兼務者の人数。

管轄		委員会名	委員長名・センター長名（学長指名）		事務局		
西澤正豊学長		将来計画機構	将来計画機構長	大西秀明	総務課		
		学生懲戒諮問委員会	学生懲戒諮問委員長	佐藤敏郎	学生課		
		危機管理委員会	危機管理委員長	西澤正豊	総務課		
		教員選考委員会 （再任審査委員会）	教員選考委員長 （再任審査委員長）	大山峰生	人事課		
		人権委員会	人権委員長	河野聖夫	人事課		
		個人情報保護委員会	個人情報保護委員長 （個人情報保護管理責任者）	宮地幸久	人事課		
		安全衛生委員会	安全衛生委員長	宇田優子	総務課		
		自己点検・評価委員会	自己点検・評価委員長	古西勇	総務課		
		外部評価準備委員会	外部評価準備委員長	大山峰生	総務課		
	【事業戦略推進部】 部長：小野哲之	入試委員会	入試委員長	椿淳裕	入試課		
		広報委員会	広報委員長	杉崎弘周	広報課		
		大学院入試広報委員会	大学院入試広報委員長	阿部薫	国際 交流課		
		IR戦略委員会	IR戦略委員長	佐藤大輔	IR室		
【教育・学生支援機構】 機構長：大山峰生 運営委員：大山峰生、 佐藤敏郎、吉田重和、 木原亨	【学生支援推進部】 部長：佐藤敏郎	健康管理センター運営委員会	健康管理センター長	埴晴雄	学生課		
		図書館・学習支援委員会	図書館・学習支援委員長 （図書館長）	山岸達弥	図書館・ 学習支援		
		就職センター運営委員会	就職センター長	永井徹	キャリア 開発室		
		教職支援センター運営委員会	教職支援センター長 （教職課程長）	吉田重和	教務課		
		学生委員会	学生部長	佐藤敏郎	学生課		
		交通安全委員会	交通安全委員長	佐藤敏郎	学生課		
	【教育開発推進部】 部長：吉田重和	教務委員会	教務委員長	古西勇	教務課		
		FD・SD推進委員会	FD・SD推進委員長	五十嵐紀子	教務課		
		国家試験・資格試験対策委員会	国家試験・資格試験対策委員長	川村宏樹	教務課		
		新潟連携教育研究センター運営委員会	新潟連携教育研究センター長	松井由美子	教務課		
		高等教育推進センター	高等教育推進センター長	吉田重和	教務課		
		【研究・産官学連携推進機構】 機構長：大西秀明 運営委員：大西秀明、 椿淳裕、児玉直樹、 佐藤大輔、大竹宏	【研究・産官学連携推進部】 部長：椿淳裕	科研費対策委員会	科研費対策委員長	大鶴直史	研究支援
				運動機能医科学研究所	運動機能医科学研究所長	大西秀明	研究支援
プロジェクト研究センター運営委員会	プロジェクト研究センター長	椿淳裕		研究支援			
	【研究・産官学連携支援部】 部長：児玉直樹	学術委員会	学術委員長	竹井豊	総務課		
		倫理審査委員会	倫理審査委員長	山崎史恵	総務課		
		遺伝子組換え実験安全委員会	遺伝子組換え実験安全委員長	田口徹	研究支援		
		動物実験委員会	動物実験委員長	八坂敏一	研究支援		
		毒物・劇物管理委員会	毒物・劇物管理委員長	田口徹	総務課		
		利益相反マネジメント委員会	利益相反マネジメント委員長	児玉直樹	研究支援		
		知的財産委員会	知的財産委員長	児玉直樹	総務課		
		URA推進室	URA推進室長	江玉睦明	研究支援		
	【大学院教育研究支援部】 部長：佐藤大輔	大学院教務委員会	大学院教務委員長	能村友紀	国際 交流課		
		大学院教育研究環境委員会	大学院教育研究環境委員長	山代幸哉	国際 交流課		

管轄		委員会名	委員長名・センター長名（学長指名）		事務局
【社会連携・同窓会推進機構】 機構長：丸田秋男 運営委員：丸田秋男、西原康行、大竹宏、長谷川陽一	【社会連携推進部】 部長：西原康行	社会連携推進センター運営委員会	社会連携推進センター長	佐藤成登志	地域連携
	【同窓会・生涯学習推進部】 部長：西原康行	同窓会・生涯学習連携推進委員会	同窓会・生涯学習連携推進委員長	西原康行	学生課
【国際交流推進機構】 機構長：渡辺敏彦 運営委員：渡辺敏彦、久保雅義、嵐田浩吉	【国際交流推進部】 部長：久保雅義	国際交流センター運営委員会	国際交流センター長	久保雅義	国際交流課
【アスレティックデパートメント推進機構】 機構長：渡辺敏彦 運営委員：渡辺敏彦、伊藤篤司、稲田茂高、西原康行、小野哲之	【強化指定クラブ運営部】 部長：西原康行	強化指定クラブ運営委員会	強化指定クラブ運営委員長	西原康行	スポーツ振興室
	【アスレティックデパートメント推進部】 部長：伊藤篤司	アスレティックデパートメント推進委員会	アスレティックデパートメント推進委員長	伊藤篤司	スポーツ振興室



第 4 章

学科・専攻分野

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1) 開設年度：2001年度

2) 学生定員（2020年度）：120名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：35名（教授9名、准教授4名、講師9名、助教13名）

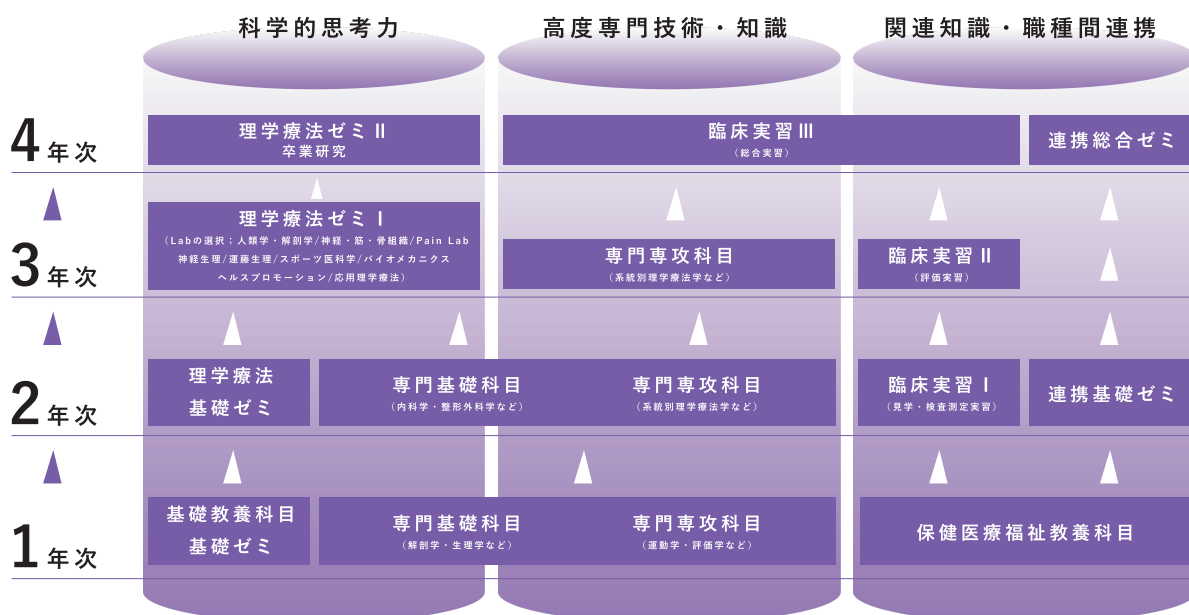
4) 学科の特徴

(1) 教育

理学療法学科はこの20年の間に、2度の定員増が行われ、開学当初の定員は40名であったが現在はその3倍となった。この間一貫して、教員1名が5～7名を受け持つゼミが、学習支援等の窓口としての「セーフティネット」の役割を担っている。1年生に対しては、基礎ゼミがこれにあたり、開学より継続している。また2年次に「理学療法基礎ゼミ」を設けることで、やや目が届きにくかった時期への対応を行っている。3年次、4年次は、研究テーマが近い教員によるグループ（Lab）で学生を指導し、複数名の学生に複数教員が関与する体制をとることで、進路指導も含めたサポートを行っている。

理学療法学科のカリキュラムマップを図1に示す。1年次に基礎教養科目を置くと同時に専門専攻科目も配置することで、理学療法士になるという意欲を保持しながら学習に励む環境を用意している。学年進捗とともに専門性を高め、また学習内容に応じた臨床実習を配置することで、確かな知識と信頼の置ける技術を身につけることを意図している。実習・演習科目は40名前後の複数クラスに分け、各分野を専門とする教員が指導している。

研究において培う、課題を見つけその解決方法を検討し、試行錯誤しながら解決を目指していく過程は、主体的な学習にも汎化でき、標準的な教育の効果を高めることができることから、理学療法学科での教育にも取り入れている。卒業研究はその最たる科目であるが、積極的な学生が向上心を満足できる



▲図1 理学療法学科のカリキュラムマップ

よう「理学療法学課題演習」や「研究プロジェクト課題演習Ⅰ～Ⅵ」などを希望により選択できることとしている。

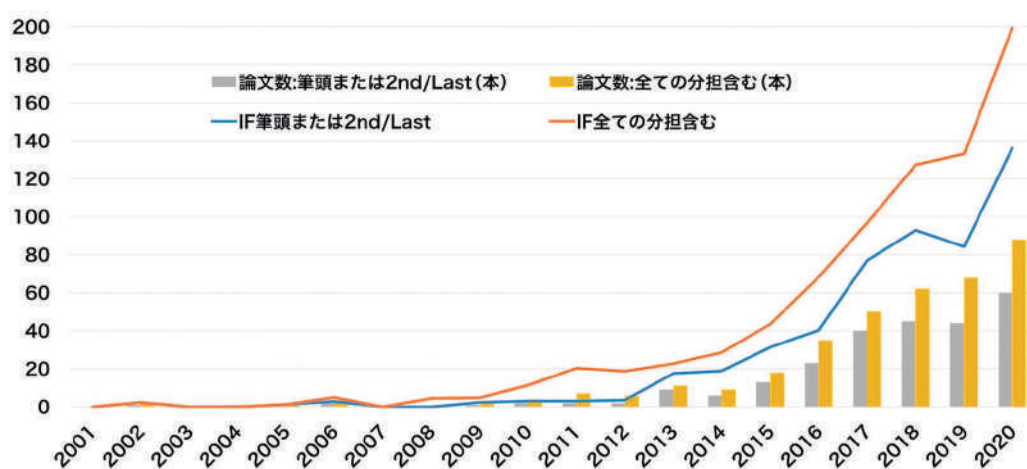
臨床技能の向上に向けた取り組みとしては、客観的臨床能力試験（OSCE）を全国に先駆け導入した。さらに症例検討の時間を多く設けることで、臨床的な思考過程を模擬する機会も設けている。

（２）研究

理学療法学科の教員は、臨床的な専門領域を有するだけでなく、研究活動においても専門的なテーマを有し、その分野の新しい知見の発見と公表を積極的に継続して行っている。この土台となるのが前述のLabであり、35名の教員が9つのLab（人類学・解剖学Lab、神経・筋・骨組織Lab、Pain Lab、神経生理Lab、運動生理Lab、スポーツ医科学Lab、バイオメカニクスLab、ヘルスプロモーションLab、応用理学療法Lab）のいずれかに所属し、Lab内あるいはLabを跨いだ研究活動を進めている（図2）。これらの活動により、論文数や総インパクトファクターは徐々に増え（図3）、また科研費の獲得件数お



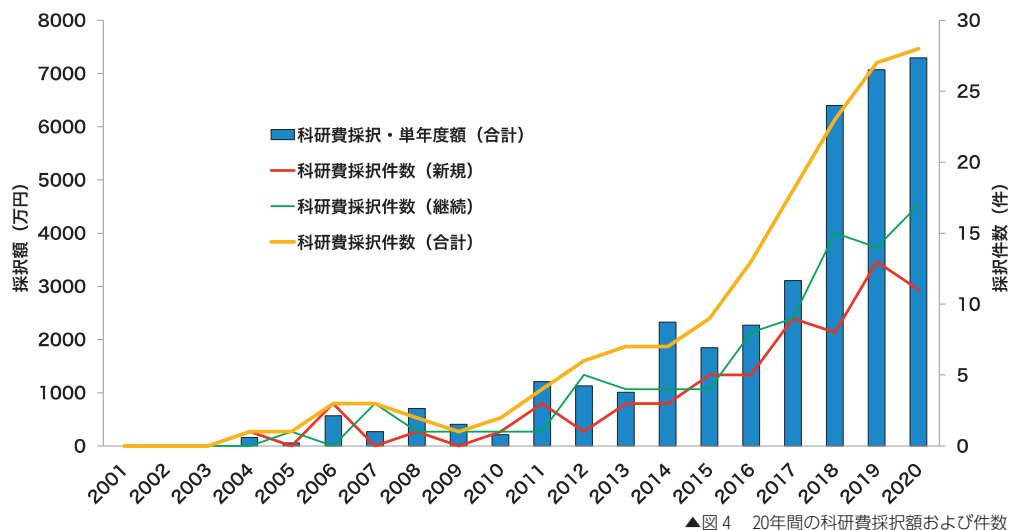
▲図2 Labによる様々な研究活動



▲図3 20年間の論文数およびインパクトファクターの推移

よび獲得額も右肩上がりの増加を示している（図4）。

これまではLab内あるいは学科内での研究が中心であったが、学科間や他大学、他の研究機関との共同研究も増加の傾向にある。さらに動物実験やヒトを対象とした基礎的な研究だけでなく、地域在住者を対象とした研究や臨床データを用いた研究など、研究手法も多岐にわたる。



▲図4 20年間の科研費採択額および件数

(3) 社会貢献

理学療法学科では、県や市町村などの地方自治体からの受託事業や自治体への協力・支援を行っている。開学時より新潟リハビリテーション病院と共同で実施している「転倒予防教室」は、新潟県内の複数市町村に関わって実施してきた（図5）。現在も新潟県からの受託事業である「介護予防における大学との連携事業」を進めている。また、新潟県健康づくり財団と共同して、佐渡市内の住民を対象とした身体・精神機能測定事業も開始した。

各教員の専門領域を活かし、様々な団体からの依頼を受け、講演活動を実施している。特筆すべきは、人類学・解剖学Labが行っている市町村等から依頼される鑑定である（図6）。遺跡から出土した骨に関する鑑定は全国から依頼があり、2015～2020年度で33件であった。新潟県以外にも北海道、青森、岩手、宮城、茨城、群馬、千葉、埼玉、東京、神奈川、石川、徳島と、多くの地域から依頼を受けている。

教員が公的団体の委員として活動することでの社会貢献も、開学以来継続している活動である。



▲図5 地域住民を対象とした予防事業



▲図6 自治体からの依頼により遺跡から出土した人骨の鑑定に関わる様子

(4) 国際交流

理学療法学科では2006年2月に実施したアメリカ西海岸研修を皮切りに、国際交流活動を継続して実施している。アメリカ西海岸研修では、カリフォルニア州立大学フレズノ校や南カリフォルニア大学との交流を中心とし、大学の授業への参加や近隣の病院の見学、地域の健康推進活動などへも参加している。これらの研修では、航空券の手配や宿泊先の確保などを学生自身が行うなど、研修の主体が自分自身であることを認識させ、理学療法だけに留まらない研修として、貴重かつ有意義な経験を積み上げている。

また、アジアの大学や医療機関との交流も開始し、「地域に根ざしたリハビリテーションcommunity based rehabilitation」での臨床実習は、医療資源の乏しい環境で理学療法士に何ができるかを考えるきっかけとなっている（図7）。また教員の引率は前半だけで、後半は学生のみで研修を進める「ハーフ・アンド・ハーフ」プログラムも実施している。これも学生の主体性を引き出すことに繋がっており、研修を経験した学生の成長はめざましい。



▲図7 community based rehabilitation実習での様子

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力および学習能力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

協調性を有するとともに、自分の意見を論理的に表現し、チームの目指す方向を示すリーダーシップを有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

自ら積極的に学習し、行動しようとする態度とともに、人との関わりを大切にし、ボランティアなどの

課外活動に対して主体的に行動しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉領域に強い関心があり、理学療法士になろうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

理学療法にかかわる科学的根拠に裏づけられた専門知識・技術を身につけるために基礎教養科目群や専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置し、科学的思考力を修得するために理学療法ゼミや卒業研究を配置する。成果は基礎教養科目群および専門基礎科目群の成績により評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

他の職種と連携して問題解決に向けた情報を収集することの大切さを学ぶために保健医療福祉教養科目群や保健医療福祉連携科目群を配置し、コミュニケーション力を向上させるとともに、リーダーシップを身につけるために理学療法基礎ゼミなどを配置する。成果は保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

倫理観と責任感を学び、理学療法を必要とする対象者や地域社会における理学療法士の取り組みに関心をもち、対象者に対して適切な理学療法を提供し、対象者の社会参加を支援する力を修得するために臨床実習を含む理学療法専門専攻科目群を配置する。成果は専門専攻科目群および臨床実習の成績により評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

専門知識・技術および論理的思考力を涵養し、臨床的状況や対象者および地域社会の意志などを考慮した問題発見および問題解決力を身につけるために基礎教養科目群や専門基礎科目群、理学療法課題演習、臨床実習および卒業研究などを配置する。成果は卒業研究の成績により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

国際的な科学の進歩や社会の変化への好奇心をもち、生涯を通じて自律した理学療法士として自己実現意欲を涵養するために理学療法ゼミや海外フィールド実習、スポーツ障害理学療法学、発達障害理学療法学、高齢者健康増進学、骨関節病理学、神経筋機能解析学、運動制御理論、運動生理学など数多くの専門専攻選択科目を配置する。成果は専門専攻科目群および専門専攻選択科目群の成績により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

科学的根拠に裏づけられた理学療法に関する知識および技術を有し、それらを活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

多職種と連携し、問題解決に向けた情報収集ができるとともに、議論に必要とされる理学療法学とコミュニケーション能力を有しリーダーシップを発揮することができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

高い倫理観と責任感を有し、理学療法を必要とする対象者の人権を尊重するとともに、地域社会の活性化や対象者のQOL向上に全力で取り組むことができる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

幅広い教養と習得した理学療法学を生かし、臨床的状況や対象者や地域社会の意志などを考慮し、妥当な仮説を立案し、吟味し、論理的に問題を解決することができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

国内外を問わず、科学の進歩や社会の変化に関心をもち、生涯を通じて理学療法に関する知識および技術を高めることができる。

2

リハビリテーション学部 作業療法学科

1) 開設年度：2001年度

2) 学生定員（2020年度）：50名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：12名（教授5名、特任教授1名、講師2名、助教4名）

4) 学科の特徴

（1）教育

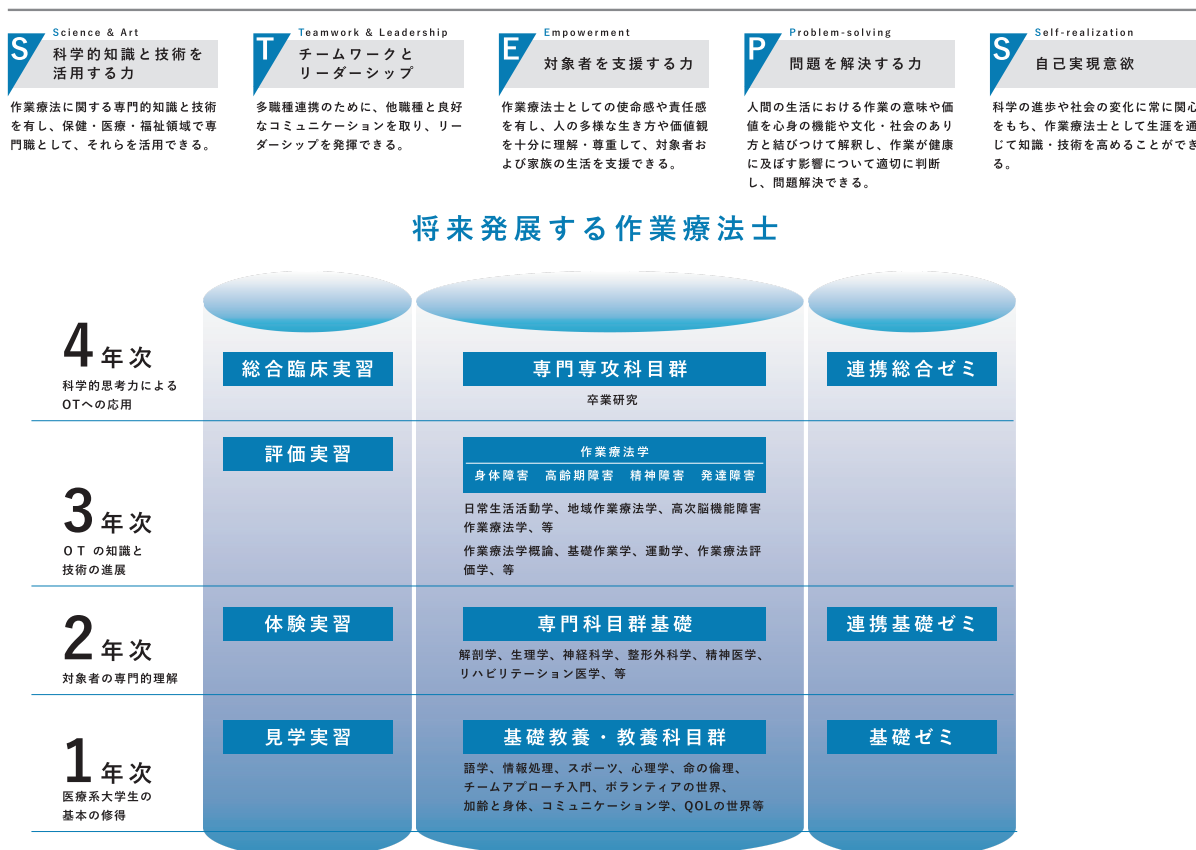
作業療法士に必要な知識や技能を系統的に指導するために、作業療法学科のカリキュラムは重層的な構成になっている。また、各学年担任を窓口として学生一人ひとりに対するきめ細かな学習支援、国家試験支援、就職支援が行われている。重層的なカリキュラム構成と個別的な学生指導の連係が作業療法学科の教育の特徴である。

1年次には、教養科目や基礎医学などを通じて、学生は幅広い教養と作業療法の基礎的な知識を修得する。2年次には、医学全般を学習するとともに作業療法の評価を実施するための基礎的な知識と技術を修得する。同時に、作業療法の対象となる人々の身体的側面、精神的側面、発達の側面などを多角的に評価し、結果を統合的に解釈する視点を学習する。3年次には、障害を有した人々が残存能力を最大限に発揮し、自立した生活を送るための治療や指導、リハビリテーション関連機器や適切な住環境の設備などについて学習する。その教育課程の中では、専門領域で活躍している臨床の作業療法士を招聘し、臨床の視点に立った授業や臨床から直接患者様をお呼びして行う演習授業も展開している。4年次には、病院や各施設で行われる総合臨床実習を通じて臨床作業療法を実践するとともに専門職業人としての資質を養う。また、卒業研究に取り組むことによって科学的・論理的思考能力を向上させるとともに事実や理論を調査するための系統的な研究プロセスを学習する。

以上のカリキュラムと連係して、学生一人ひとりの学習支援を目的としたきめ細かな面接が各学年担任を窓口として1年次から4年次に至るまで一貫して行われる。4年次には、学習支援に加えて国家試験支援と就職支援が行われる。国家試験支援では、少人数の「国家試験対策ゼミ」を形成し、教員によ

る指導に加えアクティブラーニングを用いたグループワークを推進している。また、試験科目ごとに特別授業を実施するなど高い学習成果が得られる指導体制を整えている。これまでの実績は、国家試験受験18回中、現役合格率100%達成は4回あり、毎年全国平均を上回る高い合格実績を残している。就職支援では、就職センターと連携して就職先の特徴や就職試験の情報を学生に提供するとともに、個別的な面接を実施し学生が安心して就職試験に臨める体制を整えている。学生の希望する進路に応じたきめ細やかな指導を徹底することによって、就職内定率は18年連続で100%を達成している。

このような重層的なカリキュラム構成と学生一人ひとりに対する学習支援・国家試験支援・就職支援を通じて、学生は身体障害・精神障害・発達障害に対する知識や臨床技術を段階的に修得することができる。



(2) 研究

リハビリテーション医療における作業療法専門領域は幅広く、本学科教員が取り組む研究領域もこれに応じて多岐に渡る。身体障害領域では、「脳磁図を用いた手外科およびハンドリハビリテーションに関する研究」、「要介護高齢者の排尿実態調査および下部尿路リハビリテーション」、「脳律動変調により認知症予備軍の進行予防」、「危険運転予測システムの開発」などが、精神障害領域では、「腹式呼吸と作業遂行」「音楽聴取と作業遂行」などが挙げられる。

(3) 社会貢献

本学科では、地域貢献事業として、地方自治体の主催する一般市民を対象とした研修・講演と、新潟県作業療法士会が主催する現職者共通研修会における講演を行ってきた。

一般市民を対象とした研修・講演の内容は、地域住民の健康や福祉の増進、あるいは専門的援助を必

要としている市民への具体的支援策についてであり、これまで報告された演題は、「よく生きるヒント」、「自殺のない地域社会を目指して」等のメンタルヘルスに関するもの、「夜間頻尿」「認知予備力」「高齢者と運転」等の高齢期のものである。また、就学前で何らかの障害や問題を抱えている幼児とその家族、保育園や幼稚園の指導者を対象とした子ども発達相談事業や療育教室にも参画し、療育に関する専門的指導を行ってきた。これらの地域貢献の関連自治体は、現在のところ新潟市、新潟市北区・西区・南区、新発田市、五泉市、小千谷市、胎内市、出雲崎町であり、今後はさらに活動範囲を拡張していく方針である。

新潟県作業療法士会主催の現職者共通研修会は、毎年、県内の新人作業療法士教育のために開催されている。本学科教員が行っている講演の内容は「作業療法の可能性」、「老年期の基礎知識」、「実践のための作業療法研究」であり、これらは日本作業療法士協会の認定作業療法士取得に向けての必須単位となっている。

独立行政法人日本学術振興会主催の研究成果の社会還元、普及事業は、科学研究補助金によって実施され、我が国の将来を担う児童や生徒を対象として学術と日常生活との関わりや学術が持つ意味に対する理解を深める機会を提供するものである。本学科では、地元の中学生、高校生を招き、「ヒトの運動」に関する実験、講義を企画、実施してきた。この企画の実施には、理学療法学科、健康栄養学科、本学事務局の多大なご支援、ご協力を得ている。

(4) 国際交流

作業療法学科では2012年3月のMidwestern University（米国アリゾナ州フェニックス市）への訪問を機に、国際交流活動を実施している。2013年9月からは、Queen's University（カナダオンタリオ州キングストン）と交流を深め、2014年から2018年にかけて、隔年で訪日、渡加が行われ、授業への参加、医療施設への見学、学生間の交流が実施された。学生はこれらの経験を通して、海外における作業療法の見識を深めるとともに、国際化社会に向けたキャリア教育の機会を得た。



▲図 2016年カナダでの施設見学の様子



▲図 2017年本校での交流会の様子

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有

する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

相手の話をよく聞いて理解し、自分の意見を相手にわかりやすく伝え、他者と共に協力して物事を行おうとする態度を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

相手の立場を尊重し、困っている人に対して優しい心で手助けする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して適切な判断をくだすために、さまざまな視点をもって考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉領域に関心があり、作業療法士になろうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

作業療法士になるために必要な基礎的知識と技術、さらにそれらを活用する力を修得するために基礎医学および臨床医学や作業療法に関連した専門科目を配置する。1、2年次には基礎医学、臨床医学系の専門基礎科目を、2、3年次に作業療法の専門専攻科目を配置する。これらの成果は各科目の成績および国家試験の合否により評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

他の職種との連携協働を行うために必要な協調性やリーダーシップのあり方を修得するために作業療法に関連した専門科目を配置する。とくに学部単独で実施する「チームアプローチ入門」によって、多職種連携の基礎を学び、連携基礎ゼミなどで強化していく。成果は保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

対象者の意思を重んじる姿勢と対象者を元気にする力を修得するために作業療法に関連した専門科目、とくに臨床実習を配置する。臨床実習は1年次の見学実習に始まり、2年次の体験実習、3年次の評価実習、4年次の総合実習へと連続した配置としていることが特徴である。成果は専門専攻科目群および臨床実習の成績により評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

作業療法の実践過程を学ぶことを通して論理的に思考し、判断できる力を修得するために、卒業研究やゼミ活動科目を配置する。とくに3年次から始まる研究方法論、研究方法論演習によって基礎力を身につけた上で、4年次の卒業研究で問題解決の実際を体験することとなる。成果は卒業研究の成績により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

作業療法士として自己の夢を実現させるための心構えを身につけるために作業療法に関連した専門科目を配置する。とくに専門職になるための自覚および関心を深めるため、実際の患者による講義や演習を交え、より臨床的な講義内容を提供する。成果は専門専攻科目や臨床実習の成績により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

作業療法に関する専門的知識と技術を有し、保健・医療・福祉領域で専門職として、それらを活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

多職種連携のために、他職種と良好なコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮できる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

作業療法士としての使命感や責任感を有し、人の多様な生き方や価値観を十分に理解・尊重して、対象者および家族の生活を支援できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

人間の生活における作業の意味や価値を心身の機能や文化・社会のあり方と結びつけて解釈し、作業が健康に及ぼす影響について適切に判断し、問題解決できる。

[Self-realization] 自己実現意欲

科学の進歩や社会の変化に常に関心をもち、作業療法士として生涯を通じて知識・技術を高めることができる。

3

リハビリテーション学部 言語聴覚学科

1) 開設年度：2001年度

2) 学生定員（2020年度）：40名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：13名（教授3名、特任教授1名、准教授3名、講師4名、助教2名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

本学科では、「話すこと」「聞くこと」「食べること」に障がいを持つ方のところに寄り添い、幅広い専門知識で患者さんのQuality of life (QOL) 改善のためのサポートができる言語聴覚士を養成することを目標としている。

言語聴覚士に必要な資質は、歯切れよく多弁に話すことではなく、対象者の考えをよく理解し共感できることである。また、積極性、冷静さ、粘り強さも大切な資質の1つである。これらの資質を土台として専門的知識を駆使することが求められる。

領域別に講義や演習をしているが、実践性なしには臨床で役立てることはできない。本学科の実践力重視の取り組みとして、充実した実習施設・設備、体験型学習による授業、少人数による学外実習の3つを柱とする指導体制を敷いてきた。

実習施設：音声・音響学教室や防音室など県内でも有数の施設を持ち、学生数に対応した検査用具や測定機器を配置している。学生たちは検査練習によって検査手技を身に付けられるなど、学外実習の準

備がしやすい環境となっている。

体験型学習の授業：本学系列施設である「新潟リハビリテーション病院」の病院カンファレンスやものわすれ外来の見学、本学科附属施設である「言語発達支援センター」での小児の臨床への参加を行っている。学生たちには学外実習に出る前に、臨床経験を積む機会が提供されている。

少人数での学外実習：2年次の見学実習では、本学系列施設である「新潟リハビリテーション病院」をはじめ複数の施設に少人数ずつ配属している。3、4年次には本学系列の3施設「新潟リハビリテーション病院」、「介護老人保健施設尾山愛広苑」、「新潟脳外科病院」の他、県内外の多数の施設に1～2名ずつ配属している。さらに3年次には、「新潟リハビリテーション病院」や「介護老人保健施設尾山愛広苑」でグループ訓練の見学と実践を行ってきた。

(2) 研究

言語聴覚士が対象とする障がいは、小児から成人まで幅広く出現するのが特色で、その支援のためには、障がいをはたして的確に評価し、それに応じた治療プログラムを作成し実行するという責任を果たさなくてはならない。そして豊かな教養と広範な専門知識・技術を基盤とし、障がいを持つ人の心に寄り添い共感できる感性が求められる。

本学科では、臨床研究を中心に教員それぞれの専門領域で国際的に成果を発表してきた。

神経学領域で国際的に権威のあるCortex誌で3本の研究成果を本学科の教員である大石如香氏が発表した。いずれも視覚認知障害に関する臨床研究で、優れた研究が評価され掲載されている。また、Parkinsonism and related disorders誌においても内山信氏がパーキンソン病関連疾患に診られる錯視の一種であるパレイドリアに関する報告も行った。

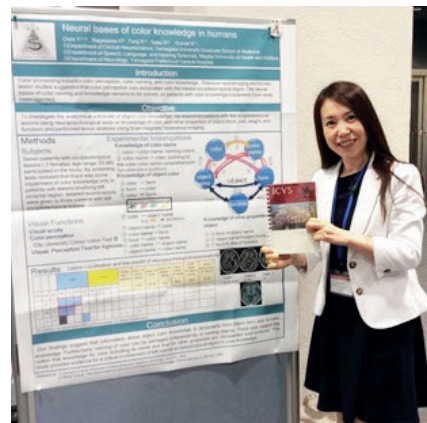
摂食嚥下領域では、開学時から科研費を獲得する等、国内外に成果を発表してきた。近年では、若手の研究者として国際学会10th Asia Pacific Conference of Speech, Language, and Hearingで、教員の田村俊暁氏が研究成果を発表した。今後の活躍が期待される。

発声発語障害領域でも、本学は最先端の音響分析装置を複数設置しており、若手を中心に科研費を複数回獲得してきた（若手研究（B）2011–2013、若手研究2020–2023）。その研究成果は本領域で歴史のある音声言語医学などの雑誌に掲載されている。

また、聴覚障害領域でも、新生児や小児を中心に科研費を獲得し国内外でその成果を発表し続けている（基盤研究（C）2019–2021、基盤研究（C）2020–2022）。

最後に、2010年1月に開設された言語発達支援センターでも継続して症例データを蓄積して研究成果の発表を構成員によって関連学術大会で報告し続けている。

本学では、学部を卒業後に現場で働きながら大学院への進学を目指すことができる。高度専門職に携わる人材の育成や専門職分野での研究者を養成することで、保健医療福祉サービスの積極的な連携と質的向上などを推進することを目的としている。



(3) 社会貢献

言語発達支援センター：2010年1月から本学科附属施設として開設され、学科教員が大学近隣地域からの言葉に関する相談の受付・支援を実施し、現在も継続中である。センターでは、「ことばの遅れ」「発音の誤り」「難聴」「発達障害」「吃音」など、コミュニケーションの心配ごとについて小児から成人まで様々な相談を受け付けている。専門の教員が評価・訓練・支援を行うとともに、医療現場の実際を学ぶ場として本学科の学生も積極的に参加・協力している。また、教員は言語・難聴通級指導教室教諭（特別支援学校・学級の教員）への助言・指導も行っており、県内の小児言語聴覚領域での社会的役割としてさらなる発展が期待されている。



新潟県の受託事業「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」：地域で暮らす失語症者の意思疎通を支援する人材の養成と派遣を目的とする本事業には、2017年から学科教員が参加し、養成講習会の実行委員や講師を務めている。講習会内容は学科カリキュラムでは十分にカバーしきれない失語症支援方法の基礎を含んでおり、学外実習や就職後にも役立つ内容となっているため、今後は学科生の積極的な受講の促進を図っていく。

阿賀町の受託事業「言葉の相談会」：2017年から阿賀町に在住する就学前児の言葉に関する相談・支援事業を学科教員が行っており、現在も継続中である。

新潟市東区失語症友の会つくしの会：失語症者の当事者やその家族同士の集まりである会に、学科教員と学生有志で参加し、レクリエーションや情報交換などで支援を行った。学生が臨床実習以外で、患者さんへの支援を経験できる場であったが、新型コロナウイルスの流行により現在は参加を見合わせている。

最後に、本大学の関連施設である「新潟リハビリテーション病院」では今村徹氏を中心に本学科教員からなる構成員で「物忘れ外来」を運営しており、県内を中心に地域で暮らす認知症の方たちのサポートを継続的に行っている。



(4) 国際交流

本学科では海外で活躍する言語聴覚士の活躍に触れる機会を設け、学生の海外キャリア形成を促進する取り組みを行っている。

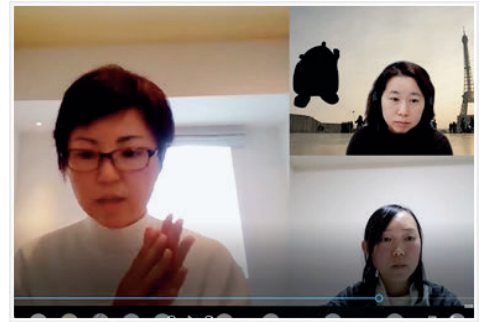
学科主催の海外研修：アメリカのロサンゼルスへの海外英語研修を実施してきた。Chapman University Rinker Health Science Campusにて、言語聴覚士を目指す大学院生の授業や学内実習見学を行った。Keck Medical Center of USC (University of Southern California) では、大学病院での言語療法の見学を行い、Speech-Language Pathologist (SLP) から嚥下障害治療のレクチャーを受けた。



SLPの講演会：Keck Medical Center of USCでSLPとして勤務する大石憲祐先生に、嚥下障害に関するアメリカの最先端のリハビリテーションや、日米の言語聴覚士の違い、声帯ストロボスコーピー検査の実践など、多岐に渡る内容をご講演いただいた。

グローバルキャリア支援Meeting：海外でキャリアを積み、日本国内外で活躍する言語聴覚士を招いて、キャリア形成の体験談を聞く機会を設けている。これまでに、アメリカ大学院留学経験、JICAにおける聴覚障がい者への支援、アメリカでのAudiologistの臨床をテーマとした会を開催している。

最後に、ケニアのジョモケニヤッタ農工大学から言語聴覚士の養成課程を作りたいという相談があり学科長の山岸達弥氏が現地で開設の支援をしてきたことも記憶に新しい。



5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・生物など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

誰とでも対話し、相手にわかりやすく伝える能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

障がいのある人の、さまざまな生き方や考え方を理解しようとする主体的な態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

障がいのある人を取りまく諸問題の解決に向けて、さまざまな視点をもって考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉領域に強い関心があり、言語聴覚士になろうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

1年次は幅広い教養を身につけるとともに分野に関する基礎知識を身につけるための基礎科目を配置する。2年次、3年次と学年進行とともに臨床における適切な判断ができる力を修得するために臨床に必要な音声、言語、高次脳、聴覚、摂食嚥下などの専門科目を配置する。成果は各専門科目の成績で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

1年次は大学生活をスムーズにスタートさせるとともに共同作業を行うために学科内の少人数による基礎ゼミを配置する。2年次には多様な視点から1つのテーマについて考え、対話する力、考えを伝える方法を修得するために他学科の学生とのアクティブラーニングによる連携ゼミ活動を配置する。成果は

成果物の発表で評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

臨床観察から言語聴覚障がい児・者がかかえる問題点に気づく力を養うために2年次に臨床実習を配置する。また、対象児・者の問題を社会的な視点から支援する方法を修得するために専門科目を配置する。成果は臨床実習で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

言語聴覚障がい児・者がかかえる問題がどのような原因で生じているのかについての解明方法やそれらがもたらす社会的課題に対する解決方法を個々の学生の特性に合う形で修得するために、卒業研究ゼミを配置する。成果は卒業研究で評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

臨床場面の重要性を学び、言語聴覚士としてのイメージを確立するために、また自分が言語聴覚士になるという心構えを身につけるために2年から4年までの間に毎年臨床実習を配置する。専門分野の集大成として4年次には卒業研究を配置する。成果は卒業研究で評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

言語聴覚障がいのある人を理解するための幅広い教養と言語聴覚士としての専門知識と技術を有し、それを活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

言語聴覚士としての技能を有し、言語聴覚障がいのある人がかかえる課題に取り組むチームの一員として他の職種とコミュニケーションを図ることができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

言語聴覚障がいのある人の多様性を理解し、言語聴覚士として適切に判断し行動できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

科学的な評価、分析的な観察と他の職種からの情報を合わせて解釈し、言語聴覚障がいのある人の問題を解決するために適切な判断ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

言語聴覚障害学と保健・医療・福祉・教育領域の進歩をグローバルな視点も含めて関心を持ち、自ら学習し続けることができる。

4

リハビリテーション学部 義肢装具自立支援学科

1) 開設年度：2007年度

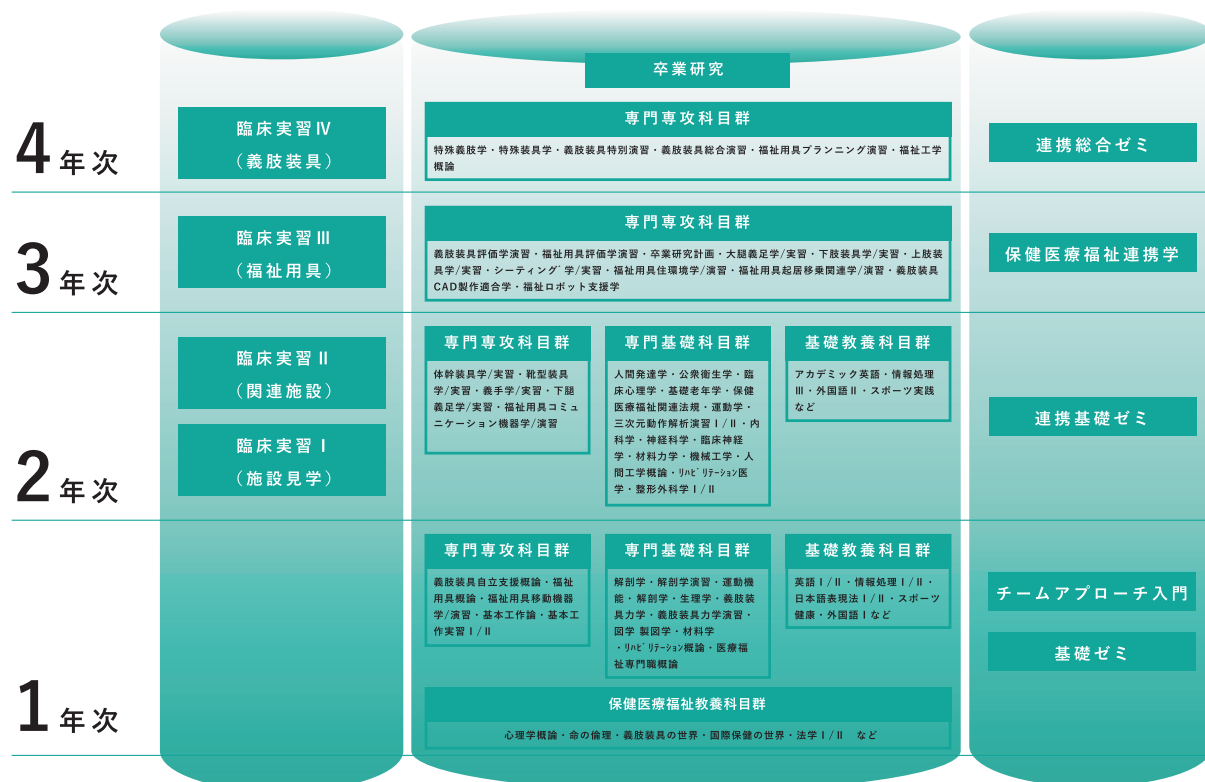
2) 学生定員（2020年度）：40名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：11名（教授4名、講師5名、助教2名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

本学科では、超高齢社会を背景に、義肢装具のみならず福祉用具の分野においても活躍できる世界に類のない義肢装具士養成教育カリキュラムを導入している。また近年、急速に普及しつつある3D技術による義肢装具製作を受け、こうした技術を活用できる義肢装具士養成教育にも取り組んでいる。さらには、国際的にも活躍する義肢装具士の育成を目指し、タイや台湾、オーストラリア等の大学と国際交流等の活動を行っている。



▲図1 義肢装具自立支援学教科カリキュラムマップ

学科のカリキュラムマップを図1に示す。1年次は幅広い教養と本学科の中核をなす義肢装具分野ならびに福祉用具分野における知識・技術の基盤構築を主とし、専門基礎となる医学・工学科目を配置している。また、学年が上がるにつれて義肢装具・福祉用具の製作・適合技術を徐々に身に付けられるよう配置している。臨床実習科目として、2年次の「臨床実習Ⅰ」では、義肢装具、福祉用具および医療関連施設へ1週間の見学実習を行い、医療従事者に求められる基礎事項を学ぶ。さらに、「臨床実習Ⅱ」では、義肢装具または福祉用具関連施設において、義肢・装具、福祉用具全般に対するニーズと、専門職としての役割について理解を深める。3年次の「臨床実習Ⅲ」では、福祉用具、車いす・シーティングおよび靴関連施設において福祉用具専門職種として求められる知識や技術の習得を目指す。そして、4年次の「臨床実習Ⅳ」では、これまで得た義肢装具に関する知識および技術をより高めるため、評価、義肢装具のデザイン検討、採型・採寸、製作適合を体験し、義肢装具士としての役割を実践的に学ぶことと目的としている。

加えて2019年には、国内大学では初となる国際義肢装具士協会（ISPO：International Society of Prosthetics and Orthotics）が定める世界最高水準の教育環境を示す「国際義肢装具協会認定義肢装具士（ISPO Prosthetist and Orthotist：ISPO P&O）」の養成校として認証を受け、海外を舞台で活躍できる国際的な義肢装具士の教育にも力を入れている（図2）。仮想症例を通じたグループワークを積極的に取り入れることで、義肢装具士として医学的根拠に基づいた身体評価から義肢装具供給までの一連のプロセスを実現する知識の習得を目指している。さらに各専門実習科目においてはOSCE形式を用いた実技・口頭試験を実施し、義肢装具士に求められる知識・技術の習熟度を評価するとともに、そのフォローアップ体制を強化した授業内容を展開している。これらは、卒業年次を実施されるISPO P&Oの個人認証試験の合格を目指した取り組みの一環としても位置付けられるものである。



▲図2 ISPO P&O 認証

（2）研究

本学科では、各教員がそれぞれの専門領域について多岐に研究活動を行っている。具体的には、三次元動作解析装置等のモーションキャプチャーシステムを用いた身体運動分析に関する研究、客観的評価指標・機器を用いた義肢装具の製作・適合に関する研究、新たな義肢装具の開発ならびに効果の検証に関する研究、義肢装具に関する疾患や合併症に関する研究などであり、義肢装具・福祉用具領域に関する基盤ならびに応用研究に取り組んでいる。さらに、近年の義肢装具業界における3D-CAD/CAMおよび3D-Printerを活用したものづくり改革が進んでいる背景を受け、2016年より3D研究チームを結成し、現在では学科教員8名が参画し、「3D技術研究開発センター」の発足に向け準備を進めている（図3）。その結果として、科学研究費の獲得件数も順調な推移を保っている。近年の主な研究テーマは以下の通りである。（一部抜粋して掲載）

- ・三次元動作解析、床反力計、筋電計などを駆使した人間の動きの研究
- ・三次元動作解析装置を用いた介助・介護の力学分析に関する研究
- ・全国脊髄損傷データベースに基づく脊髄損傷の回復、合併症に関する研究
- ・3軸力覚センサによる義足ソケット適合評価に関する研究
- ・靴医学と人間工学的視点からの履物と歩行に関する研究
- ・脳卒中患者の装具療法と製品開発に関する研究
- ・能動義手のコントロールケーブルシステムの効率について歪ゲージを用いた研究
- ・義足のアライメント評価について三次元動作解析装置などを用いたバイオメカニクスに関する研究
- ・3Dスキャナ・3Dプリンタを用いた義肢装具製作支援システムの開発に関する研究



▲図3 3D技術導入の教育

- ・ モーションセンサを用いた義足走行の解析手法に関する研究
- ・ 頸部痛・肩凝りに関しての理学療法・運動療法に関する研究
- ・ 腰痛に対しての理学療法・運動療法に関する研究
- ・ 女性大腿切断者の断端容積変化が義足ソケットの適合に及ぼす影響に関する研究
- ・ 3D-CADソフトウェアを用いた下腿義足ソケットの設計に関する研究

(3) 社会貢献

2007年の学科開設当初より、義肢装具関連企業への支援、福祉用具関連企業への支援、各種セミナー・講演、学科設備の提供等の地域支援を行っている。義肢装具・福祉用具関連企業に対し、特殊症例に対する製作・適合支援や技術向上セミナーを開催している。また日本義肢協会、日本義肢装具士協会、新潟市障害者更生相談所、新潟市北区などからの依頼を受け、講義や講演を行っている。これらの貢献活動を通じ、義肢装具・福祉用具の理解を深めてもらうとともに、それらの普及と発展に努めている。また、2017年より本学科を拠点とし「障害者陸上教室」を開催している（図4）。本活動では、切断者の方がスポーツ用義足を装着してスポーツ活動を楽しむことができる環境を提供することを目的としており、参加者は、下肢切断者、近隣の義肢装具士ならびに理学療法士、陸上クラブコーチ、本学教職員および学生、そのご家族が主構成である。教室内では、切断者と一般参加者が一緒に体を動かせる内容を取り入れることで、障害の有無に関わらず参加者全員の交流が図れるように工夫をしている。また、本学学生も積極的に切断者のサポートに参加し、パラスポーツについての知見を深め、自らが経験することで、その経験を通じて障害者の方々をサポートできるスキルを身に付けることができるよう取り組んでいる。



▲図4 障害者陸上教室開催風景

(4) 国際交流

本学科の国際交流活動として、海外研修、海外講師による特別講演、学術協定を結んだ大学との交換留学・海外研修生の受け入れ、義肢装具教育プログラムによる学術交流、サークル活動等に取り組んできた。海外研修においては、本学科教員引率のもと、これまでにタイ、カンボジア（2010年度）、ドイツ（2010/2012年度）、アメリカ（2011/2013/2014年度）、台湾（2012/2013/2015/2018年度）、イギリス（2015年度）、オーストラリア（2016/2019年度）、への研修を実施してきた。さらにこれまでに、大学院生を含め8名の海外留学生を受け入れている。

2014年から2018年までの5年間にわたる学長裁量研究では、台北榮民總醫院関連で4回の義肢装具教育プログラムを行い、学術交流を深めつつ台湾の義肢装具の技術力向上に貢献した。その内容は、2014年度UCLA式坐骨収納型大腿義足ソケットの製作実技セミナー（台北榮民總醫院）、2015年度TSB式下腿義足ソケットの製作実技セミナー（台北榮民總醫院）、2016年度継手付き短下肢装具の製作実技セミナー（台湾義肢装具製作施設）、2018年度ポリオのプラスチックKAFOセミナー（台北榮民總醫院）とし、

セミナーを通じて実技指導を行うとともに本学科学生との交流を図った（図5）。また2019年度には台湾弘光科技大学との学術交流においては、6名の学生を受け入れ、下腿義足製作実習セミナーを開催した。

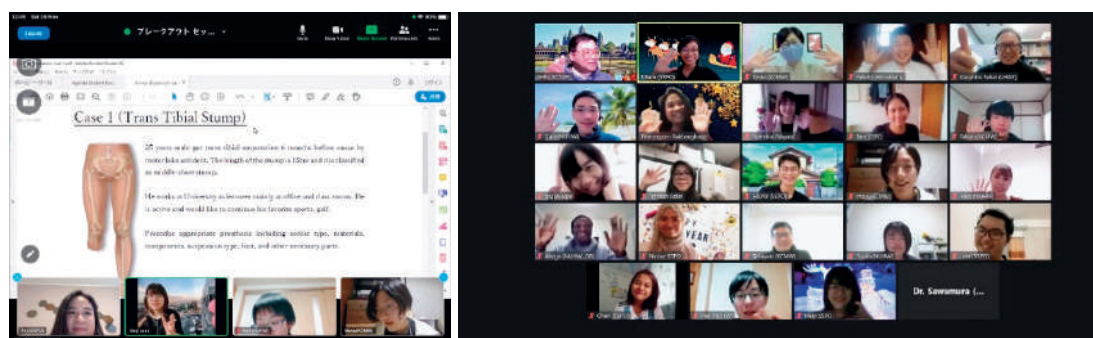
国際交流に関わるサークル活動としては、「空飛ぶ車いすサークル」および「Student Exchange Online」に取り組んでいる。「空飛ぶ車いすサークル」では国内で使われなくなった中古の車いすを修理・整備し、車いすの供給数が不足しているアジア諸国へ提供する国際ボランティア活動であり、すでに5カ国との交流・支援を行っている（図6）。「Student Exchange Online」は月に1度開催されるオンラインサロンで、タイ・オーストラリア・フィリピン・日本の義肢装具士養成校の教員ならびに学生が参加し、症例検討などを通じて交流を図っている（図7）。



▲図5 台北榮民總醫院のセミナー



▲図6 空飛ぶ車いすサークル



▲図7 Student Exchange Online

5) 学科の3ポリシー

（1）アドミッション・ポリシー

〔Science & Art〕 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学・物理・生物など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

〔Teamwork & Leadership〕 チームワークとリーダーシップ

自分の考えを適切に表現し、相手にわかりやすく伝える能力を有する。

〔Empowerment〕 対象者を支援する力

困っている人に対して手助けする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、論理的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

義肢装具、福祉用具・機器に強い関心があり、積極的に学ぼうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

1 年次は義肢装具ならびに福祉用具・機器を客観的に分析する基礎科目を専門基礎科目群に配置する。

2 年次および 3 年次は応用的基盤を構築するために、人を対象とした客観的分析方法について学ぶ科目を専門専攻科目群に配置する。4 年次は集大成として、専門分野を客観的に分析探求するスキルを習得するために、卒業研究を専門専攻科目群に配置する。成果は当該科目の成績および国家試験合格率により評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

1 年次はチームワークとリーダーシップの基礎的なスキルを構築するために、学科単独の基礎ゼミを配置する。2 年次は多職種を理解し連携を図る基礎を構築するために、全学的な連携基礎ゼミを配置する。4 年次は集大成として、連携総合ゼミ、臨床実習を配置する。成果は当該科目ならびに臨床実習の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

2 年次から対人スキルを身に着けることを目指し対象者をモデルにした実習科目を専門専攻科目群に配置する。4 年次は特殊な対象者を想定した科目を専門専攻科目群に配置する。成果は当該科目の成績と国家試験合格率により評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

2 年次から対象者を主観的に分析するために実際の対象者をモデルとしたものづくりの科目を専門専攻科目群に配置する。3 年次には実践的に問題解決の力を構築するために、対象者の動きを客観的に分析する科目を専門基礎科目群に配置する。また臨床における様々な問題を客観的に解決する力を身に着けるために、臨床実習を配置し、4 年次には卒業研究を配置する。成果は臨床実習の成績および国家試験合格率により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

1 年次はQOLの意義について学ぶ科目などを専門専攻科目群に配置する。2 年次では見学実習、3・4 年次では臨床の場で対象者ならびに就職先の義肢装具士などの職種に学ぶ学外実習を配置する。また国際交流などの活動を通して海外の義肢装具の状況、対象者状況、教育プログラムなどについても学ぶ。成果は当該科目の成績ならびに国際レベルの資格取得状況により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

対象者を理解できる教養を有し、義肢装具、福祉用具・機器に関する知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

医療専門職チームの一員として対象者のQOL向上のために関連する他の職種とコミュニケーションを

とることができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

専門領域への探求と自己研鑽に励み、高い倫理観および責任感をもって対象者のQOL向上に努めることができる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

関連多職種からの情報を正しく解釈し、対象者へ適切な義肢装具、福祉用具・機器を提供することにより問題解決ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

社会の変化や科学、特に義肢装具、福祉用具・機器に関わる技術的進歩に常に関心を持ち、生涯を通じて自らの専門性を高めることができる。

5

医療技術学部 臨床技術学科

1) 開設年度：2011年度

2) 学生定員（2020年度）：100名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：19名（教授7名、准教授3名、講師5名、助教2名、助手2名）

4) 学科の特徴

（1）教育

2007年12月、厚生労働省医政局長名で「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」と題する通知が、各都道府県知事宛に出された。その要因の一つに、医師でなくても対応可能な業務までも医師が行っている現状が明らかにされ、その打開策の一つとして、「チーム医療の推進に関する検討会」等において、メディカル・スタッフの役割分担を推進するなどの対応策が検討され始めた。特にチーム医療の中で医師以外の職種が医師から委譲されて医療行為を行えるようにする“Task-shifting”について積極的に検討された。そこで、本学においてメディカル・スタッフの面から積極的に係わることのできる臨床工学技士（Clinical Engineer：CE）・臨床検査技師（Medical Technologist：MT）の二つの資格を持つ医療技術者（以下「臨床技術者」という）の人材育成を行うこととし、臨床技術学科が2011年に開設された。すなわち、「医師の指示の下で、患者の生体情報を取得・解析し、治療を実施する臨床技術者」を養成するものである。

これらは2009年3月の「規制改革推進のための3か年計画」の「医師及び他の医療従事者の供給体制の在り方の検討」において専門性を高めた新しい職種（慢性的な疾患・軽度な疾患について医師の指示なしで処置・処方・投薬ができる、いわゆるNurse Practitioner：NP）の導入について各医療機関等の要望や実態を踏まえ、その必要性を含め検討された。その中で、NPとともに米国等で活躍しているPhysician Assistant（PA）の導入も合わせて検討されたことが大きく、臨床技術学科開設に影響した。

本学科は、「臨床工学」「臨床検査学」さらに「チーム医療」について学ぶことにより「臨床技術学：

Bachelor of Clinical Engineering and Medical Technology」とは何かを学び「質が高く、安心・安全な医療」が提供できる人材を育成し、さらに地域や保健医療福祉機関との連携を視野に入れた社会貢献機能を持たせるために、教育課程や教員組織等を編成している。

CE、MTにおける「学校養成所指定規則」におけるカリキュラム改定は、いずれにおいても、教育科目の名称を定める規定から教育の内容を定める規定への変更や単位制の導入など長年にわたり変更がなされてこなかったため、2021年MT、2022年CEの厚生労働大臣が指定する科目に関する規定の通知が行われた。

(2) 研究

臨床技術学科では前述のごとくCE、MTの国家資格取得を目指しているため幅広い分野の研究者が在籍している。そのため研究分野也多岐にわたっている。学生の卒業研究は教員研究とも密接に関係し、それぞれの専門分野での研究指導を行っている。CE分野では、「呼吸・循環・代謝」治療分野と高度医療機器の保守管理の観点からの4分野の研究が主である。具体的には呼吸療法装置（人工呼吸器）、体外循環装置（人工心肺装置、心筋保護装置）、血液浄化療法装置（血液透析、バスキュラーアクセス）、臨床現場で多用されている医療機器の保守管理では輸液ポンプ、シリンジポンプなどに関連する研究である。

MT分野では、検体（血液、尿、糞便、他）検査分野と臨床生理検査分野の2つに大別できる。それぞれ、臨床化学、臨床検査総論、臨床血液学、病理学、遺伝子・染色体学、臨床微生物学、臨床免疫学などであり、臨床生理検査分野では心電計、脳波計、超音波装置における研究である。

臨床技術学科大学院「医療技術安全管理学分野」では、臨床における医療技術分野にもリスク管理、品質管理、国際標準化の概念が導入され、医療現場全体においては医療技術における様々な安全管理に寄与することが重要であり、関連する研究を行っている。



▲人工心肺装置



▲微生物学検査

(3) 社会貢献

子宮頸癌予防啓発運動は、病理学担当教員の池上喜久夫講師の、2013年リボンムーブメント新潟というサークルの結成に端を発している。発足当初のサークルのメンバーは、3名であったが、様々なイベントに参加するようになると、徐々に部員が集まり、2019年には20名となった。また、2018年には、部活動に昇格し、名称も「さーびす～20歳からの子宮頸癌予防～」と変わった。

子宮の日ボランティアは、2014年新潟県細胞検査士会が主催する子宮頸がん検診の啓発活動で、街頭活動とアンケート調査を実施している。臨床技術学科では、さーびすの学生を中心に、これまでの間、毎年10名以上の学生がこの活動に参加している。これまでに、「伍桃祭」での新潟県細胞検査士会とのコラボ企画、第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会市民講座ゲストでの活動報告を行っている。さーびすの活動は、2019年、公益財団法人新潟県健康づくり財団の機関紙「陽光」で紹介された。



(4) 国際交流

本学科は2011年の開設当初より、ハワイ大学医学部医療技術学科とMemorandum of Understanding (以下MOU) を交わし本学科の国際交流事業が始まった。当時の土屋康雄教授が直接ハワイ大学に連絡を取ったことがきっかけで、本学科の国際交流事業がはじまった。ハワイ大学との交流を開始して、2022年で11年目となる。最初の3年間は、本学から学生と教員がハワイ大学に訪問し、現地での学習や異文化交流を通じて学生と教員同士が親睦を深めた。2014年からはハワイ大学から学生と教員が本学に來学し、交換留学に発展した。2016年には、ハワイ大学でJerris R.Hedges医学部長と追手舘学科長との面談を果たし、今後も良好な交流を続けることが確認された。2020年からはCOVID-19の感染拡大の影響により、現地への訪問はできなくなったがVirtual Exchange Visitとして、オンラインで交流を継続している。2020年までに総勢80名の学生がハワイ大学へ渡航した。

2017年には台湾・台中市の中山醫學大學医療技術バイオテクノロジー学科とMOUを交わし、ハワイ大学に続き新規の海外交流提携校として交流が始まった。台湾との交流に先進的に取り組んでいた義肢装具自立支援学科の阿部薫教授から、ご友人である中山醫學大學國際長蔡淦仁教授（医学検査バイオテクノロジー学科）を本学科に紹介していただいたことが、交流事業スタートの途端となった。2018年には3月と9月に中山醫學大學に学生と教員が訪問し、総勢13名の学生が現地の学生や教員と交流し、学生同士でディスカッションをしたりプレゼンテーションをするなど多くの経験をすることができた。

同年9月、中山醫學大學校長呂克桓先生、醫學科技學院院長李明偉先生、國際長蔡淦仁先生、王淳厚先生の各教授が來県された際（9/4～9/7滞在）、本学において、今後の中山医学大学と本学における交流事業について話し合いがもたれた。その後、中山医学大学歓迎会がホテルイタリア軒「蛭」にて開催された。本学からは、山本学長、渡辺副学長、関連教員との盛大な交流が開催された。その後、学科交流のみならず連携総合ゼミに参加するなど発展的に交流を継続している。



▲ハワイ大学



▲中山醫學大學



▲ハワイ大学とのMOU締結



▲中山醫學大學との懇親会

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の国語・数学・物理・生物・化学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

自分の意見を論理的に表現し、相手にわかりやすく伝えることができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

学習や課外活動などに対して主体的に行動しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉領域に強い関心があり、臨床工学技士および臨床検査技師の両資格取得者になろうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

臨床技術学に必要な科学知識および技術を修得するために臨床工学技士および臨床検査技師の二つの法律が指定する科目群を融合したカリキュラムを編成する。成果は国家試験合格率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

チーム医療を学び、チーム中での確かな情報を共有し、自らもチームで中心的役割を担える能力を涵養するために学内実習および学外臨床実習を配置する。成果は実習試験、臨床実習先からのループリックに準じた実習評価報告で評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

対象者に対して多面的にかかわることができる能力を涵養するために臨床工学および臨床検査学を同時に学ぶカリキュラム編成する。成果は科目試験で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

検査結果を解析・評価できる基礎的技術を修得するために各種疾患の病態を体系的に学ぶカリキュラムを編成する。機器の安全な使用や保守管理ができる技術を修得するために機器の原理、構造および治療法を理解する科目を配置する。成果は科目試験により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

時代の求める優れたQOLサポーターの一翼を担う人材になるための心構えを涵養するために、臨床工学技士と臨床検査技師の二つの資格（ダブルライセンス）を取得できるカリキュラムを編成する。成果は科目試験および臨床実習先からのループリックに準じた実習評価報告で評価する。

（3）ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

臨床工学技士と臨床検査技師に必要とされる専門基礎知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

チーム医療の一員として、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら、職務を遂行できる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

臨床工学技士と臨床検査技師のダブルライセンスをもつ医療専門職として、他の専門職との連携、協働することにより、高いレベルで対象者を支援できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

臨床工学と臨床検査の専門的知識と技術を総合的に活用し、さまざまな健康問題を論理的に的確に解決できる。

[Self-realization] 自己実現意欲

生涯を通じて最新の医療情報や医療技術の進歩に関心をもち、常に専門性を追求することができる。

6

医療技術学部 視機能科学科

1) 開設年度：2014年度

2) 学生定員（2020年度）：50名（資料編302P参照）

3) 教員数 (2020年度末) : 12名 (教授 6名、講師 2名、助教 3名、助手 1名)

4) 学科の特徴

(1) 教育

視機能科学科では子どもから大人まであらゆる対象者を支援し、社会のニーズに応えられる視能訓練士を育成している。

優れたQOLサポーターとして活躍できるよう視能訓練士に加え同行援護従業者〔視覚障害〕の取得に対応したカリキュラムを用意している。視能訓練士が行う視機能検査や視能訓練、そして同行援護従業者〔視覚障害〕が担う視覚障害を持った方への安全な視覚情報の提供方法などについて教育している。

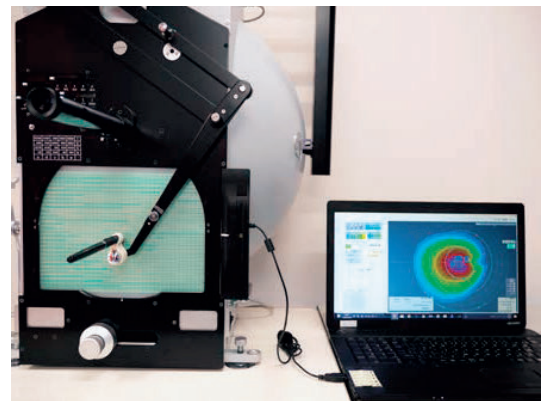
日本は世界の中でも近視そして高齢者の割合が大きいのが特徴である。日本人にとって近視用の眼鏡や老視のための老眼鏡は快適な日常生活を送るために必要不可欠であり、それらに対応するために眼鏡作製技能士という国家検定（技能検定職種）が制定された。QOLサポーターとしてより高い技能を修得するべく、視機能科学科では2022年度からこの眼鏡作製技能士の資格取得にも対応した新しい教育を開始することになった。

これらの内容を実践的に学ぶために保育園や高齢者・福祉施設で行われる学外実習など、幅広い分野での学習機会を提供している。教育の担当者として視能訓練士はもちろん、眼科医、認定眼鏡士SS級、歩行訓練士など多様な資格を有する教員を配置し、幅広い知識や技術を身につけるための指導体制を整えている。また、多学科の学生とともに学ぶ「連携教育」を通じて、チーム医療の一員として求められる関連職種への理解やコミュニケーションスキルを身につけている。

(2) 研究

視機能科学科の教員はそれぞれの分野において専門的な研究を行っている。その中でも他大学にないユニークな取り組みとして視能訓練士教育に関連した研究がある。

生方北斗助手はGoldmann視野計（GP）を独習するためのトレーニングシステムを開発し、視能訓練士教育に導入している。従来のGP検査では検者が記録した検査プロットやイソプタのみを検査用紙に記録している。そのため検査用紙をみても検査結果に至るまでの手技の振り返りができなかったが、このシステムでは患者が応答した位置や検者が動かした視標の軌跡も保存することができる。本システムに記録された情報を視能訓練士学生へのGP検査の実技指導に活用し、検査結果の用紙からだけでは捉えることができない視標を動かす手技についても具体的に指導している。



▲生方北斗助手が開発したGoldmann視野計トレーニングシステム

戸田春男教授は学内で行われる視能訓練士実習のレポート指導において、繰り返しループリックを使用することで学生の自己評価と指導者による客観評価との乖離が少なくなることを明らかにした。またループリックによる学生のプロファイリング、生物学的ストレスマーカの測定による分単位でのストレ

ス定量化や機械学習によるデータマイニングを組み合わせ、学生に応じた効率的で負担の少ない実習の実現に向けた取り組みを進めている。

専門学会の受賞について、前田史篤教授が2018年12月に第30回日本神経眼科学会 学術賞、村田憲章講師が2019年5月に第6回日本ロービジョン学会 学術奨励賞をそれぞれ受賞している。村田憲章講師の研究は視線解析装置を用いて緑内障患者の読書困難を評価したものである。緑内障患者では末期まで視力が残存していることがあるが、視野障害があるとそれが読書能力に影響していることを明らかにしたものである。



▲受賞講演を行う村田憲章講師

学会の主催について、石井雅子教授が2016年8月に第17回日本ロービジョン学会を開催している。

その他、視機能科学科ではUROPを履修する学生が多く、在学生のうちから積極的な研究参加を奨励している。卒業研究の成果とあわせ、新潟医療福祉学会で発表する学生が例年、出てくるようになった。research mindの醸成を今後も強く支援したい。

(3) 社会貢献

視機能科学科では石井雅子教授の指導の下、学生が目健康について伝えるために紙芝居を作成し、新潟市内の保育園・幼稚園を中心に読み聞かせ活動を行っている。また福井県鯖江市と包括連携協定を締結し、眼育さばえプロジェクトとして幼児期の子どもたちの視力検査体制の強化や眼の健康づくりを推進している。



(4) 国際交流

視機能科学科では海外留学を経験した教員が中心となって、海外の研究者や学生との交流を深めてきた。2015年11月30日には人工網膜の世界的権威であるドイツ、チュービンゲン大学眼科のEberhart Zrenner 教授を招き、公開講演会「人工網膜の最新知見」を開催した。



2016年12月7日にはニュージーランド、オークランド大学オプトメトリー学科のAndrew Kim氏を招き、講演会「ニュージーランドにおける Optometry」を開催した。



2018年3月18日～23日には、本学からニュージーランド、オークランド大学オプトメトリー学科を訪問し、今後の国際交流、共同研究などについて協議した。



2018年9月19日～25日には本学からポルトガル、ミーニョ大学 物理学科オプトメトリー課程を訪問し、今後の国際交流、共同研究などについて協議した。



なお2019年度から国際交流に関連した科目として「留学の魅力」が保健医療福祉教養科目群に新設され、視機能科学科から2名の教員が担当者として参加している。

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

相手の話をよく聞いて理解し、自分の考えを上手に伝える能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

何事にも積極的にチャレンジし、忍耐強く取り組む態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

保健・医療・福祉・スポーツ領域に関する諸問題を解決するために、さまざまな視点から物事を考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉・スポーツ領域に強い関心があり、視能訓練士になろうとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

眼科検査の技術と知識を身につけ、課題探究力、論理的思考力を活用できる力を修得させる。そのためにルーブリックを活用した上、1年次後期から2年次、3年次前期までに5つの少人数制学内実習を配置する。さらに3年次前期、4年次前期には総合演習を配置し、アクティブラーニングを介して応用力を育む。学習支援センターと連携し、個々の学生の特性に合わせた支援を行う。成果は国家試験合格率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

多職種間のチームアプローチを直接的に体験するために、学外医療施設における臨床実習を行う。ルーブリックを活用した上、2年次は「観察」、3年次は「検査・訓練」、4年次は「総合」と段階的な実習内容を展開する。また3年次には保育園、高齢者福祉施設での実習を配置し、幼児から高齢者まで幅広い年齢に合わせたコミュニケーションスキルを修得させる。成果は学外実習で評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

視覚障害を理解して対象者の心に寄り添い、質の高いサポートができる力を育成するために、1年次に同行援護従業者の資格が取得できる科目を配置する。3年次には、特別支援学校（盲学校）などでの学外実習を配置し、視覚障害者への理解を深めるとともに、職業倫理を身につけさせる。成果は資格取得率と学外実習で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

視能訓練士としての専門性を向上させ、視覚機能学の知識、技術を統合し科学的・論理的に問題解決する力を育む。そのために4年間を通じてアクティブラーニングを習慣化させる。また1年次から段階的に専門科目を配置した上で、3年次には総合演習、卒業研究計画、4年次には卒業研究を配置する。成果は卒業研究で評価する。

〔Self-realization〕 自己実現意欲

確かな臨床実践能力を身につけ、視能訓練士の将来像を具現化するために、2年次から4年次まで段階的に5つの学外実習を配置する。社会についても広く学べるように、様々な職業や背景をもった学外講師による講演会を開催する。国内のみならず、国際社会の動向に関心をもたせるために海外研修への参加を奨励する。卒業後も生涯に渡って研鑽を続けられるように、専門職組織への入会や学会・研究会への出席を奨励する。成果は学外実習、卒業研究で評価する。

（3）ディプロマ・ポリシー

〔Science & Art〕 科学的知識と技術を活用する力

視覚機能学に関する高度な専門知識、技術を有し、臨床現場で活用できる。

〔Teamwork & Leadership〕 チームワークとリーダーシップ

豊かな自己表現力で関連職種との連携を構築できる。

〔Empowerment〕 対象者を支援する力

高い倫理観に基づき専門性を向上させ、対象者を支援できる。

〔Problem-solving〕 問題を解決する力

視覚機能に関し論理的に思考し、科学的根拠に基づく的確な判断ができる。

〔Self-realization〕 自己実現意欲

専門性を高める意欲を有し、専門分野とともに国内外の社会の動向に関心をもち学び続けることができる。

7

医療技術学部 救急救命学科

1) 開設年度：2017年度

2) 学生定員（2020年度）：55名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：14名（教授5名、准教授1名、講師4名、助教4名）

4) 学科の特徴

（1）教育

救急救命士は病院外の救急現場において、傷病者の病態に応じた救急救命処置を施しながら適切な医療機関まで搬送することを業とする。そのため、救急医学・救急医療に関する知識と傷病者の救護や搬送に必要な技術の修得が求められる。また、医学的な知識を駆使し、限られた時間の中で臨床推論し、傷病者の病態・疾患を鑑別していく能力が重要となる。さらに組織化されたチームの一員として、リーダーシップを発揮し、効果的に業務を実践することも求められている。

救急救命学科では、すべての年次で実施されるゼミ活動を通じて、学生が主体的に学び、問題を解決する能力を身につけられるように、ゼミ単位での個別担任制を基盤として、きめ細かい支援を行って

る。この支援の下、まず1年次から実施される学内実習において以下の3つの能力の修得を目指す。

- ①救急救命士の役割について学ぶとともに、その役割に必要な能力を修得すること。
- ②救急救命士に必要な理論、技術の統合を図り、技術および能力を修得すること。
- ③倫理的・法的および専門職の観点に立った責任感を形成し、それを向上させること。

次いで3年次に実施される臨床実習を通じて、医療人としての傷病者やその家族との接し方、救急症候や病態、119番通報から救急車の現場到着、救急現場での活動、救急車内への傷病者収容、搬送途上の活動、病院収容後の治療といった救急事案発生から傷病者の治療までの一連の過程、救急医療におけるチーム医療の実践について理解を深める。また、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて、診療の補助に対する理解を深める。

講義や実習などでは、教員本位の授業とならないように、2021年度からは各学年の代表者を選出し学生連絡会を設置して教員との意見交換会を定期的に開催し、授業の改善に努めているところである。

(2) 研究

2020年度の救急救命学科完成年度までは、研究業績を重要視しない学科方針であり、所属教員の外部資金獲得数や論文掲載数は皆無に等しかった。このため2021年度からは学科に研究プロジェクトチームを結成し、隔週で抄読会と統計解析に関する研修会を実施することで、教員の研究意欲を向上させ、学会発表や論文執筆数の向上を期待しているところである。

学科開設から完成年の2020年度までの4年間で獲得した外部資金は以下のとおりである。

- ①大松健太郎講師、2019年度から

AR（拡張現実）技術を用いた心停止徴候認識能力向上のための教育システムの開発（文部科学省・若手研究、代表）

- ②神藏貴久講師、2020年度から

救命のために努力をしてくれた人を救える社会に ～損害補償の実態と動向～（文部科学省・若手研究、代表）

- ③竹井豊教授、2020年度から

救急隊員を対象とした病院連絡トレーニングツールの開発（公益財団法人 三井住友海上福祉財団、代表）

(3) 社会貢献

日本各地で病院到着前の救急医療に関する教育プログラムが定期的に開催されており、救急救命学科の多くの教員がそれらのインストラクターとして参加することで、各地域の救急医療の質向上に貢献している。

また新潟市で開催される新潟シティマラソンでは、学科教員・学生が救護班として参加することで、参加者の安心安全を確保することに貢献した。

(4) 国際交流

2017年の開設年度以来、学生のための海外研修を企画し、米国ロサンゼルスにおいて、学生の国際交流のための機会を提供してきた。また海外の救急医療事情を知るために、マレーシア、台湾、オースト

ラリアの救急医療サービスを視察し、それらの医療従事者との交流を深めてきた。新型コロナウイルスのパンデミックが終息したのちは、国際交流をさらに深めていく予定である。

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

他者の考えを理解するとともに、自身の考えを適切に表現し、誰とでも対話し、協力して行動しようとする能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

常に人に対する思いやりの心を持ち、他者と協調する態度とともに、自ら積極的に学習し、行動しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、論理的な視点から多面的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

救急医療や防災について関心があり、救急救命士として救急現場や災害現場の最前線で活躍し、地域社会に貢献したいという高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

基礎医学、臨床医学、災害や防災についての基礎的知識を学習するために専門基礎科目を配置する。救急救命専門領域のより専門的・発展的事項を学習し、救急救命技術を修得するために専門専攻科目を年次に従って段階的に配置する。学習にあたっては、学生個々の特性に対応した支援を行う。成果は、国家試験合格率・資格取得率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

国際化した社会において、チーム医療の一員として対象者のサポートにあたる救急救命士の役割を認識し、協調性、コミュニケーション力、リーダーシップを身に付けるために他学科と合同で実施する保健医療福祉連携科目や専門科目・実習を配置する。成果は、連携総合ゼミ、臨地実習で評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

幅広い教養や対象者に共感し、支援できる素養を涵養するために、全学共通科目を配置する。救急救命士として地域・社会で活躍できる素養を身に付けるために専門科目を配置する。成果は、実習試験(OSCE：客観的臨床能力試験)、臨地実習で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

問題を発見する能力、解答への道筋を見つけ出す能力、解答を創造する能力を高めるためにゼミ形式の授業を配置する。PBL(課題解決型学習)に基づく個人および小グループでのアクティブラーニングに

より、問題提起から理論的思考による解決、その過程のまとめと発表までの工程を経験し、理論的思考に基づく問題解決力を修得する。成果は、卒業研究Ⅱにより評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

地域社会の中での救急救命士の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身に付けるため、ゼミ形式による科目も含め、専門科目を1年次から4年間にわたって配置する。成果は、科目試験およびゼミ授業により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

救急救命士に必要とされる専門的な知識と技術を有し、それらを活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

救急救命士の立場から医療チームの一員として他の専門職と協働して、国際化した社会において職務を遂行できる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

健全な人間性、倫理観、奉仕の精神を持ち、対象者を支援することで国際化した社会に貢献できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

救急救命士として修得した専門的知識と技術を総合的に活用し、様々な場面において科学的に考え、的確な判断ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

専門分野や地域社会に関して常に関心を持ち、自主的・継続的に自己研鑽を務めることができる。

8

医療技術学部 診療放射線学科

1) 開設年度：2018年度

2) 学生定員（2020年度）：90名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：17名（教授6名、准教授4名、講師3名、助教4名）

4) 学科の特徴

中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』（2005年1月）において、新時代の高等教育は、全体として多様化し学習者の様々な需要に対応できるか求められている。「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」の項目では、特に大学がもつ機能として次の7つが挙げられている。

- ①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、
④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、
⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

本学は「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」として、①QOLサポーターを支える人材を育成

する大学、②地域社会のニーズに応える大学、③国際社会に貢献する大学の3つを大学の基本理念に掲げている。上述の大学がもつ7つの機能のうち、大学全体としては特に「幅広い職業人養成」「社会貢献機能」が本学の主たる機能であると考えられる。

(1) 教育

本学科では上記の主たる機能を具現化するため、以下の3点を重視した診療放射線技師養成教育課程を構成している。

①地域医療、救急医療を担う診療放射線技師の養成

医療技術学部診療放射線学科では、地域社会における放射線医療を取り巻く環境を踏まえたうえで、「チーム医療の一翼を担う医療専門職として、診療放射線技師に必要とされる専門知識と技術を習得し、常に進歩する診療放射線技術や医療技術に対応しうる能力を有し、健全な人間性と倫理観、常に専門性を追求する意欲をもち、他の専門職と協働して地域医療や救急医療に貢献する能力を涵養する。さらに、医療サービス対象者と良好な関係を構築するためのコミュニケーション力、論理的思考力、判断力を身に付け、科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する人材を養成する」ことを教育研究上の目的としている。地域や時間を問わず実施される救急診療において、安定して最適な画像情報を提供し、かつ安全性を担保するための知識と技術が必要であり、医療専門職がチームとして機能する必要がある。そのため本学科では、救急医療学、救急撮影技術学、救急チーム医療論、死亡時画像診断学、医療安全管理学を開講し、地域医療、救急医療の現場において、医療専門職として多職種間で連携した課題探求能力、問題解決力、論理的に思考し議論する能力を養う。

なお、本学科では専任教員の9割以上が診療放射線技師の有資格者となることから、診療放射線技師の専任教員が中心となり、学生へのきめ細かな指導・支援にあたることが可能である。診療放射線技師として必要な知識や技術は勿論のこと、診療放射線技師としての責務、役割、使命についても醸成する。また、地域医療や救急医療において必要な実践能力を養うため、学内実習や演習において手厚く学生指導を行う体制を整備している。

②がん治療に貢献できる診療放射線技師の養成

がん対策基本法及びがん対策推進基本計画では、放射線治療及び診断の分野におけるがん診療の均てん化のため、放射線治療に携わる診療放射線技師の育成が求められている。我が国のがん医療については、手術の水準が世界の中でもトップクラスであるのに対して、相対的に放射線治療及び化学療法の提供体制が不十分であるといわれており、放射線治療及び化学療法の推進を図り、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を実現する必要がある。そのため本学科では放射線治療技術学、放射線治療機器学、放射線腫瘍学、放射線治療品質管理論を開講し、放射線治療の高度化に対応でき、放射線治療計画を立て、放射線治療の精度管理を行う能力を養う。

なお、本学科では専任教員のうち放射線治療専門放射線技師（日本放射線治療専門放射線技師認定機構が認定）の認定者がいることから、放射線治療専門放射線技師が中心となって、放射線治療計画や放射線治療の精度管理の専門的教育にあたることが可能である。

③画像診断における読影の補助を実践できる診療放射線技師の養成

2010年4月30日付け医政発0430第1号「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」により、画像診断における読影の補助、放射線検査等に関する説明・相談について業務内容が明確

化された。画像診断における読影の補助を実践するためには、医師からの依頼内容をもとに、疾患に適した検査を実施し、その検査画像を正しく構築する必要がある。また、医師や他の医療専門職種とコミュニケーションを取りながら、最適な画像を作成し、診断の根拠となる画像情報の質の担保が重要であり、各疾患に広く精通し、疑われる病状や進行度合いから今後必要になる追加検査についての助言を他の医療専門職と議論できる能力を養う必要がある。このため本学科では、診療画像検査技術学、臨床解剖学、画像解剖学、画像解剖学演習、画像診断学、画像診断学演習を開講し、画像診断や画像解剖の高度な専門知識と技術を習得し、臨床現場で活用できる能力を養う。

今後、診療放射線技師の業務はさらに拡大することが予想されており、最新の医療・診療放射線技術の進歩に広く関心を持ち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる能力も養う。

(2) 研究

2018年度開設から2020年度までの学術活動を、表1に示す。

▼表1 学術活動（筆頭のみ）および研究助成金獲得数の推移

学術活動							学内研究助成金				
	著書	論文		報告書	学会発表		研究助成金				
		英文	和文		国外	国内	スタートアップ	A	B	学長裁量	外部資金獲得奨励金
2018年度	0	2	2	0	8	12	2	0	0	0	4
2019年度	0	5	7	1	14	16	1	1	4	1	5
2020年度	3	2	10	2	8	17	0	1	4	0	9

(3) 社会貢献

2018年度開設から2020年度までの社会貢献・地域連携の内容を、表2に示す。

▼表2 社会貢献・地域連携の推移

地域連携	日時	主催者	場所	参加人数	参加教員	テーマ
長岡市すこやか ともしびまつり	2018.9.29 ～9.30	長岡市福祉総務課	アオーレ長岡	市民700名	笠原、橋本	みんなで福祉・健康を楽しく学ぼう♪
	2019.9.28 ～9.29	長岡市福祉総務課	アオーレ長岡	市民630名	笠原、橋本	健康でふれあいのあるまちづくり
健康寿命延伸 フォーラム	2018.11.4	新潟県民医療推進協議会	新潟ユニゾンプラザ	約200名	橋本	～健康長寿の秘訣・食事と運動～
	2019.10.14	新潟県民医療推進協議会	新潟ユニゾンプラザ	約100名	笠原、橋本	健康長寿の秘訣 フレイル予防で体も心も健やかに
にいがたはっぴー乳ライフ ピンクリボンホリデー	2019.10.20	新潟県医師会館内5階 新潟県健康づくり財団	新潟日報メディアシップ	約175名	笠原、橋本	一歩踏み出して今年も乳がん検診へ。今年こそ乳がん検診へ。
小・中学生、高校生のための医療・介護セミナー	2019.11.12	新潟医師会地域医療推進室	新潟市立白山小学校	対象5・6年生	橋本	診療放射線技師の職業について
	2019.11.26	新潟医師会地域医療推進室	新潟大学附属新潟小学校	対象5・6年生	橋本	診療放射線技師の職業について

・2020年1月よりウィルス感染症による感染拡大より、2022年3月現在まですべてのイベントは中止もしくは遠隔開催となっている。

(4) 国際交流

タイ・マヒドン大学放射線学科と本学診療放射線学科は2018年8月に学科間協定を締結した。

①マヒドン大学放射線学科短期留学生3名来学（4月1日～4月28日の1か月間）

2019年4月より短期留学生を受け入れた。1か月の滞在中、留学生3名は主に放射線学科教員による英語での20コマを超える特別講義と模擬演習を受講した。

また、学部の講義の参加や、学生同士でお互いの国を紹介しあうプレゼンテーションを披露するなどして、異文化間交流を推進した。

②マヒドン大学へ 短期留学（当学科2年生6名）

2019年8月27日～9月9日までの2週間にかけて、マヒドン大学にて講義および実習の体験や、病院の施設見学などの研修を受けた。

③2020年度以降

2020年1月より世界的に広がった新型コロナウイルス感染症の流行により2020年度以降2022年3月現在までの人事交流は中断されている。一刻も早い再開が待たれる。



5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学・物理など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を行おうとする態度を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

対話や関わりを通して、他者の意見や思いを把握し、それを共感的に理解しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉領域に強い関心があり、診療放射線技師として地域医療に貢献したいという意欲を有する。

（２）カリキュラム・ポリシー

〔Science & Art〕 科学的知識と技術を活用する力

新しい知識と技術を活用する力を修得し、豊かな人間性を備え、時代の求める診療放射線技師として活躍できる人材を育成する。診療放射線技師として必要な臨床医学、放射線科学を学ぶ専門基礎科目群、画像解剖学、画像診断学、診療画像検査技術学等の専門専攻科目群を配置し、撮影から各症例の診断に適した画像構築について学ぶ。成果は国家試験合格率で評価する。

〔Teamwork & Leadership〕 チームワークとリーダーシップ

関連する専門職が連携・協働し、チーム医療・チームアプローチを通して、医療人としての基礎知識や技術を高める臨床実習や診療放射線学概論、診療放射線学特論の中で、コミュニケーション力やリーダーシップのあり方を習得し、さらに救急チーム医療論、連携基礎ゼミを配置する。成果は臨床実習等で評価する。

〔Empowerment〕 対象者を支援する力

幅広い教養を身につけ、対象者に共感し、人間味のある高度医療人として対象者を支援する力を修得するため、救急医療学、公衆衛生学等の専門基礎科目群、診療画像検査技術、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、臨床実習等の専門専攻科目群を配置する。成果は臨床実習等で評価する。

〔Problem-solving〕 問題を解決する力

論理的に思考し議論する能力と、問題を解釈し解決する能力を修得するため、放射線安全管理学、医療安全管理学などの専門専攻科目群を配置し、PBL（問題解決型授業）を取り入れた講義を行う。また、論理的思考による解決への道筋を見出す力を修得するために卒業研究を配置する。成果は卒業研究等で評価する。

〔Self-realization〕 自己実現意欲

地域医療や救急医療における診療放射線技師の役割を理解し、優れたQOLサポーターとして、自主的・継続的に自己研鑽に努める心構えを身につけるため、専門専攻科目群として画像診断学、救急撮影技術学、放射性医薬品学、放射線腫瘍学、医療情報システム学を配置する。成果は臨床実習・卒業研究で評価する。

（３）ディプロマ・ポリシー

〔Science & Art〕 科学的知識と技術を活用する力

診療放射線技師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、幅広い教養と見識から臨床現場で活用できる。

〔Teamwork & Leadership〕 チームワークとリーダーシップ

診療放射線技師としての高い技術と多職種連携の技能を有し、アジア地域の一員として、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら職務を遂行できる。

〔Empowerment〕 対象者を支援する力

健全な人間性と倫理観をもち、診療放射線技術の専門知識と技術に基づいて、医療の現場で対象者を支援できる。

〔Problem-solving〕 問題を解決する力

診療放射線技師として必要な専門知識と技術などの論理的思考力を有し、それらを総合的に活用しながら

ら正確な判断のもと問題解決ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

最新の医療・診療放射線技術の進歩に広く関心を持ち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

9

健康科学部 健康栄養学科

1) 開設年度：2001年度

2) 学生定員（2020年度）：40名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：19名（教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名、助教 4 名、助手 1 名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

健康栄養学科は、社会人としての基礎力を有するとともに、管理栄養士としての職業意識、保健・医療・福祉分野で重要な専門的実践能力および研究心を備えた学生の育成を目指すことを学科方針として、学生到達目標を定めてきめ細かな教育を行っている。

「社会人としての基礎力」の要件

- ①挨拶
- ②規律（時間、期限を守る、遅刻をしないなど）
- ③基本マナー（他者への配慮、法令・学則の遵守、メール・携帯マナー、言葉使い、服装）
- ④自己統制力（情緒安定性、ストレスコントロール力）
- ⑤主体性（前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）
- ⑥コミュニケーションによる人間関係、ネットワークの構築
- ⑦考える力（課題発見力、疑問を持ち、考え抜く力）
- ⑧文章作成力（業務報告書作成力）

「職業意識」の要件

- ⑨管理栄養士として就職することを誇りに思う価値観
- ⑩管理栄養士に向いていると思う自己確信
- ⑪人々の健康に寄与したい、社会貢献したいと思う意欲と情熱
- ⑫知識・技術を向上させたい、自己啓発したいと思う態度

「特に重要な専門的実践能力」

- ⑬他職種への理解・協働
- ⑭対象者への倫理的配慮、人権の尊重
- ⑮保健・医療・福祉分野の各職域で特に重要と考えられる基礎知識と技術

「研究心」の要件

- ⑯研究に接する機会（院生との接触、教員研究の補助、実際の体験、学会発表）

⑰研究論文の抄読

⑱研究によって形成されたエビデンスの学習（例：食事摂取基準など）

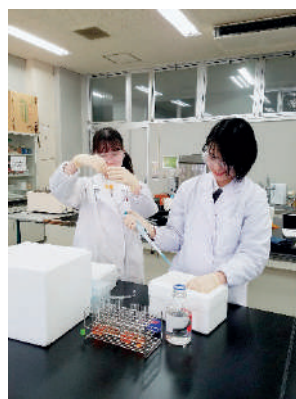
⑲研究に対する興味と関心

なお、国家試験、就職支援及び学習支援について、基礎ゼミ教員、学年担任、卒研ゼミ教員、国家試験対策委員、就職委員が連携して学生指導に取り組んでいる。

（２）研究

健康栄養学科には、幅広い分野の研究者が在籍しているため、研究分野也多岐にわたる。学生の卒業研究として４つの分野を設けて研究活動を実施していたことを受けて、４つに大別する。①「臨床・公衆・スポーツ栄養、給食経営管理、栄養教育」に関する研究、②「調理科学、嚥下食品、細胞生理学」に関する研究、③「辛み成分、味覚・摂食機能、動物発生学」に関する研究、④「運動生理学」に関する研究である。

①「臨床・公衆・スポーツ栄養、給食経営管理、栄養教育」に関する研究では、①-１．高齢者を対象とした低栄養に関する研究、①-２．フードファディズムの実態と食生活との関連、①-３．事業所給食におけるヘルシーメニューの開発、①-４．ミニバスケットボール選手への効果的な栄養教育方法の検討、①-５．食品ロス削減に関する情報提供の効果検証、①-６．中学生の摂取食品群に関する研究、②「調理科学、嚥下食品、細胞生理学」に関する研究では、②-１．酢を利用した料理の調理前後のナトリウム・カリウム・リン量の変化、②-２．Quercetin・Luteolinの血小板血栓形成に及ぼす抑制効果、②-３．固形食品のとりみ付与が咀嚼・嚥下筋活動と食味に及ぼす影響、③「辛み成分、味覚・摂食機



▲図１ 学生と教員の研究活動

能、動物発生学」に関する研究では、③-1. 味覚の神経回路に及ぼす辛み成分の影響、③-2. マスク着用下での食事が味や匂いに及ぼす影響、③-3. 摂食制限が卵母細胞の脂質小滴形成に与える影響、④「運動生理学」に関する研究では、④-1. 女性アスリートの心的不安と栄養摂取状態が月経周期に与える影響などがある。

(3) 社会貢献

本学科の2013年から2021年まで（9年間）の社会貢献事業をまとめたところ、「教員単独で行っている」事業と「教員が学生を巻き込んで行っている」事業の総数は、約100件であり、その事業に関わっていた学生の総数は、約300名であった。1年間に換算すると、連携事業数11件／年、関与した学生数33人／年となる。連携先は、北区、新潟市、五泉市、阿賀野市、新潟県、NSG関連企業及び関連施設、診療所、教員が関係している協会等である。社会貢献事業の主な内容は、子どもから高齢者、スポーツ選手、傷病者、障害者への食育、栄養指導、メニュー開発、食環境づくり、その他の健康啓発事業及び健康支援事業等に関するものである。学生が連携事業に参加する際には、当日だけではなく、事前の企画会議への参加、実施のための準備、実施後の評価等、連携に必要な一連の過程を体験するため、膨大な時間を費やすことになるが、当科の学生は、空き時間や長期休暇をフルに活用し、楽しそうに、生き生きと参加している。学生は、このような実践活動を経験することで、「社会人としての基礎力」、「職業意識」、「研究心」が培われていることから、今後も、学生の地域貢献活動を積極的に進めるとともに、保健、医療、福祉、スポーツ、教育分野における地域貢献をすることで、健康を豊かに育む食生活の確立、ひいては公衆衛生の向上に寄与したいと考える。



▲図2 学生と教員による社会貢献活動

(4) 国際交流

健康栄養学科では、これまで国際協力及び研究活動ならびに学生の海外研修を実施している。学生の海外研修としては、学科事業としての研修と個人研修を実施してきた。学科事業としての研修においては、2010年度に中国（上海）研修を実施した。中国研修では大学を訪問し、中国における栄養士の現状を学んだ。現地では、上海交通大学医学院、上海栄養学会本部、上海市仁済病院東部分院（上海交通大学附属病院）、上海東華病院、上海市吉陽紅敬老病院などを訪問した。2012年度、2014年度、2016年度にはアメリカ研修を企画した。アメリカ研修においては、世界最先端の医療を提供するロサンゼルス子ども病院やカリフォルニア大学サンディエゴ校附属病院、さらに、世界で最初に重粒子線治療を実施したロマリンド大学附属病院を訪問し、そこでの医療及び栄養支援について学んだ。ロマリンド大学においては、アメリカにおけるRD養成機関であるロマリンド大学大学院におけるカリキュラムや教育方針などについて学んだ。それ以外に、アメリカの給食施設やアメリカオリンピック委員会オリンピックトレーニングセンターの見学を行った。個人研修においては世界最大かつ最先端のメディカルセンターであるテキサス大学サウスウエスタンメディカルセンターにおいて約1週間の研修を実施した。

このように、健康栄養学科では国際交流を活発に実施し、国内外での知見を有した管理栄養士の輩出に努力してきた。今後も、様々な方法で国際交流事業を展開していく予定である。



▲図3 学生の海外研修

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学・生物・化学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

自分の意見を論理的に表現し、相手にわかりやすく伝えるとともに、他者と協力して物事を成し遂げる能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

学習や課外活動に対して主体的に行動するとともに、円滑な人間関係を築く上で必要なやさしさ・協調性・他者を理解しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対してさまざまな視点から物事を考え、自分の意見をまとめる能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

健康の維持・増進、病気の予防・治療、虚弱・介護予防に、管理栄養士として「食」の面から貢献したいという意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

1年次から4年次まで、基礎教養科目、専門基礎科目、専門専攻科目を段階的に配置する。さらに専門基礎科目および専門専攻科目は、アクティブラーニングに資するよう講義と実験・実習科目を抱き合せて配置する。成果は全修得科目の成績により評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

1年次には学科メンバーとのチームワークをねらいとした基礎ゼミ、2年次には職種間連携をねらいとした全学共通の連携基礎ゼミ、4年次の総合演習には管理栄養士に必要な専門英語を配置する。成果は授業後のアンケートまたは履修科目の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

1年次には病院および福祉施設での基礎臨地実習、3年次には模擬患者を活用したSP実習および病院、行政、事業所、学校、福祉・介護施設での臨地実習、4年次には個人の要望による応用臨地実習、栄養教育実習を配置する。成果はルーブリックなどを用い評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

1年次から4年次まで、栄養科学に関する実験・実習を配置し、4年次には、情報収集力、論文読解力、論理的思考力の修得を目的とした卒業研究を配置する。成果は実験実習のレポートおよび卒業研究の総合的成績により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

キャリア教育の一環として、1年次には基礎実践演習、4年次には、現場の管理栄養士を招いての総合演習を配置する。さらに、3～4年次には、各種認定資格取得ができる科目を配置する。成果はレポー

ト内容または資格試験合格率で評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

幅広い教養を有し、専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

多職種間連携の技能を有し、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら、国際化した社会において職務を遂行することができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

社会人としての基本的な資質、豊かな感性、奉仕の精神、やさしさ、協調性および倫理観を有し、食および栄養を通し、対象者のQOL向上策をコーディネートできる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

栄養科学に関するエビデンスを、他の職種からの情報と合わせて思考・解釈し、自分の意見を論理的に説明でき、問題解決ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

健康の維持・増進、病気の予防・治療、虚弱・介護予防における食および栄養上の課題に関心を持ち、その解決のために生涯を通じて、自主的・継続的に学習できる。

10

健康科学部 健康スポーツ学科

1) 開設年度：2005年度

2) 学生定員（2020年度）：200名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：39名（教授9名、准教授9名、講師12名、助教9名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

健康スポーツ学科の教育理念は、「スポーツや運動の楽しさや効果を伝えることのできる優れたQOLサポーターになる」である。さらにその理念を遂行するための具体的ミッションとして、「健康スポーツ学科は、品性高潔の精神のもと、健康とスポーツに関する理論と実践を主体的に往還し、自ら学び、成長し続ける人材を育てる」を掲げている。豊かな社会となった今日の日本において、スポーツや運動は子どもから高齢者まで親しむことのできる文化的価値を有している。また、体力の向上や健康な生活を維持することにとどまらず、人と人との交流を生み出し、生涯にわたり豊かで活力のある生活を営むために必要な社会的財産となっている。本学科では、スポーツや運動の理論と実践を学び、自らの可能性に挑戦しながら、スポーツや運動を通じて優れたQOLサポーターとしての専門性と力量を高め、人々のQOL向上に貢献できる実践力を持つ人材を育成している。

具体的な取り組みとしては、「スポーツ医科学」「コーチング科学」「スポーツマネジメント」「スポーツ教育」の4つの領域に、関連する幅広い科目を配置して、個々の学生の目標の実現に向けた教育を展開している。さらにスポーツや教育に関連した複数の資格取得が可能となるカリキュラムとなっている。1、2年次は、教養科目に加え、スポーツ科学の基礎的な理論を中心に学び、3年生では、その理論を生かした実践や演習を充実させている。さらに4年次では実践フィールドでの経験を充実させることにより、高い専門的能力に加え、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力を身につけることで、教育現場、一般企業を含めた多様なフィールドで活躍できる人材を育成している。

特に3年次からは、個々の学生の関心と目標の実現に向けて4つの領域を鑑みながら専門ゼミ教員を学生が主体的に選び、スポーツ科学や教育学の専門性を高めている。スポーツ医科学の領域では、人間の身体の構造と機能、心理学等の基礎的な理論を、スポーツや運動と関連させた応用科学を学ぶ。コーチング科学の領域では、アスリートを育成するための医科学的なアプローチやコーチングアプローチの実践を学ぶ。スポーツマネジメント領域では、学校体育、部活動、地域スポーツクラブ、プロスポーツチーム、スポーツ関連産業などでの組織運営について学ぶ。スポーツ教育の領域では、教育学の理論やスポーツ教育学の理論をもとに、教師としての実践力を学ぶ。

(2) 研究

健康スポーツ学科では、スポーツ科学、身体教育学、教育学の領域について、自然科学系、社会・人文科学系、実技系の教員がそれぞれの専門領域の研究を主体的に進めている。具体的な取り組みとしては、外部資金の獲得支援プログラムを実施して、日本学術振興会の若手研究、基盤研究Cなどの資金によって若手教員が積極的に研究を行なっている。また、近年は、自然科学系と社会・人文科学系、実技系の垣根を越えて、複合的なスポーツ科学の研究を組織として行なう傾向にある。その結果として、日本学術振興会の基盤研究B以上の外部資金も獲得している。2019年度以降は、スポーツ科学分野において、科学研究費獲得金額が全国4位となっている。以下は、近年の主な研究テーマである。(一部抜粋して掲載)

- ・水泳選手におけるスイムエルゴメータを用いた高強度トレーニングの開発研究
- ・水中ドルフィンキックのための専門的技術トレーニング法の開発研究
- ・スポーツ活動中の衝撃負荷から児童期の傷害発生機序を探る研究
- ・野球打撃におけるスイング速度と正確性の調整スキルの解明
- ・変形性膝関節症の病態解明：長期疫学調査及び新しい運動学的アプローチ研究
- ・下肢関節力学モデルの構築に関する研究
- ・サルコペニアと運動による骨格筋内マイオネクチン発現変化が鉄代謝に与える影響の検証
- ・組織温度の変化に起因したグリコーゲン代謝調節機構の解明とその実践的応用方法の検討
- ・衝突系スポーツ活動中における頭部衝撃の量的可視化と客観的指標の開発研究
- ・大脳基底核コリン作用を高め運動学習を促進する浸水ニューロモデュレーションの開発
- ・知覚学習イノベーション：次世代感覚運動学習法の創出研究
- ・競泳選手の肩関節障害の発生要因の解明
- ・運動時低体温症の発生メカニズムの解明

- ・短期のチアミン不足とエネルギー源の偏りが安静・運動時のエネルギー代謝に及ぼす影響
- ・アスリートの慢性痛に伴う過剰注意の脳活動解明と競技早期復帰を目指した評価指標構築
- ・組織能力に応じたプロスポーツ事業創造モデルの検討
- ・授業認知の位相転換に基づく授業技術の向上を支援するVR映像プラットフォームの構築
- ・多様なニーズを対象とした自然体験活動の効果の可視化とモデルプログラムの開発研究
- ・比較教育研究におけるISCED活用の可能性：日蘭の職業教育プログラムの事例研究
- ・デンマークにおける「生涯にわたるキャリアガイダンス」の機能と役割に関する研究
- ・小学校児童の逆上がり及び後方支持回転動作を改善するための学習指導方略の開発研究
- ・インクルーシブながん教育推進のための総合的研究

(3) 社会貢献

地域貢献活動としては、中高齢者を対象とした「イキイキ運動教室」(図1)、幼児・小学生を対象とした「スイスイ子ども水泳教室」(図2)「バスケットボール教室」「陸上教室」「ちびっこハッピーダンス教室」(図3)「バレーボール教室」「にじっこキャンプ教室」(図4)「子供の運動能力向上教室」など、多くの事業を定期的に行なっている。いずれの事業も学生が指導サポートを行なうことで、教育と地域貢献を融合した活動になっている。さらに新潟県や新潟市と共同で「障害者スポーツ教室」(図5)や「幼児運動教室」(図6)を行なっている。

主な定期的に行なっている事業は、表1の通りである。



▲図1 イキイキ運動教室



▲図2 スイスイ子ども水泳教室



▲図3 ハッピーダンス教室



▲図4 にじっこキャンプ教室



▲図5 障害者スポーツ教室



▲図6 幼児運動教室

▼表1 健康スポーツ学科で取り組んでいる主な社会貢献事業

事業名等	連携先	活動等の内容
にじっこキャンプ（ひとり親家庭の子どもを対象としたキャンプ）	新潟市北区、阿賀野市	北区海辺の森にて、ひとり親家庭の子どもを対象としたキャンプ
新潟市中体連部活指導者研修会	新潟市中学校体育連盟	部活動指導を行なう教師や指導者対象の研修会
ジュニアバレーボール教室	新潟市バレーボール協会	小学生を対象としたバレーボール教室
バレーボール指導者・父兄対象 講習会	新潟市バレーボール協会	指導者・父兄対象のバレーボール講習会
日本健康運動指導士会 新潟県支部研修会	日本健康運動指導士会新潟県支部	日本健康運動指導士会主催の新潟県支部研修会の開催
日本スポーツ協会 A級コーチ研修	日本スポーツ協会	日本スポーツ協会A級コーチ研修
高齢者生きがいセミナー	新潟県シルバー人材センター	高齢者生きがいセミナー「健康に生きるには」の研修会実施
体育施設運営士養成研修会	日本体育施設協会・新潟県スポーツ協会	体育施設運営士養成研修会の主催と研修（2日間）
長岡市スポーツ少年団コーチ研修	長岡市スポーツ協会	長岡市スポーツ少年団のコーチを対象とした研修会
三条市スポーツ協会役員マネジメント研修	三条市スポーツ協会	三条市スポーツ協会の役員を対象とした組織マネジメント研修
村上市コーチ研修	村上市（スポーツ庁事業）	村上市のスポーツ指導者対象のコーチング研修
介護予防における大学との連携事業：体力・認知機能測定	新発田市高齢福祉課	介護予防における大学との連携事業：体力・認知機能測定
新潟県女子体育連盟の主催と運営（知識共有、実態把握）	新潟県女子体育連盟夏期研修会	新潟県女子体育連盟の主催と運営（知識共有、実態把握）
学習支援、部活動の技術指導	新潟市北区「ひと・まち」パートナーシップ支援事業	学習支援、部活動の技術指導
幼児への体育指導及び、保育者への公開保育	新潟県県民生活環境部、村上市子育て支援課	幼児への体育指導及び、保育者への公開保育
保育士への体育指導方法の研修	北区・東区・江南区保育士研修会	保育士への体育指導方法の研修
スポーツコーチ、保育者への研修・指導演習	新潟県県民生活・環境部スポーツ課	スポーツコーチ、保育者への研修・指導演習
新発田市市民対象パラスポーツ体験	新発田市	新発田市市民へパラスポーツ体験
スポーツ推進委員へのジュニア期の運動指導方法の研修	中越地区社会体育総合研修会	スポーツ推進委員へのジュニア期の運動指導方法の研修
パラリンピック教育	新潟県教育庁	パラリンピック教育
保育士への研修会	弥彦村保育士会	保育士への研修会
介護予防における大学との連携事業：体力・認知機能測定	新潟県、新発田市高齢福祉課	介護予防における大学との連携事業：体力・認知機能測定
健康スポーツ学科スイスイ子ども水泳教室	健康スポーツ学科地域自主事業	子どもを対象とした水泳教室
健康スポーツ学科子どもバスケットボール教室	健康スポーツ学科地域自主事業	子どもを対象としたバスケットボール教室
健康スポーツ学科ちびっこハッピーダンス教室	健康スポーツ学科地域自主事業	子どもを対象としたダンス教室
健康スポーツ学科子ども陸上教室	健康スポーツ学科地域自主事業	地域の子どもの対象とした陸上競技教室
健康スポーツ学科イキイキ運動教室	健康スポーツ学科地域自主事業	中高齢者を対象とした健康づくり教室
健康スポーツ学科子どもの運動能力向上教室	健康スポーツ学科地域自主事業	子どもを対象とした調整力を育む教室

(4) 国際交流

健康スポーツ学科では、学生のコミュニケーション能力や課題解決能力といった実践力を育むために、国際交流事業を積極的に行っている。

JICA地域別研修「大洋州における地域保健での生活習慣病予防対策」では、大洋州地域の医療従事者に対して我が国で実施されている健康づくり施策を紹介することで各国の生活習慣病対策に貢献している。

また、学生が主体的に参加している国際交流事業はいくつかあるが、ここでは3つの事例を紹介する。一つ目は、中国黒竜江省の水泳選手団と本学科の水泳部学生との国際試合である（図1参照）。2つ目は、本学科の学生がカリフォルニア州立大学フラトン校に渡航して、ダンスのワークショップを開催していることである（図2参照）。そして3つ目は、ロシア太平洋大学と女子サッカーの交流試合を行なっていることである。

さらに本学科は、2019年にロシア太平洋大学と大学間協定を結んだことにより、今後も様々なスポーツ種目での親善試合が計画されている。同時に共同研究やスポーツ振興施策の情報交換も予定されている（図3、図4参照）。

最後に、本学科の学生は、アスリートとして国際競技大会（ワールドカップやオリンピック）に出場しており、今後も活躍が期待される。



▲図1 中国黒竜江省との親善試合



▲図2 フラトン校とのダンスワークショップ



▲図3 ロシア太平洋大学との調印式



▲図4 ロシア太平洋大学との親善試合

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の基礎的な学習能力と知識を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を遂行する能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

対話や関わりを通して、他者の意見や思いを把握し、それを共感的に理解しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して妥当な判断をくだすために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

保健・医療・福祉・スポーツ領域の専門職を志す動機や意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

知識基盤を構築するため基礎教養群と専門基礎科目群を1年次に配置する。2年次には健康・スポーツに関わる応用的知識を習得するために、その知識理解を深める専門専攻科目群共通科目を配置する。3年次以降は、個々の学生の特性に応じ、健康医科学、コーチング科学、スポーツマネジメント、スポーツ教育などのスポーツ科学専門科目を配置する。成果は資格試験合格率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

健康・スポーツの実践および指導法、チームワーク、コミュニケーション力や表現力を習得するため、職種間連携をねらいとした全学共通の連携基礎ゼミ、連携総合ゼミをうけて、2年次以降に球技（チームスポーツ）、野外活動、各種運動指導法実習、レクリエーション科目などの実技科目を配置する。成果はインターンシップ実習で評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

専門的職業人としての使命感や責任感、他者を理解する力を習得するために、1年次の基礎的な知識理解、2年次のアクティブラーニングを用いた応用的な知識理解を活かして、3年次以降は各種スポーツ指導法実習、インターンシップ実習、教育実習などの実践教育科目を配置する。成果はインターンシップ実習、教育実習で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

生涯にわたる健康・スポーツの課題を解決する力を習得するために、1年次に、少人数学習を導入しながらスポーツ科学の概念を広く学び、2年次以降は、小・中・高等学校の学習指導要領に記載されている実技科目や競技スポーツのみならず、幅広い実技科目を配置する。成果は卒業研究で評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

自己の課題を明確にして、主体的に学ぶ力を習得するために、PBLを導入しながら1年次に教養科目と

専門基礎科目を配置し、2年次に専門専攻科目群共通科目、3年次以降では関心をもつ専門科目を配置する。1年次と2年次には実技、3年次以降には実技指導法実習を配置し、ポートフォリオを活用しながら系統的かつ講義科目と実技科目を往還できるカリキュラムを編成する。成果は就職率で評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

充実したQOLサポーターとしての健康・スポーツを科学する確かな知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

健康・スポーツの実践および指導・教育に取り組むための高い技能と豊かな表現力を有し、チームにおけるリーダーシップやコミュニケーションをとることができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

健康・スポーツに関する専門的職業人としての使命感や責任感に基づき、国際化した社会の一員として対象者を支援できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

健康・スポーツに関するさまざまな課題について思考し、的確に判断し問題解決ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

健康・スポーツに関する自己の課題に関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

11

看護学部 看護学科

1) 開設年度：2007年度

2) 学生定員（2020年度）：107名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：25名（教授6名、准教授6名、講師7名、助教6名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

看護学科は卒業時の看護師、保健師、助産師の、国家試験受験資格及び養護教諭一種免許取得に対応したカリキュラムを配置し、自ら考え実践する力を養うとともに、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学であるメリットを活かした連携教育で、チーム医療に対応し、あらゆる領域で活躍できる看護専門職を育成することを目的とする。本学科の教育の特徴として、以下の6つがあげられる。

- ①全学科、全学年に配置された多職種連携教育
- ②1年生から4年生まで段階的に配置されたシミュレーション教育
- ③様々な海外研修プログラムと国際看護論、海外研修で学ぶグローバルナーシング
- ④ボランティアやピアエデュケーション活動による地域貢献
- ⑤災害看護論とボランティア活動で学ぶ災害時の看護

⑥看護実践論や、フルシミュレーション教育で身に着ける看護実践能力

特に6学部13学科で3、4年次に配置された連携総合ゼミでは本学だけでなく新潟薬科大学や日本歯科大学短期大学部、新潟リハビリテーション大学やさらに海外からもフィリピン、台湾、ベトナムの大学から学生が参加した実績を持ち、グローバルな環境で連携を学んでいる。

2018年に開設した看護シミュレーション教育センターは、SimMan、SimMom、SimBaby、SimJuniorの高機能シミュレータを備え、3つのシミュレーション室とデブリーフィングルーム及びシミュレーション映像確認のための6台のPCを備えている。学部教育の中でフル活用されているが、今後は実習施設や看護協会などの研修にも活用を場を拡大することがシミュレーションには可能である。助産師養成課程においてはSimMomは実際の分娩介助と同様の演習が可能であり、新型コロナウイルス感染症の中で臨地実習に行けない状況でも助産師養成課程において出産場面をシミュレーションで再現した分娩介助の訓練が可能となった。医療的ケア児の看護について人工呼吸器を装着した児の医療的ケア講習会も定期的に開催している。このように特徴ある教育が実践的に学べるのが看護学科の特徴である。

＜シミュレーション授業＞



▲図1 シミュレーション演習（母性）



▲図2 シミュレーション演習（成人）

（2）研究

看護学科では、各教員がそれぞれの専門性を発揮させながら研究に取り組んできた。研究テーマは、がん予防、シミュレーション教育、国際保健、連携教育、地区組織活動、災害看護、慢性疾患看護、高齢者看護、看護技術など多岐に渡っている。

外部資金を獲得して行ってきた研究を一部挙げると、子宮頸がん予防に関する母親への支援、アジアにおける地域連携訪問サービス、在宅療養者の災害対処行動、豪雪地帯の無医地区における看取り、妊娠中期中絶ケア、男性の妊孕性の認識、認知症高齢者暴力リスクアセスメント、助産師基礎教育、子育てと仕事の両立支援といった研究がある。今後も看護学科教員のそれぞれの専門性をもとにした研究を発展させていくことが期待される。

今後の展望としては、本学の看護学科の特徴を活かした研究活動の発展が期待される。本学は、多くの学科を擁する医療系総合大学であり、多学科の連携のもと行われる研究を発展させていくことが期待される。「出産準備教室における乳児応急手当教育システムの開発」「子育てと仕事の両立支援に関する研究」といった研究においては、全学でのテーマ・情報の共有を進めており、多学科と連携した研究の嚆矢となることも期待される。また、本学で重視している連携教育にかかわる学会の主催も予定され、

看護学科教員も中心的な役割を担っており、連携教育をリードする研究の発展が期待される。そして、看護学科はシミュレーション教育に力を入れており、その教育成果を発信し、教育方法を発展させていくための取り組みを進めている状況であり、その発展も期待できる。

大学院も開設以来、多くの修士課程、博士課程が学び、修了している。看護学科・看護学分野の研究にかんしては、大学院をはじめとした教育と、研究の両輪のもと、発展していくことが期待される。

(3) 社会貢献

2008年より、看護学科学生による「ピアエデュケーションの手法を用いた包括的性教育」を近隣高等学校において開始。「性=生」、いわゆる相手を大切にすることは自分を大切にすることをテーマに、毎年2回開催している。この取り組みの効果について検証したところ、受講した高校生の長期的な意識変化につながる事が明らかとなり、その成果について2016年京都大学百周年時計台記念館での全国学会において、学生たちは素晴らしい発表を成し遂げている。またこのピアエデュケーションの取り組みは、性教育に限らず、子宮頸がん予防をテーマとした開催にも精力的に取り組み、この活動に着目した新潟大学産科婦人科学教室主催の新潟市民向け講座「未来の自分にできること、今日から私も検診女子～知識と行動で子宮頸がんから身を守ろう～」において、著名人らとコラボレーション企画を新潟ユニゾンプラザにて開催。また、「女性としての“私”を知る女性のための健康講座」と題し、将来産み育てる女性のためのプレコンセプションケアを目的としたピアエデュケーションを2日間にわたりメディアシップにて開催した。これら多岐にわたるテーマによる本学科のピアエデュケーションの取り組みについては新潟日報にも取り上げられ、またテレビ出演によるPRの機会もいただいたことによって、北区の中学校だけではなく、新発田市の中学校からも開催依頼が絶えない。学年を超えて長年繋いできたこの看護学科学生による地域貢献は、北区を超えた新潟県内におけるリプロダクティブヘルスの向上への一助となっている。

<近隣中学校・高等学校でのピアエデュケーション>



▲図3 一緒に考えよう！思春期のからだところ



▲図4 性=生～自分もそして相手も大切に～



▲図5 月経前症候群と更年期について



▲図6 看護学生メンバー

(4) 国際交流

看護学科の国際交流プログラムは現在、①米国ロサンゼルス研修、②英国イーストアングリア大学（UEA：University of East Anglia）研修、③ベトナムホンバン国際大学（HBIU：Hong Bang International University）研修の3つのプログラムがある。

2007年の看護学科開設当初はオーストラリアのメルボルンコースであったが、その後2008年から米国ロサンゼルスコースに変更し、①の米国のロサンゼルスは2019年まで延べ90名の学生と17名の教員が参加した。カリフォルニアロサンゼルス校（UCLA：University of California Los Angeles）の大学や病院施設の見学のほか、マグネットホスピタルといわれる、ロサンゼルス小児病院（CHLA：Children Hospital Los Angeles）や、シミュレーション教育で有名なウェストコースト大学（WCULA：West Coast University Los Angeles）などで研修した。また、ロサンゼルスでは毎年、高齢者施設を訪問し折り紙や祭りなど日本の文化を紹介しながらボランティア活動を行ってきた。

②のイギリス研修はノーリッジにあるUEAと大学間締結による海外研修で学生間交流を主体としている。UEAでは大学内の学生寮に滞在し、イギリスでの学生生活を体験している。またロンドンでは大英博物館やナショナルギャラリー、ウェストミンスター寺院、バッキンガム宮殿、ロンドン塔などの名所めぐりのほか、ナイチンゲール記念館も訪れることができる、看護の原点に触れることができる。

③のベトナム研修はホーチミン市にあるホンバン国際大学との大学間締結による海外研修である。学生間交流はもちろんであるが、ホンバン国際大学からの要望もあって、教員がホンバン国際大学で講演会を行ってきた。また、ベトナム戦争の戦争記念館や平和村の研修を通して平和の大切さや、看護を学ぶ上での命の尊さについて考える重要な研修となっている。

<英国イーストアングリア大学研修>



▲図7 英国UEAとの大学間締結 (2016)



▲図8 UEAの教員とNUHW学生・教員

<米国ロサンゼルス研修>



▲図9 WCUでのシミュレーション教育 (LA)



▲図10 UCLAヘリポート

<ベトナムホンバン国際大学研修>



▲図11 ホンバン国際大学看護学科



▲図12 ベトナム メコン病院のスタッフ

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語および入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

自分の意思を表現し、周囲の人々と協力して物事を成し遂げる能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

人との関わりを大切にし、相互理解に努めようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して探究心をもち、さまざまな視点から物事を考え、自分の意見をまとめる能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

看護に対する強い興味・関心があり、看護を学ぶ高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

基礎的な学習スキルを修得するために基礎教養科目や保健医療福祉教養科目を配置する。段階的にアセスメント力を修得するために1年次から専門科目を配置する。看護実践に必要な専門知識を身につけるために4年間を通じたシミュレーション教育を実施する。成果は全修得科目の成績により評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

チームワークの重要性を自覚し、看護の一員としてチーム医療に必要なメンバーシップ・リーダーシップを身につけるために全学で実施する連携教育、シミュレーションを活用した連携教育、グループ学習、看護学演習・実習を配置する。成果は臨地実習の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

高度な看護実践力を修得するために段階に応じた実習施設においてさまざまな対象者と出会うことできる科目を配置する。幅広く対象者を支援する力を修得するために異なる生活背景や価値観をもつ対象者を尊重することができるシミュレーション教育を実施する。看護学を在宅医療につながる地域包括ケアの視点で学習するために看護実践論や統合実習を配置する。成果は臨地実習の成績により評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

問題を発見する能力、論理的思考による解決への道筋を見い出す力を修得するために看護研究や卒業研究を配置する。また、個々の対象者の問題を解決する力を修得するために領域別看護学実習を配置する。自ら考え、解決する力を修得するためにアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施する。成果は卒業研究と臨地実習の成績により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

世界や地域に貢献できる優れたQOLサポーターになるための心構えを身につけ、多様な職業選択が可能となるよう、看護師、保健師、助産師、養護教諭一種免許取得ができる科目群や国際看護論・災害看護論、また看護教育学、国際看護論演習、ヒューマンケアリング、スピリチュアルケア、ディメンチア・ケア、エンドオブライフなど数多くの専門専攻選択科目を配置する。成果は卒業生の進路により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

看護の対象となる人を理解するための教養を有し、看護に関する必要な専門知識と技術が活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

多職種と良好なコミュニケーションを取りながらメンバーシップ・リーダーシップが発揮できる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

人の多様な価値観を尊重し、看護職としての倫理観に基づいた責任ある行動ができ、看護の専門知識と技術に基づいて看護を提供することができる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

看護の専門知識と方法論を用いて対象者の問題を解決できる。

[Self-realization] 自己実現意欲

知的好奇心をもち、看護の動向や社会の変化について、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

12

社会福祉学部 社会福祉学科

1) 開設年度：2001年度

2) 学生定員（2020年度）：120名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：24名（教授10名、准教授6名、講師4名、助教4名）

4) 学科の特徴

（1）教育

本学科の教育の特徴は、他大学では社会福祉士国家試験受験資格の取得を選択制とするケースが多い中で、敢えてこれを卒業要件とし、卒業と同時に全員が社会福祉士の国家試験受験資格を取得できる体系的なカリキュラム編成としている点である。併せて、精神保健福祉士または介護福祉士国家試験受験資格を取得できるコースを設置している。さらに、2018年（養成校認定は2017年）からは、児童健全育成推進財団から認定を受けた「児童厚生一級指導員」（以下一級指導員）の養成を始めた。福祉系の4年生大学においては全国で初めてである。このように、社会福祉学部社会福祉学科を創設して以来、学科をあげて福祉社会を担う福祉専門家の育成に力を注いでいる。

また、キャリア形成教育プログラムの導入を図り、地域を基盤としながら包括的に活躍できるソーシャルワーク専門職の養成を目指している。1年生から4年生を対象に行っており、学生自らが自己の将来進路を考え、自らのキャリア・アップを計画し、具体的な取り組みに向けて行動していけるように様々な機会を提供している。1年生は人間性の涵養、2年生では価値・倫理の修得、3年生では理論・方法の獲得、4年生では専門性の確立を目指す。

現代の多様な福祉ニーズを抱えた人々に対して質の高い福祉サービスを提供できるソーシャルワーク専門職を育成するため、専門分野を網羅した幅広い領域で特色ある科目を配置し、学生が将来希望する職業や職種にあわせて必要な科目を選択して学ぶことができるよう配慮をしている。特に3、4年次に開講される社会福祉専門ゼミでは、福祉政策分野、医療福祉分野、福祉サービス分野、地域サービス分野、人間心理分野の5つの専門領域別のゼミ活動を展開して、各専門領域への理解を深めることができるようにしている。さらに、実践力を身につけ、将来のキャリア形成に資するために、入学から卒業まで段階を追って職業理解を高めることができるよう配慮した科目配置を行うとともに、体系的で丁寧な

実習指導を行っている。実習プログラムにおいては、1年次の見学実習や2年次の体験実習を導入し、福祉現場で働く職員の実践的な講義などを通じて早期から職業理解を深めるよう工夫してきた。また、3年次の実習においては、国の規定を超えた実習時間を確保することで、質の高い実践力が身につけられるよう努めている。今後は、社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教育内容の見直しにも対応していく中で、さらなる社会福祉学科における教育の充実を図っていく。

(2) 研究

本学科では、多くの教員が社会福祉各分野での諸課題に関する実践的な研究を行っており、学内の研究奨励金などを活用して積極的に研究に取り組み、学術書あるいはブックレットとして刊行している。また、新潟県や新潟市等の自治体との連携による地域課題や行政課題等の解決に向けた実践的研究も行ってきた。さらに、科研費等の競争的な資金を活用した先駆的、開発的な研究も実施している。主な成果として、2005年に全教員の研究成果をまとめ、刊行した（山手茂・園田恭一・米林喜男編『保健・医療・福祉の研究・教育・実践』東信堂）。2011年には『社会福祉の可能性』（相川書房）として近年の研究成果をまとめた学術書を発行した。2013年にも、『園田保健社会学の形成と展開』として、社会福祉学科の教育・研究の礎を築かれた一人である園田恭一先生とゆかりの深かった教員の追想エッセイを19編、指導を受けた教員の研究論文8編をまとめ、書籍を刊行した。

継続的なものとしては、2015年3月に社会福祉学部のブックレット創刊号『ソーシャルケースワークとは何か—あらためてリッチモンドを読む—』を刊行して以来、毎年、ブックレットを発行している（表1）。

▼表1 新潟医療福祉大学 社会福祉学部ブックレット 発行状況

号	ブックレット名	章・テーマ	執筆者	所属・役職	発行年月
創刊号	ソーシャルケースワークとは何か—あらためてリッチモンドを読む—	あらためてリッチモンド	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	2015年 3月
		社会福祉学部ブックレット創刊に当たって	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
		第1章 序章—ソーシャルケースワークの源流	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	
		第2章 実践事例に学ぶもの—無条件のリスベクト	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
		第3章 定義—パーソナリティの成長支援	河野 聖夫	社会福祉学部准教授	
		第4章 人間の相互依存—社会との関係性	河野 聖夫	社会福祉学部准教授	
		第5章 個人差—十把一絡げにしないで	渡邊 敏文	社会福祉学部教授	
		第6章 意図的な行為の基礎—エンパワメントの支援	渡邊 敏文	社会福祉学部教授	
		第7章 家庭・学校—豊かな子ども家庭福祉論	青木 茂	社会福祉学部准教授	
		第8章 ソーシャルワークの形成と相互関係—全体の布置	豊田 保	社会福祉学部教授	
		第9章 ケースワークと民主主義—個人も社会もエンパワメント	豊田 保	社会福祉学部教授	
		第10章 結論—哲学をもつこと	横山 豊治	社会福祉学部教授	
		あとがき	松山 茂樹	社会福祉学部教授 (学科長就任予定)	

号	ブックレット名		章・テーマ	執筆者	所属・役職	発行年月
第2号	現代社会が抱える 社会福祉の諸問題—ソーシャルワーク専門職の視点—		はじめに	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	2016年 3月
		第1章	社会福祉の諸問題は解決が図られているか—福祉指標の分析的視点から	丸山 仁	社会福祉学部助教	
		第2章	貧困とソーシャルワーク	青木 茂	社会福祉学部准教授	
		第3章	心身の不調和とソーシャルワーク	松本 京介	社会福祉学部講師	
		第4章	社会的ストレスとソーシャルワーク—職場ストレスを中心に	伊東 正裕	社会福祉学部特任教授	
		第5章	自殺防止対策とソーシャルワーク	横山 豊治	社会福祉学部教授	
		第6章	子ども虐待の増加に歯止めを—ソーシャルワークの出番です	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	
		第7章	女性に対する暴力とソーシャルワーク	寺田貴美代	社会福祉学部准教授	
		第8章	高齢者虐待の防止とソーシャルワーク	渡邊 敏文	社会福祉学部教授	
		第9章	医療・介護の動向とソーシャルワークの視点	松山 茂樹	社会福祉学科長・教授	
		第10章	社会福祉の諸問題とソーシャルワーク専門職—政策的観点から	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	
			あとがき	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
第3号	マルチプルソーシャルワーク		はじめに	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	2017年 3月
		第1章	地域を基盤としたマルチプルソーシャルワーク専門職への期待	青柳 親房	社会福祉学部特任教授	
		第2章	地域福祉の視点—地域共生社会の実現に向けて	青木 茂	社会福祉学部准教授	
		第3章	医療福祉の視点—地域包括ケアシステムと医療ソーシャルワーク	河野 聖夫	社会福祉学部准教授	
		第4章	介護福祉の視点—ケアワークとソーシャルワークの融合に向けて	渡邊 敏文	社会福祉学部教授	
		第5章	教育福祉の視点—教育と福祉の連携に向けて	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
		第6章	医療ソーシャルワークの現場から	熊谷 麻美	新潟市社会事業協会信楽園病院医療ソーシャルワーカー	
		第7章	ケアマネジメントの現場から	大根澤恵美子	新潟市地域包括支援センター上土地亀センター長	
		第8章	スクールソーシャルワークの現場から	江端三知子	新潟市教育委員会学校教育課主任	
		第9章	ソーシャルワークが多用される社会を	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	
			あとがき	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
			あとがき	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	
第4号	にいがたの児童家庭福祉とソーシャルワーク		はじめに	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	2018年 3月
		第1章	コミュニティの問題としての子ども家庭福祉—ソーシャルワークの現状と課題	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授	
		第2章	市町村児童家庭相談援助活動とソーシャルワーク	渡辺 剛	新潟市北区健康福祉課児童福祉係長	
		第3章	児童相談所相談援助活動とソーシャルワーク	佐藤 洋	新潟県上越児童・障害者相談センター長	
		第4章	児童養護施設等における家庭支援とソーシャルワーク	林 直	長岡市二葉寮寮長	
		第5章	子育て支援事業とソーシャルワーク	椎谷 照美	特定非営利活動法人ヒューマン・エイド22理事長	
		第6章	児童館活動とソーシャルワーク	大橋 美樹	燕市小中川児童館長	
			あとがき	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	

号	ブックレット名		章・テーマ	執筆者	所属・役職	発行年月	
第5号	科学研究費助成事業研究成果報告書特集 孤立解消と子ども虐待のないまちづくりをめざして		はじめに	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授 (研究代表)	2019年 2月	
		第1部	科学研究費研究成果		新潟医療福祉大学社会福祉学科子ども虐待防止に関する調査研究班 鈴木 昭 (社会福祉学部特任教授) 丸田 秋男 (社会福祉学部長・教授) 武井 恒美 (社会福祉学部特任教授)		
			第1章 研究の概要				
			第2章 子ども虐待による死亡事例検証				
			第3章 子ども虐待と社会指標との関連				
			第4章 子ども虐待援助過程の構造と支援機能				
		第2部	新潟発子ども虐待防止の取組		水品きく枝 (新潟県児童家庭課長) 石本 勝見 (新潟中央短期大学学長) 丸田 秋男 (社会福祉学部長・教授) 他		
			第1章 新潟発子ども虐待防止の取組				
			第2章 子ども家庭ソーシャルワークの専門性				
			第3章 児童相談所と地域の連携				
			第4章 根拠に基づいた支援の展開				
			あとがき	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授 (分担研究者)		
第6号	にいがたの高齢者福祉とソーシャルワーク		はじめに	丸田 秋男	社会福祉学部長・教授	2020年 3月	
		第1章	高齢者福祉をめぐるソーシャルワークの現状と課題	佐々木勝則	社会福祉法人桜井の里福祉会専務理事		
		第2章	介護の実践とソーシャルワーク	中川 雪人	社会福祉法人愛宕福祉会新潟東愛宕の園介護支援専門員		
		第3章	地域包括支援センターとソーシャルワーク	伊藤 裕輔	地域包括支援センター胎内市社協社会福祉士		
		第4章	医療介護連携とソーシャルワーク	斎川 克之	済生会新潟病院検診センター副センター長 新潟市医師会地域医療推進室長		
		第5章	地域における分野横断的な包括支援を目指してーソーシャルワークの出番です	鈴木 昭	社会福祉学部特任教授		
			あとがき	渡邊 敏文	社会福祉学科長・教授		

(3) 社会貢献

社会貢献には、さまざまな形で取り組んでいる。特に新潟市北区との関わりは深く、「北区はまなす学会」「はまなす駅伝大会」などをとおして区民との交流を深めてきたほか、2010年度に本学のサテライトキャンパスと地域住民の居場所を併設する形で開設した「北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス“New街の駅”」で、介護技術講習会や学生の企画による手話教室を実施した。また、県内障害者のスポーツや職業能力訓練に関する支援活動なども継続的に実践した。卒業後のキャリア形成に向けて、在学中から多様な福祉問題とのかかわる機会をもつために、ボランティア活動などをとおして、学生が福祉現場や地域の方々と交流する機会への橋渡しを積極的に行っている。要保護児童に対する個別的支援、児童相談所におけるメンタルフレンド活動、児童養護施設における学習支援活動など、児童家庭問題に対する学生の継続的な活動を支援してきた。

近年、取り組んでいる社会福祉学部社会福祉学科の主な社会貢献は、表2のとおりである。

事業名	受託先	事業の目的・概要
新潟市多職種合同介護予防ケアプラン検討会（図1）	新潟市	介護保険の基本理念である「要介護状態等の軽減又は悪化を防止に資する」に立ち返り、多職種協同でケアマネジメントを検討することで高齢者のQOL（生活の質）向上とケアマネジメントのさらなる質の向上を目指すことを目的として実施する。理学療法士や管理栄養士などの多職種が参加し、介護予防ケアプランに対して専門的な視点で助言する。
大学生による家庭介護セミナー事業（図2）	新潟市	介護について学んでいる新潟医療福祉大学社会福祉学科の学生を講師とした介護技術棟に関するセミナーを開催し、家族の介護負担の軽減や、いつか訪れるかもしれない家族の介護に備えられるよう、介護の基本的知識やスキルを身につけてもらうとともに、学生と地域のつながりを深める。
地域「ひと・まち」パートナーシップ支援事業	新潟市	新潟市北区の一体感の醸成の取り組みや地域の「ひと・まち」づくりを深化させるため、地域において活動する大学生を「ひと・まち」づくりパートナー（タッグパートナー）として地域コミュニティ協議会や学校等に派遣することと、併せて、大学生が人と人、地域と地域、人と地域を結び付ける役割を担うことで、区の一体感の醸成を図る。
人口減少問題対策推進事業（県民意識醸成活動）新潟県の人口減少を考える新潟医療福祉大学学生集会（図3）	新潟県	将来にわたり新潟県の福祉介護分野を支える若者（大学生）が、県の人口減少問題及び同分野における就業状況の理解を図る。また、これらの分野での活躍を目指す若者に選ばれる就業環境と、問題解決に資するための対策等を検討する。これらのことをとおして、当事者からみた具体的な取組への提案を行い、若者の県内定着を促進する。
新潟水俣病関連情報発信事業（図4）	新潟県	新潟水俣病に関する情報・教訓を広く正しく発信することにより、県民の新潟水俣病に対する理解を促進し、地域全体が新潟水俣病患者等を支えるような社会づくりを行っていくことを目的とする。
新潟水俣病患者の健康教室	新潟市	介護予防プログラムを活用して、新潟水俣病の患者自身が介護予防の必要性を理解し、健康の保持・増進を図ることを目的とする。また、患者同士や学生との交流により、水俣病患者の日常生活の質の向上を図る。
阿賀野川流域健康教室	新潟県	阿賀野川流域に居住し、しびれなどの神経症状を有する方に対して、日常生活で役立つケア方法の学習や次世代を担う学生（QOLサポーター）と交流する機会を提供し、心身両面から健康不安の解消を図る。
地域活動活性化事業（民児協アドバイザー派遣事業）	新潟県民生委員児童委員協議会	法定単位民生委員児童委員協議会および市町村民生委員児童委員協議会が定例会等において、課題を抱えた住民との関わり方や支援活動に関する事例学習等を実施するにあたり、福祉専門職のアドバイザーを派遣し、民生委員・児童委員並びに主任児童委員相互の学びの場としての民児協運営の充実強化を通じて委員活動の支援を図ることを目的とする。



▲図1 ケアプラン検討会



▲図2 家庭介護セミナー



▲図3 人口減少を考える集会



▲図4 情報発信事業フォーラム

(4) 国際交流

2006年2月にオーストラリアのサザン・クイーンズランド大学との間で研究協力覚書を締結した。また、同年度に本学科と理学療法学科との合同学生海外研修がアメリカ西海岸で初めて実施した。2007年からはカリフォルニア州立大学フレズノ校との間での交流が始まり、本学科より教員3名、学生10名が参加した。その後は、理学療法学科の海外研修プログラムに本学科の学生も加わり、アメリカの大学、施設等で現地の医療・福祉を学ぶ交流が続けられた。アジアにおける国際交流としては、2015年5月に韓国の京畿（キョンギ）大学と学術交流協定を締結した。2019年3月には、3泊4日の短期研修を実施し、社会福祉学科の学生4人と教員2人が参加した。韓国の生活や文化に触れ、同じ年齢の若者と交流を図り、実り多き研修となった（図5）。また、この研修に関する発表会を開催した（図6）。

2019年7月には、京畿大学の趙源逸教授（社会福祉学科長）が、本学において「日韓社会福祉の比較展望－障害学の視座から」というタイトルで講演を行った。

学内においては、国際的視野を拓けるべく、世界各国の福祉の課題を中心とした諸事情について学ぶため、社会福祉学科の国際交流事業の一環として、「国際福祉講演会」を実施している。これまで、デンマーク、ユーロ・ジャパン・コミュニケーション社社長の小島ブンゴード孝子氏（テーマ「日本とデンマークの医療・福祉はここが違う」など）からの講演や、北欧諸国に長きにわたり滞在経験のある本学の非常勤講師から、フィンランドの文化や生活全般について学ぶ機会を設けている。



▲図5 京畿大学での共同授業



▲図6 海外研修発表会

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語および入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

相手の話をよく聞き、自分の意思を相手にわかりやすく伝える能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

人の多様な生き方や考え方を大切にし、わかりあおうとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

人の生活や社会の動向について、自らの考えを述べる能力を有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

福祉の仕事に関心を持ち、将来、社会福祉士として活躍しようとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

福祉社会の構築に必要な専門知識と技術を修得し、人を理解するための幅広い教養を身につけるために、教養科目や専門基礎科目を配置する。成果は、国家試験合格率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

社会福祉専門職として、対象となる個人や集団と良好なコミュニケーションを図り、同僚や保健・医療・福祉の関連職種・機関と連携できる協調性やリーダーシップ力を身につけるために、保健医療福祉連携科目群や専門専攻科目群を配置する。成果は、保健医療福祉連携科目群および専門専攻科目群の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

人の多様な生き方や個性、対象者の状況などを多角的に理解しようと努力し、人権と人格を尊重することができる素養を修得するために、専門専攻科目群を配置する。成果は、専門専攻科目群および相談援助実習の成績により評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

福祉社会の構築に必要な専門的な知識に根ざした思考と判断をもとに、問題を解釈し解決する力を修得するために、専門基礎科目、専門専攻科目を配置し、ゼミ活動を実施する。成果は、ゼミ論文の成績により評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

福祉社会を構成する諸要素の動向に関心を持ち、人間の福祉増進のための課題を捉えようとする意欲を高め、自らが社会的役割を実行することができる素養を身につけるために、専門専攻科目を配置し、ゼミ活動、キャリア教育を実施する。成果は、全修得科目の成績により評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

人を理解するための幅広い教養をもち、福祉社会の構築に必要な専門知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

社会福祉専門職として、国内外を問わず対象となる個人や集団と良好なコミュニケーションを図り、同僚や保健・医療・福祉の関連職種・機関と連携できる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

人の多様性を理解した社会人として人権と人格を尊重して対象者を支援できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

福祉社会の構築に必要な専門的な知識に根ざした思考と判断をもとに、国や地域において問題解決ができる。

[Self-realization] 自己実現意欲

福祉社会を構成する諸要素の動向に関心をもち、人間の福祉増進のための課題を捉えようとする意欲を有し、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

13

医療経営管理学部 医療情報管理学科

1) 開設年度：2010年度

2) 学生定員（2020年度）：80名（資料編302P参照）

3) 教員数（2020年度末）：18名（教授 8 名、准教授 3 名、講師 2 名、助教 5 名）

4) 学科の特徴

(1) 教育

医療情報管理学科では医療・経営・情報の3つの専門分野について多角的に学習することで、医療機関をはじめ行政機関、IT関連企業、金融機関、大手一般企業など、様々な業界で活躍できる人材育成を目標としている。そのために実践行動学やキャリア開発関連の科目を用意し、学年や資格取得の目標に応じた指導を行うことで、それぞれの進路について自ら考えてもらうよう促している。また、学生の目標に応じた医療、経営、情報の3分野の様々な資格取得をサポートしている。医療分野では診療情報管理士、診療報酬請求事務能力認定試験などが挙げられる。また経営分野では日商簿記、情報分野では基本情報技術者試験（国家試験）、情報セキュリティマネジメント試験（国家試験）などがある。1年次より様々な専門科目を配置し、在学中にこれらの資格が取得できるように工夫している。また資格試験ごとに科目外での対策講座を開いており、試験合格のための充実したサポート体制を構築している。各対策講座は関連する科目と連携することで、資格試験に合格するだけでなく各分野の専門家としての深い知識を得ることができる。さらに学内には実際の病院や福祉施設を想定したバーチャルホスピタルを備え、病院就職に直結した学内実習を行うことが可能なほか、実際の病院での学外実習を行うことで

現場に即した知識、経験を得ることができる。

本学科の卒業研究は3つの分野の中からそれぞれのキャリアに応じた研究を、教員の指導の下で行う。卒業研究は3年次後期より段階的に実施される。3年次後期の「医療情報基礎演習」では卒業研究に必要な基礎的な知識を習得する。4年次では前期の「医療情報総合演習Ⅰ」で本格的な研究活動を開始する。後期では「医療情報総合演習Ⅱ」で論文の書き方や発表の仕方を学び、「卒業研究」で研究の仕上げを行う。本学科の卒業研究は研究テーマごとにゼミを構築し、グループ単位で活動を行う。多様な考えを持つ学生が連携して一つの研究を行うことで、高度な専門知識による問題解決能力だけでなく、同僚や関連職種などとの良好なコミュニケーションができる土壌を育成する。

(2) 研究

①医療情報管理学科における研究

<卒業研究 2014年から>

3年後期から学生数名で班を構成し共同研究方式で卒業研究を実施。各学生は研究の基本や、共同研究（作業）のノウハウ、発表法の基本等を学ぶ。

<国際研究>

極東ロシアのハバロフスクの極東州立医科大学と人口動態等に関する研究、また中華民国（台湾）の輔英科技大學と大学間交流協定を締結し共同研究計画を策定中である。

<外部資金による研究>

新潟県からの委託で本学複数学科のチームで、介護予防事業評価研究を実施。また新潟市医師会からは地域医療研究助成を受けている。

②大学院 医療情報・経営管理学専攻（分野）関連研究

<拡大学院研究会 2014年から（図1）>

専攻（分野）に所属する教員が主査を務める院生および修業生に他学科の教員を交えて月一回学位審査形式で研究テーマと進捗状況、直面する問題点の発表と質疑を実施している。これにより、各院生および教員の両者が研究の目的、方法、解析等についての情報の質と量を向上させ、その結果、論文提出間際になって生じる問題点を未然に回避する効果が確認されている。

・地理疫学研究

元々、疫学は19世紀半ば英国における地理疫学から始まったが、地理学的分析は視覚に依存するため客観性の問題が生じる。これを回避するため地域集積性判定手法（LISAクラスターマップ）法を用いて、疾病や関連事象を全国の市区町村、二次医療圏、47都道府県単位で定量分析する研究グループ（地理疫学研究会 2012～）を大学院メンバーで構成し、各種研究成果を発表してきている。図2はその1例である。後期高齢者等の医療費の所謂「西高東低」現象は周知されていたがその主因は確定されていない。これをLISAクラスターマップで分析した結果、最も関連性が強い要因として二次医療圏単位の療養病床数人口比がクローズアップされた。

・質的研究

アンケートを用いた研究ではリッカート尺度と自由記載がよく用いられるが後者の分析を行うツールが一般化していなかった。幸い、KH Coder等のソフトが普及してきて当分野においてもその使用例が多数発表されてきている。最近では新型コロナウイルス感染症に伴う対応20病院勤務の看護師等5,000

名の院内、院外の差別・偏見、応援・激励の実態を共起ネットワーク分析で行い、院内（患者、医師等）、保育所、幼稚園、小中学校、近隣、実家等で状況が大きく異なることが明らかになった。

③教員の主な個別研究テーマと実績

<新潟県との連携による研究>

特定健康診査の質問票と新潟県版塩分チェックリストによる推定食塩量との関連。

<情報処理・情報工学関連の研究>

ロボットの四足歩行パターンを正確に制御、切替える研究、また医療・保健・福祉系のための情報（コンピュータ）リテラシー向上の研究等を行っている。

<診療情報管理士（HIM）資質向上に関する研究>

認定試験のコーディング科目得点率向上のための効率的学習法に関する研究を行っている。

<食品に関する研究>

- ・災害食の安定備蓄に関する研究

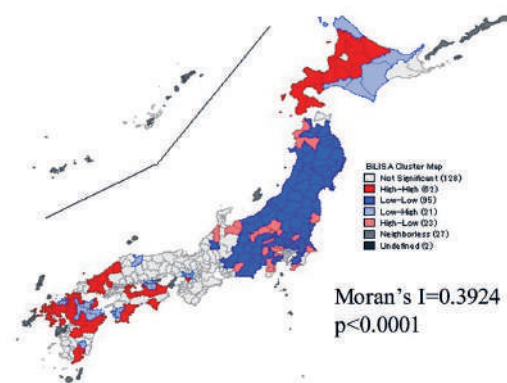
関連企業におけるBCPの策定状況と策定に関連する要因分析等。

- ・健康食品の利用に関する研究

利用者のヘルスリテラシーの水準、疾患との関連に関する研究を行っている。



▲図1 拡大院生研究会における研究討議風景 2015年6月11日



▲図2 二次医療圏単位でみた療養病床数人口比と後期高齢者一人平均医療費（2013）との関連性 ―地域集積性（LISAクラスターマップ）

（3）社会貢献

教員・学部生・大学院生が一体となり、また、他学科の教員や行政、地域の関係団体と連携して幅広い分野で社会貢献活動を実施している。



▲図3 新潟市北区太夫浜介護予防事業指導



▲図4 新潟市北区白勢町介護予防事業指導



▲図5 新潟市北区南浜中学校認知症サポーター養成講座



▲図6 新潟市北区南浜コミュニティ協議会介護予防事業

(4) 国際交流

医療情報管理学科では、教育と研究の相互発展のために海外の大学との交流を推進している。2016年には当学科が窓口となって、ロシアの極東州立医科大学との国際交流協定を延長した。主な交流事業としては、学生を伴った国際会議での発表、共同研究の実施、教員の短期留学、医療機関の相互視察を行っている。特に共同研究においては、両大学の持つ特徴を活かし、高齢者介護予防、健康栄養、母子保健などの分野に取り組んでいる。

また、2019年から台湾の輔英科技大學と国際交流協定を締結した。輔英科技大學は本学の学部学科と共通する分野が多く、全学的な交流に向けて取り組んでいる。



▲図7 国際会議での発表者と極東州立医科大学の教員



▲図8 極東州立医科大学教員による日本の電子カルテシステム視察

5) 学科の3ポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

高等学校卒業相当の英語・国語・数学および入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

他者の話を理解するとともに、自らの意見をわかりやすく伝える能力を有する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

常に人に対する思いやりをもつとともに、自ら積極的に行動しようとする態度を有する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

ある事象に対して自分なりの思考に基づいた判断をくだすために多くの事柄を考慮し、まとめる能力を

有する。

[Self-realization] 自己実現意欲

医療・経営・情報の領域に強い関心があり、関連する資格を取得し、将来、その分野で活躍しようとする高い意欲を有する。

(2) カリキュラム・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

専門技術者として必要な技術や人間を理解できる教養を身につけるために医療・経営・情報に関する基礎から応用に至る幅広い内容をもつ専門基礎科目群を配置する。成果は資格試験合格率で評価する。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

自己を表現し、実践する能力を身につけるとともに、対象者や他の職種とコミュニケーションをとりながら連携する技術を身につけるためにゼミ形式の自己表現法、自己実現法、キャリア開発などの授業を配置する。成果は専門基礎科目の成績により評価する。

[Empowerment] 対象者を支援する力

医療福祉分野、情報分野などで活躍できる知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置し、それを各分野で実践するための能力を涵養するために演習科目を配置する。成果は専門専攻の演習科目の成績で評価する。

[Problem-solving] 問題を解決する力

医療・経営・情報に関する分野で、問題点を発見・分析・解決するための知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置する。成果は専門専攻科目の成績で評価する。

[Self-realization] 自己実現意欲

医療・経営・情報などの分野で生涯に渡って問題意識と探求心をもち続け、自分自身を向上させるための心構えを身につけるために卒業研究などの専門科目を配置する。成果は卒業研究で評価する。

(3) ディプロマ・ポリシー

[Science & Art] 科学的知識と技術を活用する力

人を理解するための幅広い教養をもち医療・経営・情報に関する専門的な知識と技術を活用できる。

[Teamwork & Leadership] チームワークとリーダーシップ

対象者、同僚、保健・医療・福祉の関連職種と良好なコミュニケーションおよび連携をとることができる。

[Empowerment] 対象者を支援する力

社会人の一員としての礼節をわきまえ、専門的な職業人としての使命感や責任感を有し、対象者の尊厳を尊重し、適切に行動できる。

[Problem-solving] 問題を解決する力

職場や地域社会で医療情報管理分野の専門的な知識に根ざした思考と判断により問題解決できる。

[Self-realization] 自己実現意欲

国際化・グローバル化する社会の変化や医療情報技術の進歩に関心をもち続け、自らを高めるため、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

1. 各専攻・分野設置の推移等

新潟医療福祉大学大学院は、2005年度に修士課程保健学専攻と社会福祉学専攻の2専攻・6分野を設置し、2006年度には第一期となる修士課程修了生25名を輩出した。その後、2007年度には健康科学専攻、2014年度には医療情報・経営管理学専攻を加え、2020年度現在、修士課程は4専攻12分野からなる多様な分野で構成されている。また、2007年度には、博士後期課程医療福祉学専攻が開設され、2009年度には、4名の博士（保健学）の学位取得者を輩出した。

1) 修士課程

保健学専攻は、2005年度の大学院開設時に設置され、2006年度までは、理学療法学分野、作業療法学分野、言語聴覚学分野、健康栄養学分野の4分野で構成されていた。2007年度、健康科学専攻の開設に伴う改組によって、健康栄養学分野を除く3分野となった。2009年度に義肢装具自立支援学分野が設置され4分野となり、2015年度には医療技術安全管理学分野、2018年度には視覚科学分野が設置され、2020年度現在は、6分野で構成されている。健康科学専攻は、2007年度に、健康栄養学分野、健康スポーツ学分野、看護学分野の3分野で開設され、2020年度現在も同様の構成となっている。社会福祉学専攻は、2005年度の大学院開設時より、保健医療福祉政策・計画・運営分野と保健医療福祉マネジメント学分野の2分野で構成されている。医療情報・経営管理学専攻は、2014年度に開設され、医療情報・経営管理学分野の1分野で構成されている。

2020年度の修士課程担当教員は、119名（研究指導担当適格者（○合（M）82名、研究指導補佐担当適格者（合（M）23名、講義・演習・実習担当適格者（可）14名）である。

2) 博士後期課程

医療福祉学専攻は、2007年度に収容定員3名で開設された。2020年度現在も、1専攻で構成され、収容定員については、2016年度に8名、2018年度に10名に変更された。

2020年度の博士後期課程担当教員は、49名（研究指導担当適格者（○合（D）44名、研究指導補佐担当適格者（合（D）4名、講義・演習・実習担当適格者（可）1名）である。

▼表1 2020年度 修士および博士後期課程における専攻構成・授与学位・収容定員

課程	専攻	授与学位	分野	収容定員
修士	保健学	修士（保健学）	理学療法学	21
			作業療法学	
			言語聴覚学	
			義肢装具自立支援学	
			医療技術安全管理学	
			視覚科学	
	健康科学	修士（健康科学）	健康栄養学	10
			健康スポーツ学	
		修士（看護学）	看護学	
	社会福祉学	修士（社会福祉学）	保健医療福祉政策・計画・運営	5
			保健医療福祉マネジメント学	
	医療情報・経営管理学	修士（医療情報・経営管理学）	医療情報・経営管理学	4
博士後期	医療福祉学	博士（保健学）		10

2. 研究科・専攻等の特徴

1) 保健学専攻

(1) 開設年度：2005年度

(2) 収容定員（2020年度）：21名（資料編304P参照）

(3) 教員数（2020年度末）：54名（研究指導担当適格者（〇合（M）38名、研究指導補佐担当適格者（合（M）10名、講義・演習・実習担当適格者（可）6名）

(4) 専攻の特徴

①教育の特徴

保健学専攻は、保健・医療・福祉領域における多様なニーズに対し、積極的な連携によるサービスの質的向上を推進するために、リハビリテーション、義肢装具・福祉機器、心身機能等に関する研究と教育を進めるとともに、専門職教育に携わる人材を育成することを教育目標に掲げている。教育目標の達成を目指し、3つの方針（表2）を軸に、教学マネジメントを進めている。専攻独自の教育課程には、保健学専攻専門科目として、各分野の特徴的な特論科目や演習・実習科目が設置されている。中でも、理学療法学分野には、臨床徒手理学療法コースや急性期理学療法コースといった高度専門職業人育成に特化したプログラムが含まれている。

②研究の特徴

保健学専攻は、6分野と幅広い分野で構成されていることから、各分野において独自の基礎研究および臨床研究が進められている。理学療法学分野では、人類学・解剖学、神経生理、Pain、バイオメカニクス、運動生理、スポーツ医科学、ヘルスプロモーション、応用理学療法といった8つのラボを設置して、先端的な基礎・臨床研究を行っている。作業療法学分野では、運動生理学と脳科学に関する基礎研究と手外科学、高次脳機能学、内部障害学、ADL、認知症、自動車運転に関する臨床研究を行っている。言語聴覚学分野では、言語・聴覚系の構造・機能・病態に関する基礎および臨床研究とともに、摂食・

嚥下機能、高次脳機能に関わる障害や機序、評価・治療方法を総合的に探究する研究を進めている。義肢装具自立支援学分野では、3Dデジタル技術を応用した義肢装具の製作ならびに適合に関する研究や将来的に靴製作技能と義肢装具製作技能が融合することを見越して、人間工学や解剖学に基づいた靴の構造・設計に関する研究も進めている。医療技術安全管理学分野では、欧米中心に普及しているシステム化された管理技術により作成された医療安全管理システムを理解し、これを取り入れた管理システム構築に関連する研究を進めている。視覚科学分野では、視機能の特性を踏まえた原理や新たな視機能検査の開発に関する研究に加え、電気生理学や心理物理学の手法を用いて、視覚における脳の機能的な働きについての研究も進めている。

③国際交流・地域貢献の特徴

保健学専攻では、University of St. Tomas（フィリピン）、California State University（米国）、National Yang-Ming University（台湾）、University of Peradeniya（スリランカ）等の国外研究機関との共同研究を進めている。これらの国際共同研究においては、動作解析に必要なプログラミングや生体信号分析に関する研究手法の指導も行っている。また、地域の医療機関等で勤務する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士といった専門職者が多数在籍しており、より高度な専門職人材の育成を通して、それぞれの組織や地域の課題を解決することに貢献している。

▼表2 保健学専攻における3つの方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）	
Science & Art	幅広い教養とリハビリテーションや医療技術に関する高い科学的知識・技術を有するとともに、国外の情報収集に必要な英語力を有する。
Teamwork & Leadership	多職種間の連携技能を有し、国内外および地域社会においてリーダーシップを発揮し、職務を実践する強い意志と態度を有する。
Empowerment	人の多様な価値観や生き方を理解・尊重し、保健学領域における対象者の支援に対して強い意志を有する。
Problem-solving	リハビリテーションや医療技術に関する課題を学際的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を有する。
Self-realization	リハビリテーションや医療技術に関する課題に広く関心を持ち、主体的・意欲的に学習する態度を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として必要な知識と技術を修得するために、共通科目に専門基礎関連の科目および保健学専攻専門科目に特論科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Teamwork & Leadership	多職種間連携を図り、リーダーシップを発揮して職務を遂行する力ならびに身に付けた連携技能を伝える力を修得するために、共通科目に連携教育方法関連の科目および教育学関連の科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Empowerment	医療従事者として、対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を理解し、適切に支援できる力を涵養するために、共通科目に専門基礎関連の科目、保健学専攻専門科目に演習・実習科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Problem-solving	論理的思考力と問題を総合的に分析・考察して解決する力を高めるために、共通科目に研究方法関連の科目、保健学専攻専門科目に特別研究および課題研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。

Self-realization	リハビリテーションや医療技術に関わる教育研究活動や高度専門職業人としての実践活動を主体的に取り組む意欲を強化するために、共通科目に研究方法関連の科目および国際保健医療学関連の科目、保健学専攻専門科目に特別研究および課題研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
------------------	---

ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、リハビリテーションや医療技術に関する科学的知識と技術の基本を応用できる。また、保健学に関する情報を目的に応じて活用できる。
Teamwork & Leadership	保健学領域における知識と技術を基に、他領域の専門家と連携するための良好な関係を構築し、国際社会においてリーダーシップを発揮し、効果的に職務を実践できる。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観に基づき、国際化した社会の一員として対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、リハビリテーションや医療技術に関する専門家として適切な支援をすることができる。
Problem-solving	リハビリテーションや医療技術に関する科学的根拠を学際的に分析・考察し、得られた結論に基づき、より有効に対象者の問題を解決できる。
Self-realization	リハビリテーションや医療技術に関する高度専門職業人または教育研究者としての実践活動を生涯を通じて主体的・意欲的に続けることができる。

2) 健康科学専攻

(1) 開設年度：2007年度

(2) 収容定員（2020年度）：10名（資料編304P参照）

(3) 教員数（2020年度末）：39名（研究指導担当適格者（〇合（M））27名、研究指導補佐担当適格者（合（M））10名、講義・演習・実習担当適格者（可）2名）

(4) 専攻の特徴

①教育の特徴

健康科学専攻は、高齢社会の急速な進展に伴って増大・多様化する健康に関するニーズに対応して、多職種との積極的な連携とサービスの質的向上などを推進するために、栄養、スポーツ、看護の分野を中心とした健康科学等に関する研究と教育を進めるとともに、専門職教育に携わる人材を育成することを教育目標に掲げている。教育目標の達成を目指し、3つの方針（表3）を軸に、教学マネジメントを進めている。専攻独自の教育課程には、健康科学専攻専門科目として、各分野の特徴的な特論科目や演習・実習科目が設置されている。また、健康栄養学分野に臨床栄養専門コース、健康スポーツ学分野に専修免許取得コース、看護学分野に高度実践看護師（がん看護専門看護師）コースといった高度専門職業人育成に特化したプログラムが含まれている。

②研究の特徴

健康科学専攻は、健康栄養学・健康スポーツ学・看護学分野において独自の基礎研究および臨床研究が進められている。健康栄養学分野では、食を通じた健康の保持・増進、疾病の治療・重症化予防に関する研究やおいしさを追求した介護食、食事の栄養分析等に関する研究といった栄養学に関する研究だけでなく、スポーツ・運動や疼痛等に関する生理学・生化学的研究も進めている。健康スポーツ学分野

では、コーチング、バイオメカニクス・トレーニング、スポーツ医学、応用健康科学、運動生理学・スポーツ栄養学、スポーツ心理学、スポーツ生理学、スポーツ社会学・政策学、スポーツ教育学・運動学、教育学、保健・体育科教育学といった11のラボを設置して、先端的な基礎的・臨床研究を行っている。看護学分野では、小児看護学、高齢者看護学、精神看護学、ウィメンズヘルス看護学、慢性病看護学、がん看護学、コミュニティケア、看護管理学の8専門分野に関する基礎および臨床研究を実施している。

③国際交流・地域貢献の特徴

健康科学専攻では、University of Sydney（オーストラリア）、King Juan Carlos University（スペイン）、University of Adelaide（オーストラリア）、極東医科大学（ロシア）等の国外研究機関との共同研究を進めている。また、地域の医療機関および教育機関等で勤務する管理栄養士、看護師、保健師、初等・中等学校教員も在籍しており、大学院における研究活動を通して、それぞれの組織や地域の課題を解決することに貢献している。

▼表3 健康科学専攻における3つの方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）	
Science & Art	幅広い教養と健康科学領域における高い科学的知識・技術を有するとともに、国外の情報収集に必要な英語力を有する。
Teamwork & Leadership	多職種間の連携技能を有し、国内外および地域社会においてリーダーシップを発揮し、職務を実践する強い意志と態度を有する。
Empowerment	人の多様な価値観や生き方を理解・尊重し、健康科学領域における対象者の支援に対して強い意志を有する。
Problem-solving	健康科学領域に関する課題を学際的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を有する。
Self-realization	健康科学領域に関する課題に広く関心を持ち、主体的・意欲的に学習する態度を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として必要な知識と技術を修得するために、共通科目に専門基礎関連の科目および健康科学専攻専門科目に特論科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Teamwork & Leadership	多職種間連携を図り、リーダーシップを発揮して職務を遂行する力ならびに身に付けた連携技能を伝える力を修得するために、共通科目に連携教育方法関連の科目および教育学関連の科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Empowerment	対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を理解し、適切に支援できる力を涵養するために、共通科目に専門基礎関連の科目、健康科学専攻専門科目に演習・実習科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Problem-solving	論理的思考力と問題を総合的に分析・考察して解決する力を高めるために、共通科目に研究方法関連の科目、健康科学専攻専門科目に特別研究および課題研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Self-realization	健康科学領域における教育研究活動や高度専門職業人としての実践活動を主体的に取り組む意欲を強化するために、共通科目に研究方法関連の科目および国際保健医療学関連の科目、健康科学専攻専門科目に特別研究および課題研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。

ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、健康科学を中心とした科学的知識と技術の基本を応用できる。また、健康科学に関する情報を目的に応じて活用できる。
Teamwork & Leadership	健康科学領域における知識と技術を基に、他領域の専門家と連携するための良好な関係を構築し、国際社会においてリーダーシップを発揮し、効果的に職務を実践できる。また、身に付けた連携技能を伝えることができる。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観に基づき、国際化した社会の一員として対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、健康科学の専門家として適切な支援をすることができる。
Problem-solving	健康科学に関する科学的根拠を学際的に分析・考察し、得られた結論に基づき、より有効に対象者の問題を解決できる。
Self-realization	健康科学領域における高度専門職業人または教育研究者としての実践活動を生涯を通じて主体的・意欲的に続けることができる。

3) 社会福祉学専攻

(1) 開設年度：2005年度

(2) 収容定員（2020年度）：5名（資料編304P参照）

(3) 教員数（2020年度末）：13名（研究指導担当適格者（○合（M））7名、研究指導補佐担当適格者（合（M））0名、講義・演習・実習担当適格（可）6名）

(4) 専攻の特徴

①教育の特徴

保健・医療・福祉サービスを総合的に提供し、患者・障害者をはじめ市民のQOL向上と自立を支援するための方策を、国家・国民社会レベル、地域社会・施設・組織レベル、個人・家族レベルの3レベルについて、相互関連を重視しつつ調査研究し、保健・医療・福祉関係各専門職従事者の資質・専門的能力の向上に寄与することを教育目標に掲げている。教育目標の達成を目指し、3つの方針（表4）を軸に、教学マネジメントを進めている。専攻独自の教育課程には、社会福祉学専攻専門科目として、各分野の特徴的な特論科目や演習・実習科目が設置されている。また、認定社会福祉士単位取得コースを設置し、高度専門職業人育成を進めている。

②研究の特徴

社会福祉学専攻では、社会福祉学、社会学、地域政策学、心理学等の学問領域を基盤に、理論と実践を融合させた研究に取り組んでいる。保健医療福祉政策・計画・運営分野では、国および自治体等による保健医療福祉政策・計画策定・実施に関する研究を、保健医療福祉マネジメント学分野では、ゼネラリスト・ソーシャルワークを中心としてソーシャルワークの理論と実践事例に関する研究を進めている。両分野ともに、保健医療福祉に関する政策からソーシャルワーク実践にいたる幅広い課題に対して、専門的かつ総合的で理論的・実証的な研究を実施している。

③国際交流・地域貢献の特徴

社会福祉学専攻に所属する多くの教員が、社会福祉施設や自治体等の地域社会に研究フィールドを有していることや、社会福祉士や介護福祉士として活躍している社会人が多く在籍していることから、国内外の多文化共生社会や地域共生社会に関する現地調査や現地研究などのフィールドワークを通して、

福祉社会の推進に貢献している。また、中国やスリランカから留学生を受入れ、各国の保健・医療・福祉領域における社会的課題を解決することに貢献している。

▼表4 社会福祉学専攻における3つの方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）	
Science & Art	幅広い教養と福祉社会の構築に必要な基礎的な科学的知識・技術を有するとともに、国外の情報収集に必要な英語力を有する。
Teamwork & Leadership	多職種間の連携技能を有し、国内外および地域社会においてリーダーシップを発揮し、職務を実践する強い意志と態度を有する。
Empowerment	人の多様な価値観や生き方を理解・尊重し、社会福祉学領域における対象者のエンパワメントの視点を踏まえた支援に対して明確な意志を有する。
Problem-solving	社会福祉に関する課題を学際的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を有する。
Self-realization	社会福祉を構成する諸要素の動向に広く関心を持ち、主体的・意欲的に学習する態度を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として必要な知識と技術を修得するために、共通科目に専門基礎関連の科目および社会福祉学専攻専門科目に特論科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Teamwork & Leadership	多職種間連携を図り、リーダーシップを発揮して職務を遂行する力ならびに身に付けた連携技能を伝える力を修得するために、共通科目に連携教育方法関連の科目および教育学関連の科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Empowerment	社会福祉に関する専門家および対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を理解し、適切に支援できる力を涵養するために、共通科目に専門基礎関連の科目、社会福祉学専攻科目に演習科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Problem-solving	論理的思考力と問題を総合的に分析・考察して解決する力を高めるために、共通科目に研究方法関連の科目、社会福祉学専攻専門科目に特別研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Self-realization	社会福祉に関わる教育研究活動や高度専門職業人としての実践活動を主体的に取り組む意欲を強化するために、共通科目に研究方法関連の科目および国際保健医療学関連の科目、社会福祉学専攻専門科目に特別研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。

ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、社会福祉に関する科学的知識と技術の基本を応用できる。また、社会福祉に関する情報を目的に応じて活用できる。
Teamwork & Leadership	社会福祉に関する知識と技術を基に、他領域の専門家と連携するための良好な関係を構築し、国際社会においてリーダーシップを発揮し、効果的に職務を実践できる。また、身に付けた連携技能を伝えることができる。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観に基づき、国際化した社会の一員として対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、社会福祉に関する専門家として適切な支援をすることができる。
Problem-solving	社会福祉に関する科学的根拠を学際的に分析・考察し、得られた結論に基づき、より有効に対象者の問題を解決できる。

Self-realization	社会福祉に関する高度専門職業人または教育研究者としての実践活動を生涯を通じて主体的・意欲的に続けることができる。
------------------	--

4) 医療情報・経営管理学専攻

(1) 開設年度：2014年度

(2) 収容定員（2020年度）：4名（資料編304P参照）

(3) 教員数（2020年度末）：13名（研究指導担当適格者（○合（M））10名、研究指導補佐担当適格者（合（M））3名、講義・演習・実習担当適格（可）0名）

(4) 専攻の特徴

①教育の特徴

患者（利用者）満足度、病院（施設）経営の質と効率性の向上を遅延させているクリティカル・パス（遅延決定要素）を同定し、改善策（近道）を見つけることに貢献できる、時代の流れに即応した医療情報管理の専門家を養成することを教育目標に掲げている。教育目標の達成を目指し、3つの方針（表5）を軸に、教学マネジメントを進めている。専攻独自の教育課程には、医療情報・経営管理学専攻専門科目として、分野の特徴的な特論科目や演習・実習科目が設置されている。

②研究の特徴

医療情報・経営管理学の視点から病院・施設での課題解決の糸口になる研究に取り組んでいる。例えば、患者満足度の向上の為にクリティカル・パス、プロペンシティ・スコア法等を用いて、広く実施されているが効果の判定に異論が有り判然としない医療技術評価、リハビリ関連病院と福祉施設、在宅介護との最適連携等院生の職場での課題解決や就職に貢献する研究を進めている。

③国際交流・地域貢献の特徴

医療情報・経営管理学専攻では、極東医科大学（ロシア）等の国外研究機関との共同研究を進めるとともに、ベトナムや中国からの留学生を多数受け入れ、各国の保健・医療・福祉領域における課題解決に貢献している。また、地方自治体や医療機関に勤務する職員・専門職者等が多数在籍しており、大学院における研究活動を通して、それぞれの組織や地域の課題を解決することに貢献している。

▼表5 医療情報・経営管理学専攻における3つの方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）	
Science & Art	幅広い教養と医療情報・病院等経営管理に関する高い科学的知識・技術を有するとともに、国外の情報収集に必要な英語力を有する。
Teamwork & Leadership	多職種間の連携技能を有し、国内外および地域社会においてリーダーシップを発揮し、職務を実践する強い意志と態度を有する。
Empowerment	人の多様な価値観や生き方を理解・尊重し、医療情報・病院等経営管理学領域における対象者の支援に対して強い意志を有する。
Problem-solving	医療情報・病院等経営管理に関する課題を学際的に認識し、解決するために必要な基礎的知識または経験を有する。
Self-realization	医療情報・病院等経営管理に関する課題に広く関心を持ち、主体的・意欲的に学習する態度を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として必要な知識と技術を修得するために、共通科目に専門基礎関連の科目および医療情報・経営管理学専攻専門科目に特論科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Teamwork & Leadership	多職種間連携を図り、リーダーシップを発揮して職務を遂行する力ならびに身に付けた連携技能を伝える力を修得するために、共通科目に連携教育方法関連の科目および教育学関連の科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Empowerment	医療情報・病院等経営管理に関する専門家および対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を理解し、適切に支援できる力を涵養するために、共通科目に専門基礎関連の科目、医療情報・経営管理学専攻専門科目に演習科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Problem-solving	論理的思考力と問題を総合的に分析・考察して解決する力を高めるために、共通科目に研究方法関連の科目、医療情報・経営管理学専攻専門科目に特別研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Self-realization	医療情報・病院等経営管理に関わる教育研究活動や高度専門職業人としての実践活動を主体的に取り組む意欲を強化するために、共通科目に研究方法関連の科目および国際保健医療学関連の科目、医療情報・経営管理学専攻専門科目に特別研究を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。

ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、医療情報・病院等経営管理に関する科学的知識と技術の基本を応用できる。また、医療情報・経営管理に関する情報を目的に応じて活用できる。
Teamwork & Leadership	医療・病院等経営・情報に関する知識と技術を基に、他領域の専門家と連携するための良好な関係を構築し、国際社会においてリーダーシップを発揮し、効果的に職務を実践できる。また、身に付けた連携技能を伝えることができる。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観に基づき、国際化した社会の一員として対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、医療情報・病院等経営管理に関する専門家として適切な支援をすることができる。
Problem-solving	医療情報・病院等経営管理に関する科学的根拠を学際的に分析・考察し、得られた結論に基づき、より有効に対象者の問題を解決できる。
Self-realization	医療情報・病院等経営管理に関する高度専門職業人または教育研究者としての実践活動を生涯を通じて主体的・意欲的に続けることができる。

5) 医療福祉学専攻

(1) 開設年度：2007年度

(2) 収容定員（2020年度）：10名（資料編304P参照）

(3) 教員数（2020年度末）：49名（研究指導担当適格者（〇合（D））44名、研究指導補佐担当適格者（合（D））4名、講義・演習・実習担当適格（可）1名）

(4) 専攻の特徴

①教育の特徴

医療福祉学専攻は、保健・医療・福祉・スポーツに関する深い専門性、多様な専門領域との連携を発展させる力、豊かな人間性と高潔な倫理観に基づく幅広い教養を身に付けることで、めまぐるしく変化

する倫理的・法制度的・社会的課題の解決を先導できる教育研究者および高度専門職業人を養成することを教育目標に掲げている。教育目標の達成を目指し、3つの方針（表6）を軸に、教学マネジメントを進めている。専攻独自の教育課程として、心身機能学、福祉人間工学、地域・国際保健福祉学の3領域に関する講義・演習科目が設置されている。

②研究の特徴

医療福祉学専攻は、心身機能学、福祉人間工学、地域・国際保健福祉学の3領域に分類して、独自の研究に取り組んでいる。心身機能学領域では、生体力学的、生化学的および電気生理学的等の研究手法を用いて、運動・動作・行動・感覚機能等に関する研究や運動障害、認知症、失行・失認・失語症等の高次脳機能障害に対する新たな評価法・治療法を開発するための研究等、医学・医療・工学・スポーツといった学際的な課題を解決するための研究を進めている。福祉人間工学領域では、コンピュータを駆使した最新の身体動作分析の手法や人間工学的な手法を用いて、福祉向上に役立つ福祉用具・装具・義肢・靴などをどのように人間に適合させるかに関する研究を進めている。また、基礎研究で得られた成果をもとに、優れた福祉用具の開発やリハビリテーションの方法、健康増進の方法に関する研究にも取り組んでいる。地域・国際保健福祉学では、自然科学から社会科学まで多様な研究手法を用いて、予防保健学、公衆衛生学、国際保健学、健康政策学、社会福祉学等の視点で、地域、国際レベルでの人間集団を対象とした健康や福祉の向上を目指した研究に取り組んでいる。

③国際交流・地域連携の特徴

医療福祉学専攻では、多数の国外研究機関との国際共同研究を進めているとともに、国際学会や国際誌において研究成果を積極的に公表している。また、中国・ベトナム・タイ・台湾・トゴ等、多数の国々から留学生を受け入れており、各国における医療福祉学に関連する研究推進や専門職人材の育成に貢献している。また、医療機関や地域において専門職として勤務している院生が多く在籍していることから、研究活動を通して、現場の課題解決に取り組んでいる。

▼表6 医療福祉学専攻における3つの方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、保健・医療・福祉・スポーツ領域における科学的知識と技術の基本を有する。また、世界に向けて情報発信するための基礎的英語力を有する。
Teamwork & Leadership	多職種間の連携技能に加え、国際社会等においてリーダーシップを発揮し、職務を実践する強い意志と態度を有する。
Empowerment	高度専門職職業人または教育研究者として、対象者の支援をさらに発展させる強い意志を有する。
Problem-solving	保健・医療・福祉・スポーツにおける問題を学際的に認識し、解決できる体系的な高度専門知識と問題解決するための基礎的研究手法を有する。
Self-realization	高度専門職業人または教育研究者として主体的・意欲的に自己実現を達成しようとする態度を有する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	
Science & Art	高度専門職業人または教育研究者として、高度な知識と技術を発展させ、その成果を世界に向けて発信する力を修得するために、特殊講義、演習、特殊研究それぞれの科目のなかで30%程度、当該内容を設定する。成果は履修科目の成績により評価する。

Teamwork & Leadership	他領域の専門家とのより発展した関係を構築し、国際的に優れた成果を生み出す力を修得するために、特殊講義科目のなかで10%程度、当該内容を設定する。また、連携技能を有する人材を育成する力を習得するために、教育学関連の科目を配置する。成果は履修科目の成績により評価する。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観、対象者への発展的な支援ができる素養を涵養するために、特殊講義科目のなかで20%程度、当該内容を設定する。成果は履修科目の成績により評価する。
Problem-solving	国際的に秀でた研究、開発能力を高めるために、特殊講義科目のなかで20%、演習・特殊研究それぞれの科目のなかで70%程度、当該内容を設定する。成果は履修科目の成績により評価する。
Self-realization	高度専門職業人または教育研究者として国際的に活躍するという自己実現意欲を強化するために、特殊講義科目のなかで20%程度、当該内容を設定する。「医学研究の英語論文作成から投稿、掲載受理まで」等の講演でも当該内容を含む。成果は履修科目の成績により評価する。

ディプロマ・ポリシー（修了認定方針）	
Science & Art	より優れた高度専門職業人または教育研究者として学際的・総合的な観点から保健・医療・福祉・スポーツ領域の知識と技術の発展に貢献できる。またその成果を世界に向けて発信することができる。
Teamwork & Leadership	保健・医療・福祉・スポーツ領域における高度な知識と技術、卓越したリーダーシップ、グローバルな判断力により他領域の専門家とのより発展した関係を構築し、国際的にも優れた成果を生み出すことができる。また、連携技能を有する人材を育成することができる。
Empowerment	豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、国際化した社会の一員として対象者の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、適切な支援をさらに発展させることができる。
Problem-solving	より優れた高度専門職業人または教育研究者として自立して対象者の問題を解決し、研究へと発展させることができる。
Self-realization	より優れた高度専門職業人または教育研究者として国際的に活躍できる研究能力や高度専門的知識と技術を生涯を通じてさらに発展させ、自己実現に近づくことができる。

6) その他

青年海外協力隊等プログラム

青年海外協力隊等プログラムは、修士課程4専攻にまたがる教育課程で、独立行政法人国際協力機構（JICA）と本学大学院による東日本初の実地研修プログラムである。具体的には、青年海外協力隊等のJICA海外協力隊（保健・医療・福祉・スポーツ関連の分野）派遣中のフィールドワークを大学院のフィールド実習とみなし、青年海外協力隊等に参加しながら、修士の学位が取得できるものとなっている。主に、国際協力の現場で培った知識と経験を基に、問題解決能力を高めて国際貢献を目指したい、もしくは派遣前に国際保健協力のスキルを向上させたい方等を対象としており、国際貢献活動での経験が豊富な教員や青年海外協力隊の経験者による授業を展開している。



第5章

教育・学生支援

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1) 教育課程の編成方針

保健・医療・福祉・スポーツに関する社会的ニーズの高度化や多様化に対応するため、豊かな人間性や高度な専門知識・技術及び各種専門職との連携能力を有する優れたQOLサポーターを育成することをカリキュラムの編成方針としている。本学の教育課程は、全学共通の教育目的である「優れたQOLサポーターの育成」を実現するためにSTEPSに基づいたカリキュラム・ポリシーを踏まえて編成されている。

2) 教育課程の全学科共通の枠組みと各学科の教育目的

本学は保健・医療・福祉・スポーツ分野の総合大学であることから、そのメリットを最大限に生かし、連携教育の実践、コミュニケーション力の獲得、海外研修・国際交流の推進、地域貢献活動と学生教育の融合、大学生活の充実といった教育活動が実施できるように「基礎教養科目群」の他、「保健医療福祉教養科目群」や「保健医療福祉連携科目群」を設定している。「基礎教養科目群」においては優れたQOLサポーターとして必要な語学や情報処理能力を習得するための科目を設定し、「保健医療福祉教養科目群」や「保健医療福祉連携科目群」では専門職倫理や専門職間の相互理解・連携能力を体系的に修得できるように編成している（表1）。なお、本学ではこれらの3区科目群を合わせて広義の「教養教育」と定義し、その中で卒業に必要な単位数は、学科により「基礎教養科目群」で6～7単位、「保健医療福祉教養科目群」と「保健医療福祉連携科目群」で合わせて7～8単位、合計は全学共通で14単位と設定している。

さらに本学では国家資格やその他の資格、教職免許を得ることも大きな教育目標であることから、各学科の「専門基礎科目群」や「専門専攻科目群」には高い合格率が得られるよう必要な必修科目や指定科目を設定している。いずれも各学科の教育目的やディプロマポリシーを配慮しつつ、学年を追うごとに基礎から応用へと段階的に専門知識を習得できるように編成されている。

全学的な教育課程の見直しは平成30（2018）年度の学部再編の際に実施され、学則第6条（学部）別表に定められた各学科の教育の目的（表2）に従って、指定科目、科目の配当学年、受講順序、履修条件等がカリキュラム・ポリシーに従って変更された。また、年次別履修科目の上限についても見直された。

▼表1 大学の教養教育と担当組織

科目群	科目名	担当組織
基礎教養科目群	基礎ゼミ	教育開発委員会、教員
	情報処理Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	担当教員（医療情報管理学科所属）
	英語Ⅰ、Ⅱ、アカデミック英語Ⅰ、Ⅱ	担当教員（社会福祉学科所属）、非常勤
	韓国語、中国語、スペイン語、ドイツ語（それぞれⅠ、Ⅱ）	担当教員（社会福祉学科所属）、非常勤
	日本語表現Ⅰ、Ⅱ	教育開発委員会、学科
	スポーツ・健康、スポーツ・実践	担当教員（健康スポーツ学科所属）
保健医療福祉教養科目群	28科目	教務委員会、科目担当学科
保健医療福祉連携科目群	チームアプローチ入門	新潟連携教育研究センター
	連携基礎ゼミ	新潟連携教育研究センター、全教員
	保健医療福祉連携学 保健医療福祉リスクマネジメント論 地域連携学 連携総合ゼミ	新潟連携教育研究センター、 複数学科教員

▼表2 各学科の教育研究上の目的

理学療法学科	理学療法学科は、時代が求める「優れたQOLサポーター」の一翼を担う理学療法士を育成し、社会に貢献することを使命としている。医療、福祉、健康・スポーツなどの領域で高い倫理観、向上心、探求心をもって臨床・研究活動に貢献し、それぞれの領域にて中心的・指導的な役割を果たし、対象者の問題解決に寄与できる人材の育成を図る。さらに、学内外の実習や国際交流等様々な活動を通してこれらの態度、意欲を涵養し、実践的行動力を醸成する。
作業療法学科	作業療法学科は、作業療法士に必要な幅広い教養と専門的知識・技能を有し、作業の意味や価値を人間の生活、心身機能、文化・社会と結びつけて総合的に解釈することにより作業が健康に及ぼす影響を論理的に考察できる能力を育成する。また、医療専門職として人間の尊厳を尊重できる豊かな人間性をもって対象者と良好な関係性を構築し、多職種との連携を深めることができる素養を育む。さらに、生涯を通じて科学や社会の発展に関心をもち続け、作業療法を主体的に探求しようとする使命感や責任感を涵養する。
言語聴覚学科	言語聴覚学科は、言語聴覚障害ならびに摂食嚥下障害のある人を取りまく諸問題を解決するために必要な幅広い教養と専門知識・技能を有する言語聴覚士を育成する。科学的な評価と分析的観察から得られた情報を総合的に解釈し、他の職種との連携を通して適切に判断し行動できる能力を涵養する。また、言語聴覚障害学とその関連領域の進歩に関心をもち自己研鑽を続ける意欲を有し、社会に貢献できる「優れたQOLサポーター」としての人材を養成する。
義肢装具自立支援学科	義肢装具自立支援学科は、義肢装具士に必要な幅広い教養と専門的知識・技能を習得し、義肢装具と福祉用具・機器の役割や必要性を対象者の心身の状態、生活と社会の環境に基づいて解釈し、対象者のQOLに及ぼす影響を論理的に考察でき、具体的に説明できる能力と基本的な製作・調整・適合ができる技術を育成する。さらに、義肢装具と福祉用具・機器の発展に関心をもち続け、探究心と自己研鑽によって社会貢献し続ける使命感和責任感を涵養する。
臨床技術学科	臨床技術学科は、臨床工学技士と臨床検査技師の二つの国家資格を有し、これまでより踏み込んだ形で幅広い医療業務に携わり、時代とともに進歩する先端医療にも対応しうる臨床技術者を育成する。この実現には、保健・医療・福祉に強い関心を持続させ、修得した確かな知識・技能をもとに論理的な思考や記述ができ、コミュニケーションを重視して、同僚および他の専門職との連携医療を担える能力を育成する。
視機能科学科	視機能科学科は、視能訓練士に必要とされる視覚機能に関する高度な専門知識・技術を習得し、視覚機能に関し論理的に思考し、科学的根拠に基づく的確な判断ができる能力を育む。生涯を通じて専門分野の動向、社会情勢に関心をもち続け、医療の進歩に貢献できるよう自己を高める意欲を培う。さらに、深い学識および豊かな人間性を育み、関連職種との円滑な連携が構築できる人材の育成を図る。
救急救命学科	救急救命学科は、病院前救急救命医療に係る専門的知識・技能を基盤とした科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する救急救命士を育成する。救急救命士として、健全な人間性と倫理観、強い使命感と奉仕の精神をもち、他の専門職と協働して病院前救急救命医療および災害・防災の分野で地域社会における住民の保健に貢献できる人材を養成する。

診療放射線学科	診療放射線学科は、診療放射線技師に必要とされる高度な専門知識と技術を習得し、常に進歩する診療放射線技術や医療技術に対応しうる能力を育成する。また、チーム医療の一翼を担う医療専門職として、健全な人間性と倫理観、常に専門性を追求する意欲をもち、他の専門職と協働して地域医療や救急医療に貢献する能力を涵養する。さらに、医療サービス対象者と良好な関係を構築するためのコミュニケーション力、論理的思考力、判断力を身に付け、科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する人材を養成する。
健康栄養学科	健康栄養学科は、健康の保持・増進、疾病の治療・重症化予防、虚弱・介護予防等の対象者に、医療行為である栄養の指導（生体機能に影響を及ぼす食事の内容・タイミング・回数、栄養補給法等を調節し、対象者の栄養代謝や身体機能を制御する）を科学的根拠に基づいて実施できる高度な能力と思いやりの心を有する管理栄養士・栄養士を育成する。さらに、研究心および職業倫理を涵養し、公衆衛生の向上に寄与できる人材の育成を目指す。
健康スポーツ学科	健康スポーツ学科は、スポーツ・運動を通して幅広い教養と専門的知識・技能を習得し、健康やスポーツの意義や価値を人間の生活、心身機能、文化・社会と結びつけて理解し、スポーツ科学や健康科学を論理的に思考でき、かつ基本的なスポーツや健康づくりを指導できる実践的能力を育成する。さらに、生涯を通じて科学や社会の発展に関心をもち続け、スポーツ・運動そして健康に主体的に関わり探求しようとする使命感や責任感を涵養する。
看護学科	看護学科は、人の多様な価値観を尊重し、人権擁護に基づく行動がとれる倫理的能力や看護者として必要な幅広い教養と豊かな人間性を培い、専門的知識と方法論を用いて課題を解決していくための判断力と問題解決能力を育成する。さらに、保健医療福祉における看護の役割を果たし、連携医療を担える能力を育成するとともに、看護の動向や社会の変化に関心をもち続け、地域・国際社会におけるヒューマンケアリングに基づいた看護を探求しようとする使命感と責任感を涵養する。
社会福祉学科	社会福祉学科は、福祉社会の構築に必要な専門的な知識と人間を理解するための幅広い教養、専門的な知識に根ざした思考力と判断力を養成する。また、福祉社会の構成要素の動向に関心をもち、福祉増進のための課題をとらえる意欲と、人間の多様な生き方や個性、自己表現の方法を多角的に理解し、人権と人格を尊重する態度を涵養する。さらに、社会福祉専門職としての問題解決能力と、対象となる個人や集団と良好な関係を築き、同僚や関連職種・機関と連携できる能力を育成する。
医療情報管理学科	医療経営管理学科は、医療・経営・情報に関する専門的知識を有し、医療情報管理分野の専門的知識に根ざした思考力・判断力を涵養する。また、社会の変化、医療情報技術の進歩に関心をもち続け生涯を通じて主体的に学び続ける姿勢を養成する。さらに、社会人の一員として、専門的職業人として、礼節・使命感・責任感をもち対象者・同僚・関連職種と良好なコミュニケーションがとれる能力と問題解決能力を有する「優れたQOLサポーター」を育成する。

3) 本学の特徴的な教育

(1) 基礎ゼミ

本学では学生と教員の結びつきを大切にしてきた。その一つが基礎ゼミである。基礎ゼミでは英語などの教養科目の教員も含め全教員が6名程度の学生を担当し、大学生活を開始するにあたっての生活指導や図書館の利用方法の指導、履修方法の支援や基礎学習法の指導等を行う。また、4年間の学びや大学生活を有意義なものとするための動機付けを行うと共に、学びや活動支援は教員だけがするのではなく、学生同士で相互に支援し合うことも指導する演習科目である。

(2) 日本語表現法

日本語表現法科目は、「日本語表現法Ⅰ」と「日本語表現法Ⅱ」がある。「日本語表現法Ⅰ」では、高等教育を推し進めていく上で必要とされる「読む」「書く」「発表する」ことを中心とした日本語の文章作成能力の修得を目標とし、その能力の継続的向上を図る。本科目では、ディクテーション（聞き書き）、口頭発表トレーニング等を行い、情報を正確に記載する力や伝える力の向上を目指すと共に、レポートの書き方について学修する。「日本語表現法Ⅱ」では、Ⅰにおける学修をもとに、「読む」「書く」

「話す」「発表する」ことを中心とした日本語の会話能力、発表能力の修得を目標とし、その能力の継続的向上を目指す。本科目では、文章読解及び要約トレーニング、情報理解トレーニング等を行う。また、レポートと論文との違いについて、いっそう理解を深める。

(3) 保健医療福祉教養科目

本学の特色である保健医療福祉教養科目群には、「コミュニケーション学入門」、「命の倫理」、「臨床医の世界」、「加齢と身体」、「目の神秘」、「臨床の哲学」等、全28科目が設定されている。ほとんどの科目は、学内の専任教員が担当教員となり、多くの科目で複数クラスを開講し、学生の受講の希望に応えている。「一次救命処置法」では、除細動器（AED）の使用法や人工呼吸、心臓マッサージを学ぶ。この科目の単位を取得した学生は同消防局長認定の普通救命講習Ⅰの資格を取得できる。また健康スポーツ学科では、「救急法実習」という科目で日本赤十字社の専門職員から指導を受けた認定専門講師により授業を実施している。

(4) 保健医療福祉連携科目

保健医療福祉連携科目群には、連携に必要な知識を習得する科目、「チームアプローチ入門」（1年次後期、リハビリテーション学部のみ必修、他学部は選択）、「連携基礎ゼミ」（2年次後期、必修）、「保健医療福祉連携学」（3年次前期、選択）、「地域連携学」（3年次後期、選択）、「連携総合ゼミ」（4年次前期、選択）が段階的に配置されている。

1年次の「チームアプローチ入門」では専門職連携とは何か、保健医療福祉における連携の意義について学び、自分以外の職種に関心を持つことができる。2年次の「連携基礎ゼミ」では他学科の学生との混成チームでお互いに自分以外の他の職種について調べ各職種の業務や役割等について発表することと、一つの研究テーマを共同で調査し発表するという2つの課題について学習する。この課題を遂行する過程において他学科学生と相互に交流し、協力することで、チーム医療の一員として問題解決の基礎を養うことを目標にしている。これは、さらに高学年になって連携総合ゼミにつながっていく。3年次の「保健医療福祉連携学」では専門職連携のための理論や歴史を学び、実践家による講義や提供された事例をもとにグループワークを行う。チームで模擬ケースカンファレンスを実施し、対象者中心の支援の在り方を体験的に学んでいく。同じく3年次の「地域連携学」では多学科の学生が地域包括システムや保健、医療、福祉の様々の制度の実際を直接地域の施設を訪問し体験的に学ぶ。多職種で編成されたチームで体験学習とグループワークを通して地域の保健医療福祉のあり方について考える。

4年次の「連携総合ゼミ」は連携科目の集大成の科目として位置づけられ、本学で実施されている最も特徴的な科目であり、詳細は以下に示す。

(5) 連携総合ゼミ

「連携総合ゼミ」は、専門職が連携・協働し、チーム医療・チームアプローチの一員として国内外を問わず活躍できるよう協調性やリーダーシップを身につけることを目標に、4年次に配置された全学共通の選択科目である。

学生や教員は、新潟県内に加え海外の複数の大学からも毎年多く参加している。1つのゼミの学生は本人の希望も考慮し6～10人程度で構成し、各ゼミできめ細やかな指導ができるよう複数学科から複数

の教員が配置している。また参加学生に対しては、事前にゼミの指導教員と顔合わせをし、授業開始までの事前学習をゼミのメンバー間で取組むことを促進している。新しい協力教員には、授業の開始に先立ち、ファシリテーター養成講座を毎回開催して、質の高い授業を実現するための人材育成を行っている。

本科目の課題成果は、資料を通して英語あるいは日本語で発表し、同時通訳によって活発に質疑応答できるように配慮されている。また、同窓会メンバーからも意見を聞ける機会も設けられている。課題で用いる事例においては、参加大学で共同開発した連携教育のための「モジュール」31事例を本学のホームページ上に公開しており、そこから選んだ事例もしくは担当教員が新たに開発した事例を用いている。

(6) UROP

UROP (Undergraduate Research Opportunity Program) (研究プロジェクト演習 I～VI) は、担当教員の研究活動に参加しながら研究方法等を学んでいく科目であり、平成22 (2010) 年度に1年生後期以降の全学科の学生を対象として設けられた。期末には、全学的に研究発表会を実施し、各学生の研究成果を公表している。令和4 (2022) 年度には、基礎教養科目群に選択科目として配置される予定である。

(7) シミュレーション教育

各学科の到達目標には各領域の専門職となるための基本的な実践力ならびに専門資格を取得することが挙げられており、各学科には学外実習等の実践的な科目が配置されている。

看護学科では、メディカルシミュレーション教育センターを学内に持ち、コンピュータ制御により、小児・成人・妊婦などの対象別の特徴や体温・呼吸・脈・心拍などのバイタルサインを意図的に再現できる高性能シミュレーターを設置している。学生は、これらのシミュレーターが再現する様々な症状に対する必要な看護について考え、実践することで対象者に合わせた看護実践力を学ぶ。さらに高性能シミュレーターを用いた模擬病室での学習の様子は、別室のモニターでリアルタイムに見学できる他、録画・録音も可能なため、学生は振り返り学習を行い、自らの課題を確認することができる。

救急救命学科では、救急車への搬入から病院到着までの一連の活動を実践的に身につけるため、救急車内を再現したカットモデル (8台) を配置し、臨場感のあるよりリアルな環境下で学ぶことができる。また、現場での安全管理や傷病者の救出方法などは、実際の救急車を使用し、救急車および車両関係機材の扱い方などについて学ぶ他、狭い車内環境や走行中の揺れを体験しながら、病院到着までの活動を実践的に学ぶ。

理学療法学科や健康栄養学科、看護学科では、地域住民や現場で活躍する専門職を模擬患者として、学外実習に出るための臨床技能の修得が十分であることを客観的に評価するためのOSCE (客観的臨床能力試験) を学内で実施している。

(8) メディア授業とICTの活用

本学では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多彩なICTツールを活用しメディア授業を大きく進歩させた。メディア授業の主なICTツールは表3に示す。今後もメディア授業の利点を踏まえ、充実させていくことが課題となっている。

▼表 3 新潟医療福祉大学及び大学院で活用しているICT

名称	種類と機能、特徴
e-Campus	Learning Management System (LMS) (Moodleを採用)
manaba	LMSとポートフォリオ (クラウド型教育支援システム)
ポータルサイト	学生の履修登録、シラバス閲覧、課題提出、成績やGPAの確認、授業評価など、教員のクラス出席確認、採点登録、授業評価へのフィードバックなど
G Suite for Education	Gmailやオンラインストレージなどを含んだGoogleのICT教育のためのツール
Microsoft 365	Word、Excel、PowerPointなどに、同時双方向のメディア授業が可能なTeamsなども含めたサブスクリプション
Cisco Webex	オンライン会議システム (大学院専用)
その他	Zoom (オンライン会議システム) など (学科単位で導入)

2

教育活動の実績

国家試験・資格試験対策委員会の活動

1. 活動内容

本学の基本理念に“生活の質（QOL: Quality of Life）を支える人材を育成する大学”とある。本学卒業後に学生が優れたQOLサポーターとして活躍し、社会へ貢献するためには多くの場合に国家資格や民間団体による資格（以下、国家試験・資格試験）を有することが前提条件となる。本委員会は、学科ごとに掲げる“目標とする国家試験・資格試験”の合格率を100%にするための支援を目的としている。本委員会は各学科から選出された教員および事務局教務課職員から構成され、大学全体としての共通の部分と学科独自の取り組みがある。大学全体の取り組みは、毎月開催される委員会を通して各学科の取り組み状況について把握する。学科別の取り組みは、受験準備（試験対策）、受験当日のサポート、および受験終了後のフォローに分けられる。本委員会は学科間の隔てなく、問題点の抽出や解決策の検討、有効な対策プログラムの共有をおこない、最も効果的な方策を検討している。

1) 委員会全体の活動

- (1) 年間スケジュールの作成：100%の合格を目指した対策作り
- (2) 国家試験・資格試験の日程確認
- (3) 模擬試験計画
- (4) 特別講義計画
- (5) 年間対策予算計画
- (6) 図書館の開館時間の延長および開館日の増加
- (7) 学習する教室の確保
- (8) 国家試験・資格試験の傾向と対策の分析

2) 学科全体の活動

- (1) 国家試験・資格試験への特別講義等を実施する。

- (2) ゼミ担当教員から学生個人に対して早期にきめの細かい指導・助言を行い、着実に学習効果が上がる継続的な指導・援助を行う。
- (3) 学生による国家試験・資格試験の対策活動を支援する。
- (4) 試験受験手続、受験前日・当日対応の支援をする。

2. 課題

本学は現在13学科があり、目標とする国家試験・資格試験の合計は20資格を超える。そのために大学全体で取り組む課題と学科で取り組む課題がある。

1) 大学全体で取り組む課題

- (1) 模試を実施するために一日使用できる教室の確保
- (2) 学科で学習が遅れている学生に対して指導する教室（国家試験・資格試験対策教室）の確保
- (3) 国家試験・資格試験の特別講義を実施するための教室の確保

2) 学科で取り組む課題

責任を負う少数の教員が学生全員を合格へ導くのは困難であり、学科教員間で共通した意識をもつことが必要である。

低学年から受験への意識付けが必要である。

専門／専門専攻科目を担当する学科教員における、学生の学習効果を十分に高める努力が必要である。

受験学年が4年生の場合は就職や卒業研究と並行しておこなうので、ゼミ担当教員の密接なモニタリングとフォローが求められる。

最後に、本学の学科の多くは専門職養成課程であり、就職にあたっては資格を取得していることが前提となることが多い。学生には国家試験・資格試験に合格して、大学4年間で修得した知識・技術を社会で生かせる喜びをもって卒業していただきたい。そのため各学科においては、大学の支援と国家試験等対策委員のコーディネートのもと、専任教員の協力を得ながら目標を達成していきたい。

1) 国家試験・資格試験合格率の推移

▼国家試験・資格試験の合格率（2005年度～2020年度）

資格名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
理学療法士	100.0%	96.2%	91.7%	97.7%	94.1%	90.5%	93.2%	100.0%	97.5%	95.9%	93.5%	100.0%	98.8%	100.0%	98.3%	96.7%
作業療法士	100.0%	95.7%	89.7%	100.0%	100.0%	89.2%	97.9%	97.5%	100.0%	92.7%	97.6%	94.0%	94.9%	91.2%	100.0%	96.6%
言語聴覚士	65.2%	71.4%	79.2%	68.1%	70.2%	81.4%	76.1%	63.4%	86.7%	68.2%	92.3%	97.5%	94.9%	89.7%	90.6%	79.4%
義肢装具士	—	—	—	—	—	97.4%	82.2%	95.2%	84.2%	80.0%	86.7%	93.0%	88.6%	97.4%	78.1%	81.1%
臨床工学技士	—	—	—	—	—	—	—	—	—	96.2%	89.0%	90.7%	87.1%	84.7%	96.6%	92.9%
臨床検査技師	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90.9%	87.8%	85.9%	76.4%	77.3%	68.2%	81.2%
視能訓練士	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	100.0%	100.0%	97.8%
救急救命士	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	96.2%
管理栄養士	79.2%	89.6%	78.3%	72.9%	81.4%	85.4%	100.0%	83.3%	95.8%	97.4%	90.5%	97.7%	95.1%	93.2%	97.7%	97.8%
健康運動指導士	—	—	—	—	—	—	66.7%	69.6%	69.0%	67.7%	62.5%	79.3%	81.3%	65.2%	83.3%	80.0%
アスレティックトレーナー	—	—	—	—	—	—	0.0%	0.0%	10.0%	15.4%	100.0%	0.0%	11.1%	10.0%	46.2%	20.0%
看護師	—	—	—	—	97.6%	100.0%	97.4%	94.1%	97.6%	98.9%	98.8%	98.8%	100.0%	97.6%	98.9%	98.8%
保健師	—	—	—	—	86.1%	74.7%	84.4%	97.6%	91.4%	100.0%	92.1%	86.4%	76.7%	80.9%	98.4%	100.0%
助産師	—	—	—	—	83.3%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
社会福祉士	43.4%	62.5%	57.4%	61.0%	55.4%	63.3%	54.7%	36.8%	46.6%	50.0%	50.0%	58.1%	68.0%	64.3%	56.4%	53.3%
精神保健福祉士	70.0%	87.5%	100.0%	100.0%	100.0%	81.3%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	92.9%	85.7%	100.0%
介護福祉士	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	100.0%	92.9%	100.0%
診療情報管理士	—	—	—	—	—	—	—	28.0%	77.1%	84.8%	83.3%	68.2%	86.8%	60.0%	87.5%	48.1%
診療報酬請求事務能力認定試験	—	—	—	—	—	—	—	—	31.3%	38.3%	51.2%	61.9%	44.1%	60.0%	72.0%	25.0%
基本情報技術者試験	—	—	—	—	—	—	—	—	33.3%	33.3%	44.4%	33.3%	47.1%	31.6%	71.4%	66.7%

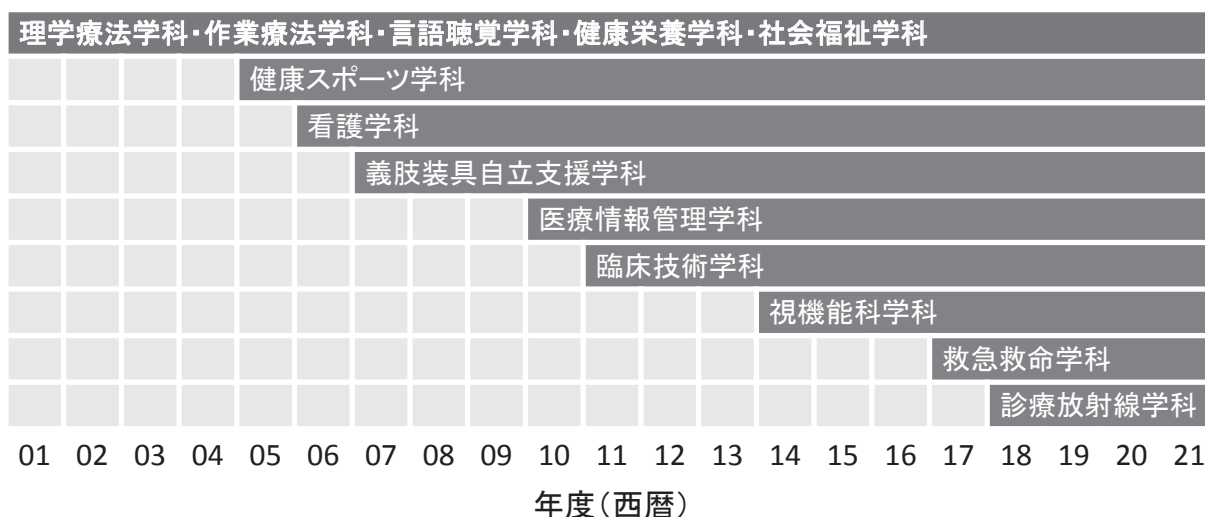
2) 学外実習

各学科の設置年度からこれまでの期間（図1）において、2001年度から2010年度までの10年間の学外実習については、『開学10周年記念誌』において当時の現状と課題までを報告している。2010年度には、8学科で学外実習が行われており、その年度に本学の9学科目として設置された医療情報管理学科の3年次学外実習が2012年度、翌年度の2011年度に設置された臨床技術学科の4年次学外実習が2014年度と順次、新設学科での学外実習が開始された。（表1）

その後、2014年度に設置された視機能科学科の2年次学外実習が2015年度に、2017年度に設置された救急救命学科の3年次学外実習が2019年度に開始され、2018年度に設置された診療放射線学科の4年次学外実習は、2021年度からとなった。

2010年度以前に設置されていた学科においても、定員の増加、法令の改正による教育課程の変更などに合わせて、学外実習の関連資格の変更、実習施設の地理的範囲の拡大、実習期間の変更、内容の改善などを経て、現在に至っている。

これまでの長きにわたり、後援会より学外実習の学生負担を軽減するための援助金を毎年度いただいたことに、この場を借りて感謝申し上げるとともに、各学科の学生の学外実習中の宿泊費・交通費等の自己負担の推定金額に応じて、各学科を通じて学生に援助金を分配させていただいたことをご報告する。



▲図1 各学科の設置年度からこれまでの期間

▼表1 各学科の資格取得に関わる学外実習の学年ごとの週数または日数の年度別推移

学科 関連資格（必修／選択）	学年	年度											備考
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
理学療法学科													
理学療法士（必）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	4	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
作業療法学科													
作業療法士（必）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	
	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	4	
	4	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
言語聴覚学科													
言語聴覚士（必）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	4	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
義肢装具自立支援学科													
義肢装具士（必）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	5	
	3	4	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4	
	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	
臨床技術学科													
臨床検査技師（必）	1	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	－	－	－	－	4	4	4	4	4	4	4	
臨床工学技士（必）	1	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	－	－	－	－	4	4	4	4	4	4	4	

学科 関連資格（必修／選択）	学年	年度											備考
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
視機能科学科													
視能訓練士（必）	1	－	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	－	－	－	－	1	1	1	1	1	1	
	3	－	－	－	－	－	－	8	8	8	8	8	
	4	－	－	－	－	－	－	－	5	5	5	5	
救急救命学科													
救急救命士（必）	1	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0	
	2	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	4	
	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	
診療放射線学科													
診療放射線技師（必）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	
	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2021年度：4
健康栄養学科													
管理栄養士（必）	1	0	0	0	0	0	0	4日	4日	6日	6日	6日	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	5	5	5	5	5	5	7	7	7	7	7	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
管理栄養士（選）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	2	
栄養教諭（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
健康スポーツ学科													
教育実習 中学校・高校教諭（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
介護等体験実習 中学校（選）	1	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	7日	7日	7日	7日	7日	7日	7日	0	0	0	
	3	－	0	0	0	0	0	0	0	7日	7日	7日	
	4	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
インターンシップ 実習（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	30時間	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アスレティック トレーナー 現場実習（選）／ 総合実習（選）	1	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	－	15日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	10日	

学科 関連資格（必修／選択）	学年	年度											備考
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
看護学科													
看護師（必）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	3	13	15	15	15	14	14	14	14	14	14	16	
	4	7	7	5	5	5	5	5	5	6	6	6	
保健師（必）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	
	4	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	
助産師（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	8	8	9	9	9	11	11	11	11	11	11	
養護教諭（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	5	5	5	3	3	5	5	5	3	3	3	
社会福祉学科													
社会福祉士（必）	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	3	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
精神保健福祉士（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	
	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
介護福祉士（選）	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	24日	
	2	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	34日	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
児童厚生一級指導員（選）	1	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
	2	－	－	－	－	－	－	－	－	10日	10日	10日	
	3	－	－	－	－	－	－	－	－	10日	10日	10日	
	4	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	
医療情報管理学科													
診療情報管理士（選）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	－	－	2	2	2	2	2	2	1	1	1	
	4	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0	

各年度の数値は週数（日数の場合は日の単位あり）。

3) 就職

就職率の推移（2004年度～2020年度）

就職率：％
就職登録者数：人

学科	就職率 (就職登録者数)	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
理学療法学科	就職率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	50	48	55	49	89	99	91	84	77	76	91	84	101	76	83	113	99
作業療法学科	就職率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	41	45	48	54	46	46	39	48	43	43	39	40	50	40	32	40	35
言語聴覚学科	就職率	100.0	100.0	100.0	100.0	97.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	100.0	100.0	95.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	26	30	31	39	34	36	39	38	29	28	36	39	42	40	38	30	32
義肢装具自立支援学科	就職率	－	－	－	－	－	－	97.3	100.0	100.0	97.2	97.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	37	42	39	36	40	41	40	32	41	30	41
臨床技術学科	就職率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	98.7	97.8	97.6	94.6	96.9	100.0	97.8
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	79	90	84	93	96	93	91
視機能科学科	就職率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	51	56	49	44
救急救命学科	就職率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	44
診療放射線学科	就職率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
健康栄養学科	就職率	100.0	97.7	100.0	100.0	97.8	95.6	100.0	97.7	95.1	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	46	43	42	44	45	45	45	44	41	44	38	41	42	41	44	40	43
健康スポーツ学科	就職率	－	－	－	－	98.4	98.4	98.9	97.9	98.9	99.0	100.0	98.4	99.4	100.0	100.0	100.0	99.5
	(就職登録者数)	－	－	－	－	63	62	95	94	91	104	96	127	166	182	198	188	182
看護学科	就職率	－	－	－	－	－	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	79	83	76	81	82	89	83	83	91	82	93	85
社会福祉学科	就職率	95.2	98.2	99.2	98.3	100.0	98.5	98.5	100.0	100.0	99.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(就職登録者数)	104	110	124	120	117	135	140	153	132	139	137	124	133	132	138	112	121
医療情報管理学科	就職率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	95.6	96.9	98.9	95.8	99.0	98.9	99.0	98.8
	(就職登録者数)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	91	98	92	95	99	92	96	85

就職先の推移（職業別：2011年度～2020年度）

（人）

就職先	学科	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
専門的・技術的職業 （医療技術者・栄養士・相談職等）	理学療法	81	77	76	90	84	101	78	85	114	98
	作業療法	48	42	43	37	40	50	39	32	40	34
	言語聴覚	35	26	28	33	39	41	35	35	30	26
	義肢装具自立支援	38	33	31	32	32	28	28	29	20	36
	臨床技術	－	－	－	77	84	82	83	85	92	81
	視機能科	－	－	－	－	－	－	50	52	48	39
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	32	30	34	36	33	33	37	35	28	35
	健康スポーツ	9	21	26	23	38	40	50	58	67	34
	看護	75	81	82	88	83	83	91	82	92	84
	社会福祉	68	48	63	68	73	108	60	70	61	64
	医療情報管理	－	－	5	12	7	7	17	20	29	17
管理的職業	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	義肢装具自立支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床技術	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	健康スポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医療情報管理	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0
事務的職業	理学療法	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語聴覚	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	義肢装具自立支援	0	0	0	1	0	11	2	1	0	2
	臨床技術	－	－	－	1	0	0	2	2	0	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	0	3	0	1
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	3
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	3	1	1	0	7	9	3	6	1	3
	健康スポーツ	7	5	12	11	63	87	86	42	5	13
	看護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会福祉	7	6	5	7	14	21	26	17	9	3
	医療情報管理	－	－	51	54	72	73	68	45	24	36

(人)

就職先	学科	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
販売的職業	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語聴覚	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0
	義肢装具自立支援	4	4	2	4	5	1	1	9	9	1
	臨床技術	－	－	－	0	0	0	0	3	1	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	0	1	0	0
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	5	6	7	2	1	0	0	2	9	1
	健康スポーツ	29	39	45	46	9	9	9	70	76	62
	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会福祉	3	7	8	16	3	1	6	15	11	6
	医療情報管理	－	－	21	24	7	9	5	18	33	22
サービスの職業	理学療法	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	作業療法	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0
	言語聴覚	0	2	0	0	0	0	1	3	0	1
	義肢装具自立支援	0	1	2	1	1	0	0	0	0	1
	臨床技術	－	－	－	0	0	0	3	2	0	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	1	0	1	0
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	3	2	2	0	0	0	0	0	1	0
	健康スポーツ	38	17	4	5	6	9	8	9	12	13
	看護	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0
	社会福祉	74	70	60	44	33	3	38	33	29	37
	医療情報管理	－	－	8	4	4	2	4	4	6	3
保安の職業	理学療法	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	義肢装具自立支援	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
	臨床技術	－	－	－	0	3	0	0	0	0	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	37
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	健康スポーツ	5	6	15	8	7	18	18	11	13	21
	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会福祉	0	0	2	1	1	0	1	0	2	1
	医療情報管理	－	－	1	0	1	0	1	1	2	0

(人)

就職先	学科	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
その他	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語聴覚	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	義肢装具自立支援	0	1	0	1	0	0	1	2	1	1
	臨床技術	－	－	－	0	1	0	0	1	0	0
	視機能科	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0
	救急救命	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0
	診療放射線	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	健康栄養	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	健康スポーツ	4	2	1	3	2	2	11	8	15	14
	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会福祉	1	1	0	1	0	0	1	3	0	3
	医療情報管理	－	－	1	1	0	0	4	3	1	0

4) 退学率の推移

【学部】

年度	西暦 和暦	2001 平成 13年	2002 平成 14年	2003 平成 15年	2004 平成 16年	2005 平成 17年	2006 平成 18年	2007 平成 19年	2008 平成 20年	2009 平成 21年	2010 平成 22年	2011 平成 23年	2012 平成 24年	2013 平成 25年	2014 平成 26年	2015 平成 27年	2016 平成 28年	2017 平成 29年	2018 平成 30年	2019 令和 元年	2020 令和 2年
在籍者数		321	642	974	1,301	1,439	1,670	1,972	2,289	2,497	2,675	2,893	3,057	3,337	3,558	3,715	3,853	3,968	4,155	4,272	4,427
退学者数		4	7	9	11	16	20	24	22	39	46	53	48	72	47	46	59	45	60	63	63
除籍者数		0	0	0	0	0	1	0	2	3	3	3	3	3	3	4	3	0	1	2	2
退学率		1.25%	1.09%	0.92%	0.85%	1.11%	1.26%	1.22%	1.05%	1.68%	1.83%	1.94%	1.67%	2.25%	1.41%	1.35%	1.61%	1.13%	1.47%	1.52%	1.47%

【大学院】

年度	西暦 和暦	2001 平成 13年	2002 平成 14年	2003 平成 15年	2004 平成 16年	2005 平成 17年	2006 平成 18年	2007 平成 19年	2008 平成 20年	2009 平成 21年	2010 平成 22年	2011 平成 23年	2012 平成 24年	2013 平成 25年	2014 平成 26年	2015 平成 27年	2016 平成 28年	2017 平成 29年	2018 平成 30年	2019 令和 元年	2020 令和 2年
在籍者数						27	41	51	65	73	74	72	91	103	111	127	119	114	126	139	150
退学者数						1	0	0	3	4	1	5	5	5	4	3	2	0	2	4	6
除籍者数						0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0
退学率						3.70%	0.00%	0.00%	4.62%	5.48%	1.35%	6.94%	6.59%	5.83%	3.60%	2.36%	1.68%	0.88%	1.59%	2.88%	4.00%

【大学】

年度	西暦 和暦	2001 平成 13年	2002 平成 14年	2003 平成 15年	2004 平成 16年	2005 平成 17年	2006 平成 18年	2007 平成 19年	2008 平成 20年	2009 平成 21年	2010 平成 22年	2011 平成 23年	2012 平成 24年	2013 平成 25年	2014 平成 26年	2015 平成 27年	2016 平成 28年	2017 平成 29年	2018 平成 30年	2019 令和 元年	2020 令和 2年
在籍者数		321	642	974	1,301	1,466	1,711	2,023	2,354	2,570	2,749	2,965	3,148	3,440	3,669	3,842	3,972	4,082	4,281	4,411	4,577
退学者数		4	7	9	11	17	20	24	25	43	47	58	53	77	51	49	61	45	62	67	69
除籍者数		0	0	0	0	0	1	0	2	3	3	3	4	4	3	4	3	1	1	2	2
退学率		1.25%	1.09%	0.92%	0.85%	1.16%	1.23%	1.19%	1.15%	1.79%	1.82%	2.06%	1.81%	2.35%	1.47%	1.38%	1.61%	1.13%	1.47%	1.56%	1.55%

5) 学生生活・教育満足度の推移

(1) 学生生活満足度

本学では、学生生活の実態や現状を把握し、今後の修学及び学生生活支援等を検討するための基礎資料とすることを目的に、定期的に「学生生活アンケート」を実施している。

本調査は2015年度までは広報委員会、2016年度以降は学生委員会が主管し、マークシートによる回答方式からポータルサイトのアンケート機能を用いた回答方式に改善がはかられている。アンケートの質問内容は、居住形態、経済面、通学形態、課外活動、学食利用、健康状態、トラブルや悩みなど多岐にわたるため、学生生活の総合的な満足度についての推移を抜粋して表1に示す。2017年度までは4件法、2018、2019年度は5件法での調査のため、本節ではそれぞれの平均値を最高得点で除した割合を満足度として評価を行ったところ、各年度概ね3分の2の学生は学生生活に満足であることが確認できる。

▼表1 学生生活満足度調査の推移

年度	学生数	回答数	回答率	回答方法	満足度尺度	満足度
2011年度	2,899	2,365	81.6%	マークシート	4件法	62.7%
2012年度	3,057	2,690	88.0%	マークシート	4件法	65.0%
2013年度	3,337	2,938	88.0%	マークシート	4件法	65.8%
2014年度	3,558	3,048	85.4%	マークシート	4件法	65.0%
2015年度	3,715	3,613	97.3%	マークシート	4件法	63.2%
2016年度	3,817	3,178	83.3%	マークシート	4件法	62.6%
2017年度	3,975	2,883	72.5%	ポータルサイト	4件法	63.9%
2018年度	4,124	2,636	63.9%	ポータルサイト	5件法	69.2%
2019年度	4,320	3,165	73.3%	ポータルサイト	5件法	71.0%

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の学生生活が困難であることを鑑み、例年とは異なる形態にてアンケートを実施した。感染症における不安、入構制限や外出自粛における不安やストレス、メディア授業への意見・要望、経済的な影響などについて様々な意見があり、自宅で自分のペースで学修できることがよいとの回答が多かった一方で、友人との交流がなく孤独である、課題が多い、対面授業に比べ質問が難しい、回線の不安定で音声等が途切れるなどの問題点が指摘されている。また経済面含めて今後についての不安を感じている学生も多く見受けられており、今後の学生支援に本調査を繋げていく。

(2) 教育満足度

本学では、卒業時にアンケート（「卒業生アンケート」）を実施し、授業やカリキュラムに関する学生の満足度、QOLサポーターとしての自己評価等を把握し、カリキュラム改編や学生教育の実態を検討するための基礎資料としている。卒業生アンケートは、一部の例外を除き、教務委員会が主管するかたちで実施されてきた。

卒業生アンケートの質問項目は、これまでに複数回の変更が確認されている。その点を踏まえ本節では、2011年度以降の卒業生アンケートの結果について、「所属学科・大学の教育に関する満足度（満足

度（全体）」「卒業論文・卒業研究に関する満足度（満足度（卒論）」「国家試験等対策の満足度（満足度（国試）」「QOLサポーターとしての自己評価（QOLサポーター）」の4項目に着目し、その推移を表2に示す。

これら4項目はすべて5件法で調査されている。それぞれ「1」が最も肯定的な選択肢（たとえば「満足している」「QOLサポーターにとっても近づけた」）であり、以下「2」から「5」に近づくほど否定的な選択肢となっていく。すなわち、どの項目でも「1」に近い数値が並ぶことが望ましい状況だといえる。なお「QOLサポーターとしての自己評価」は、2013年度より新たに加えられた項目である。

▼表2 教育面の学生満足度等の推移

年度	満足度（全体）	満足度（卒論）	満足度（国試）	QOLサポーター
2011年度	2.44	2.31	2.13	—
2012年度	2.35	2.28	2.24	—
2013年度	2.39	2.29	2.17	2.32
2014年度	2.28	2.22	2.09	2.30
2015年度	2.32	2.19	2.19	2.29
2016年度	2.20	2.09	2.07	2.26
2017年度	2.32	2.21	2.12	2.34
2018年度	2.11	2.02	2.02	2.24
2019年度	2.04	1.96	1.95	2.19
2020年度	2.03 [*]	2.06	2.12	2.09

^{*} 2020年度は「所属学科・大学のカリキュラムに関する満足度」に関する回答結果である。

表2に示されているように、2011年度以降、すべての項目において数値が良化している。特に「満足度（全体）」や「満足度（卒論）」、「QOLサポーター」は数値が大幅に改善されており、本学の教育活動がより一層充実してきている状況や、多くの学生がQOLサポーターとして自信を深めた上で本学を巣立っている様子をうかがうことができる。

他方で「満足度（国試）」がほぼ同水準に留まっている点や、新型コロナウイルス感染症の影響からか「満足度（卒論）」などが直近でやや悪化した点については、本学の教育活動に工夫すべき余地が残されている証左とも捉えられる。本学の教育活動を今後より良くしていくためには、情報と状況を共有した上で、全学的に議論を深め対策を施していく必要があるだろう。

3

委員会活動、附属機関

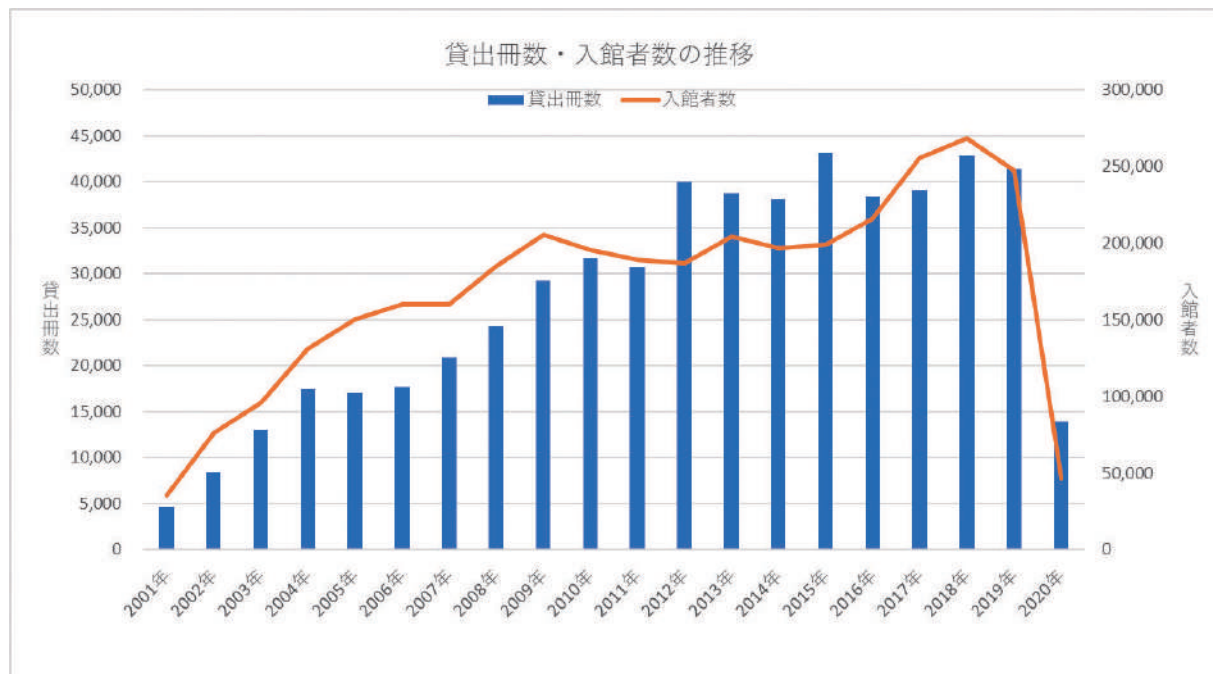
1) 図書館

(1) 開学からの経緯

図書館は平成13年（2001年）の本学開学時に設立され、研究・学習・教育を支える大学内の一施設として、また地域に貢献する機関として発展を遂げてきた。ICTの進歩により保健医療福祉分野の研究スタイルや学生の学び方が大きく変化していくに伴い、電子コンテンツの積極的な導入を図るなど、その

変化に対応している。

開学以降、貸出冊数・入館者数ともに順調に増加してきた。令和2年度（2020年度）は感染症拡大により来館利用を制限したため、郵送貸出や実習貸出手続きのオンライン化などの対応を行ったが、貸出冊数は前年の32.5%と大きく減少した（図1）。



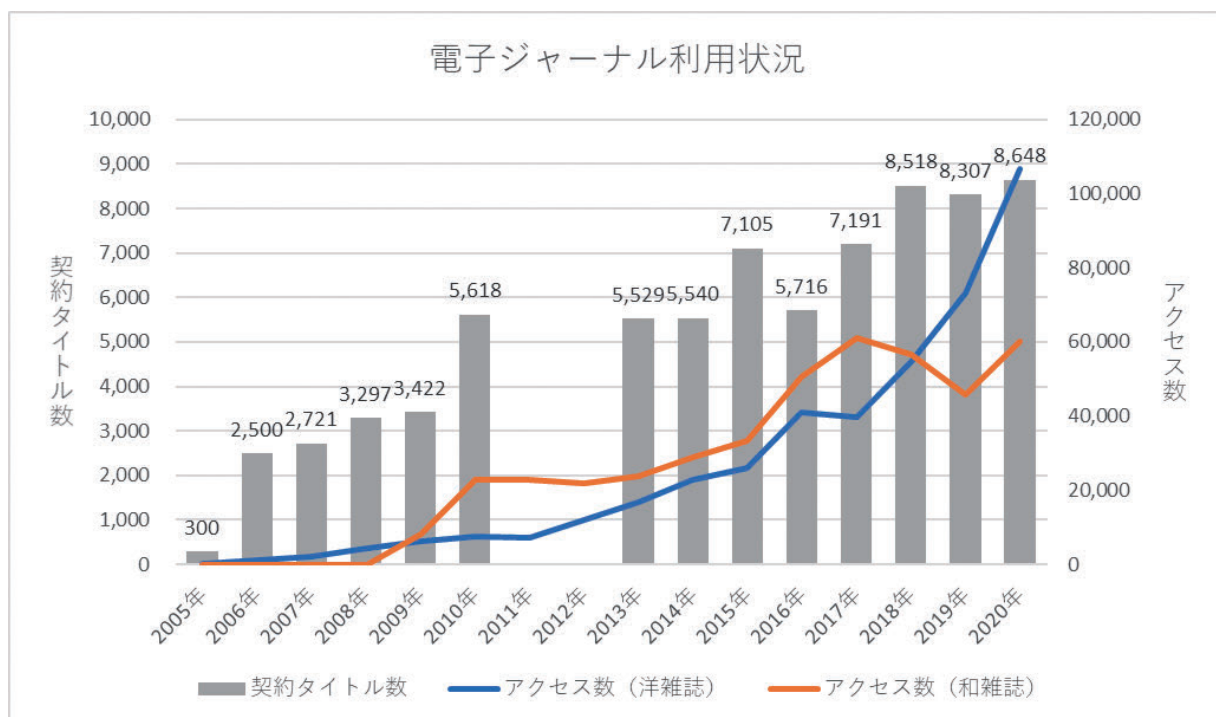
▲図1 貸出冊数・入館者数の推移

①電子コンテンツの積極的な導入

平成17年度（2005年度）に電子ジャーナルの契約を開始し、平成21年（2009年）には電子資料に学外からアクセスできるリモートアクセスを開始した。電子ジャーナルのパッケージ契約数は契約開始当初の1から、令和元年度（2019年度）には8に増えており、年々多様な電子ジャーナルへのアクセスが可能になっている。利用も増加傾向にあるが、電子ジャーナルは継続的な価格の上昇という課題を抱えているため、契約更新や新規契約については毎年利用統計を確認し、委員会で慎重に審議している（図2）。

コロナ禍に見舞われた令和2年度（2020年度）以降は学科図書費の10%を電子ブックの購入に充てるなど、学外からも利用できる電子資料の拡充に一層注力している。また、研究支援ソフトの充実にも取り組んでおり、世界の学術雑誌を客観的に評価するための指標（インパクトファクター）を調べられるデータベースJournal Citation Reports、論文執筆を支援する引用文献管理ソフトEndNote basic、統計解析ソフトSPSS、論文剽窃チェックツールiThenticateの提供・管理を行っている。

平成31年度（2019年度）には新潟医療福祉大学・事業創造大学院大学機関リポジトリを構築した。大学内で刊行されている学会誌と紀要の電子化、博士学位論文の要旨の公開を実現している。令和2年度（2020年度）のアクセス数は65,051件、ダウンロード数は48,921件だった。



▲図2 電子ジャーナル利用状況

②自発的な学修を促す環境整備

平成28年（2016年）、増加した学生数に応じた環境整備と学生の自学自習を支える学習環境の充実を目的に、図書館の改修を行った。3階講堂を閲覧席に改修して床面積を拡大し、書架を増設した。館内には学生用出力プリンター2台、視聴覚ブース3台、検索性パソコン11台、有料のコピー機3台が配置された。1・2階には、ラーニングコモンズとグループ学習室を新設し、棟全体に無線LAN環境を整備した。さらに、グループ学習やプレゼンテーションの練習などアクティブラーニングに対応できるよう、1階ソファ席とグループ学習室には学生が自由に使えるモニターを、ラーニングコモンズには可動式什器と大型スクリーンを配置した。

平成28年度（2016年度）後期、それまで講義棟にあった学習支援センターをラーニングコモンズに移設した。これにより、学術資料、学習の「場」および図書館職員によるレファレンスサービス・各種ガイダンスなどの人的支援に、学習支援センターによる支援が融合し、自発的な学修を促す体制が一層整備された。学習支援センターについては別項で詳述する。

③開館時間

開学より平日9時～17時に開館していたが、平成24年度（2012年度）に時間外開館時の業務委託を開始し、開館時間の延長を可能とした。現在は平日8時45分から22時まで、土曜日は9時から17時まで開館し、各種試験勉強や大学院の夜間授業をサポートしている。また、年2回の定期試験期間には開館時間の延長や日曜日開館を行い、学生支援を実践している。近年は、国家試験対策として年末年始の大学休業期間は全日開館している。年末年始にもかかわらず、4年生を中心に200人以上が利用する日もあり、学生の自習場所として大いに活用されている。

④蔵書構成

13学科の教育研究に必要な基本図書と学術専門雑誌の収集に加え、新書や闘病記など幅広い教養を涵養する一般図書の収集にも力点をおいている。平成29年度（2017年度）には蔵書コレクション「がん闘病記」「新潟水俣病」「パラスポーツ」を構築した。「がん闘病記」は現在500冊以上を所蔵している。発症部位別に分類された資料は、病気の理解に加え患者や家族の心情を理解する一助としても有効であり、授業課題として利用されるケースも見受けられる（表1）。

▼表1 蔵書冊数と雑誌種数（2001年～2009年は開学10周年記念誌に記載）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
蔵書冊数 (視聴覚資料を含む)	75,788	81,154	87,626	92,927	99,353	104,487	111,002	117,595	124,342	131,890	134,489
雑誌種数	1,114	1,183	1,248	1,288	1,340	1,368	1,389	1,422	1,435	1,448	1,459

（2）運営組織・体制

開学当初から平成28年（2016年）まで、館長の諮問等に応じて図書館に関する重要事項を審議する「図書館・情報委員会」を置き、学生をはじめとする利用者へのサービスの充実に向け、図書館の円滑な運営及び情報環境整備等について審議してきた。平成28年度（2016年度）、図書館の改築とともに学習支援センターが1階ラーニングコモンズに移設された。これを機に「学習支援センター運営委員会」と統合した「図書館・学習支援センター運営委員会」を設置し、あらたに学習支援を推進する役割を担っている。平成31年（2019年）、図書館と学習支援センター機能の一体化を促進させるため「図書館・学習支援委員会」に名称を改めた。情報環境整備部会、資源環境整備部会、教育開発推進部会、教育運用実行部会を組織し、図書館と学習支援センターの運営、及び学内の情報環境整備を行っている。

（3）学内の情報環境整備

平成13年（2001年）7月、教育研究活動に必要な情報環境を総合的に整備し、これを効果的に提供することにより、大学の研究及び教育の発展に寄与することを目的として、図書館・情報委員会のもとに「新潟医療福祉大学情報環境整備規程」が施行された。（2）で述べた通り、委員会の統合や名称の変更があったものの、情報環境整備に関して図書館長のもと審議する体制は現在も継続している。環境整備に関わる主だった活動を以下にまとめた。

平成24年度（2012年度）にメールソフトGraceMailをGmailに移行させ、平成26年度（2014年度）には学内で使用できるウィルス対策ソフトは原則コーポレート版に制限することを規定した。平成28年度（2016年度）にOffice365を、平成30年度（2018年度）には国際学術無線LANローミングアクセス「eduroam」を導入した。平成28年度（2016年度）以降は、全学の無線LANエリアの拡大と有線LANのリプレースを計画的に実施している。

（4）課題と展望

各種情報の電子化が急速に進む近年、大学図書館にはデジタル環境を大胆に取り入れた教育研究支援の展開が求められている。これからは、従来の紙媒体として刊行される資料の収集・蓄積・提供とともに、電子資料を中心とした学術情報への的確で効率的なアクセスの確保に力点をおいて、学術情報基盤

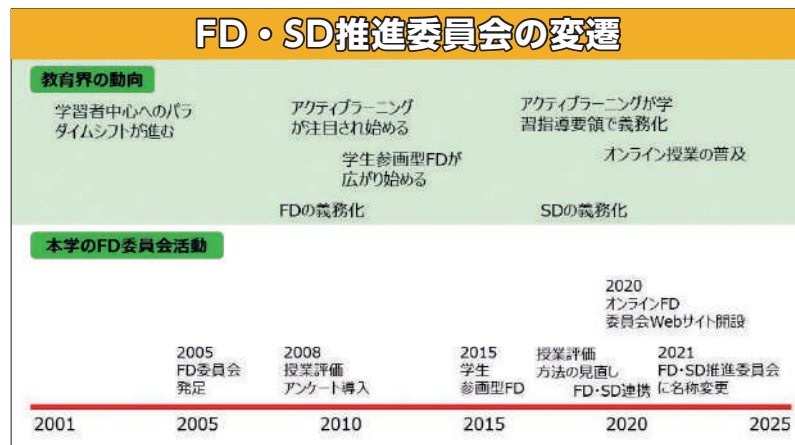
の整備・充実を図る必要がある。また、多様化し高度化する資料を活かすためには、高度な専門知識を有する人材が必要となる。学外の団体が実施する研修への積極的な参加や、現場における研修体制の構築を推進して職員の質の向上を図っていく。

機関リポジトリ事業については、すでに、大学内で刊行されている学会誌・紀要の電子化と博士学位論文の要旨の公開を実現しているが、社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証や、知的生産物の長期保存などを図るうえで、今後大きな役割を果たすことが期待されている。大学内での位置づけの明確化、図書館業務としての定着、システムの維持体制の整備が現在の課題であり、今後取り組んでいく。

2) FD・SD推進委員会

(1) FD・SD推進委員会の変遷

2005年に発足したFD（Faculty Development）委員会は、高等教育を中心とした教育界の動向や、外部認証評価で求められる教育改善のポイントを視野にFD活動を展開している。本学の教育理念である「優れたQOLサポーターの育成」のために、様々な立場や領域が連携して学び合うための各種研修を重ねてきた。教育研究活動の効果的な運営を図るためのSD（Staff Development）が2017年の大学設置基準改正で義務化されたことを受け、教員組織のFD委員会と職員組織のSD推進委員会が連携し、研修の実施を中心に協働する体制を強化した（図1）。

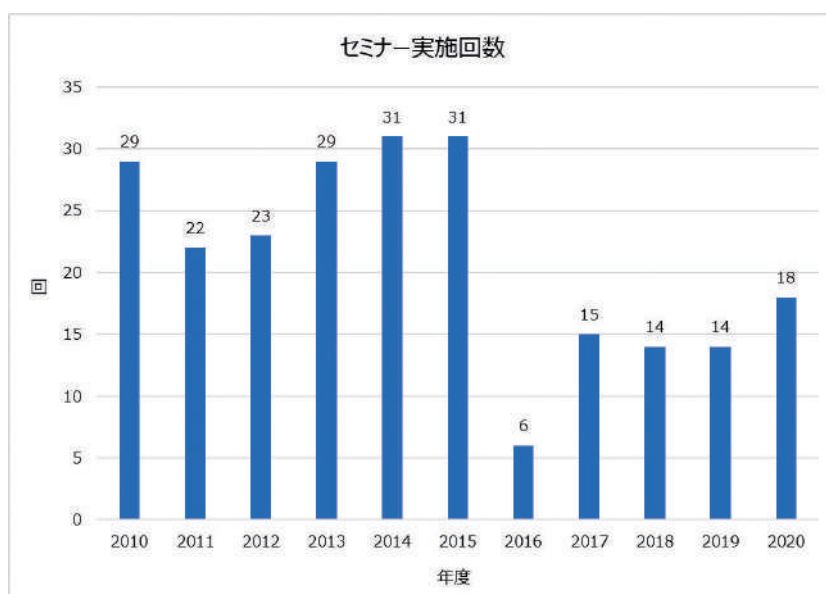


▲図1 FD・SD推進委員会の変遷

(2) 活動内容と課題等

FD委員会発足以降、各種講演会、各学科から教員の教育研究活動を紹介するランチョンセミナーを始め、説明会の要素が高いものを含めFDと名付けられたセミナーが数多く開催されていた。有益な企画もある一方で、研修の形骸化や「研修疲れ」が指摘されるようになってきた。そこで2015年に、学生参画型FDが活発化する流れの中で、学生を中心にとらえた活動になっているかという視点で本学のFD活動を見直すことになった。そのため、2016年はセミナーの回数は激減したが、学生がFDに参加する取り組みに注力した（図2）。

授業評価アンケートの形骸化が課題であったが、学生メンバーとの議論を重ねた結果、中間アンケートを取り入れ、15項目あった評価項目を4項目に絞り、自由記述を促した形式のアンケートへの改定が行われた。しかし、アンケートへの回答率は伸び悩んでおり、フィードバックの在り方や活用方法を含め、方策を練る必要がある。



▲図2 セミナー実施回数

2012年度より、米国カリフォルニア州立大学で英語による教授法などを学ぶ、教員海外派遣研修を国際交流委員会との共催企画として年1回実施してきた。英語による教授法のみならず、最新の教育理念や手法、オンラインツールを用いたプレゼンテーション方法などを学ぶ研修として好評であったが、2019年度よりコロナ禍の影響により休止している。2020年度はその代替企画として、オンラインによる教員英語研修を実施した。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、全ての教員が突然メディア授業に対応しなければならない事態となった。対面での研修ができないため、FD情報Webサイトを立ち上げ必要な情報を発信するプラットフォームを構築した(図3)。必要な内容を必要なタイミングで発信していたことや、オンラインでのセミナー参加のしやすさから、参加者数も対面で実施していた頃より大幅に伸びた。また、非常事態ではあったが、教員全員が学生たちの学びを止めないために同じ方向を向くことができ、FDへの関心度が高まった。

長引く非対面授業による学生支援の難しさが露呈してきたが、今後、関係する委員会・部署と連携し、学生支援のさらなる方策を展開していくことが課題である。



▲図3 メディア授業に関する情報プラットフォーム

3) 健康管理センター

(1) 健康管理センターの変遷

健康管理センターは、新型インフルエンザをはじめとする感染症やメンタルヘルス等に関する学生の健康管理を組織的に行うことを目的に2006年に開設され、健康管理センター運営委員会によって運営されてきた。開設以前の学生の健康管理業務は、健康診断や学生相談業務を中心に医務室が担ってきた。

開学時からの変遷は表1に示す。

▼表1 健康管理センターの変遷

2001年	医務室の設置 新潟リハビリテーション病院の協力のもと学生の健康診断（毎年）を開始
2002年	臨床心理士による学生相談（週1回）を開始
2006年	健康管理センターおよび健康管理センター運営委員会の設置 新潟医療福祉大学内医務室の名称で診療所の申請、認可
2007年	インフルエンザ予防接種（毎年）を学内で開始
2014年	学生相談数の増加に伴い、学生相談を漸次増枠
2015年	臨床心理士による学生を対象とした講演会（毎年）を開始
2016年	学外施設にて臨床実習を行う学生に対し抗体価測定やワクチン接種などの対策（毎年）を開始
2017年	救急救命学科の協力のもと教職員に対する心肺蘇生法講習会（毎年）を開始
2018年	合理的配慮の相談窓口の設置
2021年	新型コロナ感染症者の把握および新型コロナワクチンの職域接種の実施の協力 学生も対象にした動画による心肺蘇生法講習会（毎年）を開始

（2）健康管理センターの支援活動

健康管理センターは学務部に近い講義棟（D棟）1階にあり、その医務室には2人の看護師が常勤して学生に対応しており、学生は体調に応じて医師資格を有する学内の学校医、内科医、整形外科医から医務室を介してアドバイスを受けられる。現在の医務室の利用内容は健康診断関係が多く、次いで内科系での利用が多い。運動実習時などでの熱中症等で急を要する事態には、医師が対応できるよう医務室を診療施設として機能するようにしている。なお、病院での手当てを必要とする場合は、大学より自動車で約10分の新潟リハビリテーション病院と連携して対応している。その他、学外の医療機関との連携を図るべき学生に関しては、学生や保護者の希望に沿って診療情報提供の依頼を行い、学内の関連部署と連携している。

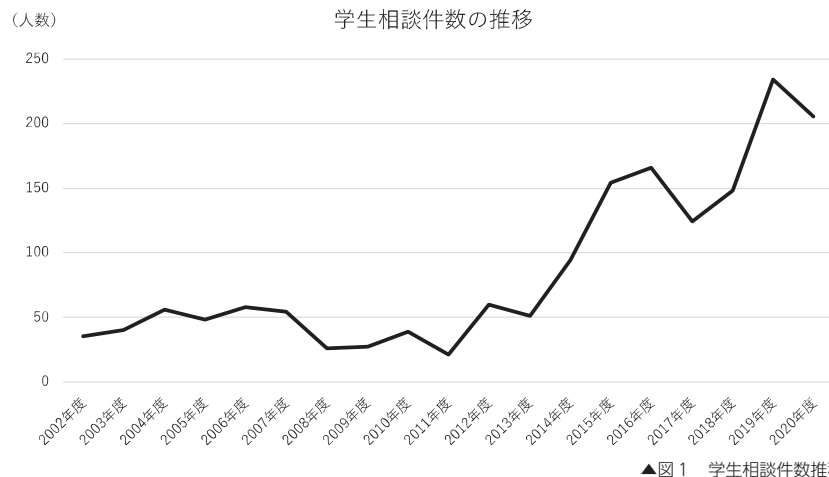
精神的な問題を抱えている学生は増加傾向にあり、このような学生に対しては医務室と連携し、心理相談の非常勤として公認心理師の資格も有する男女各1人の臨床心理士が週4回、学内で相談業務を行っている。また、学外の精神科医師も隔週1回の相談業務を行っている。さらにメンタル面でフォローアップが必要な学生に対しては、臨床心理士、公認心理師の資格を有する常勤の教員であるメンタル支援室のメンバーおよび医師によるアドバイスを行っている（表2、図1）。

さらに健康管理センターでは、学内や病院実習での感染予防対策などを検討すると共に、インフルエンザをはじめとした感染への速やかな対応を行っている。インフルエンザ予防接種は学内で実施している。新型コロナウイルス感染においては、学務部と連携して新潟リハビリテーション病院、にいがたPCR検査センターでの検査等により感染者を迅速に把握し、学内クラスター発生の防止を図っている。また、各学科教員、職員の協力のもと新型コロナワクチンの職域接種の実施に関わっている。

その他、救急救命学科の協力のもと毎年学内での教職員の心肺蘇生法講習会を2、3回実施している。コロナ禍の2021年は学生も対象に含めた動画による心肺蘇生法講習プログラムを実施している。また、障がいのある学生を支援するにあたり、合理的配慮の相談窓口を設置し、関連部署と連携を図っている。学生が安全に大学生活を送ることができるように、NUHWセーフティネットを設置し、気軽に利用してもらおうための周知を図っている。

▼表2 健康問題を抱える学生支援体制

名称	担当者	開室日数	開室時間
学生相談室	臨床心理士 2 人	週 4 回	11:10～17:00
	精神科医師 1 人	隔週 1 回	16:00～17:00
医務室	医師 3 人	週 5 回	8:30～17:00
	看護師 2 人		



4) 就職センター

(1) 活動内容

開学10周年後、リーマンショックにより悪化した雇用情勢は徐々に回復傾向がみられ、2011年度の将来計画としてキャリア開発室機能の充実化が図られた。スタッフも増員され、年間相談件数は7,000件となった。2012年度には実践行動学パート3の実施が企画され、早期における就職意識を高めていった。2013年度には初の医療情報管理学科の卒業を迎え、一般企業の求人開拓をさらに強化し学内企業説明会も過去最大規模となった。2014年度から入学から卒業時までを見据えたキャリア教育を想定しクラウド型ポートフォリオの導入を企画。就職センター運営委員会とキャリア開発室における継続した連携がさらに強化されていった。2016年度から「Manaba」を3学科に導入、将来に向けて段階的・具体的にビジョンを描けるように「キャリア形成支援講座」が開始された。2017年度には国家資格キャリアコンサルタントを有するスタッフが増員。各部署と一体化した「学生総合サポート連絡会」を通し、障がいのある学生、グレーゾーンの学生支援に本格的に取り組むことになった。転部や退学に悩む学生も学生課と連携し、より学生の主訴を引き出すなど個々の課題に対応することで退学抑止の一助を担っている。また初の視機能科学科の卒業を迎え内定率100%と順調なすべり出しとなった。2019年度には障害のある学生向けの本学独自の「ナビゲーションシート」を作成。学生が自分の特性を自己理解するだけでなく、応募先企業や施設に提出することで内定へと結びつくことができた。より困難な事例では、ゼミの教員・就職センター運営委員・スタッフでケース会議実施。ハローワーク専門援助窓口や同じNSGグループである「こあサポート」など外部機関との連携も強化した。

健康スポーツ学科・理学療法学科・看護学科・臨床技術学科の定員増に伴い、求人開拓も一層強化した。スタッフが手作業で求人情報をシステムに取り込んでいたが、求人票をPDF化する仕組みをはじ

め、学生にとってはより詳細な求人内容をいつでも閲覧することができ、効率化を図ることができた。一方で学生の支援内容を管理するシステムもハローワークのシステムを参考に新たに導入。情報を積み上げることでより的確なサポートが可能となった。

2018年度、2019年度は全国的な売り手市場という背景もさることながら、これまで不定期で開催していた就職支援セミナーを改変。多くの学生が参加しやすいように昼休みを利用した「ランチセミナー」を企画。就活時期に合わせて計画的に開催した。また医療職の養成校増加により、不合格となる学生も増えたことから学科別就職ガイダンスを実施し履歴書の作成や模擬面接を強化。99.6%、99.8%と過去最高の内定率（2019年3月末時点）となった。

2020年度に入ると日本でも新型コロナウイルス感染の影響を受け始め、感染予防対策として学生の入構禁止、スタッフ・教員も在宅ワークを余儀なくされ、就活のサポートがままならない状態となった。長年続いていた3年生全員との進路希望登録面談を断念、学内企業説明会を対面型からオンデマンド型に切り替えることとなった。しかしZoomを使用したオンライン相談も導入、学生の不安に寄り添うことを主眼に「繋がる」支援を模索した。現在では、オンライン環境を整え、セミナーや企業説明会などほぼすべての企画や支援を行えるようになっている。合わせて救急救命学科が初の卒業となり、ほとんどの学生が公務員試験を受験することから公務員試験対策も本学同窓会の協賛も得ながら充実させていった。2021年度には診療放射線学科が初の卒業となるが万全の態勢で就活を支援している。

開学以来、2学部5学科301名の卒業生の就職支援から始まり、2021年度は13学科1,064名の卒業生の支援を行うまでとなった。

(2) 課題

全国の大学進学率は50%を超え、大学生の質について問題視されるようになり、就職活動においても質・意識の高い学生と低い学生の二極化が見られ、本学も同様の傾向にある。いかに早期の段階で意識の低い学生にアプローチしていくかが課題であるが、コロナ過の中、オンライン授業の導入・入構制限により学生一人ひとりと顔の見えるコミュニケーションが不足し、個々の課題がつかみ難い傾向となっている。また量より質を求める厳選化、通年採用による長期化、インターンシップ普及による選考の早期化など就職活動の環境変化に対応することも求められている。そのため、キャリア開発室のスタッフは今後も最新の情報収集やキャリアコンサルティングの知識・スキル習得に努め、迅速かつ的確なサポートができる体制を整えることが必要である。また多様化する学生の特質に合わせた支援には、就職センター運営委員会との連携は必須であり、医務室を含めた学務部全体での取り組みも求められている。

さらに就職支援の継続を希望する卒業生や増加する大学院生に対してのサポートも望まれている。定着度調査の結果分析や同窓会との連携により、フォロー体制を模索していくことが今後の課題である。

5) 学習支援センター

平成23年度（2011年度）後期より、全ての学生が大学生活に適応し、快適でより充実した学習環境を提供することを目的に学習支援センターの業務を開始し、利用者数は年々増加している。現在は、数学、生物、物理、化学、日本語表現の基礎5科目を対象にした指導講師及び専属の事務兼コーディネーターを配置し、担当教員（学科教員）と共に学習支援業務を行っている。また、学業不振の背景に発達障が

いや精神障がい等の問題を抱えている場合もあるため、発達障がいを専門とする講師を招き、カウンセリングの側面も持ち合わせた相談業務を実施している。

指導講師には高校を退職した教員や塾講師のほかに、本学を卒業した大学院生も採用しており、彼らの自身の体験に基づいた学習支援は好評である。学習に悩みを持つ学生が気軽に相談できる場として全学生に利用されている（表1）。

▼表1 学習支援センター個別指導 延べ利用件数

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
延べ利用者数		641	646	1,340	1,157	624	550	1,275	1,418	1,009
学年別	1年	458	375	741	581	278	201	360	411	166
	2年	83	130	290	272	121	244	325	600	390
	3年	84	75	187	188	172	76	508	265	308
	4年	11	41	118	90	53	29	55	83	40
	院生	6	25	4	26	0	0	27	59	105
学科別	理学	109	159	440	463	100	151	263	513	391
	作業	65	8	122	122	24	27	513	272	38
	言語	12	77	174	85	62	133	172	105	73
	義肢	83	20	36	21	19	4	16	5	97
	臨床	5	97	112	112	64	58	55	221	22
	視機能			23	44	59	60	27	71	18
	救命						22	7	0	6
	放射線							17	2	24
	栄養	178	83	99	108	70	1	12	23	4
	スポーツ	23	22	56	73	45	11	2	4	41
	看護	98	43	204	60	175	65	138	93	130
	社福	62	64	60	28	6	17	24	44	60
	情報	1	44	10	15	0	1	2	6	0
	院生	6	29	4	26	0	0	27	59	105
科目別	数学	283	123	233	286	255	167	179	150	89
	解剖学・生理学	162	232	638	622	220	318	1023	988	774
	物理	69	68	172	71	23	12	36	118	20
	化学	103	110	134	34	60	31	22	82	5
	日本語表現	25	113	163	144	66	22	15	80	121

（1）運営組織・体制

平成18年度（2006年度）に学習支援委員会が設置され、対象者別に3部会で組織された。身体障がい・疾病などにより学習に困難を生じている学生に関する支援を行う第1部会、メンタルヘルスに問題がある学生あるいは発達障害が疑われる学生に関する支援を行う第2部会、低成績者に対する支援を行う第3部会である。その後、平成23年度（2011年度）に学習支援委員会の上部組織として学習支援センターが設立され、学習支援活動をより一層推進することとなった。開設次年度には個別指導に加え、各種セミナー・ワークショップ、医師による学習相談の活動を開始し、学生の多様なニーズに応えるための体制が整った。

平成28年度（2016年度）、図書館1階ラーニングコモンズに移転した。これを機に「図書館・情報委

員会」と統合した「図書館・学習支援センター運営委員会」が新設された。平成31年（2019年）には、図書館と学習支援センター機能の一体化を促進するため「図書館・学習支援委員会」に名称を改め、学業不振に悩む学生から高学力層の学生まで、全学生を対象とした学習支援の提供に取り組んでいる。

（2）支援内容

①個別指導

高校の理数科目の復習や専門科目の基礎について個別指導を実施している。自ら積極的に相談しない受身的な要支援・要配慮学生を早期発見するために、個別指導の利用を推奨する学生の抽出基準を設け、その基準に該当する学生データは半期毎に各学科に提供する体制を取っている。この抽出基準は半期毎に見直し、学生にとって適切な基準が保たれるよう配慮されている。また、利用を推奨された学生は、学科教員とともにセンターで学習計画をたて、一定期間個別指導を受講する仕組みを構築している（表2）。

▼表2 学習支援センターの利用の流れ

step 1 : 学生と担当教員の面談	「指導前ヒアリングシート」を用い、学生が分からないと感じている講義についての面談を担当教員と学生で行う。担当教員は学生からのヒアリングをもとに、その講義に関連する高校までの履修科目（数学・生物・物理・化学）と範囲を決定する。
step 2 : 学生・担当教員・指導講師で三者面談	学習支援センターにおいて学生・担当教員・指導講師の三者面談を行う。指導前ヒアリングシートと面談により、学生の到達目標と数学・生物・物理・化学・日本語表現の具体的な指導内容（範囲）を決定。
step 3 : 指導開始	① 1 回指導日：【pre test】実施（習熟度の把握） ② 2 回～ ：指導計画に則る ③ 最終指導日：【post test】実施 正答率 8 割程度以上で指導終了。未達の場合はその範囲を再指導。 ※担当教員は指導講師と連携し、学生の指導状況や評価などの情報を共有。
step 4 : 指導終了後面談	担当教員は学習支援センターでの指導後、分からなかった講義の理解度は上がったか、学生の学習状況は改善されたかなどについて事後面談で確認。

なお、学生による自主的な個別指導利用履歴はデータベースに蓄積されており、定期的に学科教員に報告されている。これにより、多くの学生が躓きやすい科目の把握が可能となり、さらに個々の学生の指導の中で聴き取った意見・要望も教職員間で共有されている。

感染症拡大に伴い学生の入構が制限された令和 2 年度（2020年度）には、Web会議ソフトZoomを使用したオンラインによる個別指導を開始した。場所の制約がないため、長期休講期間中も帰省先から受講することが可能になった。オンライン形式を導入以降、休講期間中の利用数は顕著に増加している。受講者アンケート結果では対面での個別指導が再開してもオンラインでの受講を望む声が複数あり、学習支援センターの新しい指導形態として今後も継続することとしている。

②セミナー

解剖学や運動学、統計学など多くの学生が躓きやすい科目のセミナーを企画・開催し、必要な知識を習得するよう支援している。授業に直結した内容を取り上げる補習セミナーは科目担当教員の監修のもと実施しており、要支援・要配慮学生を中心に教員から参加を促す形をとっている。

学修支援に関する学生の意見や要望をくみ上げるため、授業以外の時間で学生が自主的に利用する個別指導及び補習セミナーの利用者を対象にアンケートを実施している。これらの結果は、各学科から 1 人以上選出されている図書館・学習支援委員の教員と情報を共有し、学生の要望把握、分析に努めている。

る。また、学習支援センターの講師とも情報を共有し、指導内容の改善に努めている。

補習セミナーとは別に、勉強のコツやメールの書き方、文献の探し方など学習全般に関する内容について、オンライン形式のミニセミナーを行っている。ミニセミナーは大学院生講師が担当しており、開催時間はお昼休みの15分程度のため気軽に参加でき、1・2年生を中心に好評である。

補習セミナーとミニセミナーはいずれも動画を公開しており、いつでもどこからでも学べる環境を提供している。

③入学前セミナー

入学が決定した学生を対象に「入学前セミナー」を実施している。平成25年度（2013年度）以降毎年3月に実施しており、内容は高校までの復習に加え、大学での専門的学びへの興味・関心を喚起するものとしている。令和元年（2019年）3月の「入学前セミナー」は対面式で開催した。延べ971人が受講し、セミナー会場では新入生同士が交流する様子が見られた。受講者アンケートでは入学前の不安について尋ねる項目を設け、入学後の学習支援に役立てている。

④ピアサポート活動

ピアサポート活動として、平成27年（2015年）4月に、新入生を対象とした「履修登録ヘルプデスク」を開始した。学生ボランティアが自分の経験に基づき履修登録に関するアドバイスを行っており、令和2年度（2020年度）は感染症拡大のため開催できなかったが、令和元年（2019年）4月開催時は延べ502人の新入生が利用した。入学後の不安払拭の機会として、また学年を超えた交流の機会として機能している（表3）。

令和元（2019）年11月にGPAを利用した学部生による学習支援制度（ピアサポーター制度）を制定した。令和2年度（2020年度）は理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、義肢装具自立支援学科、看護学科の5学科から14名の学習支援ピアサポーターを採用し、事前研修を行った。令和3年度（2021年度）のトライアル運用に向けて準備を進めている。

▼表3 履修登録ヘルプデスク実施状況

	2015年度 開催日数：5日間			2016年度 開催日数：5日間			2017年度 開催日数：5日間			2018年度 開催日数：3日間			2019年度 開催日数：3日間		
学科名	在学生 スタッフ数	新入生 相談者数	新入生 利用率	在学生 スタッフ数	新入生 相談者数	新入生 利用率	在学生 スタッフ数	新入生 相談者数	新入生 利用率	在学生 スタッフ数	新入生 相談者数	新入生 利用率	在学生 スタッフ数	新入生 相談者数	新入生 利用率
理学療法	5	62	62.6%	5	98	69.5%	8	76	58.0%	9	80	58.8%	6	98	72.6%
作業療法	4	20	44.4%	3	41	87.2%	3	21	50.0%	5	21	42.0%	3	33	67.3%
言語聴覚	5	37	80.4%	5	38	92.7%	3	29	69.0%	4	17	40.5%	6	17	39.5%
義肢装具 自立支援	3	21	43.8%	5	9	22.5%	6	17	39.5%	8	16	38.1%	9	29	74.4%
臨床技術	1	36	36.0%	4	57	57.0%	7	75	75.0%	5	64	68.1%	7	61	61.0%
視機能科	3	34	58.6%	2	24	46.2%	2	36	69.2%	3	10	20.0%	6	39	81.3%
救急救命							0	15	27.3%	4	19	34.5%	4	16	29.1%
診療放射線										0	22	24.4%	3	60	66.7%
健康栄養	0	20	45.5%	4	29	65.9%	4	13	28.3%	2	2	4.7%	2	2	4.7%
健康スポーツ	0	38	16.5%	2	32	14.8%	5	2	0.9%	3	3	1.4%	3	16	7.2%
看護	2	58	65.9%	4	60	62.5%	9	73	83.0%	13	40	37.4%	7	47	43.9%
社会福祉	7	21	14.6%	4	25	21.7%	6	50	37.0%	4	26	19.3%	5	73	56.2%
医療情報管理	1	34	36.6%	6	28	28.0%	4	38	43.7%	2	24	27.3%	3	11	12.4%
合計	31	381	38.3%	44	441	44.5%	57	445	42.8%	62	344	30.1%	64	502	43.7%

(3) 課題と展望

開設して9年が経ち、授業内容に何らかの疑問を抱いたり授業を理解できなかったりした場合に気軽に質問できる場として定着しつつある。しかし、学業不振に悩む学生に対する支援を行うイメージが強く、高学力層への支援の展開が後れていた。2021年度以降、本学教員の教育研究成果をデジタルコンテンツとして公開し、高学力層の知的欲求に応える新たな学習支援を開始予定である。

また、本学を卒業した大学院生講師は利用者からのニーズが多くあり、全学科から採用することが望ましい。しかし、フルタイム院生がいないなどの理由で、リハビリテーション学部を中心とした一部の学科からの採用にとどまっている。解決策として、ピアサポーター制度の活用を検討している。令和2年度（2020年度）に開始したこの制度をうまく運用し、全学部学生に等しく支援を提供できる環境の構築を目指していく。

6) 教職支援センター

(1) 取得可能な教員免許状

本学では、2005年度より健康栄養学科及び健康スポーツ学科に、2006年度より看護学科に、また2007年度より医療福祉学研究科健康スポーツ学分野に教職課程が設置されている。教職課程において定められた単位を修得することにより、各学科・分野に在籍する学生は、以下表1に示した教員免許状の取得が可能である。

▼表1 本学において取得可能な教員免許状

健康科学部 健康栄養学科	健康科学部 健康スポーツ学科	看護学部 看護学科	医療福祉学研究科 健康スポーツ学分野
栄養教諭一種免許状	中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	養護教諭一種免許状	中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）

上記に加え、2014年度から、健康スポーツ学科にて玉川大学教育学部教育学科通信教育課程との連携プログラムに参加している学生は、小学校教諭二種免許状の取得が可能となっている。また看護学科では、保健師国家資格の取得及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（4科目8単位）の修得により、養護教諭二種免許の取得が可能である。

(2) 教員養成理念

本学教職課程では「優れたQOLサポーターとしての教師」を教員養成理念とし、求められる資質・能力を、STEPSに即して以下のように整理している。

Science & Art（科学的知識と技術を活用する力）

教職に関する教養を有し、専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を教育指導の場面で活用できる。

Teamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップ）

児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性を有するとともに、校内連携において求

められるチームワークを発揮することができる。

Empowerment（対象者を支援する力）

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、児童生徒の学びについて適切に導くことができる。

Problem-solving（問題を解決する力）

教職に対する使命感と最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、児童生徒に関わる諸問題を解決しようとする。

Self-realization（自己実現意欲）

教職と専門分野に関する課題に広く関心を持ち、自己の可能性を実現するために、主体的、意欲的に研修できる。

「優れたQOLサポーターとしての教師」とは、自らの専門領域における高度な知識・技能と深い教育的教養を備え、児童生徒の「現在のQOL」に目を向けて適切に対応できるだけでなく、彼らの「将来のQOL」の向上をも見据えながら、周囲の人びとと連携して職務を遂行していくことのできる存在である。教職課程に在籍している学生は、各学科・分野における学びを通じて、「優れたQOLサポーターとしての教師」になるべく学修に励むことが期待されている。

（３）教職支援体制

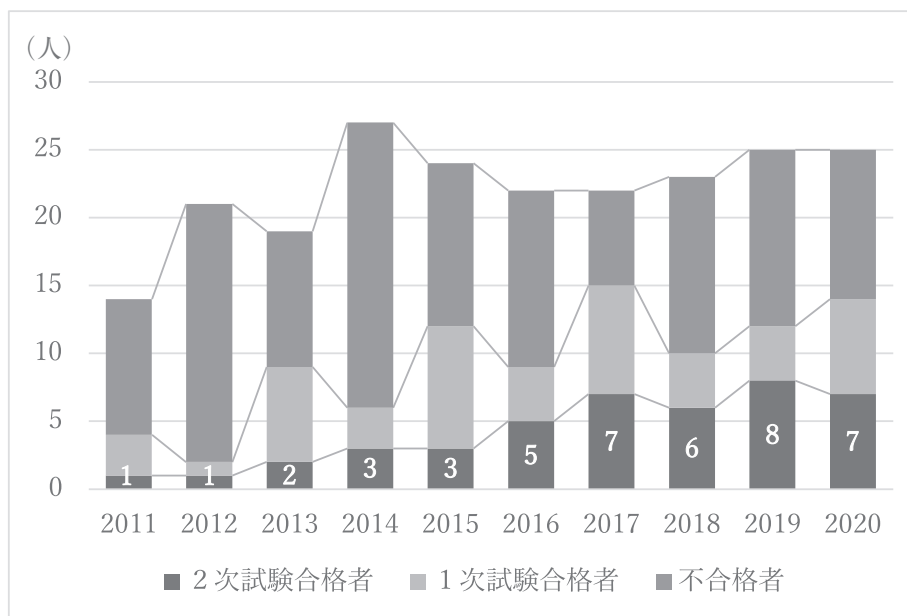
各学科の教職課程担当教員により個別に行われていた教職支援は、2006年度に教職課程運営委員会が組織されて以降、情報・状況の共有や指導体制の一元化が徐々に進められ、全学的な組織体制として整備されてきた。教職課程運営委員会は、その後2016年度の教職支援センター設立時に教職支援センター運営委員会と名称が改められ、現在に至っている。教職支援センター運営委員会では、本学の教職課程に関わる業務を充実させ、かつ円滑にこれらを運営することを目的とし、3つの専門部会（養成部会、採用・研修部会、企画・研究部会）において必要な事項の調査、審議が行われている。

講義棟（D棟）1階学生サポートステーション内に位置する教職支援センターは、原則として平日日中は常時開室しており、本学学生・卒業生であれば誰でも利用が可能である。教職支援センターでは「学修相談」「教員採用試験対策講座」「教員採用試験学内模擬試験」「教員採用試験対策イベント」などが随時行われており、年間延べ2,000名以上の学生・卒業生が利用している。

（４）教員就職状況

2008年度に教職課程として初めての卒業生を送り出して以降、正規採用者として教職に就いた本学の卒業生は124名を数えている（2021年5月現在）。

本学教職課程の量的拡大・質的充実を示す指標として、直近10年間の教員採用試験受験者数及び現役合格者数とその推移を図1に示す。2011年度に14名だった教員採用試験受験者数は、2020年度には25名まで増加している。同様に2011年度に1名だった教員採用試験の現役合格者（2次試験合格者）についても、特に教職支援センターが設立された2016年度以降は継続して5名以上となっており、漸増傾向にあることを確認することができる。



▲図1 教員採用試験受験者数及び現役合格者数の推移（2011年度～2020年度）

7) 新潟連携教育研究センター

本学では2001年の開学以前から、連携教育をカリキュラムに取り込むことが検討され、2004年には『総合ゼミ』（現『連携総合ゼミ』）が4年次の科目として試行された。当初の学科編成は理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、健康栄養学科、社会福祉学科の5学科で、ケース会議を通してQOLサポーターとして対象者と家族に何ができるかを紙ベースの事例を使って検討する内容であった。このように『連携総合ゼミ』の前身である『総合ゼミ』は連携教育の総仕上げの科目として位置づけられ最終学年に配置された。

2009年に文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学間支援プログラム」を受けて「モジュール」（仮想事例教材）を開発し、年々新たな事例が加わり現在36の事例がネット上で公開されている。本学の新潟連携教育研究センターのホームページや日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）のホームページからでも閲覧できる。

『総合ゼミ』では紙ベースの事例とモジュールの両方が使用され、2013年から名称も『連携総合ゼミ』に改正され、新潟薬科大学や日本歯科大学短期大学からも薬剤師を目指す学生や歯科衛生士となる学生も参加するようになり、歯学部の学生が参加することもあった。

2018年の学部改組の年には1年次の『チームアプローチ入門』、2年次の『連携基礎ゼミ』、3年次の『保健医療福祉連携学』と『地域連携学』、そして集大成の科目である4年次の『連携総合ゼミ』と、学年ごとに科目配置され2022年度からは『連携総合ゼミ』は3年次（3月）と4年次（8月末）の2回実施する予定である。新潟薬科大学や日本歯科大学短期大学の常連校に加えて、新潟リハビリテーション大学からも学生の参加が開始された。

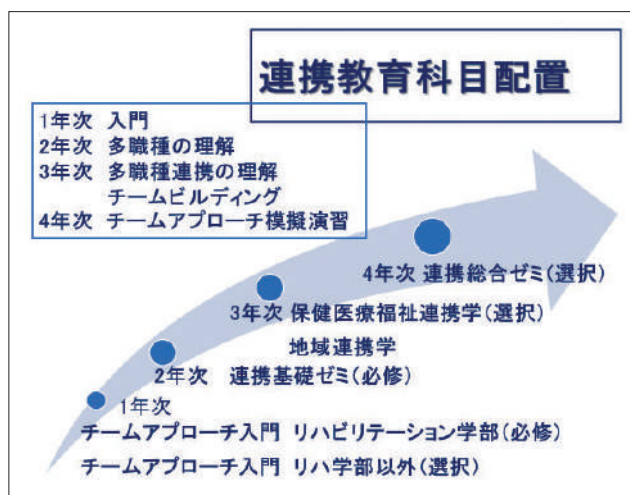
本学の連携教育は英国、米国、カナダなどCAIPE（英国連携教育センター）を中心とした連携教育の理念を共有しながら、国際交流委員会とも連携し、2012年以降、海外大学間協定締結校であるフィリピンのアンヘレス大学、サント・トマス大学の2大学が『連携総合ゼミ』に参加することとなった。

また、義肢装具・自立支援学科の海外展開から台湾との交流が開始され2016年以降、国立陽明大学、中山医学大学からも『連携総合ゼミ』への参加が開始された。また、2020年からベトナムのハイズオン医療技術大学にJICA草の根支援事業をとおして、連携教育を導入するプログラムが始まり、2020年から連携総合ゼミに学生と教員が2年続けて参加している。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2020年から2年間オンライン開催となり、対面でのゼミは開催されていない状況にある。2020年度はオンライン開催で参加数も123名と減少したが、2021年度は海外の大学もオンラインで参加され204名の参加者で事例数も海外2事例を含む18事例を使って検討された。

アンケート評価から、学生はオンライン開催ではあったが、自己の専門的知識を活かし、他のメンバーと共有し、オンラインにも積極的に参加できていたことが示された。また、連携総合ゼミ担当教員による事例集の作成や事例担当者の先生方の熱心な指導、海外参加大学に対する英語担当教員のサポート、協力教員の援助、事務局職員の支えがあって可能となっている。2022年度新カリキュラムからはより多くの学生の連携科目履修が可能となった。



▲図1 連携教育国内外大学連携



▲図2 連携教育学年進行図



▲図3 連携総合ゼミポスター



▲図4 連携総合ゼミグループワーク



▲図5 ゼミ発表



▲図6 リフレクションの様子



▲図7 コーヒーハウス (大学紹介)



▲図8 コーヒーハウス (大学紹介)



第 6 章

研究

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

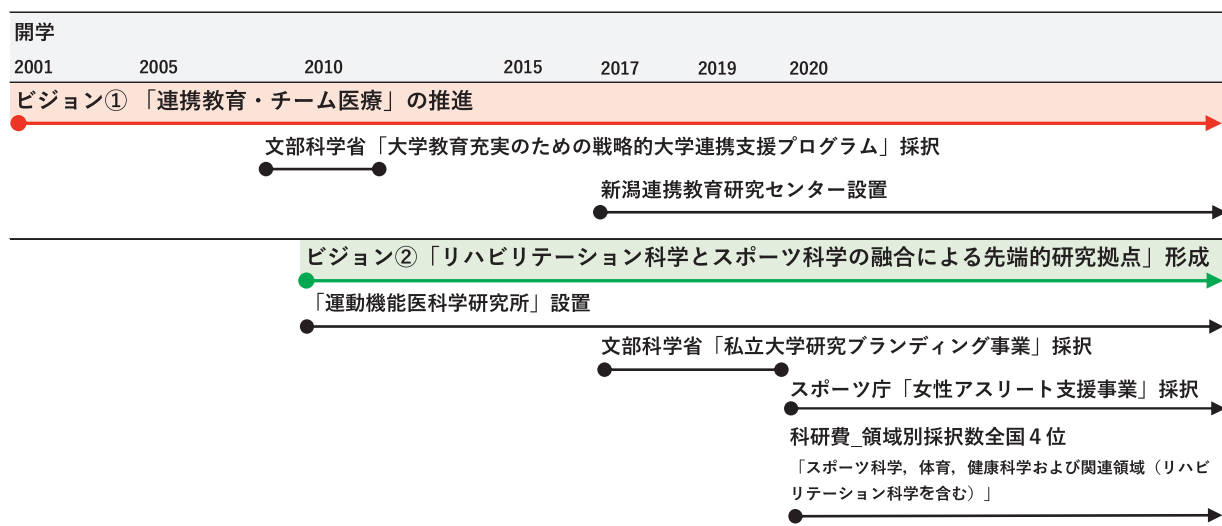
1) 本学の研究活動に関するビジョンと概要

本学では、開学以来「優れたQOLサポーターの育成」を建学の精神として表している。この建学の精神をさらに推進するため、保健・医療・福祉・スポーツに関連した指導的な人材育成に留まらず、「連携教育・チーム医療」の推進に加えて、保健・医療・福祉・スポーツ領域を核とした「アジアに秀でる研究拠点（リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点）」の形成を推進している。

平成13年度（2001年度）の開学以来「多職種連携とチーム医療」を推進し、平成21年度（2009年度）には、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に連携教育をテーマとした課題（QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践）が採択され、多職種連携によるチーム医療と連携教育を充実させている。その後、平成29年度（2017年度）に「新潟連携教育研究センター」を設置し、現在では、20種以上の保健・医療・福祉・スポーツ関連専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士、救急救命士、診療放射線技師、管理栄養士、看護師、保健師、助産師、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、診療情報管理士、メディカルクラーク、ドクターズクラーク、養護教諭等）を養成する課程を有するに至っている。このように、保健・医療・福祉・スポーツ領域において最も充実した多職種連携による教育・研究を実践している点が本学の特徴の一つである。

平成22年度（2010年度）には、将来ビジョンの一環として「アジアに秀でる研究拠点（リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点）」を形成するため、「運動機能医科学研究所」を開設した。本研究所では、複数学科が連携して、細胞レベルの基礎研究や、ヒトを対象とした神経生理学的研究、スポーツ傷害予防・治療のための臨床研究、リハビリテーションに関連した治療法の研究・開発等を行い、多くの研究成果を公表している。その成果もあり、平成29年度（2017年度）には文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業（2017－2019年度）」、令和2年度（2020年度）にはスポーツ庁の「女性アスリート支援事業（2020－2021年度）」に採択されている。さらに、科研費採択件数では「スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連領域（リハビリテーション科学を含む）」において全国4位に位置しており、リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点を形成しつつある点も大きな特徴の一つである。この他、アスリートサポート研究センターが中心となり、スポーツカウンセリング研究センターや、健康スポーツ学科、理学療法学科、健康栄養学科が連携し、陸上、水泳、サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、ダンスなどの強化部の選手をサポートするとともに、実践的な研究活動を推進している点や、多職種が連携して高齢者の介護予防・転倒予防に関連する研究や社会活動（ロコモティブ症候群予防研究センター）、障がい者スポーツに必要な義肢・装具の開発（義肢装具自立支援学科）、学童を対象にしたスポーツ普及活動（アクアヘルス推進プロジェクト研究センター）、言語発達障がい児の支援活動（言語発達支援センター）、慢性期の脳卒中患者の運動機能の維持・向上を支援活動（脳卒中リハビリテーション研究センター）など、地域住民を対象にし

た健康増進活動も精力的に行っている。つまり、細胞レベルの基礎研究から、ヒトを対象とした応用研究・臨床研究に発展させ、さらにその成果を、連携して対象者（患者、高齢者、競技者）に還元するためのサイクルを確立しつつある点が本学の最大の特徴である。開学時からの研究ビジョンと研究成果の概要を図1に示す。



▲図1 開学時からの研究ビジョンと研究成果の概要

2) 連携教育・チーム医療

本学では、平成13年度（2001年度）の開学以来多職種連携教育の重要性を強く意識しており、開学時から全学的な教育カリキュラムに多職種連携による「連携総合ゼミ」を組み入れてきた。開学当初は本学の5学科（開学当初の全学科）のみで開始したが、2008年度からは本学が主幹大学となり、県内医療系大学（新潟大学医学部、新潟薬科大学薬学部、日本歯科大学新潟短期大学、新潟リハビリテーション大学リハビリテーション学科）と連携し、「オール新潟による『次世代医療人』の養成プログラム」を開始するとになった。さらに、2008年度に当時の高橋榮明学長が発起人となり「日本保健医療福祉連携学会」を設立し、2009年度からは本学が代表校となり、埼玉県立大学、札幌医科大学、首都大学東京、日本社会事業大学と連携し、「文部科学省 平成21年度戦略的大学連携支援プログラム」に「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」というテーマで採択され、連携教育をさらに推進した。

平成29年度（2017年度）には本学に「新潟連携教育研究センター」を設置するとともに、海外の提携校との交流を深めながら「連携総合ゼミ」を発展させ、2019年には本学の全学科（13学科）と新潟県内の医療系大学（新潟大学、新潟薬科大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟リハビリテーション大学）に加えて、海外の大学（Angeles University Foundation、フィリピン；University of Santo Tomas、フィリピン；Haiduong Medical Technical University、ベトナム；Chung Shan Medical University、台湾）も「連携総合ゼミ」に参加するようになった（図2）。

令和2年度（2020年度）時点で、新潟医療福祉大学は6学部13学科で構成されており、20種以上の保

健・医療・福祉・スポーツ関連専門職を養成する課程を有している。このような大学は全国的にも少なく、新潟医療福祉大学は、保健・医療・福祉・スポーツ関連専門職領域において最も充実した多職種連携教育を実施することができ、かつ、連携教育プログラムを研究・開発・実践できる環境である。



▲図2 2021年度の新潟医療福祉大学「連携総合ゼミ」概要図

3) リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点

科学研究費補助事業（科研費）の採択件数及び配分額は年々増加し、平成28年度（2016年度）に「リハビリテーション科学」領域で全国9位、平成29年度（2017年度）は「リハビリテーション科学」領域で全国6位、「スポーツ科学」領域では8位であった。平成30年度（2018年度）からは審査区分領域が変更になり、これら2つの領域が合わさり「スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連領域（リハビリテーション科学を含む）」になり、平成30年度（2018年度）および令和元年度（2019年度）は全国で5位、令和2年度（2020年度）および令和3年度（2021年度）は全国で4位であった（表1）。令和3年度は早稲田大学と同点の4位であったが、本学より上位の大学は、筑波大学、順天堂大学、東京大学であり、いずれも首都圏の歴史のある大規模大学である。本学のような歴史の浅い地方私立大学が全国4位にランクインしていることから、リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点を着実に形成しつつあると言える。

さらに、このような実績を基盤とし、平成29年度（2017年度）には、「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点－Sports & Health for All in Niigata」というテーマで、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業（タイプA、社会展開型）に選定された。本事業は、全国で

▼表1 スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野（リハビリテーション科学を含む）【累積4年データ、2021年度文科省発表】

順位	機関種別名	機関名	新規採択 累計数（件）	配分額（千円） （直接経費）	応募件数 累計数（件）
1	国立大学	筑波大学	142	332,900	438
2	私立大学	順天堂大学	114	207,100	280
3	国立大学	東京大学	94	279,900	180
4	私立大学	早稲田大学	79	186,800	187
4	私立大学	新潟医療福祉大学	79	175,400	205
6	国立大学	京都大学	61	181,600	114
7	国立大学	東北大学	58	134,900	129
8	国立大学	名古屋大学	54	146,000	119
8	国立大学	広島大学	54	99,600	153
10	国立大学	大阪大学	51	136,600	117

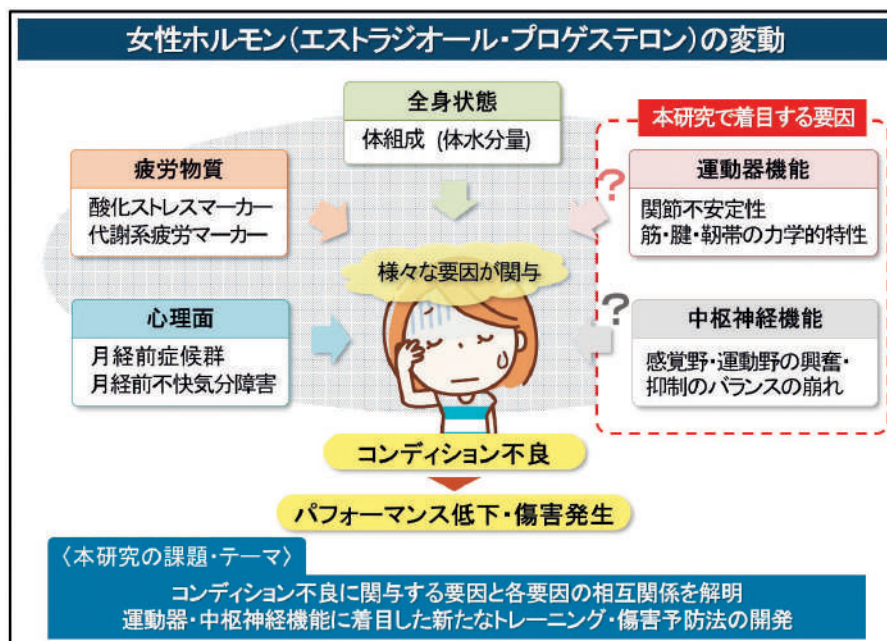
も数少ない保健・医療・福祉・スポーツの20種類以上の専門職を養成する総合大学の強みを最大限に活かし、各学科だけでなく、「運動機能医科学研究所」やトップアスリートを育成する「強化指定クラブ」、アスリートサポート研究を推進する「アスリートサポート研究センター」など、本学が有する教育・研究資源を有機的に結び付け、基礎的研究から実践、地域貢献、人材育成に至るまで様々な活動を通じて、“Sports & Health for All in Niigata＝地域住民からアスリートまで全ての人が安全にスポーツを楽しむ、幸せな生涯を過ごす新潟県”の創出を目指すものである（図3）。本事業は、平成29年度（2017年度）から令和元年度（2019年度）の3年間で総額約1.3億円のプロジェクトであり、プロジェクト終了後も研究および活動を継続している。

私立大学研究ブランディング事業に加えて、令和2年度（2020年度）にはスポーツ庁が推進している「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」にも採択された。テーマは「月経周期におけるコンディション不良に対する運動器機能と中枢神経機能からアプローチする新たなトレーニング法・傷害予防法の開発」である。女性アスリートや指導者にとって、月経周期におけるコンディションの維持と適切なトレーニングの継続は極めて重要な課題である。月経周期におけるコンディション不良については数多くの報告があるが、心理面や疲労物質、体組成変化などに着目したものが多く、運動器や中枢神経機能の変動に着目してアスリートの月経問題に取り組んでいる研究は極めて少ない。そこで本プロジェクトでは、女性アスリートの月経周期における心理面や疲労物質、体組成の変化に加えて、運動器や中枢神経機能の変動にも着目し、①包括的に月経周期と心身機能との関係性を解明するとともに、②解明された問題点に対する予測指標の確立と対応策を開発している。更に、③月経周期における最良のコンディショニング法と適切なトレーニング法・傷害予防法を女性アスリート及び指導者に還元するこれらを通して、女性アスリートが直面する健康課題の解消を目指している（図4）。本事業は令和2年度（2020年度）から令和3年度（2021年度）の2年で総額2千万円のプロジェクトであるが、蓄積した知見と構築した包括的な支援体制を活用して、令和4年度（2022年度）以降も継続して女性アスリートをサポートしていく予定である。



保健・医療・福祉・スポーツ領域20種以上の専門職連携で取り組む社会展開型研究

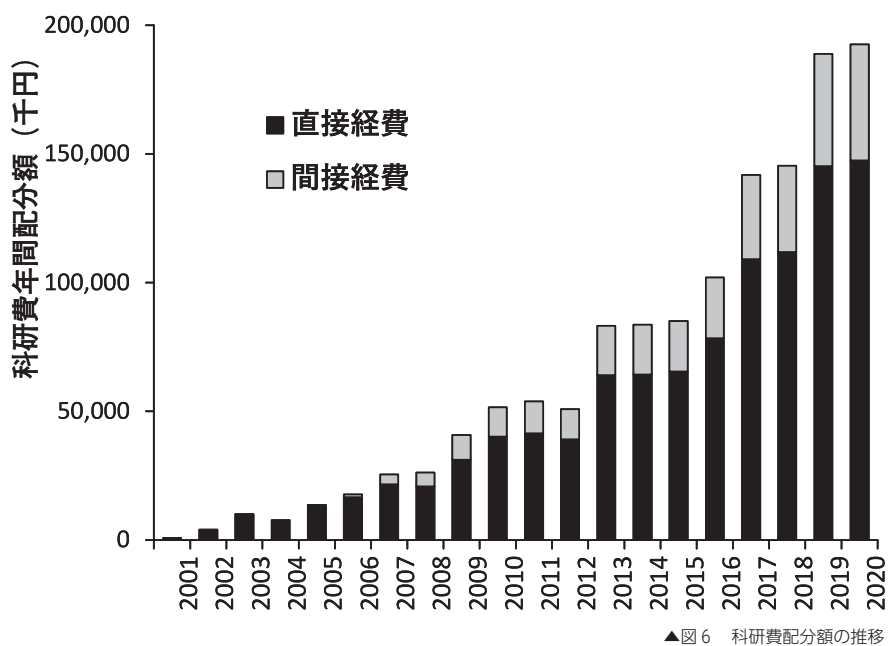
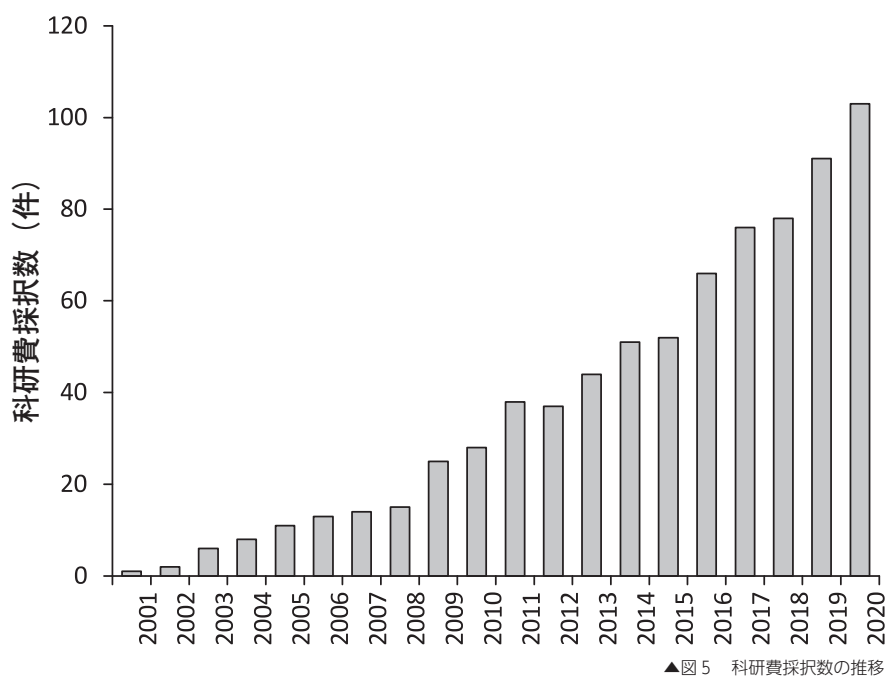
▲図3 新潟医療福祉大学「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点」形成概要図



▲図4 女性アスリートサポートプロジェクト「月経周期におけるコンディション不良に対する運動器機能と中枢神経機能からアプローチする新たなトレーニング法・傷害予防法の開発」本研究の全体像 概要図

1) 科学研究費助成事業（科研費）の推移

開学時からの科研費採択数（新規＋継続）および配分額の推移を図5、図6、表1に示す。開学から2008年までの採択数は比較的少ないものの、順調に右肩上がりに増え、2009年から急激に増加している。20周年にあたる2020年度の採択数は103件、配分額は1億9266万円（直接経費1億4753万円、間接経費4512万円）であり、全国1354研究機関のうち147番目に採択数が多い研究機関にまで至っている。



▼表1 科学研究費助成事業（科研費）の保有数および配分額の推移

年度	採択数	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	総額 (千円)
2001	1	700	0	700
2002	2	4,000	0	4,000
2003	6	10,000	0	10,000
2004	8	7,700	0	7,700
2005	11	13,600	0	13,600
2006	13	16,600	1,050	17,650
2007	14	21,600	3,810	25,410
2008	15	20,770	5,391	26,161
2009	25	31,130	9,669	40,799
2010	28	40,170	11,331	51,501
2011	38	41,400	12,420	53,820
2012	37	39,100	11,730	50,830
2013	44	64,000	19,200	83,200
2014	51	64,300	19,290	83,590
2015	52	65,400	19,620	85,020
2016	66	78,400	23,520	101,920
2017	76	109,100	32,730	141,830
2018	78	111,900	33,570	145,470
2019	91	145,300	43,590	188,890
2020	103	147,534	45,126	192,660

3

委員会活動、附属機関等

1) 運動機能医科学研究所

(1) 研究所発足の経緯と実績概要

本学には、開学当初よりリハビリテーション科学や健康科学、スポーツ科学など異なるバックグラウンドを持ちながら、人の感覚機能や運動機能についての理解を深めることで人の幸福に貢献するという信念を有する研究者が存在していた。これらの研究者を学科や学部の枠を超えて一つの組織として活動する機会・場を作り出すことを目的として、初代学長の高橋榮明先生の立案で運動機能医科学研究所の設置企画が開始された。その後、前学長の山本正治先生のご指導とご協力を賜りながら、学校法人新潟総合学園および大学事務局のご支援の下、2010年11月に開所する運びとなった。

本研究所は、山本正治先生のご提言に従い「Education comes first. Publish, or perish. Think locally, act globally」をスローガンにして活動している。その結果、開所から10年間で61名の大学院修了生（修士号47名、博士号15名）を輩出し、401編（うち大学院生が筆頭の論文は67編）の研究論文が国際誌に掲載され、4億4千万円の科研費を獲得しており、開所時に掲げたスローガンを着実に実行している。研究所が開所されてからの実績概要を表2および図7、図8に示す。

(2) 研究所の特色

本研究所は、本学の教育理念との調和、地域関連施設とも連携した共同研究体制を構築し、研究、教育、社会貢献が調和した機能的環境の醸成を理念とし、感覚・運動機能、運動制御・運動学習及び運動器に関する基礎及び臨床研究を行うことを目的としている（運動機能医科学研究所規程第2条）。また、この目的を達成するため、（1）感覚・運動機能、運動制御・運動学習、運動器に関する基礎及び臨床研究、（2）研究成果の公表、（3）大学院生及び学部学生に対する教育を通して研究成果を還元するなど、その他必要な事業を行う（運動機能医科学研究所規程第3条）ことと定めている。

研究所の目的・事業の特色は、医療、スポーツ、健康等に関する基礎的、実践的な研究を特に感覚・運動機能を中心として推進し、異分野間の連携による融合的、分野横断的研究の実施を可能とした体制を整備して、幅広い見識を備えた（若手）研究者の育成にも貢献することである（教育的機能）。また、研究上の具体的な特色として、主に以下9テーマを中心に研究活動が進められている。

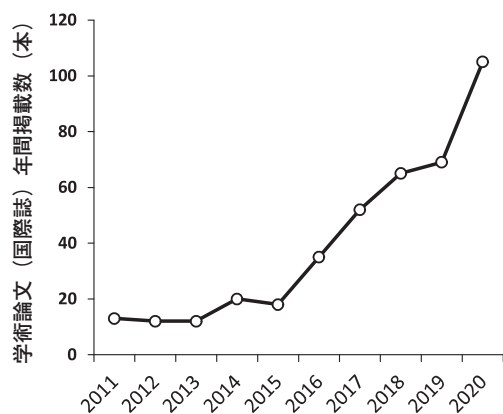
1. 感覚運動機能連関の神経基盤の解明
2. 運動制御および感覚運動学習過程に関する研究
3. 疼痛の生理・病態・心理・治療に関する研究
4. 運動刺激による神経－筋－骨格系の機能的変化に関する研究
5. 運動と呼吸循環応答および脳循環応答に関する研究
6. 運動機能障害に対するリハビリテーションに関する研究と開発
7. 身体運動分析及び行動分析に関する研究
8. アスリート脳に関する研究
9. 健康増進のための運動プログラムの開発

組織運営面では、開所当初から所長、副所長、顧問を置くとともに、研究所内に運営委員会を設置しており、運営体制を整備している。構成する研究員は全員各学科に属する教員等が兼任で研究員として配置されており、様々な領域の専門家が集まり学際的に研究活動に取り組んでいる点も大きな特色の一つである。

▼表2 運動機能医科学研究所の実績概要

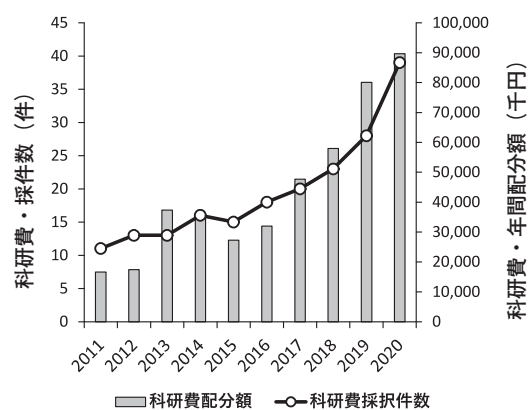
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	計
学術論文数 (国際誌)	13	12	12	20	18	35	52	65	69	105	401
学会発表数	36	33	48	37	80	104	130	147	163	71	849
科研費配分額 (千円)	16,640	17,420	37,310	35,620	27,300	31,980	47,710	57,980	80,080	89,712	441,752
科研費採択数	11	13	13	16	15	18	20	23	28	39	196
修士課程 入学者数	5	4	4	2	8	5	6	5	6	7	53
博士課程 入学者数	1	0	1	4	1	2	3	3	2	2	19

学术论文（国際誌）掲載数の推移



▲図7 学术论文（国際誌）掲載数の推移

科研費採択数・額の推移



▲図8 科研費採択数・額の推移



高橋榮明 名誉学長
(運動機能医科学研究所顧問)



山本正治 名誉学長
(開所当時の学長)



大西秀明 初代所長



除幕式



開所式集合写真



一周年記念式典



高橋榮明・初代学長
(運動機能医科学研究所顧問)
の直筆プレート

2) プロジェクト研究センター

(1) プロジェクト研究センター発足の経緯

新潟医療福祉大学プロジェクト研究センター規程に定めるプロジェクト研究センター群の総合的な運営等を行うことを目的として研究推進機構が2005年度に設置された。これまでに24のセンターが設置され、2020年度時点で10のセンターがその活動を継続している。

新潟医療福祉大学プロジェクト研究センターは、社会的要請の高い分野の学外研究資金等による自主的研究および学際的共同研究を推進し、本大学の研究活動の強化および新しい教育研究分野への展開に資することを目的としている。プロジェクト研究センターでは、課題解決のために国内外の研究者や実務家・専門職者と広く協働し、関連病院・施設だけでなく、企業や行政など外部組織・団体との連携を積極的に図るとともに、外部資金を積極的に獲得することを原則としている。

(2) プロジェクト研究センターの研究活動

①転倒予防研究センター

- ・活動期間：2005年9月1日～2013年8月31日（廃止）
- ・代表者：山本智章（新潟リハビリテーション病院）、小林量作（副）（理学療法学科）
- ・主な研究課題：転倒予防教室の地域浸透への方法論の研究（地域浸透ベース）

②地域包括ケアセンター

- ・活動期間：2005年9月1日～2008年8月31日（廃止）
- ・代表者：米林喜男（社会福祉学科）
- ・主な研究課題：包括的ケア管理システムに基づく地域ケアシステムの開発と応用に関する研究

③介護予防研究センター

- ・活動期間：2005年10月18日～2008年10月17日（廃止）
- ・代表者：牧田光代（理学療法学科）→村山伸子（健康栄養学科）
- ・主な研究課題：包括的介護予防に関する研究及び対策の開発

④運動機能研究センター

- ・活動期間：2006年7月13日～2011年3月31日（廃止）
- ・代表者：江原義弘（理学療法学科 → 義肢装具自立支援学科）
- ・主な研究課題：ひとの様々な動きの運動学的分析およびひとの動きの解明

⑤地域スポーツクラブ支援センター

- ・活動期間：2006年9月15日～2009年9月14日（廃止）
- ・代表者：佐藤勝弘（健康スポーツ学科）→和唐正勝（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：総合型地域スポーツクラブマネジメントシステムの研究開発

⑥自立生活支援技術研究センター

- ・活動期間：2006年10月1日～2011年3月31日（廃止）
- ・代表者：大鍋寿一（義肢装具自立支援学科）
- ・主な研究課題：アジア文化に根ざした重度障害者のエンパワメント型援助システムの開発評価

⑦こころの健康支援研究センター

- ・活動期間：2007年7月1日～2012年3月31日（廃止）
- ・代表者：金谷光子（看護学科）
- ・主な研究課題：ライフサイクルに応じたこころの健康に対する調査およびネットワークづくり

⑧アクアヘルス推進プロジェクト研究センター

- ・活動期間：2009年4月1日～現在
- ・代表者：和唐正勝（健康スポーツ学科）→下山好充（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：地域活性化を目指した水を通した運動指導のソフトウェアの開発

⑨アスリートサポートプロジェクト研究センター

- ・活動期間：2009年6月1日～2014年3月31日（廃止）
- ・代表者：石川知志（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：学内アスリートに対する包括的サポートによるパフォーマンスの変化

⑩言語発達支援センター

- ・活動期間：2010年1月1日～現在
- ・代表者：糟屋政代（言語聴覚学科）→吉岡豊（言語聴覚学科）
- ・主な研究課題：言語聴覚障害症例に対する具体的訓練法の開発－訓練症例集－

⑪筋骨格系機能プロジェクト研究センター

- ・活動期間：2011年4月1日～2019年3月31日（廃止）
- ・代表者：川中健太郎（健康栄養学科）→田巻弘之（理学療法学科）
- ・主な研究課題：運動や物理療法、食事が筋骨格系機能に及ぼす影響とその作用機序

⑫保健医療福祉連携教育研究センター

- ・活動期間：2012年5月1日～2017年3月31日（廃止）
- ・代表者：真柄彰（義肢装具自立支援学科）
- ・主な研究課題：連携教育用仮想事例データベースの維持・発展

⑬ロボットスーツ活用研究センター

- ・活動期間：2012年8月15日～2016年3月31日（廃止）
- ・代表者：江原義弘（義肢装具自立支援学科）

- ・主な研究課題：大学教育におけるロボットスーツの活用に関する検討

⑭医療経済・QOL研究センター

- ・活動期間：2012年11月7日～現在
- ・代表者：能登真一（作業療法学科）
- ・主な研究課題：国内の薬剤、医療技術に関する費用対効果の研究

⑮ロコモティブ症候群予防研究センター

- ・活動期間：2013年12月5日～現在
- ・代表者：小林量作（理学療法学科）→佐藤成登志（理学療法学科）
- ・主な研究課題：県内市町村、新潟市北区住民へのロコモ予防支援システムの研究・実践

⑯地域ブランド農産物の振興プロジェクト研究センター

- ・活動期間：2014年4月1日～2017年3月31日（廃止）
- ・代表者：蘆田一郎（健康栄養学科）
- ・主な研究課題：食品成分の化学的分析、咀嚼・嚥下性の物理的・生体的および官能的解析

⑰シティズンシップ教育実践研究センター

- ・活動期間：2015年7月1日～現在
- ・代表者：西原康行（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：地域資源を活用したシティズンシップ教育プログラムの開発・実践

⑱スポーツカウンセリング研究センター

- ・活動期間：2015年07月01日～現在
- ・代表者：山崎史恵（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：競技力向上や課題克服に繋がる心理的サポート実践・研究

⑲アスリートサポート研究センター

- ・活動期間：2016年5月1日～現在
- ・代表者：大森豪（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：アスリートのパフォーマンス向上のための新たなトレーニング方法の開発

⑳がん支援研究センター

- ・活動期間：2016年9月1日～2018年2月28日（廃止）
- ・代表者：北島昌樹（看護学科）
- ・主な研究課題：診断後から治療後も充実した社会生活を送るための新たながん支援の形成

⑳小児リハビリテーション研究センター

- ・活動期間：2017年8月2日～2020年3月31日（廃止）
- ・代表者：正木光裕（理学療法学科）
- ・主な研究課題：地域の障害児を対象に運動面、認知面の発達を促す支援

㉑身体教育研究センター

- ・活動期間：2018年9月5日～現在
- ・代表者：西原康行（健康スポーツ学科）
- ・主な研究課題：スポーツの知識・技術向上のための教育プログラム開発および実践研究

㉒脳卒中リハビリテーション研究センター

- ・活動期間：2020年7月1日～現在
- ・代表者：犬飼康人（理学療法学科）
- ・主な研究課題：慢性期脳卒中患者の歩行障害に関わる因子の解明と有効なプログラム開発

㉓栄養科学研究センター

- ・活動期間：2020年10月8日～現在
- ・代表者：稲葉洋美（健康栄養学科）
- ・主な研究課題：栄養科学の知見とサポートに関する研究

3) 新潟医療福祉学会

(1) 学会の組織概要（会頭・事務局・会員数等）

新潟医療福祉学会は、保健、医療、福祉およびスポーツに関する研究を推進し、関連領域の学際的交流に努め、会員相互の親睦を図り、もって地域の保健、医療、福祉およびスポーツの向上発展に寄与することを目的として、大学が設置された年度に設立された。この際、本大学の連携病院である新潟リハビリテーション病院も、設立の一翼を担った。その後、本大学、新潟リハビリテーション病院の教員や職員の参加はもとより、その他の保健医療福祉スポーツ専門職、卒業生、大学院生の参加など、13分野に跨り会員数を拡大し、発展してきている。会頭は、会則により、本学の学長が兼ねることになっている。事務局は、理事と評議員を兼ねている新潟医療福祉大学学術委員会の委員が担っており、学会に関する日常業務を処理している。また、新潟医療福祉大学の事務局の職員が実務を担っている。会員数は令和2年度において353名となっている。

(2) 学術集会の開催と学会誌の発行

年に一度学術集会を開催するとともに、和文誌の「新潟医療福祉学会誌」および英文誌の「Niigata Journal of Health and Welfare」を発行している。

和文誌は第3巻から年2号を発行するようになり、第8巻からはそのうち第1号を「学術集会特集号」として編集し、学術集会の抄録を掲載するようになった。また第19巻より年3号発刊となり、そのうち

第1号は引き続き「学術集会特集号」としている。

英文誌はVol.18より年2号発刊となった。またVol.20より冊子体での発刊を原則廃止し、J-STAGEへの掲載・情報発信を行っている。

各年度における学術集会の開催と学会誌の発行は、次のとおりである。

①平成13年度

- ・第1回学術集会

平成14年1月19日

大会長：高橋榮明（大会事務局 作業療法学科）

記念講演：医療・福祉と私の反省（国際医療福祉大学 総長 大谷藤郎）

- ・和文誌第1巻第1号
- ・英文誌Vol.1（1）

②平成14年度

- ・第2回学術集会

平成14年11月30日

大会長：伊藤惣一郎（大会事務局 理学療法学科）

テーマ：保健・医療・福祉関係者の相互理解と連携

基調講演：保健医療福祉とリハビリテーションチーム

（東京大学大学院 医学系研究科 リハビリテーション医学 教授 江藤文夫）

- ・和文誌第2巻第1号
- ・英文誌Vol.2（1）

③平成15年度

- ・第3回学術集会

平成15年11月29日

大会長：涌井豊（大会事務局 言語聴覚学科）

テーマ：摂食・嚥下障害のリハビリテーション

特別講演：摂食・嚥下リハビリテーションと誤嚥性肺炎予防 当科での取り組み

—統合医療の試み—

（新潟大学大学院医歯学総合研究科

口腔生命科学専攻 摂食環境制御学講座 助教授 植田耕一郎）

- ・和文誌第3巻第1号・第2号
- ・英文誌Vol.3（1）

④平成16年度

- ・第4回学術大会

平成16年11月13日

大会長：園田恭一（大会事務局 社会福祉学科）

記念講演：保健・医療・福祉専門職の現状と課題（日本保健医療社会学会長 米林喜男）

・和文誌第4巻第1号・第2号

・英文誌Vol.4（1）

⑤平成17年度

・第5回学術集会

平成17年10月22日

大会長：村山篤子（大会事務局 健康栄養学科）

記念講演等なし、若手研究者の研究報告を実施

・和文誌第5巻第1号・第2号

・英文誌Vol.5（1）

⑥平成18年度

・第6回学術集会

平成18年10月21日

大会長：佐藤勝弘（大会事務局 健康スポーツ学科）

テーマ：地域の健康を支える大学の役割

記念講演：長寿社会の食育・体育・知育（桜美林大学大学院 老年学 教授 柴田博）

・和文誌第6巻第1号・第2号

・英文誌Vol.6（1）

⑦平成19年度

・第7回学術集会

平成19年10月27日

大会長：渋谷優子（大会事務局 看護学科）

教育講演：ケアの専門性と倫理的課題（群馬大学大学院 医学研究科 教授 服部健司）

・和文誌第7巻第1号・第2号

・英文誌Vol.7（1）

⑧平成20年度

・第8回学術集会

平成20年10月25日

大会長：江原義弘（大会事務局 義肢装具自立支援学科）

テーマ：義肢装具自立支援とは何か―福祉用具から福祉住環境まで―

特別講演：宇宙医学と宇宙飛行士の健康管理

（日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授 宮本晃）

・和文誌第8巻第1号・第2号

- ・英文誌Vol.8（1）

⑨平成21年度

- ・第9回学術集会

平成21年10月31日

大会長：大山峰生（大会事務局 作業療法学科）

テーマ：医療関連食の未来

特別講演：医療関連職種が果たすべき今日的課題

（大阪府議会議員 医学博士・理学療法士 長野聖）

- ・和文誌第9巻第1号・第2号

- ・英文誌Vol.9（1）

⑩平成22年度

- ・第10回学術集会

平成22年10月30日

大会長：大西秀明（大会事務局 理学療法学科）

テーマ：ライフイノベーション

10周年記念講演：予防医学研究40年の経験を通して語るこれからの保健・医療・福祉問題

（新潟医療福祉大学学長 山本正治）

特別講演：自分にふさわしい運動をいつでもどこでも

— 一個人向け運動支援ユビキタスシステムの開発課題と現実へのアプローチ —

（新潟大学大学院 自然科学研究科 電気情報工学専攻 教授 木竜徹）

- ・和文誌第10巻第1号・第2号

- ・英文誌Vol.10（1）

⑪平成23年度

- ・第11回学術集会

平成23年10月22日

大会長：糟谷政代（大会事務局 言語聴覚学科）

テーマ：保健・医療・福祉の連携

- ・和文誌第11巻第1号・第2号

- ・英文誌Vol.11（1）

⑫平成24年度

- ・第12回学術集会

平成24年10月20日

大会長：福島正巳（大会事務局 医療情報管理学科）

テーマ：保健・医療・福祉・スポーツにおけるITの活用可能性

特別講演：医療情報からみた病院の現状と今後の展望

（新潟大学医歯学総合病院 医療情報部 教授 赤澤宏平）

- ・和文誌第12巻第1号・第2号
- ・英文誌Vol.12（1）

⑬平成25年度

- ・第13回学術集会

平成25年10月19日

大会長：追手舘（大会事務局 臨床技術学科）

テーマ：現場から求められている医療・福祉系大学の課題

特別講演：医療・福祉系大学に何を期待するか（魚沼基幹病院 院長 内山聖）

- ・和文誌第13巻第1号・第2号
- ・英文誌Vol.13（1）

⑭平成26年度

- ・第14回学術集会

平成26年10月25日

大会長：丸田秋男（大会事務局 社会福祉学科）

テーマ：地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割

特別講演：新潟市における「地域包括ケアシステム」の構築に向けて一医師会の取り組みを中心にー
（一般社団法人新潟市医師会会長 藤田一隆）

- ・和文誌第14巻第1号・第2号
- ・英文誌Vol.14（1）

⑮平成27年度

- ・第15回学術集会

平成27年10月31日

大会長：斎藤トシ子（大会事務局 健康栄養学科）

テーマ：在宅医療における多職種連携と次世代教育～食と命の“最良の結び方”を考える～

特別講演：在宅医療を支える多職種連携とスタッフ教育

～当院での呼吸ケア&栄養サポートチーム活動から見てきたこと～

（社会医療法人新潟臨港保健会新潟臨港病院 内科部長 坂井邦彦）

- ・和文誌第15巻第1号・第2号
- ・英文誌Vol.15（1）

⑯平成28年度

- ・第16回学術集会

平成28年10月29日

大会長：西原康行（大会事務局 健康スポーツ学科）

テーマ：東京オリンピック・パラリンピックに向けた保健・医療・福祉・スポーツの連携のあり方

特別講演：【夢の実現】オリンピック、苦難と栄光、そしてこれから

（女子ソフトボール元日本代表選手・元日本代表監督 宇津木妙子）

・和文誌第16巻第1号・第2号

・英文誌Vol.16（1）

⑰平成29年度

・第17回学術集会

平成29年10月28日

大会長：塚本康子（大会事務局 看護学科）

テーマ：未来へつなぐ保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション連携教育

特別講演：未来へつなぐシミュレーション教育（東京医科大学副学長補・副看護学科長 永島美香）

・和文誌第17巻第1号・第2号

・英文誌Vol.17（1）

⑱平成30年度

・第18回学術集会

平成30年10月27日

大会長：前田史篤（大会事務局 視機能科学科）

テーマ：世界に輝く日本の科学力・技術力

特別講演：多職種協働スタイルが生み出す人工知能とビッグデータの応用

（ツカザキ病院 眼科主任部長 田淵仁志）

・和文誌第18巻第1号・第2号

・英文誌Vol.18（1）・（2）

⑲平成31年度・令和元年度

・第19回学術集会

令和元年10月26日

大会長：東江由起夫（大会事務局 義肢装具自立支援学科）

テーマ：アスリートを支援する先進的保健・医療・福祉・スポーツネットワーク

特別講演：2020東京パラリンピックが目指す無限の可能性

（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会参事 中森邦男）

・和文誌第19巻第1号・第2号・第3号

・英文誌Vol.19（1）・（2）

⑳令和2年度

・第20回学術集会

令和2年10月31日～11月15日（Webおよび抄録集の併用による開催）

大会長：大山峰生（大会事務局 作業療法学科）

テーマ：健康寿命の延伸に向けた専門職連携の発展

特別講演：多職種連携による認知症の地域包括ケア（新潟医療福祉大学 学長 西澤正豊）

・和文誌第20巻第1号・第2号・第3号

・英文誌Vol.20（1）・（2）



第7章

社会連携

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

本学は、建学の理念に基づき、「地域社会のニーズに応える大学」として社会連携及び地域貢献を積極的に推進している。その特徴は、①本学が所在する新潟市北区との包括連携協定による特色ある地域づくりの取組、②新潟水俣病が発生した阿賀野川流域に所在する大学として、新潟水俣病に対する理解を促進し、地域全体が新潟水俣病患者等を支える社会づくりの取組、③新潟県や市町村との連携による高齢者等の自立支援とQOL向上のための介護予防の取組、④各学科の専門職による地域貢献の取組、⑤優れたQOLサポーターを目指す学生の力を活用した地域活動の取組等を総合的に展開していることにある。

1) 新潟市北区との包括連携協定による特色ある地域づくりの取組

開学以来9年間にわたる新潟市北区における社会連携・地域貢献の実績を踏まえ、2010年3月に包括連携協定を締結した。指定都市の行政区と大学との個別の協定は全国的にも例の少ない取組であり、本学の特徴の一つとなっている。この包括連携協定の下での代表的な取組としては、「特色ある区づくり予算事業」の協力・連携が上げられる（表1）。なお、新潟市北区以外にも五泉市、福井県鯖江市などと包括連携協定を締結している（表2）。

▼表1 北区「特色ある区づくり予算事業」との連携状況

事業名	実施年度	方法
自立して暮らし続けることができるまちづくり推進事業	2009年度	連携
すこやか・あんしん・ふれあい事業	2010～2012年度	連携
笑顔・すこやか・健康支援応援事業	2011～2013年度	連携
健幸づくり対策事業	2013～2015年度	連携
次世代人材育成支援事業	2013～2015年度	受託
大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業	2016～2018年度	受託
地域「ひと・まち」パートナーシップ支援事業	2019～2021年度	受託
大学生による家庭介護セミナー	2020～2021年度	受託

▼表2 自治体等との包括連携協定の状況

No.	名称	締結日	目的	連携・協力内容
1	新潟市北区と新潟医療福祉大学との連携に関する協定	2010年3月19日	包括的な連携のもと、相互に協力し、北区の地域福祉の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。	①医療、保健及び福祉に関すること ②まちづくりに関すること ③自然、環境に関すること ④教育及び文化に関すること ⑤人材育成に関すること ⑥その他

No.	名 称	締結日	目 的	連携・協力内容
2	五泉市と新潟医療福祉大学との包括連携に関する協定	2013年 3月25日	包括的な連携のもと、相互に協力し、地域福祉の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。	①健康・保健・福祉及び医療の充実に関すること ②まちづくりに関すること。 ③教育及び文化に関すること ④人材育成に関すること ⑤その他、両者が必要と認めること
3	社会福祉法人新潟県社会福祉協議会と新潟医療福祉大学との包括連携に関する協定	2015年 3月26日	双方が所有する人的・物的な資源を活用し、保健・医療・福祉・スポーツ等の分野において連携・協力することで、福祉社会の発展及び地域創生に寄与するとともに、地域社会に貢献できる人材の育成に資することを目的とする。	①調査研究に関すること ②事業の共同実施に関すること ③広報及び情報提供に関すること ④意見具申や事業提案に関すること ⑤その他、目的を達成するために必要と認められること
4	新潟市社会福祉協議会と新潟医療福祉大学との包括連携に関する協定	2015年 10月8日	双方が所有する人的・物的な資源を活用し、保健・医療・福祉・スポーツ等の分野において連携・協力することで、地域福祉の発展及び地域創生に寄与するとともに、地域社会に貢献できる人材の育成に資することを目的とする。	①人材育成に関すること ②調査研究に関すること ③災害支援に関すること ④事業の共同実施に関すること ⑤その他前条の目的を達成するために必要と認められること
5	鯖江市と新潟医療福祉大学との包括連携に関する協定	2020年 3月24日	双方が所有する専門性や知的、人的、物的資源の提供を通じて、保健、医療、福祉、スポーツ、産業などの分野で相互に協力し、地域社会への貢献や人材育成、産業振興に寄与することを目的とする。	①医療、福祉、健康、スポーツ振興に関すること ②人材育成に関する事項 ③まちづくりに関する事項 ④地域産業の振興に関する事項 ⑤教育、学術研究に関する事項 ⑥その他、甲と乙が必要と認める事項

2) 新潟水俣病問題と誰もが安心して暮らせる社会づくりの取組

新潟水俣病が発生した阿賀野川流域に所在する医療福祉系大学として、2010年度から11年間にわたり、新潟県の「新潟水俣病関連情報発信事業」に取り組んでいる。この事業は、新潟水俣病に関する情報・教訓を広く正しく発信することにより、県民の新潟水俣病に対する理解を促進し、地域全体が新潟水俣病患者を支える社会づくりを行うことを目的としているもので、取組に参加した学生は2,965人に上る（表3）。

また、新潟市との連携においては、2012年度から「介護予防等在宅支援研究－新潟水俣病患者・支援者用複合型プログラム作成に向けて－」に取り組み、作成したプログラムに基づき、新潟水俣病患者を対象とした健康教室を毎年開催し、現在に至っている。

▼表3 新潟水俣病関連情報発信事業との連携状況

年度	事業概要	参加者数
2010	現地学習及び患者との交流	62人
2011	学生による総合的な患者支援プログラム	延べ123人
2012	総合的な患者支援プログラム推進事業	延べ286人
2013	総合的な新潟水俣病患者支援プログラム推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ380人
2014	総合的な新潟水俣病患者支援プログラム推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ235人
2015	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ283人
2016	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ215人
2017	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ319人
2018	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ406人
2019	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ414人
2020	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業－次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成－	延べ242人

3) 新潟県や市町村との連携による介護予防の取組

介護予防に向けた取組としては、看護学科が新潟市との連携による「介護予防二次予防事業における包括的な複合プログラムの開発と継続効果の検証（2011～2013）」、刈羽村との連携による「介護予防のための地域ケアシステムの構築と効果分析に関する調査（2012～2016）」に取り組んだ。2018年度からは、ロコモティブ症候群予防研究センターが新潟県の「介護予防（認知症含む）に関する大学との連携事業」を受託し、効果的な介護予防プログラム開発と効果検証及び市町村への普及展開に取り組んでいる。

また、新潟市との連携では、2020年度から「多職種合同介護予防ケアプラン検討会」を受託し、高齢者の自立支援・QOL向上のための介護予防ケアマネジメントの検討に取り組んでいる。

4) 各学科の専門職による地域貢献の取組

学科の専門職による社会連携・地域貢献の取組は、理学療法学科が他学科に先立ち、新潟リハビリテーション病院との連携により、2002年度から「転倒予防教室事業」（現在の「ロコモティブ症候群予防研究センター」の前身）を新潟市をはじめ県内市町村に展開した。その後、健康栄養学科、看護学科、社会福祉学科等が地域のニーズに応える形で、全学科において専門職による取組を展開させている（表4）。これらの取組の特徴は、教員との連携による学生の参加が推進力になっていることである。

▼表4 各学科における主な地域貢献の状況

学科等	連携先	事業名	実施年度	方法	学生の参加
理学療法学科	新潟市	・高齢者筋力トレーニング事業に関する調査研究 ・地域で行う高齢者の総合的運動プログラム	2005 2010	受託 受託	○ ○
	胎内市	・ノルディックウォーキングを取り入れたロコモ予防運動	2015～2019	受託	○
	阿賀町	・介護予防普及啓発事業	2015	受託	○
作業療法学科	新潟市	・大学連携事業「高齢者の徒歩及び公共交通利用から導かれる外出行動と健康との関連に関する調査研究」	2011	受託	
	新発田市	・子ども発達相談事業（療育相談教室を含む）	2010～2017	連携	
	五泉市	・療育相談教室	2010～2012	連携	
言語聴覚学科	新潟県	・失語症向け意思疎通支援者養成事業	2017～現在	受託	○
	阿賀町	・言語の相談会	2017～現在	受託	○
義肢装具自立支援学科	県障 スポ協	・四肢切断者を対象とした陸上教室	2017～現在	連携	○
臨床技術学科	県細胞 検査士会	・子宮の日ボランティア	2014～2019	連携	○
視機能科学科	新潟市	・中央区東地区公民館「幼児絵本の読み聞かせ・子どもの目の相談」	2016	連携	○
	県視福協	・地域福祉活動センターひだまりデイサービス	2014	連携	○
	鯖江市	・めがねのまちさばえ「眼育」推進事業	2019～現在	受託	○
救急救命学科	新潟市	・北消防団学生消防団活動支援	2017～現在	連携	○
診療放射線学科	長岡市	・すこやかともしびまつり	2018～2019	連携	○

学科等	連携先	事業名	実施年度	方法	学生の参加
健康栄養学科	新潟県	・村上岩船地域食育意識調査 ・学生企画弁当（健康弁当）の開発 ・三条地域昼食（サラ飯）充実プロジェクト	2008 2008～2011 2019～現在	受託 受託 連携	○ ○
	新潟市	・大学連携事業「食育指導教材・プログラム開発事業」 ・北区「遊林地農地再生利用事業」 ・北区「地元食材を利用した商品化開発事業」 ・北区「稼げる農業促進事業」	2008～2010 2012 2012～2015 2015～2017	受託 連携 連携 連携	 ○ ○ ○
	新発田市	・食育実態調査	2008～2011	受託	
	五泉市	・ヘルシーガイドブック作成 ・元気出せごせん若者ワークショップ事業 ・高校生のための朝食講座	2017 2019 2019～現在	受託 受託 連携	○ ○ ○
	阿賀町	・奥阿賀そば振興プロジェクト	2019	受託	○
	キタカタ	・ヘルシーメニュー提供事業	2013～2019	連携	○
健康スポーツ学科	新潟県	・大学生の力を活かした集落活性化事業	2014	受託	○
	新潟市	・北区「健幸づくり対策事業」 ・北区「にじっこキャンプ」	2013～2015 2015～現在	連携 連携	○ ○
	阿賀野市	・「にじっこキャンプ」	2015～現在	連携	○
看護学科	新潟市	・介護予防二次予防事業における包括的な複合プログラムの開発と継続効果の検証 ・東日本大震災避難所における看護活動 ・北区「笑顔・すこやか・健康支援応援事業」	2011～2013 2011 2011～2013	受託 連携 連携	 ○
	柏崎市	・中越沖地震避難所における看護活動	2007	連携	
	魚沼市	・孤立死ゼロ・モデル事業	2008	受託	
	刈羽村	・介護予防のための地域ケアシステムの構築と効果分析に関する調査	2012～2016	受託	
社会福祉学科	新潟県	・大学と地域との連携のあり方に関する調査研究 ・新潟水俣病関連情報発信事業 ・新潟水俣病発生地域における介護予防在宅支援事業 ・大学生の力を活かした集落活性化事業 ・新潟県の人口減少を考える学生集会	2009 2010～現在 2020～現在 2015 2020～現在	受託 受託 受託 受託 受託	○ ○ ○ ○ ○
	新潟市	・大学連携事業「コミュニティ協議会に対する市の支援策についての調査研究」 ・障害者の就労支援 ・新潟水俣病介護予防等在宅支援研究事業 ・新潟水俣病患者の介護予防プログラム作成に関する研究 ・多職種合同介護予防ケアプラン検討会 ・北区「自立して暮らし続けることができるまちづくり推進事業」 ・北区「すこやか・あんしん・ふれあい事業」 ・北区「次世代人材育成支援事業」 ・北区「介護技術講習会」 ・北区「大学生による家庭介護セミナー」	2011～2012 2008～2009 2012～2015 2017～現在 2020～現在 2009 2010～2012 2013～2015 2016～2019 2020～現在	受託 受託 受託 受託 受託 連携 受託 受託 受託 受託	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	佐渡市	・「域学連携」地域づくり実証研究事業 ・安全安心地域推進事業	2012～2016 2014～2016	受託 受託	○ ○
	県社協	・地域福祉活動支援プログラム構築事業	2013～2015	受託	○
医療情報管理学科	新潟市	・北区「海辺の森共創の場形成事業」	2019	連携	○
社会連携推進センター	新潟市	・豊栄地区公民館「市民大学講座」 ※2020は中止 ・とよさか中高年教養大学「健康長寿学」 ※2020は中止 ・北区「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」 ・北区「地域「ひと・まち」パートナーシップ支援事業」	2007～現在 2008～現在 2016～2018 2019～現在	受託 受託 受託 受託	 ○ ○

学科等	連携先	事業名	実施年度	方法	学生の参加
ロコモティブ症候群予防研究センター	新潟県	・介護予防における大学との連携事業	2018～現在	受託	○
	新潟市	・秋葉区「健康づくり体操普及事業」 ・秋葉区「足腰鍛えて笑顔で長生き事業」 ・秋葉区「ロコモ予防で健康長寿事業」	2010～2012 2013～2016 2017～2020	受託 受託 受託	○ ○ ○

注1) 自治体等の審議会、委員会への委員、研修会等への講師派遣、セミナーの開催等は除いてある。

注2) 県障スポ協は、県障害者スポーツ協会をいう。

注3) 県視福協は、県視覚障害者福祉協会をいう。

注4) 県社協は、県社会福祉協議会をいう。

5) 学生の力を活用した地域活動の取組

学生の力を活用した地域活動の特徴は、一期生の「学生であっても地域住民の一人である。地域の人々との幅広い交流を通じてお互いに成長したい」との考え方の下で、新潟市北区を中心に社会教育、学校教育、地域づくり等の活動を20年にわたり持続的に発展させてきていることにある。代表的な活動としては、地域貢献団体「レクア・コム部」(2002年1月～現在に至る)、障がい児・者と家族が学内で経営する軽食堂を支える学生サークル“Kid's” (2002年4月～現在に至る)、学生によるボランティア組織「学生ボランティアセンター」(2005年12月～現在に至る)、施設などで使われなくなった車椅子を回収・修理し、全国や世界に届ける「空飛ぶ車椅子サークル」(2010年4月～現在に至る) などがある。※レクア・コム部及び空飛ぶ車椅子サークルは、長年の活動が認められ北越銀行賞を受賞している(表5)。

また、学生による災害支援については、自治体等の派遣要請に基づいて対応している。これまで、県内で発生した「7.13水害」(2004年7月)、「10.23中越地震」(2004年10月)、「7.16中越沖地震」(2007年7月)及び「3.11東日本大震災」(2011年3月)の災害支援に当たった学生数は延べ1,057人に上る(表6)。

▼表5 学生団体等の主な受賞歴

団体名	年度	受賞内容
レクア・コム部	2011 2016	新潟市社会福祉協議会会長賞 北越銀行賞
空飛ぶ車椅子サークル	2018	北越銀行賞

▼表6 学生による災害支援活動の状況

災害名	活動期間	活動人数
7.13水害	2004年7月13日～2004年7月31日	延べ 355人
10.23中越地震(1)	2004年10月30日～2004年11月21日	延べ 59人
10.23中越地震(2)	2004年12月24日～2005年11月21日	延べ 178人
7.16中越沖地震	2007年8月17日～2007年9月16日	延べ 112人
3.11東日本大震災	2011年3月23日～2011年8月22日	延べ 353人

注1) 7.13水害では、学生が新潟県社会福祉協議会に対して50万円の寄附を行った。

2) 10.23中越地震(2)は、社会福祉学科の学生が被災した新潟県あけぼの園の入所者に対し、避難先のコロニーにいがた白岩の里において日常生活の支援や精神面のケアを行った。

3

委員会活動等

1) 経緯

社会連携に関しては、開学と同時に生涯学習センターが組織されたが、委員会が設置されたのは、2003年度からである。その後、組織改正により2010年度に委員会の名称が生涯学習センター運営委員会に改称された。また、2012年度の組織改正により、地域・産官学連携を推進する地域・産官学連携推進委員会が設置された。さらに、2016年度には、地域・産官学連携推進委員会が地域連携推進センター運営委員会と産官学連携推進委員会に改組された経緯がある。

2) 実績

▼表7 委員会活動の状況

	年度	委員長	開催回数	主な活動実績
生涯学習センター・生涯学習センター実行委員会	2004	原 敏明	6 回	公開教養講座の開催（全11回／参加者281人）
	2005	原 敏明	1 回	市民講座の開催（全 5 回／参加者150人）、介護予防実践セミナーの開催（全 1 回／参加者251人）
	2006	丸田秋男	1 回	市民講座の開催（全 3 回／参加者142人）
	2007	丸田秋男	9 回	「市民大学講座」の開催（全 3 回／参加者66人）、地域連携フォーラムの開催（全 1 回／参加者142人）
	2008	丸田秋男	9 回	「市民大学講座」の開催（全 5 回／参加者138人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者275人）
	2009	丸田秋男	9 回	「市民大学講座」の開催（全 5 回／参加者135人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者307人）、地域と大学との連携を考えるフォーラムの開催（全 1 回／参加者…人）
	2010	東江由起夫	12回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者111人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回参加者354人）、市民向け特別講演会の開催（全 1 回／参加者…人）
	2011	渡邊敏文	13回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者138人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者352人）、市民フォーラムの開催（全 1 回／参加者97人）
生涯学習センター・地域産官学連携推進委員会	2012	（生涯） 渡邊敏文 （地域） 東江由起夫	13回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者129人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／288人）、大学市民講座の開催（全 2 回／参加者47人）、北区地域連携推進フォーラムの開催（全 1 回／参加者110人）
	2013	（生涯） 渡邊敏文 （地域） 東江由起夫	12回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者120人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者299人）、大学市民講座の開催（全 1 回／参加者53人）、北区地域連携推進フォーラムの開催（全 1 回／参加者209人）
	2014	（生涯） 渡邊敏文 （地域） 東江由起夫	12回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者160人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者441人）、大学市民講座の開催（全 2 回／参加者46人）、北区地域連携推進フォーラムの開催（全 1 回／参加者180人）
	2015	（生涯） 渡邊敏文 （地域） 東江由起夫	12回	「市民大学講座」の開催（全 4 回／参加者160人）、とよさか中高齢者教養大学への講師派遣（全11回／参加者457人）、大学市民講座の開催（全 2 回／参加者85人）、北区地域連携推進フォーラムの開催（全 1 回／参加者234人）、新潟県社会福祉協議会との包括連携協定締結記念フォーラムの開催（全 1 回／参加者350人）

	年度	委員長	開催回数	主な活動実績
地域連携推進センター運営委員会	2016	渡邊敏文	12回	「市民大学講座」の開催（全4回／参加者50人）、とよさか中高年教養大学への講師派遣（全12回／参加者592人）、大学市民講座の開催（全2回／参加者79人）、連携公開講座の開催（全1回／参加者80人）
	2017	渡邊敏文	12回	「市民大学講座」の開催（全4回／参加者184人）、とよさか中高年教養大学への講師派遣（全11回／参加者508人）、大学市民講座の開催（全2回／91人）、連携公開講座の開催（全4回／131人）
	2018	渡邊敏文	12回	「市民大学講座」の開催（全4回／参加者159人）、とよさか中高年教養大学への講師派遣（全12回／参加者542人）、大学市民講座の開催（全2回／参加者56人）、連携公開講座の開催（全2回／参加者107人）、新潟市北区との地域交流会の開催（全1回／参加者109人）
	2019	渡邊敏文	12回	「市民大学講座」の開催（全4回／参加者158人）、とよさか中高年教養大学への講師派遣（全10回／参加者530人）、大学市民講座の開催（全2回／参加者60人）、連携講座の開催（全2回／109人）新潟市北区との地域交流会の開催（全1回／参加者130人）
	2020	渡邊敏文	12回	新潟市北区との意見交換の開催（全1回／参加者…人） ※市民大学講座の開催、とよさか中高年教養大学への講師派遣、大学市民講座、連携公開講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

注1)「市民大学講座」は、豊栄地区公民館受託事業である。

2)「市民講座」は、地域連携推進センターの自主事業である。

3)「連携公開講座」は、新潟県社会福祉協議会との共催事業である。

4 同窓会

1) 今日に至るまでの過程と現状

本学の同窓会は、第1期生の卒業にあたって平成17年3月14日に発足し、初代学友会長を務めた齊藤公二氏（現同窓会長）が会長に選出された。

同窓会は、①会員の親和交流に関する事業、②会員名簿及び機関紙の発行に関する事業、③母校の発展及び教育催事への協力援助に関する事業を行うことを目的とし、会員は正会員（本学の卒業生及び本学大学院の修了生）、準会員（本学及び本学大学院の在学生）、特別会員（本学の教職員等）、客室会員（本学で研修等を修了した者）で構成される。

同窓会が発足してから17年目を迎えており、この間、同窓会支部組織の拡充の第一歩として、平成19年11月23日に首都圏支部（現首都圏支部長：岡村聡之氏）、平成28年10月30日に東北支部（現東北支部長：高橋葵氏）が設立された。

また、同窓会の事務局機能を充実させるため平成20年度からは大学事務局内に同窓会支援室が整備され、令和3年度には学生課内に同窓会支援室専任職員が設置された。

なお、令和4年3月17日現在の会員数は、正会員12,385人、準会員3,533人、である。

2) 活動等の特色

本学同窓会は、平成17年3月に卒業した第1期生が中心となって会の運営並びに事業の実施にあっていることが大きな特色であり、主な事業としては、同窓会総会及び各支部役員会の開催、連携研修会（年1回）の開催、同窓会誌「伍桃」（年1回）及び「ニュースレター」（年1回）の発行、全日本大学

女子駅伝の応援（毎年10月）、卒業年次生に対する国家試験合格祈願・大願成就クリアファイルの寄贈を行っている。

また、同窓会の基盤づくりと活性化を進めるために、平成21年3月にホームページを開設し、その後、平成24年12月に公式Facebook、令和3年6月に公式Twitterを開設した。

平成25年度からは本学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上（スキルアップ）の実現を目的とした「連携研修会」を実施している。平成27年度には初の試みとして「パネルディスカッション」方式を採用し、同窓生をパネリストとして議論が取り交わされた。研修会では、同窓生が日々の現場で直面する課題や悩みを解決できる可能性に繋げることができた。

3) 活動等の成果と今後の方向性

同窓会と大学との連携を一層充実・強化するために大学事務局内に同窓会支援室および支援室専任職員が設置され、同窓会と大学との双方向交流や連携を推進する基盤を整えられた。

その一方で、同窓会事務局の設置をはじめ同窓会員情報の収集、支部組織の拡充、生涯教育の提供など直面している課題も多く残っている。

4) 今後の目指す姿等

大学事務局内の同窓会支援室との密接な連携の下で、ホームページ並びに同窓会誌の質的な充実を図るとともに、ホームカミングデーにおける在学生との交流会の開催や支部組織の拡充、連携研修会をはじめとする生涯教育の提供などを通じて同窓会活動の活性化を図る。

また、大学の将来計画と連動し、会員相互の交流・連携・生涯学習を推進することにより、“面倒見の良い同窓会”を目指す。

5) 委員会活動

令和3年度より同窓会・生涯学習連携推進委員会が新設され、強固な同窓会ネットワーク構築を主な目的として活動している。また、同年8月には各学科1～2名の同窓会サポーターが選出され、学科毎に同窓生の連絡先を明らかにする作業をはじめとした、同窓生との双方向のコミュニケーションを図っている。同窓会ネットワークを強化した後は、同窓会会員の生涯学習のサポートや共同研究の勧誘など、同窓会会員との双方向交流を充実させていく。

▼表 8 新潟医療福祉大学同窓会役員名簿

役職	氏名	卒業学科	卒業年
会長	齊藤 公二	健康栄養	2005
副会長	田村 祐美	理学療法	2007
副会長	澤田 隆志	健康スポーツ	2009
会計・幹事	小嶋 萌	健康栄養	2005
幹事	風間 美華	言語聴覚	2014
幹事	金内 一晶	健康スポーツ	2016
首都圏支部長	岡村 聡之	健康栄養	2005
首都圏副支部長	星 緩季	健康栄養	2016
首都圏副支部長	小田 雄基	臨床技術	2017
東北支部長	高橋 葵	作業療法	2011
東北副支部長	濱田 祐輔	健康スポーツ	2014

2022年 2 月28日現在



第 8 章

国際交流

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

本学は2001年の開学後ただちに国際交流委員会を設置し、積極的に国際交流を推進してきた。2009年からは渡辺敏彦副学長が国際交流担当として委員会に加わり、本学の国際交流が大きく進展した。また、2016年には国際交流に関する将来計画に基づき、グローバル人材の育成と国際的多様性の推進に寄与することを目的に、国際交流センターが設置された。国際交流センター運営委員会には、国際交流専門委員会と留学生専門委員会という2つの専門委員会が設置され、また学部および大学院の両方をカバーする体制になっていることが特徴である。

国際交流にかかわる事務組織は長く学務部学生課が担ってきたが、国際交流の重要性に鑑み、2019年に学務部内に国際交流課が設立され、本学における国際交流業務を担当することとなった。

海外の大学等との交流協定関係、学生の海外研修、留学生の受け入れについては、2)以降に譲ることにするが、それ以外に特筆すべき事項についてまとめる。

まず、グローバル社会に対応できる人材育成を目的に、教員および学生を対象とする企画を立案し、広く展開していることである。教員については、FD・SD推進委員会との協働により、英語FDセミナーを開催しているが、近年は週一回から週二回開催と拡大している。さらに米国・カリフォルニア州立大学に一週間教員を派遣する教員英語研修を年に一度実施している。

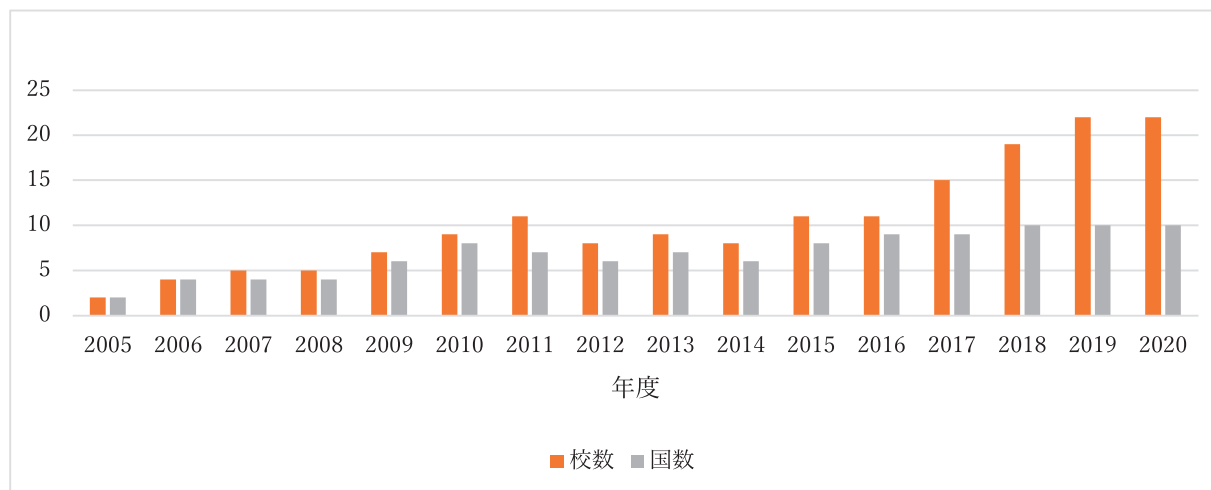
学生については、海外研修以外にも、国内での2つの企画を推進している。ひとつはオンライン企画「グローバルキャリア支援Meeting」である。これは学生に対して海外でのキャリアパス形成を促すために、海外での活動経験をもつ保健・医療・福祉・スポーツの専門家を講師として招き、学生と対話してもらおうというものである。もうひとつは国内においても国際経験を積めるように、新潟連携教育研究センター運営委員会との協働で、連携総合ゼミにフィリピン・台湾・ベトナムの大学から学生を招聘している。さらにこれらの学生と本学学生で「夏の英語キャンプ」を実施しているが、キャンプ中の使用言語は英語のみである。

学生の海外派遣については、外部資金を獲得できるようになったことは特筆すべき事項である。JASSO（日本学生支援機構）の海外留学支援制度・協定派遣のプログラムに定期的に採択されるようになっている。また、2019年には日露青年交流センターからプログラムが採択され、本学の女子サッカーグループがロシア・ハバロフスクを訪問している。

また、本学は国際「交流」にとどまらず、国際「貢献」活動にも重きをおいている。2009年から2015年には、JICA（国際協力機構）の委託により、マーシャル、バヌアツ、ソロモン、フィジー、トンガ等から研修生を受け入れ、生活習慣病予防の研修を行った。また、2020年から展開しているベトナム・ハイズオン医療技術大学との協働によるJICA草の根技術協力事業では、本学の得意とする連携教育と、日本の高齢社会に対応する訪問医療サービスの提供を現地で根付かせることを目的としている。フィリピン・サントトマス大学やスリランカ・ペラデニア大学とは、技術移転セミナーを実施した。ロシア・国立極東医科大学とは医療情報分野での協働も発展をみせている。

1) 海外の大学等との交流協定

本学における海外の大学等との交流協定は、2005年のハルビン医科大学第一臨床医学院（中国）との締結をもってその嚆矢とする。以後、交流協定締結校は図1のように順調に増加し、2020年度においては、10か国22大学・機関となっている（表1）。



▲図1 海外交流協定大学数・機関数

▼表1 2020年度海外交流協定締結大学・機関一覧

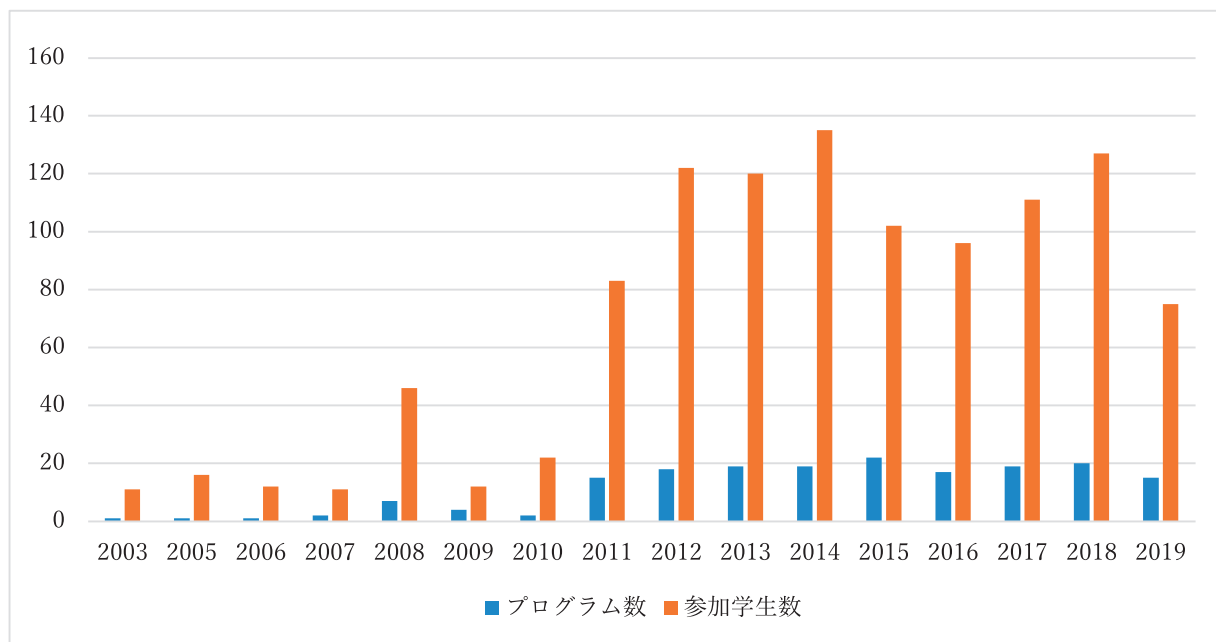
	名称	国	締結年	本学機関
1	国立極東医科大学	ロシア	2006	全学
2	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	2007	全学
3	国立シリントン・リハビリテーションセンター	タイ	2009	義肢装具自立支援学科
4	アンヘレス大学財団	フィリピン	2010	全学
5	ハワイ大学マノア校ジョン・A・バーズ医学部臨床技術学科	アメリカ	2011	臨床技術学科
6	サント・トマス大学	フィリピン	2011	全学
7	イーストアングリア大学健康科学部	イギリス	2011	全学
8	台北榮民総医院	台湾	2013	全学
9	マヒドン大学義肢装具学科	タイ	2015	義肢装具自立支援学科
10	クイーンズ大学	カナダ	2015	作業療法学科
11	京畿大学校地域共同体	韓国	2015	社会福祉学科
12	ホンバン国際大学	ベトナム	2016	全学
13	国立陽明大学	台湾	2016	全学
14	ハイズオン医療技術大学	ベトナム	2017	全学
15	中山医学大学	台湾	2017	全学
16	フィリピン脳性麻痺のための法人	フィリピン	2018	理学療法学科
17	マヒドン大学放射線学科	タイ	2018	診療放射線学科
18	釜山カトリック大学保健科学大学放射線学科	韓国	2019	診療放射線学科
19	サイバージャヤ医学大学	マレーシア	2019	全学

	名称	国	締結年	本学機関
20	太平洋国立大学	ロシア	2019	全学
21	弘光科技大学	台湾	2019	全学
22	輔英科技大学	台湾	2019	全学

2) 学生の海外研修ならびに留学

本学における初めての学生の海外研修は、2003年に理学療法学科主催でカリフォルニア州立大学 フレズノ校等で実施されたアメリカ研修であった。以後、海外研修はプログラム数、参加学生数ともに増加し、2012年度以降は概ね20程度のプログラムを実施し、100名を超える参加学生を集めていた（図2）。しかし、残念ながら、2019年度途中からは、コロナ禍のため海外研修を実施できなくなった。本学における学生海外研修の様子を示すため、コロナ禍の影響を受けずに海外研修を実施できた最後の年である2018年度の海外研修一覧を掲載する（表2）。

また、近年は長期留学を目指す学生も出てきており、長期留学において特筆すべきは、2019年度に文部科学省の「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」に初めて2名の学生が奨学生として採用されたことである。



▲図2 年度別海外研修数の推移

▼表2 2018年度学生海外研修一覧 プログラム数：20 参加学生数：127名 実施国数：9か国

	主催	研修国	研修施設・大学	日程	参加学生数	引率者
1	全学共通	フィリピン	アンヘルズ大学財団	8月10日～9月8日	8	久保雅義
2	全学共通	フィリピン	サント・トーマス大学	8月18日～9月15日	4	高橋英明

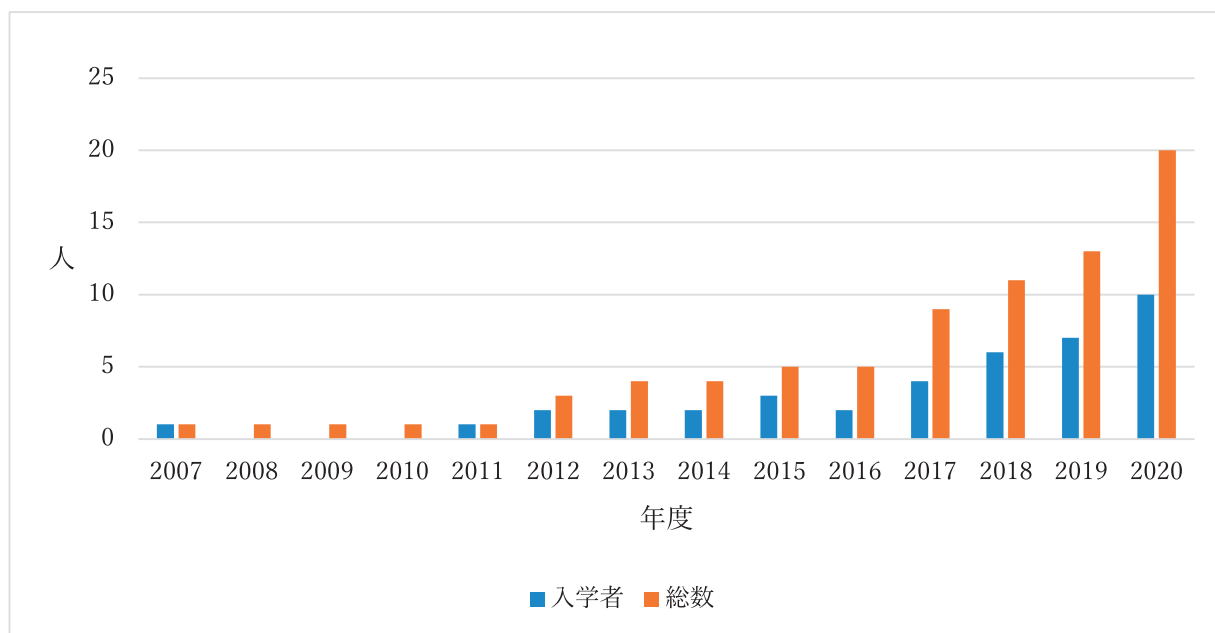
	主催	研修国	研修施設・大学	日程	参加 学生数	引率者
3	理学療法学科 救急救命学科	マレーシア	National Stroke Association Malaysia (NASAM)	8月18日～ 9月1日	7	久保雅義 竹井豊
4	全学共通	アメリカ	Institute of Intensive English	9月1日～ 18日	10	スーマ・マーク
5	臨床技術学科	アメリカ	ハワイ大学マノア校	9月9日～ 16日	3	高橋良光 森田邦恵
6	看護学科	アメリカ	ロサンゼルス	9月9日～ 18日	12	紅林佑介 小山歌子
7	義肢装具自立 支援学科	タイ	マヒドン大学	11月6日～ 9日	2	勝平純司
8	全学共通	オーストラリア	Curtin University	2月14日～ 3月4日	13	スーマ・マーク 五十嵐紀子
9	救急救命学科	アメリカ	ロサンゼルス郡消防、マコーミック 民間救急会社	2月14日～ 18日	13	竹井豊 大松健太郎
10	全学共通	マレーシア	サイバー ジャヤ 医学 大学、 NASAM (脳卒中センター)	2月17日～ 3月10日	8	久保雅義
11	義肢装具自立 支援学科	台湾	台湾国立病院義肢装具センター、 整形靴メーカー、靴関係企業	2月25日～ 3月1日	8	阿部薫 郷貴博
12	全学共通	フィリピン	アンヘレス大学	3月2日～ 30日	8	久保雅義
13	看護学科	ベトナム	ホンバン国際大学	3月5日～ 10日	2	宇田優子 紅林佑介
14	健康スポーツ 学科	アメリカ	カリフォルニア州立大学フラトン 校	3月17日～ 25日	6	岩井由梨
15	理学療法学科	アメリカ	セントオーガスチン大学、南カリ フォルニア大学	3月21日～ 28日	5	久保雅義
16	理学療法学科	アメリカ	カリフォルニア州立大学ロング ビーチ校	3月17日～ 26日	8	菊元孝則 久保雅義
17	臨床技術学科	台湾	中山医学大学	3月18日～ 25日	4	久保野勝男 川村宏樹
18	社会福祉学科	韓国	京畿大学	3月26日～ 29日	4	青木茂 今井理恵
19	個人	カナダ*	Heart Land International English School	8月7日～ 9月28日	1	—
20	個人	タイ	マヒドン大学	3月26日～ 29日	1	—

3) 留学生の受け入れ

本学における留学生の受け入れは、2007年度に義肢装具自立支援学科で台湾からの留学生を受け入れたことから始まった。その後数年間は留学生の受け入れに大きな進展はなかったが、2012年度から拡大を見るようになった。本学の留学生受け入れの特徴は大学院を中心に留学生を受け入れているところにあるが、創立20周年を迎えた2020年には、中国、ベトナム、タイ、スリランカ、台湾の5か国から総勢20名の留学生が正規生として大学院に在籍している（図3）。

さらに、2019年度には日本政府の国費外国人留学生として、初めて交流協定締結校のハイズオン医療技術大学（ベトナム）から留学生を受け入れ、翌年度も継続して受け入れることができるようになった。国費留学生の採用は、本学における留学生受け入れの大きな前進である。

留学生の受け入れ体制についても、留学生の学業や生活を支援する留学生サポーター制度を制定するなど、整備を進めている。



▲図3 年度別外国人留学生数



第 9 章

強化スポーツ

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

2005年度、本学の「象徴」として、本学を全国あるいは世界に発信することを目的に、水泳部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子サッカー部の4クラブの強化指定クラブが設立された。2020年度までに、陸上競技部、女子サッカー部、女子バレーボール部、硬式野球部、ダンス部、卓球部の6クラブが加わり、部員数も総勢665名が在籍する強化指定クラブとなった。

いずれのクラブも全国有数の高校生を本学学生として迎え、学業とスポーツの両立によって全学生の模範となるとともに、個々の学生たちが全国レベルあるいは国際レベルの大会で活躍することで、本学のステータスを高めることをねらいとした全学的な戦略としての取り組みである。設立当初は部員数も少なく、練習内容など十分とは言えない活動であったが、初年度から全国の強豪大学を相手に善戦した歴史とともに各クラブは成長していった。現在では、北信越地域では常に上位に位置しており、インカレの常連校として全国で上位を狙えるクラブにまで成長することが出来た。また、世界選手権、ユニバーシアード日本代表選手の輩出、各種競技団体における日本選手権での入賞および全国大会で表彰台に登る等、大きな飛躍を遂げている。強化指定クラブ設立後の15年間の活躍は以下のとおりであり、名実ともに全国レベルへと成長を遂げている。

1) 水泳部

創部年：2005年

監督：下山好充（2005年～）

2005年度 第81回日本学生選手権水泳競技大会 女子200m自由形 7位（松金祥子）

2006年度 第82回日本選手権水泳競技大会 男子800m自由形 7位（澤田涼）

日本選手権水泳競技大会（25m） 女子800m自由形 5位（郡山奈々）

女子800m自由形 6位（澤田涼）

第82回日本学生選手権水泳競技大会 女子800m自由形 5位（澤田涼）

2007年度 第83回日本選手権水泳競技大会 女子800m自由形 7位（澤田涼）

全国大学選抜合同合宿（グアム）ヘッドコーチ就任（下山監督）

第83回日本学生選手権水泳競技大会 女子800m自由形 6位（澤田涼）

オープンウォータースイミングジャパンオープン（館山）

女子10kmの部 2位（井口絵里加）

2008年度 日本短水路選手権水泳競技大会 女子800m自由形 5位（郡山奈々）

世界短水路選手権水泳競技大会（イギリス）

澤田涼日本代表選手選出、下山監督代表コーチ就任

女子400mメドレーリレー 8位（日本代表：澤田涼）

2009年度 第85回日本学生選手権水泳競技大会 女子800m自由形 5位（郡山奈々）

湘南オープンウォーター全国大会 2位（井口絵里加）

- 2010年度 ジャパンオープン2010 女子50m自由形 8位（白野友梨奈）
 第86回日本学生選手権水泳競技大会 女子50m自由形 7位（白野友梨奈）
 女子100m背泳ぎ 6位（奈良梨央）
- 2011年度 第53回日本選手権水泳競技大会（25m） 男子200m背泳ぎ 6位入（沼田祐介）
- 2012年度 第54回日本選手権水泳競技大会（25m） 男子50m自由形 4位（松井浩亮）
 男子200mバタフライ 7位（大友瑛史）
- 2013年度 第89回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 6位（松井浩亮）／
 男子50m背泳ぎ 6位（高田恭兵）
 ジャパンオープン2013 男子50m自由形 7位（松井浩亮）／
 女子50m自由形 8位（佐藤綾）
 ジャパンオープンOWS2013 男子10kmの部 8位（青木陽佑）
 第89回日本学生選手権水泳競技大会 男子50m自由形 4位（松井浩亮）
 FINA Swimming World Cup東京 男女混合リレー200m 7位
- 2014年度 第90回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 7位／
 男子100m自由形 5位（松井浩亮）
 女子100m自由形 6位（佐藤綾）
 ジャパンオープン2014 女子50m自由形 6位（佐藤綾）
 ジャパンオープン2014OWS 男子10km 6位（青木陽佑）
 第90回日本学生選手権水泳競技大会 男子50m自由形 3位（松井浩亮：創部初）（写真：左）
 女子50m自由形 2位（佐藤綾：創部初）（写真：右）



- FINA スイミングワールドカップ東京 男女混合200mリレー 4位
- 2015年度 第91回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 3位（松井浩亮）
 女子50m自由形 5位／女子100m自由形 4位（佐藤綾）
- ジャパンオープン2015 男子50m自由形 6位（松井浩亮）／
 男子100m平泳ぎ 7位（後沢秀至）
- ジャパンオープン2015OWS 兼 国際大会選考会 男子10kmの部 4位（青木陽佑）
 第91回日本学生選手権水泳競技大会 男子50m自由形 8位（松井浩亮）
 第28回ユニバーシアード光州（韓国）大会（松井浩亮、佐藤綾 日本代表選出（創部初））
- 松井浩亮 男子4×400mリレー 2位（写真：次頁）
 ■佐藤綾 女子4×400mリレー 2位（写真：次頁）



FINA Swimming World Cup東京

■佐藤綾 女子50m自由形 7位

FINAマラソンスイミングワールドカップ 香港大会

■青木陽佑 男子10kmの部 32位

2016年度 第92回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 5位（松井浩亮）／

女子50m自由形 4位（佐藤綾）

第92回日本選手権水泳競技大会OWS 男子10km 4位（青木陽佑）

ジャパンオープン2016 男子50m自由形 5位（松井浩亮）／

男子100mバタフライ 7位（水沼尚輝）

女子50m自由形 4位（佐藤綾）

第92回日本学生選手権水泳競技大会 男子100mバタフライ 5位（水沼尚輝）

女子50m自由形 3位（佐藤綾）／

女子400mフリーリレー 8位

FINA Swimming World Cup東京

■松井浩亮 男子50m自由形 8位（写真：右）

■堀江、桑山、水沼、佐藤 男女混合200mメドレーリレー 4位（写真：左）



世界選手権水泳競技大会（25m）カナダ

■松井浩亮 男子200mフリーリレー 3位（日本新記録）

2017年度 第93回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 6位／男子50m背泳ぎ 4位（松井浩亮）

男子50mバタフライ 7位（水沼尚輝）

女子50m自由形 3位／女子100m自由形 6位（佐藤綾）

日本選手権水泳競技大会OWS 男子10km 7位（青木陽佑）

ジャパンオープン2017 男子50m自由形 5位／男子100m自由形 6位（松井浩亮）
男子100mバタフライ 2位（水沼尚輝）／
女子50m自由形 3位（佐藤綾）

第93回日本学生選手権水泳競技大会 男子100mバタフライ 2位（水沼尚輝）
男子100m自由形 7位（水沼尚輝）
女子100m平泳ぎ 3位／
女子200m平泳ぎ 4位（深澤舞）
女子400mメドレーリレー 6位

アジア選手権（OWS） 青木陽佑、馬場康博コーチ

FINAマラソンスイミングワールドカップ セチュバル大会

男子10kmの部 青木陽佑 28位

第29回ユニバーシアード 青木陽佑（OWS）、馬場康博コーチ

2018年度 第94回日本選手権水泳競技大会 男子50m自由形 4位／
男子100m自由形 8位（松井浩亮）
男子50mバタフライ 6位／
男子100mバタフライ 3位（水沼尚輝）
男子50mバタフライ 7位（田中優弥）
女子50m自由形 3位／女子100m自由形 5位（佐藤綾）
女子50m平泳ぎ 5位／女子100m平泳ぎ 7位（深澤舞）

第94回日本選手権水泳競技大会OWS 男子10km 6位（青木陽佑）／
男子10km 5位（桑添陸）

ジャパンオープン2018 男子50m自由形 2位／男子100m自由形 5位（松井浩亮）
男子50mバタフライ 7位（水沼尚輝）／
男子50mバタフライ 6位（田中優弥）
女子50m自由形 4位（佐藤綾）／
女子50mバタフライ 8位（寺山真由）

第94回日本学生選手権水泳競技大会（水沼尚輝 学生チャンピオン）

男子100mバタフライ 優勝（水沼尚輝）（写真）／男子100mバタフライ 5位（田中優弥）
女子100m平泳ぎ 4位（深澤舞）／女子200m平泳ぎ 6位（出澤美和）
女子50m自由形 8位（寺山真由）



第14回世界短水路選手権（25m）代表選手選考会

男子50m自由形 2位／男子100m自由形 3位（松井浩亮：職員）

女子50m自由形 優勝／女子100m自由形 3位（佐藤綾：職員）

※佐藤綾 松井浩亮日本代表選出

男子50mバタフライ 4位／男子100mバタフライ 4位（水沼尚輝）

男子50mバタフライ 6位／男子100mバタフライ 7位（田中優弥）

FINA Swimming World Cup東京

■松井浩亮（職員） 男子50m自由形 4位、100m自由形 4位、

男子50mバタフライ 4位

男子100個人メドレー 4位、男子50mバタフライ 4位

■佐藤綾（職員） 女子50m自由形 5位／女子200m自由形 7位

■水沼尚輝 男子50mバタフライ 8位

■田中優弥 男子50mバタフライ 7位

■松井、田中、寺山、佐藤 男女混合4×50mフリーリレー 優勝（写真）

■松井、深澤、水沼、佐藤 男女混合4×50mメドレーリレー 2位



世界水泳選手権大会

■松井浩亮（職員） 男女混合4×50mリレー 4位（日本新記録）／

男子4×100mリレー 6位

男子4×50mメドレーリレー 7位／男子4×50mリレー 6位

■佐藤綾（職員） 男女混合4×50mリレー 4位（日本新記録）

男女混合4×50mメドレーリレー 4位（日本新記録）

女子4×50mメドレーリレー 4位（日本新記録）

女子4×100mメドレーリレー 4位（日本新記録）

女子4×50mリレー 5位（日本新記録）

FINA マラソンスイミングワールドシリーズ アブダビ大会

■青木陽佑（職員） 男子10kmの部 42位

■桑添陸 男子10kmの部 47位

FINA マラソンスイミングワールドシリーズ カタール大会

■青木陽佑（職員） 男子10kmの部 48位

■桑添陸 男子10kmの部 51位

2019年度 第95回日本選手権水泳競技大会

男子50mバタフライ 3位／男子100mバタフライ 優勝（水沼尚輝：職員）（写真）

男子50自由形 2位／男子100m自由形 8位（松井浩亮：職員）

女子50m自由形 2位／女子100m自由形 5位（佐藤綾：職員）

男子50mバタフライ 4位（田中優弥）

女子100m平泳ぎ 3位／女子50m平泳ぎ 7位（深澤舞）



ジャパンオープン2019

男子50m背泳ぎ 優勝／男子50m自由形 8位／

男子100m自由形 6位（松井浩亮：職員）

男子50mバタフライ 4位／100mバタフライ 2位（水沼尚輝：職員）

女子50m自由形 3位／100m自由形 2位（佐藤綾：職員）

男子100mバタフライ 3位（田中優弥）

第95回日本選手権水泳競技大会（25m）

男子50m自由形 優勝 ※日本新記録・アジア新記録（写真：左）／

男子100m自由形 2位（松井浩亮：職員）（写真）

男子50mバタフライ 優勝／男子100mバタフライ 2位（水沼尚輝：職員）

女子50m自由形 優勝／女子100m自由形 2位／

女子100m個人メドレー 2位（佐藤綾：職員）（写真：右）

男子50m自由形 5位／男子100mバタフライ 3位（田中優弥）

女子50m平泳ぎ 7位（深澤舞）／女子50mバタフライ 5位（津田萌咲）

女子50m背泳ぎ 8位／女子100m背泳ぎ 8位（山崎光）



第95回日本学生選手権水泳競技大会（深澤舞 学生チャンピオン）

男子100mバタフライ 3位／男子100m自由形 6位（田中優弥）

女子100m平泳ぎ 2位／女子200m平泳ぎ 優勝（深澤舞）

女子200m平泳ぎ 4位／女子100m平泳ぎ 8位（出澤美和）

女子200m自由形 7位（菅野里奈）

女子4×100mメドレーリレー 6位／女子4×100mフリーリレー 7位／

女子4×200mフリーリレー 8位

2019世界水泳選手権大会

■水沼尚輝（職員） 男子50mバタフライ 21位／男子100mバタフライ 9位

男子4×100mメドレーリレー 4位

■佐藤綾（職員） 女子4×100mフリースタイル 7位※日本新記録更新

混合4×100mフリースタイル 7位※アジア新記録・日本新記録更新

第95回日本選手権水泳競技大会OWS 男子10km 6位（桑添陸）

OWSオーシャンズカップ2019

■青木陽佑（職員） 男子10kmの部 5位

■桑添陸 男子10kmの部 4位

OWSアジア選手権

■青木陽佑 男子5kmの部 7位／男子10kmの部 7位

■桑添陸 男子5kmの部 6位／男子10kmの部 4位

第30回ユニバーシアード競技大会（ナポリ）

■松井浩亮（職員） 男子50m自由形 2位／男子4×100mフリーリレー 4位

■田中優弥 男子50mバタフライ 2位／男子100mバタフライ 5位

■深澤舞 女子平泳ぎ100m 2位／女子4×100mメドレーリレー 2位

FINA Swimming World Cup東京

■水沼尚輝（職員） 男子100mバタフライ 4位／

混合4×100mメドレーリレー 優勝※日本代表チーム

■松井浩亮（職員） 男子50m自由形 6位

■佐藤綾（職員） 女子50m自由形 8位／女子100m自由形 5位

■田中優弥 男子100mバタフライ 5位

■深澤舞 女子100m平泳ぎ 8位

2020年度 第96回日本選手権水泳競技大会

男子100mバタフライ 2位（水沼尚輝：職員）

男子50m自由形 2位／100m自由形 4位（松井浩亮：職員）

女子100m自由形 5位（佐藤綾：職員）

男子100mバタフライ 4位（田中優弥）

女子200m平泳ぎ 3位（深澤舞）

ジャパンオープン2020

男子50mバタフライ 2位／

男子100mバタフライ 2位 ※派遣標準記録突破（水沼尚輝：職員）
 男子50m自由形 2位／100m自由形 4位（松井浩亮：職員）
 女子100m自由形 3位（佐藤綾：職員）
 男子50mバタフライ 優勝（学生記録タイ）／男子100mバタフライ 6位（田中優弥）
 女子200m平泳ぎ 5位（深澤舞）／女子50m背泳ぎ 6位（山崎光）
 女子50mバタフライ 7位（津田萌咲）

第96回日本選手権水泳競技大会（25m）

男子50m自由形 優勝（2連覇）／100m自由形 2位（松井浩亮：職員）
 男子50mバタフライ 2位／男子100mバタフライ 2位（水沼尚輝：職員）（写真：左）
 女子50m自由形 2位／女子100m自由形 3位（佐藤綾：職員）
 男子50mバタフライ 2位／男子100mバタフライ 3位（田中優弥）（写真：左）
 ※男子50mバタフライ予選で日本新記録、学生新記録樹立（写真：右）
 男子50m平泳ぎ 5位（加藤永遠）
 女子100m平泳ぎ 4位（深澤舞）
 女子50mバタフライ 優勝※学生新記録樹立／
 女子100mバタフライ 3位（津田萌咲）（写真）
 女子50mバタフライ 7位（盛音葉）／女子50m自由形 7位（大内紗雪）



第96回日本学生選手権水泳競技大会

男子100mバタフライ 優勝／50m自由形 2位（田中優弥）
 女子200m平泳ぎ 優勝／100m平泳ぎ 2位（深澤舞）
 女子200m自由形 6位（菅野里奈）
 女子50m自由形 6位（大内紗雪）
 女子100mバタフライ 7位（津田萌咲）
 女子4×100mフリーリレー 4位／女子4×100mメドレーリレー 6位

2) 陸上競技部

創部年：2005年

監督：山地啓司（2005年～2008年）、丸山敦夫（2009年～2017年）、小林志郎（2018年～）

2007年度 第81回北信越学生陸上競技対校選手権大会 男子3000m障害 7位（内田祐介）

- 全日本学生チャンピオンシップ 男子3000m障害 3位（牧良輔）
- 2008年度 北信越学生ロードレース大会 男子団体3位
 第77回日本学生陸上競技対校選手権大会 3000m障害C 5位（牧良輔）
 第82回北信越学生陸上競技対校選手権大会 3000mS.C 優勝（牧良輔）
- 2009年度 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投 6位（土田祥太）
 第83回北信越学生陸上競技対校選手権大会 男子5000m 優勝（中澤翔）
 第21回出雲駅伝北信越選抜選出
 全日本大学女子駅伝北信越選抜選出
- 2010年度 第79回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投 5位（土田祥太）
 北日本学生陸上競技対校選手権大会 男子三段跳 優勝
 第84回北信越学生陸上競技対校選手権大会 7種目優勝
 第22回出雲駅伝北信越選抜選出
- 2011年度 第85回北信越学生陸上競技対校選手権大会（6種目優勝）男子総合初優勝／女子総合4位
 第23回出雲全日本大学選抜駅伝競走
 北信越学連選抜チーム選出 2区（中澤翔）、4区（牛木陽一）
- 2012年度 第81回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投 7位（土田祥太）
 2012年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子円盤投 5位（土田祥太）
 第86回北信越学生陸上競技対校選手権大会（14種目優勝）
 男子総合優勝2連覇／女子総合初優勝
 第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会初出場
 第24回出雲全日本大学選抜駅伝競走 北信越学連選抜チーム選出 1区（中澤翔）
- 2013年度 第97回日本陸上競技選手権大会 七種競技 9位（大関奏）
 第97回日本陸上競技選手権リレー競技大会 男子4×400mリレー 7位
 2013年日本学生陸上競技個人選手権大会 円盤投 8位（土田祥太）
 第87回北信越学生陸上競技対校選手権大会（20種目優勝）
 男子総合優勝3連覇／女子総合優勝2連覇
 第31回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（2年連続2回目）
- 2014年度 第98回日本陸上競技選手権大会 女子走り幅跳び 5位（永井佳織）
 男子4×400mリレー 7位
 ※北信越学生新記録、新潟県新記録樹立
 2014年日本学生陸上競技個人選手権大会
 女子400m 3位（吉田皆美）／女子ハンマー投げ 11位（松井理沙）
 第88回北信越学生陸上競技対校選手権大会（19種目優勝）
 男子総合優勝4連覇／女子総合優勝3連覇
 第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（3年連続3回目）
- 2015年度 第99回日本陸上競技選手権大会 女子ハンマー投げ 14位（松井理沙）
 第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子4×400mリレー／男子4×400mリレー 8位
 女子ハンマー投 6位（松井理沙）

女子10000m競歩 8位(高山瑞佳)

2015年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子200m 3位(倉部勇哉)／
男子円盤投げ 7位(高倉星也)
女子ハンマー投 6位(松井理沙)／
女子400m 6位(吉田皆美)
女子400m 8位(椎谷佳奈子)

第33回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場(4年連続4回目)

第89回北信越学生陸上競技対校選手権大会(18種目優勝)
男子総合優勝5連覇／女子総合優勝4連覇

2016年度 第100回日本陸上競技選手権大会 男子走高跳 6位(長谷川直人)
女子100m 4位／女子200m 7位(前山美優)

第85回日本学生陸上競技対校選手権大会
男子400m 8位(古川慶次)
女子100m 3位／女子200m 2位(前山美優) 女子400m 7位(椎名佳奈)
女子10000m競歩 7位(高山瑞佳)／女子ハンマー投 8位(松井理沙)
女子4×100mリレー 6位

2016年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走高跳 7位(長谷川直人)
女子100m 1位(前山美優)／
女子400m 2位(佐藤静香)
女子400m 6位(椎谷佳奈子)／
男子走幅跳 7位(木村傑)

第90回北信越学生陸上競技対校選手権大会(18種目優勝)
男子総合優勝6連覇／女子総合優勝5連覇

第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場(5年連続5回目)

ニトロアスレチックス2017(メルボルン)
女子60m 3位、女子100m 4位、女子150m 5位(前山美優)
男女混合4×100mリレー 4位

2017年度 第101回日本陸上競技選手権大会 男子走高跳 3位(長谷川直人)／
男子走高跳 8位(笠原裕希)
男子円盤投 8位(高倉星也)
女子100m 4位、女子200m 7位／
女子400m 8位(椎谷佳奈子)

第86回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走高跳 5位(長谷川直人)
女子100m 2位、女子200m 3位(前山美優)
女子10000m競歩 4位(高山瑞佳)
女子やり投 7位(井口華穂)

2017日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走高跳 優勝(長谷川直人)(写真:次頁:右)／
男子円盤投 2位(高倉星也)

女子100m 優勝、女子200m 3位（前山美優）

（写真：左）

女子400m 3位（椎谷佳奈子）／

女子やり投 7位（井口華穂）



第91回北信越学生陸上競技対校選手権大会 男子総合優勝7連覇／女子総合優勝6連覇

第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（6年連続6回目）

第29回ユニバーシアード競技大会（台北）前山美優 4×100mリレー 3位

2018年度 第102回日本陸上競技選手権大会 男子走高跳 7位（長谷川直人）

第87回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走高跳 優勝（長谷川直人）（写真：左）

男子100m 8位、男子200m 7位（横川康佑）

男子円盤投 5位（高倉星也）（写真：左）／

男子円盤投 7位（松田知利）（写真：左）

女子やり投 3位（井口華穂）

2018年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子100m 6位（横川康佑）／

男子走高跳 8位（長谷川直人）

男子円盤投 3位（高倉星也）／

男子円盤投 4位（松田知利）

第92回北信越学生陸上競技対校選手権大会（22種目優勝）

男子総合優勝8連覇／女子総合優勝7連覇

第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（7年連続7回目）

第50回全日本大学駅伝対校選手権大会出場 男子初出場（写真：右）



第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走

北信越学連選抜チーム選出 3区(本間豊)、6区(小林史弥)

- 2019年度 第88回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走高跳 5位(堀井遥樹) /
男子走高跳 7位(金子大貴)
女子400m 8位(椎谷佳奈子) /
女子やり投 5位(井口華穂)
- 2019年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走高跳 優勝(渋谷蒼) /
男子走高跳 5位(金子大貴)
男子砲丸投 4位・男子円盤投 4位(松田知利)
男子砲丸投 6位(米倉朋輝) /
女子円盤投 4位(神田千穂)
女子やり投 7位(井口華穂)

第93回北信越学生陸上競技対校選手権大会(22種目優勝)

男子総合優勝9連覇 / 女子総合優勝8連覇

第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場(8年連続8回目)(写真:左)

- 2020年度 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子走高跳 3位(渋谷蒼)(写真:右) /
男子走高跳 3位(堀井遥樹)(写真:右)
女子走高跳 3位(蓑輪夢未)(写真:右) /
女子やり投 8位(木村玲奈)
女子4×400mリレー 7位



- U20日本陸上競技選手権大会 男子円盤投 優勝(中町真澄)(写真:次頁:左) /
女子やり投 3位(木村玲奈)(写真:次頁:左)
女子走高跳 6位(蓑輪夢未)(写真:次頁:右)



第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（9年連続9回目）

第94回北信越学生陸上競技対校選手権大会（26種目優勝）

男子総合優勝10連覇・女子総合優勝9連覇

第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会出場（9年連続9回目）

3) 男子サッカー部

創部年：2005年

監督：秋山隆之（2005年～2011年）、田中泰裕（2012年～2013年）、佐熊裕和（2014年～）

2005年度 北信越大学サッカーリーグ 2部優勝 1部昇格

2006年度 北信越大学サッカーリーグ 1部3位

新潟県大学・高専リーグ 優勝

2007年度 北信越大学サッカーリーグ 1部2位

新潟県大学・高専リーグ 優勝

2008年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

全日本大学サッカー選手権大会 出場（初出場）

新潟県大学・高専リーグ 優勝

2009年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

全日本大学サッカー選手権大会 出場（2年連続2回目）

2010年度 北信越大学サッカーリーグ 1部7位

2011年度 全日本大学サッカー選手権北信越大会 4位

第36回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会 3位

2012年度 第61回全日本大学サッカー選手権大会 出場（3年連続3回目）

第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会 出場

2013年度 北信越大学サッカーリーグ 1部4位

第38回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越予選会 3位

新潟県サッカーリーグ 1部優勝

2014年度 北信越大学サッカーリーグ 1部4位

第39回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越予選会 ベスト8

新潟県サッカーリーグ 1部2位

2015年度 北信越大学サッカーリーグ 1部4位

第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越予選会 3位

新潟県サッカーリーグ 1部2位

2016年度 北信越大学サッカーリーグ 1部2位

第41回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会 出場

第96回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場

新潟県サッカーリーグ 1部優勝

2017年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

第66回全日本大学サッカー選手権大会 出場（5年ぶり4回目）

第42回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越予選会 3位

第97回天皇杯全日本サッカー選手権大会 2回戦進出（セレッソ大阪戦）

2018年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

第67回全日本大学サッカー選手権大会 出場（2年連続5回目）

第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会 出場（写真：左）

第98回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場

新潟県サッカーリーグ 1部優勝

北信越チャレンジリーグ 優勝 ※北信越フットボールリーグ 2部昇格

上米良柁人 SC相模原（J3）入団内定（写真：中央）

矢村健 アルビレックス新潟（J2）

2020年シーズン入団内定およびJFA・Jリーグ特別指定選手（写真：右）



2019年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

第68回全日本大学サッカー選手権大会 出場（3年連続6回目） ベスト16

第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会 出場

第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場

第45回北信越フットボールリーグ 2部優勝

第55回全国社会人サッカー選手権大会 出場 ベスト16

矢村健 アルビレックス新潟（J2）入団（写真：次頁：左）

喜岡佳太 AC長野パルセイロ（J3）入団（写真：次頁：右）



2020年度 北信越大学サッカーリーグ 1部優勝

Atarimaeni CUP（全日本大学サッカー選手権代替大会） 出場

第100回天皇杯全日本サッカー選手権大会 3回戦進出

第46回北信越フットボールリーグ 1部5位

松本雄真 カターレ富山（J3）2022年シーズン入団内定およびJリーグ・JFA特別指定選手

（写真：左）

ンダウターラ（横浜F・マリノス入団）（写真：右）、

佐々木快（ヴァンラーレ八戸入団）（写真：右）、

常盤悠（アルビレックス新潟S入団）（写真：右）



4）女子サッカー部

創部年：2012年

監督：秋山隆之（2012年～2015年）、奥山達之（2016年）、安達宏道（2017年）、草木克洋（2018年～）

2012年度 第21回全日本大学女子サッカー選手権大会 初出場

第34回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 出場

2013年度 第22回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（2年連続2回目） ベスト8

AFF WOMENS CHAMPIONSHIP 2013 優勝 日本選抜／高橋美夕紀、甲斐そらみ

2014年度 第23回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（3年連続3回目） ベスト8

第36回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 出場

2015年度 第24回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（4年連続4回目） ベスト8

第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 出場

なでしこチャレンジリーグ EAST 3位

北信越女子サッカーリーグ 1部優勝

第28回ユニバーシアード光州（韓国）大会 3位

高橋美夕紀※ユニバーシアード日本代表選出（創部初）

高橋美夕紀 アルビレックス新潟レディース 入団決定 ※本学卒業生初（写真：左）

2016年度 第25回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（5年連続5回目） ベスト8

第38回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 出場

なでしこチャレンジリーグ WEST 6位

北信越女子サッカーリーグ 1部優勝

2017年度 第26回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（6年連続6回目） ベスト16（写真：右）



第39回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 2回戦進出

なでしこチャレンジリーグ WEST 3位 総合8位

北信越女子サッカーリーグ 1部2位

2018年度 第27回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（7年連続7回目）

なでしこチャレンジリーグ EAST 4位 総合7位

北信越女子サッカーリーグ 1部優勝

ユニバーシアード代表候補2名選出 園田悠奈（写真：左）、田中美和（写真：右）



2019年度 第28回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（8年連続8回目）

第41回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 2回戦進出

なでしこチャレンジリーグ EAST 5位 総合11位

北信越女子サッカーリーグ 1部優勝

2020年度 第29回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場（9年連続9回目） ベスト8

第42回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 出場

なでしこチャレンジリーグ EAST 6位

園田悠奈（写真：左）、田中美和（写真：右） アルビレックス新潟レディース入団（なでしこ1部リーグ）



5) 男子バスケットボール部

創部年：2005年

監督：高沢文隆（2005～2012年）、梅津卓（2013年～2019年）、若月弘久（2020年～）

2005年度 第39回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 4部優勝

2008年度 第39回北信越大学バスケットボール選手権大会 初優勝

第60回全日本大学バスケットボール選手権大会 初出場

2009年度 第43回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 2部優勝 1部昇格

2010年度 第44回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部2位

第44回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 4位

2011年度 第45回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部4位

2012年度 第46回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部3位

2013年度 第47回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部4位

第47回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位

第65回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（5年ぶり2回目）

2014年度 第48回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部3位

第48回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝

第66回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（2年連続3回目）

2015年度 第49回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝

第49回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝

第67回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（3年連続4回目）ベスト16

2017年度 第51回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部2位

第51回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 3位

2018年度 第52回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部2位

第52回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位

第70回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（2年ぶり5回目）



- 2019年度 第53回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部3位
第53回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 ブロック決勝敗退
第69回西日本学生バスケットボール選手権 ベスト32
- 2020年度 第54回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 3位

6) 女子バスケットボール部

創部年：2005年

監督：高沢文隆（2005～2009年）、大滝和雄（2010年～2014年）、加藤雅規（2015年～2018年）、
伊藤篤司（2019年～）

- 2005年度 第40回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 4部優勝
- 2006年度 第40回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 準優勝
第58回全日本大学バスケットボール選手権大会初出場
- 2007年度 北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 2部優勝 1部昇格
第56回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト8
第41回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 初優勝
第59回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（2年連続2回目）
- 2008年度 第42回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部初優勝
第57回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト8
第42回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝
第60回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（3年連続3回目）
第28回北信越総合選手権大会 初優勝
- 2009年度 皇后杯全日本バスケットボール選手権大会 初出場
第43回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝（2年連続）
第43回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝（3年連続）
第61回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（4年連続4回目）
- 2010年度 第44回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第44回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
第62回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（5年連続5回目）

- 第59回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト8
- 2011年度 第45回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第45回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
第63回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（6年連続6回目）
- 2012年度 第46回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第46回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
第64回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（7年連続7回目）
- 2013年度 第47回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第47回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝
第65回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（8年連続8回目）
- 2014年度 第48回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第63回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト32
第48回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝
第66回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（9年連続9回目）
- 2015年度 第49回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第64回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト16
第49回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
第67回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（10年連続10回目）ベスト16
第82回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会 出場
- 2016年度 第50回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第65回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト16
第50回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 3位
- 2017年度 第51回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝



- 第66回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト32
第51回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 4位
第84回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会 2次ラウンド進出
- 2018年度 第52回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝
第67回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト32
第52回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 予選敗退
- 2019年度 第53回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦 1部優勝（写真：左）

第53回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
 第71回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（4年ぶり11回目）
 第68回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト16

2020年度 第54回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2位
 第72回全日本大学バスケットボール選手権大会 出場（2年連続12回目）
 溝部稚菜 新潟アルビレックスBBラビッツ（WJBL）入団（写真：右）



7) 女子バレーボール部

創部年：2013年

監督：濱野礼奈（2013年～）

2013年度 第44回春季北信越大学バレーボール選手権大会 2部1位 1部昇格
 第61回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部4位
 中部日本6人制バレーボール総合選手権大会 3位

2014年度 第45回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第62回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第61回全日本バレーボール大学選女子手権大会 初出場

2015年度 第46回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第63回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝
 第62回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場（2年連続3回目） ベスト32
 第34回東日本大学バレーボール選手権大会 ベスト32

2016年度 第47回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝
 第64回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第63回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場（3年連続3回目） ベスト32
 第35回東日本大学バレーボール選手権大会 ベスト32

2017年度 第48回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝
 第65回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝
 第64回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場（4年連続4回目）
 第36回東日本大学バレーボール選手権大会 ベスト32

2018年度 第49回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝

第66回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部優勝
 第65回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場（5年連続5回目）
 第37回東日本大学バレーボール選手権大会 ベスト16
 白岩蘭奈 KUROBEアクアフェアリーズ（V1） 入団（写真：左）
 唐川愛璃 JAぎふりオナーレ（V2） 唐川愛璃 入団（写真：中央）
 2019年度 第50回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第67回秋季北信越大学バレーボール選手権大会 1部2位
 第66回全日本バレーボール大学女子選手権大会 出場（6年連続6回目）
 中島優花 柏エンゼルクロス（V2）入団（写真：右）



2020年度 全日本バレーボール大学選手権大会 北信越学連選抜推薦チーム決定戦 Bコート優勝
 （写真：左）

第67回全日本バレーボール大学選手権大会 出場（7年連続7回目）
 鈴木沙彩 ブレス浜松（V2）入団（写真：右）



8) 硬式野球部

創部年：2013年
 監督：佐藤和也（2013年～2019年）、鵜瀬亮一（2020年～）
 2013年度 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 3部5位
 2014年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 3部優勝 2部昇格
 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 群馬・新潟地区 3位
 関甲新学生野球連盟 新人戦 ベスト4

2015年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 2部優勝 1部昇格



関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部6位

関甲新学生野球連盟 新人戦 2位

2016年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 1部2位

関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部5位

関甲新学生野球連盟 新人戦 優勝

2016年プロ野球ドラフト会議 笠原祥太郎 中日ドラゴンズ 4位指名 (写真)



©中日ドラゴンズ

2017年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 1部5位

関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部4位

関甲新学生野球連盟 新人戦 優勝

2018年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 1部6位

関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部5位

関甲新学生野球連盟 新人戦 2位

2018年プロ野球育成ドラフト 漆原大晟 オリックス・バッファローズ育成 1位指名 (写真)



- 2019年度 関甲新学生野球連盟 春季リーグ 1部6位
 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部4位
 関甲新学生野球連盟 新人戦 優勝
- 2020年度 関甲新学生野球連盟 エキシビジョントーナメント大会 Aグループ2位、Bグループ1位
 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ 1部チャンピオンラウンド 4位

9) ダンス部

創設年：2013年

監督：若井由梨（2013年～）

2013年度 第26回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 入選

2014年度 第27回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 特別賞（写真）



2015年度 第28回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 特別賞（写真：左）

2016年度 第29回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 入選

2017年度 第30回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 入選

第36回あきた全国舞踊会モダンダンスコンクール 4位入選

2018年度 アーティスティックムーブメント富山 審査員賞（写真：中央）

2019年度 第31回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 特別賞（写真：右）



2020年度 第32回全日本大学ダンスフェスティバル（神戸） 出場

10) 卓球部

創設年：2019年

監督：品田穂雄（2019年～）

2019年度 第67回春季北信越学生卓球選手権大会 男子2部2位
 第67回秋季北信越学生卓球選手権大会 男子2部1位 1部昇格
 第50回北信越学生新人卓球選手権大会 男子シングルス ベスト16／男子ダブルス ベスト16
 2020年度 第68回秋季北信越学生卓球選手権大会 男子1部4位（1部残留）



2 プロ・社会人（実業団）選手の輩出

大学卒業後もプロ選手や社会人（実業団）選手として活躍している強化指定クラブ生が数多くいる。硬式野球部では、侍JAPANにも選出された笠原祥太郎投手（中日ドラゴンズ）を含め2名のプロ野球選手が誕生した。男子サッカー部では、Jリーガーを5名輩出し、女子サッカー部、陸上競技部、女子バレーボール部、男子・女子バスケットボール部からもプロ選手を輩出し、現在も本学卒業生が全国で活躍している。その中でも卒業後、本学の職員として水泳競技を継続している卒業生は、日本のトップを争う競技結果を残している。

	水泳部	陸上競技部	男子サッカー部	女子サッカー部	バスケットボール部	女子バレーボール部	硬式野球部
2013年度					【女子】 木暮彩華 砺波美沙子 （新潟BBラビッツ）		
2014年度		永井佳織 （長谷川体育施設）					
2015年度				高橋美夕紀 （ALB新潟L） 甲斐そらみ （ノジマステラ） 深澤美希 （ノルディーア北海道）	【男子】 木村啓太郎 （新潟BB）		
2016年度	松井浩亮 青木陽佑 （NUHW）		山谷瑠香 （ALB新潟L）				笠原祥太郎 （中日）

	水泳部	陸上競技部	男子サッカー部	女子サッカー部	バスケットボール部	女子バレーボール部	硬式野球部
2017年度	佐藤綾 (NUHW)	前山美優 (新潟RC)		小高愛理 (AC長野パルセイ) 長沢菜月 (ニッパツ横浜FC) 木下 露 (ASハリマアルビオン) 仲松叶実 松本苑佳 (愛媛FC) 恒益奉実 (アンジュヴィオレ広島)	【男子】 風間直樹 (金沢武士団)		
2018年度	水沼尚輝 (NUHW)	長谷川直人 高倉星也 (新潟RC)	上米良柊人 (SC相模原)	兼重紗里 屋比久倫子 (群馬ホワイスター) 三浦唯 (ノルディーア北海道) 園田悠奈 田中美和 (ALB新潟L)		白岩蘭奈 (KUROBEアクアフェアリーズ) 唐川愛璃 (JA岐阜リオンナレ)	漆原大晟 (オリックス)
2019年度			矢村健 (ALB新潟) 喜岡佳太 (長野ACパルセイロ)	増田玲那 米里ひなた (ACハリマアルビオン)	【男子】 佐藤誠人 (トライフープ岡山) 【女子】 溝部稚菜 (新潟BBラビッツ)	中島優香 (柏エンゼルクロス)	
2020年度			ンダウ ターラ (横浜F・マリノス) 佐々木快 (ヴァンラーレ八戸) 常盤悠 (アルビレックス新潟シンガポール)	本間詩帆 (ノルディーア北海道)		鈴木沙彩 (プレス浜松)	



第10章

学生生活

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1) 20年間の歩み

学友会は、本学が開学した平成13年度に1年次生によって組織され、現在に至っている。設立総会は、平成17年3月14日に開催され、初代会長として健康栄養学科1年の齊藤公二会長（現同窓会長）が選出された。

歴代の学友会長は、以下のとおりである。

年度	会長名	所属学科
2001	齊藤公二	健康栄養学科
2002	齊藤公二	健康栄養学科
2003	佐藤洋介	社会福祉学科
2004	木村由佳	社会福祉学科
2005	白井祐輝	社会福祉学科
2006	長嶋健介	言語聴覚学科
2007	長嶋健介	言語聴覚学科
2008	玉木宏昌	健康スポーツ学科
2009	吉田聡介	理学療法学科
2010	桐山 渉	社会福祉学科
2011	大井結季	理学療法学科

年度	会長名	所属学科
2012	濱田祐輔	健康スポーツ学科
2013	阿部拓也	臨床技術学科
2014	小林弘樹	臨床技術学科
2015	阿部友弥	理学療法学科
2016	阿部友弥	理学療法学科
2017	早川陽太	健康スポーツ学科
2018	板垣 匠	医療情報管理学科
2019	北畠祐人	視機能科学科
2020	田中朋寛	健康スポーツ学科
2021	本山雅大	理学療法学科

学友会の目的は、文化活動並びにスポーツ活動を通じて、会員相互の親睦、資質の向上および健康の増進を図り、明るい学園生活の発展に寄与することであり、文化クラブ・スポーツクラブへの予算配分をはじめ各学科の交流を目的としたスポーツ大会等を企画・実施している。

2021年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学生同士の対面での交流が減る中、学友会員を中心にオンライン型の交流イベントを企画し、明るい学園生活の発展に寄与する活動を継続して行っている。

2) 特色

本学友会の特色は、組織運営の主体が1・2年次生であり、役員が全学科並びに学友会に所属する全てのクラブの代表者から構成されていることである。これは、3・4年次生は国家試験受験資格等の取得に必要な実習が長期にわたり、学友会活動に責任を持っていないことなどに配慮するという考え方に基づいている。

その後、平成19年度に、学友会活動の充実・強化を図る観点から、会長を3年次生から選出する規約改正を行うなどの組織運営の見直しを図った。現在は3年次生が会長を務めているが、実質的には1・2年次生が学友会活動を担っているといっていよい。活動面では、明るい学園生活の実現に向けて積極的に環境改善等に取り組んでいることがあげられる。

具体的には、学内の生活及び学習環境等の向上、クラブ活動の支援、大学祭等の行事の企画・運営、

県人会活動の支援、地域社会への協力・貢献などに取り組んでいる。また、これらの取り組みについては、大学との連携が不可欠であることから事務局や学生委員会と定期的な連絡協議の場を設けている。

3) 活動の成果と今後の方向性

(1) 活動等に対する自己評価

学部・学科の新設等により学生数が増加し、授業やクラブ・サークル活動により学内施設の利用に関する問題や学園生活をめぐる様々な問題が生じているが、事務局や学生委員会との密接な連携の下に主体的かつ積極的に問題解決に努めている。

また、第6節でも述べるが、学内生活だけでなく学生が居住する地域の住民や自治会との交流等を通して学生の地域生活の向上を支援していることも高く評価できる。

(2) 今後の目指す姿等

組織運営については、学生数が4,500人を超える大きな組織となることから、その運営方法の検討や見直しは今後の課題となる。活動については、本学の掲げる理念と将来目標の下で、学生自らが学内外での活動等を通して資質の向上や健康の増進、明るい学園生活を実現することはもとより、地域交流活動あるいは地域貢献活動に組織的・計画的に取り組む、地域社会の振興・発展に寄与できる学友会を目指すこととしたい。



▲2021年度学友会メンバー

2

クラブ・サークル活動

1) 20年間の歩み

本学学友会クラブ・サークル活動は、開学2年目の平成14年度より組織的な活動を行なっている。本学学生は高校卒業まで勉学に取り組むだけでなく、スポーツや文化活動にも積極的に取り組んできた学生が多く、開学後すぐに体育館やグラウンドでスポーツを行ったり、仲間で音楽活動を行なっている学生がいた。そのため1年目から教職員の指導の下でクラブ・サークル活動を大学の組織的な活動に位置

づけるという考えもあったが、当時学生部長の小野昭一先生を中心として、「学生の自主性と主体性によって運営されるクラブ・サークル活動」にしたいという確固とした理念に基づき、学生が主体的に活動できる組織を目指した。その後、学友会の活動として初めて正式に成立したクラブ・サークルは、野球、陸上競技、硬式テニス、バドミントン、ソフトボール、サッカー、フットサル、卓球、水泳、アウトドア、剣道、女子バスケットボール、スポコミュ、レクア・ドットコム、写真、軽音楽、吹奏楽、コーラス、園芸、キネマ（映画）、手話、ボランティアの23団体であり、クラブ・サークル活動が開始された。

平成16年度は、第2厚生棟が建設され、学友会の活動拠点、各クラブ・サークルの倉庫兼控室、軽音楽や茶道をはじめとした文化活動の活動拠点ができた。この第2厚生棟の完成と4年次までの学生が揃うことによって、学友会クラブ・サークル活動はようやく完成されたものとなった。

開学当初からの「学生の自主性と主体性によって運営されるクラブ・サークル活動」の理念は20年を経た今日でも先輩から後輩に脈々と受け継がれ、学生数の増加と共に現在では強化指定クラブとなったクラブを除き36団体へ発展し、各団体が精力的な活動を続けている。令和元年度には新入生がより良い学生生活が送れるよう、クラブ・サークル活動団体の活動概要をまとめた案内用のクラブ・サークルガイドを初刊行した。



▲クラブ・サークルガイド

2) 活動等の特色

前述した理念は、開学時、何の環境も整っていない状態で、高校を卒業したばかりの先輩のいない学生たちが一から全てを作り上げてきた「1期生のエネルギーの遺伝子の伝承」といっても過言ではない。「自分たちの目線で、自分たちの今ある力で、自分たちの居る地域でできることは何だろう?」ということを学生たちは20年間問い続け、それが結果的に「1期生のエネルギーの遺伝子の伝承」として今日まで引き継がれているのであろう。この決して華やかではないが、地に足をつけ、地道に活動が続ける学生のエネルギーが、他の大学にはない本学のクラブ・サークル活動の特徴である。

3) 活動等の成果と今後の方向性

20年の歳月の中で、評価できる成果は、既に述べてきたように全てのクラブが「学生の自主性と主体

性」によって維持されていることである。特にボランティア、文化クラブ・サークルの地域に密着した地道な活動は本学の最大の財産である。これまでの20年の歴史を経て「学生の自主性と主体性によって運営されるクラブ・サークル活動」を継承し、学生達自身のエネルギーによって今後更に発展を続けて行くものと確信する。

<2021年度・クラブ・サークル団体一覧>

2021.3.31現在

	クラブ名	代表学生名	顧問名
1	ソフトボール部	熊木龍之介	山崎 史恵
2	軟式野球部	渡邊 尚也	高田 大輔
3	学友会卓球部	佐藤 奨真	笹本 嘉朝
4	硬式テニス部	船木 竣太	西海 幸頼
5	バドミントン部	吉田 紗彩	佐藤 裕紀
6	剣道部	高橋 頌吾	中島 郁子
7	フットサル部	丸山 雄基	山本 悦司
8	男子ハンドボール部	但野 翔太	岩森 大
9	女子ハンドボール部	大石 美鈴	岩森 大
10	学友会アスレティックトレーナー部	安藤 凜人	熊崎 昌、三瀬 貴生
11	よさこい部	菊池 華奈	江玉 睦明
12	園芸部	牧 孝則	阿部 薫
13	茶道部	伊藤 友紀	五十嵐紀子
14	和太鼓部	中川 昂大	高野 寛輔
15	吹奏楽部	酒井 杏菜	高野 寛輔
16	手話部	龍田 栞	佐久間由紀
17	写真部	岩脇 隆祐	山崎 貴子
18	レクア. コム部	田村 晴勇	丸田 秋男、荒川 大靖
19	軽音楽部	野瀬 春希	木下 直彦
20	VICON部	大滝 航	江原 義弘
21	栄養サポート部	木戸浦涼葉	澁谷 顕一
22	Spring Board	神戸 美柚	久保 雅義
23	ピアエデュケーション部	岩崎 奈美	山口 典子
24	さーぴす～20歳からの子宮頸がん予防～	小宮山紘規	藤井 豊
25	アルティメット部Scarlet	板垣 志音	佐藤 敏郎
26	ダンスサークルRIZE	山本 峻平	平林 怜
27	躰道会	岩橋 翔馬	相馬 俊雄
28	医福大バーベルクラブ	高田 智輝	佐近 慎平
29	車いすバスケットボールサークル	鹿俣 空洋	佐近 慎平
30	nuhwサブカルチャーサークル	宮川 慶大	須田 裕紀
31	空飛ぶ車椅子サークル	佐々木穂果	前田 雄、須田 裕紀
32	おるんちょ	渡部 樹里	渡辺 優奈
33	プログラミングサークル	田中 聖也	谷 賢太郎
34	メディカルサポートサークル	林 はるな	江玉 睦明
35	e-sportsサークル	荒木 里彩	織部 祐介
36	Orange Education NUHW	高橋 美帆	花矢 鮎美

計36団体（強化指定クラブを除く）

1) 20年間の歩み

学生による大学祭は、本学の開学した平成13年度に学生の親睦と地域との交流等を目的として第1回目を開催し、伝統を育みながら現在に至っている。

大学祭が「伍桃祭」と名づけられたのは第2回目からであるが、開学時の学科が理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、健康栄養学科および社会福祉学科の5学科でスタートしていること、学舎がピンクを基調とした外壁で統一されており、桃の花をイメージさせることに由来している。

第1回から第20回までの開催状況は、表1に示すとおりである。

▼表1 伍桃祭の開催状況

	テーマ	開催日
第1回	地域	2001/10/28
第2回	聞かせてほしい、あなたのDo	2002/10/13・14
第3回	～ I WISH YOUR SMILE ～	2003/10/11・12
第4回	「絆」～イロトリドリノセカイ～	2004/10/9・10
第5回	Life ～その瞬間を～	2005/10/8・9
第6回	キセキ～軌跡と奇跡と輝	2006/10/7・8
第7回	「光」8色の虹=∞のかけはし	2007/10/6・7
第8回	「未来」～考えよう、私たちの未来・地球の未来～	2008/10/4・5
第9回	「SMILE」～笑う門には福来る～	2009/10/3・4
第10回	「STAND BY」～支えたい～	2010/10/9・10
第11回	「Make our day」～みんなで楽しい1日を過ごそう～	2011/10/9・10
第12回	「message」～伝えたい、今の想い～	2012/10/7・8
第13回	Hands in Hands ～つながる想い～	2013/10/13・14
第14回	grow up !	2014/11/2・3
第15回	Tutti	2015/10/11・12
第16回	千祭一遇	2016/10/9・10
第17回	百花繚乱	2017/10/8・9
第18回	千紫万紅	2018/10/6・7
第19回	全華団囀	2019/10/14 ※
第20回	天進楽華	2020/10/11

※第19回の10月13日（1日目）は台風接近のため開催中止



▲図1 第19回伍桃祭



▲図2 第19回伍桃祭

伍桃祭のテーマはその年の実行委員会が考案したものを使用しているが、第15回以降は既存の四字熟語に実行委員会の想いやその年のイメージを文字に置き換え作成・使用しており、第20回である現在も受け継がれている。

第20回については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初のオンライン形式での開催となった。ゲストライブをはじめ、学生団体の発表や企画・イベントなどを全てオンラインにて配信した。今までのような開催方法・プロモーション活動等を行うことはできなかったが、今後の伍桃祭運営を改善するきっかけとなった。また企画・運営を通じ、実行委員会や学友会の学生の成長へと繋がった。



▲図3 初のオンライン開催となった第20回伍桃祭

2) 特色

伍桃祭は学友会を中心に、原則として全学科の1・2年次生で構成される実行委員会を組織し、企画・実施・評価および引継ぎに至る全プロセスを学生が責任をもって運営している。また、地域交流を積極的に行うことを目的とし、地域住民や地元企業との関わりを持つために実行委員会の学生が主体的に活動を行っている。

3) 活動の成果と今後の方向性

(1) 活動等に対する自己評価

大学と共に歴史を重ねている伍桃祭は、着実に成果をあげている。地域との交流を目的に掲げ、学生が楽しむことを通して学生と地域がつながり、地域に支えられた大学づくりに大きく貢献していると思われる。

最近伍桃祭の企画内容が充実し規模が大きくなっている一方で、学友会への負荷が非常に高くなっている。学友会や実行委員会がやりがいを持って最後まで活躍できるよう、サポートを行っていく必要がある。

(2) 今後の目指す姿等

本学は、保健・医療・福祉・スポーツ領域を核として、優れたQOLサポーターを育成することを使命としている。この使命を十分に自覚するとともに、医療系総合大学としてのオリジナリティの高い魅力ある伍桃祭にチャレンジすることが求められている。これに加えて地域への貢献や同窓会との連携をさらに深めていく。

また、第20回は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となったが、オンライン開催のメリットや可能性も大いに感じられた。今後はオフラインとオンラインを融合させた伍桃祭の開催を目指していきたい。

4 学生寮「N-Village伍桃」

1) 今日に至るまでの歩み

本学の学生寮「N-Village伍桃」は、平成30年4月に全13棟にて開寮し、第1期生299名が入寮した。平成31年3月には第2期工事で13棟を増築し計26棟となり、同年4月には第2期生335名が入寮した。以降、令和2年4月には第3期生297名、令和3年4月には第4期生294名が入寮。常時600名以上が在寮し、そのうち半数は強化指定クラブの学生が占めている。

2) 特色

キャンパスまで徒歩7分の立地にある学生寮「N-Village伍桃」では、朝・夕2食の食事提供や管理員配置による万全なセキュリティ体制によって、寮生一人ひとりの安全で快適な暮らしを支えている。学年や学科が異なる12名が1フロアで共同生活を送ることにより、様々な学生の交流が可能であるため、寮生活がチーム医療にも繋がると考えている。

3) 活動等の成果と今後の方向性

寮生による学生寮組織「寮友会」において、「学修プログラム委員会」「衛生委員会」「催事委員会」「広報活動委員会」の4つの委員会を組織・運営し、これまで様々な学修プログラムやレクリエーションを実施。今後もこのような活動を通して、単なる生活の場としての機能に留まらず、建学の精神である「優れたQOLサポーター」として働くための基礎的な知識・コミュニケーション能力を身に着ける場として管理・運用を進めていく。





第11章

教育研究環境

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

1 校地、校舎等の面積

在籍学生数	4,577
-------	-------

校地等	区 分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の 学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上 必要な面積 (㎡)	在籍学生 ひとり当たり の面積 (㎡)	備 考 (共用の状況等)
	校舎敷地	169,793	0	0	169,793	43,310	49.90	
	運動場用地	58,612	0	0	58,612			
	小 計	228,405	0	0	228,405			
	その他	0	0	0	0			
	合 計	228,405	0	0	228,405			
校 舎		専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の 学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡)		備 考 (共用の状況等)
		53,614.00	0	0	53,614.00	37,124		

校地等の在籍学生1人当たりの面積は、〔専用合計＋共用合計÷(大学在籍学生数＋共用する他の学校の在籍学生数)×大学在籍学生数〕÷大学在籍学生数で算出している。

2

講義室、演習室、学生自習室等の概要

学部・研究科等	講義室・演習室 学生自習室等	室数	面積の合計 (㎡)	専用・共用 の別	学生総数 (人)	在籍学生1人 当たり面積(㎡)	備考 (研究科等との 共用等の状況)
リハビリ テーション 学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
医療技術 学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
健康科学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
看護学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
社会福祉 学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
医療経営 管理学部	講義室	47	7,149	共用	4,427	1.61	全学部共通
	演習室	27	1,555	共用	4,427	0.35	全学部共通
	学生自習室						
	その他						
医療福祉 学研究科	講義室						
	演習室						
	学生自習室	8	296	専用	150		
	その他						
その他	体育館	4	6,776.43	共用			全学部共通
	講堂						

室番号	室 名	面 積 ㎡	主な使用学部等
D306	臨床栄養学実習室	72.50	健康科学部
F104	官能検査室	25.00	健康科学部
G101	神経生理実験室	150.00	リハビリテーション学部
G102a	動作分析室	150.00	リハビリテーション学部
G102b	動作分析準備室	50.00	リハビリテーション学部
G103	運動学実習室	150.00	リハビリテーション学部
G104a	スポーツ医科学実験室	115.00	リハビリテーション学部
G104b	準備室	10.50	リハビリテーション学部
G104c	運動機能評価室	24.50	リハビリテーション学部
G105	遺伝子解析・分子生物学実験室	45.00	リハビリテーション学部
G106	疼痛機構解析室	55.00	リハビリテーション学部
G107a	神経・筋・骨組織解析室	125.00	リハビリテーション学部
G107b	組織解析準備室	11.35	リハビリテーション学部
G107c	暗室	13.65	リハビリテーション学部
G210	作業療法実習室	100.00	リハビリテーション学部
G202-3	作業療法実習室	150.00	リハビリテーション学部
G204	作業療法実習準備室	25.00	リハビリテーション学部
G209	作業療法評価室	100.00	リハビリテーション学部
G201	心身機能解析室	50.00	リハビリテーション学部
G208	ADL実習室	200.00	リハビリテーション学部
G205a	運動生理実験室	62.50	リハビリテーション学部
G205b	手・脳機能解析室	62.50	リハビリテーション学部
G301	健康栄養学研究室	75.00	健康科学部
G303-4	精密機器室	50.00	健康科学部
G315	理化学・微生物実験室	125.00	健康科学部
G310	調理学研究室	25.00	健康科学部
G305	食品加工実習室	100.00	健康科学部
G312	栄養教育研究室	25.00	健康科学部
G311	栄養教育実習室	75.00	健康科学部
G313	食品学研究室	25.00	健康科学部
G309	調理実習室	100.00	健康科学部
G314	食品衛生学研究室	25.00	健康科学部
G306	実習食堂	76.80	健康科学部
G307	給食経営管理実習室	64.00	健康科学部
G411b	解剖学資料室	27.30	リハビリテーション学部
G408	聴覚実習室	25.00	リハビリテーション学部
G407	言語療法室	100.00	リハビリテーション学部
G409	防音室	25.00	リハビリテーション学部
	言語実習室	25.00	リハビリテーション学部

室番号	室 名	面 積 ㎡	主な使用学部等
	共同実験室	33.33	全学共通
G402	動物室（作業室等含む）	33.34	全学共通
G401	動物室（作業室等含む）	50.00	全学共通
G412	音声・音響学実習室	100.00	リハビリテーション学部
G413	音声・音響学準備室	25.00	リハビリテーション学部
G414	言語聴覚演習室	75.00	リハビリテーション学部
G417	言語療法室	100.00	リハビリテーション学部
GA203	運動療法実習室	318.75	リハビリテーション学部
GA202	生理機能検査室	23.35	リハビリテーション学部
GA303	第二運動療法実習室	245.10	リハビリテーション学部
GA304	第二運動療法実習準備室	70.85	リハビリテーション学部
GA301	研究室	23.35	リハビリテーション学部
GA302	身体計測実習室	23.35	リハビリテーション学部
GA403	解剖学実習室	285.00	リハビリテーション学部
GA404	解剖学実習室準備室 1	52.10	リハビリテーション学部
GA405	標本室	18.75	リハビリテーション学部
IA515	医療情報システム実習室	192.00	医療経営管理学部
IA514	接遇実習室	23.40	医療経営管理学部
J201	運動生化学実習室	92.92	健康科学部
J203	生体機能実習室	11.28	健康科学部
J204	生体評価実習室	64.49	健康科学部
J304	認知心理学実習室	27.59	健康科学部
J305	環境整理・運動生理実習室	91.44	健康科学部
K101	家政実習室	110.40	社会福祉学部
K103	介護実習室	156.15	社会福祉学部
K104	入浴実習室（更衣室等含む）	82.80	社会福祉学部
K206	メディカルシミュレーション教育センター	178.99	看護学部
K301	看護学演習室	74.55	看護学部
K302	実習室C	349.59	看護学部
K303	実習室D	44.37	看護学部
	器材室	17.64	看護学部
	洗濯乾燥室	13.34	看護学部
L103	適合実習室 1	196.98	リハビリテーション学部
L105	適合実習室 2	143.23	リハビリテーション学部
L102	集塵機械室	42.89	リハビリテーション学部
	適合評価室	14.92	リハビリテーション学部
L101	モデル・講師控室	38.95	リハビリテーション学部
L108	運動機能医科学研究所	85.26	リハビリテーション学部
L204	製作室	206.97	リハビリテーション学部
L208	機械室 1（成型室）	206.97	リハビリテーション学部
L203	機械室 2（切削室）	161.25	リハビリテーション学部
L206	機械室 3（ミシン室）	77.43	リハビリテーション学部
L201	石膏モデル修正室	130.31	リハビリテーション学部

室番号	室 名	面 積 ㎡	主な使用学部等
N301	基礎工学実習室	139.93	医療技術学部
N302	臨床工学実習室	149.06	医療技術学部
N401	微生物実験室	125.82	医療技術学部
N402	化学実験室	125.95	医療技術学部
N511	顕微鏡室	116.55	医療技術学部
N510	病理処理室	28.18	医療技術学部
O204	運動栄養実習室	110.53	健康科学部
O303	リコンディショニング室	228.00	健康科学部
P203	視機能科学実習室	414.00	医療技術学部
P204	眼科ワークステーション	63.00	医療技術学部
P205	眼底カメラ検査室	81.00	医療技術学部
P206	視能検査室	81.00	医療技術学部
P207	電気生理検査室	34.40	医療技術学部
P317	視機能演習室	40.80	医療技術学部
	視覚光学実験室	24.56	医療技術学部
Q321	生理学実習室	293.47	全学共通
Q322	シールドルーム	46.50	全学共通
Q323	生理学実習準備室 1	24.22	全学共通
Q324	生理学実習準備室 2	24.22	全学共通
Q325	動物飼育処理室	11.38	全学共通
Q326	生理学実習準備室 3	13.81	全学共通
S101	多目的実習室	491.38	医療技術学部
S102	資機材庫	234.21	医療技術学部
S103	多目的実習準備室－1	18.29	医療技術学部
S104	多目的実習準備室－2	18.29	医療技術学部
S301	救急現場実習室	393.22	医療技術学部
T101	読影室	75.07	医療技術学部
T102	MRI室	60.18	医療技術学部
T103	CT室	41.87	医療技術学部
T104	X線TV室	40.20	医療技術学部
T105	一般撮影X線室－1	39.36	医療技術学部
T106	一般撮影X線室－2	39.36	医療技術学部
T107	一般撮影X線室－3 (マンモ)	42.04	医療技術学部
T108	超音波撮影室	40.20	医療技術学部
	操作室	236.69	医療技術学部
T301	基礎医学実習室	239.36	医療技術学部
T302	理工学実習室	204.75	医療技術学部
T303	医療画像情報学実習室	174.84	医療技術学部
T304	診療放射線学演習室	87.92	医療技術学部
T421,22	医療画像情報学演習室	22.00	医療技術学部
T423	放射線治療演習室	22.00	医療技術学部
T424	核医学演習室	22.00	医療技術学部

4 附属施設の概要（図書館を除く）

名 称	面積の合計 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員（総数） 該当箇所のみ記載	開館時間等 (該当する場合 のみ記載)	スタッフ数 該当する場合のみ記載		主な用途
					専任	非常勤	
第1体育館	1,709.43	共用	100	9:00～20:00	2	0	授業、課外活動
第2体育館	630.00	共用	50	9:00～20:00	2	0	授業、課外活動
第3体育館	2,630.51	共用	100	9:00～20:00	2	0	授業、課外活動
第4体育館	1,807.38	共用	100	9:00～20:00	2	0	授業、課外活動

5 図書館の概要・所蔵数など（2021年度）

図書館の概要（2021年度）

図書館の 名称	面積（㎡）			学生 閲覧室 の座席数 (a)	学生 収容定員 (b)	収容定員に 対する 座席数の 割合（％） a/b×100	開室日数		年間利用実績 (2020年度)		開室時間	備考
	全体	閲覧 スペース (内数)	書庫 スペース (内数)				週当たり	年間	学内	学外		
新潟医療福祉大学 図書館	2,083	1,788	295	396	4,577	8.6	4	234	43,461	0	8:45～ 22:00	学部学生 4,427 大学院生 150

「備考」欄には学生収容定員（b）の内訳を、学部学生、大学院学生ごとに記載した。

週当たりの開室日数については学期中の週当たりの実際開室日数を記載している。

開室時間については学期中の平日における開室時間を記載している。

年間利用実績の「学内」欄には、学生・教員・職員の延べ利用人数を記載している。「学外」欄には、それ以外の利用者の延べ利用人数を記載している。

図書、資料の所蔵数（2021年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類		視聴覚資料 の所蔵数 (点数)	電子書籍の 種類 (タイトル数)	電子ジャーナ ルの種類 (タイトル数)	データベー スの契約数	備考
	図書の冊数 (冊)	開架図書の 冊数 (内数)	国内書	外国書					
新潟医療福祉 大学図書館	131,610	85,335	1,192	267	2,879	9,206	8,648	12	

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
図書館棟 (A棟)	1階	A101	アクティブラーニングスペース	370.63	1	370.63
		A102	グループ学習室A	30.42	1	30.42
		A103	閉架書庫	72.21	1	72.21
		A104	事務室	34.80	1	34.80
		A105	倉庫	26.54	1	26.54
			機械室	10.21	1	10.21
		A107	ウェルカフェ ロビー等	22.05	1	22.05
			小計		7	770.08
	2階	A201	リサーチスペース	468.44	1	468.44
		A202	グループ学習室B	17.11	1	17.11
		A203	グループ学習室C	17.54	1	17.54
			機械室	10.21	1	10.21
			廊下等			115.72
			小計		4	629.02
	3階	A301	学習スペース	399.89	1	399.89
		A302	Qスタディールーム	61.56	1	61.56
			機械室	22.95	1	22.95
			機械室	10.21	1	10.21
			ホール・廊下等			190.11
			小計		4	684.72
	合計				15	2083.82
管理棟 (B棟)	1階	B101	ミーティングルーム	36.25	1	36.25
		B102a	第一応接室	13.26	1	13.26
		B102b	第二応接室	12.80	1	12.80
		B103	事務室	146.45	1	146.45
		B104	事務室	36.25	1	36.25
			更衣室	12.50	2	25.00
			給湯室	8.75	1	8.75
			コピー室	16.63	1	16.63
			サーバー室	17.50	1	17.50
			機械室	16.67	1	16.67
		B110	資料室1	62.25	1	62.25
		B111	資料室2	25.38	1	25.38
		B112	防災センター	48.58	1	48.58
			廊下等			275.35
			小計		14	741.12
	2階	B201	法人事務局	47.13	1	47.13
		B202	第三応接室	25.38	1	25.38
		B203	秘書室	18.13	1	18.13
		B204	学長室	52.20	1	52.20
			資料室	13.05	1	13.05
		B205	理事長室	25.38	1	25.38
		B206	第三会議室	36.25	1	36.25
		B207	事務室	36.25	1	36.25
		B208	第一会議室	72.50	1	72.50
		B209	第二会議室	40.60	1	40.60
		B210	人事課	31.90	1	31.90
			給湯室	7.51	1	7.51
			廊下等			188.72
			小計		12	595.00
	3階		PH			38.78
			小計			38.78
	物置			12.25	1	12.25
	合計				26	1387.15

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第1機械室	1階		機械室			124.20
	2階		機械室			124.20
			合計			248.40
第2機械室	1階		機械室			108.00
			合計			108.00
厚生棟 (C棟)	1階	C101 C103	食堂			453.60
			厨房他			241.52
			小計			695.12
	2階	C201	学生サロン・売店他			329.37
			小計			329.37
			合計			1024.49
講義棟 (D棟)	1階	D101 D102 D103 D104 D105 D106 D107 D108	医務室・健康管理センター	72.50	1	72.50
			学生ホール	138.44	1	138.44
			教職支援センター	72.50	1	72.50
			就職センター	168.87	1	168.87
			応接室1	15.82	1	15.82
			応接室2	15.82	1	15.82
			講師控室	31.18	1	31.18
			学務課 廊下等	72.50	1	72.50
			小計		8	754.20
	2階	D201-7 D204 D205 D206	講義室	72.50	4	290.00
			講義室	168.87	1	168.87
			講義室	52.93	1	52.93
			モニター相談室	19.57	1	19.57
			倉庫	7.60	1	7.60
			廊下等			205.92
			小計		8	744.89
	3階	D301-5 D304 D306	講義室	72.50	4	290.00
			講義室	168.87	1	168.87
			臨床栄養学実習室	72.50	1	72.50
			倉庫	7.60	1	7.60
			廊下等			205.92
			小計		7	744.89
	4階	D402 D401	講義室	145.00	1	145.00
			演習・講義室	145.00	1	145.00
			倉庫	7.60	1	7.60
			廊下等			205.91
			小計		3	503.51
			合計		26	2747.49

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
研究棟 2 (E 棟)	1 階	E105	ゼミ室	50.00	1	50.00
		E103, 4, 8, 9	ゼミ室	37.50	4	150.00
		E106a, b	研究室	25.00	2	50.00
		E107	大学院生室	37.50	1	37.50
		E101, 2, 11, 12, 13	研究室	25.00	5	125.00
		E110	合同研究室	37.50	1	37.50
		E115	コピー室	6.30	1	6.30
			給湯室	3.71	1	3.71
			廊下等			208.18
			小計		16	668.19
	2 階	E202-6	研究室	25.00	12	300.00
		E209, 10, 12-16	研究室	21.25	4	85.00
		E201a, b	前室	7.50	2	15.00
		E208a, b	合同研究室	21.25	1	21.25
		E217	合同研究室	50.00	2	100.00
		E207, 218	会議室	50.00	1	50.00
		E211	コピー室	7.72	1	7.72
		E220	給湯室	3.71	1	3.71
			機械室	11.97	1	11.97
			廊下等			187.30
			小計		25	781.95
	3 階	E301	研究室	25.00	15	375.00
			合同研究室	42.50	1	42.50
			前室	7.50	1	7.50
		E307	大学院生室	25.00	1	25.00
		E319	合同研究室	50.00	1	50.00
		E312	会議室	50.00	1	50.00
		E320	倉庫	26.60	1	26.60
		E321	編集室	14.36	1	14.36
		E322	コピー室	7.78	1	7.78
			給湯室	3.71	1	3.71
			廊下等			183.25
			小計		24	785.70
	4 階		PH			52.66
			小計			52.66
			合計		65	2288.50

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
研究棟 1 (F 棟)	1 階	F104 F108 F109 F111	研究室	25.00	6	150.00
			官能検査室	25.00	1	25.00
			合同研究室	50.00	1	50.00
			大学院生室	25.00	1	25.00
			コピー室	9.45	1	9.45
			給湯室	4.15	1	4.15
			廊下等			159.60
			小計		11	423.20
	2 階	F201-7 F202a, b	研究室	25.00	6	150.00
			研究室	21.25	2	42.50
			前室	7.50	1	7.50
		F208 F209	合同研究室	50.00	1	50.00
			会議室	50.00	1	50.00
			コピー室	6.75	1	6.75
			給湯室	4.15	1	4.15
			廊下等			137.30
			小計		13	448.20
	3 階	F301-10 F302ab	研究室	25.00	8	200.00
			研究室	21.25	2	42.50
			前室	7.50	1	7.50
		F308	合同研究室	50.00	1	50.00
			コピー室	6.75	1	6.75
			給湯室	4.15	1	4.15
			廊下等			137.30
			小計		14	448.20
	4 階		PH			51.60
			小計			51.60
			合計		38	1371.20

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
実験実習棟 (G棟)	1 階	G101	神経生理実験室	150.00	1	150.00
		G102a	動作分析室	150.00	1	150.00
		G102b	動作分析準備室	50.00	1	50.00
		G103	運動学実習室	150.00	1	150.00
		G104a	スポーツ医科学実験室	115.00	1	115.00
		G104b	準備室	10.50	1	10.50
		G104c	運動機能評価室	24.50	1	24.50
		G105	遺伝子解析・分子生物学実験室	45.00	1	45.00
		G106	疼痛機構解析室	55.00	1	55.00
		G107a	神経・筋・骨組織解析室	125.00	1	125.00
		G107b	組織解析準備室	11.35	1	11.35
		G107c	暗室	13.65	1	13.65
			ホール・廊下等			425.00
			小計		12	1325.00
	2 階	G210	作業療法実習室	100.00	1	100.00
		G202-3	作業療法実習室	150.00	2	300.00
		G204	作業療法実習準備室	25.00	1	25.00
		G209	作業療法評価室	100.00	1	100.00
		G201	心身機能解析室	50.00	1	50.00
		G208	ADL実習室	200.00	1	200.00
		G205a	運動生理実験室	62.50	1	62.50
		G205b	手・脳機能解析室	62.50	1	62.50
		G206	女子更衣室	65.00	1	65.00
		G207	男子更衣室	28.00	1	28.00
			廊下等			354.25
			小計		11	1347.25
	3 階	G302a-c	研究室	25.00	3	75.00
		G301	健康栄養学研究室	75.00	1	75.00
		G303- 4	精密機器室	50.00	2	100.00
		G315	理化学・微生物実験室	125.00	1	125.00
		G310	調理学研究室	25.00	1	25.00
		G305	食品加工実習室	100.00	1	100.00
		G312	栄養教育研究室	25.00	1	25.00
		G311	栄養教育実習室	75.00	1	75.00
		G313	食品学研究室	25.00	1	25.00
		G309	調理実習室	100.00	1	100.00
		G314	食品衛生学研究室	25.00	1	25.00
		G306	実習食堂	76.80	1	76.80
		G307	給食経営管理実習室	64.00	1	64.00
			洗浄室	25.20	1	25.20
			下処理室	27.00	1	27.00
			準備室	5.75	1	5.75
			更衣室	10.25	1	10.25
			検収室	6.50	1	6.50
			食品庫	9.50	1	9.50
		G308	学生自習室	25.00	1	25.00
			廊下等			347.25
			小計		23	1347.25
	4 階	G410	多目的ルーム	250.00	1	250.00
		G411a	多目的ルーム準備室	22.70	1	22.70
		G411b	解剖学資料室	27.30	1	27.30
		G408	聴覚実習室	25.00	1	25.00
		G407	言語療法室	100.00	1	100.00
		G409	防音室	25.00	1	25.00
			言語実習室	25.00	6	150.00
			共同実験室	33.33	2	66.66
		G402	動物室（作業室等含む）	33.34	1	33.34
		G401	動物室（作業室等含む）	50.00	1	50.00
		G412	音声・音響学実習室	100.00	1	100.00
		G413	音声・音響学準備室	25.00	1	25.00
		G414	言語聴覚演習室	75.00	1	75.00
		G417	言語療法室	100.00	1	100.00
			廊下等			347.25
			小計		20	1397.25
	5 階		PH			55.50
			小計			55.50
			合計		66	5472.25

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
第2実験実習棟 (GA棟)	1階	GA101	大講義室	342.82	1	342.82
			倉庫	5.55	1	5.55
			ホワイエ他			141.42
			小計		2	489.79
	2階	GA203 GA201 GA202	運動療法実習室	318.75	1	318.75
			合同研究室	23.35	1	23.35
			生理機能検査室	23.35	1	23.35
			倉庫1	3.96	1	3.96
			倉庫2	10.75	1	10.75
			ホール・廊下他			117.41
			小計		5	497.57
	3階	GA303 GA304 GA301 GA302	第二運動療法実習室	245.10	1	245.10
			第二運動療法実習準備室	70.85	1	70.85
			研究室	23.35	1	23.35
			身体計測実習室	23.35	1	23.35
			倉庫1	3.96	1	3.96
			倉庫2	16.17	1	16.17
			ホール・廊下他			114.79
			小計		6	497.57
	4階	GA403 GA404 GA405 GA401, 2	解剖学実習室	285.00	1	285.00
			解剖学実習室準備室 1	52.10	1	52.10
			標本室	18.75	1	18.75
			研究室	23.35	2	46.70
			倉庫	3.96	1	3.96
			ホール・廊下他			91.06
			小計		6	497.57
	合計				19	1982.50
体育館棟 (H棟)	1階		アリーナ他			1436.88
			小計			1436.88
	2階		トレーニング他			208.95
			小計			208.95
			用具庫他			63.60
	合計					1709.43
第2厚生棟 (I棟)	1階	I101 I201～	部室他			561.30
			小計			561.30
	2階	I203～	軽食堂他			538.19
			小計			538.19
	合計					1099.49

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第3 厚生棟 (IA棟)	1 階	IA101	食堂	548.00	1	548.00
			厨房他			305.56
			小計		1	853.56
	2 階	IA201	学生サロン	710.00	1	710.00
			ホール等			149.26
			小計		1	859.26
	3 階	IA301, 2	講義室	270.00	2	540.00
			ホール・廊下等			302.76
			小計		2	842.76
	4 階	IA401, 2	講義室	270.00	2	540.00
			ホール・廊下等			235.80
			小計		2	775.80
	5 階	IA515 IA514 IA513 IA512 IA516	医療情報システム実習室	192.00	1	192.00
			印刷室	7.00	1	7.00
			接遇実習室	23.40	1	23.40
			会議室	43.20	1	43.20
			合同研究室	23.40	1	23.40
			総合演習室	66.60	1	66.60
			研究室	15.12	7	105.84
			研究室	16.38	3	49.14
			研究室	15.15	1	15.15
			研究室	17.11	1	17.11
			更衣室 1	23.40	3	70.20
			更衣室 2	15.20	2	30.40
			トイレ・廊下等			132.36
			小計		23	775.80
			合計		29	4107.18

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第3研究・体育棟 (J棟)	1階	J102 J101	第2体育館			540.00
			用具庫			90.00
			プール			969.40
			機械室	75.00	1	75.00
			器具庫	22.50	2	45.00
			会議室	40.00	1	40.00
			事務救護室	30.00	1	30.00
			更衣・シャワー室	60.00	2	120.00
			ホール・廊下等			151.80
			小計		7	2061.20
	2階	J201	運動生化学実習室	92.92	1	92.92
		J203	生体機能実習室	11.28	1	11.28
		J204	生体評価実習室	64.49	1	64.49
			ギャラリー他			156.31
			小計		3	220.80
	3階	J301	ゼミ室	19.27	1	19.27
		J302	カウンセリング室	19.27	1	19.27
		J304	認知心理学実習室	27.59	1	27.59
		J305	環境整理・運動生理実習室	91.44	1	91.44
			廊下等			90.18
			小計		4	247.75
	4階	J407 J404	研究室	20.00	1	20.00
			研究室	20.25	2	40.50
			研究室	19.27	2	38.53
			大学院生室	29.72	1	29.72
			大学院生室	20.00	1	20.00
			印刷室	10.29	1	10.29
			廊下等			88.71
			小計		8	247.75
	5階		研究室	20.00	4	80.01
			研究室	20.25	2	40.50
			研究室	19.27	2	38.53
			廊下等			88.71
			小計		8	247.75
	6階	J605	研究室	20.00	4	80.01
			研究室	19.27	2	38.53
			合同研究室	51.44	1	51.44
			廊下等			77.77
			小計		7	247.75
			合計		37	3273.00

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
第4研究・実習棟 (K棟)	1階	K101	家政実習室	110.40	1	110.40
		K102	講義室	83.25	1	83.25
		K103	介護実習室	156.15	1	156.15
		K104	入浴実習室（更衣室等含む）	82.80	1	82.80
			更衣室－W	17.64	1	17.64
			更衣室－M	8.18	1	8.18
			更衣室－W	112.12	1	112.12
		K108, 9	会議室	75.03	1	75.03
			器材室	20.24	1	20.24
			倉庫	26.56	1	26.56
			清掃員控室	27.00	1	27.00
			防災備蓄庫	16.87	1	16.87
			ホール・トイレ・廊下等			291.25
			小計		9	1027.49
	2階	K201	多目的室	145.80	1	145.80
		K202	実習室A	265.46	1	265.46
		K203	実習室A準備室	36.16	1	36.16
		K204	実習室B	142.50	1	142.50
		K205	実習室B準備室	20.08	1	20.08
			更衣室（M）	27.09	1	27.09
		K206	メディカルシミュレーション教育センター	178.99	1	178.99
		K207, 208	ゼミ室	20.73	2	41.46
			合同研究室	39.54	1	39.54
		K209	ゼミ室	14.06	1	14.06
		K210	ゼミ室	14.06	1	14.06
			ホール・トイレ・廊下等			226.05
			小計		6	1137.19
	3階	K301	看護学演習室	74.55	1	74.55
		K302	実習室C	349.59	1	349.59
		K303	実習室D	44.37	1	44.37
			器材室	17.64	1	17.64
			洗濯乾燥室	13.34	1	13.34
		K304	実習室E	159.72	1	159.72
		K305	講義室	168.75	1	168.75
		K306, 307	ゼミ室	20.73	2	41.46
			合同研究室	45.00	1	45.00
		K308	ゼミ室	14.06	1	14.06
		K309	ゼミ室	14.06	1	14.06
			ホール・トイレ・廊下等			208.71
			小計		11	1137.19
	4階		研究室	21.56	3	64.68
			研究室	20.13	10	201.30
		K408	合同研究室	49.59	1	49.59
		K409	合同研究室	39.86	1	39.86
		K419	合同研究室	38.90	1	38.90
		K418	ゼミ室	24.68	1	24.68
		K417	大学院生室	26.51	1	26.51
			書庫コピー室	26.53	1	26.53
			ホール・廊下等			198.07
			小計		19	670.12
	5階		研究室	21.56	3	64.68
			研究室	20.13	6	120.78
			研究室	21.52	1	21.52
			コピー室	6.52	1	6.52
			ホール・廊下等			111.62
			小計		11	325.12
			合計		56	4297.11

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第5研究棟 (L棟)	1階	L103	適合実習室1	196.98	1	196.98
		L105	適合実習室2	143.23	1	143.23
		L102	集塵機械室	42.89	1	42.89
			適合評価室	14.92	2	29.84
		L101	モデル・講師控室	38.95	1	38.95
		L108	運動機能医科学研究所	85.26	1	85.26
			電気室	49.94	1	49.94
			ホール・廊下等			176.16
			小計		8	763.25
	2階	L204	製作室	206.97	1	206.97
		L208	機械室1 (成型室)	206.97	1	206.97
		L203	機械室2 (切削室)	161.25	1	161.25
		L206	機械室3 (ミシン室)	77.43	1	77.43
		L201	石膏モデル修正室	130.31	1	130.31
			材料・工具庫1.2	45.26	2	90.52
			ホール・廊下等			196.16
			小計		7	1069.61
	3階		研究室	22.02	2	44.04
			研究室	21.35	6	128.10
		L314, 5	大学院生室	21.12	2	42.24
		L305	合同研究室	49.43	1	49.43
		L311	ゼミ室	52.78	1	52.78
		L312	講義室	172.44	1	172.44
		L313	講義室	172.44	1	172.44
			ホール・廊下等			408.14
			小計		14	1069.61
	物置					14.96
	合計				29	2917.43
第3体育館 (M棟)	1階	M101	アリーナ			1297.93
		M103	用具庫			49.20
		M102	事務救護室			11.11
			更衣室M			17.60
			更衣室W			17.25
			トイレ等			261.02
			小計			1654.11
	2階	M201	トレーニングセンター			370.00
		M204	ランニングコース			515.71
			トイレ等			90.69
			小計			976.40
	合計					2630.51
第3体育館玄関	2階		玄関	13.30	1	13.30
			小計		1	13.30
	合計				1	13.30
	合計					2643.81

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第6 研究・実習棟 (N棟)	1 階	N101	学生ラウンジ	248.13	1	248.13
			多目的室	75.00	1	75.00
			更衣室 (男)	30.70	1	30.70
			更衣室 (女)	41.92	1	41.92
			ホール・廊下等			139.07
			小計		4	534.82
	2 階	N201 N202	講義室	311.60	1	311.60
			合同研究室	66.38	1	66.38
			ホール・廊下等			134.67
			小計		2	512.65
	3 階	N301 N302 N303 N304 N305	基礎工学実習室	139.93	1	139.93
			臨床工学実習室	149.06	1	149.06
			研究室	16.34	1	16.34
			実習準備室 1	42.88	1	42.88
			実習準備室 2	8.57	1	8.57
			機材室	8.40	1	8.40
			ホール・廊下等			147.47
			小計		6	512.65
	4 階	N401 N402 N403 N405 N404	微生物実験室	125.82	1	125.82
			洗浄室	32.78	1	32.78
			前室	17.96	1	17.96
			化学実験室	125.95	1	125.95
			実習準備室	24.83	1	24.83
			ロッカー室	36.17	1	36.17
			研究室	22.32	1	22.32
			倉庫	4.82	1	4.82
			ホール・廊下等			122.00
			小計		8	512.65
	5 階	N511 N510 N509	顕微鏡室	116.55	1	116.55
			病理処理室	28.18	1	28.18
			資材室	13.94	1	13.94
			研究室 1、6	15.90	2	31.80
			研究室 2、7	15.00	2	30.00
			研究室 3	16.72	1	16.72
			研究室 4	16.28	1	16.28
			研究室 5	18.54	1	18.54
			研究室 8	19.60	1	19.60
			大学院生室	26.30	1	26.30
			印刷室	13.32	1	13.32
			ホール・廊下等			181.42
			小計		13	512.65
			合計		33	2585.42

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
第7研究・実習棟 (○棟)	1階	○101 ○102	第2トレーニングセンター	459.90	1	459.90
			事務救護室	13.28	1	13.28
			ロッカー室	46.80	1	46.80
			更衣室W・シャワー室	34.10	1	34.10
			更衣室M・シャワー室	34.10	1	34.10
			ホール・廊下等			222.57
		小計		5	810.75	
	2階	○201 ○202 ○203 ○204	事務救護室	17.80	1	17.80
			用具室	17.80	1	17.80
			多目的体操場	300.58	1	300.58
			運動栄養実習室	110.53	1	110.53
			ホール・廊下等			140.52
		小計		4	587.23	
	3階	○301 ○302 ○303	講義室	67.28	1	67.28
			講義室	67.28	1	67.28
			リコンディショニング室	228.00	1	228.00
			ホール・廊下等			222.84
		小計		3	585.40	
	4階	○412	研究室1, 7	22.13	2	44.26
			研究室2～6, 8～11, 13～14	20.12	11	221.32
			印刷室	20.12	1	20.12
			合同研究室	80.50	1	80.50
			ホール・廊下等			172.38
		小計		15	538.58	
	5階	○516	研究室1, 7	22.13	2	44.26
研究室2～6, 8～15			20.12	13	261.56	
印刷室			20.12	1	20.12	
合同研究室			40.25	1	40.25	
ホール・廊下等					172.40	
小計			17	538.59		
合計					44	3060.55

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 ㎡	室数 室	面積 ㎡
第8研究・実習棟 (P棟)	1階	P101	会議室	47.60	1	47.60
		P102	ゼミ室	23.80	1	23.80
		P103	ゼミ室	23.80	1	23.80
		P104	中講義室	168.00	1	168.00
		P105	中講義室	168.00	1	168.00
		P106	小講義室	84.00	1	84.00
		P107	小講義室	84.00	1	84.00
			ホール・廊下等			343.10
			小計		7	942.30
	2階		更衣室	34.40	1	34.40
		P201	合同研究室	42.00	1	42.00
		P202	実習準備室	18.00	1	18.00
		P203	視機能科学実習室	414.00	1	414.00
		P204	眼科ワークステーション	63.00	1	63.00
		P205	眼底カメラ検査室	81.00	1	81.00
		P206	視能検査室	81.00	1	81.00
		P207	電気生理検査室	34.40	1	34.40
			ホール・廊下等			174.50
			小計		8	942.30
	3階	P317	視機能演習室	40.80	1	40.80
			研究室 (P301～314, 316)	24.56	15	368.40
			視覚光学実験室	24.56	1	24.56
			印刷室	15.20	1	15.20
			ホール・廊下等			172.96
			小計		18	621.92
				合計	33	2506.52

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第2講義棟 (Q棟)	1階	Q101	講義室	228.21	1	228.21
		Q102	講義室	228.21	1	228.21
		Q103	講義室	220.84	1	220.84
		Q104	講義室	101.07	1	101.07
		Q105	講義室	100.65	1	100.65
		Q106	講義室	78.26	1	78.26
		Q107	講義室	77.06	1	77.06
		Q108	講義室	78.78	1	78.78
			ホール・廊下・トイレ・階段等	560.38		560.38
			小計		8	1673.46
	2階	Q201	講義室	399.47	1	399.47
		Q202	講義室	220.84	1	220.84
		Q203	講義室	339.47	1	339.47
			ホール・廊下・トイレ・階段等	827.26		827.26
			小計		3	1787.04
	3階	Q301	研究室	25.69	11	282.57
			研究室	26.89	2	53.77
			研究室	27.40	2	54.80
		Q304	合同研究室	51.38	1	51.38
		Q318	多目的室	40.69	1	40.69
		Q319	大学院生室	38.94	1	38.94
		Q320	ゼミ室	38.94	1	38.94
		Q321	生理学実習室	293.47	1	293.47
		Q322	シールドルーム	46.50	1	46.50
		Q323	生理学実習準備室1	24.22	1	24.22
		Q324	生理学実習準備室2	24.22	1	24.22
		Q325	動物飼育処理室	11.38	1	11.38
		Q326	生理学実習準備室3	13.81	1	13.81
		Q327	倉庫	20.15	1	20.15
			ホール・廊下・階段等	333.63		333.63
			小計		26	1328.46
			合計		37	4788.96
第4体育館 (R棟)	1階	R101	アリーナ	1232.44	1	1232.44
		R102	事務救護室	12.87	1	12.87
		R103	用具庫	141.29	1	141.29
			ホール・廊下・トイレ・階段等	128.34		128.34
			小計		3	1514.94
	2階		更衣室・トイレ・シャワー室(男)	34.77	1	34.77
			更衣室・トイレ・シャワー室(女)	34.95	1	34.95
			渡り廊下	78.84		78.84
			ホール・廊下・階段等	143.01		143.01
			小計		2	291.57
			合計		5	1806.51
基幹機械室	1階		受水槽室・階段	200.58	1	200.58
			小計		1	200.58
	2階		電気室・階段	162.36	1	162.36
			小計		1	162.36
			合計		2	362.94
第4機械室	1階		電気室	84.39	1	84.39
			小計		1	84.39
			合計		1	84.39

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第9研究・実習棟 (S棟)	1階	S101	多目的実習室	491.38	1	491.38
		S102	資機材庫	234.21	1	234.21
		S103	多目的実習準備室－1	18.29	1	18.29
		S104	多目的実習準備室－2	18.29	1	18.29
		S105	更衣室 (M)	53.16	1	53.16
		S106	更衣室 (W)	18.61	1	18.61
			冷凍冷蔵庫室	33.63	1	33.63
			職員用更衣室	5.91	1	5.91
			ホール・トイレ・廊下等			209.83
			小計		8	1083.31
	2階	S201	食堂	905.55	1	905.55
		S202	厨房	181.52	1	181.52
			職員事務室兼休憩室	17.33	1	17.33
			配電盤室	8.89	1	8.89
			ホール・トイレ・廊下等			161.89
			小計		4	1275.18
	3階	S301	救急現場実習室	393.22	1	393.22
		S302	ゼミ室	27.78	1	27.78
		S303・304	多目的室	49.11	1	49.11
		S305・306	合同研究室	44.78	1	44.78
		S307/316	研究室 (S307～S316)	27.23	2	54.46
		S308～315	研究室 (S307～S317)	25.10	7	175.70
		S309	大学院生室	25.10	1	25.10
			印刷室	15.69	1	15.69
			ホール・トイレ・廊下等			195.91
			小計		15	981.75
				合計	27	3340.24

建物名称	階	室番号	室名	1室の面積 m ²	室数 室	面積 m ²
第10研究・実習棟増築 (T棟)	1 階	T101	読影室	75.07	1	75.07
		T102	MRI室	60.18	1	60.18
		T103	CT室	41.87	1	41.87
		T104	X線TV室	40.20	1	40.20
		T105	一般撮影X線室－1	39.36	1	39.36
		T106	一般撮影X線室－2	39.36	1	39.36
		T107	一般撮影X線室－3（マンモ）	42.04	1	42.04
		T108	超音波撮影室	40.20	1	40.20
			操作室	236.69	1	236.69
			更衣室－M	66.02	1	66.02
			更衣室－W	90.03	1	90.03
			ホール・トイレ・廊下等			166.73
			小計		11	937.75
	2 階	T201	講義室－1	220.95	1	220.95
		T202	講義室－2	216.00	1	216.00
		T203	講義室－3	89.77	1	89.77
			ホール・トイレ・廊下等			411.03
			小計		3	937.75
	3 階	T301	基礎医学実習室	239.36	1	239.36
		T302	理工学実習室	204.75	1	204.75
		T303	医療画像情報学実習室	174.84	1	174.84
		T304	診療放射線学演習室	87.92	1	87.92
			ホール・トイレ・廊下等			230.88
			小計		4	937.75
	4 階	T409	多目的室	49.84	1	49.84
			研究室	25.00	15	375.00
			研究室	26.71	2	53.42
			研究室	24.84	1	24.84
		T410	合同研究室	45.51	1	45.51
		T421, 22	医療画像情報学演習室	22.00	2	44.00
		T423	放射線治療演習室	22.00	1	22.00
		T424	核医学演習室	22.00	1	22.00
			印刷室	22.00	1	22.00
			ホール・トイレ・廊下等			279.14
			小計		25	937.75
			合計		43	3751.00
			合計		43	3751.00



第12章

今後の展望

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

I. 理 念：優れたQOLサポーターの育成

II. 将来計画（全体像）

長期目標（2021～2030年度、10年間）				
保健・医療・福祉・スポーツ・教育領域を核とし、既存の学術領域の融合や変革、新たな学術領域の創成により、「優れたQOLサポーター」を育成する、在学生8,000名の総合大学を目指す				
責任者：学長				
中期目標（2021～2025年度、5年）			中期計画（2021～2025年度、5年）	
1	ガバナンス	アジアの保健・医療・福祉・スポーツ系総合大学の地位を確立するため、教職員のエンゲージメントを高め、戦略的な大学運営を行う	1	教学組織を改組し、副学長等の役割を明確にする
			2	IR機能を強化し、データ分析に基づく内部質保証システムを構築する
			3	「QOLサポートコンソーシアム」を組織化し、本学に関わる全ての人のQOLを高める体制を構築する
			4	学生と教職員の健康管理およびメンタルヘルスの支援体制を整備する
			5	「私立大学等改革総合支援事業（教育、研究、地域連携）」の選定を目指す
			6	SDGsの達成に寄与する。（「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「住み続けられるまちづくりを」「パートナーシップで目標を達成しよう」）
			7	DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、戦略的な大学運営を行う
2	教育	DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、「優れたQOLサポーター」を育成するための教育基盤の確立と学生支援体制を強化するとともに、DPの達成度評価による「教育の質保証」を強化する	1	全学科で国家試験・資格試験合格率と就職率100%を実現する
			2	全学科で中途退学抑止に関する目標を達成し、卒業率を向上させる
			3	DXによる教育・学修支援を推進する
			4	メディア授業、データサイエンス、語学教育、連携教育など、時代に則した教育課程ならびに教授法の充実を図るとともに体制を整備する
			5	ディプロマポリシー到達度を可視化し、教育の質保証を強化する
3	研究	保健・医療・福祉・スポーツ領域を核とした独自の共同研究拠点を形成するとともに、大学院の機能を強化し、高等教育研究機関としてのブランドを確立する	1	大学院の特色を明確にし、大学院機能を強化するとともに、国内外へのブランディングを促進する
			2	DXを推進するとともに、特色のある研究拠点化や大学コアファシリティの構築、私立大学等改革総合支援事業（特色ある高度な研究の展開）の選定を目指す
			3	リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究を推進する
4	社会連携	社会の公共財として教育研究資源を活かした社会連携を推進し、地域の保健・医療・福祉・スポーツ分野の持続的な発展に貢献する	1	総合大学としての教育研究資源を活かし、地域社会および地方自治体との連携をより強化し、地方創生を推進する
			2	同窓会ネットワークを構築し、卒業生の相互連携及び研修機能や情報提供機能の充実を図る
5	国際交流	アジア地域との保健・医療・福祉・スポーツにおける国際交流活動を活性化し、質の高い国際交流ネットワークを構築する	1	大学院留学生の受け入れを増やし、国際的な人材育成と情報発信を強化し、学園都市全体のグローバル化に貢献する（JICA連携含む）
			2	既存の協定校との連携を強めるとともに新規協定校の拡充を図る
6	スポーツ	アスレティックデパートメント機能の整備を進め、大学スポーツにおける先進的モデルを構築し、オリンピッククラスの選手を輩出するとともに、スポーツを通じて地域の健康増進に貢献する	1	アスレティックデパートメント推進機構によるクラブ活動・学生支援を推進する
			2	研究センターとの連携による科学的な選手強化を推進する
			3	NSGグループ、アルビレックスとの連携による選手強化、サポート体制を推進する
			4	地域におけるスポーツ活動支援により、地域社会の健康増進に貢献する



資 料

Niigata University of Health and Welfare *20*th Anniversary

資料目次

大学名・所在地等（2021年度）	296
学長マニフェスト	297
学科の定員数・志願者数・受験者数・合格者数・入学者数の推移	302
研究科の定員数・入学者数の推移	304
教員組織・教員数の推移（若手、女性教員比率含む）	305
2021年度教員組織（学部）	307
2021年度教員組織（研究科）	310
2001年度～2020年度までの退職者一覧	312
名誉学長・副学長・教授一覧	315
外部評価の実施概要	316
就職の状況（過去3年間）	316
外部資金獲得課題一覧	317
「将来計画の策定」「自己点検評価」「外部認証評価」の推移と今後の予定（一覧表）	349
年度別大学管理職者（学長・副学長・学部長・学科長）	350
年度別大学院管理職者（研究科長・専攻長・分野長）	352
歴代後援会長	354
大学職員一覧	355

大学名・所在地等（2021年度）

大学名	新潟医療福祉大学
キャンパスの所在地	〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

理事長名	池田 弘			
学長名	西澤 正豊			
副学長名	国際交流担当 強化スポーツ担当	渡辺 敏彦	社会連携担当 同窓会・生涯学習 推進担当	丸田 秋男
	教育担当	大山 峰生	研究・産官学連携担当	大西 秀明
学部長名	リハビリテーション学部長	大西 秀明	医療技術学部長	笠原 敏文
	健康科学部長	西原 康行	看護学部長	塚本 康子
	社会福祉学部長	丸田 秋男	医療経営管理学部長	福島 正巳
研究科長名	医療福祉学研究科長	佐藤 大輔		
大学 事務局長名	小野 哲之			

学長マニフェスト

学長挨拶（山本正治）

1. 18歳人口の減少及び県外流出率の高い新潟県において、多くの私立大学は、志願者数や定員充足率の減少に悲鳴を上げています。幸い本学は、飛躍的な発展をして来ました。皆様のご理解とご支援の賜物と心から感謝しております。
2. これからも学長として本学の生き残りを懸けて頑張る所存です。その具体的行動目標が“学長マニフェスト”です。
3. 生き残るための秘訣は、“人は城、人は石垣”にあると思います。現代の言葉に置き換えると“Quality of Working Life (QWL)”ではないかと思っています。

将来目標の再確認と学長マニフェスト（2012－2013）

1. 将来目標の再確認
 - 1) 長期目標（2010～2020）地域社会のニーズに応えるため、質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5,000名の大学とする。
 - 2) 中期目標（2010～2013）
 - ・ 質保証のための組織作りと施設整備
 - ・ 5つのSTEPS
(Science, Teamwork, Empowerment, Problem-solving & Self-realization)
 - ・ 行動目標 “めんどうみのよい大学”
2. 学長マニフェスト
 - ・ 3つの約束（2010－2011）を継続

学長マニフェスト（2012－2013）（2012,4,20 調整会議確認、その後一部修正）

1. 一人一人がQOLを実感できる大学作りを行います。
 - 1) ムリムダムの解消（大学院〇合審査等）
 - 2) 研究日の活用（研修、診療、ボランティア活動等）
 - 3) 諸活動支援（地域包括連携、国際共同研究等）
2. 基本に戻った教学組織作りを行います。
 - 1) 授業スキル重視の採用と昇任（ミニレクチャー）
 - 2) 外部評価を受け、次期中期計画の策定（全員参加）
 - 3) 大学院整備とアジアの拠点形成（特にAT学科）
3. 面倒見の良い大学を目指した教学組織作りを行います。
 - 1) 国家試験・資格試験＋就職対策（特にHI学科）
 - 2) 休学、退学の防止対策（早期発見、早期対策）
 - 3) リカレント入学制度（社会人入学、3年次編入）

まとめ

1. QOLの実感＝QWL（Quality of Working Life、働き甲斐）⇒ 大学人としてQWL実感なくしてQOLサポーターの育成は難しい。
2. 基本に戻った教学組織 ⇒ Education comes first.をモットーにするが、外部評価は教育に加えて、各人の研究、地域貢献、国際交流活動による“総合力”で受けたい。
3. 面倒見の良い大学 ⇒ 退学防止、資格取得対策、就職活動に関して、学長は率先して学生及び教職員の支援を行いたい。

学長マニフェスト（2014～2015）

学長挨拶（山本正治）

1. 学長として5年間、将来計画と“学長マニフェスト”を掲げ頑張ってきました。2010～2013年の第一期中期目標・計画は、外部認証評価で極めて高い評価を受けました。
2. 2014～2017年の第二期中期目標・計画では、これから日本が遭遇する内憂外患（後述）を意識して将来計画を策定しました。現在その2年目を迎えました。
3. 将来計画を実践するに当たり、学長が果たすべき責務を“学長マニフェスト”にまとめました。

内憂外患と本学の対応策

1. 人口減少：人口（2010年約1億2800万人）は2060年に4,000万人減少、65歳以上が40%と予想。18歳人口減少で、大学は“2018年問題”⇒受験生（保護者）の信頼を勝ち取る。
2. 格差社会：経済不況と非正規雇用増加による格差拡大⇒優秀学生に対する学費支援制度、入学生には専門職業人として生き抜く力を与える教育を行わねばならない。
3. グローバル化：企業のグローバル化で働く日本人の優越性消える。イミгранトが増加し外国人と競争する職場となる。
⇒連携教育、グローバル化を視野に入れた教育が重要となる。
⇒内憂外患を意識し、今から全教職員一丸となって生き残り策を講ずる事が重要です。その為の将来計画、マニフェストです。

将来目標（参考）

1. 長期目標（2010～2020）
超高齢社会及びグローバル社会のニーズに応えるため質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5,000名の大学とする。
2. 中期目標（2014～2017）
グローバル化に向けた教学組織を構築する。またQOLサポーターの質保証として5つの要件を継続し推進する。
（注：「5つの要件と各ドメインの役割（図）」は省略するが、学生を中心とする考え方は不変。Education comes first.）
3. 中期計画（2014～2017）
①めんどみ（めんどみ）のよい大学をさらに可視化する、②客観的評価による「就職率日本一」を実現する、③超高齢社会及びグローバル社会のニーズに対応できる基盤整備を行う、④世界標準に対応できる授業及び実習方式の検討を開始する。
（注：本学の目的は「優れたQOLサポーターの育成」である。建学の精神、理念、ミッションはいずれも目的と同義）

“3つの約束”

1. Quality of Working Life（QWL）を実感できる大学作り
 - 1) ムリムダムラの解消（講義・実習、論文指導、委員会活動等）
 - 2) 研究日の活用を支援（研究、診療、ボランティア活動等）
 - 3) ベストティーチャー、ベスト論文・発表等のさらなる支援
2. グローバル化に対応できる教学組織作り
 - 1) グローバル化の前段階として、国際化の推進（海外研修等）
 - 2) 教育カリキュラムの世界標準化に向けた準備を開始
 - 3) 大学院整備とアジアの拠点形成（海外院生の受入れ等）
3. めんどみ（めんどみ）のよい大学を目指した教学組織作り
 - 1) 資格試験・就職対策の推進（就職率は教育成果の総合指標）
 - 2) 休学、退学の防止対策の推進（早期発見、早期対策）
 - 3) 学習支援、健康管理センター、学生心理相談室の活動支援

まとめ

1. QWL（Quality of Working Life）：自身のQWL実感なくしてQOLサポーターの育成は不可能との認識から、各自のQWL改善を支援する。

2. グローバル化：教育、研究、地域貢献、国際交流分野で、グローバル化を意識した活動を推進するが、その前段階として国際化に取り組む。
3. めんどうみのよい大学：学生を中心にのいた面倒見の可視化を行う。（学生の「学習権」を尊重）

学長マニフェスト（2016～2017）

学長挨拶（山本正治） ～学部教育を中心にして～

1. 過去（2010～2015）
2010年の学長就任時、長期目標（2010～2020年）、中期目標・計画（4年）、アクションプラン（2年）を策定した。同時に、“学長マニフェスト”を掲げ、自身の行動指針としてきた。この間、教学に関する基盤整備をほぼ完了し、外部認証評価でも極めて高い評価を受けた（2014.3）。
2. 将来を見据えた現在（2016～2017）
これから日本は様々な内憂外患（後述）を抱えることになる。学長として日本の厳しい将来を見据え、本学の更なる発展と生き残りを図りたい。学長マニフェスト（3つの約束）を堅持するが、特に（皆さま方の）働きがい（Quality of Working Life, QWL）を大事にしたい。

日本の将来予測（私的見解）

1. 人口減少及び超高齢化（内憂）
2018年以降18歳人口減少加速、31年には18年に比し20万人減少。総人口は、2050年には3,800万人減少し、65歳以上が45%。疾病構造の変化 ⇒ 「2018年問題」（18歳人口激減の開始年で、大学の統廃合が顕在化）、受験生（保護者）の大学への信頼を得ることが重要、“福袋内容の可視化”、“超ブランド化”等々
2. グローバル化（外患）
日本企業のグローバル化（外国人と競争する職場）、TPP批准で加速化 ⇒ グローバル人材の育成（異文化理解のための教養教育充実、より進化した連携教育、グローバル英語によるコミュニケーション力特にディベート力）、前提として国際化の推進

将来目標

1. 長期目標（2010～2020）
超高齢社会及びグローバル社会のニーズに応える為、質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5,000名の大学とする。
2. 第二期中期目標（2014～2017）→現在第二期後半
グローバル化に向けた教学組織の構築、QOLサポーターの質保証として5つの要件を継続（5つの要件：STEPS）
3. 第二期中期計画の後半→アクションプラン
 - ①めんどうみのよい大学の可視化（“福袋内容の可視化”として3ポリシーの公表義務化へ対応）
 - ②資格試験合格率・就職率日本一の達成
 - ③大學生生き残りの為の“超ブランド化”

注：目的（建学精神、理念）は“優れたQOLサポーターの育成”

“3つの約束”（1）

1. Quality of Working Life（QWL）を実感できる大学作り
 - ①自身のQWL実感なくして「優れたQOLサポーターの育成」は困難との認識から、教職員の生きがい支援を行う。
 - ②教育や委員会活動におけるムリムダムラを発見し、その改善に努める。
 - ③学長の個人的思いから、ベストティーチャー、ベスト論文・ベスト学会発表等の表彰を継続する。
2. グローバル化に対応できる教学組織作り
 - ①グローバル化に向けた組織構築の前段階として、国際化の推進を図る。（改組したセンター・委員会のフォローアップ）
 - ②教育カリキュラムの世界標準化に向けた準備を開始する。（まずは3ポリシー公表義務化に即対応する）
 - ③海外から学生受入れと、アジアの教育・研究拠点の形成を目指す。

“3つの約束”（2）

3. めんどくさい大学を目指した教学組織作り

- ①休学・退学防止の観点から、学習支援センター、健康管理センター、学生心理相談室の活動を支援する。
 - ②国家試験・資格試験の実質100%合格率を目指し、各学科別に具体的支援を行う。
 - ③就職率を本学における教育の総合指標として捉え、入学から卒業までの教育を充実することによって、就職率日本一を目指す。
-

学長マニフェスト（2018～2020）

学長挨拶（山本正治）

1. 新潟医療福祉大学将来計画（2010～2020）

- ・第一期（2010～2013）中期目標・計画＋アクションプラン→第二期（2014～2017）→第三期（2018～2020）

2. 学長マニフェスト：3つの約束

- ・第一期：一人一人がQOLを実感できる大学、基本に戻った教学組織、面倒見の良い大学→第二期：QWL、グローバル化に対応できる組織、面倒見の良い大学→第三期

3. 第三期中期目標・計画、学長マニフェストの特徴

- 1) 立ち位置「地方私大から全国有名私大への転換点」を意識した目標・計画・アクションプランの設計
- 2) 学長マニフェストでは「QWLを実感できる大学作り」を最優先した3つの約束

将来目標（参考）

1. 長期目標（2010～2020）

超高齢社会およびグローバル社会のニーズに応えるため質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5,000名の大学とする。

2. 中期目標（2018～2020）

- 1) 優れたQOLサポーターの質保証として「5つの要件（STEPS）」を掲げ、特に本学の3ポリシーにおいて遵守
- 2) グローバル化に向けた教学組織の構築を開始するが、その前段階として国際化のより一層の推進

3. 中期計画（2018～2020）

- 1) 国家試験・資格試験合格率100%を実現
- 2) 就職率日本一を実現
- 3) 第三の指標として、「THE大学ランキング（世界版、日本版）」に挑戦
- 4) 面倒見の良い大学のさらなる可視化
- 5) 文科省「私立大学研究ブランディング事業」の推進
- 6) 副学長等による“ミドルアップダウンマネジメント”システムの導入
- 7) 11年間の自己点検・評価、外部認証評価、長期目標（2021～2030）策定

3つの約束

1. Quality of Working Life（QWL）を実感できる大学作り

- 1) ムリムダムの解消（講義・実習、論文指導、委員会活動等）
- 2) 研究日の活用を支援（研究、診療、ボランティア活動等）
- 3) ワークライフバランス（多様性尊重、大学人としてUnity in diversity !）

2. グローバル化に対応できる教学組織作り

- 1) グローバル化の前段階として、国際化の推進（教員の海外研修等）
- 2) 超ブランド化を推進（研究ブランディング事業、学科連携ブランディング）
- 3) THE大学ランキング（世界版）への挑戦（姉妹校締結条件）

3. 面倒見の良い大学を目指した教学組織作り

- 1) 資格試験・就職対策の推進（就職率は教育成果の総合指標）
 - 2) 休学、退学の防止対策の推進（早期発見、早期対策）
 - 3) 2018年問題を意識した「面倒見の良い大学」への原点回帰
-

新学長のマニフェスト（西澤正豊）

1. 教職員の自己実現を支援する大学を目指す
 - 1) 教職員のエンゲージメント（自発的な貢献意欲）を高める
 - 2) 教員業績評価を見直し、より公正な評価を実現する
 - 3) 多様性を尊重し、教学組織の創造力を強化する
2. 面倒見のよい大学を目指す
 - 1) 学生のQOLを高めることを目標に、学生教育に徹する
 - 2) メンタルヘルスの支援体制を整備する
 - 3) 同窓会組織を支援し、卒業生と本学の双方向の交流を促進する
3. 持続的に発展する大学を目指す
 - 1) 大学のブランド化と国際交流を推進する
 - 2) 大学全体の研究機能を強化し、独自の研究拠点を形成する
 - 3) 社会の公共財として、積極的に地域社会に貢献する

学科の定員数・志願者数・受験者数・合格者数・入学者数の推移

定員数

(単位：人)

学科	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学療法学科	40	40	40	40	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	120	120	120	120	120	120
作業療法学科	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	50	50	50	50
言語聴覚学科	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
義肢装具自立支援学科	—	—	—	—	—	—	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
臨床技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80	80	80	80	80	80	80	100	100	100	100
視機能科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	50	50	50	50	50	50	50
救急救命学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55	55	55	55	55
診療放射線学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90	90	90	90
健康栄養学科	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
健康スポーツ学科	—	—	—	—	60	60	100	100	100	100	100	100	160	160	200	200	200	200	200	200	250
看護学科	—	—	—	—	—	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	107	107	107	107
社会福祉学科	100	100	100	100	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
医療情報管理学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
合計	260	260	260	260	380	460	540	540	540	620	700	700	760	810	850	890	945	1092	1092	1092	1142

志願者数

(単位：人)

学科	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学療法学科	846	486	518	537	866	844	608	679	507	518	466	528	624	532	546	743	639	578	689	782	632
作業療法学科	324	314	245	260	385	294	243	220	192	176	125	221	201	225	214	160	193	152	168	172	162
言語聴覚学科	178	194	169	119	169	168	110	121	141	134	144	151	174	142	112	102	150	115	113	135	106
義肢装具自立支援学科	—	—	—	—	—	—	63	84	97	94	83	144	111	112	137	76	109	74	60	109	116
臨床技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	533	507	553	521	537	501	620	593	576	552	631
視機能科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	153	101	124	86	93	98	110	105
救急救命学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	178	186	164	222	205
診療放射線学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	572	447	706	730
健康栄養学科	93	142	125	170	178	240	231	253	237	249	232	228	289	239	189	206	273	245	236	187	276
健康スポーツ学科	—	—	—	—	274	283	268	236	313	226	261	286	414	491	498	346	398	390	413	403	498
看護学科	—	—	—	—	—	284	384	380	393	499	486	692	665	576	523	528	668	732	753	754	801
社会福祉学科	218	271	248	255	378	472	403	342	309	298	329	459	351	393	317	245	265	255	316	300	216
医療情報管理学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	117	241	204	158	190	179	160	177	152	157	192	185
合計	1659	1407	1305	1341	2250	2585	2310	2315	2189	2311	2900	3420	3540	3574	3353	3191	3756	4137	4190	4624	4663

受験者数

(単位：人)

学科	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学療法学科	825	477	509	537	866	831	596	667	497	502	449	523	615	524	535	731	542	495	576	670	564
作業療法学科	313	306	242	260	385	290	238	219	187	170	123	220	201	223	211	159	166	129	145	142	143
言語聴覚学科	173	186	167	119	169	153	107	114	135	129	135	148	171	138	110	101	136	102	94	124	95
義肢装具科	—	—	—	—	—	—	62	82	93	91	79	143	109	110	133	74	94	65	56	98	105
臨床技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	512	498	542	511	530	486	497	484	465	450	558
視機能科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	149	101	120	81	84	85	95	99
救急救命学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	157	161	141	196	184
診療放射線学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	483	364	584	614
健康栄養学科	90	135	125	170	178	235	227	249	233	244	228	226	286	235	189	201	236	203	188	150	231
健康スポーツ学科	—	—	—	—	271	265	255	227	279	198	236	285	408	489	492	341	372	359	381	371	464
看護学科	—	—	—	—	—	275	373	370	377	484	471	677	646	562	506	508	553	582	598	588	647
社会福祉学科	197	242	223	235	348	439	370	319	280	262	304	456	349	387	310	240	245	237	279	266	195
医療情報管理学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	82	187	204	157	187	167	159	162	138	141	169	164
合計	1598	1346	1266	1321	2217	2488	2228	2247	2081	2162	2724	3380	3484	3515	3284	3120	3241	3522	3513	3903	4063

合格者数

(単位：人)

学科	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学療法学科	51	72	72	65	148	141	154	175	185	155	168	168	158	160	172	234	206	217	222	246	229
作業療法学科	60	70	84	83	54	88	71	82	72	83	79	72	82	73	84	70	64	86	71	82	100
言語聴覚学科	59	74	67	74	91	89	76	93	99	95	69	60	65	62	68	76	64	68	69	70	58
義肢装具科	—	—	—	—	—	—	47	71	72	72	73	54	52	58	56	63	53	51	51	68	67
臨床技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	157	166	198	184	187	209	189	162	166	222	185
視機能科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	70	74	59	65	57	62	69	79
救急救命学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	68	61	67	73	80
診療放射線学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	155	172	191	186
健康栄養学科	51	59	56	56	55	61	60	66	86	80	57	53	54	61	77	77	88	59	66	88	67
健康スポーツ学科	—	—	—	—	85	81	120	158	143	143	147	146	238	258	290	304	265	236	239	268	365
看護学科	—	—	—	—	—	147	114	156	167	176	185	172	196	200	208	231	209	239	305	289	272
社会福祉学科	162	182	211	200	211	244	261	296	270	243	253	198	213	212	281	229	230	191	222	181	192
医療情報管理学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	110	118	105	111	127	141	134	123	124	119	127	127
合計	383	457	490	478	644	851	903	1097	1094	1157	1306	1194	1367	1465	1638	1686	1624	1706	1831	1974	2007

入学者数

(単位：人)

学科	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
理学療法学科	52	52	54	50	100	100	100	100	107	93	103	97	104	96	99	141	131	136	135	135	140
作業療法学科	49	52	52	56	47	50	46	50	50	49	53	48	53	47	45	47	42	50	49	50	51
言語聴覚学科	50	49	50	50	53	50	50	49	52	55	55	48	46	50	46	41	42	42	43	45	40
義肢装具科	—	—	—	—	—	—	48	48	50	54	54	48	48	48	48	40	43	42	39	45	45
臨床技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	99	97	100	100	100	100	100	94	100	100	103
視機能科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	57	58	52	52	50	48	52	51
救急救命学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55	55	55	55	54
診療放射線学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90	90	90	95
健康栄養学科	46	48	48	48	48	48	48	44	43	51	42	44	44	43	44	44	46	43	43	43	44
健康スポーツ学科	—	—	—	—	77	77	118	122	120	124	123	135	188	201	231	216	219	209	221	219	258
看護学科	—	—	—	—	—	88	85	87	88	86	89	88	88	88	88	96	88	107	107	107	111
社会福祉学科	124	124	135	132	124	140	144	158	139	145	146	135	140	140	144	115	135	135	130	125	111
医療情報管理学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	103	107	94	96	100	93	100	87	88	89	86	84
合計	321	325	339	336	449	553	639	658	649	760	871	834	907	970	996	992	1040	1141	1149	1152	1187

研究科の定員数・入学者数の推移

定員数

(単位：人)

課程	専攻	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
修士	保健学専攻	30	30	20	20	20	20	20	20	20	18	18	18	18	21	21	21	21
	健康科学専攻	—	—	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	社会福祉学専攻	10	10	10	10	10	10	10	10	10	8	8	8	8	5	5	5	5
	医療情報・経営管理学専攻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4	4	4
博士後期	医療福祉学専攻	—	—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	8	8	10	10	10	10
	合計	40	40	43	43	43	43	43	43	43	43	43	48	48	50	50	50	50

入学者数

(単位：人)

専攻・分野			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
修士	保健学	理学療法学	8	3	8	3	3	1	3	9	7	9	12	13	11	13	12	12	20
		作業療法学	10	1	4	6	0	1	2	1	1	3	1	1	0	2	3	3	1
		言語聴覚学	4	0	0	1	2	1	0	2	1	1	0	2	1	1	1	1	0
		義肢装具自立支援学					3	5	6	6	4	8	3	4	3	3	6	3	1
		医療技術安全管理学											2	0	4	1	2	1	1
		視覚科学														1	1	2	0
		救急救命学分野																	1
		放射線情報学																	
	保健学 計		22	4	12	10	8	8	11	18	13	21	18	20	19	21	25	22	24
	健康科学	健康栄養学	1	5	4	0	4	2	0	4	4	3	7	3	2	3	1	5	4
		健康スポーツ学			1	0	7	3	7	7	1	2	9	3	4	3	11	6	8
		看護学			4	6	4	1	1	3	7	2	5	2	6	1	3	1	4
	健康科学 計		1	5	9	6	15	6	8	14	12	7	21	8	12	7	15	12	16
	社会福祉学	保健医療福祉政策・計画・運営	1	3	1	1	3	1	2	4	3	2	2	1	2	1	2	1	2
		保健医療福祉マネジメント学	3	3	1	2	0	3	0	0	5	3	1	1	3	1	3	1	0
	社会福祉学専攻 計		4	6	2	3	3	4	2	4	8	5	3	2	5	2	5	2	2
	医療情報	医療情報・経営管理学										4	4	0	3	4	4	5	4
	修士課程 計		27	15	23	19	26	18	21	36	33	37	46	30	39	34	49	41	46
博士後期	医療福祉学専攻		－	－	12	7	3	7	5	9	7	12	11	10	10	12	12	12	
大 学 院 全 体			27	15	35	26	29	25	26	45	40	49	57	40	49	46	61	53	58

教員組織・教員数の推移（若手、女性教員比率含む）

■2001年度～2021年度までの教員組織及び推移（各年度5月1日時点）

（単位：人）

学科	教員数																				
	年度																				
	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
学長・副学長・学部長	3	3	3	2	3	4	4	4	6	6	6	6	6	7	7	7	7	9	9	9	9
理学療法学科	9	11	13	14	18	19	18	20	20	22	22	22	21	20	32	31	33	34	34	34	35
作業療法学科	8	10	11	10	12	13	13	12	13	13	13	13	13	12	11	11	12	11	11	10	10
言語聴覚学科	5	10	10	10	12	12	14	13	13	13	12	13	16	14	14	13	13	12	13	13	11
義肢装具自立支援学科							8	8	10	10	10	10	9	10	11	12	10	10	10	10	11
臨床技術学科											9	12	16	17	18	19	22	21	22	22	21
視機能科学科														8	9	10	11	11	12	12	12
救急救命学科																	8	9	10	13	13
診療放射線学科																		9	16	16	16
健康栄養学科	18	22	21	21	19	21	22	20	20	19	19	19	21	20	20	20	19	18	18	19	19
健康スポーツ学科					13	15	15	19	18	20	23	25	31	36	39	42	43	40	41	43	44
看護学科						20	31	32	33	29	29	28	32	31	35	34	32	32	36	32	34
社会福祉学科	14	16	22	23	26	26	28	27	25	25	27	27	27	28	28	28	29	26	25	25	26
医療情報管理学科										12	13	14	14	17	17	19	18	17	20	18	18
合計	57	72	80	80	103	130	153	155	158	169	183	189	207	221	229	247	255	258	277	276	279

（1）2021年度5月1日時点の学部・学科、職位別専任教員数

（単位：人）

学部	学科	教授		准教授		講師		助教		助手		計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
リハビリテーション学部	理学療法学科	11	0	2	0	10	0	10	3	0	0	36
	作業療法学科	3	2	0	0	2	0	4	0	0	0	11
	言語聴覚学科	4	0	1	1	2	1	1	1	0	0	11
	義肢装具自立支援学科	4	0	0	0	4	0	2	1	0	0	11
医療技術学部	臨床技術学科	8	0	3	0	5	0	1	1	1	2	21
	視機能科学科	5	1	0	0	2	0	1	2	1	0	12
	救急救命学科	4	0	1	0	4	0	3	1	0	0	13
	診療放射線学科	6	0	4	0	2	1	3	1	0	0	17
健康科学部	健康栄養学科	4	2	1	3	3	1	1	3	0	1	19
	健康スポーツ学科	11	1	7	1	12	4	5	5	0	0	46
看護学部	看護学科	2	7	1	4	1	6	1	9	0	5	36
社会福祉学部	社会福祉学科	8	2	4	2	1	3	2	2	1	2	27
医療経営管理学部	医療情報管理学科	8	0	3	0	1	1	4	2	0	0	19
計		78	15	27	11	49	17	38	31	3	10	279
		93 (33.3%)		38 (13.6%)		66 (23.7%)		69 (24.7%)		13 (4.7%)		(100%)

※学長・副学長・学部長は、各学科に含めて集計しているため、上表の学科別教員数と一致しない場合がある。

(2) 2021年度5月1日時点の年齢別・職位別専任教員数

(単位：人)

	教授	准教授	講師	助教	助手	計
71歳以上	10	0	0	0	0	10 (3.6%)
66歳～70歳	23	0	0	0	0	23 (8.2%)
61歳～65歳	20	6	3	2	0	31 (11.1%)
56歳～60歳	16	8	3	2	1	30 (10.8%)
51歳～55歳	7	6	12	2	0	27 (9.7%)
46歳～50歳	8	12	8	6	2	36 (12.9%)
41歳～45歳	7	4	12	8	2	33 (11.8%)
36歳～40歳	2	2	17	14	3	38 (13.6%)
31歳～35歳	0	0	10	24	3	37 (13.3%)
21歳～30歳	0	0	1	11	2	14 (5.0%)
計	93	38	66	69	13	279 (100%)

■2017年～2021年における女性比率及び若手比率

(単位：人)

学科	2017			2018			2019			2020			2021		
	男性	女性	若手	男性	女性	若手	男性	女性	若手	男性	女性	若手	男性	女性	若手
学長・副学長・学部長	6	1	0	7	2	0	7	2	0	8	1	0	8	1	0
理学療法学科	27	4	16	30	3	17	30	4	18	30	4	18	32	3	21
作業療法学科	11	1	4	10	1	4	10	1	5	9	1	6	8	2	4
言語聴覚学科	9	4	3	9	3	1	10	3	1	10	3	1	8	3	1
義肢装具自立支援学科	9	1	5	9	1	5	9	1	3	9	1	3	10	1	3
臨床技術学科	17	5	3	15	6	3	16	6	3	19	3	4	18	3	3
視機能科学科	9	2	4	9	2	3	9	3	4	9	3	4	9	3	4
救急救命学科	7	1	1	8	1	1	9	1	2	12	1	1	12	1	1
診療放射線学科				8	1	3	14	2	5	14	2	5	14	2	4
健康栄養学科	8	11	5	9	9	5	9	9	5	9	10	5	9	10	5
健康スポーツ学科	35	8	20	31	9	18	32	9	20	33	10	19	33	11	22
看護学科	5	27	12	5	27	13	5	31	13	4	28	11	4	30	9
社会福祉学科	19	10	3	16	10	2	16	9	1	17	8	2	15	11	1
医療情報管理学科	16	2	3	16	1	4	19	1	5	16	2	4	15	3	5
計	178	77	79	182	76	79	195	82	85	199	77	83	195	84	83
教員数計	255			258			277			276			279		
女性比率	30.2			29.5			29.6			27.9			30.1		
若手比率	31.0			30.6			30.7			30.1			29.7		

※男性及び女性の人数の中に若手を含む

※女性比率及び若手比率の単位：％

※若手は39歳以下

2021年度教員組織（学部）

■学長・副学長・学部長

No.	役職	職位	氏名	在職年度
1	学長	教授	西澤 正豊	1年
2	副学長	教授	渡辺 敏彦	12年
3	副学長 社会福祉学部長	教授	丸田 秋男	20年
4	副学長	教授	大山 峰生	19年
5	副学長 リハビリテーション学部長	教授	大西 秀明	20年
6	医療技術学部長	教授	笠原 敏文	3年
7	健康科学部長	教授	西原 康行	20年
8	看護学部長	教授	塚本 康子	14年
9	医療経営管理学部長	教授	福島 正巳	12年

資料

■リハビリテーション学部

理学療法学科

No.	役職	職位	氏名	在職年度	11	教授	大鶴	直史	5年	24	助教	佐宗亜衣子	2年	
1	副学長	リハビリテーション学部長			12	准教授	澤田	純明	6年	25	助教	佐伯	史子	5年
	教授	大西	秀明	20年	13	准教授	犬飼	康人	6年	26	助教	横田	裕丈	3年
2	理学療法学科長				14	講師	菊元	孝則	5年	27	助教	伊藤	渉	5年
	教授	椿	淳裕	16年	15	講師	高橋	英明	9年	28	助教	太田	大樹	2年
3	教授	古西	勇	18年	16	講師	堀田	一樹	2年	29	助教	萩原	康雄	5年
4	教授	久保	雅義	13年	17	講師	齊藤	慧	8年	30	助教	関根	千恵	1年
5	教授	奈良	貴史	8年	18	講師	井上	達朗	1年	31	助教	田宮	創	0年
6	教授	佐藤成登志		15年	19	講師	玉越	敬悟	7年	32	助教	鈴木	祐介	2年
7	教授	相馬	俊雄	20年	20	講師	中村	雅俊	5年	33	助教	北谷	亮輔	0年
8	教授	田口	徹	3年	21	講師	小島	翔	5年	34	助教	平林	怜	4年
9	教授	芝田	純也	0年	22	講師	高林	知也	5年	35	助教	長坂	和明	2年
10	教授	江玉	睦明	9年	23	講師	宮口	翔太	5年	36	助教	池上	諒	0年

作業療法学科

No.	役職	職位	氏名	在職年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		</
-----	----	----	----	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

言語聴覚学科

No.	役職	職位	氏名	在職年度	4	教授（特任）	今井 信行	16年	9	講師	石本 豪	8年
1	言語聴覚学科長				5	准教授	吉岡 豊	13年	10	助教	伊藤さゆり	3年
	教授	山岸 達弥	14年		6	准教授	大石 如香	7年	11	助教	田村 俊暁	5年
2	教授	佐藤 克郎	9年		7	講師	栞原 桂	7年				
3	教授	今村 徹	20年		8	講師	内山 信	8年				

義肢装具自立支援学科

No.	役職	職位	氏名	在職年度	4	教授 (特任)	眞柄 彰	16年	9	助教	神田 賢	5年
1	義肢装具自立支援学科長				5	講師	村山 稔	0年	10	助教	佐藤 未希	6年
	教授	東江由起夫	14年		6	講師	高橋 素彦	7年	11	助教	郷 貴博	5年
2	教授	江原 義弘	17年		7	講師	前田 雄	10年				
3	教授	阿部 薫	14年		8	講師	須田 裕紀	12年				

38 助教 中島 郁子 6年
39 助教 上田 純平 2年
40 助教 山本 悦史 6年

41 助教 針谷美智子 3年
42 助教 奈良 梨央 8年
43 助教 柴田 篤志 0年

44 助教 下窪 拓也 0年
45 助教 (特任) 小林真里奈 1年

■看護学部

看護学科

No. 役職 職位 氏名 在職年度

1 看護学部長
教授 塚本 康子 14年
2 看護学科長
教授 松井由美子 14年
3 教授 吉浜 文洋 0年
4 教授 小山千加代 0年
5 教授 石綿 啓子 0年
6 教授 宇田 優子 11年
7 教授 (特任) 貝瀬 友子 3年
8 教授 (特任) 小山 歌子 8年
9 准教授 石塚 敏子 15年
10 准教授 下山 博子 15年

11 准教授 山口 典子 14年
12 准教授 渡邊 千春 2年
13 准教授 杉本 洋 15年
14 講師 佐藤真由美 0年
15 講師 外間 直樹 0年
16 講師 丸山 幸恵 0年
17 講師 稲垣 千文 9年
18 講師 中澤紀代子 2年
19 講師 井澤 玲奈 0年
20 講師 和田 直子 8年
21 助教 小栗 妙子 0年
22 助教 宅井さやか 0年
23 助教 桶谷 涼子 0年

24 助教 阿部 文絵 4年
25 助教 荒木 恵子 4年
26 助教 安藤 萌 4年
27 助教 山田 葉子 3年
28 助教 岩野 千尋 3年
29 助教 今井 雄二 3年
30 助教 佐藤 郁美 3年
31 助手 真保加奈子 2年
32 助手 土田 千歳 1年
33 助手 佐々木沙織 2年
34 助手 花矢 鮎美 0年
35 助手 志田佑佳子 3年

■社会福祉学部

社会福祉学科

No. 役職 職位 氏名 在職年度

1 副学長 社会福祉学部長
教授 丸田 秋男 20年
2 社会福祉学科長
教授 渡邊 敏文 15年
3 教授 佐藤 洋 1年
4 教授 河野 聖夫 12年
5 教授 寺田貴美代 13年
6 教授 (特任) 鈴木 昭 6年
7 教授 (特任) 青柳 親房 7年

8 教授 (特任) 武井 恒美 7年
9 教授 (特任) 藤澤 直子 5年
10 教授 (特任) 横山 豊治 20年
11 准教授 渡邊 豊 4年
12 准教授 青木 茂 10年
13 准教授 豊田 典子 0年
14 准教授 五十嵐紀子 20年
15 准教授 松本 京介 14年
16 准教授 (特任) スーママーク 16年
17 講師 渡辺 洋子 0年

18 講師 原口 彩子 6年
19 講師 中井 良育 2年
20 講師 渡辺 恵 0年
21 助教 佐久間由紀 2年
22 助教 國兼 明嗣 2年
23 助教 今井 理恵 5年
24 助教 渡邊 恵司 5年
25 助手 山崎 美夏 11年
26 助手 大坪 美香 4年
27 助手 荒川 大靖 4年

■医療経営管理学部

医療情報管理学科

No. 役職 職位 氏名 在職年度

1 医療経営管理学部長
教授 福島 正巳 12年
2 医療情報管理学科長
教授 柴山 純一 7年
3 教授 瀧口 徹 10年
4 教授 西尾 正輝 15年
5 教授 (特任) 石浦 章一 0年

6 教授 (特任) 佐藤 弘 8年
7 教授 (特任) 石上 和男 7年
8 教授 (特任) 鈴木 健司 5年
9 准教授 井上 弘樹 11年
10 准教授 寺島 和浩 20年
11 准教授 木下 直彦 7年
12 講師 坂井さなえ 7年
13 講師 伊藤 嘉高 2年

14 助教 川口 規子 0年
15 助教 谷 賢太郎 4年
16 助教 波多野 誠 3年
17 助教 前田 理歩 2年
18 助教 澤田 雄介 0年
19 助教 高野 晃輔 2年

2021年度教員組織（研究科）

理学療法学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	5	教授	奈良 貴史	○合	8年	11	准教授	澤田 純明	○合	6年
1	理学療法学分野長					6	教授	佐藤成登志	○合	15年	12	准教授	犬飼 康人	○合	6年
	教授	久保 雅義	○合	13年		7	教授	相馬 俊雄	○合	20年	13	講師	高橋 英明	合	9年
2	教授	大西 秀明	○合	20年		8	教授	田口 徹	○合	3年	14	講師	堀田 一樹	○合	2年
3	教授	椿 淳裕	○合	16年		9	教授	江玉 睦明	○合	9年	15	講師	中村 雅俊	○合	5年
4	教授	古西 勇	○合	18年		10	教授	大鶴 直史	○合	5年					

作業療法学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	2	教授	大山 峰生	○合	19年	5	講師	外川 佑	○合	8年
1	作業療法学分野長					3	教授	今西 里佳	○合	12年					
	教授	能登 真一	○合	20年		4	教授	能村 友紀	○合	15年					

言語聴覚学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	3	教授	今村 徹	○合	20年	7	講師	内山 信	合	8年
1	言語聴覚学分野長					4	教授(特任)	今井 信行	○合	16年	8	教授	西尾 正輝	○合	15年
	教授	山岸 達弥	合	14年		5	准教授	吉岡 豊	○合	13年					
2	教授	佐藤 克郎	○合	9年		6	准教授	大石 如香	○合	7年					

義肢装具自立支援学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	3	教授	江原 義弘	○合	17年	7	講師	須田 裕紀	合	12年
1	義肢装具自立支援学分野長					4	教授 (特任)	眞柄 彰	○合	16年	8	助教	神田 賢可	可	5年
	教授	阿部 薫	○合	14年		5	講師	高橋 素彦	合	7年					
2	教授	東江由起夫	可	14年		6	講師	前田 雄	合	10年					

医療技術安全管理学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	2	教授	中村 藤夫	合	10年	5	講師	藤井 豊	○合	5年
1	医療技術安全管理学分野長					3	教授	久保野勝男	○合	4年					
	教授	長濱 大輔	○合	9年		4	准教授	川村 宏樹	○合	8年					

視覚科学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職										
1	視覚科学分野長					2	教授	増田 修	○合	5 年	3	教授	阿部 春樹	○合	8 年
							教授	前田 史篤	○合	7 年	4	教授	戸田 春男	○合	4 年

救急救命学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	2	教授	川上	一岳	合	2年	5	講師	大松健太郎	可	4年
1	救急救命学分野長					3	講師	神藏	貴久	合	4年					
	教授	竹井	豊	○合	4年	4	講師	山内	一	可	6年					

健康科学専攻

健康栄養学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職										
1	健康栄養学分野長					3	教授	斎藤トシ子	○合	20年	7	准教授	湊谷 顕一	○合	6年
	教授	稲葉 洋美	○合	6年		4	教授	八坂 敏一	○合	1年	8	准教授	山崎 貴子	合	20年
2	教授	永井 徹	○合	8年		5	教授（特任）	遠藤 和男	○合	20年	9	講師	蘆田 一郎	○合	19年
						6	准教授	田村 典子	合	2年	10	講師	岩森 大	可	20年

健康スポーツ学分野

No.	役職	職位	氏名	評語	在職	3	教授	大森 豪	○合	7年	8	教授	吉田 重和	○合	10年
1	健康科学専攻長					4	教授	堀 晴雄	○合	5年	9	教授	杉崎 弘周	○合	10年
	健康スポーツ分野長					5	教授	佐藤 敏郎	○合	12年	10	准教授	越中 敬一	○合	11年
	教授	佐藤 大輔	○合	12年		6	教授	下山 好充	○合	16年	11	准教授	池田 祐介	○合	8年
2	教授	西原 康行	○合	20年		7	教授	山崎 史恵	○合	16年	12	准教授	佐藤 晶子	合	8年

13 准教授 山代 幸哉 ○合 11年
14 講師 市川 浩 合 7年

15 講師 下門 洋文 ○合 6年
16 講師 吉松 梓 合 4年

17 講師 佐藤 裕紀 合 7年
18 講師 熊崎 昌 合 5年

看護学分野

No. 役職 職位 氏名 評語 在職

1 看護学分野長
教授 宇田 優子 ○合 11年
2 教授 塚本 康子 ○合 14年
3 教授 松井由美子 ○合 14年

4 教授 小山千加代 ○合 0年
5 教授(特任) 貝瀬 友子 ○合 3年
6 教授(特任) 小山 歌子 ○合 8年
7 准教授 下山 博子 合 15年
8 准教授 山口 典子 合 14年

9 准教授 渡邊 千春 合 2年
10 准教授 杉本 洋 ○合 15年
11 講師 中澤紀代子 可 2年

社会福祉学専攻

保健医療福祉政策・計画・運営分野

No. 役職 職位 氏名 評語 在職
1 保健医療福祉政策・計画・運営分野長
教授 寺田貴美代 ○合 13年

2 教授 丸田 秋男 ○合 20年
3 教授 渡邊 敏文 ○合 15年
4 教授(特任) 青柳 親房 可 7年

5 准教授 青木 茂 可 10年
6 准教授 渡邊 豊 可 4年
7 講師 中井 良育 可 2年

保健医療福祉マネジメント学分野

No. 役職 職位 氏名 評語 在職
1 保健医療福祉マネジメント学分野長
准教授 松本 京介 ○合 14年

2 教授(特任) 鈴木 昭 ○合 6年
3 教授(特任) 横山 豊治 ○合 20年
4 教授 河野 聖夫 ○合 12年

5 准教授 五十嵐紀子 可 20年
6 講師 原口 彩子 可 6年

医療情報・経営管理学専攻

医療情報・経営管理学分野

No. 役職 職位 氏名 評語 在職
1 医療情報・経営管理学分野長
准教授 木下 直彦 ○合 7年
2 教授 柴山 純一 ○合 7年
3 教授 瀧口 徹 ○合 10年

4 教授(特任) 石浦 章一 ○合 0年
5 教授(特任) 佐藤 弘 ○合 8年
6 教授(特任) 石上 和男 ○合 7年
7 教授(特任) 鈴木 健司 ○合 5年
8 准教授 井上 弘樹 合 11年

9 准教授 寺島 和浩 ○合 20年
10 講師 伊藤 嘉高 ○合 2年
11 助教 谷 賢太郎 合 4年
12 助教 波多野 誠 合 3年

博士後期課程

医療福祉学専攻

No. 役職 職位 氏名 評語 在職

1 医療福祉学専攻長
教授 佐藤 大輔 ○合 12年
2 教授 阿部 薫 ○合 14年
3 教授 阿部 春樹 ○合 8年
4 教授 稲葉 洋美 ○合 6年
5 教授 今村 徹 ○合 20年
6 教授 宇田 優子 ○合 11年
7 教授 江玉 睦明 ○合 9年
8 教授 江原 義弘 ○合 17年
9 教授 大鶴 直史 ○合 5年
10 教授 大西 秀明 ○合 20年
11 教授 大森 豪 ○合 7年
12 教授 大山 峰生 ○合 19年
13 教授 久保 雅義 ○合 13年
14 教授 児玉 直樹 ○合 4年
15 教授 小山千加代 ○合 0年

16 教授 佐藤 克郎 ○合 9年
17 教授 佐藤成登志 合 15年
18 教授 下山 好充 ○合 16年
19 教授 杉崎 弘周 ○合 10年
20 教授 瀧口 徹 ○合 10年
21 教授 田口 徹 ○合 3年
22 教授 塚本 康子 ○合 14年
23 教授 椿 淳裕 ○合 16年
24 教授 寺田貴美代 ○合 13年
25 教授 長濱 大輔 ○合 9年
26 教授 奈良 貴史 ○合 8年
27 教授 西尾 正輝 ○合 15年
28 教授 西原 康行 ○合 20年
29 教授 能登 真一 ○合 20年
30 教授 能村 友紀 ○合 15年
31 教授 塙 晴雄 ○合 5年
32 教授 宮地 幸久 ○合 2年

33 教授 渡邊 敏文 合 15年
34 教授 久保野勝男 ○合 4年
35 教授(特任) 石上 和男 ○合 7年
36 教授(特任) 今井 信行 合 16年
37 教授(特任) 鈴木 昭 ○合 6年
38 教授(特任) 鈴木 健司 ○合 5年
39 教授(特任) 眞柄 彰 ○合 16年
40 教授(特任) 横山 豊治 ○合 20年
41 教授(特任) 石浦 章一 ○合 0年
42 准教授 澤田 純明 ○合 6年
43 准教授 澁谷 顕一 ○合 6年
44 准教授 松本 京介 合 14年
45 准教授 山代 幸哉 ○合 11年
46 准教授 吉岡 豊 可 13年
47 准教授 杉本 洋 ○合 15年
48 講師 中村 雅俊 ○合 5年
49 講師 伊藤 嘉高 ○合 2年

2001年度～2020年度までの退職者一覧

2002年度

名前	所属	職位	飯澤 絹衣	健康栄養学科	助手	伊藤富士江	社会福祉学科	助教
----	----	----	-------	--------	----	-------	--------	----

2003年度

名前	所属	職位	榎本 郁子	作業療法学科	講師	廣瀬 清人	社会福祉学科	講師
湧井 豊	言語聴覚学科	教授	高久 明美	健康栄養学科	助手			

2004年度

名前	所属	職位	佐野 明子	健康栄養学科	助手	横山 和彦	社会福祉学科	教授
石田 寛友	理学療法学科	教授	手塚 直樹	社会福祉学科	教授	柴山 悦子	社会福祉学科	講師
入江 建久	作業療法学科	教授	小野 昭一	社会福祉学科	教授			
ロザリア・マルチネス	社会福祉学科	助手	古林 淑子	社会福祉学科	教授			

2005年度

名前	所属	職位	磯野 信策	言語聴覚学科	助教	上原 典子	社会福祉学科	助手
曽根 優子	作業療法学科	助手	相場恵美子	言語聴覚学科	講師	松井 奈美	社会福祉学科	講師
森田 牧朗	健康栄養学科	教授	杉山 貴子	言語聴覚学科	講師			

2006年度

名前	所属	職位	河田 誠	作業療法学科	講師	横山 和彦	社会福祉学科	教授
櫻井 浩治	一 副学長		松尾 真輔	作業療法学科	助手	岩崎 浩三	社会福祉学科	教授（特任）
牧田 光代	理学療法学科	教授	藤岡由美子	健康栄養学科	助手	市島 民子	言語聴覚学科	教授
矢谷 令子	作業療法学科	教授（特任）	原 敏明	社会福祉学科	教授	佐藤 勝弘	健康スポーツ学科	教授
岩崎テル子	作業療法学科	教授	寺尾 史子	社会福祉学科	講師			

2007年度

名前	所属	職位	堀田 康雄	健康栄養学科	教授（特任）	大槻美智子	社会福祉学科	准教
石本 豪	言語聴覚学科	助手	室岡 悦子	社会福祉学科	助手	岡田 千沙	健康栄養学科	助手
吉田 光爾	社会福祉学科	講師	竹下安希子	作業療法学科	助教	濱口 豊太	作業療法学科	准教授
藤澤 由和	社会福祉学科	准教授	亀田 和夫	言語聴覚学科	教授（特任）	内田 伸樹	看護学科	助手
黒川 幸雄	理学療法学科	学部長	金築 智美	義肢装具自立支援学科	講師	塩見 義彦	社会福祉学科	教授（特任）
山本 通子	健康栄養学科	教授	細川さやか	看護学科	助手	萬羽 郁子	健康栄養学科	助手

2008年度

名前	所属	職位	渋谷 直樹	言語聴覚学科	教授	清水由美子	看護学科	講師
三浦 貴之	健康スポーツ学科	助教	荒井冨佐子	健康栄養学科	教授（特任）	木部美知子	看護学科	講師
ピラヤ洋子	作業療法学科	助教	村山 篤子	健康栄養学科	教授（特任）	恩地裕美子	看護学科	助手
濱野 強	社会福祉学科	講師	五百川知子	健康栄養学科	助手	阿部 勝子	看護学科	助手
小野寺良二	社会福祉学科	助教	樋口真紀子	健康栄養学科	助手	村上 信	社会福祉学科	教授
江口美奈子	社会福祉学科	助手	山地 啓司	健康スポーツ学科	教授	園田 恭一	社会福祉学科	教授
高木 昭輝	理学療法学科	教授	高橋 一榮	健康スポーツ学科	教授	佐藤真由美	社会福祉学科	助手
石黒 圭応	理学療法学科	講師	西脇 友子	看護学科	教授			
岡村 太郎	作業療法学科	准教授	梨本 光枝	看護学科	教授			

2009年度

名前	所属	職位	後藤 康志	健康スポーツ学科	講師	高崎 峰子	看護学科	助手
齋藤 美佳	作業療法学科	助手	渋谷 優子	看護学科	教授	山手 茂	社会福祉学科	教授
福田 弘和	義肢装具自立支援学科	助教	岩田みどり	看護学科	教授	梶原 洋生	社会福祉学科	准教授
大島 一郎	健康栄養学科	助手	石山 香織	看護学科	助教			
丸山真菜美	健康栄養学科	助手	富崎 悦子	看護学科	助手			

2010年度

名前	所属	職位	谷川 奈々	義肢装具自立支援学科	助教	長谷川隆雄	看護学科	講師
瀧澤 一騎	健康スポーツ学科	助教	小川 朋子	健康栄養学科	助手	荒木 玲子	看護学科	講師
長谷川利夫	作業療法学科	講師	大鍋 寿一	義肢装具自立支援学科	教授	丸山 敬子	看護学科	講師
吉川 安美	作業療法学科	助手	大塚 博	義肢装具自立支援学科	講師	志田久美子	看護学科	助教
大橋 靖	言語聴覚学科	教授 (特任)	内保 美穂	社会福祉学科	助手			
中野 雄一	言語聴覚学科	教授 (特任)	和唐 正勝	健康スポーツ学科	教授 (特任)			

2011年度

名前	所属	職位	本間千代子	看護学科	教授	宮下 榮子	社会福祉学科	講師 (特任)
地神 裕史	理学療法学科	助教	三澤 寿美	看護学科	准教授	米林 喜男	社会福祉学科	教授 (特任)
渡辺 恵子	理学療法学科	助教	栗原 弥生	看護学科	講師	高橋 榮明	初代学長	
坂井 一浩	義肢装具自立支援学科	准教授	北谷 幸寛	看護学科	助手	吉沢 智子	作業療法学科	助手
玉木 有子	健康栄養学科	助教	監物 直子	看護学科	助手	鈴木真由美	言語聴覚学科	助手
小田切毅一	健康スポーツ学科	教授 (特任)	傳谷 典子	看護学科	助手	北村 香織	看護学科	助教

2012年度

名前	所属	職位	石川 知志	健康スポーツ学科	教授	佐藤はるみ	社会福祉学科	助教
山田まりえ	理学療法学科	教授	吉田 拓矢	健康スポーツ学科	助手	高橋 正夫	医療情報管理学科	教授 (特任)
古沢アドリアネ明美	理学療法学科	助手	林 干治	看護学科	教授	相田 陽子	作業療法学科	助手
糟谷 政代	言語聴覚学科	学科長	望月 紀子	看護学科	准教授	新谷 恵子	看護学科	教授
渡辺 真澄	言語聴覚学科	准教授	甲田 充	看護学科	助教	島貫 秀樹	看護学科	准教授
村山 伸子	健康栄養学科	教授	戸出 朋子	社会福祉学科	准教授	阿部 明美	看護学科	講師

2013年度

名前	所属	職位	志村 栄二	言語聴覚学科	助教	高沢 文隆	健康スポーツ学科	准教授
飯塚 尚	義肢装具自立支援学科	助教	平沢絵里菜	言語聴覚学科	助手	安齋 典子	看護学科	助手
田邊 二葉	社会福祉学科	助教	伊藤 隆	医療情報管理学科	教授	森脇 健介	医療情報管理学科	講師
小林由美子	看護学科	助手	大滝 和雄	健康スポーツ学科	教授 (特任)	山口 富一	言語聴覚学科	准教授 (特任)
鈴木 誠	作業療法学科	准教授	高野 晃栄	臨床技術学科	助手	笠井友治郎	社会福祉学科	教授 (特任)
池田 京子	看護学科	教授 (特任)	小林 奈穂	健康栄養学科	助教			
栗生田博子	理学療法学科	助教	御子貝佳実	健康栄養学科	助手			

2014年度

名前	所属	職位	土屋 康雄	臨床技術学科	教授	阿部 夏希	健康栄養学科	助手
中村 桂三	視機能科学科	教授 (特任)	生駒 俊和	臨床技術学科	准教授	永野 康治	健康スポーツ学科	講師
押木利英子	理学療法学科	教授	魚里 博	視機能科学科	教授	星野恵美子	社会福祉学科	教授
西野 幾子	理学療法学科	講師	江崎 秀子	視機能科学科	講師	片平 冽彦	社会福祉学科	教授 (特任)
藤巻 健一	作業療法学科	教授 (特任)	森田 有子	視機能科学科	助教	宮崎 純子	社会福祉学科	教授 (特任)
月城 慶一	義肢装具自立支援学科	准教授	川中健太郎	健康栄養学科	教授	大槻美智子	社会福祉学科	教授 (特任)
藤枝 温子	義肢装具自立支援学科	助教	塚原 典子	健康栄養学科	准教授	圓山 里子	社会福祉学科	助教

2015年度

名前	所属	職位	市野 千恵	言語聴覚学科	助手	久嶋 美和	看護学科	助手
菅原 和広	理学療法学科	講師	大沼 雅之	義肢装具自立支援学科	助教	遠藤あゆみ	看護学科	助教
野崎 涼子	臨床技術学科	助手	丸山 一美	臨床技術学科	助手	近藤 浩子	看護学科	助教
岩波 潤	作業療法学科	助教	串田 修	健康栄養学科	助教	豊田 保	社会福祉学科	教授
大武久美子	看護学科	助教	三宮 博己	健康スポーツ学科	教授 (特任)	佐々木彩乃	社会福祉学科	助教
近藤あゆみ	社会福祉学科	准教授	袖山 悦子	看護学科	准教授	佐藤 正	医療情報管理学科	教授 (特任)
山口 康昭	理学療法学科	講師	石原美由紀	看護学科	准教授			
泉 良太	作業療法学科	講師	小林 房代	看護学科	助教			

2016年度

名前	所属	職位	進藤 真紀	視機能科学科	助教	足立 淳	健康スポーツ学科	講師
亀尾 徹	理学療法学科	准教授	稲村 雪子	健康栄養学科	教授	目黒 優子	看護学科	准教授
星 孝	理学療法学科	准教授	渡邉 榮吉	健康栄養学科	准教授	川崎 久子	看護学科	准教授
桐本 光	作業療法学科	教授	入山 八江	健康栄養学科	准教授	中村 郷子	看護学科	助教
戸島 知之	臨床技術学科	教授	鈴木 香澄	健康栄養学科	助手	平井 孝治	看護学科	助教

資 料

吉村 理恵 看護学科 助手
金子 奈未 看護学科 助手
大島さちえ 看護学科 助手
車谷 容子 看護学科 助手

阿曾 辰徳 看護学科 助手
岡田 史 社会福祉学科 教授
春木 邦子 社会福祉学科 助教
星 紀恵子 社会福祉学科 助教

柳田 真実 社会福祉学科 助手
西村 宏子 医療情報管理学科 教授
本間 久文 医療情報管理学科 講師
高橋 和将 医療情報管理学科 助教

2017年度

名前 所属 職位
松本香好美 理学療法学科 講師
栗崎由貴子 言語聴覚学科 講師
加藤 梓 言語聴覚学科 助手
三嶋 行雄 臨床技術学科 教授
河内 了輔 視機能科学科 助教
笹川トシ子 健康栄養学科 講師
丸山 敦夫 健康スポーツ学科 教授
若杉 透 健康スポーツ学科 教授(特定)
柵木 聖也 健康スポーツ学科 准教授

塙 佐敏 健康スポーツ学科 講師
遠山 孝司 健康スポーツ学科 講師
中澤 翔 健康スポーツ学科 助手
平山恵美子 看護学科 教授
新田 初美 看護学科 教授(特任)
金子 佳世 看護学科 講師
水戸部優太 看護学科 助手
平野 宏美 看護学科 助手
沼田 美穂 看護学科 助手
伊東 正裕 社会福祉学科 教授(特任)

峯島 道夫 社会福祉学科 准教授
張 国珍 医療情報管理学科 講師
高橋 直樹 医療情報管理学科 講師
白野 絹子 社会福祉学科 助教
平井 宏美 看護学科 助教
鈴木 未来 社会福祉学科 講師
羽柴 正夫 救急救命学科 教授
北島 昌樹 看護学科 准教授

2018年度

名前 所属 職位
小林 量作 理学療法学科 教授
田巻 弘之 理学療法学科 教授
鈴木 了 理学療法学科 講師
渡邊 良弘 作業療法学科 准教授
菅 賢 救急救命学科 助手(特任)

永田 龍希 救急救命学科 助手(特任)
伊藤 直子 健康栄養学科 教授
加藤 雅規 健康スポーツ学科 准教授
増田 明美 看護学科 教授
中山 和美 看護学科 教授
松山 茂樹 社会福祉学科 教授

丸山 仁 社会福祉学科 助教
大根澤恵美子 社会福祉学科 助教
星 紀恵子 社会福祉学科 助教(特任)
佐藤 純子 看護学科 助教
新井 夏希 健康栄養学科 助手
貝淵 正人 作業療法学科 講師(特任)

2019年度

名前 所属 職位
山本 正治 学長
正木 光裕 理学療法学科 講師
中村 絵美 理学療法学科 助教
永井 洋一 作業療法学科 教授(特任)
勝平 純司 義肢装具自立支援学科 准教授
尾崎 京子 臨床技術学科 教授(特任)
川原 幸 臨床技術学科 助手(特任)
小原有希江 臨床技術学科 助手(特任)

宮岡 洋三 健康栄養学科 教授
町田佳志朗 救急救命学科 助手(特任)
中島 隆志 救急救命学科 助手(特任)
鈴木まどか 健康スポーツ学科 助教
寺田 進志 健康スポーツ学科 助教
金谷 光子 看護学科 教授(特任)
西川 薫 看護学科 准教授
大屋 愛里 看護学科 助教
佐藤 信枝 看護学科 教授

岡 陽子 看護学科 助教
小川 真貴 看護学科 助教
野口 晃 社会福祉学科 講師
吉田 輝美 社会福祉学科 教授
淡島 正浩 医療情報管理学科 助教
野水 弘祐 医療情報管理学科 助教(特任)
菊入 昭 視機能科学科 教授(特任)
高島 葉子 看護学科 教授(特任)
齋藤 翔太 医療情報管理学科 助教

2020年度

名前 所属 職位
濱上 陽平 理学療法学科 助教
池上喜久夫 臨床技術学科 講師
熊谷 順子 臨床技術学科 助手
森下慎一郎 理学療法学科 准教授
佐久間真由美 理学療法学科 准教授(特任)
天野 暁 作業療法学科 講師
渡辺 時生 言語聴覚学科 講師
富澤 晃文 言語聴覚学科 准教授
笹本 嘉朝 義肢装具自立支援学科 准教授
浅井 孝夫 臨床技術学科 講師

鈴木 力 救急救命学科 教授
遠藤 裕 救急救命学科 教授
泉田 俊幸 健康スポーツ学科 准教授
森 光雄 健康スポーツ学科 教授(特任)
神田 勝夫 健康スポーツ学科 教授(特任)
色摩 正雄 健康スポーツ学科 准教授
武田 丈太郎 健康スポーツ学科 講師
波多 幸江 看護学科 教授
手島 美子 看護学科 准教授(特任)
長谷川隆雄 看護学科 准教授
坪川麻樹子 看護学科 講師

若月亜希子 看護学科 助手
高橋 智美 看護学科 講師
紅林 佑介 看護学科 講師
田中 和美 看護学科 助手(特任)
松永 繁 社会福祉学科 助教
山口 智 社会福祉学科 助教
多湖 雅博 医療情報管理学科 講師
近藤 正紀 医療情報管理学科 助教
東條 猛 医療情報管理学科 教授(特任)

名誉学長・副学長・教授一覧

1) 名誉学長

名誉教授氏名	職歴
高橋 榮明	新潟医療福祉大学初代学長
山本 正治	新潟医療福祉大学2代学長
櫻井 浩治	副学長
米林 喜男	副学長

2) 名誉教授

名誉教授氏名	職歴
石田 寛友	理学療法学科教授
入江 建久	作業療法学科教授
小野 昭一	社会福祉学科教授、学生部長、教養教育会議議長
手塚 直樹	社会福祉学科教授
矢谷 令子	作業療法学科長
岩崎テル子	作業療法学科長
黒川 幸雄	理学療法学科長
塩見 義彦	社会福祉学科長
堀田 康雄	健康栄養学科教授、図書館長
牧田 光代	理学療法学科教授
村山 篤子	健康栄養学科長
荒井富佐子	健康栄養学科教授
渋谷 優子	看護学科教授
山手 茂	社会福祉学科教授
大橋 靖	言語聴覚学科長
大鍋 壽一	義肢装具自立支援学科教授
和唐 正勝	健康科学部長、健康スポーツ学科長
小田切毅一	学生部長、健康スポーツ学科教授
本間千代子	看護学科教授
高橋 正夫	医療情報管理学科教授
糟谷 政代	言語聴覚学科長
山田まりえ	理学療法学科教授
糟谷 政代	言語聴覚学科長、図書館長
高橋 正夫	医療情報管理学科教授
伊藤 隆	医療情報管理学科教授
丸山 敦夫	健康スポーツ学科長
伊東 正裕	社会福祉学科長
松山 茂樹	社会福祉学科長
小林 量作	理学療法学科教授
宮岡 洋三	健康栄養学科教授
金谷 光子	看護学科教授
東條 猛	医療情報管理学科長
鈴木 力	医療技術学部長、救急救命学科長

外部評価の実施概要

評価機関名	評価時期（年 月）	機関別・プログラム別	備考
公益財団法人 日本高等教育表評価機構	2007年3月	大学機関別認証評価	
公益財団法人 日本高等教育表評価機構	2014年3月	大学機関別認証評価	
公益財団法人 日本高等教育表評価機構	2021年3月	大学機関別認証評価	

就職の状況（過去3年間）

学科	2019年度					2020年度					2021年度				
	卒業 者数 (人)	就職 希望 者数	就職 者数	就職率 (%)	求人 件数	卒業 者数 (人)	就職 希望 者数	就職 者数	就職率 (%)	求人 件数	卒業予 定者数 (人)	就職 希望 者数	就職 決定 者数	内定率 (%)	求人 件数
理学療法 学科	119	113	113	100.0%	1,196	125	99	99	100.0%	1,050	120	96	96	100.0%	1,129
作業療法 学科	41	40	40	100.0%	1,257	35	35	35	100.0%	1,122	43	40	40	100.0%	1,210
言語聴覚 学科	34	30	30	100.0%	1,020	40	32	32	100.0%	916	40	36	36	100.0%	990
義肢装具自 立支援学科	35	30	30	100.0%	190	42	41	41	100.0%	170	39	32	32	100.0%	184
臨床技術 学科	97	93	93	100.0%	763	101	91	89	97.8%	700	86	79	75	94.9%	756
視機能科 学科	49	49	49	100.0%	192	47	44	44	100.0%	161	45	45	45	100.0%	181
救急救命 学科	—	—	—	—	—	52	44	44	100.0%	23	52	44	44	100.0%	33
診療放射線 学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	156	74	63	63	100.0%	289
健康栄養 学科	43	40	40	100.0%	335	45	43	43	100.0%	297	41	37	36	97.3%	309
健康スポー ツ学科	207	188	188	100.0%	84	208	182	181	99.5%	69	202	173	172	99.4%	90
看護学科	94	93	93	100.0%	1,007	87	85	85	100.0%	956	105	100	100	100.0%	1,012
社会福祉 学科	115	112	112	100.0%	1,779	130	121	121	100.0%	1,834	130	122	122	100.0%	1,948
医療情報管 理学科	101	96	95	99.0%	428	91	85	84	98.8%	237	87	83	83	100.0%	377
その他の 学科にも属 さない求人 件数					1,384					1,092					1,179
合計	935	884	883	99.9%	9,635	1,003	902	898	99.6%	8,783	1,064	950	944	99.4%	9,687

※ 2019年度、2020年度は医療技術学部（理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・義肢装具自立支援学科・臨床技術学科・視機能科学科・救急救命学科・診療放射線学科）、健康科学部（健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科）、社会福祉学部（社会福祉学科）、医療経営管理学部（医療情報管理学科）の4学部であったが、2021年度は学部改組により、リハビリテーション学部（理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・義肢装具自立支援学科）、医療技術学部（臨床技術学科・視機能科学科・救急救命学科・診療放射線学科）、健康科学部（健康栄養学科・健康スポーツ学科）、看護学部（看護学科）、社会福祉学部（社会福祉学科）、医療経営管理学部（医療情報管理学科）の6学部となっている。

外部資金獲得課題一覧

文部科学省、日本学術振興会（代表者）

開始年度	終了年度	研究種目	研究者氏名	所属学科
研究課題 研究費 直接経費 間接経費 合計				
■1998－2001	基盤研究C	宮岡 洋三 HN		
嚥下運動の延髄内統合機構に関する神経生理学的研究 3,300,000 0 3,300,000				
■2002－2005	基盤研究C	磯野 信策 ST		
小児の声と共鳴の発達に関する研究：健常児と口蓋裂児の比較 3,500,000 0 3,500,000				
■2002－2003	若手研究B	川中健太郎 HN		
運動後の筋グリコーゲン超回復にともなって生じるインスリン感受性低下のメカニズム 3,500,000 0 3,500,000				
■2003－2004	基盤研究C	大橋 靖 ST		
摂食嚥下機能障害への低周波治療の効果について－訓練過程での内視鏡的效果判定－ 1,900,000 0 1,900,000				
■2003－2004	基盤研究C	塚原 典子 HN		
若年男女の健康管理における行動変容支援効果の検討－骨の健康管理支援を中心に－ 3,800,000 0 3,800,000				
■2003－2005	基盤研究C	入江 建久 OT		
「越冬入院」の居住環境要因の解明と対策に関する研究 3,500,000 0 3,500,000				
■2003－2004	若手研究B	大西 秀明 PT		
膝関節6自由度運動解析と臨床応用 2,200,000 0 2,200,000				
■2004－2005	基盤研究C	川中健太郎 HN		
運動後の筋グリコーゲン超回復にともなって生じるインスリン感受性低下の機序 3,700,000 0 2,200,000				
■2004－2005	基盤研究C	斎藤トシ子 HN		
老年女性の骨量獲得における環境要因と遺伝要因の相互作用に関する縦断研究 2,800,000 0 2,800,000				
■2004－2006	基盤研究C	市島 民子 ST		
日本語における韻律の獲得 1,600,000 0 1,600,000				
■2004－2006	特別研究員奨励費	越中 敬一 HN		
骨格筋における細胞内エネルギー過剰状態の感知機構 3,400,000 0 3,400,000				
■2005－2008	基盤研究C	大橋 靖 ST		
摂食・嚥下障害への低周波治療－新しい訓練法の開発と内視鏡による効果判定－ 3,100,000 450,000 3,550,000				
■2005－2006	萌芽研究	藤澤 由和 SW		
健康分野におけるソーシャル・キャピタル指標の開発とその予備的検討 2,700,000 0 2,700,000				
■2005－2006	若手研究B	大西 秀明 PT		
ヒト随意運動時における筋出力および関節角度変化が運動関連脳磁場に与える影響 2,600,000 0 2,600,000				
■2005－2007	若手研究B	濱口 豊太 OT		
消化器心身症患者に対する作業療法の心理・神経学的効果の検討及び作業療法の確立 2,700,000 0 2,700,000				
■2005－2007	若手研究B	相馬 俊雄 PT		
杖使用時における上肢関節間力の基礎的研究 3,200,000 0 3,200,000				
■2005－2006	萌芽研究	牧田 光代 PT		
介護保険出来高報酬制度の可否と変更する場合の諸要件の研究 3,000,000 0 3,000,000				
■2005－2007	若手研究B	梶原 洋生 SW		
介護専門職におけるパラリガルとしての役割と業務に関する研究 2,700,000 0 2,700,000				
■2006－2007	基盤研究C	川中健太郎 HN		
低強度・長時間運動による骨格筋インスリン感受性上昇の機序 3,600,000 600,000 4,200,000				
■2006－2007	萌芽研究	西原 康行 HS		
スポーツ教育における教員の再現認知による力量形成に関する研究 3,200,000 0 3,200,000				
■2006－2008	萌芽研究	米林 喜男 SW		
保健医療分野におけるデータアーカイブ構築のための検証研究 3,300,000 0 3,300,000				
■2006－2008	若手研究A	藤澤 由和 SW		
ソーシャル・キャピタルと健康の関係性に関する実証的研究基盤の確立とその展開の研究 19,700,000 5,910,000 25,610,000				
■2006－2007	若手研究B	下山 好充 HS		
水泳の持久性トレーニング効果に関する新しい評価法の開発とコーチング現場への応用 3,300,000 0 3,300,000				
■2006－2008	若手研究B	内田 伸樹 NR		
生涯発達から見る、乳がん女性が構築する「乳房喪失」の意味 2,900,000 270,000 3,170,000				
■2007－2009	基盤研究B	大西 秀明 PT		
運動遂行時における一次感覚野および運動前野の役割について一脳磁図を用いた研究－ 9,000,000 2,700,000 11,700,000				
■2007－2009	基盤研究C	大山 峰生 OT		
関節肢位に対応した筋への出力情報の解析 2,100,000 630,000 2,730,000				
■2007－2009	基盤研究C	宮岡 洋三 HN		
咀嚼筋活動パターンに基づく食品評価法の確立 3,600,000 1,080,000 4,680,000				
■2007－2009	基盤研究C	村上 信 SW		
医療ソーシャルワーカーの学部教育プログラムに関する研究 3,500,000 1,050,000 4,550,000				
■2007－2008	基盤研究C	桐本 光 OT		
“脳仮想病変”による手指巧緻運動の可塑性：新しい神経機能回復プログラムの開発 2,200,000 660,000 2,860,000				
■2007－2008	若手研究B	瀧澤 一騎 HS		
ウォーミングアップによって遅発性筋痛を軽減させる方法の提案 2,700,000 180,000 2,880,000				
■2008－2011	基盤研究C	蘆田 一郎 HN		
顔面筋の活動パターン解析による食事・食品評価の研究 3,500,000 1,050,000 4,550,000				
■2008－2010	基盤研究C	能登 真一 OT		
医療技術の費用効用分析に関する総合的研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000				
■2008－2010	基盤研究C	新谷 恵子 NR		
腎不全患者の動静脈瘻造設後の血管育成に及ぼす運動に関する研究 3,800,000 1,140,000 4,940,000				
■2008－2010	挑戦的萌芽研究	真柄 彰 AT		
仮想事例とSNSによる保健医療福祉連携教育演習システムの構築と有用性の検証 2,900,000 0 2,900,000				
■2008－2009	若手研究B	川上 心也 HN		
視床下部のレプチン感受性に対する運動トレーニングの影響 3,300,000 990,000 4,290,000				
■2008－2009	若手研究B	清水由美子 NR		
高齢透析者のセルフケアに影響を及ぼす要因－量的および質的アプローチから－ 1,000,000 300,000 1,300,000				
■2008－2009	若手研究（スタートアップ）	遠山 孝司 HS		
親の威厳ある養育態度と教師の威厳ある指導態度に関する研究 2,570,000 771,000 3,341,000				
■2008－2011	若手研究B	梶原 洋生 SW		
介護専門職におけるパラリガルとしての方略とスキルに関する研究 3,300,000 990,000 4,290,000				
■2009－2011	基盤研究B	丸山 敦夫 HS		
筋疲労と運動学習が脳の運動野および感覚野の可塑的变化に及ぼす影響 1,360,000 408,000 1,768,000				
■2009－2011	基盤研究C	西原 康行 HS		
オンゴーイング認知と再現認知による体育教師の実践的力量を高める手法の開発 3,000,000 900,000 3,900,000				
■2009－2011	基盤研究C	川中健太郎 HN		
運動が筋のインスリン感受性を上昇させる分子機序：NR4A遺伝子発現に着目した研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000				
■2009－2011	基盤研究C	後藤 康志 HS		
メディア認知の意識化を組み入れた批判的思考力育成プログラムの開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000				
■2009－2012	基盤研究C	戸出 朋子 SW		
福祉のためのタスク中心教授が第2言語習得過程に及ぼす影響－縦断的事例研究－ 2,100,000 630,000 2,730,000				
■2009－2011	基盤研究C	山本 正治 HN		
ポリピアにおける胆嚢がんの成因に関する環境及び遺伝疫学研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000				

■2009－2011 基盤研究C 斎藤トシ子 HN
骨折および骨密度を指標にビタミンDの骨粗鬆症予防効果を検証するコホート研究の完了 3,500,000 1,050,000 4,550,000

■2009－2011 挑戦的萌芽研究 大西 秀明 PT
運動遂行時における脳血液量と体循環との関係 2,100,000 150,000 2,250,000

■2009－2010 挑戦的萌芽研究 丸山 敦夫 HS
二重経頭蓋磁気刺激法による運動前野・運動野の興奮性と運動観察の基礎的研究 3,200,000 960,000 4,160,000

■2009－2011 挑戦的萌芽研究 塙 佐敏 HS
子どもの歩数が体力・運動強度に与える実証的研究—内的・外的条件との因果関係— 3,000,000 270,000 3,270,000

■2009－2010 若手研究B 寺田貴美代 SW
外国人ドメスティック・バイオレンス (DV) 被害者の実態把握と支援プログラムの構築 1,800,000 540,000 2,340,000

■2009－2010 若手研究B 泉 良太 OT
項目反応理論を用いた健康効用値尺度の測定特性に関する研究 1,400,000 420,000 1,820,000

■2009－2010 若手研究 (スタートアップ) 鈴木 誠 OT
アルツハイマー病に特異的な脳機能の変化に起因する運動機能障害の解明 1,970,000 591,000 2,561,000

■2009－2010 若手研究 (スタートアップ) 佐藤 大輔 HS
要介助者の個人的特性に応じたオーダーメイド水中運動プログラムの開発 2,030,000 609,000 2,639,000

■2010－2013 基盤研究B 大西 秀明 PT
運動遂行に伴う感覚情報処理機構の解明—脳磁図を用いた研究— 9,800,000 2,940,000 12,740,000

■2010－2012 基盤研究C 桐本 光 OT
静的筋収縮時の負荷形式の比較研究—錘を牽引すべきか、不動の物体を押すべきか— 3,200,000 960,000 4,160,000

■2010－2012 基盤研究C 今西 里佳 OT
要介護高齢者における排泄改善に向けた下部尿路リハビリテーションの新戦略 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2010－2012 基盤研究C 大山 峰生 OT
脳磁図を用いた触覚情報処理の脳内処理過程の解明 3,300,000 990,000 4,290,000

■2010－2013 基盤研究C 宮岡 洋三 HN
咀嚼筋活動パターンによる食品評価—風味の関与— 3,600,000 1,080,000 4,680,000

■2010－2012 基盤研究C 三澤 寿美 NR
母親の子育てを支援する祖母のいきいきライフを促進する教育プログラムの実践 2,900,000 870,000 3,770,000

■2010－2012 基盤研究C 田巻 弘之 PT
メカノトランスダクション機構を介した筋—骨組織への磁場及び運動刺激効果 3,000,000 900,000 3,900,000

■2010－2012 若手研究B 相馬 俊雄 PT
脳磁図を用いた温冷覚情報の脳内処理過程の解明 2,900,000 870,000 3,770,000

■2010－2012 若手研究B 山代 幸哉 HS
脳磁図を用いた体性感覚及び聴覚の変化検出機構の解明 2,300,000 690,000 2,990,000

■2010－2011 研究活動スタート支援 島貴 秀樹 NR
地域包括支援センター職員を対象とした特定高齢者施策の推進に関するプログラムの開発 2,100,000 630,000 2,730,000

■2011－2014 基盤C 村山 伸子 NH
現代日本において家庭の経済状況は子どもの食生活と栄養状態に影響するか? 3,900,000 1,170,000 5,070,000

■2011－2013 基盤C 能登 真一 OT
臨床経済学で用いられる効用理論に関する概念的、倫理的問題の体系的な研究 3,900,000 1,170,000 5,070,000

■2011－2013 基盤C 土屋 康雄 CT
新たなスクリーニング法の開発を目指した胆嚢がん特異蛋白の検索 3,900,000 1,170,000 5,070,000

■2011－2013 基盤C 宇田 優子 NR
パーキンソン病患者に対する「災害への備え」教育の継続システム構築に関する介入研究 3,000,000 900,000 3,900,000

■2011－2013 挑戦的萌芽 遠山 孝司 HS
授業実施時のストレスから捉える教師の力量形成の過程 2,800,000 840,000 3,640,000

■2011－2012 若手B 鈴木 誠 OT

関節運動を円滑化する感覚運動ペア刺激法: 相反性抑制の合目的的な機能変化 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2011－2012 若手B 志村 栄二 ST
運動障害性構音障害例に対する携帯型遅延聴覚フィードバックの効果と般化の実証的研究 2,100,000 630,000 2,730,000

■2011－2012 若手B 椿 淳裕 PT
動脈スティフネスと運動時脳血流との関係—脳循環を考慮したリスク管理基準の作成— 2,000,000 600,000 2,600,000

■2011－2012 若手B 佐藤 大輔 HS
浸水が体性感覚野および運動関連領野の興奮性に及ぼす影響 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2011－2013 若手B 下山 好充 HS
高強度インターバル泳における評価法の開発 3,300,000 990,000 4,290,000

■2011－2012 若手B 越中 敬一 HS
身体運動による骨格筋温度の上昇は骨格筋エネルギー代謝を調節する因子か? 2,000,000 600,000 2,600,000

■2011－2014 若手B 山崎 貴子 HN
マイタケを利用した高齢者向け食肉調理法の開発 2,800,000 840,000 3,640,000

■2011－2013 若手B 杉本 洋 NR
「生きづらさ」をめぐるネットワークに関する人類学的研究: 病気の表現活動の事例から 2,000,000 600,000 2,600,000

■2011－2013 若手B 寺田貴美代 SW
異文化を背景に持つ子どもたちのDV被害に関する実態把握と支援プログラムの開発 2,300,000 690,000 2,990,000

■2011－2013 若手B 森脇 健介 HI
関節リウマチに対する生物学的製剤を用いた治療戦略の医療経済評価研究 3,300,000 990,000 4,290,000

■2011－2013 若手B 永野 康治 HS
体幹コントロールが膝前十字靭帯損傷メカニズムに与える影響の解明 2,800,000 840,000 3,640,000

■2012－2014 基盤C 佐藤 敏郎 HS
易転倒高齢者の姿勢と足圧中心動揺特性による転倒スクリーニング方法の開発 4,000,000 1,200,000 5,200,000

■2012－2014 基盤C 蘆田 一郎 HN
顔面表情および眼瞬の味応答に関する研究 2,800,000 840,000 3,640,000

■2012－2014 基盤C 山本 正治 学長 ペルーの地域住民を対象にした胆嚢がん発生に関する環境・遺伝疫学研究 4,200,000 1,260,000 5,460,000

■2012－2014 基盤C 塚本 康子 NR
新たな子宮頸がん予防対策モデルの構築 2,600,000 780,000 3,380,000

■2012－2014 挑戦的萌芽 山本 智章 リハ病院
経頭蓋直流電気刺激が脳機能に及ぼす影響—電気・磁気・光技術の応用— 3,000,000 900,000 3,900,000

■2012－2013 挑戦的萌芽 岩波 潤 OT
運動イメージ能力と鏡像手凝視による皮質脊髄路細胞の興奮性との関連の解明 1,400,000 420,000 1,820,000

■2012－2013 若手B 松本香好美 PT
胸郭筋群に対する筋硬度計の再現性と有用性の検証—呼吸理学療法評価の確立に向けて— 2,200,000 660,000 2,860,000

■2012－2013 若手B 菅原 和広 PT
視覚誘導性運動時の運動前野の機能的役割の解明—MEGとtDCSを用いた研究— 2,700,000 810,000 3,510,000

■2012－2014 若手B 川上 心也 HN
運動が視床下部Sirt1の働きに与える影響とその機序の検討 3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2012－2013 若手B 吉田 重和 HS
日蘭オルタナティブスクール比較研究—教育の質をめぐる論点を取り上げて— 1,500,000 450,000 1,950,000

■2013－2015 基盤B 大西 秀明 PT
運動遂行に伴う感覚情報処理に関する神経基盤の解明—MEGとTMSを併用した研究— 14,300,000 4,290,000 18,590,000

■2013－2016 基盤B 山本 智章 リハ病院
加齢および廃用性骨萎縮における骨代謝の神経性調節の解明 11,500,000 3,450,000 14,950,000

■2013－2015 基盤C 大山 峰生 OT
関節安定性に貢献する筋の機能的役割と制御機構の解明 3,700,000

1,110,000 4,810,000

■2013-2015 基盤C 田巻 弘之 PT

筋収縮張力による骨萎縮の防止効果とメカノセンサーの役割の解明
3,600,000 1,080,000 4,680,000

■2013-2015 基盤C 相馬 俊雄 PT

皮膚への温熱刺激における脳内情報処理過程の解明—脳磁図を用いた研究— 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2013-2015 基盤C 桐本 光 OT

直流電流による両側半球二重刺激法を用いたヒトの運動関連領域の可塑的機能変化の誘導 3,900,000 1,170,000 5,070,000

■2013-2015 基盤C 鈴木 誠 OT

報酬と連合性ペア刺激による新しい運動練習：相反性抑制機能の回復戦略 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2013-2015 基盤C 今西 里佳 OT

要介護高齢者の夜間排尿と睡眠改善プログラムの効果検証—転倒リスク軽減に向けて— 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2013-2015 基盤C 松井由美子 NR

マカッサル市における地域住民参加型母子保健プログラムの開発
3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2013-2015 基盤C 斎藤トシ子 HN

加齢性疾患・生活習慣病の新しい予防因子であるビタミンDの大規模コホート研究 3,900,000 1,170,000 5,070,000

■2013-2015 基盤C 埜 佐敏 HS

子どもの目標身体活動量と運動行動発現・継続に係る心理社会的要因に関する研究 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2013-2015 基盤C 西原 康行 HS

体育授業における教師の実践的力量を高める動画アノテーションシステムの開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000

■2013-2015 基盤C 川中健太郎 HN

不活動が骨格筋インスリン抵抗性を引き起こす機序 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2013-2014 若手B 椿 淳裕 PT

運動時脳血流変動への血管内皮機能の影響と神経活動に由来する皮質血流の描出 3,000,000 900,000 3,900,000

■2013-2014 若手B 泉 良太 OT

費用対効果指標である質調整生存年 (QALY) 算出のための効用値測定尺度の検討 1,500,000 450,000 1,950,000

■2013-2014 若手B 山代 幸哉 HS

両手運動時の感覚運動野における神経調節機構の解明—脳磁図・脳波を用いた研究— 3,000,000 900,000 3,900,000

■2013-2015 若手B 越中 敬一 HS

骨格筋の筋収縮活動が肝臓のインスリン作用を増強する分子機序の解明 3,100,000 930,000 4,030,000

■2013-2015 若手B 岩森 大 HN

トロミ調整食品の使用における新表記法の開発 2,900,000 870,000 3,770,000

■2013-2014 若手B 山口 典子 NR

男性因子不妊にて生殖補助医療を受ける夫の治療への意思決定過程 1,900,000 570,000 2,470,000

■2013-2015 若手B 武田丈太郎 HS

スポーツ立法政策における政策形成過程の分析：スポーツ基本法の制定を事例として 1,100,000 330,000 1,430,000

■2013-2014 研究活動スタート 足立 淳 HS

成城小学校におけるドルトン・プラン受容の史的再検討 1,200,000 360,000 1,560,000

■2014-2016 基盤B 丸山 敦夫 HS

運動技能習熟強化のための筋疲労の活用とその神経生理学的意義 12,600,000 3,780,000 16,380,000

■2014-2017 基盤B 能登 真一 OT

医療経済評価に用いる健康関連QOL値集積のための実証的研究 12,300,000 3,690,000 15,990,000

■2014-2017 基盤C 伊藤 直子 HN

慢性腎不全患者の栄養管理を目的とした食品に含まれるリンの形態に関する研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000

■2014-2018 基盤C 遠山 孝司 HS

自動化とSensemakingの観点から捉える教師の熟達過程に関する研究 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2014-2016 基盤C 下山 好亮 HS

アクティブレストを用いたインターバル泳の開発 3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2014-2016 基盤C 入山 八江 HN

職域における高血圧の予防をねらいとした栄養教育と食環境介入の実践的研究 3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2014-2016 基盤C 峯島 道夫 SW

批判的思考力を育てる教科書準拠の設問と評価基準づくり 3,500,000 1,050,000 4,550,000

■2014-2016 基盤C 土屋 康雄 CT

メタゲノム解析による胆汁中微生物の検索及び検出微生物と胆嚢がん発症との関連 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2014-2018 基盤C 宇田 優子 NR

在宅療養者の災害対処行動とあきらめの気持ち・対処行動の理論モデル構築 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2014-2016 挑戦的萌芽 佐藤成登志 PT

非特異的腰痛者の新規測定評価の提案—腰部多裂筋の筋血流状態— 2,600,000 780,000 3,380,000

■2014-2016 挑戦的萌芽 松本香好美 PT

呼吸介助法と脳活動との関係—呼吸リハビリテーションのエビデンスの樹立に向けて— 3,000,000 900,000 3,900,000

■2014-2016 挑戦的萌芽 中村 郷子 NR

小児専門領域外の医療環境で子どもの権利を保護するための支援方略の開発 2,700,000 810,000 3,510,000

■2014-2016 挑戦的萌芽 坪川麻樹子 NR

手術を受けるてんかん患児に対する個別アレンジ可能なプレパレーション用教材の開発 1,700,000 510,000 2,210,000

■2014-2016 挑戦的萌芽 萩原 邦恵 CT

マウス胎児へのヒトiPS細胞由来肝芽細胞・肝細胞移植方法の確立および安全性の検討 3,000,000 900,000 3,900,000

■2014-2015 若手B 菅原 和広 PT

他動運動時における大脳皮質興奮性変動の解明—MEGとTMSを用いた研究— 3,000,000 900,000 3,900,000

■2014-2015 若手B 高橋 英明 PT

異なったメカニカルストレスが関節軟骨細胞の規律性と代謝機能に及ぼす影響 2,700,000 810,000 3,510,000

■2014-2015 若手B 東原 綾子 (特別研究員) 筋収縮制御時の皮質脊髄路の興奮性変化機構の解明と筋疲労が及ぼす影響の検討 2,100,000 630,000 2,730,000

■2014-2015 若手B 阿部 夏希 HN

非運動性身体活動量の上昇を介して肥満解消を狙った新しい処方に関する基礎研究 1,800,000 540,000 2,340,000

■2014-2016 若手B 浅井 孝夫 CT

チリ胆嚢がん患者の予後規定因子および本症発生に関与する遺伝要因の解明 3,100,000 930,000 4,030,000

■2014-2016 若手B 永野 康治 HS

スポーツ活動中の体幹加速度評価を用いた前十字靭帯損傷危険動作の解明 2,700,000 810,000 3,510,000

■2014-2015 研究活動スタート 佐藤 裕紀 HS

デンマークの従前学習認証に関する質的研究：ノンフォーマル成人教育機関に着目して 2,100,000 630,000 2,730,000

■2014-2015 研究活動スタート 増田 紘之 HN

高強度・短時間運動が骨格筋代謝適応をもたらす分子機序の解明 2,100,000 630,000 2,730,000

■2015-2019 基盤B 澤田 純明 PT

東南アジア大陸部における家畜化プロセスの総合的解明 12,200,000 3,660,000 15,860,000

■2015-2017 基盤C 奈良 貴史 PT

東日本大震災がもたらした縄文時代人骨 3,300,000 990,000 4,290,000

■2015-2017 基盤C 椿 淳裕 PT

脳酸素動態に基づいた運動療法の新しいリスク管理基準の作成 3,600,000 1,080,000 4,680,000

■2015-2017 基盤C 市川 浩 HS

クロール泳におけるキック動作の推進貢献検証と反張膝による影響の調査 3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2015-2017 基盤C 遠藤 和男 HN

検出・同定した胆嚢がん特異蛋白の検証とマスマスクリーニング検査に関する国際共同研究 3,800,000 1,140,000 4,940,000

■2015-2016 挑戦的萌芽 丸山 敦夫 HS

経頭蓋磁気刺激による神経活性増強が最大筋力出力に有効か？ 2,700,000 810,000 3,510,000

■2015-2017 挑戦的萌芽 佐藤 大輔 HS

水中運動時の末梢および中枢循環応答の解明—心血管系イベントのリスク管理指標作成— 2,800,000 840,000 3,640,000
 ■2015—2017 挑戦の萌芽 澤田 純明 PT
 北海道の石灰岩地帯で更新世人類化石を探索する 2,500,000 750,000 3,250,000
 ■2015—2017 若手B 須田 裕紀 AT
 義足のアライメント設定に影響を及ぼす因子と評価項目の分析 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2015—2016 若手B 江玉 睦明 PT
 アキレス腱障害発生機序の解明—解剖学的・生体力学的解析を用いた研究— 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2015—2017 若手B 外川 佑 OT
 軽度半側空間無視症例を対象とした危険運転予測システムの開発 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2015—2016 若手B 前田 史篤 CO
 色光刺激を用いた新しい瞳孔視野計による他覚的視野測定 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2016—2017 若手B 藤井 豊 CT
 糖尿病患者が補助循環中に受ける炎症と臓器傷害の機序解明—小動物モデル評価— 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2016—2019 基盤B 大西 秀明 PT
 運動学習および感覚学習過程における皮質内抑制回路の役割 13,100,000 3,930,000 17,030,000
 ■2016—2018 基盤C 宮岡 洋三 HN
 食品風味による体性・自律反応の研究 3,500,000 1,050,000 4,550,000
 ■2016—2018 基盤C 桐本 光 OT
 経頭蓋静磁場刺激の新たな非侵襲的脳刺激ツールとしての可能性を探る 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2016—2018 基盤C 西原 康行 HS
 大学体育教員の授業力量を高める授業改善動画システムの開発 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2016—2018 基盤C 越中 敬一 HS
 鉄欠乏状況下において身体運動能力の低下を惹起する骨格筋内の分子機序の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2016—2018 基盤C 塙 佐敏 HS
 目標身体活動量が身体活動促進要因及び基礎的身体操作能力習得に及ぼす実証的研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2016—2018 基盤C 寺田貴美代 SW
 DV被害を受けた外国人女性とその子どもへの多文化ソーシャルワーク実践モデルの構築 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2016—2018 基盤C 鈴木 昭 SV
 子ども虐待防止に有効な施策と支援は何か—社会指標と自治体死亡事例検証の分析から— 1,800,000 540,000 2,340,000
 ■2016—2018 基盤C 吉田 重和 HS
 学校種間の接続課題に対する制度的工夫の力点—オランダの事例に着目して 2,100,000 630,000 2,730,000
 ■2016—2018 基盤C 齋藤 翔太 HI
 H.pylori抗体検査とPG検査による胃癌リスク層別化検診の費用対効果分析 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2016—2019 基盤C 斎藤トシ子 HN
 加齢性疾患・生活習慣病予防を目的としたビタミンD大規模コホート研究5年後追跡 3,800,000 1,140,000 4,940,000
 ■2016—2018 基盤C 塚本 康子 NR
 子宮頸がん予防に関する母親の意思決定を支援するサポート・プログラムの構築 2,900,000 870,000 3,770,000
 ■2016—2018 基盤C 勝平 純司 AT
 脳内、身体表現マーカーの融合による装具評価法の開発 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2016—2018 基盤C 塙 晴雄 HS
 心疾患における局所鉄代謝変化の解析と臨床応用への検証 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2016—2018 挑戦の萌芽 田巻 弘之 PT
 骨ひずみ速度を活用した新たな骨刺激法の開発 2,700,000 810,000 3,510,000
 ■2016—2018 若手B 玉越 敬悟 PT
 脳出血後のスキル学習におけるマルチタスクの有効性と脳内作用機序の解明 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2016—2017 若手B 齊藤 慧 PT
 ヒトの感覚機能の回復を促す新たなリハビリテーション手法の開発

3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2016—2017 若手B 高田 大輔 HS
 体育授業における児童の言語活動を充実させる学習指導の検討 1,900,000 570,000 2,470,000
 ■2016—2018 若手B 下門 洋文 HS
 水中ドルフィンキックの力—流れ場関係の解明 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2016—2017 若手B 山本 悦史 HS
 イノベーションのジレンマ論を応用したプロスポーツ経営モデルの構築 1,700,000 510,000 2,210,000
 ■2016—2018 若手B 馬場 康博 HS
 オープンウォータースイミングにおける泳技術評価法の開発と実用化 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2016—2017 若手B 佐藤 晶子 HS
 身体運動が体内のチアミン（ビタミンB1）代謝に及ぼす影響 2,300,000 690,000 2,990,000
 ■2016—2018 若手B 杉崎 弘周 HS
 児童生徒のがんについての意識を高めるデジタル教材の開発とその実証的評価 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2016—2019 若手B 足立 淳 HS
 大正新教育におけるカリキュラム改革の史的再検討—成城小学校を中心に— 2,300,000 690,000 2,990,000
 ■2016—2017 若手B 佐藤 裕紀 HS
 デンマークの生産学校における「従前学習認証」を活用した若者支援に関する研究 1,900,000 570,000 2,470,000
 ■2016—2017 研究スタート 佐伯 史子 PT
 変形性関節症から読み解く縄文時代人の生活誌 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2016—2017 研究スタート 小島 翔 PT
 機械的触覚刺激が皮質脊髄路の興奮性に及ぼす影響 2,300,000 690,000 2,990,000
 ■2016—2017 研究スタート 正木 光裕 PT
 脳性麻痺児の運動発達と関連する体幹・下肢筋の筋量および筋内非収縮組織の解明 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2016—2017 研究スタート 高林 知也 PT
 扁平足に起因する膝蓋大腿関節症の発生メカニズム解明に向けた研究 2,300,000 690,000 2,990,000
 ■2016—2017 研究スタート 中村 絵美 PT
 中学野球選手における投球障害の実態把握と危険因子の解明 2,300,000 690,000 2,990,000
 ■2016—2017 研究スタート 和田 直子 NR
 職場に1人で勤務する産業保健師の資質能力自己評価チェックリストの開発 1,800,000 540,000 2,340,000
 ■2017—2020 基盤B 田巻 弘之 PT
 骨組織の力学的反応性を調節するプレコンディショニング磁場刺激の役割 12,800,000 3,840,000 16,640,000
 ■2017—2019 基盤B 澤田 純明 PT
 土器出現期の日本列島人類を探る：日向洞窟出土縄文草創期人骨の考古科学的研究 13,100,000 3,930,000 17,030,000
 ■2017—2020 基盤B 山本 智章 リハ病院
 骨機械感受性を調節する骨細胞ネットワークとその神経性調節 13,100,000 3,930,000 17,030,000
 ■2017—2019 基盤C 増田 修 CO
 変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚の解明 3,600,000 1,080,000 4,680,000
 ■2017—2019 基盤C 大石 如香 ST
 リハビリテーション的視点からの認知症患者の視覚認知障害の解明 3,500,000 1,050,000 4,550,000
 ■2017—2019 基盤C 能村 友紀 OT
 記憶を強化する新たな脳刺激法の開発：脳律動変調により認知症予備軍の進行を予防する 3,500,000 1,050,000 4,550,000
 ■2017—2019 基盤C 相馬 俊雄 PT
 体幹ベルト付下肢装具歩行における立脚支持と遊脚制御機構の解明 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2017—2019 基盤C 今西 里佳 OT
 要介護者の排泄改善に向けた科学的ケア・リハビリテーションプログラムの効果検証 3,500,000 1,050,000 4,550,000
 ■2017—2020 基盤C 峯島 道夫 SV
 日本人英語学習者のための批判的思考力測定テストの開発 3,300,000 990,000 4,290,000

■2017-2019 基盤C 川村 宏樹 CT
新規NF- κ B抑制因子による炎症性腸疾患における慢性炎症の制御機構 3,700,000 1,110,000 4,810,000

■2017-2019 基盤C 山口 典子 NR
未婚男性における妊孕性の認識構造と「男性の妊孕性に対する自己認識尺度」の開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000

■2017-2020 基盤C 坪川麻樹子 NR
てんかんの手術を受ける患児へのカスタマイズ可能な看護介入プログラムの開発 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2019 基盤C 小山 歌子 NR
特別豪雪地帯の無医地区において高齢者を在宅で看取るケアシステムの構築 2,800,000 840,000 3,640,000

■2017-2019 挑戦的 萌芽 石井 雅子 CO
就学前の幼児に対する視覚機能の管理の充実—デジタル機器の利用から眼を守る— 4,200,000 1,260,000 5,460,000

■2017-2018 若手B 高橋 良光 CT
血液浄化療法中のトラブル「ゼロ」への挑戦—新規ダブルルーメン・カテーテルの開発— 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2018 若手B 江玉 睦明 PT
アキレス腱捻れ構造の形態的・力学的特性—アキレス腱障害発生機序の解明に向けて— 4,600,000 1,380,000 5,980,000

■2017-2018 若手B 宮口 翔太 PT
H.pylori抗体検査とPG検査による胃癌リスク層別化検診の費用対効果分析 3,200,000 960,000 4,160,000

■2017-2018 若手B 小島 翔 PT
機械的触覚刺激による介入が体性感覚野の興奮性および感覚機能に及ぼす影響 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2018 若手B 中村 雅俊 PT
脊髄運動神経活動に着目した筋ステイフネス増加メカニズムの解明 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2019 若手B 浅尾 章彦 OT
随意運動中の末梢磁気刺激が皮質運動野の興奮性に及ぼす影響 3,200,000 960,000 4,160,000

■2017-2019 若手B 奈良 梨央 HS
背泳ぎスタート技術向上を促すフィードバックシステムの開発とトレーニングへの応用 3,200,000 960,000 4,160,000

■2017-2019 若手B 中島 郁子 HS
剣道の稽古・修行で果たされる「人間形成」について—風景構成法を手掛かりとして— 2,600,000 780,000 3,380,000

■2017-2019 若手B 池田 祐介 HS
競泳トラックスタートのための専門的筋力トレーニング法の開発 3,300,000 990,000 4,290,000

■2017-2019 若手B 熊崎 昌 HS
衝突系スポーツ活動による脳振盪のスクリーニング指標の開発と競技復帰への応用 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2019 若手B 増田 紘之 HN
運動が骨格筋の血糖利用を高める機序—ヘキソキナーゼとミトコンドリアに着目して— 3,100,000 930,000 4,030,000

■2017-2018 若手B 生方 北斗 CO
Goldmann視野計を用いた動的視野検査の評価システムの開発 1,900,000 570,000 2,470,000

■2017-2019 若手B 北島 昌樹 NR
がん相談支援の在り方に関する研究—がん相談員とがんサバイバー両者の環境から— 3,300,000 990,000 4,290,000

■2017-2018 研究スタート 間宮 靖幸 OT
DLBにおける幻視と視覚性注意制御の関係性解明に向けた研究 2,100,000 630,000 2,730,000

■2018-2021 基盤B 杉崎 弘周 HS
インクルーシブながん教育実現のための総合的研究 13,200,000 3,960,000 17,160,000

■2018-2020 基盤B 能登 真一 OT
基準的賭け法を用いたQOL値評価とスコアリングアルゴリズムの開発に関する研究 12,300,000 3,690,000 15,990,000

■2018-2020 基盤B 佐藤 大輔 HS
大脳基底核コリン作用を高め運動学習を促進する浸水ニューロモデュレーションの開発 12,600,000 3,780,000 16,380,000

■2018-2020 基盤C 今井 理恵 SW
ジャンル準拠指導と評価に基づくパフォーマンス課題の開発 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2018-2020 基盤C 藤井 豊 CT

重症呼吸器疾患に対する補助循環治療効果を明確にする—小動物モデルでの検討— 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2018-2020 基盤C 下山 博子 NR
助産師のワーク・エンゲイジメントを基盤にした妊娠中期中絶ケア教育モデルの開発 2,600,000 780,000 3,380,000

■2018-2020 基盤C 森下慎一郎 PT
がん患者に対する運動と栄養をあわせた戦略的リハビリテーションプログラムの開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000

■2018-2020 基盤C 佐藤 未希 AT
女性大腿切断者の月経周期における断端周径変化が義足ソケットに及ぼす影響について 2,700,000 810,000 3,510,000

■2018-2020 基盤C 下山 好充 HS
水泳選手におけるスィムエルゴメータを用いた高強度トレーニングの開発 3,400,000 1,020,000 4,420,000

■2018-2020 基盤C 郷 貴博 AT
アライメント調整不良が大腿義足歩行に及ぼす影響—ソケット内転角について— 2,700,000 810,000 3,510,000

■2018-2020 基盤C 渡邊 千春 NR
通院治療を継続する高齢独居がんサバイバーが持つ生活調整力の解明 1,300,000 390,000 1,690,000

■2018-2020 挑戦的萌芽 澤田 純明 PT
SPRing-8のマイクロCTを利用した福井洞窟出土縄文草創期焼骨群の種同定 4,800,000 1,440,000 6,240,000

■2018-2020 挑戦的萌芽 大鶴 直史 PT
バーチャルリアリティとロボティクスを応用した心拍駆動型身体認知変容システムの開発 4,800,000 1,440,000 6,240,000

■2018-2020 若手 佐藤 裕紀 HS
デンマークにおける「生涯にわたるキャリアガイダンス」の機能と役割に関する研究 2,500,000 750,000 3,250,000

■2018-2020 若手 小野まどか HS
教育政策における研究活用に関する日英比較研究 2,700,000 810,000 3,510,000

■2018-2020 若手 谷 賢太郎 HI
視覚障がい者を対象とした心肺蘇生法支援及び教育を行うWebアプリ開発 3,100,000 930,000 4,030,000

■2018-2019 若手 高林 知也 PT
扁平足の足部に生じている協調運動と力学的負荷の解明 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2020 若手 高橋 素彦 AT
小型6軸力覚センサを用いた無拘束な義足歩行・走行の運動力学的評価の開発 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2021 若手 間宮 靖幸 OT
DLBにおける幻視と視覚性制御の関係性解明に向けた多角的検討 3,100,000 930,000 4,030,000

■2018-2019 若手 齊藤 慧 PT
経頭蓋パルス電流刺激がヒトの体性感覚機能にもたらす効果とその神経基盤の解明 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2019 若手 濱上 陽平 PT
不活動性疼痛のメカニズムの解明と予防・治療戦略の開発—電気生理学的手法を用いて— 3,300,000 990,000 4,290,000

■2018-2019 若手 犬飼 康人 PT
前庭ノイズ電流刺激が高齢者のバランス機能に与える持続的効果と長期介入効果の検証 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2020 若手 高橋 英明 PT
軟骨変性をもたらす力学的ストレス強度閾値とメカノセンシング機構の解明 3,300,000 990,000 4,290,000

■2018-2020 若手 正木 光裕 PT
脳性麻痺児の運動、日常生活動作および筋機能の発達と関連する姿勢制御の解明 2,900,000 870,000 3,770,000

■2018-2019 若手 菊元 孝則 PT
膝前十字靭帯損傷の危険因子になり得る衝撃吸収パターンの解明 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2019 若手 平林 怜 PT
過剰な同時収縮を引き起こすla相反抑制と反回抑制のメカニズムの解明 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2020 若手 村田 憲章 CO
緑内障患者の読書困難に対する新しい視覚的リハビリテーションの模索 3,200,000 960,000 4,160,000

■2018-2020 若手 外川 佑 OT
眼球運動計測をリンクさせた軽度半側空間無視症例の自動車運転転訓

練シミュレータ開発 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2018-2020 若手 伊藤 渉 PT
 「切り返し」によるACL損傷のスクリーニングテストの開発
 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2018-2019 若手 中村 絵美 PT
 中学野球選手に対する投球障害予防プログラムの立案と介入効果の
 検証 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2018-2020 若手 山本 悦史 HS
 組織能力に応じたプロスポーツ事業創造モデルの検討 2,000,000
 600,000 2,600,000
 ■2018-2019 若手 太田 大樹 PT
 有効な治療法確立に向けた骨格筋侵害受容体の電気生理学的分類と
 局所的遺伝子解析 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2023 基盤A 大西 秀明 PT
 知覚学習イノベーションー次世代感覚運動学習法の創出を目指して
 ー 34,000,000 10,200,000 44,200,000
 ■2019-2021 基盤B 西原 康行 HS
 VR技術を用いた教師の即時的な課題解決方略を高めるシステムの開
 発 12,000,000 3,600,000 15,600,000
 ■2019-2021 基盤B 田口 徹 PT
 遅発性筋痛の神経・分子機構解明とその理学療法効果の実証
 13,800,000 4,140,000 17,940,000
 ■2019-2022 基盤B 大鶴 直史 PT
 慢性疼痛に対する認知行動療法の効果を向上させる脳内ネットワー
 ク刺激戦略 13,100,000 3,930,000 17,030,000
 ■2019-2022 基盤C 寺田真美代 SW
 多文化ソーシャルワークによるDV被害者支援の包括的サポート・シ
 ステムモデルの開発 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2019-2021 基盤C 桑原 桂 ST
 新潟県の新生児聴覚スクリーニング検査refer児の追跡調査
 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2019-2021 基盤C 大森 豪 HS
 変形性膝関節症の病態解明ー長期疫学および新しい運動学的アプ
 ローチ 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2019-2022 基盤C 戸田 春男 CO
 ルーブリックと生物学的ストレスマーカーを基にした視能訓練士実習
 の改善 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2019-2021 基盤C 勝平 純司 AT
 大腿義足歩行・走行時に生じる代償動作改善を目指した装着型機器
 の開発と評価 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2019-2021 基盤C 塙 晴雄 HS
 サルコペニアと運動による骨格筋内マイオネクチン発現変化が鉄代
 謝に与える影響の検証 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 基盤C 江玉 睦明 PT
 アキレス腱障害患者特有の捻れ構造と力学的特性の解明〜予防法の
 開発に向けて〜 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 基盤C 神田 賢 PT
 骨粗鬆症性椎体骨折患者の後弯変形・2次骨折・慢性腰痛予防プロト
 コルの確立 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2019-2021 基盤C 山代 幸哉 HS
 アスリートの慢性痛に伴う過剰注意の脳活動解明と競技早期復帰を
 目指した評価指標構築 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 基盤C 佐藤 晶子 HS
 短期のチアミン不足とエネルギー源の偏りが安静・運動時のエネル
 ギー代謝に及ぼす影響 1,900,000 570,000 2,470,000
 ■2019-2021 基盤C 越中 敬一 HS
 組織温度の変化に起因したグリコーゲン代謝調節機構の解明とその
 実践的応用方法の検討 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2019-2022 基盤C 岩森 大 HN
 とろみ食品の嚥下調整食への展開に向けた実証的研究 3,300,000
 990,000 4,290,000
 ■2019-2021 挑戦的研究(萌芽) 佐藤 大輔 HS
 水中環境における自己身体認知を高める教育支援システムの開発
 4,800,000 1,440,000 6,240,000
 ■2019-2021 若手研究 萩原 康雄 PT
 再考：海と山の縄文人ー四肢骨骨幹部から縄文人の生活様式を復元
 するー 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2022 若手研究 吉田 輝美 SW
 地域共生社会における地域課題解決型から未来創造型への地域資源
 開発に関する研究 3,200,000 960,000 4,160,000

■2019-2020 若手研究 多々良俊哉 CO
 幼児の屈眼折に影響を与える因子の究明 2,200,000 660,000
 2,860,000
 ■2019-2021 若手研究 若井 由梨 HS
 「イメージや動きの言語化」を促すダンス指導プログラムの考案
 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2019-2021 若手研究 齋藤 翔太 HI
 難病法改正による炎症性腸疾患治療法選択の変化と医療費構造の解
 明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2022 若手研究 大松健太郎 EM
 AR(拡張現実)技術を用いた心停止徴候認識能力向上のための教育
 システムの開発 2,600,000 780,000 3,380,000
 ■2019-2021 若手研究 高橋 智美 NR
 EDVRA-S：認知症高齢者暴力リスクアセスメントスコアシートー簡
 易版の開発 2,800,000 840,000 3,640,000
 ■2019-2020 若手研究 堀田 一樹 PT
 体外循環モデルラットの骨格筋における酸素・循環動態の解明
 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2019-2020 若手研究 宮口 翔太 PT
 運動学習に寄与する神経ネットワークの強化が運動学習効率にもた
 らす効果の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 若手研究 中村 雅俊 PT
 ストレッチングによる筋スティフネス減少メカニズムの解明
 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2020 若手研究 小島 翔 PT
 触覚刺激による介入が皮質間ネットワークおよび知覚学習に及ぼす
 影響 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 若手研究 馬場 康博 HS
 オープンウォータースイミングにおける泳技術評価法の確立とレー
 ス分析法への応用 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2019-2021 若手研究 下門 洋文 HS
 泳技能学習によるヒトの流体ー神経適応過程の解明 3,300,000
 990,000 4,290,000
 ■2019-2021 若手研究 針谷美智子 HS
 小学校児童の逆上がり及び後方支持回転動作を改善するための学習
 指導方略の開発 2,100,000 630,000 2,730,000
 ■2019-2020 若手研究 織部 祐介 RT
 小児循環器疾患の臨床試験における患者の放射線被ばく線量解析
 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2019-2021 若手研究 須田 裕紀 AT
 義足のアライメントとソケット圧力における適合評価の最適化
 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2019-2020 若手研究 生方 北斗 CO
 Goldmann視野計を用いた動的視野検査の技能評価システムの開発
 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2019-2020 研究活動スタート支援 佐宗亜衣子 PT
 縄文人に初期農耕集団の特徴はみられるか？：古病理および形態的
 特徴に基づく検討 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2019-2020 研究活動スタート支援 藤本 知臣 HS
 運動時低体温症の発生メカニズムの解明ー運動時温度感覚に着目し
 てー 2,100,000 630,000 2,730,000
 ■2020-2023 基盤研究(B) 澤田 純明 PT
 日本列島で土器を使い始めた人々の形態・遺伝子・食性・健康状態
 を解明する 13,500,000 4,050,000 17,550,000
 ■2020-2023 基盤研究(B) 奈良 貴史 PT
 長岡藩牧野家の歴代藩主・正室の人類学的再検討 13,500,000
 4,050,000 17,550,000
 ■2020-2023 基盤研究(B) 佐宗亜衣子 PT
 縄文家族論の新展開：廃屋墓出土人骨群の血縁関係と埋葬過程の解
 明 13,700,000 4,110,000 17,810,000
 ■2020-2023 基盤研究(B) 椿 淳裕 PT
 酸素ダイナミクスに基づく大脳皮質微小循環の評価法の開発と検証
 13,800,000 4,140,000 17,940,000
 ■2020-2022 基盤研究(C) 吉田 重和 HS
 比較教育研究におけるISCED活用の可能性ー日蘭の職業教育プログ
 ラムを事例として 1,300,000 390,000 1,690,000
 ■2020-2022 基盤研究(C) 富澤 晃文 ST
 インクルーシブ保育における幼児の包括的な語音聴取評価法の開発
 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2020-2023 基盤研究(C) 斎藤トシ子 HN

加齢性疾患・フレイル予防を目的としたビタミンD大規模コホート研究10年後追跡 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 山口 典子 NR
 男性の妊孕性に関するリテラシーと血中ホルモン測定による妊孕力の実態 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 児玉 直樹 RT
 地域や在宅で使用可能な軽度認知障害スクリーニングシステムの開発と評価 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2023 基盤研究 (C) 宇田 優子 NR
 外来看護で可能な災害への備え支援プログラムの開発—神経難病患者対象— 2,900,000 870,000 3,770,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 佐藤成登志 PT
 看護・介護従事者の職業性腰痛に対する包括的腰痛予防プログラムの効果検証 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2023 基盤研究 (C) 内山 信 ST
 難聴が認知症発症後の患者の臨床像に及ぼす影響の検討 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 相馬 俊雄 PT
 脳卒中片麻痺者における体幹ベルト付下肢装具歩行の機能特性の解明 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 齊藤 慧 PT
 知覚学習の効果を向上させる神経ネットワーク刺激戦略の開発 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 太田 大樹 PT
 遅発性筋痛における機械感受性イオンチャネルの役割の解明 3,400,000 1,020,000 4,420,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 玉越 敬悟 PT
 脳卒中超急性期リハビリテーションの効果検証と新たな治療戦略の開発 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 能村 友紀 OT
 非侵襲的脳刺激と認知トレーニングの融合による認知機能低下抑制プログラムの開発 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2023 基盤研究 (C) 佐藤 敏郎 HS
 運動競技選手の浮き趾を含む足裏形態、履物、関節痛との関係 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 池田 祐介 HS
 水中ドルフィンキックのための専門的技術トレーニング法の開発 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 吉松 梓 HS
 多様なニーズを対象とした自然体験活動の効果の可視化とモデルプログラムの開発 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 基盤研究 (C) 増田 修 CO
 変角光学的要因に基づく「本物らしさ」の質感知覚における脳神経メカニズムの解明 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2023 挑戦的研究 (開拓) 大西 秀明 PT
 小脳の構造・機能・ネットワーク解析による「研ぎ澄まされた感覚」の可視化 19,800,000 5,940,000 25,740,000
 ■2020-2022 若手研究 鷗瀬 亮一 HS
 VR技術を用いた大学野球選手および指導者育成の試み 2,600,000 780,000 3,380,000
 ■2020-2022 若手研究 大野 健 RT
 化学交換飽和移動MRIを用いた脳内グリシン動態モニタリング法の開発 2,600,000 780,000 3,380,000
 ■2020-2022 若手研究 神藏 貴久 EM
 救命のために努力をしてくれた人を救える社会に〜損害補償の実態と動向〜 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 紅林 佑介 NR
 統合失調症の認知機能の改善を目指すモバイルツール併用型外来患者用運動プログラム 2,900,000 870,000 3,770,000
 ■2020-2021 若手研究 菊元 孝則 PT
 膝前十字靭帯再建術後の反対側における衝撃吸収パターンの解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2023 若手研究 田村 俊暁 ST
 時間的・空間的音響解析法を用いた日本語話者に適した発話評価課題の開発 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2020-2023 若手研究 北上 守俊 OT
 高次脳機能障害者に対する科学的根拠に基づいた就労支援プログラムの開発 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 鈴木 祐介 PT
 早期変形性膝関節症の新規抽出アプローチの開発—関節加速度を用

いて— 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 若手研究 長坂 和明 PT
 島皮質の活動をリモート制御する大脳皮質電気刺激法の確立 2,900,000 870,000 3,770,000
 ■2020-2022 若手研究 犬飼 康人 PT
 小脳および前庭器官への電流刺激が小脳抑制ならび前庭脊髄路興奮性に与える影響 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 浅尾 章彦 OT
 反復末梢性磁気刺激と運動イメージの併用による脳—脊髄の可塑性変化の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2021 若手研究 横田 裕丈 PT
 脳律動の個人特性に合わせた皮質活動の変調が二点識別覚へ及ぼす影響の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2021 若手研究 高林 知也 PT
 RigidとFlexibleな扁平足における足部内の動きと力学的負荷の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2021 若手研究 平林 怜 PT
 反復他動運動に着目した効果的な相反性抑制増強法の開発 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 熊崎 昌 HS
 衝突系スポーツ活動中における頭部衝撃の量的可視化と客観的指標の開発 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2020-2022 若手研究 三瀬 貴生 HS
 泳動作中の肩峰下空間距離を推定する手法の開発と肩障害の発生要因解明への応用 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2023 若手研究 松浦由生子 HS
 競泳選手の肩関節障害の発生要因の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2021 若手研究 森下 義隆 HS
 野球打撃におけるスイング速度と正確性の調整スキルの解明 2,900,000 870,000 3,770,000
 ■2020-2022 若手研究 奈良 梨央 HS
 背泳ぎスタートパフォーマンス向上のためのフィードバックシステムの構築 2,800,000 840,000 3,640,000
 ■2020-2022 若手研究 渡辺 優奈 HN
 妊婦の鉄栄養状態と鉄摂取量の関係解明〜鉄代謝調節因子「ヘプジン」に着目して〜 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 長谷川 晃 RT
 虚血性心疾患画像診断支援のための深層量込みニューラルネットワークの開発 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2022 若手研究 藤本 知臣 HS
 低温環境下におけるふるえ発生メカニズムの解明—皮膚温度受容器の役割に着目して— 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2020-2021 研究活動スタート支援 天野 暁 OT
 脳卒中後慢性期上肢運動麻痺に対するCI療法の運動学的効果の検討 2,000,000 600,000 2,600,000
 ■2020-2021 研究活動スタート支援 和田 直子 NR
 子育てと仕事の両立で母親が発揮する調整力の解明—新たな支援モデルの提唱に向けて— 2,000,000 600,000 2,600,000
 ■2020-2021 研究活動スタート支援 池上 諒 PT
 温熱刺激が筋肥大を誘発する新規機構の解明とその応用：温度感受性チャンネルに着目して 2,200,000 660,000 2,860,000
 ■2021-2023 基盤研究 (C) 丸田 秋男 SW
 地域福祉計画は福祉分野の上位計画として機能するか—政令指定都市の検証から— 1,100,000 330,000 1,430,000
 ■2021-2025 基盤研究 (C) 山崎 貴子 HN
 給食施設での栄養評価のためのデータ構築：調理による成分変化と成分表計算値との比較 3,300,000 990,000 4,290,000
 ■2021-2023 基盤研究 (C) 杵渕 洋美 HS
 子どもの高齢者理解を深める福祉教育プログラムの開発と学校教育現場への応用 3,200,000 960,000 4,160,000
 ■2021-2025 基盤研究 (C) 荒川 大靖 SW
 地域における健全育成の環境づくりに対する移動児童館活動の効果に関する研究 3,000,000 900,000 3,900,000
 ■2021-2023 基盤研究 (C) 石井 雅子 CO
 子どもの視力低下のメカニズムを解明—近視抑制法の探索— 3,100,000 930,000 4,030,000
 ■2021-2023 基盤研究 (C) 佐近 慎平 HS
 幼児の転倒時に手をつき顔を守る動作学習のための保育者の四つ違い位運動指導法開発 3,000,000 900,000 3,900,000

■2021－2023 基盤研究 (C) 安達 哲浩 EM
VRを活用した臨地実習前メディア授業教材の製作 3,200,000
960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 原口 彩子 SW
「心の支えイメージマップ」の自殺予防に対する有効性と学校教育導入の検討 2,300,000 690,000 2,990,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 川村 宏樹 CT
多発性骨髄腫患者にて分子標的薬グラツムマブによる輸血検査偽陽性の新規回避法の確立 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 八坂 敏一 HN
痛みと痒みのラベルドライン神経回路における脊髄後角モジュールの同定 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 鈴木 健司 HI
COVID-19が日本の非正規雇用者のメンタルヘルスにもたらしたインパクトの解明 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 佐藤 郁美 NR
出産準備教室における乳児応急手当教育システムの開発と有効性の検証 3,100,000 930,000 4,030,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 堀田 一樹 PT
体外式膜型人工肺モデルラットにおける骨格筋収縮時の酸素・循環動態の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2024 基盤研究 (C) 大石 如香 ST
認知症早期診断のための質感認知障害と物体認知障害の関係性および神経基盤の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 宮口 翔太 PT
マイクロオフライン学習の強化による新たな運動学習プログラムの考案 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2024 基盤研究 (C) 久保 雅義 PT
扁平足のタイプ別に基づく足部ランニング障害の発生機序と治療法の解明 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 増田 紘之 HN
代謝伝達物質としての乳酸から見てきた、活動筋－交感神経フィードバック神経回路 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2024 基盤研究 (C) 永井 徹 HN
サルコペニア嚙下機能低下高齢者口腔栄養養双方方向プログラムの実証研究 3,200,000 960,000 4,160,000
■2021－2025 基盤研究 (C) 外川 佑 OT
リモート実車評価システムと患者教育・療法士育成プラットフォームの構築 3,300,000 990,000 4,290,000
■2021－2024 基盤研究 (C) 前田 雄 AT
3Dプリンタへ応用する脳卒中片麻痺者の評価用短下肢装具に関する研究 3,100,000 930,000 4,030,000
■2021－2024 基盤研究 (C) 郷 貴博 AT
下腿義足ソケットの快適性向上を目指した3D-CADによるソケット設計手法の確立 2,800,000 840,000 3,640,000
■2021－2023 基盤研究 (C) 今西 里佳 OT
地域在住高齢者の排泄改善プログラムの効果検証－介護予防・転倒予防を目指して－ 3,300,000 990,000 4,290,000
■2021－2023 挑戦的研究 (萌芽) 杉崎 弘周 HS
ストレス対処の技能に関する教育プログラムの開発と評価

厚生労働省 (代表者)

開始年度 終了年度 研究種目 研究者氏名 所属学科
研究課題 研究費
■2004－2004 厚生労働科学研究 藤澤 由和 SW
医療情報投資の経済的效果推計と投資効果向上インフラに関する研究 3,800,000
■2004－2004 厚生労働科学研究 高橋 榮明 学長 国内外諸領域における他領域ADR制度などに関する研究 5,000,000

学内奨励金 (代表者)

年度 奨励金名称 氏名 学科
研究課題名 奨励金額

2002年度

■2002 萌芽的研究費 杉山 貴子 ST

4,900,000 1,470,000 6,370,000
■2021－2023 挑戦的研究 (萌芽) 能登 真一 OT
AIソフトを用いた認知症予防のための遠隔リハビリテーション技術の開発 4,900,000 1,470,000 6,370,000
■2021－2023 若手研究 中井 良育 SW
医療・保健・福祉分野に従事する対人援助職の人材確保に関する研究 2,100,000 630,000 2,730,000
■2021－2024 若手研究 渡邊 洋子 SW
特別養護老人ホームで最期を迎えた入居者へのEOLケア理論生成に関する研究 2,100,000 630,000 2,730,000
■2021－2023 若手研究 北谷 亮輔 PT
視覚変位状態での姿勢制御時の分配性注意機能の解明と半側空間無視への介入手段の考案 3,600,000 1,080,000 4,680,000
■2021－2024 若手研究 伊藤さゆり ST
本邦における手話の失語症の実態調査および評価方法の開発 3,600,000 1,080,000 4,680,000
■2021－2022 若手研究 関根 千恵 PT
競技スポーツ選手の仙腸関節性腰痛の発生機序解明 3,600,000 1,080,000 4,680,000
■2021－2023 若手研究 伊藤 渉 PT
「切り返し」によるACL損傷の評価アルゴリズムの開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000
■2021－2024 若手研究 芝田 純也 PT
シン磁場刺激を実装したマルチモーダルアプローチによるヒト脳可塑性の解明と応用 3,600,000 1,080,000 4,680,000
■2021－2024 若手研究 谷 賢太郎 HI
六点入力方式を利用したモバイル端末向け新型入力装置の開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000
■2021－2022 若手研究 高橋 良光 CT
透析用カテーテルの機能不全を防止する自動制御装置の開発 3,500,000 1,050,000 4,550,000
■2021－2023 若手研究 佐々木一真 CT
透析患者のシャント音を用いたバスキュラーアクセス機能評価に関する研究 3,600,000 1,080,000 4,680,000
■2021－2022 研究活動スタート支援 渡辺 恵 SW
DV児童虐待被害母子への効果的支援とは何か。母子生活支援施設入所からの検討 900,000 270,000 1,170,000
■2021－2022 研究活動スタート支援 田宮 創 PT
座位時間の延長に伴う毛細血管および導管動脈の機能変化と機序解明 2,400,000 720,000 3,120,000
■2021－2022 研究活動スタート支援 笠井 聡 RT
胸部単純X線画像を用いた肺年齢推定によるCOPDの早期検出および患者介入の実現 2,200,000 660,000 2,860,000
■2021－2024 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) (令和3 (2021) 採択分) 児玉 直樹 RT
感染性呼吸器疾患の予後予測を可能にするトリアージ型診断支援システムの開発と評価 14,700,000 4,410,000 19,110,000
■2021－2022 学術変革領域研究 (A) 萩原 康雄 PT
人骨の形態解析に基づく中国文明形成期集団の行動様式の復元 4,000,000 1,200,000 5,200,000

■2005－2007 厚生労働科学研究 藤澤 由和 SW
国内外における医療事故・医事紛争処理に関する法制的研究 25,000,000
■2007－2009 厚生労働科学研究 能登 真一 OT
高齢者の生活機能低下に対する作業療法の効果に関する研究 7,350,000

訓練モダリティの違いによる動詞の理解・産出への影響 200,000
■2002 萌芽的研究費 矢沢由佳里 リハ病院
高齢者の年齢身体機能の調査 200,000
■2002 萌芽的研究費 大西 秀明 PT
誘発脳磁界を用いた運動野マッピングに関する基礎的研究 200,000

- 2002 萌芽的研究費 伊藤 直子 HN
低温スチーミング調理中における食品成分等の解析と難食用部分の利用開発 200,000
- 2002 萌芽的研究費 能登 真一 OT
痴呆性高齢者における相貌認知の評価についての研究 200,000
- 2002 発展的研究費 佐野 明子 HN
筋グリコーゲン合成におけるフィードバック抑制機序 300,000
- 2002 発展的研究費 岡村 太郎 OT
精神障害領域作業療法における作業療法の効果判定とその評価方法について 300,000
- 2002 研究刊行費 横山 豊治 SW
ソーシャルワーカーの教育・研修に関する研究 300,000

2003年度

- 2003 萌芽的研究費 矢沢由佳里 リハ病院
スポーツ選手の障害分類身体特徴 200,000
- 2003 萌芽的研究費 古西 勇 PT
車椅子駆動エネルギー消費に対するシートユニットの影響 200,000
- 2003 萌芽的研究費 山崎 貴子 HN
低温スチーミング調理併用による食品成分の変化と難食用部分の利用開発 200,000
- 2003 萌芽的研究費 貝淵 正人 OT
脳卒中片麻痺者における脱衣の動作解析 200,000
- 2003 萌芽的研究費 西原 康行 HN
大学スポーツ教育における目標値（知）の設定に関する研究 200,000
- 2003 萌芽的研究費 山本 智章 リハ病院
motion capture system を用いた3次元運動動作解析システムによる少年野球選手の投球動作解析 200,000
- 2003 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
杖使用歩行時の杖にかかる至適荷重量の検討 300,000
- 2003 発展的研究費 濱口 豊太 OT
遠隔リハビリテーション講義形態に関する研究—臨床実習等遠隔支援に向けて— 200,000
- 2003 発展的研究費 廣瀬 清人 SW
口頭伝承としての笑話にみられる心的機能 298,000

2004年度

- 2004 萌芽的研究費 長岡 輝之 リハ病院
転倒のメカニズムについて 200,000
- 2004 萌芽的研究費 石黒 圭広 PT
歩行時の転倒反応 200,000
- 2004 萌芽的研究費 大山 峰生 OT
前腕、手関節位および指屈伸筋の筋収縮量の違いが手根骨・伸筋の及ぼす影響 200,000
- 2004 萌芽的研究費 藤澤 由和 SW
ソーシャル・キャピタルと健康の関連性に関する実証的基礎研究 200,000
- 2004 萌芽的研究費 西原 康行 HN
エスノグラフィによる身体知の認知心理学的研究 200,000
- 2004 萌芽的研究費 岩森 大 HN
種々のゼリーテクスチャー特性及び咀嚼・嚥下に伴う筋活動に関する研究 200,000
- 2004 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
歩行補助具（杖）の機能分析及び至適荷重量の検討 300,000
- 2004 発展的研究費 能登 真一 OT
痴呆性高齢者における健康関連QOLの測定とその背景因子について 300,000
- 2004 発展的研究費 佐野 明子 HN
高強度短時間運動が骨格筋糖代謝に及ぼす影響 300,000

2005年度

- 2005 萌芽的研究費 濱野 強 SW 300,000
- 2005 萌芽的研究費 米林 喜男 SW 300,000
- 2005 萌芽的研究費 佐藤 勝弘 HS 300,000
- 2005 萌芽的研究費 玉木 有子 HN
高齢者用食品の嗜好性に関する研究 300,000
- 2005 萌芽的研究費 藤澤 由和 SW 300,000

- 2005 萌芽的研究費 蘆田 一郎 HN
食品の「のど越し」の筋電図の評価に関する検討 300,000
- 2005 萌芽的研究費 古沢 明美 PT
右指屈曲運動時における大脳皮質血流変化について—近赤外線分光法による検討— 300,000
- 2005 萌芽的研究費 瀧澤 一騎 HS 300,000
- 2005 萌芽的研究費 三浦 貴之 HS 300,000
- 2005 萌芽的研究費 佐藤 厚 リハ病院
非典型側性化脳損傷における認知機能障害の研究 300,000
- 2005 発展的研究費 西原 康行 HS
スポーツ指導者の再現認知による教授力量形成に関する研究 1,000,000
- 2005 発展的研究費 大西 秀明 PT
基本動作時における膝窩筋活動について 1,000,000
- 2005 発展的研究費 能登 真一 OT
回復期リハビリテーション医療の費用効果分析 600,000
- 2005 発展的研究費 川中健太郎 HN
高強度短時間運動が骨格筋インスリン感受性に及ぼす影響 1,000,000
- 2005 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
立位・歩行時における杖使用上肢の筋張力の推定 1,000,000
- 2005 発展的研究費 小林 量作 PT
市町村、介護保険施設における転倒予防事業のマニュアル作成及び支援システムの確立 633,000
- 2005 発展的研究費 椿 淳裕 PT
頸部回旋角度の違いによる呼吸機能及び呼吸筋力の変化 1,000,000
- 2005 発展的研究費 塚原 典子 HN
後期高齢者の健康寿命延伸支援対策の検討—転倒予防と食生活管理を中心に— 550,000
- 2005 発展的研究費 濱口 豊太 OT 1,000,000
- 2005 学際的研究費 藤澤 由和 SW 1,000,000
- 2005 学際的研究費 牧田 光代 PT 500,000
- 2005 学際的研究費 今村 徹 ST
認知症（痴呆）臨床における総合的研究 800,000
- 2005 学際的研究費 川田 洋子 OT 600,000
- 2005 学際的研究費 立石 学 リハ病院 300,000
- 2005 教育研究費 後藤 康志 HS
医療・福祉・教育専門職育成における反省的思考を促すポートフォリオシステム開発の基礎的研究 499,000
- 2005 教育研究費 岡村 太郎 OT
大学生の無気力現象の特徴と教育の課題 500,000

2006年度

- 2006 萌芽的研究費 押木利英子 PT
ポリオ罹患患者におけるポスト・ポリオ症状の加齢変化 300,000
- 2006 萌芽的研究費 相馬 俊雄 PT
自発運動における大脳皮質運動野の神経生理学的研究—3種類の手指自発運動における運動関連脳磁場の検討— 300,000
- 2006 萌芽的研究費 佐藤成登志 PT
新しい牽引治療器（DRX9000）を用いた腰痛症の治療法 300,000
- 2006 萌芽的研究費 岩森 大 HN
高齢者にも食べやすい鶏肉の軟化方法に関する研究 300,000
- 2006 萌芽的研究費 川上 心也 HN
運動が視床下部におけるレプチン感受性に及ぼす影響 300,000
- 2006 萌芽的研究費 豊田 保 SW
「地域の茶の間」が高齢者の社会生活の向上に及ぼす意義 120,000
- 2006 萌芽的研究費 村上 信 SW
診療報酬制度における医療ソーシャル・ワーカーの経済的評価にかかわる行為区分の検討に関する研究 300,000
- 2006 萌芽的研究費 吉田 光爾 SW
思春期におけるメンタルヘルス・リテラシーに関する尺度開発 146,000
- 2006 萌芽的研究費 濱野 強 SW
保健医療サービスの質の改善における利用者経験の有用性に関する研究 300,000
- 2006 萌芽的研究費 坂井 一浩 その他 スポーツ動作にインソールが及ぼす影響—運動学・運動力学および筋生理学的検討— 300,000
- 2006 発展的研究費 大山 峰生 OT

伸筋腱第一区画の隔壁の存在と短母指伸筋の発達との関係 990,000
 ■2006 発展的研究費 濱口 豊太 OT
 臨床実践力を高める学習支援システムの開発 1,000,000
 ■2006 発展的研究費 川中健太郎 HN
 乳酸閾値未満の低強度・長時間運動が骨格筋インスリン感受性に及ぼす影響 1,000,000
 ■2006 発展的研究費 高橋 一栄 HS
 転倒予防関連筋、大腰筋及び大腿四頭筋の加齢に伴う萎縮度と運動効果について 1,000,000
 ■2006 発展的研究費 米林 喜男 SW
 保健医療福祉分野における調査研究二次データ情報の高度利用に関する研究 1,000,000
 ■2006 発展的研究費 藤澤 由和 SW
 ソーシャル・キャピタルと健康の関連性における仮説検証に関する研究 1,000,000
 ■2006 研究刊行費 村山 伸子 HN
 ラオスにおける食品図録の作成による食事評価の標準化 600,000
 ■2006 研究刊行費 園田 恭一・山手 茂 SW
 社会福祉の理論と実践 600,000
 ■2006 研究センター推進費 江原 義弘 PT
 運動機能研究センター：動作解析計測・解析・表示システムの構築 500,000
 ■2006 研究センター推進費 牧田 光代 PT
 介護予防研究センター：介護予防事業への包括的支援 500,000
 ■2006 研究センター推進費 小林 量作 PT
 転倒予防研究センター：虚弱高齢者における振動刺激トレーニングの介入効果の検証 500,000
 ■2006 研究センター推進費 佐藤 勝弘 HS
 地域スポーツクラブ支援センター：総合型地域スポーツクラブ指導者養成・トレーナー養成プログラム、マネジメントシステム開発 300,000
 ■2006 学際的研究費 米林 喜男 SW
 保健医療福祉サービスにおける包括化の社会的基盤に関する研究 1,000,000
 ■2006 学際的研究費 大鍋 寿一 その他 障害者支援におけるエンパワメントの双方向性に関する研究 1,000,000
 ■2006 教育研究費 石山 香織 NR
 推薦入学予定者に対する入学前課題学習による動機づけの効果 300,000
 ■2006 教育研究費 中山 和美 NR
 大学生の性の健康を保持・増進する健康教育教育方法の開発 500,000

2007年度

■2007 萌芽的研究費 大島 一郎 HN
 筋線維型の異なる骨格筋筋線による糖代謝制御因子SIRT1の発現に関する組織学的研究 408,000
 ■2007 萌芽的研究費 川上 心也 HN
 運動が脳のSirt1遺伝子発現に及ぼす影響 400,000
 ■2007 萌芽的研究費 渡邊 敏文 SW
 高齢者ケアサービスにおける利用者評価に関する研究 270,000
 ■2007 萌芽的研究費 志村 栄二 ST
 在宅要介護高齢者のコミュニケーション課題に対するアセスメント状況 200,000
 ■2007 萌芽的研究費 豊田 保 SW
 北海道夕張市における公民協働による福祉施策の構築についての研究 96,000
 ■2007 萌芽的研究費 大槻美智子 SW
 高齢者のための「ウエルネス型健康ノート」作成の試み 180,000
 ■2007 発展的研究費 川中健太郎 HN
 低強度・長時間運動が骨格筋インスリン感受性を上昇させる機序 1,000,000
 ■2007 発展的研究費 大山 峰生 OT
 手関節掌背屈位が深指および浅指屈筋の筋活動に及ぼす影響 1,000,000
 ■2007 発展的研究費 大西 秀明 PT
 運動制御過程における大脳および小脳の役割について一近赤外線分光法を利用した実験― 1,000,000
 ■2007 発展的研究費 村山 伸子 HN

ラオスにおける急速な環境変化での栄養転換に関する研究 1,000,000
 ■2007 発展的研究費 藤澤 由和 SW
 Area Classification Systemに基づく大規模社会調査の検証研究 1,000,000
 ■2007 発展的研究費 濱野 強 SW
 ソーシャル・キャピタル概念に基づく心の健康づくりの実証的研究 999,000
 ■2007 発展的研究費 久保 雅義 PT
 多重課題への対応能力が高齢者の転倒リスクに果たす役割 800,000
 ■2007 発展的研究費 米林 喜男 SW
 保健医療分野における調査データの統合に基づくサービス提供に関する研究 774,000
 ■2007 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
 杖を使用した動的立位バランスの検討 582,000
 ■2007 発展的研究費 後藤 康志 HS
 テキストマイニングの自由記述解析によるクリティカルシンキング関連要因の探索的研究 600,000
 ■2007 発展的研究費 古沢アドリアネ明美 PT
 Human motor-cortex oxygenation changes in response to unipedal balance control task 600,000
 ■2007 発展的研究費 桐本 光 OT
 “脳仮想病変”による手内筋出力制御機能の可塑性 500,000
 ■2007 研究刊行費 小林 量作 PT
 「転倒予防10種（自主）運動」のDVD、「リズム運動」のDVD、運動機能 500,000
 ■2007 研究センター推進費 米林 喜男 SW
 地域包括ケアセンター：ジオデモグラフィクスを用いた地域分析の基づく健康政策に関する研究 500,000
 ■2007 研究センター推進費 江原 義弘 AT
 運動機能研究センター：歩行時の靴内における足部動態を明らかにする研究 400,000
 ■2007 研究センター推進費 村山 伸子 HN
 介護予防研究センター：介護予防評価ソフトを活用した介護予防事業への包括的支援 300,000
 ■2007 研究センター推進費 熊澤さゆみ リハ病院
 転倒予防研究センター：高齢者に対する壁を用いた背伸び運動の効果 130,000
 ■2007 研究センター推進費 大鍋 寿一 AT
 自立生活支援技術研究センター：「空飛び車いす修理技術交流会」と「第23回リハカンファレンスIN新潟2008」の連携推進に向けて 200,000
 ■2007 研究センター推進費 金谷 光子 NR
 こころの健康支援研究センター：精神保健福祉スタッフ間の連携プログラム作成 新潟市におけるこころの健康に関する実態調査 200,000
 ■2007 学長裁量研究費 真柄 彰・永井 洋一 AT・OT
 英国における保健医療福祉専門職連携教育の実態―本学における実践のための基盤研究― 800,000
 ■2007 学長裁量研究費 濱口 豊太 OT
 インターネットを利用した地域高齢者支援システムの開発と運用実証研究 700,000
 ■2007 学長裁量研究費 石原美由紀 NR
 健康寿命に向けた健康支援―介護予防システムの開発― 600,000
 ■2007 学長裁量研究費 戸出 朋子 SW
 用法依存モデルの立場でみる文法の学習段階と文処理過程―大学生による英語縮約関係詞構文の処理― 260,000

2008年度

■2008 萌芽的研究費 能村 友紀 OT
 無作為化比較対照試験による脳卒中片麻痺者を対象とした麻痺側上肢管理に対する介入効果の検討 283,500
 ■2008 萌芽的研究費 大塚 博 AT
 身体内部情報を利用した義肢ソケット製作システムの開発 360,000
 ■2008 萌芽的研究費 岩森 大 HN
 鶏骨格筋の粉砕粒度がパティの硬さに与える影響に関する研究 352,800
 ■2008 萌芽的研究費 岡部 直人 リハ病院
 上肢把持型振動機器（ガリレオ）を用いた肩関節深部筋トレーニング

グ効果に関する研究 280,000
 ■2008 萌芽的研究費 岩部 達也 リハ病院
 筋疲労課題中の大脳皮質活動について；近赤外線分光法（NIRS）を用いた検討 213,500
 ■2008 萌芽的研究費 泉 良太 OT
 健康効用値測定の妥当性の検討—HUI3とEQ-5Dでの比較— 280,000
 ■2008 萌芽的研究費 地神 裕史 PT
 足部・足趾の機能異常が立位・歩行時の足圧分布に与える影響 280,000
 ■2008 萌芽的研究費 渡邊 敏文 SW
 介護サービスのアウトカム評価と情報公開のあり方に関する研究 279,300
 ■2008 発展的研究費 大山 峰生 OT
 手関節拘縮解離装置の開発 1,500,000
 ■2008 発展的研究費 川中健太郎 HN
 運動による骨格筋インスリン感受性上昇の機序—核内受容体NR4A3に着目して— 1,500,000
 ■2008 発展的研究費 斎藤トシ子 HN
 カルシウムサプリメントのランダム化比較試験：骨質の評価 1,500,000
 ■2008 発展的研究費 大西 秀明 PT
 運動遂行時における脳血流量と体循環との関係について 1,500,000
 ■2008 発展的研究費 桐本 光 OT
 一過性に低下した大脳皮質一次運動野の興奮性の回復に有効なアプローチ方法の探索 1,050,000
 ■2008 発展的研究費 西原 康行 HS
 スポーツ教育におけるストップモーション法による教員の力量形 1,050,000
 ■2008 発展的研究費 村山 伸子 HN
 昆虫食の微量栄養素摂取源としての可能性と持続的環境利用のメカ 1,043,000
 ■2008 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
 正中神経および尺骨神経への刺激間隔の違いが体性感覚誘発磁界に与える影響 1,050,000
 ■2008 発展的研究費 古沢アドリアネ明美 PT
 認知課題が運動遂行能力に与える影響—近赤外線脳酸素モニタ利用した検討— 1,050,000
 ■2008 発展的研究費 下山 好充 HS
 水泳の技術的・体力的評価方法の開発とコーチング現場への応用 1,036,700
 ■2008 発展的研究費 濱野 強 SW
 地理学・人口統計学的地区分類に基づく新たな社会調査論の提案 1,047,900
 ■2008 研究刊行費 押木利英子 PT
 NPO法人ネットワークkidsⅡとそれを支える本学ボランティア「学生kids」の7年間活動記録を作成について 400,000
 ■2008 研究センター推進費 江原 義弘 AT
 運動機能研究センター：歩行補助機能を有する高齢者靴の開発のためのデータベース構築の研究 350,000
 ■2008 研究センター推進費 大鍋 寿一 AT
 自立生活支援技術研究センター：「第23回リハエカンファレンスIN新潟2008」成果の海外向け情報発信への取り組み（IOS Pressから出版） 200,000
 ■2008 学長裁量研究費 古西 勇 PT
 地域の在宅高齢者との交流活動と連携教育が臨床実習前の理学療法学生の自己認識の変化に与える影響 400,000
 ■2008 学長裁量研究費 江原 義弘 AT
 院生確保のための大学院遠隔指導法の基盤形成と試行 980,000
 ■2008 学長裁量研究費 真柄 彰 AT
 仮想事例データベースと外部ファシリテーターを用いた保健医療福祉連携教育システムの構築 700,000
 ■2008 学長裁量研究費 後藤 康志 HS
 連携教育における仮想症例データベースのマルチモーダル教材化の試行 300,000
 ■2008 学長裁量研究費 山口 典子 NR
 看護学生ピアサポーターによる高校生に対するピアエデュケーションの効果と関連する因子及び経時的変化 200,000
 ■2008 学長裁量研究費 戸出 朋子 SW
 タスク中心指導の中での外国語知識の変容：用法依存モデルの視点

からの分析 200,000

2009年度

■2009 萌芽的研究費 大島 一郎 HN
 成長速度の異なる家禽骨格筋の神経支配様式に関する意識と行動に与える影響に関する研究 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 遠山 孝司 HS
 大学生の学業面での適応の入試形態による差異についての研究 496,000
 ■2009 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
 リバウンドジャンプ中の接地時間と短距離走パフォーマンスとの関係を探る 400,000
 ■2009 萌芽的研究費 柵木 聖也 HS
 スポーツ傷害の受傷経験がセルフコンディショニングに関する意識と行動に与える影響に関する研究 330,000
 ■2009 萌芽的研究費 久保 雅義 PT
 静止立位での重心動揺軌跡の時系列分析 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 地神 裕史 PT
 保存療法を継続している変形性股関節症患者に対する縦断的運動介入プログラム「股関節教室」の開催とその効果 484,000
 ■2009 萌芽的研究費 椿 淳裕 PT
 血行動態および頭皮血流の変化は近赤外線分光法による脳活動の計測に影響をあたえるか 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 河野 聖夫 SW
 医療ソーシャルワーカーに対する介護支援専門員の認識と役割期待—情報共有や連携をめぐる現状と課題— 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 宮下 栄子 SW
 地域における子どもの安全確保を意図した防犯データベースの構築 495,000
 ■2009 萌芽的研究費 伊東 正裕 SW
 児童養護施設におけるマルトリートメント防止のための研修プログラムの開発 340,000
 ■2009 萌芽的研究費 吉岡 豊 ST
 特異的言語発達障害児一例の発達経過—言語検査および発話分析による検討— 400,000
 ■2009 萌芽的研究費 佐藤 大樹 リハ病院
 聴覚的ノイズの有無におけるContinuous Performance Testを用いた注意機能の比較検討 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 能村 友紀 OT
 虚弱高齢者の作業活動に商店をあてた作業療法的支援の有効性に関する研究 500,000
 ■2009 萌芽的研究費 志村 栄二 ST
 構音障害例に対する遅延聴覚フィードバックの効果 480,000
 ■2009 萌芽的研究費 渡辺 眞澄 ST
 失語症における文の理解・産生能力に関する検査法の開発 500,000
 ■2009 発展的研究費 佐藤 敏郎 HS
 中高年者における健康づくりのための運動プログラムに関する研究 1,475,000
 ■2009 発展的研究費 阿部 薫 AT
 子どもの足の健康を目指した「靴教育」展開のための科学的根拠と実施方法の構築 900,000
 ■2009 発展的研究費 斎藤トシ子 HN
 カルシウムサプリメントのランダム化比較試験における骨質評価：1年後検査 1,500,000
 ■2009 発展的研究費 川中健太郎 HN
 不活動が骨格筋の糖取り込みを低下させる機序とその防止方法 1,500,000
 ■2009 発展的研究費 村山 伸子 HN
 大豆を用いた学校給食が児童の体格と鉄・亜鉛栄養状態に及ぼす影響：パングラデッシュにおけるパイロット・スタディ 1,500,000
 ■2009 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
 運動観察・模倣が短期運動学習における脳の可塑性変化に及ぼす影響 1,500,000
 ■2009 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
 要介助者の個性的特性と水中運動介入による健康関連QOLの変化との関連性—オーダーメイド水中運動プログラムの開発に向けて— 1,500,000
 ■2009 発展的研究費 相馬 俊雄 PT

正中神経への刺激持続時間の違いが体性感覚誘発磁界に及ぼす影響 1,500,000

■2009 発展的研究費 下山 好充 HS
水泳の技術的・体力的評価方法の提案—加速度センサを用いて— 1,500,000

■2009 発展的研究費 後藤 康志 HS
絵画投影法によるメディアに対する態度の日中比較研究 1,500,000
■2009 発展的研究費 鈴木 誠 OT
運動学習に伴う相反性抑制の可塑的变化：訓練前後における運動 1,491,000

■2009 発展的研究費 大西 秀明 PT
自発運動遂行時および触覚刺激時における二次体性感覚野の活動について 1,500,000

■2009 発展的研究費 桐本 光 OT
静的筋収縮時の異なる運動負荷形式が皮質運動関連領野の興奮性に及ぼす影響—経頭蓋直流電流陰極刺激による脳仮想病変作成法の効果— 1,500,000

■2009 発展的研究費 大山 峰生 OT
正中神経刺激時の二次体性感覚野の活動—刺激強度および両側刺激が体性感覚誘発脳磁界に及ぼす影響— 1,500,000

■2009 発展的研究費 貝淵 正人 OT
高齢者の前あき上衣の構造と着衣動作および着やすさとの関係 708,000

■2009 発展的研究費 今西 里佳 OT
要介護高齢者の頻尿および尿失禁に対する仙骨表面治療の電気刺激の効果とQOLに関する研究 1,500,000

■2009 研究刊行費 岡田 史 SW
新カリキュラムにおけるテキスト作成 500,000

■2009 研究刊行費 丸田 秋男 SW
生活支援としての学校ソーシャルワーカー学校を基盤にしたソーシャルワーク実践の方法— 500,000

■2009 研究センター推進費 近藤あゆみ SW
こころの健康支援研究センター：新潟県における薬物乱用問題の現状把握と今後の支援介入方法の検討に関する研究 262,000

■2009 研究センター推進費 石川 知志 HS
アスリートサポートプロジェクトセンター：本学アスリートを対象とした身体機能測定とアスリートサポート体制の構築 700,000

■2009 研究センター推進費 和唐 正勝 HS
アクアヘルス推進プロジェクト研究センター：水中環境におけるヒトの姿勢制御に関する基礎的研究 700,000

■2009 学長裁量研究費 押木利英子 PT
臨床力強化のためのOSCE (Objective Structured Clinical Examination) 導入の試み ～学部・学科共通のSP養成と方法の標準化～ 1,000,000

■2009 学長裁量研究費 松井由美子 NR
臨地実習施設におけるIPW (連携協働Interprofessional Work) の実態調査と本学におけるIPE (連携教育Interprofessional Education) への導入に関する研究 500,000

■2009 学長裁量研究費 真柄 彰 AT
仮想事例データベースと外部ファシリテータを用いた保健医療福祉連携教育システムの構築 1,500,000

2010年度

■2010 萌芽的研究費 菅原 和広 PT
視覚反応課題の運動練習が運動関連脳磁界に及ぼす影響 500,000

■2010 萌芽的研究費 松本香好美 PT
胸郭筋群に対応できる新たな筋硬度計の開発 500,000

■2010 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
走トレーニング手段として適当なリバウンドジャンプの運動様式の検討 500,000

■2010 萌芽的研究費 栗生田博子 PT
学内演習におけるポートフォリオ導入の試み 300,000

■2010 萌芽的研究費 金谷 光子 NR
EPA (経済連携協定) に基づく外国人看護師候補生の研修体制プログラム開発その1—日本におけるフィリピン人看護師候補者の研修経験の持つ意味— 452,000

■2010 萌芽的研究費 杉本 洋 NR
地域保健専門家の捉える人々の暮らしと保健活動における課題 372,800

■2010 萌芽的研究費 松井由美子 NR
小児看護学演習技術演習における教材開発と評価 300,000

■2010 萌芽的研究費 豊田 保 SW
高齢化率日本一の村における小地域福祉活動の現状と課題に関する考察 166,200

■2010 萌芽的研究費 西尾 正輝 ST
Analysis of age-related changes in the acoustic characteristics of voices 288,000

■2010 萌芽的研究費 久保 雅義 PT
体幹運動が傾斜路歩行に及ぼす影響についての運動学および筋電図学的解析 288,000

■2010 萌芽的研究費 甲田 充 NR
大学看護教育における臨床看護師の活用に関する研究—臨床看護師の再教育・能力開発プログラム— 300,000

■2010 萌芽的研究費 近藤 浩子 NR
がん罹患と就労に関する研究—がん罹患後の離職理由の明確化と支 294,000

■2010 発展的研究費 大西 秀明 PT
自発運動に伴う二次体性感覚野の活動について 1,500,000

■2010 発展的研究費 斎藤トシ子 HN
カルシウムサプリメントのランダム化比較試験における骨質評価：最終検査 1,500,000

■2010 発展的研究費 川中健太郎 HN
不活動によって引き起こされる骨格筋インスリン抵抗性の機序 1,500,000

■2010 発展的研究費 村山 伸子 HN
大豆を用いた学校給食が児童の体格と微量栄養素栄養状態に及ぼす影響：バン格拉デッシュにおける介入研究の中間・事後評価 1,500,000

■2010 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
脳磁図を用いた温覚刺激情報の大脳機能局在部位の固定 1,500,000

■2010 発展的研究費 田巻 弘之 PT
運動及び交感神経を介した骨代謝並びに筋骨格系組織微細構造に対する影響—自然発症高血圧ラットを用いた研究— 1,500,000

■2010 発展的研究費 地神 裕史 PT
変形性股関節症患者に対するノルディックウォーキングの実施とその介入効果の検証 1,070,000

■2010 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
浸水環境における感覚関連領野の活動に関する基礎的研究—脳の可塑性を導く新たな入浴法の開発— 1,500,000

■2010 発展的研究費 大山 峰生 OT
二点識別遂行時の体性感覚誘発脳磁界—頭頂葉5野を中心とした活動特性を解明— 1,500,000

■2010 発展的研究費 能村 友紀 OT
在宅虚弱高齢者の転倒恐怖感の軽減効果に関する介入研究 790,000

■2010 発展的研究費 阿部 薫 AT
老人保健施設に入所する高齢者の靴使用と生活レベルの関係 1,500,000

■2010 発展的研究費 桐本 光 OT
感覚・運動誘発電位の回復に適した運動イメージ・パラダイム 1,500,000

■2010 発展的研究費 越中 敬一 HN
骨格筋への熱刺激がAMPK活性と糖・蛋白質代謝に与える影響—成熟骨格筋の短期培養システムを用いた分子生物学的検討— 1,150,000

■2010 発展的研究費 小林 量作 PT
足趾の「踏みしめる力」測定機器の開発とその信頼性の検討 1,120,000

■2010 発展的研究費 今西 里佳 OT
要介護高齢者の夜間排尿実態と睡眠実態からみた夜間行動特性に関する研究 1,500,000

■2010 発展的研究費 山代 幸哉 HS
継続的な運動が感覚認知機構に及ぼす影響について 1,500,000

■2010 発展的研究費 鈴木 誠 OT
学習に伴う運動学的変数および皮質抑制機構の変化：時系列的変化様式の解明 1,500,000

■2010 発展的研究費 椿 淳裕 PT
異なる呼吸方法によるコンディショニング前後の大脳皮質活動の比較—近赤外線分光法による検討— 1,500,000

■2010 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
筋疲労と運動学習が体性感覚野および前頭前野の興奮性に及ぼす影

響 1,500,000

■2010 発展的研究費 山口 典子 NR

若年女性に対する子宮頸癌・乳癌の予防と早期発見に向けたピアエデュケーションの効果 393,000

■2010 発展的研究費 遠藤 和男 HN

胆嚢がん多発国における赤唐辛子の変異原性とアフラトキシン汚染調査 657,600

■2010 発展的研究費 下山 好充 HS

高速水着着用による水泳パフォーマンスの向上要因の評価 900,000

■2010 研究刊行費 西川 薫 NR

日本精神障害者政策史―戦前期を中心として― 500,000

■2010 研究刊行費 西原 康行 HS

スポーツマネジメントにおける暗黙知―フィールドからの観えー 490,000

■2010 研究センター推進費 馬場 康博 HS

アクアヘルス推進プロジェクト研究センター：水泳指導における映像の即時フィードバックシステムの構築 700,000

■2010 研究センター推進費 糟谷 政代 ST

こころの健康支援研究センター：言語聴覚障害例に対する具体的訓練法の検討 543,200

■2010 学長裁量研究費 中山 和美 NR

医療福祉系大学院における教育のあり方 1,000,000

■2010 学長裁量研究費 押木利英子 PT

OSCE導入のための3学科共用SP 1,000,000

■2010 学長裁量研究費 渡邊 敏文 SW

地域における学生の体験型学習に関する研究 500,000

■2010 学長裁量研究費 若井 和則 その他 本学のFDプログラム評価と再構築 500,000

2011年度

■2011 萌芽的研究費 久保 雅義 PT

神経ネットワークを用いた、運動中の膝関節トルクの推定 254,000

■2011 萌芽的研究費 川上 心也 HN

運動が視床下部のSirt1活性に及ぼす影響 490,000

■2011 萌芽的研究費 柵木 聖也 HS

回転円盤型角度計測器を用いた膝関節回旋方向可動域の測定 399,000

■2011 萌芽的研究費 能村 友紀 OT

脳卒中後のうつ状態 (Post-Stroke Depression) に影響する心理的・社会的要因の因子構造の分析 350,000

■2011 萌芽的研究費 山崎 史恵 HS

大学スポーツ選手のライフスキル獲得に関する実践的研究 260,000

■2011 萌芽的研究費 下山 博子 NR

薬物による人工妊娠中絶をうける女性と家族を看護する看護者の役割機能とストレスに関する研究 290,000

■2011 萌芽的研究費 古西 勇 PT

開発途上国におけるCBRのための簡便な脳卒中後アウトカム評価方法の開発 300,000

■2011 萌芽的研究費 高橋 和将 HS

全力疾走時の走速度と接地瞬時の姿勢の関係を探る～スプリントドリルへの応用を目指して～ 300,000

■2011 萌芽的研究費 山口 典子 NR

AID実施施設における看護者の役割認識と看護介入の実態及び具体的支援の検討 189,000

■2011 萌芽的研究費 栗生田博子 PT

運動強度による成長期アスリートの身体アライメントの変化とその障害発生関連因子としての可能性の検証 300,000

■2011 萌芽的研究費 渡辺 恵子 PT

虚弱高齢者の「椅子に座る」動作パターン分類―身体機能との関連の検討 288,000

■2011 萌芽的研究費 佐藤 卓也 リハ病院

口唇閉鎖訓練が摂食・嚥下機能、構音機能に及ぼす効果 260,000

■2011 萌芽的研究費 杉崎 弘周 HS

よい保健授業の効果と要因の実証的研究 252,000

■2011 萌芽的研究費 豊田 保 SW

過疎・限界集落における住民相互の支え合い機能の重要性について 270,000

■2011 萌芽的研究費 松井由美子 NR

保育園を対象とした幼児生活習慣病予防研究 180,000

■2011 発展的研究費 田巻 弘之 PT

超高齢期におけるサルコペニア並びにオステオペニア改善に対する運動及び電磁気刺激の効果 1,500,000

■2011 発展的研究費 大西 秀明 PT

アクティブタッチの神経基盤の解明 1,500,000

■2011 発展的研究費 佐藤 大輔 HS

浸水安静時の体性感覚情報処理の解明―浸水環境を運動学習環境として活用することを目指して― 1,500,000

■2011 発展的研究費 川中健太郎 HN

不活動誘発性インスリン抵抗性の機序 1,500,000

■2011 発展的研究費 大山 峰生 OT

Neviaser法の有用性―長母指外転筋と短母指伸筋の活動特性による検討― 1,500,000

■2011 発展的研究費 相馬 俊雄 PT

皮膚温熱刺激時における大脳皮質体性感覚野の機能局在部位の解明―脳磁図を用いた研究― 1,500,000

■2011 発展的研究費 山代 幸哉 HS

self-produced painの抑制機構について―脳磁図を用いた検討― 1,500,000

■2011 発展的研究費 鈴木 誠 OT

感覚運動ペア刺激による相反性抑制機能の変化：皮質脊髄興奮性変化の解析 1,500,000

■2011 発展的研究費 椿 淳裕 PT

内頸動脈血流変化と大脳皮質血流変化の関係を基にした大脳皮質活動の推定～動脈の硬さを考慮した新しい脳活動の測定方法の提案と検証～ 1,500,000

■2011 発展的研究費 村山 伸子 HN

大豆を用いた学校給食がバングラデシュ児童の成長と貧血改善に影響を及ぼすメカニズムの検討 1,500,000

■2011 発展的研究費 桐本 光 OT

静的筋収縮時の異なる運動負荷形式が感覚誘発電位の“gating”に及ぼす影響 1,500,000

■2011 発展的研究費 越中 敬一 HN

骨格筋の熱応答反応を利用した生活習慣病予防・改善法確立のための基礎的研究 1,500,000

■2011 発展的研究費 斎藤トシ子 HN

加齢性運動器疾患の分子疫学コホート研究：ベースライン調査 1,200,000

■2011 発展的研究費 下山 好充 HS

ビート板の使用方法が水泳中の姿勢に与える影響 1,200,000

■2011 発展的研究費 阿部 薫 AT

足底圧分布測定における荷重中心軌跡の新たな解析・評価システムの構築 1,200,000

■2011 発展的研究費 土屋 康雄 CT

ボリビアにおける寄生虫感染の実態調査と医動物学実習の教材確保 1,200,000

■2011 発展的研究費 遠藤 和男 HN

胆嚢がん多発国ペルーにおける本症発症に関する環境要因の解明 1,200,000

■2011 発展的研究費 佐藤成登志 PT

加齢による脊柱アライメント変化の検討 600,000

■2011 発展的研究費 地神 裕史 PT

運動器の機能向上を目的としたノルディックウォーキングの適切な実施方法の開発とその基礎的研究 846,000

■2011 発展的研究費 菅原 和広 PT

感覚誘導性運動における運動前野の活動特性―脳磁図を用いた研究― 900,000

■2011 発展的研究費 能登 真一 OT

日本語版EuroQoL-5Dimension-5Level (EQ-5D-5L) の妥当性と信頼性に関する研究 600,000

■2011 研究センター推進費 川中健太郎 HN

筋骨格系機能研究推進のための動物実験室拡充・整備 700,000

■2011 学長裁量研究費 亀尾 徹 PT

大学院高度専門職コースにおけるeラーニングシステム構築 500,000

■2011 学長裁量研究費 押木利英子 PT

臨床能力を高めるSP (Simulated Patient) の活用～臨床力強化を目的にした学内実習の向上のために～ 500,000

■2011 学長裁量研究費 能登 真一 教務委員会 カリキュラム改編のためのリメリアル教育やリベラルアーツ教育の現状と将

来像に関する研究 500,000

■2011 学長裁量研究費 浅井 孝夫 CT
工学的知識と医学的知識を効果的に融合する教育プログラムの開発 500,000

■2011 学長裁量研究費 丸田 秋男 SW
学生と教員の協働による地域貢献活動の体系化に関する研究 500,000

■2011 学長裁量研究費 塚本 康子 NR
がん看護専門看護師の役割機能の開発 450,000

2012年度

■2012 萌芽的研究費 阿部 夏希 HN
速歩ならびに軽レジスタンス運動が非運動性身体活動量の上昇を介して肥満を解消する可能性 500,000

■2012 萌芽的研究費 菅原 和広 PT
脳磁図を用いたヒト運動前野の機能的役割の解明 500,000

■2012 萌芽的研究費 岩波 潤 OT
上肢運動機能に対する手のメンタルローテーション課題の介入効果 400,000

■2012 萌芽的研究費 高橋 英明 PT
■2型糖尿病ラット骨量の経時的変化の特徴並びに自発運動が骨質及び骨構造に及ぼす影響 400,000

■2012 萌芽的研究費 柵木 聖也 HS
回転円盤型角度測定器を用いた膝関節回旋方向可動域測定の信頼性と妥当性に関する研究 291,000

■2012 萌芽的研究費 吉田 翔太 リハ病院
補足運動野への陰極経頭蓋直流電流刺激が先行随伴性姿勢調節機能に及ぼす影響 350,000

■2012 萌芽的研究費 松本香好美 PT
呼吸助法が脳血流量に及ぼす影響 350,000

■2012 萌芽的研究費 岩森 大 HN
トロミ調整食品の指標となる攪拌条件の検討 296,000

■2012 萌芽的研究費 串井 修 HN
中山間地域の住民における地場農産物摂取は栄養素摂取量に関係するか 300,000

■2012 萌芽的研究費 須田 裕紀 AT
義足のアライメント変化が歩行へ及ぼす影響—Inset・Outsetアライメント評価指標の確立— 252,000

■2012 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
短距離走パフォーマンス改善を目的としたクロストレーニング手段の検討—高速ペダリング運動がパフォーマンスに与える影響に着目して— 300,000

■2012 萌芽的研究費 栗生田博子 PT
理学療法教育における臨床実習方法の検証—臨床実習における学生評価モデルの構築に向けて— 300,000

■2012 萌芽的研究費 中村 郷子 NR
小児看護における感情労働の特性に関する調査研究 300,000

■2012 萌芽的研究費 松井由美子 NR
インドネシアの伝統的出産における衛生面と栄養面の改善に寄与する研究 300,000

■2012 萌芽的研究費 吉岡 豊 ST
言語発達障害児の表出語彙に関する研究 300,000

■2012 発展的研究費 田巻 弘之 PT
骨萎縮の防止効果を引き起こす電気刺激誘発性の筋収縮張力レベルの検証 1,500,000

■2012 発展的研究費 大西 秀明 PT
表在感覚が一次運動野の興奮性に及ぼす影響 1,500,000

■2012 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
浸水によって生じる体性感覚入力是一次運動野の興奮性を高めるか？—静水および流水による検討— 1,500,000

■2012 発展的研究費 大山 峰生 OT
方形回内筋の機能特性—筋電図学的検討— 1,500,000

■2012 発展的研究費 川中健太郎 HN
不活動誘発性インスリン抵抗性の機序 1,500,000

■2012 発展的研究費 鈴木 誠 OT
高齢アルツハイマー病患者に対する支援プログラムの構築：筋力および生活自立度の改善を目指して 1,500,000

■2012 発展的研究費 相馬 俊雄 PT
皮膚への温熱刺激時における大脳皮質体性感覚野の情報処理過程の

解明 1,500,000

■2012 発展的研究費 越中 敬一 HN
筋活動が肝臓のインスリン作用を増強する分子機序の解析 1,500,000

■2012 発展的研究費 桐本 光 OT
静的筋収縮時の運動負荷形式の違いが循環器系応答に及ぼす影響 1,500,000

■2012 発展的研究費 山代 幸哉 HS
後頭頂皮質の機能的役割の解明—脳磁図を用いた検討— 1,500,000

■2012 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
運動観察および模倣の運動学習で起こる技能習熟度の相違を解明する—心理物理的および脳神経科学的視点から— 1,200,000

■2012 発展的研究費 浅井 孝夫 CT
胆嚢がん多発国ボリビアにおける本症発生に関する遺伝子要因の解明とその発生予防策の構築 1,200,000

■2012 発展的研究費 斎藤トシ子 HN
加齢性疾患・生活習慣病の新しい予防因子であるビタミンDの大規模コホート研究 1,200,000

■2012 発展的研究費 佐藤 敏郎 HS
日常生活自立高齢者におけるスラックラインによる転倒危険因子に及ぼす影響 1,120,000

■2012 発展的研究費 椿 淳裕 PT
高強度運動中の脳組織血流量の低下と皮質脊髄興奮性の変化との関係 1,200,000

■2012 発展的研究費 山口 典子 NR
若年女性を対象とした子宮頸がん予防への意識変化に向けた介入研究 1,050,000

■2012 発展的研究費 阿部 薫 AT
足底圧分布測定の荷重中心軌跡による新しい靴歩行評価システムの検討 1,050,000

■2012 発展的研究費 追手 巍 CT
腎微小循環動態解析による腎不全進行阻止治療の開発 910,000

■2012 発展的研究費 今西 里佳 OT
要介護高齢者の夜間多尿および夜間頻尿に対する足浴の有効性—睡眠効率の変化からの夜間蓄尿症状への効果検証— 1,050,000

■2012 発展的研究費 下山 好充 HS
個人的特性に応じたビート板使用方法の開発 1,050,000

■2012 研究刊行費 永野 康治 HS
スプリント動作における股関節周囲筋の筋動態の解明 500,000

■2012 研究刊行費 村山 伸子 HN

子どもの肥満予防のための食物摂取と食文化（ソーシャル／カルチュラルキャピタル） 500,000

■2012 研究センター推進費 川中健太郎 HN
筋骨格系機能研究推進のための動物実験室拡充・整備 700,000

■2012 研究センター推進費 真柄 彰 AT
モジュールとITシステムを活用した連携教育の確立と普及 525,000

■2012 学長裁量研究費 大西 秀明 PT
健康増進およびリハビリテーション領域においてアジアになるための研究基盤づくり 500,000

■2012 学長裁量研究費 杉崎 弘周 HS
テキストマイニングを用いたよい保健模擬授業の要因分析 500,000

■2012 学長裁量研究費 石川 知志 HS
大学におけるアスリートサポート体制の確立に向けての方策 500,000

■2012 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
アジア地域を対象とした義肢装具自立支援研修トレーニングシステムに関する調査研究 500,000

■2012 学長裁量研究費 押木利英子 PT
学生の学修を保障する学習支援センターの役割と活動の確立 500,000

■2012 学長裁量研究費 吉田 重和 HS
健康スポーツ学分野における「日本語表現法」授業形態の検討—初年次教育の充実に資するための質的研究— 500,000

■2012 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
短潜時および長潜時求心性抑制メカニズムの解明 200,000

■2012 研究科長裁量研究費 江原 義弘 AT
センサーとコンピューター制御に頼らない高機能普及型義足用膝継手の開発 200,000

■2012 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
他動運動が一次運動野の興奮性に及ぼす影響 200,000

■2012 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
外側側副靱帯の動的サポート機能としての回外筋活動特性 200,000
■2012 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
指伸筋、骨間筋、虫様筋のPIP関節伸展機能の検討 200,000

2013年度

■2013 萌芽的研究費 菅原 和広 PT
視覚反応課題時における頭頂連合野・運動前野の機能的役割の解明—経頭蓋直流電流刺激 (tDCS) を用いた研究— 500,000
■2013 萌芽的研究費 江玉 睦明 PT
下腿三頭筋の筋・腱線維の3次元構造の計測とデジタルデータ構築 500,000
■2013 萌芽的研究費 高橋 英明 PT
ラットアキレス腱—骨付着部の経時的変化— 400,000
■2013 萌芽的研究費 須田 裕紀 AT
義足のライメント変化が歩行へ及ぼす影響—Inset・Outsetライメント評価指標の確立— 345,000
■2013 萌芽的研究費 岩波 潤 OT
鏡注視・随意運動時の運動皮質内の興奮性変化と運動イメージ能力の関連 375,000
■2013 萌芽的研究費 吉田 翔太 リハ病院
補足運動野に対する経頭蓋静磁場刺激と経頭蓋直流電流刺激による姿勢調節機能抑制効果の比較 350,000
■2013 萌芽的研究費 奈良 貴史 PT
腓骨の形態変異の原因を求める 349,000
■2013 萌芽的研究費 左近 慎平 HS
幼児の自発的な遊びの難易度と運動能力の関連の解明 299,000
■2013 萌芽的研究費 下山 博子 NR
月経周期におけるアロマオイルを用いたハンドバスの効果に関する基礎的研究 300,000
■2013 萌芽的研究費 申田 修 HN
地産地消の推進と健康増進の両面にとって好ましい消費者の認識パターンを探る 201,000
■2013 萌芽的研究費 松本香好美 PT
ポストリフトが吸気量と胸郭の動きに与える影響 300,000
■2013 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
高速ペダリング運動における姿勢評価とパフォーマンスの関連性の検討—短距離走パフォーマンス改善を目的としたクロストレーニングの構築を目指して— 300,000
■2013 萌芽的研究費 奈良 梨央 HS
重心—浮心間距離の違いがバタ足におけるスイングエコノミーに与える影響 300,000
■2013 萌芽的研究費 柵木 聖也 HS
回転円盤型角度測定器を用いた下腿部回旋方向可動域測定の三次元DLT法による信頼性と妥当性の検討 297,000
■2013 萌芽的研究費 齋藤 慧 PT
電気刺激が随意運動に伴う神経制御機構に及ぼす影響の検討 300,000
■2013 発展的研究費 田巻 弘之 PT
特殊環境を利用した運動効果の創出—2型糖尿病ラットの骨代謝改善に対する検証— 1,500,000
■2013 発展的研究費 大西 秀明 PT
経頭蓋直流電流刺激と持続的皮膚電気刺激の併用が大腦皮質一次運動野の興奮性に及ぼす影響について 1,500,000
■2013 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
持続的な流水刺激が運動遂行時の脳活動およびパフォーマンスに及ぼす影響 1,500,000
■2013 発展的研究費 山代 幸哉 HS
特異的トレーニングがGo/NoGo電位に与える影響 1,444,000
■2013 発展的研究費 川中健太郎 HN
発育期の運動が成熟後の内臓脂肪や非運動性身体活動量 (NEAT) に及ぼす影響 1,500,000
■2013 発展的研究費 桐本 光 OT
直流電流による両側半球二重刺激法を用いたヒトの半球間抑制の可塑的機能変化の誘導 1,500,000
■2013 発展的研究費 大山 峰生 OT
方形回内筋の機能特性—筋電図学的検討— 1,500,000
■2013 発展的研究費 椿 淳裕 PT
脳血流低下が生じる運動強度の同定—動的運動での検証—

1,500,000
■2013 発展的研究費 越中 敬一 HN
骨格筋から分泌されるホルモン様物質FGF21が身体運動によるインスリン作用増強効果において担う役割の解析 1,500,000
■2013 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
筋疲労が非疲労筋の高次運動野—運動野連結の興奮性に与える影響 1,500,000
■2013 発展的研究費 浅井 孝夫 CT
チリ胆嚢がん患者の予後予測因子の解明：歴史的コホート研究 1,500,000
■2013 発展的研究費 佐藤 敏郎 HS
日常生活自立高齢者における転倒予防運動介入の足圧中心動揺評価～足関節方略、股関節方略の違いによる検討～ 1,200,000
■2013 発展的研究費 追手 颯 CT
腎微小循環動態改善による腎不全進行阻止に対する治療効果 1,200,000
■2013 発展的研究費 下山 好充 HS
重心から浮心までの距離は「けのび動作」に影響を与えるか？ 1,200,000
■2013 発展的研究費 土屋 康雄 CT
新潟県におけるノロウイルス集団感染防止対策に関する調査研究 1,200,000
■2013 発展的研究費 能登 真一 OT
Discrete Choice Experiment法を用いた効用値の価値づけに関する研究 1,001,000
■2013 発展的研究費 能村 友紀 OT
要介護高齢者の生活活動時間の違いが心理面に及ぼす影響 1,039,000
■2013 発展的研究費 森脇 健介 HI
骨粗鬆症における二次骨折予防治療の医療経済評価 609,000
■2013 発展的研究費 川村 宏樹 CT
細胞外ATPによる活性化クロファージの微生物排除機能に対する制御機構 1,050,000
■2013 発展的研究費 佐藤成登志 PT
ノルディックウォーキングを取り入れたロコモティブシンドローム予防運動の介入効果について 840,000
■2013 発展的研究費 池上喜久夫 CT
ポリビアにおける寄生虫感染率の低下を目指して—集団検査、集団駆虫と技術指導— 1,050,000
■2013 研究センター推進費 川中健太郎 HN
筋骨格系機能研究推進のための動物実験室拡充・整備 700,000
■2013 研究センター推進費 能登 真一 OT
国内における医療経済研究データベース作成のための予備的研究 472,000
■2013 人文社会系研究費 鈴木 未来 SW
現代中国の社会福祉施設における福祉専門職の職務内容と専門職への処遇に関する調査研究 200,000
■2013 人文社会系研究費 高橋 直樹 HI
新潟医療福祉大学の学生における非言語行動分析と社会的スキル・トレーニングに関する応用研究 200,000
■2013 人文社会系研究費 松本 京介 SW
精神科デイケアメンバーの地域における自己実現のために必要な支援に関する質的研究 200,000
■2013 人文社会系研究費 渡邊 敏文 SW
地域コミュニティの再生過程と政策的評価に関する研究 185,000
■2013 人文社会系研究費 近藤あゆみ SW
精神保健センターにおける依存症再発予防プログラムの効果—メンバーごとに異なる効果の多様性について担当職員らが検討した結果から— 194,000
■2013 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
アジア地域を対象とした義肢装具自立支援研修トレーニングシステムに関する調査研究 600,000
■2013 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
国際義肢装具協会 (International Society for Prosthetics & Orthotics: 以下、ISPOと称す) Schools Category I 認定の取得に関する調査研究 600,000
■2013 学長裁量研究費 永野 康治 HS
大学スポーツマルチサポートシステムの実践研究 500,000
■2013 学長裁量研究費 押木利英子 PT
エンロールメントマネジメントに向けたCRM (Customer

Relationship Managemet) システムによる学習支援センター来所記録・追跡記録のIT化 500,000

■2013 学長裁量研究費 杉崎 弘周 HS
教職実践演習における保健の実施状況についての全国調査 500,000

■2013 学長裁量研究費 吉田 重和 HS
健康スポーツ学科における初年次教育の充実に資するための質的研究—日本語教育とキャリア教育に焦点化して 500,000

■2013 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
他動運動時の運動範囲および運動速度の違いが脳磁界反応に及ぼす影響 200,000

■2013 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
Medial Tibial Stress Syndromeの疼痛発生領域における筋・筋膜の解剖学的構造 200,000

■2013 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
連発末梢神経刺激が短潜時および長潜時求心性抑制に及ぼす影響 200,000

■2013 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
経頭蓋直流電流刺激と運動課題の併用が皮質脊髄路興奮性に及ぼす影響 200,000

■2013 研究科長裁量研究費 佐藤成登志 PT
ノルディックウォーキングが跛行を呈する股関節症患者の骨盤の動き、関節周囲筋群に与える影響 200,000

■2013 研究科長裁量研究費 久保 雅義 PT
階段降段方法の違いが下肢筋力と関節間力に与える影響 200,000

■2013 研究奨励金(追加) 石井 雅子 CO
弱視を早期発見するための効果的な幼児眼科検診プログラムの策定に関する研究 200,000

2014年度

■2014 萌芽的研究費 高橋 良光 CT
豚静脈血管を用いた血液透析用カテーテルの評価システムの開発 500,000

■2014 萌芽的研究費 浅島 宏美 NR
恒温水槽を用いた低温殺菌法を取り入れた母乳の殺菌処理過程における栄養成分と細菌数の変化 500,000

■2014 萌芽的研究費 今西 里佳 OT
倒予防システム構築に関する研究 500,000

■2014 萌芽的研究費 斎藤 慧 PT
電気刺激療法の新たな可能性—刺激パラメーターに関する基礎データの構築を目指して— 450,000

■2014 萌芽的研究費 馬場 康博 HS
平泳ぎにおける上肢・下肢の動作協調性を高めるドリルトレーニングの開発 450,000

■2014 萌芽的研究費 佐藤成登志 PT
社会福祉施設における職業性腰痛の実態調査と腰痛改善・予防プログラムの介入研究 240,000

■2014 萌芽的研究費 高橋 英明 PT
成人ラットと高齢ラットにおけるアキレス腱3次元構造の違い 400,000

■2014 萌芽的研究費 串田 修 HN
成人勤労者の食塩及び野菜・果物摂取量に影響する環境的・社会的要因の検討 375,000

■2014 萌芽的研究費 久保 雅義 PT
特異値分解を用いた肩甲骨の3次元動作解析 375,000

■2014 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
オーダーメイド型バリエーショントレーニングプロトコルの開発を目指したハードルジャンプ運動における下肢運動特性の検討 350,000

■2014 萌芽的研究費 小林 量作 PT
タブレット端末を用いた在宅高齢者の介護予防システムの構築と検証 349,000

■2014 萌芽的研究費 須田 裕紀 AT
義足のアライメント変化が歩行へ及ぼす影響—Inset・Outsetアライメント評価指標の確立— 329,000

■2014 萌芽的研究費 松本香好美 PT
呼吸理学療法手技の違いによる呼吸介助が換気指標及び胸郭の柔軟性に及ぼす影響 350,000

■2014 萌芽的研究費 阿部 夏希 HN
高強度運動が成熟肥満動物の非運動性身体活動量 (NEAT) に及ぼす影響 245,000

■2014 萌芽的研究費 杉崎 弘周 HS
ウェールズにおける包括的健康教育スキームの日本語版作成とその妥当性の検討 350,000

■2014 萌芽的研究費 岩波 潤 OT
上肢筋への電気刺激の制御パターンが皮質脊髄路の興奮性に与える影響 300,000

■2014 萌芽的研究費 泉 良太 OT
車椅子駆動時と安静坐位時の坐圧分布・ずれ力の比較 300,000

■2014 萌芽的研究費 下山 博子 NR
周産期領域看護者のマタニティ・ハラスメントに関する意識と看護に関する調査研究 270,000

■2014 萌芽的研究費 中村 郷子 NR
乳幼児期の子どもの権利を阻害する医療環境要因の解明 300,000

■2014 発展的研究費 大西 秀明 PT
末梢神経電気刺激を利用した一次運動野可塑的变化誘導法の開発 1,500,000

■2014 発展的研究費 田巻 弘之 PT
電気刺激による廃用性筋萎縮の軽減並びに機械伸展活性化Ca2+チャネル阻害剤を併用した筋損傷の防止効果 1,500,000

■2014 発展的研究費 川中健太郎 HN
急性運動終了後に認知機能が高まる機序 1,500,000

■2014 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
両手指運動学習による補足運動野の興奮性が運動野のシナプス可塑性に及ぼす影響 1,500,000

■2014 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
流水刺激法を利用した運動の学習強化プログラムの創出 1,500,000

■2014 発展的研究費 永野 康治 HS
競技中の繰り返し動作に対する疲労の影響と前十字靭帯損傷メカニズムの解明について 1,487,000

■2014 発展的研究費 椿 淳裕 PT
動的運動中の脳血流変動に影響する体循環要因の探索 1,500,000

■2014 発展的研究費 大山 峰生 OT
深指屈筋腱縫合後における早期自動屈曲療法の手関節肢位の検討 1,500,000

■2014 発展的研究費 下山 好充 HS
水泳中の呼吸制限を用いたトレーニング法の開発 1,500,000

■2014 発展的研究費 土屋 康雄 CT
高齢者介護施設におけるノロウイルス集団感染防止対策に関する調査研究 1,500,000

■2014 発展的研究費 浅井 孝夫 CT
プロテオーム解析に基づいたチリ胆嚢がん特異タンパク質の同定 1,350,000

■2014 発展的研究費 越中 敬一 HS
イソマルチュロースの長期摂取が、身体トレーニング効果を増強する可能性の検討 1,350,000

■2014 発展的研究費 玉越 敬悟 PT
脳卒中モデル動物を用いたスキルトレーニングによるグルタミン酸受容体の発現量と機能的役割の解明 1,350,000

■2014 発展的研究費 山代 幸哉 HS
両手運動が体性感覚野に及ぼす影響—効率的な運動学習の検証— 1,350,000

■2014 発展的研究費 桐本 光 OT
両側半球二重刺激による経頭蓋直流刺激が脳半球間抑制に及ぼす影響 1,350,000

■2014 発展的研究費 江玉 睦明 PT
アキレス腱障害の発生メカニズムの解明～3次元デジタルモデルを用いた検討～ 1,200,000

■2014 発展的研究費 菅原 和広 PT
他動運動による脳活動の経時的変化と活動領域間の相互関係の解明—近赤外分光法を用いた研究— 1,200,000

■2014 発展的研究費 追手 巍 CT
実験動物モデルを用いた腎微小循環解析による腎不全への進行因子の同定 1,200,000

■2014 発展的研究費 魚里 博 CO
高齢者における眼調節機能解析法の開発とその老視矯正対策への応用 720,000

■2014 発展的研究費 市川 浩 HS
高速推進時のバサロキックと水中ドルフィンキックの動力学的比較 1,155,000

- 2014 研究刊行費 奈良 貴史 PT
旧石器時代洞窟遺跡における人骨の探求（尻労洞窟遺跡発掘調査） 500,000
- 2014 研究センター推進費 小林 量作 PT
地域中高齢者におけるロコモティブ症候群予防の介入研究 700,000
- 2014 研究センター推進費 能登 真一 OT
医療経済評価のためのQOLデータベースの作成 560,000
- 2014 人文社会系研究費 五十嵐紀子 SW
介護現場における観察とインタビュー調査：役割概念の捉え直しによるコミュニケーション教育の再考察 200,000
- 2014 人文社会系研究費 渡邊 敏文 SW
地域包括ケアシステムにおける地域コミュニティの役割に関する予備的研究 97,000
- 2014 人文社会系研究費 伊東 正裕 SW
児童養護施設における新任職員研修プログラムの作成 196,000
- 2014 人文社会系研究費 山口 智 SW
障がい者相談支援事業所における社会福祉系大学生を活用した新たな社会貢献研究～登録生活支援ワーカー制の導入に向けて～ 200,000
- 2014 人文社会系研究費 豊田 保 SW
全国の市町村の中で男性長寿第1位である長野県松川村の福祉施策に関する調査研究 200,000
- 2014 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究 750,000
- 2014 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
国際義肢装具協会（International Society for Prosthetics & Orthotics：以下、ISPOと称す）Schools Category I 認定の取得に関する調査研究 750,000
- 2014 学長裁量研究費 杉崎 弘周 HS
佐渡地域における子供スポーツ指導の展開 500,000
- 2014 学長裁量研究費 押木利英子 PT
学習支援センターの学習支援サービスの質的・機能的向上を目指す開発研究事業 500,000
- 2014 学長裁量研究費 山口 典子 NR
『女性としての“わたし”を知る』親子健康講座による介入研究 500,000
- 2014 学長裁量研究費 浅井 孝夫 CT
連携教育支援カードゲーム教材のデザインと評価 500,000
- 2014 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
肘筋の単独電気刺激による肘関節伸展および内反制動機能の検討 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 久保 雅義 PT
超音波装置測定時のプローブの押しつけ力が評価指標に与える影響 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
反復運動課題の収縮強度および運動様式とPost-exercise depressionの関係 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 桐本 光 OT
両側半球二重刺激による経頭蓋直流刺激が皮質中継時間に及ぼす影響 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
機械的触覚刺激による皮膚感覚入力が皮質脊髄路興奮性に及ぼす影響 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
長母指伸筋、固有示指伸筋、固有小指伸筋腱の断面積と伸展張力の関係性について 200,000
- 2014 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT
大脳皮質運動野の興奮性の変化が運動準備期の脳酸素動態と循環応答に与える影響 200,000
- 2014 研究奨励金（追加） 外川 佑 OT
脳疾患患者の自動車運転に関する病識低下に対するシミュレータ訓練の効果 250,000
- 2014 研究奨励金（追加） 今西 里佳 OT
排泄ケア教育の教育力向上のための調査研究 250,000

2015年度

- 2015 スタートアップ・チャレンジ研究費 進藤 真紀 CO
眼精疲労の客観的定量評価 250,000

- 2015 スタートアップ・チャレンジ研究費 中澤 翔 HS
有酸素性作業能およびパフォーマンスの向上に必須である科学的長距離走トレーニング分析と追跡研究 250,000
- 2015 スタートアップ・チャレンジ研究費 齋藤 翔太 HI
胃がんハイリスク検診によるリスク分類別スクリーニングの費用対効果分析 250,000
- 2015 スタートアップ・チャレンジ研究費 渡辺 優奈 HN
妊娠間隔が次の妊娠時鉄栄養状態に与える影響 250,000
- 2015 萌芽的研究費 相馬 俊雄 PT
体幹ベルト付下肢装具（CVaid）装着歩行における下肢関節の力学的解析 500,000
- 2015 萌芽的研究費 高橋 良光 CT
ブタ血液を用いた血液透析用カテーテル使用時の設定血流量と実血流量の乖離の評価 500,000
- 2015 萌芽的研究費 久保 雅義 PT
片脚立位の姿勢制御解析 500,000
- 2015 萌芽的研究費 須田 裕紀 AT
義足のアライメント設定に影響を及ぼす因子と評価項目の分析 441,000
- 2015 萌芽的研究費 犬飼 康人 PT
一次運動野の興奮性を増加させる最適な経頭蓋電流刺激方法の究明 450,000
- 2015 萌芽的研究費 山口 典子 NR
男性不妊患者におけるART実施施設への「通いにくさ」の実態調査 400,000
- 2015 萌芽的研究費 齊藤 慧 PT
バースト電気刺激による新たなリハビリテーション方法の開発～臨床応用に向けた基礎的データの構築～ 375,000
- 2015 萌芽的研究費 馬場 康博 HS
環境の違いがクロールの泳動作に及ぼす影響 ～海とプールの比較～ 375,000
- 2015 萌芽的研究費 串田 修 HN
成人勤労者における野菜摂取量が多い集団の食行動パタンの解明 375,000
- 2015 萌芽的研究費 奈良 梨央 HS
性差を考慮した背泳ぎスタート指導支援システム 350,000
- 2015 萌芽的研究費 増田 紘之 HN
運動中に活動筋の糖取り込みが低下して筋疲労が生じる可能性 350,000
- 2015 萌芽的研究費 高橋 和将 HS
プライオメトリックトレーニングにおける「調整力」の影響の検討 350,000
- 2015 萌芽的研究費 川上 心也 HN
マウス卵母細胞の成熟・受精および受精卵の発生に及ぼすSirt1の役割について 345,000
- 2015 萌芽的研究費 佐藤成登志 PT
腰痛エクササイズが腰背部筋疲労の疲労回復過程に与える影響を検討 350,000
- 2015 萌芽的研究費 佐藤 晶子 HS
身体運動が 組織中のチアミン（ビタミンB1）含有量に及ぼす影響 350,000
- 2015 萌芽的研究費 松本香好美 PT
呼吸介助時の手掌面圧の違いが換気量及び胸郭の柔軟性に与える影響 300,000
- 2015 萌芽的研究費 今西 里佳 OT
尿路カテーテルを用いた排尿管理に関する研究 236,000
- 2015 萌芽的研究費 下山 博子 NR
青年期男女における赤ちゃんの泣きに対する行動と影響要因の検討 294,000
- 2015 萌芽的研究費 柵木 聖也 HS
回転円盤型角度測定器“RotorMeter”を用いた膝関節の回旋可動域の定量化 300,000
- 2015 発展的研究費 田巻 弘之 PT
高齢期の運動効果はなぜ現れにくいのか―骨組織に対する力学的刺激の場合― 1,500,000
- 2015 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
学習前の浸水は運動野の可塑性を強化し、運動記憶を高めるか？ 1,500,000
- 2015 発展的研究費 大西 秀明 PT
末梢神経刺激による中枢神経可塑的変化誘導メカニズムの解明

1,500,000
 ■2015 発展的研究費 椿 淳裕 PT
 脳血流増加反応を基盤とした動的運動後の認知機能改善メカニズムの解明 1,500,000
 ■2015 発展的研究費 江玉 睦明 PT
 アキレス腱障害発生メカニズムの検討～捻れ構造に着目して～ 1,500,000
 ■2015 発展的研究費 桐本 光 OT
 静磁場刺激による痛覚誘発電位の可塑的变化の誘導 1,500,000
 ■2015 発展的研究費 澤田 純明 PT
 マイクロCTを用いた形態学的新手法に基づく更新世人類遺跡出土ノウサギ属の種同定 1,452,000
 ■2015 発展的研究費 山代 幸哉 HS
 経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) は高次脳機能にどう作用するか？ 1,500,000
 ■2015 発展的研究費 玉越 敬悟 PT
 脳卒中モデルラットを用いた脳卒中後の運動療法による脳内改善機序の解明 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 阿部 薫 AT
 解剖学的脚長差における姿勢調整反応の法則性に基づく整形靴および足底装具療法の確立 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 川村 宏樹 CT
 成人T細胞白血病の癌関連蛋白USP10によるマクロファージの機能制御機構 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 斎藤トシ子 HN
 加齢性疾患・生活習慣病の予防を目指したビタミンDの大規模コホート研究5年後フォローアップ 1,344,000
 ■2015 発展的研究費 下山 好充 HS
 水泳中の高強度インターバルトレーニング法の開発 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 丸山 敦夫 HS
 優れた球技系選手の視覚―予測運動反応に対する神経可塑的特性について 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 山本 正治 ST
 ポリビア小児の寄生虫感染率低下を目指した集団検査、集団駆虫の効果判定と感染防止マニュアルの策定 1,350,000
 ■2015 発展的研究費 浅井 孝夫 CT
 ペルー胆嚢がん患者のTP53及びK-ras遺伝子変異解析とチリ、ポリビア患者の結果を統合したメタ解析 1,200,000
 ■2015 発展的研究費 大山 峰生 OT
 深指屈筋の筋力測定用握力計の開発とその妥当性 1,200,000
 ■2015 発展的研究費 高橋 英明 PT
 変形性膝関節症モデルラットに対するラパマイシン投与が低酸素誘導因子 (HIF-2 α) に及ぼす影響 1,200,000
 ■2015 発展的研究費 池田 祐介 HS
 競泳スタート動作における下肢関節トルクおよびトルクパワーが身体重心速度に及ぼす影響 1,190,000
 ■2015 発展的研究費 追手 巍 CT
 腎不全への進行阻止に向けた治療戦略：実験モデルを用いた腎微小循環解析 1,200,000
 ■2015 発展的研究費 石井 雅子 CO
 緑内障患者の読み書き障害と視野障害との関連性の研究 400,000
 ■2015 研究センター推進費 小林 量作 PT
 地域中・高齢者におけるロコモティブ症候群予防の介入研究および社会福祉施設における職業性腰痛予防の介入研究 616,000
 ■2015 研究センター推進費 能登 真一 OT
 医療経済評価のためのQOLデータベースの拡張と啓もうのための研究 455,000
 ■2015 人文社会系研究費 寺田貴美代 SW
 自立生活を支える権利擁護システムのモデル構築 200,000
 ■2015 人文社会系研究費 杉崎 弘周 HS
 保健・安全に関する教育プログラムの効果についてのエビデンスの構築：システマティック・レビューを用いて 200,000
 ■2015 人文社会系研究費 小山 歌子 NR
 医療資源不足・過疎化が伸展する中山間地域において高齢者の在宅での看取りを可能にするためのケアシステムの構築 200,000
 ■2015 人文社会系研究費 佐藤 裕紀 HS
 地域資源を活用したシティズンシップ教育の在り方に関する質的研究―新潟市北区版ヒューマンライブラリーの開発・実践に焦点を当てて 200,000
 ■2015 人文社会系研究費 伊東 正裕 SW

児童養護施設における職員研修プログラムの開発―心理劇活用 の検討 100,000
 ■2015 人文社会系研究費 高田 大輔 HS
 小学校体育授業における児童の言語活動を活性化させる学習指導の検討 100,000
 ■2015 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究 750,000
 ■2015 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 国際義肢装具協会 (International Society for Prosthetics & Orthotics: 以下、ISPOと称す) Schools Category I 認定の取得に関する調査研究 750,000
 ■2015 学長裁量研究費 松井由美子 NR
 ベトナムに向けた看護技術教育支援―大学間締結校ホン・バン国際大学を拠点とした教育・臨床現場への技術指導とその評価 500,000
 ■2015 学長裁量研究費 遠藤 和男 HN
 アジアにおける胆嚢がん発症要因解明のための研究組織の確立 500,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 機械的触覚刺激による介入が皮質脊髄路興奮性に及ぼす影響 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 筋疲労課題による中枢神経系疲労のメカニズムについて 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
 肘関節外側の動的支持機能としての回外筋活動特性 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 久保 雅義 PT
 膝蓋腱障害発生メカニズムの解明～3次元デジタルモデルを用いた検討～ 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 軽負荷反復運動課題後の一次運動野の興奮性低下に關する抑制系回路の解明 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 奈良 貴史 PT
 縄文時代人下肢長骨形態の性差 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 脳卒中患者に対する急性期からの集中的な理学療法が機能的予後および転帰に及ぼす影響―神戸市における多施設合同研究― 200,000
 ■2015 研究科長裁量研究費 丸山 敦夫 HS
 最大筋力トレーニングを補助する経頭蓋磁気刺激の処方と安全性に関する研究 200,000
 ■2015 研究奨励金 (追加) 石井 雅子 CO
 幼児期の眼科保健指導の充実―視力検査実施拡大への取り組み― 200,000
 ■2015 研究奨励金 (追加) 五十嵐紀子 SW
 学生参加型のFD活動に関する研究 200,000

2016年度

■2016 スタートアップ・チャレンジ研究費 浅尾 章彦 OT
 補足運動野に対する経頭蓋静磁場刺激により先行随伴性姿勢調節機能の可塑的变化を誘導する 250,000
 ■2016 スタートアップ・チャレンジ研究費 加藤 梓 ST
 アルツハイマー病の遂行機能障害とBPSD (Behavioral and psychological symptoms of dementia). ―Dysexecutive Questionnaire (DEX) とNPIによる検討― 250,000
 ■2016 スタートアップ・チャレンジ研究費 水戸部優太 NR
 集中治療室における急性期からの看護師が行うリハビリテーションによる効果に関する研究 250,000
 ■2016 スタートアップ・チャレンジ研究費 佐藤 未希 AT
 女性大腿切断者の月経周期による断端周径変化が義足ソケットに及ぼす影響 250,000
 ■2016 萌芽的研究費 犬飼 康人 PT
 前庭刺激が立位姿勢制御に及ぼす影響 500,000
 ■2016 萌芽的研究費 宮口 翔太 PT
 軽負荷反復運動後の一次運動野興奮性低下が神経可塑的变化に及ぼす影響 500,000
 ■2016 萌芽的研究費 小島 翔 PT
 機械的触覚刺激の介入方法の違いが皮質脊髄路の興奮性に及ぼす影響 500,000
 ■2016 萌芽的研究費 相馬 俊雄 PT
 脳卒中片麻痺者における体幹ベルト付下肢装具歩行の効果検討

500,000

■2016 萌芽の研究費 能村 友紀 OT

補足運動野に対する経頭蓋直流電流刺激が高齢者の先行随伴性姿勢調節に及ぼす影響 500,000

■2016 萌芽の研究費 高橋 英明 PT

変形性膝関節症モデルラットに対する水中運動療法の効果 450,000

■2016 萌芽の研究費 高林 知也 PT

通常足と扁平足の足部アライメントの違いが後足部と下腿間の協調性パターンに与える影響—odified vector coding techniqueを用いた解析— 450,000

■2016 萌芽の研究費 増田 紘之 HN

ビタミンB1の摂取は、運動中の筋疲労を抑制するか？ 450,000

■2016 萌芽の研究費 大石 如香 ST

脳損傷患者における質感認知障害の検討 450,000

■2016 萌芽の研究費 今西 里佳 OT

夜間頻尿に対する行動療法の効果検証 450,000

■2016 萌芽の研究費 越中 敬一 HS

肝臓から分泌される新規生理活性物質の臨床的な測定意義の検討 450,000

■2016 萌芽の研究費 中村 絵美 PT

肩甲骨周囲筋活動パターンの違いが肩甲骨動態に与える影響—機能的翼状肩甲骨の有無による検討— 356,000

■2016 萌芽の研究費 前田 雄 AT

下腿義足ソケット後壁の高さがソケット適合と歩行に与える効果 320,000

■2016 萌芽の研究費 中澤 翔 HS

血中テストステロン活用による長距離走トレーニングとテーパリングについて 400,000

■2016 萌芽の研究費 伊藤 渉 PT

三次元動作解析による体幹および股関節の回旋が膝関節の内旋に及ぼす影響の解明 350,000

■2016 萌芽の研究費 正木 光裕 PT

脳性麻痺児の運動発達と体幹・下肢筋の筋機能との関連 348,000

■2016 萌芽の研究費 佐伯 史子 PT

椎間関節炎と変形性脊椎症の出現状況から探る縄文時代人の身体活動 350,000

■2016 萌芽の研究費 萩原 康雄 PT

縄文時代集団の活動習慣と中足骨形態との関連性の解明 350,000

■2016 萌芽の研究費 小林 量作 PT

韓国人、日本人高齢者におけるロコモティブ症候群の有訴率、身体運動機能、生活様式との関連についての検証 350,000

■2016 萌芽の研究費 村田 憲章 CO

緑内障性視野障害による読書困難を呈した患者の視線パターン解析 255,000

■2016 萌芽の研究費 奈良 梨央 HS

背泳ぎスタートに関するトレーニング法の開発 300,000

■2016 萌芽の研究費 松本香好美 PT

排泄教育が排泄自立支援業務に与える影響 300,000

■2016 萌芽の研究費 西川 薫 NR

精神科看護師の系統的な現任教育マザーマップの開発 175,000

■2016 発展的研究費 大西 秀明 PT

「デフォルト脳活動」が誘発脳活動および神経可塑性変化に及ぼす影響 1,500,000

■2016 発展的研究費 田巻 弘之 PT

運動刺激の効果はいつ現れているのか—骨細胞の機械刺激感受性と反応性の持続時間の検証— 1,500,000

■2016 発展的研究費 玉越 敬悟 PT

脳卒中発症後早期からのリハビリテーションはなぜ良いのか？—脳卒中モデル動物を用いた基礎的検証— 1,500,000

■2016 発展的研究費 佐藤 大輔 HS

運動学習による運動野の可塑性と小脳抑制の関係に基づいた運動記憶予測指標の開発 1,500,000

■2016 発展的研究費 椿 淳裕 PT

動的運動後に生じる前頭前野の血流増加のメカニズムの検証 1,500,000

■2016 発展的研究費 丸山 敦夫 HS

経頭蓋磁気刺激を伴う最大随意筋収縮トレーニング (MVC with TMS hybrid training) が起こす最大筋出力の増大過程と神経生理学的意義 1,500,000

■2016 発展的研究費 桐本 光 OT

新旧2タイプの非侵襲的脳刺激ツールの介入効果を比較する 1,500,000

■2016 発展的研究費 能登 真一 OT

再発乳癌術後患者を対象としたインテンシブフォローアップの効果 1,475,000

■2016 発展的研究費 江玉 睦明 PT

膝蓋腱炎発生メカニズムの解剖学的・生体力学的検証 1,350,000

■2016 発展的研究費 浅井 孝夫 CT

血清プロテオミクス解析による胆嚢がん予測バイオマーカーの網羅的探索 1,350,000

■2016 発展的研究費 大山 峰生 OT

尺側手根伸筋の肘関節支持機能特性の解明 1,350,000

■2016 発展的研究費 下山 好充 HS

水泳選手の上肢筋に対する高強度トレーニング法の評価 1,350,000

■2016 発展的研究費 中村 雅俊 PT

筋の柔軟性増加のために最適なスタティックストレッチングプロトコルの確立 1,350,000

■2016 発展的研究費 森下慎一郎 PT

造血幹細胞移植患者の筋力増強練習時の自覚的運動強度について 1,350,000

■2016 発展的研究費 川村 宏樹 CT

成人T細胞白血病の癌関連蛋白USP10によるT細胞の機能制御機構 1,350,000

■2016 発展的研究費 阿部 薫 AT

運動器の不調を呈する脚長差例に対する整形靴および足底装具療法による即時的効果と長期的効果の検討 1,200,000

■2016 発展的研究費 大鶴 直史 PT

確率共鳴現象による触覚識別能力改善とその神経学的メカニズムの検討 1,200,000

■2016 発展的研究費 澤田 純明 PT

稲作農耕開始期の生活誌を解明する—中国河姆渡遺跡人骨群の人類学的研究— 1,200,000

■2016 発展的研究費 藤目 智博 OT

手関節拘縮に対する持続牽引装置の手関節に与える影響について 1,200,000

■2016 発展的研究費 山代 幸哉 HS

運動による痛覚抑制の機序解明に関する研究 1,200,000

■2016 発展的研究費 追手 巍 CT

腎不全進行への阻止に向けた治療戦略：アラキドン酸カスケード系修飾による影響 1,170,000

■2016 研究センター推進費 小林 量作 PT

地域・職域におけるロコモティブ症候群の予防—地域在住高齢者・社会福祉施設職員におけるロコモ症候群予防のための介入研究— 250,000

■2016 研究センター推進費 西原 康行 HS

QOLサポーター育成に資するシティズンシップ教育プログラムの開発・実践に関する研究 250,000

■2016 研究センター推進費 山崎 史恵 HS

大学生アスリートの競技活動とパフォーマンスを阻害する要因—スポーツカウンセリングの視点から— 250,000

■2016 人文社会系研究費 高田 大輔 HS

体育授業における効果的な教師の言語行動に関する研究 200,000

■2016 人文社会系研究費 小山 歌子 NR

医療資源不足・過疎化が進展する特別豪雪地帯の無医地区において高齢者の在宅での看取りを可能にするためのケアシステムの構築に関する研究 200,000

■2016 人文社会系研究費 山口 智 SW

障害児支援の政策的な実状と展望—新潟県内の市町村障害福祉計画から 200,000

■2016 人文社会系研究費 杉本 洋 NR

当事者活動の特性から検討する新しい創造的「健康」観の体系化 200,000

■2016 人文社会系研究費 山本 悦史 HS

ソーシャルガバナンスの形成過程におけるスポーツ組織の役割 200,000

■2016 学長裁量研究費 松井由美子 NR

ベトナムに向けた継続的教育支援—大学間締結校ホンバン国際大学を拠点とした教育・臨床現場への技術指導と評価 500,000

■2016 学長裁量研究費 東江由起夫 AT

義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象とし

たトレーニングセンターに関する研究 750,000

■2016 学長裁量研究費 東江由起夫 AT

国際義肢装具協会 (International Society for Prosthetics & Orthotics: 以下、ISPOと称す) Schools Category I 認定の取得に関する調査研究 750,000

■2016 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS

有酸素性運動中の前頭前野活動が空間記憶改善に及ぼす影響 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT

末梢神経電気刺激による筋収縮の有無が一次運動野の興奮性に与える影響 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT

他動運動が皮質脊髄路の興奮性に与える影響 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 田巻 弘之 PT

骨格筋の伸張性収縮速度の違いが筋サテライト細胞の増殖と活性に及ぼす影響 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT

運動開始時の一過性脳血流減少に対するウォーミングアップによる回避効果の検証 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 奈良 貴史 PT

縄文時代人尺骨骨幹部の形態学的検討 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 桐本 光 OT

運動前野に対する経頭蓋静磁場刺激により上肢機能の可塑的变化を誘導する 200,000

■2016 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT

肘関節の動的支持機能としての肘筋の制御機構の解明 200,000

■2016 研究奨励金 (追加) 大森 豪 HS

スポーツ外傷・障害調査と「Jones検診」による選手・学生トレーナーの実践的な教育介入 200,000

■2016 研究奨励金 (追加) 石井 雅子 CO

幼児期の視機能管理の充実一視力検査実施の拡大を目指してー 200,000

2017年度

■2017 スタートアップ・チャレンジ研究費 郷 貴博 AT

アライメント調整不良が大腿義足歩行に及ぼす影響ーソケット内転角についてー 250,000

■2017 スタートアップ・チャレンジ研究費 田村 俊暁 ST

若年健常成人における最大舌圧測定時のPeak rate of change of force値は発声発語機能の新たな定量的評価の指標となり得るか？アップロード 250,000

■2017 スタートアップ・チャレンジ研究費 北島 昌樹 NR

大学を中心としたがん相談支援体制の在り方の検討ー相談者の自律神経に関する予備的調査としてー 250,000

■2017 スタートアップ・チャレンジ研究費 多々良俊哉 CO

平成28年度藤枝市の全3歳児を対象とした屈折調査 250,000

■2017 萌芽的研究費 相馬 俊雄 PT

脳卒中片麻痺者における体幹ベルト付下肢装具歩行の機能特性の解明 500,000

■2017 萌芽的研究費 高林 知也 PT

日本人の正常足と扁平足を区別するための足部評価基準値の作成 500,000

■2017 萌芽的研究費 越中 敬一 HS

卵蛋白質が有する同化促進作用の分子機序の解明と臨床応用の可能性 500,000

■2017 萌芽的研究費 佐藤成登志 PT

脊柱後弯変形による腰痛患者に対する体幹伸展運動補助機器の考案と検証 500,000

■2017 萌芽的研究費 勝平 純司 AT

大腿義足歩行における体幹装具Trunk Solutionの効果 500,000

■2017 萌芽的研究費 浅尾 章彦 OT

経皮的神経電気刺激による感覚入力が身体意識の変容に及ぼす影響 414,000

■2017 萌芽的研究費 奈良 梨央 HS

背泳ぎスタートに関するメカニズムの解明 450,000

■2017 萌芽的研究費 高橋 英明 PT

■2型糖尿病モデルラットにおける骨脆弱性の解明と運動介入効果 450,000

■2017 萌芽的研究費 内山 信 ST

レビー小体型認知症患者における記憶障害の臨床特徴の解明 450,000

■2017 萌芽的研究費 渡邊 博昭 CT

骨格筋電気刺激を用いた筋力トレーニングが脳血流量の改善に有効か？ 450,000

■2017 萌芽的研究費 佐藤 未希 AT

女性大腿切断者の断端容積変化量が義足ソケットの適合に及ぼす影響について 225,000

■2017 萌芽的研究費 宮口 翔太 PT

経頭蓋交流電流刺激による皮質間神経ネットワークの強化が運動遂行機能に及ぼす影響 450,000

■2017 萌芽的研究費 萩原 康雄 PT

上肢骨形態から探る縄文時代人の活動習慣 450,000

■2017 萌芽的研究費 藤井 豊 CT

重症呼吸器疾患に対する体外循環治療効果の検討ー小動物V-V ECMO (Veno-Venous Extra-Corporeal Membranous oxygenation) モデルの確立ー 450,000

■2017 萌芽的研究費 池上喜久夫 CT

口腔領域における、液状化検体細胞診 (LBC) の採取器具による適正標本の評価と細胞形態についての検討 368,000

■2017 萌芽的研究費 遠藤 和男 HN

チリにおける胃がん検診法としてのABC検診の有用性評価と検診体系の整備 400,000

■2017 萌芽的研究費 下門 洋文 HS

キック泳中の下肢筋群調節機能の解明 400,000

■2017 萌芽的研究費 高橋 素彦 AT

全走行過程を対象とした運動学、運動力学的義足走行評価システムの開発 400,000

■2017 萌芽的研究費 中村 絵美 PT

踏込み足接地時の前腕肢位の違いによる投球フォームの変化ー「胸の張り」と肩肘へのストレスに着目してー 373,000

■2017 萌芽的研究費 正木 光裕 PT

脳性麻痺児の日常生活動作、認知の発達と上肢筋の筋機能との関連 400,000

■2017 萌芽的研究費 前田 雄 AT

下腿義足適合評価のために構築した生体計測システムの評価 400,000

■2017 萌芽的研究費 神田 賢 PT

肩こり有訴者へのエクササイズ介入による治療・予防プロトコル確立への検討 370,000

■2017 萌芽的研究費 齋藤 翔太 HI

大腸癌領域におけるPrecision medicineによる医療費削減効果の推定 370,000

■2017 萌芽的研究費 高橋 智美 HI

認知症高齢者暴力リスクアセスメントシート開発のための基礎研究ー認知症高齢者の暴力発生リスク因子の解明ー 350,000

■2017 萌芽的研究費 菊元 孝則 PT

膝蓋大腿関節弛緩性に着目した膝蓋骨可動性の定量的評価ー膝前十字靱帯損傷予防への取り組みー 350,000

■2017 萌芽的研究費 水戸部優太 NR

在宅で暮らす要介護者における頭部掌上腹筋運動の効果および筋活動量の評価 350,000

■2017 発展的研究費 大西 秀明 PT

電気刺激によって誘起される皮質興奮性変化とBDNF遺伝子多型との関係 1,500,000

■2017 発展的研究費 椿 淳裕 PT

背臥位での有酸素運動による前頭前野血流変化の解明ならびに認知機能の改善効果の検証 1,500,000

■2017 発展的研究費 江玉 睦明 PT

膝蓋腱炎発生メカニズムの生体力学的検証ー膝蓋骨下極と膝蓋腱の形態学的特徴に着目してー 1,500,000

■2017 発展的研究費 田巻 弘之 PT

一度トレーニングされた筋線維はなぜ壊れにくいのかー力学的伸張ストレスに対する耐性検証ー 1,500,000

■2017 発展的研究費 大山 峰生 OT

肘関節の内側支持機能に関与する筋の特定と活動特性の解明 1,500,000

■2017 発展的研究費 阿部 薫 AT

脚長差が原因の運動器愁訴に対する整形靴および足底装具療法のフリニカルパス作成を目指した即時的効果と長期的効果の検討

1,500,000
 ■2017 発展的研究費 玉越 敬悟 PT
 脳卒中早期リハビリテーションのエビデンス構築に向けた基礎的検証—モデル動物を用いた検証— 1,500,000
 ■2017 発展的研究費 犬飼 康人 PT
 前庭器官へのノイズ電流刺激が高齢者の立位重心動揺に与える影響 1,500,000
 ■2017 発展的研究費 小島 翔 PT
 複雑な機械的触覚刺激による介入が手指の運動機能に及ぼす影響 1,500,000
 ■2017 発展的研究費 森下慎一郎 PT
 造血幹細胞移植患者の筋肉量と筋力、活動量、栄養状態の関連性を解明する 1,500,000
 ■2017 発展的研究費 浅井 孝夫 CT
 進行度によって発現量が変化する胆嚢がん特異タンパク質の同定 1,350,000
 ■2017 発展的研究費 佐藤 大輔 HS
 「水」が惹起する背景脳活動の解明と運動記憶強化法への応用 1,350,000
 ■2017 発展的研究費 須田 裕紀 AT
 義足のアライメント調整における評価指標の分析～3軸力覚センサを用いたアライメントとソケット内圧力の関係性～ 1,048,000
 ■2017 発展的研究費 大鶴 直史 PT
 個人特性の事前評価によるテ일러メイド型脳刺激鎮痛法の開発 1,350,000
 ■2017 発展的研究費 追手 巍 CT
 腎不全進行阻止を目指した治療法と糸球体内血流動態との関連 1,350,000
 ■2017 発展的研究費 中村 雅俊 PT
 アイシングが筋硬度に及ぼす影響とそのメカニズムの解明—筋温および α 運動神経活動の変化に着目した検討—アップロード 1,350,000
 ■2017 発展的研究費 下山 好充 HS
 脊柱アライメントは「けのび動作」に影響を与えるか? 1,275,000
 ■2017 発展的研究費 川村 宏樹 CT
 成人T細胞白血病の癌関連蛋白USP10によるNF- κ Bを用いたT細胞の機能制御 1,200,000
 ■2017 発展的研究費 藤目 智博 OT
 前腕伸筋群の収縮特性と筋相互間の協調的筋活動の解明 1,200,000
 ■2017 発展的研究費 澤田 純明 PT
 完新世初頭以前の洞窟・岩陰遺跡出土人骨の探索と人類学的研究 800,000
 ■2017 発展的研究費 山代 幸哉 HS
 刺激検出能力に関わる注意の役割解明 1,200,000
 ■2017 研究センター推進費 大森 豪 HS
 スポーツ外傷調査とJones骨折・前十字靱帯損傷予防の取り組みの効果検証 250,000
 ■2017 研究センター推進費 西原 康行 HS
 QOLサポーター育成に資するシティズンシップ教育プログラムの開発・実践に関する研究 250,000
 ■2017 研究センター推進費 北島 昌樹 NR
 がんサバイバーと健常者間での身体機能、倦怠感、健康関連QOLの差異についての検討 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 吉田 重和 HS
 学内資源を活用した教職指導の在り方に関する質的研究—教職志望学生に対する支援方策の確立を目指して— 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 武田丈太郎 HS
 スポーツによる地域活性化を推進する基礎自治体の政策アクターに関する研究 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 山口 智 SW
 地域活性化を目指したソーシャル・イノベーションの創出プロセス—障害福祉サービス事業所とのパートナーシップ形成を中心に— 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 小野まどか HS
 教育政策形成におけるエビデンスの収集と活用に関する実証的研究 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 鈴木 未来 SW
 職場におけるルール作りの合意形成過程に関する研究 250,000
 ■2017 人文社会系研究費 若井 由梨 HS
 教育現場における「表現運動」指導時の阻害要因について—新潟県

小・中学校現職教員への調査をもとに— 250,000
 ■2017 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 国際義肢装具協会 (International Society for Prosthetics & Orthotics: 以下、ISPOと称す) Schools Category I 認定の取得に関する調査研究 (最終年度) 750,000
 ■2017 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 義肢装具自立支援学科・分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究 750,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 一次体性感覚野の可塑的变化を誘導する最適な反復的他動運動法の解明 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
 有酸素性運動による運動技能の習熟強化—身体部位依存性の検証— 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 反復的他動運動のduty cycleの有無が皮質脊髄路の興奮性に及ぼす影響 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 田巻 弘之 PT
 高齢期のトレーニングによる筋損傷を軽減するストレプトマイシンの効果—損傷を抑制すると筋肥大効果は低下するの— 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 奈良 貴史 PT
 橋円フリー工解析で求める腓骨骨幹部の形態的多様性 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
 水泳選手の脳内抑制機能から「泳げる」ヒトの身体知を探る 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT
 ■2型糖尿病患者を対象とした身体機能の1年間の変化と質問紙による身体活動量計測法の検証 200,000
 ■2017 研究科長裁量研究費 大山 峰生 OT
 母指IP関節の伸展機構の検討 200,000
 ■2017 研究奨励金 (追加) 正木 光裕 PT
 脳性麻痺児の運動、日常生活動作および筋機能の発達と姿勢制御との関連 200,000
 ■2017 研究奨励金 (追加) 藤井 豊 CT
 循環生理学教育力向上のための簡易的動物実習モデルの構築 200,000

2018年度

■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 横田 裕丈 PT
 アクティブタッチが二点識別覚閾値に及ぼす影響の解明 250,000
 ■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 大野 健 RT
 化学交換飽和移動MRIを用いた代謝物イメージングにおける撮像法およびデータ解析・処理手法の最適化 250,000
 ■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 針谷美智子 HS
 鉄棒運動における観察的評価基準の開発—「逆上がり」「後方支持回転」に焦点を当てて— 250,000
 ■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 竹内 瑞希 HN
 血液透析患者におけるシンバイオティクス摂取による効果の検討 250,000
 ■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 織部 祐介 RT
 軽度認知障害に対するMRI評価システムの構築 250,000
 ■2018 スタートアップ・チャレンジ研究費 岩野 千尋 NR
 熟練訪問看護師の訪問対象者に対する「なんとなく変」の臨床知 250,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 大西 秀明 PT
 体性感覚機能を可視化するためのバイオマーカーの開発 1,500,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 玉越 敬悟 PT
 脳卒中モデル動物を用いた脳卒中超急性期リハビリテーションの効果検証 1,500,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 佐藤 大輔 HS
 前脳基底部コリン作動系の非侵襲的評価法の確立と空間記憶機能を高める浸水ニューロモデュレーションの開発 1,500,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 田口 徹 PT
 線維筋痛症を実験モデルとした慢性難治性疼痛の病態機構解明 1,500,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 高林 知也 PT
 足部内の力学的負荷に着目した扁平足に生じる足部ランニング障害発生機序の解明 1,350,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 江玉 睦明 PT

アキレス腱捻れ構造の力学的特性の解明 1,200,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 大鶴 直史 PT
 慢性疼痛患者に対する認知行動療法の効果を説明・予測する脳内ネットワークの探索 1,200,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 椿 淳裕 PT
 インターバル運動に伴う前頭前野の血流変化とそれに基づく認知機能の改善のための運動療法プログラムの創出 1,200,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 犬飼 康人 PT
 脳卒中患者の立位バランス障害に対する前庭ノイズ電流刺激の効果 1,050,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 小島 翔 PT
 機械的触覚刺激による介入が皮質間ネットワークに及ぼす影響 1,050,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 下山 好亮 HS
 水面浮遊時のストリームライン姿勢における脊柱アライメントがけのび動作に及ぼす影響 1,050,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 高橋 英明 PT
 関節軟骨が力学的過負荷を感知するメカノセンシング機構の解明—変形性膝関節症モデルラットを用いた検証— 1,050,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 宮口 翔太 PT
 経頭蓋交流電流刺激を用いた効果的な運動学習プログラムの考案 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 森下慎一郎 PT
 血液がん患者に対する神経筋電気刺激療法の効果 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 浅井 孝夫 CT
 日本人一般集団における胆嚢がん感受性遺伝子多型の同定 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 正木 光裕 PT
 脳性麻痺児の運動発達と下肢筋の筋硬度との関連 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 須田 裕紀 AT
 義足のアライメント変化がソケット適合に及ぼす効果—3軸力覚センサを用いたアライメントとソケット内圧力の関係性— 669,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 中村 雅俊 PT
 温熱療法および温熱療法とストレッチング併用効果検証とメカニズムの解明 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 藤井 豊 CT
 人工心肺施行中の高酸素分圧管理が生体に及ぼす影響を解明する。 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 阿部 薫 AT
 最適なインソール（足底装具）のアーチサポート部形状を決定するための直接計測可能な軟部組織加圧装置の開発とその効果の検証 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 大山 峰生 OT
 浅指屈筋、尺側手根屈筋の尺骨頭および上腕頭の機能的役割の検討 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 齊藤 慧 PT
 頭頂連合野の神経活動を変調することでヒトの体性感覚機能を向上させることができるか？ 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 市川 浩 HS
 超高速推進中に推進力を生み出すクロール泳キック動作の技術抽出 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 澤田 純明 PT
 農耕家畜文化の伝播地域で生じた生活環境変化の生物人類学的解明 900,000
 ■2018 奨励研究費 (A) 森田 邦恵 CT
 エクソソーム発現解析によるメラノーマ新規腫瘍マーカーの探索 900,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 相馬 俊雄 PT
 脳卒中片麻痺者における体幹ベルト付下肢装具歩行の遊脚制御機構の解明 600,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 越中 敬一 HS
 生活習慣病の予防・改善を目的とした卵タンパク質摂取の有効性の検討 600,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 菊元 孝則 PT
 膝窩筋腱の付着部位別における膝深屈曲に伴う膝窩筋の機能変化の検証 600,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 濱上 陽平 PT
 不活動性疼痛のメカニズムの解明—電気生理学的手法を用いて— 540,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 伊藤 渉 PT
 大学生女性サッカー選手におけるACL損傷予防に向けた新たなスク

リーニングテスト開発のための基礎的研究 510,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 佐藤成登志 PT
 骨粗しょう症性椎体骨折患者の変形・2次骨折予防プロトコルの確立—坐位伸展エクササイズの効果検証— 480,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 齋藤 翔太 HI
 乳癌と卵巣癌領域におけるBRCA遺伝子変異に基づく個別化医療の費用対効果の解明 411,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 能村 友紀 OT
 経頭蓋ランダムノイズ電流刺激による記憶機能の改善効果の検証 480,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 前田 史篤 CO
 Motion Magnicationの技術を応用した他覚的瞳孔視野計測法の開発 480,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 平林 怜 PT
 前脛骨筋とヒラメ筋の収縮強度の割合変化がla相反抑制に及ぼす影響 480,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 下門 洋文 HS
 遊泳中の流体力と筋シナジーの関連 350,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 大石 如香 ST
 若年健常者における顔認知能力の神経心理学的検討 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 外川 佑 OT
 高齢ドライバーに対する自動車の安全運転寿命延伸事業の開発 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 萩原 康雄 PT
 長野県出土人骨から探る海と山の縄文人 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 生方 北斗 CO
 新潟市保育所の幼児眼科健診に対する屈折検査導入に向けた検討 418,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 増田 紘之 HN
 LT強度の運動から高まる運動疲労を軽減するメカニズムの検討—筋Aktキナーゼに着目して— 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 中村 絵美 PT
 連続投球による主観的疲労度と投球パフォーマンス変化の関係—選手起用の判断指標の考案— 408,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 浅尾 章彦 OT
 磁気透過性に着目した反復末梢性磁気刺激による神経変調の検討 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 勝平 純司 AT
 オフィスワーカーのプレゼンティズムの防止を目指した腰痛、肩こりの改善・モニタリング方法の開発と評価 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 奈良 梨央 HS
 背泳ぎスタートにおけるパフォーマンス向上のための動作特性 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 杉崎 弘周 HS
 教育実習における保健授業の実施状況：大規模マルチレベル分析を用いて 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 神田 賢 PT
 壮年期女性の慢性肩こりに及ぼす因子を解明する—頸胸椎アライメント、筋持久力に着目して— 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 佐伯 史子 PT
 変形性関節症の出現状況から探る縄文時代人の生活誌 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 佐藤 晶子 HS
 短期間のチアミン（ビタミンB1）欠乏食の摂取が運動時の脂質代謝に及ぼす影響 420,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 内山 信 ST
 偽りの記憶に着目した、認知症患者の妄想・幻覚の発現メカニズムの解明 368,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 高橋 素彦 AT
 断端ボリューム変化量の定量的・形状的計測と義足ソケット形状に関する研究 386,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 今西 里佳 OT
 地域在住高齢者のフレイルと排泄症状、転倒に関する調査研究 390,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 高橋 智美 NR
 EDVA-S (Elderly with Dementia Violence Assessment score sheet-Simplicity：認知症高齢者暴力アセスメントスコアシート—簡易版)の開発 390,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 坪川麻樹子 NR
 インターネット社会における小学生の疲労感と生活習慣 390,000
 ■2018 奨励研究費 (B) 追手 巍 CT

実験動物モデルを使用した腎不全進行因子の形態学的定量解析 390,000

■2018 研究センター推進費 正木 光裕 PT
自閉症スペクトラム障害児、知的障害児の運動、言語、対人関係、日常生活動作および筋機能の発達と認知機能との関連 250,000

■2018 研究センター推進費 大森 豪 HS
エリートスポーツ選手のメディカルサポートシステムの構築 ①外傷・障害発生調査、②栄養摂取調査、③早期発見スクリーニングシステムの開発 250,000

■2018 人文社会関連分野研究費 高田 大輔 HS
体育授業における児童の言語活動を充実させる指導スタイルに関する研究：初任・若手教師の適用に向けて 250,000

■2018 人文社会関連分野研究費 戸田 春男 CO
ルールブックに基づく指導者間の実習評価のばらつきの検討 180,000

■2018 人文社会関連分野研究費 山口 智 SW
ソーシャルサポートネットワーク拡充に向けた地域政策の提言 250,000

■2018 人文社会関連分野研究費 小野まどか HS
研究開発学校事業を活用した高大接続・連携に関する実証的研究 250,000

■2018 人文社会関連分野研究費 杉本 洋 NR
メンタルヘルス関連当事者活動における「仲間」という関係性 250,000

■2018 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
アジア諸国における義肢装具自立支援分野の教育・研究等に関わる技術支援 800,000

■2018 学長裁量研究費 大西 秀明 PT
東アジアの狩猟採集／農耕転換期における健康水準の変動を解明する 800,000

■2018 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
皮質内抑制機能のバラツキとBDNF遺伝子多型との関係 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
筋シナジーを用いて跳躍動作の技能評価を試みる 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 佐藤成登志 PT
若年女性における骨盤底機能の定量的評価の確立—腹圧性尿失禁に対する基礎的研究— 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
ペダリング運動が体性感覚機能に与える影響とその神経基盤の解明 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 江玉 睦明 PT
膝蓋腱炎発生メカニズムの生体力学的検証～2D/3Dイメージマッチング法を用いた研究～ 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT
入院高齢者における随意的咳嗽力と運動機能との関連および肺炎高リスク者の運動機能水準値の算出 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
認知トレーニングに対する有酸素性運動プレコンディショニングの効果 200,000

■2018 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT
一時的作業記憶の向上に有効な運動時間の解明～中強度運動による前頭前野酸化ヘモグロビン濃度の変化との関係～ 200,000

■2018 研究奨励金（追加）正木 光裕 PT
地域在住高齢者の転倒発生、要介護度と背部筋機能との関連 250,000

■2018 研究奨励金（追加）平林 怜 PT
同時収縮モデル作成による理学療法評価におけるシミュレーション課題の試み 250,000

2019年度

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 吉田 皓文 RT
ディープラーニングを応用した小児心血管の3次元構造認識ツールの開発 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 佐藤 郁美 NR
父親の周産期うつに関する縦断的研究—妊娠初期から産後3か月— 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 志賀木綿子 CO
アイトラッカーを用いた斜視検査のコーチング法の開発 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 三瀬 貴生 HS

競泳ジュニア選手の肩障害を予測する評価手法の開発 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 荒木 恵子 NR
看護基礎教育における小児シミュレーション教育の評価方法—看護系大学への質問紙による実態調査— 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 上田 純平 HS
日本語版児童青年用感情制約困難性尺度（DERS-Y）の開発 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 大屋 愛里 NR
精神科看護師の倫理教育の展開と組織化に関する研究—倫理的課題に対するファシリテートが出来る人材養成— 250,000

■2019 スタートアップ・チャレンジ研究費 間宮 靖幸 OT
レビー小体型認知症における認知の変動の評価法の開発 250,000

■2019 奨励研究費（A）佐藤 大輔 HS
浸水による線条体コリン作動系の活性化と運動学習強化法への応用 1,500,000

■2019 奨励研究費（A）江玉 睦明 PT
アキレス腱障害の予防法の考案～アキレス腱の捻れ構造と力学的特性に着目して～ 1,500,000

■2019 奨励研究費（A）山代 幸哉 HS
アスリートの慢性痛に伴う過剰注意の脳活動解明 1,350,000

■2019 奨励研究費（A）大西 秀明 PT
皮膚を擦る様な機械的触覚刺激時の皮質活動の解明と個人差の原因究明 1,350,000

■2019 奨励研究費（A）玉越 敬悟 PT
脳卒中超急性期リハビリテーションの機能回復遅延機構の解明 1,200,000

■2019 奨励研究費（A）宮口 翔太 PT
大脳皮質神経ネットワークの強化による新たな運動学習プログラムの考案 1,200,000

■2019 奨励研究費（A）長谷川 晃 RT
深層学習による冠動脈CT画像を用いたステント内狭窄の自動検出 1,050,000

■2019 奨励研究費（A）椿 淳裕 PT
安静時の動脈機能および循環調節機能に基づく運動時の大脳皮質血流変化の予測 1,050,000

■2019 奨励研究費（A）高林 知也 PT
足部内の力学的負荷に着目した女性に頻発する足部ランニング障害の発生機序の解明 1,050,000

■2019 奨励研究費（A）中村 雅俊 PT
効率的な伸張性収縮レジスタンストレーニング方法の確立 900,000

■2019 奨励研究費（A）犬飼 康人 PT
前庭ノイズ電流刺激が地域在住高齢者の片脚立位バランスに与える影響 900,000

■2019 奨励研究費（A）伊藤 渉 PT
AIを用いたマーカーレス動作解析システムの信頼性・妥当性の検証—膝前十字靭帯損傷の受傷リスク評価方法の確立に向けて— 900,000

■2019 奨励研究費（A）市川 浩 HS
競泳競技最速の水中ドルフィンキックによる推進力発揮の可視化 900,000

■2019 奨励研究費（A）大山 峰生 OT
肘関節の内側安定性に貢献する筋の特定と機能特性の検討 900,000

■2019 奨励研究費（A）大鶴 直史 PT
島皮質の活動から慢性疼痛患者の各種症状との関連を探る 900,000

■2019 奨励研究費（A）須田 裕紀 AT
義足のアライメント変化がソケット適合に及ぼす効果 873,000

■2019 奨励研究費（A）平林 怜 PT
反復他動運動が脊髄相反性抑制に与える効果の検証 900,000

■2019 奨励研究費（A）越中 敬一 HS
卵蛋白質の摂取によって誘発・産生される生理活性ペプチドの網羅的解析 900,000

■2019 奨励研究費（A）森下慎一郎 PT
乳がん患者の続発性リンパ浮腫に対する予防的リハビリテーションの検討 900,000

■2019 奨励研究費（A）正木 光裕 PT
地域在住高齢者の転倒、移動能力、バランス能力および筋機能と体幹・下肢筋の姿勢制御との関連 900,000

■2019 奨励研究費（A）田口 徹 PT
慢性筋痛の病態機構解明に資する新規in vivoパッチクランプ法の開発 900,000

■2019 奨励研究費（A）齊藤 慧 PT

体性感覚機能向上に関わる神経生理学的メカニズムの解明 900,000
 ■2019 奨励研究費 (A) 阿部 薫 AT
 足底軟部組織の変位と足底圧から機能的インソールの最適なアーチサポート形状を決定する指標の検討 900,000
 ■2019 奨励研究費 (A) 小島 翔 PT
 左右移動触覚刺激介入の刺激周波数が運動機能および感覚機能に及ぼす影響 900,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 相馬 俊雄 PT
 脳卒中片麻痺者の麻痺レベルと体幹ベルト付下肢装具歩行における遊脚制御機構の解明 600,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 能村 友紀 OT
 記憶パフォーマンスの個人差が経頭蓋交流電流刺激による記憶機能改善に及ぼす影響 600,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 浅尾 章彦 OT
 一次運動野の周辺抑制に着目した箸操作スキル獲得の神経機序の解明 539,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 児玉 直樹 RT
 在宅医療を支援する認知症スクリーニングシステムの開発 540,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 村田 憲章 CO
 緑内障患者の読書困難に対する新しい視覚的リハビリテーション法の開発 480,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 中村 絵美 PT
 投手における累積投球負荷の検討 480,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 濱上 陽平 PT
 不活動性疼痛の末梢責任分子の同定 480,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 勝平 純司 AT
 パーキンソン病者のすくみ足を改善させる介入手法の開発と評価 418,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 太田 大樹 PT
 骨格筋における「非活動性侵害受容器」の神経機構ならびに特異的発現因子の解明 420,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 神田 賢 PT
 青年期女性の慢性肩こり改善・予防プロトコルの確立 420,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 増田 紘之 HN
 ビタミンB1が慢性疲労で生じる酸化ストレスを抑制させる機序一筋NADPHに着目してー 420,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 鈴木 祐介 PT
 変形性膝関節症患者における膝伸筋筋力発揮率と膝の機能・日常生活活動との関係性の解明 420,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 織部 祐介 RT
 レジストリ情報を用いた小児先天性循環器疾患に対する非臨床被ばく線量評価 415,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 生方 北斗 CO
 Goldmann視野計検査における視能訓練士学生の重点課題抽出法の検討 367,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 齋藤 翔太 HI
 難病法改正による炎症性腸疾患治療法選択の変化と医療費構造の解明 386,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 大野 健 RT
 化学交換飽和移動MRIを用いた脳内グリシン動態変化測定法の開発 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 横田 裕文 PT
 経頭蓋交流電流刺激を用いた効果的な知覚機能向上プログラムの考案 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 高橋 良光 CT
 透析用カテーテルの機能不全防止システムの開発 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 菊元 孝則 PT
 定量化した運動強度による片脚着地時の膝関節伸展モーメント変動の検証 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 池田 祐介 HS
 ドルフィンキックの模擬動作のトレーニングが水中ドルフィンキックのパフォーマンスと動作に及ぼす影響 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 奈良 梨央 HS
 背泳ぎスタートにおける入水姿勢の違いの理由を探る 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 高橋 素彦 AT
 義足スノーボード滑走の運動学・運動力学的評価と専用義足足部開発に関する研究 388,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 関本 道治 RT
 モンテカルロシミュレーションを用いた歯科用パノラマX線撮影の患者被ばく線量の導出 390,000

■2019 奨励研究費 (B) 佐伯 史子 PT
 羽山古墳人骨の人類学的研究 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 松井由美子 NR
 高性能モデルを使用したシミュレーションによる在宅小児訪問看護研修プログラム開発のための訪問看護師を対象とした研修内容に関する調査研究 377,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 川上 心也 HN
 個体の栄養状態が卵子に及ぼす影響 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 郷 貴博 AT
 3Dスキャナを用いた下腿義足ソケット製作技術の定量化 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 佐藤 未希 AT
 大腿切断者の走行パフォーマンス向上に対する義足ソケットの検討 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 竹内 瑞希 HN
 血液透析患者のSYN摂取は、腸内細菌叢のバランスならびに排便コントロールを改善させるか 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 坪川麻樹子 NR
 てんかん手術を受ける患児への絵本を用いた術前プレパレーションにおける効果の検討 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 田村 俊暁 ST
 第2フォルマント軌跡を解析して発話の異常を音響学的に定量化する 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 多々良俊哉 CO
 眼屈折および眼軸長と出生時情報との関係性の究明 367,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 渡辺 優奈 HN
 妊婦の鉄代謝と、それを介した鉄栄養状態と鉄摂取量の関連 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 宇田 優子 NR
 外来看護における神経難病患者への『災害への備え』支援の検討～診療所看護師を対象とした場合～ 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 北上 守俊 OT
 職業リハビリテーションが高次脳機能障害者の脳活動に与える影響一ワークサンプルの課題難易度に着目してー 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 内山 信 ST
 認知症患者の妄想発現における前頭葉機能障害の関与の検証 390,000
 ■2019 奨励研究費 (B) 下門 洋文 HS
 最大努力泳中のトップスイマーの手部周りの水の流を可視化する 390,000
 ■2019 人文社会関連分野研究費 外川 佑 OT
 高齢ドライバーの運転の自己評価に影響を及ぼす諸要因の解明～構造方程式モデリングを用いた分析～ 250,000
 ■2019 人文社会関連分野研究費 高田 大輔 HS
 小学校体育授業における発問を中心とした学習指導の有効性：子供の情報活用能力、問題発見・解決能力、言語能力向上を目指して 250,000
 ■2019 人文社会関連分野研究費 吉田 輝美 SW
 多文化共生社会を実現する外国人技能実習制度活用企業支援モデルの研究 250,000
 ■2019 人文社会関連分野研究費 山本 悦史 HS
 プロスポーツ組織の成長過程における経営的ジレンマの実態把握 250,000
 ■2019 人文社会関連分野研究費 佐近 慎平 HS
 幼児の一時的不器用の発生から消失時の保育者の状況認知 250,000
 ■2019 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 アジアにおける義肢装具等の教育・研究・臨床向上推進に関する研究 800,000
 ■2019 学長裁量研究費 松井由美子 NR
 ベトナムにおける多職種間連携に関する国際支援 800,000
 ■2019 学長裁量研究費 大西 秀明 PT
 東アジアの狩猟採集／農耕転換期における健康水準の変動を解明する 800,000
 ■2019 研究科長裁量研究費 江玉 睦明 PT
 脊髄相反性抑制の増強に最適な反復他動運動の運動回数の検証 200,000
 ■2019 研究科長裁量研究費 江玉 睦明 PT
 肘尺側副靱帯および前腕屈筋群共同腱の形態の違いが肘外反安定性に与える影響～遺体を用いた解剖学的研究とシミュレーション研究～ 200,000
 ■2019 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT

運動機能を向上させるための最適な経頭蓋ランダムノイズ刺激法の開発 200,000

■2019 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
月経周期を用いた神経可塑性の強化と運動学習の促進 200,000

■2019 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
局所筋疲労は非疲労側の技能習熟強化を惹起するか？ 200,000

■2019 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT
全身振動刺激運動が認知機能へ与える影響 ～脳酸化ヘモグロビン、血中乳酸濃度との関連～ 200,000

■2019 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
一過性有酸素性運動による感覚機能変化に生じる個人差の要因の検討—自己の内受容感覚と情動変化への「気づき」から紐解く— 200,000

■2019 研究科長裁量研究費 勝平 純司 AT
脳卒中片麻痺者の歩行トレーニングにおける股関節外転筋促通手法の開発と評価 200,000

■2019 研究奨励金（追加）正木 光裕 PT
パーキンソン病患者の日常生活動作、転倒発生と体幹・下肢筋の筋量および筋内非収縮組織との関連 200,000

2020年度

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 関根 千恵 PT
競技スポーツ選手における仙腸関節部痛の発生機序解明 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 阿部 拓也 CT
超音波診断用造影剤の弊害を探る 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 天野 暁 OT
日本語版 Action Research Arm Test における階層性に基づく評価実施短縮の是非 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 小林真里奈 HS
次動作の移行に最も有効な基本姿勢（パワーポジション）の定量的評価と検証 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 安藤 萌 NR
小児がん拠点病院の看護師が捉える終末期看護の困難と看護の標準化 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 寺尾 幸子 HN
動画媒体による遠隔包丁技術教育の効果に関する検討 250,000

■2020 スタートアップ・チャレンジ研究費 岩野 千尋 NR
新任訪問看護師が的確な判断能力や実践力を獲得していく過程—教育プログラムの検討をめざす— 250,000

■2020 奨励研究費 (A) 大西 秀明 PT
小脳の機能・構造・ネットワーク解析による「触られ心地」の可視化 1,500,000

■2020 奨励研究費 (A) 大鶴 直史 PT
一次体性感覚野の興奮性を増大させる心拍駆動型脳刺激法の開発 1,500,000

■2020 奨励研究費 (A) 山代 幸哉 HS
目の開閉が感覚機能向上に及ぼす効果の解明 1,350,000

■2020 奨励研究費 (A) 椿 淳裕 PT
酸化ヘモグロビンをバイオマーカーとした血圧低下時の大脳皮質神経活動の描出と循環調節に関与する皮質領域の同定 1,350,000

■2020 奨励研究費 (A) 田口 徹 PT
骨格筋の力学的適応を支える分子基盤の解明 1,200,000

■2020 奨励研究費 (A) 宮口 翔太 PT
大脳皮質デフォルトモードネットワークの強化による新たな運動学習プログラムの考案 1,200,000

■2020 奨励研究費 (A) 江玉 睦明 PT
アキレス腱障害の新たな予防法の考案～アキレス腱の捻れ構造と力学的特性に着目して～ 1,200,000

■2020 奨励研究費 (A) 長谷川 晃 RT
ディープラーニング (ResNet) によるCCTA画像を用いた冠動脈プラーク組織性状の自動分類 1,200,000

■2020 奨励研究費 (A) 佐藤 大輔 HS
超人たちの究極の共助における線条体の役割を探る 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 藤本 知臣 HS
寒冷順化による温度感覚の適応とそのメカニズムの解明—皮膚温度感覚受容体の動きに着目して— 1,038,000

■2020 奨励研究費 (A) 藤井 豊 CT
重症肺炎に対する迅速導入可能なECMOシステム開発に向けた基礎研究 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 平林 怜 PT
脳刺激と反復他動運動の併用による効果的な相反性抑制増強法の開発 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 相馬 俊雄 PT
脳卒中片麻痺者の体幹ベルト付下肢装具歩行における下肢筋緊張の抑制機構の解明 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 長坂 和明 PT
高性能光計測システムを用いた脳内アセチルコリン神経による体性感覚調節機構の解明 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 斎藤トシ子 HN
ビタミンDコホート研究の10年後フォローアップ：生活習慣の長期縦断調査 1,050,000

■2020 奨励研究費 (A) 犬飼 康人 PT
前庭器官へのノイズ電流刺激が歩行機能に与える効果の検証 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 堀田 一樹 PT
骨格筋における血流と酸素のゆらぎの解析 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 小島 翔 PT
新たな治療戦略に向けた経頭蓋直流電流刺激効果と脳構造との関連の解明 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 伊藤 渉 PT
AIを用いたマーカーレス動作解析システムの臨床応用—膝前十字靱帯再損傷のリスク評価法の確立に向けて— 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 須田 裕紀 AT
3Dプリンタを用いた短下肢装具の機能特性の評価と臨床応用 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 菊元 孝則 PT
定量的評価による慢性足関節不安定性が着地動作時の足底圧分布に与える影響 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 横田 裕丈 PT
経皮的迷走神経刺激 (tVNS) が痛覚知覚時の脳活動に及ぼす影響の解明 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 澤田 純明 PT
脆弱化した骨組織片の組織形態学的人獣鑑別 900,000

■2020 奨励研究費 (A) 市川 浩 HS
超高速推進中におけるクロール泳キックの推進力発揮の可視化 900,000

■2020 奨励研究費 (B) 鈴木 祐介 PT
変形性膝関節症患者における股関節外転筋の筋力発揮率が階段昇降動作に及ぼす影響の解明 600,000

■2020 奨励研究費 (B) 神田 賢 PT
不良姿勢での遠隔授業参加が身体・心理面におよぼす影響—適切な環境設定への提言— 600,000

■2020 奨励研究費 (B) 森下慎一郎 PT
予防的弾性着衣が乳がん術後患者のリンパ浮腫とQOLに与える影響 600,000

■2020 奨励研究費 (B) 高橋 良光 CT
透析用カテーテルの構造の違いが血栓形成に与える影響～ブタ血液を用いて～ 540,000

■2020 奨励研究費 (B) 北上 守俊 OT
高次脳機能障害者に対する認知リハビリテーションと職業リハビリテーションを併用した新たな就労支援プログラムの開発 540,000

■2020 奨励研究費 (B) 太田 大樹 PT
線維筋痛症における機械感受性イオンチャネルの役割—本質的な病態解明に向けた複合的アプローチ— 540,000

■2020 奨励研究費 (B) 佐藤 未希 AT
走行時の筋変化に対応する、走行用義足ソケットの検討 480,000

■2020 奨励研究費 (B) 村田 憲章 CO
アイトラッカーを用いた客観的な偏み視の獲得訓練法の確立 360,000

■2020 奨励研究費 (B) 下門 洋文 HS
トップスイマーが発揮する推進力の大きさを水の流れから推定する 480,000

■2020 奨励研究費 (B) 児玉 直樹 RT
身体的フレイル及び認知的フレイルにおける脳機能メカニズムの解明 480,000

■2020 奨励研究費 (B) 大石 如香 ST
脳損傷患者における単語検索障害に関する認知神経心理学的検討 450,000

■2020 奨励研究費 (B) 浅尾 章彦 OT

反復末梢性磁気刺激とスプリント装具を併用した新たな神経リハビリテーションの開発 418,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 能村 友紀 OT
 経頭蓋交流電流刺激の周波数帯域の違いがエピソード記憶に及ぼす影響 420,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 鶴瀬 亮一 HS
 VR技術とアイトラッキングシステムを用いた現役野球指導者育成の試み 420,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 佐藤 敏郎 HS
 運動競技選手における簡便で合理的な浮き趾測定法の検討 420,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 萩原 康雄 PT
 江戸時代の身分差が頭蓋の筋付着部形態に与える影響を解明する 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 前田 雄 AT
 新しい下腿義足ソケット形状の考案に関する研究 406,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 生方 北斗 CO
 メディアを介したGoldmann視野計検査の遠隔指導の試み 319,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 戸田 春男 CO
 「声かけ」がもたらす臨床検査時のストレス軽減効果の定量化 391,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 増田 紘之 HN
 運動が骨格筋の血糖利用を高める機序—ヘキソキナーゼとミトコンドリアのカップリングに着目して— 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 越中 敬一 HS
 食欲の抑制効果を有する栄養素の摂取が骨格筋の運動適応に与える影響 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 高橋 英明 PT
 ラット坐骨神経切除後におけるEnthesisのコラーゲン変化と血管新生の関係性 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 外川 佑 OT
 回復期脳卒中患者における脳卒中後うつ状態と「意味のある作業」の満足度の関連：自己効力感の媒介効果の検討 239,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 大野 健 RT
 定量的MR解析を用いた不安症の病態生理を反映した生物学的指標(MRバイオマーカー)の開発 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 池田 祐介 HS
 円盤投における投てき動作の動作解析と選手による投てき動作に対する主観的評価 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 松井由美子 NR
 高性能モデルを使用したシミュレーションによる医療的ケア講習会の定例開催に向けた小児の専門職を対象とした研修内容に関する調査研究 408,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 岩森 大 HN
 外出自粛下における高齢者のテイクアウトメニュー構築に向けた体系的研究 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 川上 心也 HN
 母体の栄養状態が卵子の成熟に及ぼす影響 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 織部 祐介 RT
 仕掛学による行動心理を活用した放射線被ばく低減～放射線をどこまで減らすことができるか～ 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 竹内 瑞希 HN
 透析患者の食塩管理に適した出汁の抽出条件の検討 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 佐伯 史子 PT
 江戸時代人骨の身長とプロポーションを解剖学的方法に基づき復元する 383,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 三瀬 貴生 HS
 競泳ストローク動作における筋パワーを計測する手法と新たな疲労介入モデルの開発 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 追手 颯 CT
 腎糸球体メサンギウム合胞体機能破綻と腎糸球体硬化症の進行・単離腎かん流法を用いたコネキシン機能のex vivo 解析 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 浅井 孝夫 CT
 薬物代謝型Cytochrome P450遺伝子多型と胆嚢がん発生との関連 390,000
 ■2020 奨励研究費 (B) 関本 道治 RT
 在宅および災害時診療におけるX線撮影時の管理区域に関する検討 390,000
 ■2020 人文関連分野研究費 宇田 優子 NR
 在宅療養者の災害対応行動—台風洪水の場合— 250,000
 ■2020 人文関連分野研究費 高田 大輔 HS

小学校低学年における器械・器具を使っでの運動遊びの学習指導に関する研究：児童の基礎感覚づくりと言語活動に着目して 250,000
 ■2020 人文関連分野研究費 山口 智 SW
 地域共生社会に向けた「再帰性」概念の模索 250,000
 ■2020 学長裁量研究費 東江由起夫 AT
 義肢装具自立支援学科分野で実施している海外研究者を対象としたトレーニングセンターに関する研究 800,000
 ■2020 学長裁量研究費 大西 秀明 PT
 東アジアの狩猟採集／農耕転換期における健康水準の変動を解明する 800,000
 ■2020 学長裁量研究費 松井由美子 NR
 ベトナムにおける多職種間連携に関する国際支援 800,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 機械的触覚刺激介入の刺激パターンの違いが感覚機能と大脳皮質灰白質容積に及ぼす影響 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 大西 秀明 PT
 Homeostatic plasticityを利用した他動運動後の運動学習能力の変化の解明 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS
 月経周期による行動抑制機能の変化—月経前症候群に着目して— 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 江玉 睦明 PT
 浅指屈筋の肘外反制動機能の解明～解剖学的・生体力学的解析を用いた研究～ 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 久保 雅義 PT
 ランニング動作の股関節運動に対するハムストリングスの力学的寄与の解明 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 久保 雅義 PT
 慢性足関節不安定症群とcoper群における非予測的なカッピング動作中に生じる足関節再捻挫発生機序の解明 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 佐藤成登志 PT
 屈曲型腰痛と伸展型腰痛における股関節可動域と筋柔軟性および脊柱可動域の関連 200,000
 ■2020 研究科長裁量研究費 奈良 貴史 PT
 長岡藩主牧野家と岩槻藩主大岡家の血縁関係にみられる貴族的形質について 200,000

2021年度

■2021 スタート支援研究費 井上 達朗 PT
 サルコペニアの簡易診断を目指した新しい筋量指標の開発 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 吉田 皓文 RT
 深層学習と多断面再構成法を組み合わせた小児心臓CTの3次元自動認識法の研究 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 櫻井 典子 RT
 個人でストレスリダクションを可能とするASMRレコメンドシステムの開発 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 田宮 創 PT
 交感神経活性化に着目した座りすぎに伴う下肢血管機能障害の機序解明と予防戦略の開発 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 村山 稔 AT
 脳卒中片麻痺患者の歩行練習に使用する短下肢装具用膝関節伸展補助具の効果 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 土田 千歳 NR
 ドミニカ共和国の農村部における思春期妊娠の実態調査及び予防戦略の開発 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 柴田 篤志 HS
 基礎的ジャンプテストを応用した跳躍競技アスリートにおける特異的な下肢力発揮能力の解明と評価方法の開発 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 阿部 拓也 CT
 共役リノール酸による新たな非アルコール性脂肪肝炎の予防法・治療法の創出—脂肪を摂って脂肪を取る— 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 笠井 聡 RT
 胸部単純X線画像を用いた肺年齢推定によるCOPDの早期検出および予後予測に関する研究 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 竹内 瑞希 HN
 和風出汁に含まれる旨味物質及びリンの定量—透析患者の食事管理からの検討— 400,000
 ■2021 スタート支援研究費 五十嵐紀子 SW
 コロナ禍における医療福祉職のメディア表象分析 400,000

■2021 スタート支援研究費 下窪 拓也 HS
メガスポートイベントの開催が社会的希望およびナショナリズムに与える影響に関する実証的研究：2021年東京オリンピックを事例として 400,000

■2021 スタート支援研究費 小林真里奈 HS
バスケットボール競技におけるシュート動作の再現性と世代間での比較 400,000

■2021 スタート支援研究費 藤目 智博 OT
母指CM関節における長母指外転筋による動的支持性について 400,000

■2021 スタート支援研究費 星野 芙美 HN
小学生女子児童のやせ願望、メディア利用状況の実態とその関連における横断研究～若年女性のやせ問題解決の一助となる教育プログラムの提案にむけて～ 400,000

■2021 基盤形成研究費 藤井 豊 CT
ECMO患者の酸化ストレスおよび炎症反応抑制に向けた基礎研究—アスタキサンチンの抗酸化作用に注目して— 800,000

■2021 基盤形成研究費 大山 峰生 OT
効果的な筋再教育方法の構築 800,000

■2021 基盤形成研究費 山本 悦史 HS
プロスポーツにおけるCSV経営の普及に向けた包括的研究 800,000

■2021 基盤形成研究費 多々良俊哉 CO
視線解析技術の眼科検査への応用展開 709,200

■2021 基盤形成研究費 川上 心也 HN
個体のエネルギー摂取不足が卵子の発育に与える影響 712,800

■2021 基盤形成研究費 東江由起夫 AT
3Dスキャナ・3Dプリンタを活用した脳血管障害片麻痺者の短下肢装具の実用化研究 718,200

■2021 基盤形成研究費 前田 史篤 CO
大学生におけるスマホ老眼の実態調査と眼の健康を考えたスマートフォン使用に関する社会提言 640,000

■2021 基盤形成研究費 織部 祐介 RT
動植物を用いた低線量放射線による刺激効果の解明 640,000

■2021 基盤形成研究費 森田 邦恵 CT
培養細胞上清のExoRNA解析によるメラノーマ新規腫瘍マーカーの探索 640,000

■2021 基盤形成研究費 上田 純平 HS
MIMICモデルを用いたDIF検出による児童青年の抑うつ性の性差の検討 544,000

■2021 基盤形成研究費 生方 北斗 CO
Goldmann視野計検査における視標の軌道と検査結果の関係性について 572,800

■2021 基盤形成研究費 関本 道治 RT
体型に合わせたマンモグラフィ検査における個人平均乳腺線量推定の研究 640,000

■2021 基盤形成研究費 市川 浩 HS
クロール泳中のキック動作は推進力を発揮することは可能か？ 560,000

■2021 基盤形成研究費 木下 直彦 HI
新型コロナウイルス患者受入れ病院関係者に対する地域住民の嫌悪行動の社会学的分析 560,000

■2021 基盤形成研究費 高橋 英明 PT
力学的過負荷により変形性膝関節症に至る軟骨変性機序の解明 560,000

■2021 基盤形成研究費 大和田 均 EM
救急隊によるポケットフェイスマスクを用いた肺の酸素化と感染のリスクの検証 560,000

■2021 基盤形成研究費 杉本 洋 NR
自らのダメさを表現することから生み出される「健康」：分有される自己概念の創造プロセスとしての健康観の構想に向けて 157,500

■2021 基盤形成研究費 澁谷 顕一 HN
甘いという情動がどのような神経経路で咀嚼時の脳循環を変化させるのか 560,000

■2021 ステップアップ研究費 大西 秀明 PT
動的な触圧覚刺激が一次運動野の興奮性を向上させる神経基盤の解明 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 椿 淳裕 PT
繰り返す血圧変動によって生じる大脳皮質毛細血管および導管動脈の血流変動の評価と差異の検証 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 大鶴 直史 PT

慢性疼痛に対する新たな遠隔治療戦略（Tele-CBT）の検証 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 田口 徹 PT
ストレス誘発性疼痛の神経・分子機構解明と理学療法 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 宮口 翔太 PT
小脳領域のオシレーション変調による新たな運動学習プログラムの考案 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 平林 怜 PT
脳刺激と末梢刺激のニューロモデュレーション：脊髄機能と運動機能による検討 1,000,000

■2021 ステップアップ研究費 太田 大樹 PT
筋・筋膜性疼痛症候群における筋膜特異的因子の同定と機能解明 900,000

■2021 ステップアップ研究費 江玉 睦明 PT
アキレス腱の捻れ構造はいつの時期に形成されるのか？—胎児・幼児・児童遺体を用いた解剖学的研究— 900,000

■2021 ステップアップ研究費 佐藤 大輔 HS
他者と協調して共同で活動する能力の可視化とその神経基盤解明—共助コーチング学の創生に向けて— 900,000

■2021 ステップアップ研究費 菊元 孝則 PT
大規模調査による慢性足関節不安定症の病態に基づいたタイプ分類 900,000

■2021 ステップアップ研究費 相馬 俊雄 PT
脳卒中片麻痺者の体幹ベルト付下肢装具歩行における麻痺側下肢の筋緊張抑制作用の持続効果 900,000

■2021 ステップアップ研究費 高林 知也 PT
扁平足者の足部筋骨格特性を考慮したランニング中の足部内在筋および足底腱膜負荷の定量化 800,000

■2021 ステップアップ研究費 玉越 敬悟 PT
脳卒中早期リハビリテーションの開始時点を決める血液バイオマーカーの開発 800,000

■2021 ステップアップ研究費 関根 千恵 PT
スポーツ動作における筋の協調性を視覚化する 800,000

■2021 ステップアップ研究費 長坂 和明 PT
意欲と運動を結び脳内リンク—脳幹部意欲中枢と一次運動野の機能的繋がり—の意義の解明— 800,000

■2021 ステップアップ研究費 犬飼 康人 PT
前庭ノイズ電流刺激とバランストレーニングの融合がもたらす相乗効果の検証 800,000

■2021 ステップアップ研究費 堀田 一樹 PT
敗血症モデルラットの横隔膜に対する電気刺激中の血流・酸素動態 800,000

■2021 ステップアップ研究費 山代 幸哉 HS
経頭蓋ランダムノイズ刺激の脳内作用機序の解明 800,000

■2021 ステップアップ研究費 高橋 良光 CT
透析用カテーテルの内腔数の違いが治療に与える影響～ブタの血液と血管を用いた評価と新規選択基準の提案～ 800,000

■2021 ステップアップ研究費 伊藤 渉 PT
「切り返し」による膝前十字靱帯損傷の新しいリスクアセスメント法の構築 800,000

■2021 ステップアップ研究費 小島 翔 PT
運動錯覚と触圧覚刺激を組み合わせたアクティブタッチ錯覚による新たな体性感覚機能向上アプローチの開発 800,000

■2021 ステップアップ研究費 中村 雅俊 PT
定期的なストレッチング介入においてストレッチング強度は筋の柔軟性変化に重要な要素であるか？ 800,000

■2021 ステップアップ研究費 横田 裕丈 PT
経皮的迷走神経刺激（tVNS）と経頭蓋直流電流刺激（tDCS）の同時適用が痛覚知覚に及ぼす影響の解明 800,000

■2021 ステップアップ研究費 池上 諒 PT
温度感受性チャネルであるTRPV1を標的とした新規筋肥大法の探求：細胞内カルシウムイオン濃度に着目して 800,000

■2021 ステップアップ研究費 児玉 直樹 RT
COVID-19の早期発見と重症化予測を可能にするコンピュータ支援診断システムの開発 700,000

■2021 ステップアップ研究費 齊藤 慧 PT
末梢電気刺激の刺激効果を決定づける個人の脳情報特性の特定 700,000

■2021 ステップアップ研究費 浅尾 章彦 OT
反復末梢性磁気刺激による脊髄反射の神経変調の解明：経皮的電気

刺激および局所性振動刺激との比較 591,500

■2021 ステップアップ研究費 鈴木 祐介 PT

変形性膝関節症患者における股関節外転筋の筋力維持率は、階段昇降能力にどのような影響を及ぼすのか？ 700,000

■2021 ステップアップ研究費 長谷川 晃 RT

深層学習によるCCTA画像からの冠動脈低吸収プラークの自動分類 700,000

■2021 ステップアップ研究費 郷 貴博 AT

体積が過大な不適合ソケットの定量的判別を目的とした客観的評価指標の確立 700,000

■2021 ステップアップ研究費 芝田 純也 PT

脳から始まる運動意思：超低周波交流刺激による自発運動開始の制御 700,000

■2021 ステップアップ研究費 佐々木一真 CT

時間一周波数解析を用いた維持血液透析患者に関する研究 700,000

■2021 研究科長裁量研究費 佐藤 大輔 HS

月経周期による皮質－基底核ループの変動と抑制機能との関係 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 犬飼 康人 PT

小脳に対する経頭蓋ランダムノイズ刺激が運動学習効率に及ぼす効果とその効果メカニズムの解明 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT

下肢への骨格筋電気刺激は有酸素運動と同等の大脳皮質の活性化および認知機能の改善をもたらすか？ 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 戸田 春男 CO

Goldmann視野計検査練習用シミュレーションシステム実習中の生理学的指標の検討 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 大鶴 直史 PT

高精度脳内電界シミュレーションによるtACSの鎮痛効果向上戦略 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT

くも膜下出血患者の座位開始に関連する因子の検討 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 江玉 睦明 PT

月経周期異常の女性アスリートにおける関節弛緩性の周期的変化 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 大鶴 直史 PT

感覚情報の判別能力を向上させる非侵襲的脳刺激効果の細胞メカニズムの解明 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT

無症候性および症候性の透析関連低血圧発生時の局所脳酸素飽和度の変化と血圧・循環動態の関連 200,000

■2021 研究科長裁量研究費 椿 淳裕 PT

回復期病棟入院の脳卒中患者において、睡眠の質は身体機能改善に役立つのか 200,000

外部資金獲得奨励金

年度	氏名	学科	奨励金額	小林 量作 PT	126,773	星野恵美子 SW	400,000
2005				椿 淳裕 PT	268,650	川上 心也 HN	220,000
大西 秀明 PT	340,000	桐本 光 OT	150,000	今村 徹 ST	400,000		
濱口 豊太 OT	300,000	能登 真一 OT	1,137,000	蘆田 一郎 HN	100,000		
川中健太郎 HN	360,000	大山 峰生 OT	150,000	川中健太郎 HN	340,000		
相馬 俊雄 PT	460,000	大橋 靖 ST	240,000	小林 量作 PT	257,855		
藤澤 由和 SW	1,000,000	渡辺 眞澄 ST	120,000				
		真柄 彰 AT	390,000	2010			
2006		蘆田 一郎 HN	600,000	今村 徹 ST	400,000		
牧田 光代 PT	260,000	川上 心也 HN	660,000	斎藤トシ子 HN	420,000		
大西 秀明 PT	180,000	川中健太郎 HN	300,000	丸山 敦夫 HS	1,000,000		
相馬 俊雄 PT	100,000	宮岡 洋三 HN	150,000	寺田貴美代 SW	100,000		
濱口 豊太 OT	120,000	村山 伸子 HN	1,500,000	宮岡 洋三 HN	420,000		
能登 真一 OT	400,000	後藤 康志 HS	598,500	山代 幸哉 HS	220,000		
川中健太郎 HN	320,000	瀧澤 一騎 HS	180,000	村山 伸子 HN	200,000		
西原 康行 HS	420,000	清水由美子 NR	150,000	戸出 朋子 SW	100,000		
下山 好充 HS	320,000	新谷 恵子 NR	1,080,000	椿 淳裕 PT	45,000		
内田 伸樹 NR	260,000	梶原 洋生 SW	300,000	田巻 弘之 PT	220,000		
米林 喜男 SW	300,000	近藤あゆみ SW	480,000	今西 里佳 OT	440,000		
藤澤 由和 SW	1,000,000	寺田貴美代 SW	90,000	山本 正治 学長	320,000		
		濱野 強 SW	645,000	相馬 俊雄 PT	400,000		
2007		丸田 秋男 SW	107,400	泉 良太 OT	120,000		
大西 秀明 PT	1,500,000	村上 信 SW	240,000	塙 佐敏 HS	100,000		
相馬 俊雄 PT	120,000	米林 喜男 SW	450,000	西原 康行 HS	180,000		
椿 淳裕 PT	120,000			土屋 康雄	200,000		
大山 峰生 OT	330,000	2009		三澤 寿美 NR	200,000		
濱口 豊太 OT	180,000	戸出 朋子 SW	100,000	渡辺 眞澄 ST	162,000		
能登 真一 OT	1,410,000	梶原 洋生 SW	160,000	能登 真一 OT	220,000		
大橋 靖 ST	210,000	塙 佐敏 HS	320,000	蘆田 一郎 HN	100,000		
渡辺 眞澄 ST	108,000	丸山 敦夫 HS	1,000,000	真柄 彰 AT	100,000		
大鍋 寿一 AT	150,000	後藤 康志 HS	380,000	桐本 光 OT	340,000		
村山 伸子 HN	1,500,000	寺田貴美代 SW	260,000	近藤あゆみ SW	400,000		
宮岡 洋三 HN	630,000	能村 友紀 OT	110,000	大西 秀明 PT	1,000,000		
川中健太郎 HN	600,000	岡田 史 SW	700,000	佐藤 大輔 HS	603,200		
西原 康行 HS	330,000	遠山 孝司 HS	514,000	大山 峰生 OT	540,000		
瀧澤 一騎 HS	630,000	阿部 薫 AT	229,000	川中健太郎 HN	520,000		
内田 伸樹 NR	210,000	西原 康行 HS	220,000	鈴木 誠 OT	394,000		
米林 喜男 SW	390,000	近藤あゆみ SW	218,000				
藤澤 由和 SW	1,500,000	大山 峰生 OT	198,000	2011			
大槻美智子 SW	90,000	大西 秀明 PT	380,000	能登 真一 OT	160,000		
村上 信 SW	540,000	能登 真一 OT	612,000	土屋 康雄 その他	120,000		
		鈴木 誠 OT	110,000	宇田 優子 NR	300,000		
2008		泉 良太 OT	160,000	遠山 孝司 HS	320,000		
大西 秀明 PT	930,000	宮岡 洋三 HN	100,000	鈴木 誠 OT	540,000		

志村 栄二	ST	280,000	能登 真一	OT	280,000	宮岡 洋三	HN	89,678
地神 裕史	PT	300,000	大西 秀明	PT	440,000	下山 好充	HS	139,499
椿 淳裕	PT	220,000	佐藤 大輔	HS	200,000	松本香好美	PT	298,927
佐藤 大輔	HS	500,000	桐本 光	OT	280,000	塚本 康子	NR	159,427
下山 好充	HS	340,000	菅原 和広	PT	360,000	山本 正治	学長	538,068
越中 敬一	HS	180,000	鈴木 誠	OT	160,000	塙 左敏	HS	498,211
山崎 貴子	HN	200,000	田巻 弘之	PT	210,000	阿部 薫	AT	173,290
杉本 洋	NR	160,000	椿 淳裕	PT	200,000	石原美由紀	NR	214,794
寺田貴美代	SW	200,000	山代 幸哉	HS	140,000	杉本 洋	NR	139,499
森脇 健介	HI	220,000	永野 康治	HS	139,499	岩波 潤	OT	79,714
北村 香織	NR	640,000	江玉 睦明	PT	239,141	松井由美子	NR	298,927
永野 康治	HS	220,000	森脇 健介	HI	179,356	岡田 史	SW	99,642
丸山 敦夫	HS	260,000	相馬 俊雄	PT	458,354	川村 宏樹	CT	239,141
蘆田 一郎	HN	100,000	佐藤 敏郎	HS	59,785	今西 里佳	OT	368,676
西原 康行	HS	196,000	遠山 孝司	HS	119,571	小林 量作	PT	35,932
戸出 朋子	SW	100,000	寺田貴美代	SW	99,642	山口 典子	NR	259,070
山本 正治	学長	100,000	山崎 貴子	HN	139,499	岩森 大	HN	398,569
斎藤トシ子	HN	1,000,000	土屋 康雄	その他	139,499	大山 峰生	OT	278,998
桐本 光	OT	200,000	泉 良太	OT	119,571	吉田 重和	HS	139,499
今西 里佳	OT	136,000	川上 心也	HN	99,642	高橋 英明	PT	159,427
田巻 弘之	PT	190,000	西原 康行	HS	255,084	越中 敬一	HS	454,021
宮岡 洋三	HN	100,000	宮岡 洋三	HN	89,678	椿 淳裕	PT	298,927
三澤 寿美	NR	204,000	下山 好充	HS	139,499	大西 秀明	PT	1,863,309
塙 佐敏	HS	180,000	松本香好美	PT	298,927	宇田 優子	NR	176,843
山代 幸哉	HS	120,000	塚本 康子	NR	159,427	桐本 光	OT	498,211
相馬 俊雄	PT	100,000	山本 正治	学長	538,068	川中健太郎	HN	322,321
吉田 重和	HS	100,000	塙 左敏	HS	498,211	鈴木 誠	OT	418,497
石塚 敏子	NR	70,000	阿部 薫	AT	173,290	菅原 和広	PT	219,213
能村 友紀	OT	78,260	石原美由紀	NR	214,794	山本 智章	リハ病院	169,392
村山 伸子	HN	294,000	杉本 洋	NR	139,499	武田丈太郎	HS	99,642
川中健太郎	HN	400,870	岩波 潤	OT	79,714	能登 真一	OT	298,927
大山 峰生	OT	120,000	松井由美子	NR	298,927	山代 幸哉	HS	518,139
大西 秀明	PT	300,000	岡田 史	SW	99,642	田巻 弘之	PT	418,497
島貫 秀樹	NR	420,000	川村 宏樹	CT	239,141	斎藤トシ子	HN	209,249
小林 量作	PT	81,286	今西 里佳	OT	368,676	奈良 貴史	PT	227,184
阿部 薫	AT	313,043	小林 量作	PT	35,932			
			山口 典子	NR	259,070	2014		
2012			岩森 大	HN	398,569	下山 好充	HS	420,000
戸出 朋子	SW	120,000	大山 峰生	OT	278,998	坪川麻樹子	NR	106,000
今西 里佳	OT	98,000	吉田 重和	HS	139,499	玉越 敬悟	PT	180,000
宮岡 洋三	HN	100,000	高橋 英明	PT	159,427	佐藤 敏郎	HS	60,000
土屋 康雄	その他	440,000	越中 敬一	HS	454,021	阿部 薫	AT	179,373
宇田 優子	NR	120,000	椿 淳裕	PT	298,927	岡田 史	SW	120,000
佐藤 敏郎	HS	240,000	大西 秀明	PT	1,863,309	相馬 俊雄	PT	120,000
蘆田 一郎	HN	400,000	宇田 優子	NR	176,843	遠山 孝司	HS	170,000
山本 正治	学長	160,000	桐本 光	OT	498,211	土屋 康雄	その他	300,000
塚本 康子	NR	160,000	川中健太郎	HN	322,321	山本 正治	学長	140,000
遠山 孝司	HS	120,000	鈴木 誠	OT	418,497	永野 康治	HS	220,000
岩波 潤	OT	220,000	菅原 和広	PT	219,213	宇田 優子	NR	120,000
相馬 俊雄	PT	80,000	山本 智章	リハ病院	169,392	伊藤 直子	HN	200,000
志村 栄二	ST	140,000	武田丈太郎	HS	99,642	入山 八江	HN	390,000
下山 好充	HS	180,000	能登 真一	OT	298,927	大山 峰生	OT	340,000
越中 敬一	HS	220,000	山代 幸哉	HS	518,139	今西 里佳	OT	250,000
山崎 貴子	HN	120,000	田巻 弘之	PT	418,497	中村 郷子	NR	220,000
杉本 洋	NR	100,000	斎藤トシ子	HN	209,249	西原 康行	HS	156,000
寺田貴美代	SW	160,000	奈良 貴史	PT	227,184	松本香好美	PT	180,000
森脇 健介	HI	260,000				松井由美子	NR	100,000
永野 康治	HS	200,000	2013			石原美由紀	NR	313,565
松本香好美	PT	140,000	永野 康治	HS	139,499	山崎 貴子	HN	100,000
川上 心也	HN	540,000	江玉 睦明	PT	239,141	泉 良太	OT	180,000
吉田 重和	HS	160,000	森脇 健介	HI	179,356	浅井 孝夫	CT	140,000
斎藤トシ子	HN	1,000,000	相馬 俊雄	PT	458,354	小林 房代	PT	60,000
阿部 薫	AT	208,696	佐藤 敏郎	HS	59,785	山口 典子	NR	120,000
石塚 敏子	NR	90,000	遠山 孝司	HS	119,571	川中健太郎	HN	240,000
石原美由紀	NR	288,261	寺田貴美代	SW	99,642	市川 浩	HS	120,000
川中健太郎	HN	52,174	山崎 貴子	HN	139,499	佐藤成登志	PT	280,000
能村 友紀	OT	34,782	土屋 康雄	その他	139,499	川上 心也	HN	100,000
渡辺 真澄	ST	120,000	泉 良太	OT	119,571	佐藤 大輔	HS	20,000
大山 峰生	OT	116,500	川上 心也	HN	99,642	塙 佐敏	HS	200,000
村山 伸子	HN	893,334	西原 康行	HS	255,084	萩原 邦恵	CT	240,000

資 料

奈良 貴史	PT	54,000	能登 真一	OT	866,956	2017		
阿部 夏希	HN	140,000	増田 紘之	HN	420,000	浅尾 章彦	OT	372,220
桐本 光	OT	366,733	丸田 秋男	SW	509,102	池田 祐介	HS	286,323
椿 淳裕	PT	340,000	丸山 敦夫	HS	1,047,652	市川 浩	HS	104,508
塚本 康子	NR	120,000				伊藤 直子	HN	128,846
山本 智章	リハ病院	180,000	2016			江玉 睦明	PT	314,956
大西 秀明	PT	980,000	足立 淳	HS	140,000	遠藤 和男	HN	121,687
越中 敬一	HS	203,478	池田 祐介	HS	169,043	大石 如香	ST	200,426
丸山 敦夫	HS	1,792,869	石上 和男	HI	304,347	大鶴 直史	PT	128,846
菅原 和広	PT	340,000	市川 浩	HS	126,000	勝平 純司	AT	143,162
高橋 英明	PT	360,000	伊藤 直子	HN	180,000	川村 宏樹	CT	143,162
足立 淳	HS	240,000	入山 八江	HN	160,000	熊崎 昌	HS	214,743
田巻 弘之	PT	380,000	江玉 睦明	PT	220,000	小林 量作	PT	27,848
山代 幸哉	HS	120,000	遠藤 和男	HN	140,000	小山 歌子	NR	157,478
峯島 道夫	SW	200,000	大鶴 直史	PT	120,000	齊藤 慧	PT	128,846
能登 真一	OT	250,000	越中 敬一	HS	260,000	佐伯 史子	PT	314,956
斎藤トシ子	HN	210,000	小林 量作	PT	42,643	澁谷 顕一	HN	31,122
小林 量作	PT	120,921	齊藤 慧	PT	420,000	鈴木 昭	SW	28,632
武田丈太郎	HS	66,000	齋藤 翔太	HI	260,000	相馬 俊雄	PT	343,588
丸田 秋男	SW	444,383	斎藤トシ子	HN	240,000	外川 佑	OT	100,213
			佐藤 大輔	HS	140,000	高田 大輔	HS	143,162
2015			佐藤成登志	PT	94,000	高橋 良光	CT	272,007
阿部 薫	AT	75,130	下山 好充	HS	160,000	高林 知也	PT	329,272
石原美由紀	NR	52,174	杉崎 弘周	HS	360,000	玉越 敬悟	PT	128,846
市川 浩	HS	366,000	鈴木 昭	SW	180,000	塚本 康子	NR	171,794
今西 里佳	OT	118,000	須田 裕紀	AT	140,000	椿 淳裕	PT	128,846
入山 八江	HN	150,000	外川 佑	OT	80,000	寺田貴美代	SW	171,794
岩森 大	HN	80,000	高田 大輔	HS	180,000	遠山 孝司	HS	78,739
宇田 優子	NR	80,000	高橋 英明	PT	20,000	中島 郁子	HS	128,846
江玉 睦明	PT	380,000	玉越 敬悟	PT	240,000	中村 雅俊	PT	257,691
遠藤 和男	HN	350,000	塚本 康子	NR	220,000	奈良 梨央	HS	300,640
大山 峰生	OT	120,000	椿 淳裕	PT	260,000	西原 康行	HS	100,213
岡田 史	SW	100,000	坪川麻樹子	NR	114,000	能村 友紀	OT	243,375
小林 房代	PT	40,000	寺田貴美代	SW	280,000	塙 佐敏	HS	143,162
斎藤トシ子	HN	50,000	遠山 孝司	HS	110,000	塙 晴雄	HS	100,213
佐藤 大輔	HS	240,000	中村 雅俊	PT	26,087	馬場 康博	HS	171,794
佐藤成登志	PT	114,000	西原 康行	HS	240,000	藤井 豊	CT	128,846
下山 好充	HS	160,000	塙 佐敏	HS	420,000	正木 光裕	PT	314,956
須田 裕紀	AT	160,000	塙 晴雄	HS	280,000	丸田 秋男	SW	62,244
相馬 俊雄	PT	100,000	馬場 康博	HS	260,000	峯島 道夫	SW	100,213
高田 大輔	HS	17,391	藤井 豊	CT	220,000	宮口 翔太	PT	272,007
椿 淳裕	PT	280,000	前田 史篤	CO	200,000	山口 典子	NR	200,426
坪川麻樹子	NR	90,000	増田 明美	NR	40,000	山本 悦史	HS	128,846
遠山 孝司	HS	110,000	松本香好美	PT	80,000	吉松 梓	HS	128,846
中村 郷子	NR	200,000	森泉 哲也	HN	152,426	和田 直子	NR	257,691
西原 康行	HS	190,000	森下慎一郎	PT	200,000	東江由起夫	AT	114,280
塙 佐敏	HS	60,000	森田 邦恵	CT	168,000	浅井 孝夫	CT	57,265
前田 史篤	CO	420,000	山本 悦史	HS	160,000	阿部 薫	AT	161,834
松井由美子	NR	180,000	山本 智章	リハ病院	30,000	今西 里佳	OT	334,251
松本香好美	PT	280,000	渡辺 優奈	HN	43,478	宇田 優子	NR	143,162
宮岡 洋三	HN	35,000	浅井 孝夫	CT	170,000	大西 秀明	PT	544,015
森泉 哲也	HN	227,421	阿部 薫	AT	405,564	大森 豪	HS	448,797
森田 邦恵	CT	160,000	宇田 優子	NR	130,000	北島 昌樹	HI	217,232
山本 智章	リハ病院	100,000	大西 秀明	PT	860,000	越中 敬一	HS	229,059
浅井 孝夫	CT	480,000	勝平 純司	AT	344,956	小島 翔	PT	458,118
伊藤 直子	HN	164,348	桐本 光	OT	360,000	児玉 直樹	RT	57,265
大西 秀明	PT	380,000	佐藤 晶子	HS	300,000	齋藤 翔太	HI	143,162
大森 豪	HS	278,261	佐藤 裕紀	HS	180,000	斎藤トシ子	HN	384,661
桐本 光	OT	323,333	澤田 純明	PT	730,000	佐藤 晶子	HS	193,268
越中 敬一	HS	186,956	澁谷 顕一	HN	69,564	佐藤 大輔	HS	235,843
小林 量作	PT	114,278	下門 洋文	HS	440,000	佐藤 裕紀	HS	186,110
佐藤 裕紀	HS	420,000	田巻 弘之	PT	320,000	澤田 純明	PT	715,809
澤田 純明	PT	544,000	奈良 貴史	PT	423,960	下門 洋文	HS	85,897
外川 佑	OT	693,333	能登 真一	OT	526,956	杉崎 弘周	HS	143,162
高橋 英明	PT	220,000	丸田 秋男	SW	303,999	須田 裕紀	AT	113,098
武田丈太郎	HS	98,000	丸山 敦夫	HS	375,000	田口 徹	PT	715,809
田巻 弘之	PT	380,000	宮岡 洋三	HN	540,000	田巻 弘之	PT	1,045,081
玉越 敬悟	PT	189,130	吉田 重和	HS	200,000	坪川麻樹子	NR	95,918
塚本 康子	NR	40,000				奈良 貴史	PT	175,373
奈良 貴史	PT	470,000				能登 真一	OT	350,745

増田 修	CO	229,059
増田 紘之	HN	178,952
宮岡 洋三	HN	114,529
山本 智章	リハ病院	257,691
吉田 重和	HS	114,529

2018

東江由起夫	AT	157,182
荒川 大靖	SW	34,170
伊藤 渉	PT	220,054
犬飼 康人	PT	235,773
今西 里佳	OT	102,168
生方 北斗	CO	141,464
江玉 睦明	PT	377,236
大石 如香	ST	125,745
勝平 純司	AT	150,109
川村 宏樹	CT	110,027
菊元 孝則	PT	298,645
熊崎 昌	HS	125,745
紅林 佑介	NR	172,900
郷 貴博	AT	188,618
小島 翔	PT	188,618
小山 歌子	NR	125,745
齊藤 慧	PT	314,363
斎藤トシ子	HN	47,155
佐藤 未希	AT	141,464
下門 洋文	HS	125,745
下山 博子	NR	188,618
下山 好充	HS	157,182
鈴木 昭	SW	110,027
相馬 俊雄	PT	78,591
外川 佑	OT	220,054
高橋 素彦	AT	220,054
高林 知也	PT	314,363
塚本 康子	NR	94,309
寺田真美代	SW	157,182
中村 絵美	PT	361,518
奈良 梨央	HS	78,591
能村 友紀	OT	157,182
塙 晴雄	HS	110,027
濱上 陽平	PT	298,645
平林 怜	PT	282,927
藤井 豊	CT	188,618
正木 光裕	PT	172,900
増田 紘之	HN	157,182
丸田 秋男	SW	68,339
宮岡 洋三	HN	78,591
宮口 翔太	PT	204,336
村田 憲章	CO	282,927
森下慎一郎	PT	314,363
山口 典子	NR	220,054
山本 智章	リハ病院	165,041
山本 悦史	HS	125,745
吉松 梓	HS	94,309
渡辺 優奈	HN	34,170
小野まどか	HS	94,309
阿部 薫	AT	237,822
宇田 優子	NR	78,591
大西 秀明	PT	785,909
大森 豪	HS	111,940
越中 敬一	HS	204,336
児玉 直樹	RT	140,475
小林 量作	PT	243,221
齋藤 翔太	HI	110,027
佐藤 大輔	HS	1,273,172
澤田 純明	PT	691,600
杉崎 弘周	HS	408,672
高橋 英明	PT	263,109
田口 徹	PT	1,149,463
田巻 弘之	PT	715,177

玉越 敬悟	PT	192,718
坪川麻樹子	NR	97,453
中村 雅俊	PT	255,591
奈良 貴史	PT	157,182
西原 康行	HS	157,182
能登 真一	OT	454,459
前田 史篤	CO	80,641
増田 修	CO	157,182
山代 幸哉	HS	172,900

2019

浅井 孝夫	CT	11,694
浅尾 章彦	OT	35,081
伊藤 渉	PT	128,632
犬飼 康人	PT	198,794
今西 里佳	OT	87,703
岩森 大	HN	190,609
生方 北斗	CO	175,407
江玉 睦明	PT	263,110
大石 如香	ST	116,938
太田 大樹	PT	140,325
大松健太郎	EM	58,469
織部 祐介	RT	140,325
勝平 純司	AT	91,211
川村 宏樹	CT	105,244
神田 賢	AT	181,254
菊元 孝則	PT	152,019
熊崎 昌	HS	93,550
紅林 佑介	NR	140,325
桑原 桂	ST	152,019
郷 貴博	AT	93,550
小島 翔	PT	222,182
小山 歌子	NR	105,244
齊藤 慧	PT	140,325
斎藤トシ子	HN	23,388
佐藤 晶子	HS	93,550
佐藤 未希	AT	105,244
下門 洋文	HS	245,569
下山 好充	HS	163,713
杉崎 弘周	HS	315,732
須田 裕紀	AT	245,569
相馬 俊雄	PT	58,469
外川 佑	OT	175,407
高橋 智美	NR	140,325
高橋 英明	PT	105,244
高橋 素彦	AT	152,019
高林 知也	PT	140,325
多々良俊哉	CO	163,713
玉越 敬悟	PT	44,741
椿 淳裕	PT	108,752
寺田真美代	SW	105,244
戸田 春男	CO	315,732
中島 郁子	HS	93,550
中村 絵美	PT	105,244
中村 雅俊	PT	116,938
奈良 梨央	HS	70,163
能村 友紀	OT	81,856
萩原 康雄	PT	128,632
塙 晴雄	HS	210,488
濱上 陽平	PT	163,713
針谷美智子	HS	116,938
平林 怜	PT	163,713
藤井 豊	CT	140,325
堀田 一樹	PT	245,569
正木 光裕	PT	105,244
増田 紘之	HN	116,938
間宮 靖幸	OT	35,081
丸田 秋男	SW	50,843
宮口 翔太	PT	233,875
村田 憲章	CO	128,632

森下慎一郎	PT	93,550
山口 典子	NR	81,856
山本 悦史	HS	81,856
山本 智章	リハ病院	58,469
吉田 重和	HS	14,033
吉松 梓	HS	93,550
若井 由梨	HS	140,325
渡辺 優奈	HN	25,421
石井 雅子	CO	241,502
大鶴 直史	PT	713,320
大西 秀明	PT	935,502
大森 豪	HS	222,182
越中 敬一	HS	327,426
児玉 直樹	RT	138,291
齋藤 翔太	HI	128,632
佐藤 大輔	HS	350,813
佐藤成登志	PT	250,775
佐藤 裕紀	HS	126,293
澤田 純明	PT	555,454
田口 徹	PT	1,169,378
坪川麻樹子	NR	57,299
奈良 貴史	PT	584,689
西原 康行	HS	877,033
能登 真一	OT	858,424
前田 史篤	CO	59,994
増田 修	CO	93,550
山代 幸哉	HS	222,182
吉田 輝美	HS	163,713

2020

浅尾 章彦	OT	215,475
池田 祐介	HS	193,927
伊藤 渉	PT	75,416
犬飼 康人	PT	172,380
岩森 大	HN	47,404
鶴瀬 亮一	HS	172,380
宇田 優子	NR	53,869
内山 信	ST	204,701
生方 北斗	CO	193,927
太田 大樹	PT	86,190
大野 健	RT	129,285
大松健太郎	EM	107,737
神蔵 貴久	EM	204,701
神田 賢	AT	113,124
菊元 孝則	PT	215,475
北上 守俊	OT	140,058
熊崎 昌	HS	247,796
紅林 佑介	NR	53,869
桑原 桂	ST	172,380
郷 貴博	AT	64,642
小島 翔	PT	140,058
齊藤 慧	PT	129,285
斎藤トシ子	HN	31,244
佐藤 晶子	HS	53,869
佐藤 敏郎	HS	102,350
佐藤 未希	AT	86,190
下門 洋文	HS	43,095
下山 好充	HS	107,737
鈴木 祐介	PT	172,380
須田 裕紀	AT	64,642
相馬 俊雄	PT	247,796
外川 佑	OT	32,321
高橋 英明	PT	96,964
高橋 素彦	AT	53,869
高橋 良光	CT	51,175
高林 知也	PT	226,248
多々良俊哉	CO	86,190
田村 俊暁	ST	150,832
坪川麻樹子	NR	86,190
寺田真美代	SW	107,737

資 料

戸田 春男	CO	21,547	浅尾 章彦	OT	66,568	奈良 梨央	HS	66,568
奈良 梨央	HS	172,380	安達 哲浩	EM	177,514	能村 友紀	OT	77,662
能村 友紀	OT	226,248	荒川 大靖	SW	177,514	萩原 康雄	PT	88,757
萩原 康雄	PT	140,058	伊藤 涉	PT	155,325	長谷川 晃	RT	110,946
長谷川 晃	RT	129,285	犬飼 康人	PT	77,662	塙 晴雄	HS	77,662
塙 晴雄	HS	75,416	今西 里佳	OT	133,136	原口 彩子	SW	88,757
針谷美智子	HS	43,095	岩森 大	HN	48,816	針谷美智子	HS	77,662
平林 怜	PT	172,380	鷗瀬 亮一	HS	66,568	平林 怜	PT	177,514
藤井 豊	CT	107,737	宇田 優子	NR	66,568	藤井 豊	CT	260,035
堀田 一樹	PT	129,285	内山 信	ST	33,284	藤本 知臣	HS	99,852
間宮 靖幸	OT	53,869	大石 如香	ST	55,473	前田 雄	AT	96,523
三瀬 貴生	HS	237,022	太田 大樹	PT	88,757	増田 紘之	HN	277,366
宮口 翔太	PT	129,285	大野 健	RT	77,662	松浦由生子	HS	55,473
村田 憲章	CO	32,321	大松健太郎	EM	55,473	丸田 秋男	SW	33,284
森下慎一郎	PT	75,416	越智 元太	HS	122,041	三瀬 貴生	HS	55,473
山口 典子	NR	118,511	織部 祐介	RT	33,284	宮口 翔太	PT	133,136
山代 幸哉	HS	75,416	神蔵 貴久	EM	66,568	村田 憲章	CO	554,731
山本 悦史	HS	53,869	川村 宏樹	CT	110,946	山口 典子	NR	144,230
横田 裕丈	PT	161,606	神田 賢	AT	72,115	山崎 貴子	HN	66,568
吉松 梓	HS	86,190	菊元 孝則	PT	133,136	山代 幸哉	HS	110,946
若井 由梨	HS	96,964	北上 守俊	OT	66,568	横田 裕丈	PT	188,609
阿部 薫	AT	163,011	北谷 亮輔	PT	155,325	吉松 梓	HS	77,662
江玉 睦明	PT	364,171	杵渕 洋美	HS	133,136	若井 由梨	HS	44,379
大鶴 直史	PT	226,248	久保 雅義	PT	155,325	和田 直子	NR	110,946
大西 秀明	PT	1,077,372	熊崎 昌	HS	55,473	渡辺 洋子	SW	12,204
大森 豪	HS	133,032	桑原 桂	ST	11,095	池上 諒	PT	141,336
織部 祐介	RT	150,832	郷 貴博	AT	110,946	石井 雅子	CO	127,829
越中 敬一	HS	156,219	齊藤 慧	PT	133,136	江玉 睦明	PT	386,123
児玉 直樹	RT	265,830	斎藤トシ子	HN	55,473	大鶴 直史	PT	732,245
佐宗亜衣子	PT	463,270	佐近 慎平	HS	199,703	大西 秀明	PT	1,109,462
佐藤 大輔	HS	587,168	佐々木一真	CT	310,650	大森 豪	HS	92,616
佐藤成登志	PT	444,299	佐藤 晶子	HS	66,568	越中 敬一	HS	160,872
佐藤 裕紀	HS	113,124	佐藤 郁美	NR	133,136	小島 翔	PT	560,278
澤田 純明	PT	517,139	佐藤 敏郎	HS	22,189	児玉 直樹	RT	193,432
杉崎 弘周	HS	538,686	芝田 純也	PT	166,419	佐宗亜衣子	PT	277,366
田口 徹	PT	719,514	下門 洋文	HS	88,757	佐藤 大輔	HS	926,401
玉越 敬悟	PT	218,707	鈴木 健司	HI	138,683	佐藤成登志	PT	574,508
椿 淳裕	PT	851,124	鈴木 祐介	PT	77,662	佐藤 裕紀	HS	55,473
中村 雅俊	PT	199,736	須田 裕紀	AT	44,379	澤田 純明	PT	554,731
奈良 貴史	PT	538,686	関根 千恵	PT	343,933	杉崎 弘周	HS	235,206
西原 康行	HS	107,737	相馬 俊雄	PT	55,473	田口 徹	PT	460,427
能登 真一	OT	285,879	外川 佑	OT	177,514	椿 淳裕	PT	179,178
藤本 知臣	HS	226,248	高橋 良光	CT	52,699	中村 雅俊	PT	339,264
前田 史篤	CO	158,748	高林 知也	PT	122,041	奈良 貴史	PT	379,405
増田 修	CO	107,737	多々良俊哉	CO	41,002	西原 康行	HS	166,419
八坂 敏一	HN	463,270	谷 賢太郎	HI	99,852	能登 真一	OT	175,826
山本 智章	リハ病院	80,803	玉越 敬悟	PT	99,852	堀田 一樹	PT	588,015
吉田 重和	HS	91,577	田村 俊暁	ST	99,852	増田 修	CO	110,946
渡邊 敏文	SW	66,010	寺田貴美代	SW	77,662	森下 義隆	HS	88,757
渡辺 優奈	HN	111,016	戸田 春男	CO	22,189	八坂 敏一	HN	554,731
			中井 良育	SW	144,230	吉田 重和	HS	88,757
2021			永井 徹	HN	11,095	渡邊 敏文	SW	554,731
青木 茂	SW	27,737	長坂 和明	PT	88,757	渡辺 優奈	HN	231,540

「将来計画の策定」「自己点検評価」「外部認証評価」の推移と今後の予定（一覧表）

西暦	年号	将来計画および大学独自の自己点検評価関連	長期目標	中期目標	外部認証評価	認証期間	学長
2001	H13年度	開学					高橋榮明
2002	H14年度						
2003	H15年度						
2004	H16年度						
2005	H17年度				1回目 外部認証評価申請（9月）		
2006	H18年度				外部認証評価 ・自己点検評価書提出（6月） ・現地調査・審査（10月）	1年目	
2007	H19年度					2年目	
2008	H20年度	①学科別短期目標（2008・2009年度）設定				3年目	
2009	H21年度					4年目	
2010	H22年度	開学10周年 ①学科別短期目標に対する自己点検評価 ②10周年記念誌作成 ③将来計画（初版）策定【黄色冊子】 長期目標（2010～2020年度） 第一期 中期目標・中期計画（2010～2013年度） アクションプラン（2010・2011年度）		第一期 1年目		5年目	
2011	H23年度	①研究奨励金および学長裁量研究費（2002～2010年度）に対する自己点検評価		2年目		6年目	山本正治
2012	H24年度	①将来計画中期計画に対する中間自己点検評価 ②将来計画（改定1）【緑色冊子】 アクションプラン（2012・2013年度） ③前回の外部評価の際に指摘された事項および改善向上方策に記載した事項に対する自己点検評価		3年目	2回目 外部認証評価申請（9月）	7年目	
2013	H25年度	①将来計画中期計画（2010～2013年度）に対する自己点検評価		4年目	外部認証評価 ・自己点検評価書提出（6月） ・現地調査・審査（10月）	1年目	
2014	H26年度	①将来計画（改定2）【オレンジ色冊子】 第二期 中期目標・中期計画（2014～2017年度） アクションプラン（2014・2015年度）		第二期 1年目		2年目	
2015	H27年度	①運動機能医科学研究所中間自己点検評価		2年目		3年目	
2016	H28年度	①将来計画（改定3）【青色冊子】 アクションプラン（2016・2017年度）		3年目		4年目	
2017	H29年度	①将来計画中期中期計画（2014～2017年度）に対する自己点検評価		4年目		5年目	
2018	H30年度	①将来計画（改定4）【桃色冊子】 第三期 中期目標・中期計画（2018～2020年度） アクションプラン（2018～2020年度）		第三期 1年目		6年目	
2019	R元年度			2年目	3回目 外部認証評価申請（9月）	7年目	
2020	R2年度	①将来計画長期目標に対する自己点検評価 ②次期将来計画策定 長期目標（2021～2030年度） 第一期中期目標・中期計画（2021～2025年度） アクションプラン（2021～2023年度）		3年目	外部認証評価 ・自己点検評価書提出（7月） ・Web現地調査・審査（10月）	1年目	西澤正豊
2021	R3年度	将来計画（2021～2030年度）開始		第一期 1年目		2年目	
2022	R4年度			2年目		3年目	
2023	R5年度	①将来計画・アクションプラン（2024～2025年度）策定		3年目		4年目	
2024	R6年度			4年目		5年目	
2025	R7年度	①第一期中期目標・中期計画に対する自己点検評価 ②将来計画・第二期中期目標・計画（2026～2030年度）の策定 ・アクションプラン（2026～2028年度）策定		5年目		6年目	
2026	R8年度			第二期 1年目	4回目 外部認証評価申請（9月）	7年目	
2027	R9年度			2年目	外部認証評価 ・自己点検評価書提出（6月） ・現地調査・審査（10月）		
2028	R10年度	①将来計画・アクションプラン（2029～2030年度）策定		3年目			
2029	R11年度			4年目			
2030	R12年度	①将来計画長期目標に対する自己点検評価 ②次期将来計画策定 長期目標（2031～2040年度） 第一期中期目標・中期計画（2031～2035年度） アクションプラン（2031～2033年度）		5年目			

資料

資料

[illegible]

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学長	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	山本 正治	西澤 正豊
副学長	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 江原 義弘 丸田 秋男	渡辺 敏彦 丸田 秋男 大山 峰生 大西 秀明
医療技術学部長	江原 義弘	江原 義弘	江原 義弘	江原 義弘	江原 義弘	大西 秀明	大西 秀明	追手 巍	鈴木 力	鈴木 力
理学療法学科長	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明	リハビリテーション学部へ学部改組		
作業療法学科長	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生			
言語聴覚学科長	糟谷 政代	糟谷 政代	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥			
義肢装具自立支援学科長	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫			
健康栄養学科長	健康科学部へ学部改組									
健康スポーツ学科長										
看護学科長										
臨床技術学科長	追手 巍	追手 巍	追手 巍	追手 巍	追手 巍	追手 巍	追手 巍	中村 藤夫	中村 藤夫	中村 藤夫
視機能科学部長	－	－	－	－	－	阿部 春樹	阿部 春樹	前田 史篤	前田 史篤	前田 史篤
救急救命学科長	－	－	－	－	－	－	鈴木 力	鈴木 力	鈴木 力	鈴木 力
診療放射線学科長	－	－	－	－	－	－	－	笠原 敏文	笠原 敏文	笠原 敏文
リハビリテーション学部長	－	－	－	－	－	－	－	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明
医療技術学部長	－	－	－	－	－	－	－	大西 秀明	大西 秀明	大西 秀明
理学療法学科長	－	－	－	－	－	－	－	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生
作業療法学科長	－	－	－	－	－	－	－	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥
義肢装具自立支援学科長	－	－	－	－	－	－	－	東江由起夫	東江由起夫	東江由起夫
健康科学部長	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	西原 康行
健康栄養学科長	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子	斎藤トシ子
健康スポーツ学科長	丸山 敦夫	丸山 敦夫	丸山 敦夫	丸山 敦夫	丸山 敦夫	丸山 敦夫	西原 康行	西原 康行	西原 康行	西原 康行
看護学科長	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子	看護学部へ学部改組		
看護学部	－	－	－	－	－	－	－	塚本 康子	塚本 康子	塚本 康子
看護学科長	－	－	－	－	－	－	－	塚本 康子	塚本 康子	松井由美子
社会福祉学部長	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男	丸田 秋男
社会福祉学科長	伊東 正裕	伊東 正裕	伊東 正裕	伊東 正裕	松山 茂樹	松山 茂樹	松山 茂樹	松山 茂樹	渡邊 敏文	渡邊 敏文
医療経営管理学部長	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳
医療情報管理学科長	東條 猛	東條 猛	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	福島 正巳	柴山 純一	柴山 純一	柴山 純一

資料
資料[illegible]

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
医療福祉学研究科長	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	佐藤 大輔
医療福祉学専攻長	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	大山 峰生	佐藤 大輔
医療福祉学副専攻長						
保健学専攻長	小林 量作	小林 量作	小林 量作	小林 量作	阿部 薫	阿部 薫
理学療法学分野長	小林 量作	小林 量作	小林 量作	小林 量作	久保 雅義	久保 雅義
作業療法学分野長	能登 真一	能登 真一	能登 真一	能登 真一	能登 真一	能登 真一
言語聴覚学分野長	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥	山岸 達弥
義肢装具自立支援学分野長	阿部 薫	阿部 薫	阿部 薫	阿部 薫	阿部 薫	阿部 薫
医療技術安全管理学分野長		長濱 大輔	長濱 大輔	長濱 大輔	長濱 大輔	長濱 大輔
視覚科学分野長				増田 修	増田 修	増田 修
健康栄養学分野長						
健康科学専攻長	西原 康行	中山 和美	中山 和美	中山 和美	中山 和美	佐藤 大輔
健康栄養学分野長	伊藤 直子	伊藤 直子	伊藤 直子	伊藤 直子	永井 徹	永井 徹
健康スポーツ学分野長	西原 康行	佐藤 大輔	佐藤 大輔	佐藤 大輔	佐藤 大輔	佐藤 大輔
看護学分野長	中山 和美	中山 和美	中山 和美	中山 和美	宇田 優子	宇田 優子
社会福祉学専攻長	豊田 保	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治
保健医療福祉政策・計画・運営分野長	豊田 保	渡邊 敏文	渡邊 敏文	渡邊 敏文	渡邊 敏文	渡邊 敏文
保健医療福祉マネジメント学分野長	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治	横山 豊治
医療情報・経営管理学専攻長	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹
医療情報・経営管理学分野長	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹	瀧口 徹

歴代後援会長

(敬称略)

年度	後援会長氏名
2001	土田 芳朗
2002	土田 芳朗
2003	土田 芳朗
2004	土田 芳朗
2005	寒河江正博
2006	寒河江正博
2007	吉川 明
2008	渡邊 元
2009	能澤 万之
2010	龍川 悦雄
2011	龍川 悦雄
2012	山浦 健夫
2013	山浦 健夫
2014	荒川 朋明
2015	荒川 朋明
2016	金森 誠
2017	亀山 正
2018	亀山 正
2019	茂澤 正樹
2020	相沢久美子
2021	三井田芳郎

大学職員一覧

2021年5月1日現在

	所属		役職	氏名	備考
1	—	—	事務局長	小野 哲之	
2	—	—	事務局次長	中原 英伸	入試広報部長兼務
3	総務部	—	部長	片岡 昇	総務課長兼務
4	総務部	総務課	主任	真藤 高明	
5	総務部	総務課	—	渋谷 友之	
6	総務部	総務課	—	前田 進也	
7	総務部	総務課	—	野口 正信	
8	総務部	総務課	—	駒沢 猛	
9	総務部	総務課	—	栗林 恭子	
10	総務部	総務課	—	大森 由理	学長秘書
11	総務部	総務課	—	田村真粧美	
12	総務部	総務課	—	関 貴美恵	
13	総務部	地域・産官学連携課	課長	大竹 宏	研究支援課長兼務
14	総務部	研究支援課	—	坂田 衣里	地域産官学連携課兼務
15	人事部	—	部長	本間 智之	
16	人事部	人事課	課長	船山 諭	
17	人事部	人事課	—	藤岡まさみ	
18	人事部	人事課	—	前田 華子	
19	人事部	人事課	—	遠藤 千里	
20	経理部	—	部長	齋藤 佳昭	
21	経理部	経理課	課長	田中 豊章	
22	経理部	経理課	主任	高橋 正伸	
23	経理部	経理課	—	川崎 美香	
24	経理部	経理課	—	谷原 英朗	
25	経理部	経理課	—	本間 香織	
26	経理部	経理課	—	坂井 由佳	
27	経理部	経理課	—	小熊よしこ	
28	経理部	経理課	—	児玉 祐哉	
29	学務部	—	部長	木原 亨	
30	学務部	教務課	課長	吉田 俊雄	
31	学務部	教務課	—	駒形 高広	
32	学務部	教務課	—	菅原 直実	
33	学務部	教務課	—	村山 萌子	
34	学務部	教務課	—	滝沢 美希	
35	学務部	教務課	—	本間 美雪	
36	学務部	教務課	—	長谷川直人	
37	学務部	教務課	—	荻原 洋哉	
38	学務部	教務課	—	田中 里枝	教職支援センター
39	学務部	学生課	—	長谷川陽一	
40	学務部	学生課	—	中山あかね	
41	学務部	学生課	—	小松 祐介	
42	学務部	学生課	—	風間 篤史	
43	学務部	学生課	—	波間 早苗	医務室
44	学務部	学生課	—	内山 朱李	医務室
45	学務部	学生課	—	大矢 真史	
46	学務部	学生課	—	丸山 未来	
47	学務部	学生課	—	岡村 祐子	
48	学務部	学生課	—	前山 美優	
49	学務部	学生課	—	夏井 博臣	
50	学務部	国際交流課	課長	嵐田 浩吉	
51	学務部	国際交流課	—	権瓶 一葉	
52	学務部	国際交流課	—	大野あかね	
53	学務部	国際交流課	—	佐藤 雅士	
54	学務部	キャリア開発室	室長	佐々木俊太郎	学生課長兼務
55	学務部	キャリア開発室	—	伊藤 求	
56	学務部	キャリア開発室	—	小島 雅彦	
57	学務部	キャリア開発室	—	前田 充	
58	学務部	キャリア開発室	—	中田 香織	
59	学務部	キャリア開発室	—	大崎 純子	
60	学務部	キャリア開発室	—	安達帆乃香	
61	学務部	キャリア開発室	—	渡邊 幸子	
62	学務部	キャリア開発室	—	阿部つばさ	

	所属		役職	氏名	備考
63	IR室	—	室長	笹川 克己	
64	入試広報部	入試課	課長	樋山 耕一	
65	入試広報部	入試課	—	山口 和朗	
66	入試広報部	入試課	—	高橋 智子	
67	入試広報部	入試課	—	菅 恵美子	
68	入試広報部	入試課	—	渡辺龍一郎	
69	入試広報部	入試課	—	五十嵐一恵	
70	入試広報部	入試課	—	遠山 龍	
71	入試広報部	入試課	—	吉原 舜	
72	入試広報部	広報課	課長	近藤 至	
73	入試広報部	広報課	—	加藤眞規子	
74	入試広報部	広報課	—	南 俊之	
75	入試広報部	広報課	—	倉部 崇史	
76	入試広報部	広報課	—	渡辺 珠希	
77	入試広報部	広報課	—	二見ミラノ	
78	入試広報部	広報課	—	清野 沙樹	
79	入試広報部	広報課	—	鈴木 亜弥	
80	入試広報部	広報課	—	曾我 洸樹	
81	入試広報部	広報課	—	近藤 道	
82	入試広報部	広報課	—	西垂水美桜	
83	図書館・学習支援課	—	課長	船山 澄子	
84	図書館・学習支援課	—	—	野水 清秀	
85	図書館・学習支援課	—	—	中村 委代	
86	図書館・学習支援課	—	—	佐藤 綾	
87	図書館・学習支援課	—	—	齋藤 寛子	
88	図書館・学習支援課	—	—	宮本 詩織	
89	スポーツ振興室	—	室長	稲田 茂高	
90	スポーツ振興室	—	—	西海 幸頼	テニス部監督兼務
91	スポーツ振興室	—	—	吉田 千晃	
92	スポーツ振興室	—	—	松井 浩亮	水泳部
93	スポーツ振興室	—	—	水沼 尚輝	水泳部
94	スポーツ振興室	—	—	田中 優弥	水泳部
95	スポーツ振興室	—	—	深澤 舞	水泳部
96	スポーツ振興室	—	—	高根 悠太	野球部
97	スポーツ振興室	—	—	佐熊 裕和	サッカー部監督
98	スポーツ振興室	—	—	井手口 純	サッカー部
99	スポーツ振興室	—	—	高須 理穂	サッカー部
100	スポーツ振興室	—	—	鈴木 啓祐	サッカー部
101	スポーツ振興室	—	—	高崎 康嗣	サッカー部
102	スポーツ振興室	—	—	草木 克洋	サッカー部
103	スポーツ振興室	—	—	チャ コニン	サッカー部
104	スポーツ振興室	—	—	大石沙弥香	サッカー部
105	—	—	—	品田 松寿	卓球部監督
106	リハビリテーション学部	理学療法学科	—	長瀬 麻美	
107	リハビリテーション学部	言語聴覚学科	—	佐久間厚子	
108	リハビリテーション学部	作業療法学科	—	小原 和美	
109	リハビリテーション学部	義肢装具自立支援学科	—	橋本奈美子	
110	リハビリテーション学部	義肢装具自立支援学科	—	谷川 奈々	
111	医療技術学部	臨床技術学科	—	渡辺 明子	
112	医療技術学部	臨床技術学科	—	大森 美幸	
113	医療技術学部	視機能科学科	—	小島さつき	
114	医療技術学部	視機能科学科	—	本間 茜	
115	医療技術学部	救急救命学科	—	山田 佳代	
116	医療技術学部	診療放射線学科	—	傳 幸子	
117	健康科学部	健康スポーツ学科	—	宮下恵里子	
118	看護学部	看護学科	—	渡邊 恵里	
119	看護学部	看護学科	—	渡邊 恵美	
120	看護学部	看護学科	—	佐味 秋佳	
121	看護学部	看護学科	—	松田 裕美	
122	看護学部	看護学科	—	渡辺 綾子	
123	看護学部	看護学科	—	長谷川裕子	
124	社会福祉学部	社会福祉学科	—	北見 美華	
125	社会福祉学部	社会福祉学科	—	堀畑 芽衣	

新潟医療福祉大学 校歌

りゅうとまば ゆい に いが た の

あらたなし る べ わ が ほ こ お

あ つ き お も い で こ こ に つ ど う は み ち

を も と め る わ か き ゆ め た ち ま な

べ と お と き い の ち の し つ を あ か る い あ し た へ

に い が た い り ょ お ふ く し だ い が く

新潟医療福祉大学 校歌

- 1 柳都まばゆい 新潟の
新たな道標（しるべ） わが母校
熱き想いで ここに集うは
道を求める 若き夢たち
学べ 尊き
生命（いのち）の質を
明るい あしたへ
新潟医療福祉大学
- 2 五港の歴史 新潟の
浪漫を抱く わが母校
時代（とき）を担って ここに挑むは
光り輝く 蒼き星たち
目指せ 気高き
生命（いのち）の質を
確かな みらいへ
新潟医療福祉大学
- 3 朱鷺の空燃ゆ 新潟の
未来を語る わが母校
高き理念を ここに記すは
勇気あふれる 挑戦者たち
守れ 豊かな
生命（いのち）の質を
信じた なかまと
新潟医療福祉大学

編集後記

本誌は、開学10周年誌からの継続性とその後の10年分を追記することを念頭において編集作業に着手しました。また将来、本学の歴史を振り返った時の資料として、機能を持たせることにも心がけました。本誌は、開学から20年間の変遷を綴ったものですが、前編の開学10周年誌の頁数を遥かに超える情報量で編集作業には難渋しました。

お寄せ頂いた原稿に目を通してしていると、開学から現在まで過ごしてきた日々を改めて思い出しました。言うまでもなく本学の発展は、学内外の多くの方々に支えられてきたと実感しています。また、多くの卒業生や修了生が多彩な分野で活躍していること、そして本学が地域や社会に貢献してきたことは、多大な成果であったと切に感じています。これらの背景には、携わってきた教職員の努力と苦労があったことを忘れてはならないと思っています。本学が今後50年、100年と更なる飛躍を遂げて、歴史を築き上げてくれることを祈念しています。

2020年から新型コロナウイルスの影響で人々の生活や仕事が一変しました。大学では、学生の授業や教職員の会議はオンラインとなり、県外・国外への移動も制限されました。今でも不自由な生活が続いています。一日でも早く本来の姿に戻ってくれることを切に願っています。

最後に本誌の執筆や編集に携わって頂きました教職員の皆様に感謝を申し上げます。

開学20周年記念誌 部会長

相馬 俊雄

「新潟医療福祉大学 開学20周年記念誌」編集委員会

20周年記念事業委員長	研究・産官学連携担当副学長、 リハビリテーション学部長	教授	大西 秀明
20周年記念誌部会長	理学療法学科	教授	相馬 俊雄
委 員	健康スポーツ学科、医療福祉学研究科長	教授	佐藤 大輔
	社会福祉学科、社会福祉学専攻長、 保健医療福祉政策・計画・運営分野長	教授	寺田貴美代
	理学療法学科	教授	古西 勇
	健康スポーツ学科	准教授	佐藤 晶子
	臨床技術学科	准教授	高橋 良光
	健康栄養学科	講師	岩森 大
	義肢装具自立支援学科	講師	須田 裕紀
	理学療法学科	講師	高林 知也
事務局	総務部	部長	片岡 昇
	総務部総務課	主任	真藤 高明
	総務部	秘書	大森 由理
	総務部総務課		本間 葵

学校法人新潟総合学園
新潟医療福祉大学
開学20周年記念誌

発 行 日 令和4年3月31日

編集・発行 新潟医療福祉大学
〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
電話 025-257-4455
FAX 025-257-4456
URL <https://www.nuhw.ac.jp>

印 刷 株式会社ウィザップ

